

観光学概論

Introduction to Tourism Studies

千住 一／杜 国慶／橋本 俊哉／小野 良平／大橋 健一／野原 克仁／久保 忠行 (SENJU HAJIME/ DU GUOQING/ HASHIMOTO TOSHIYA/ ONO RYOHEI/ OHASHI KENICHI/ NOHARA KATSUHIITO/ KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA002
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象 必修科目		

授業の目標 / Course Objectives

観光学の基礎と多面性を理論と具体例から理解し、観光学部での専門的な学びの土台を作る。

The goal of this course is to understand the foundation and various aspects of tourism studies, and to achieve the basic level of knowledge for academic studies in the College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

観光学に関する基礎的な理論、観光の現場や学術の場面において使われるキーワード、典型的な観光現象などについて学ぶ。

Students are expected to learn about the basic theories on tourism studies, the keywords used in practical and academic fields of tourism, the typical examples of tourism phenomena, and so on.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:観光の現在
- 【3】:観光の対象と行動
- 【4】:観光の対象と行動
- 【5】:観光史
- 【6】:観光史
- 【7】:観光と資源
- 【8】:観光と資源
- 【9】:観光と文化
- 【10】:観光と文化
- 【11】:観光とビジネス・経済
- 【12】:観光とビジネス・経済
- 【13】:観光と地域社会
- 【14】:観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各教員の指示に従って予習, 復習をしておくこと。なお, 「観光学概論」で学ぶ観光学の理論やキーワード, 観光現象などを「基礎演習」でも取り上げ, これらに対する理解を深める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー等:30%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172

授業の際, 適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

岡本伸之編 観光学入門 有斐閣アルマ 2001 4641121303

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象 必修科目

観光調査・研究法入門

Introduction to Research Practice

アカデミックスキルを身につける

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA005
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以前入学対象 必修科目		

授業の目標 / Course Objectives

観光学部での学習・研究の基礎となる知識と技法を習得する。

Students will acquire knowledge and technique, which are the foundation of learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

全体授業およびクラス別授業を通して、以下の授業計画に記す諸テーマに沿って授業を行う。第2回以降は、各クラスのアカデミックアドバイザーと、諸テーマを専門とする担当教員によって、実習形式の授業が進められる。なお、第3回～第11回はクラスごとに授業の順序が異なる。

Classes will be conducted based on the themes in the following course schedule for full classes and separate classes.

From the second session, each class's academic advisor and the specialist teacher for each theme will conduct practical training classes. Note that for sessions 3 to 11, the order will vary by class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス講義: 観光と学術
- 【2】: ガイダンス演習: 観光学部で学ぶために
- 【3】: レポート・小論文の書き方
- 【4】: 『観光白書』を読む
- 【5】: 図書館情報検索演習
- 【6】: 観光研究の基本文献
- 【7】: 交流文化研究の基本文献
- 【8】: アンケート調査の基礎
- 【9】: インタビュー調査・フィールドワーク調査の基礎
- 【10】: 研究発表の方法とレジュメの作成法
- 【11】: 行政による計画や規制を知る
- 【12】: 演習: アカデミックスキルの応用
- 【13】: 演習: アカデミックスキルの応用
- 【14】: 演習: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

小テストまたは課題の成果に基づいて成績評価を行うため、授業には必ず出席すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:20% クラス別授業での小テストまたは課題(複数回):80%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2019 年度以前入学者対象 必修科目

観光経営学

Manegement in Tourism

庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA008
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS1100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光のビジネスとしての側面について、経営学の基礎的な理論や知識の視点から理解する。

Understanding tourism as a business system from the points of view of the basic theories and knowledge of business management studies.

授業の内容 / Course Contents

経営学を概観し、基礎的な理論や知識、フレームワークを紹介するとともに、観光産業あるいは観光関連産業の特徴について、経営学の視点から講義する。

In addition to introducing the basic theories, knowledge, and framework of business management studies, the unique characteristics of the tourism industry or tourism-related industry will be explained from the perspective of business management.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 観光産業の構造
- 【3】: 観光市場
- 【4】: 観光商品
- 【5】: 観光の価格戦略
- 【6】: 観光の流通戦略
- 【7】: 観光のプロモーション戦略
- 【8】: 観光の競争戦略
- 【9】: 競争環境の分析
- 【10】: 観光の財務戦略
- 【11】: 観光の組織戦略
- 【12】: 観光の人的資源管理
- 【13】: 観光の倫理・法令遵守
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画に示した項目について, また, 講義で扱われた事柄について, 各種文献やインターネット等で自ら調べ, 知識メモを作成する. なおこの知識メモは提出物ではない.

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 授業中の提出物、出席点を加味することがある:10%

テキスト / Textbooks

資料は適宜配付する

参考文献 / Readings

講義中に適宜紹介する

観光事業論

Tourism Business

岡野 千帆 (OKANO CHIHO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA009
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光学を学ぼうとする学生に対し、新しい時代の観光の経済的、社会的意義や目的、効果を提示するとともに、観光事業に関する基本的な知識を習得する。

We will present the economic and social significance, purpose, and results of tourism in the new era to students beginning their studies in the College of Tourism, and gain basic knowledge about the tourism industry.

授業の内容 / Course Contents

観光事業とは、観光の効用や諸効果を促進するための活動の総称であり、政府や地方自治体、観光を可能とする各種製品やサービスを提供する民間企業、地域住民など多様な主体によって行われる。観光に関する基礎的な知識と合わせて、観光事業の全体像について、事例を交えながら講義を行う。

適宜、ゲストスピーカーを招いて観光事業の内情について解説いただく。

Tourism industry is a general term for activities promoting the utility and various effects of tourism that are carried out by diverse parties such as governments and local organizations, companies that offer various products and services that make tourism possible, and local residents. Lectures will cover basic tourism knowledge, as well as the whole picture of the tourism industry through case studies.

Guest speakers will be invited to explain the tourism industry from an insider's perspective.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 日本の観光の概況
- 【3】: 旅行や消費行動の変化
- 【4】: 旅行業(1)
- 【5】: 旅行業(2)
- 【6】: 宿泊業(1)
- 【7】: 宿泊業(2)
- 【8】: 交通運輸業(1)
- 【9】: 交通運輸業(2)
- 【10】: DMO・DMC
- 【11】: 国の観光政策
- 【12】: 新しい観光の動向(1)
- 【13】: 新しい観光の動向(2)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日常生活でのお出かけや旅行の際に、宿泊、交通、飲食、エンターテインメントなど、多岐にわたる観光関連事業に意識的に注目すること。これらの事業が観光体験にどのように貢献しているかを考察し、観光産業の仕組みについての理解を深めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 適宜授業中に求める提出物:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に適宜紹介する。

その他 / Others

ゲスト講師のスケジュール都合等により、講義の順序や講義内容が変更になる場合があります。

観光史

History of Tourism

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA017
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象 観光学科選択科目		

授業の目標 / Course Objectives

観光学部での学修において必要な基礎知識やものの見方を、観光の歴史的展開から学ぶ。

Through study of the historical development of events surrounding tourism, students will learn the basic knowledge and perspective required for study in the College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

観光の歴史的展開のなかでも、西洋および日本の事例を取り上げる。言及する時代は、観光の特性上、近世、近代、現代が中心となる。講義では単なる基礎知識だけでなく、歴史的展開の背景にある社会的要因や、複合性・地域横断性といった観光を理解する上での基本的な分析視角も身に付ける。あわせて、今日における観光のありようをよりよく理解するためには、歴史的連続性という見方もまた有効であることを学ぶ。以上の一連の内容を、年号暗記などに拘泥せず、歴史の「流れ」や社会の変動を意識しながら歴史学的視点から整理する。

Within historical development of events surrounding tourism, this course examines cases in the West and in Japan. Periods of study are centered on characteristics of tourism in early modern, modern, and contemporary times. The course provides not only basic knowledge, but also basic analytical perspectives needed to understand tourism, including social factors behind its historical development, complexity, regional transversality, etc. In addition, the course covers the effectiveness of historical continuity, in order to understand better the current state of tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 西洋近世 1【グランドツアー】
- 【3】: 西洋近世 2【グランドツアーの副産物】
- 【4】: 日本近世 1【街道の整備】
- 【5】: 日本近世 2【伊勢参り】
- 【6】: 日本近世 3【現代との連続性】
- 【7】: 西洋近代 1【トマス＝クック】
- 【8】: 西洋近代 2【クックの取り組みと産業革命】
- 【9】: 西洋近代 3【クック社と世界一周旅行】
- 【10】: 日本近代 1【「開国」と遊歩】
- 【11】: 日本近代 2【インバウンド誘致団体】
- 【12】: 西洋現代【マスツーリズムの時代】
- 【13】: 日本現代【バブル経済崩壊まで】
- 【14】: 講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

これまでに身につけた歴史に関する知識のうち、観光と関連が深いと思われる事柄について振り返っておく。

講義で紹介する文献を積極的に読み進める。

観光と関連するニュースや出来事への関心を、日頃から高めておく。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

単元ごとの参考文献リストを提示する。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象/観光学科選択科目

基礎演習

Seminar (1st year)

川井 千敬(KAWAI CHIHAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA031
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1000
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での 4 年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

【2】:観光の現在

【3】:観光行動の対象と行動

【4】:観光行動の対象と行動

【5】:観光史

【6】:観光史

【7】:観光と資源

【8】:観光と資源

【9】:観光と文化

【10】:観光と文化

【11】:観光と経済

【12】:観光と経済

【13】:観光と地域社会

【14】:観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席や貢献度, リアクションペーパーやレポート, 課題の達成度などにより評価する:100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA032
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1000
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での 4 年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

【2】:観光の現在

【3】:観光行動の対象と行動

【4】:観光行動の対象と行動

【5】:観光史

【6】:観光史

【7】:観光と資源

【8】:観光と資源

【9】:観光と文化

【10】:観光と文化

【11】:観光と経済

【12】:観光と経済

【13】:観光と地域社会

【14】:観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席や貢献度, リアクションペーパーやレポート, 課題の達成度などにより評価する:100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

投資計画論1

Investment Planning 1
ファイナンス理論の基礎的理解

中西 哲 (NAKANISHI TETSU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA047
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面授業とする
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は次の3点とする。

- ①財務諸表分析の基礎的理解
- ②証券投資理論の基礎的理解(投資家視点)
- ③コーポレートファイナンス理論の基礎的理解(企業側視点)

The objectives of this lecture are as follows:

- ①Basic understanding of financial statement analysis.
- ②Basic understanding of securities investment theory (from an investor's perspective).
- ③Basic understanding of corporate finance theory (from a corporate perspective).

授業の内容 / Course Contents

企業を見る目を養うためには、財務諸表を読む力がビジネスパーソンとして必須の識である。この識を習得した上で、ファイナンス理論を学習する。ファイナンス理論は、投資家目線の証券投資理論と、企業家目線のコーポレートファイナンス理論に大別されるが講義ではその両方の基礎的エッセンスを解説する。

また、就職活動を念頭置き、企業を見る目養うことを副次的な効果として期待する。

なお授業形態は講義形式とし、発表やグループワークは行わない。

毎回授業のリアクションペーパーを提出してもらうことで授業態度を評価する。

To develop the ability to analyze companies, the ability to read financial statements is an essential skill for business professionals. Once this skill is acquired, one can proceed to study finance theory. Finance theory can be broadly divided into two main categories: securities investment theory from the investor's perspective and corporate finance theory from the entrepreneur's perspective. In this course, the fundamental essence of both will be explained.

Additionally, with job hunting in mind, the course aims to help students cultivate the ability to analyze companies, which is expected to be a secondary benefit.

The course will be lecture-based, and there will be no presentations or group work. Students will be evaluated on their class attitude through the submission of a reaction paper for each session.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

- ・本講義で学習する内容の概要、成績評価等のルール
- ・ファイナンス論の主な体系と周辺領域

【2】: 財務諸表論 1

- ・主要三表(BS・PL・CF)の概要
- ・主な勘定科目の概念

- 【3】:財務諸表論 2
- ・安全性指標、収益性指標、効率性指標の概要
 - ・上場企業の株価関連指標
- 【4】:財務諸表論 3
- ・企業の戦略の選択と財務指標
- 【5】:財務諸表論 4
- ・回転期間分析と運転資本
 - ・事業計画策定
- 【6】:証券投資理論1
- ・現代ポートフォリオ理論
 - ・リスク・リターンと資本市場線
- 【7】:証券投資理論 2
- ・効率的市場仮説と有効フロンティア
 - ・ランダムウォーク理論
- 【8】:証券投資理論 3
- ・シャープレシオ
 - ・CAPM
- 【9】:証券投資理論 4
- ・プロスペクト理論と市場心理
 - ・バブルとクラッシュのメカニズム
- 【10】:コーポレートファイナンス理論 1
- ・モジリアーニとミラーの命題
 - ・企業の財務問題と最適資本構成
- 【11】:コーポレートファイナンス理論 2
- ・資本調達と資本コスト
 - ・取引コストとペッキングオーダー仮説
- 【12】:コーポレートファイナンス理論 3
- ・現在価値と DCF モデル
 - ・WACC の設計
- 【13】:コーポレートファイナンス理論 4
- ・事業計画と継続価値
 - ・NPV 法による投資判断
- 【14】:総括講義及び講義内テスト
- ・継続的学習に向けたアドバイス
 - ・講義内テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー(複数回)・授業態度:60% 講義内テスト:40%

テキスト / Textbooks

別途指示する

参考文献 / Readings

中西哲 ファイナンス業務エッセンシャルズ 総合法令出版 2016 9784862805119

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・資本市場や企業金融への学ぶ意欲
- ・企業を見る目を養いたいという意欲
- ・就活の企業分析の方法を習得したいという意欲

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

記載なし

施設・空間造形論

Facilities Planning and Spatial Design
建築の造形および空間の構成と演出

毛谷村 英治(KEYAMURA EIJI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA080
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

建築の内外に作り出された空間は、ただ単に大きさを持つ隙間ではなく、建築が存在することによって演出される安らぎや躍動感、あるいは賑やかさといったものを生み出すことがある。このことを改めて理解した上で、建築がその内部、もしくは、外部で空間を仕切り、新たな空間を生み出す際に、どのような演出がなされ得るのかを理解する。

Spaces created by architecture are not simply large gaps. It is the presence of the architecture that gives them a feeling of calm, activity, or liveliness. Furthermore, the interiors and exteriors of architecture divide spaces, giving rise to new spaces, each with their own individual characteristics.

授業の内容 / Course Contents

空間をどのように捉えるかという概念的な理解をするとともに、機能面からみた発展の歴史、構成の変化、さらには空間イメージの演出技法や造形手法、作り出される空間の変容まで建築利用者が建築の特性を理解するための視点を教授する。単なる容器として建築を理解するのではなく、空間を作るための道具としての建築のあり方を学び、より良き建築主として将来活躍できる素養を身につける。

Along with a conceptual understanding of how to perceive space, we will look at the history of development from a functional perspective, changes in construction, techniques for creating and designing a spatial image, and even how to transform the created space, from a perspective that will lead users of architecture to understand the architecture's characteristics. You will learn to see architecture as a tool to create space, not as a mere vessel, and will learn the basics needed to become a good custodian of architecture in the future.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 空間の概念 (=「間」の認識)
- 【2】: 景色の認識
- 【3】: 塙から要塞へ
- 【4】: 機能的空間構成の思想
- 【5】: 無用の用
- 【6】: 数寄(侘と寂)の哲学
- 【7】: けはい(気配)の演出
- 【8】: 見立て
- 【9】: 仕上げ (木肌の風合い、ディテールの納まり)
- 【10】: 立体構成
- 【11】: 色合わせ (=カラーコーディネート)
- 【12】: 開口部による繋がり
- 【13】: デザインツールと造形

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に生活で利用する自宅や大学とは異なる種類の空間を訪れ、その空間に身を置いた時に感じる印象とその理由について考察しておいてください。設計者の意図が反映されているのか、建築空間とは別の要素がその印象を生み出しているのか、感性を研ぎ澄ましてその理由を考察し、日常には意識せずに利用している空間に込められている意味を見出す練習をしておいてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内レポート:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

PIE BOOKS 建築がすごい世界の美術館 パイ・インターナショナル 2015 9784756245922

デニス・R・マクナマラ 教会建築を読み解く ガイアブックス 2012 9784882828372

安原盛彦 白井晟一空間読解 学芸出版社 2005 4761512059

池上英洋、川口清香、荒井咲紀 いちばん親切的な西洋美術史 新星出版社 2018 9784405072282

スタジオワーク 建築デザインの解剖図鑑 X-Knowledge 2013 9784767815701

CASA BRUTUS(マガジンハウス)、芸術新潮(新潮社)などの雑誌も適宜目を通し、美術館やギャラリー、美術展を訪れて、建築やアート、インテリア、美術に触れる機会を増やしておいてください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

実際に街中を歩いて景色を眺める際に授業で学んだことがどのように利用されているのかを考えて授業内容を復習し、理解を深めるよう習慣づけること。

観光経済学

Economics of Tourism

観光を経済学の視点から分析

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA081
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- 1) 観光に関するデータを経済学の視点から考察できる
 - 2) 経済学の理論を用いて、観光の経済学的意義について理解できる
 - 3) 観光と自然環境の深いつながりを理解できる
 - 4) 実社会において、自らの視点で観光と経済学の関係を考察できる
- 1) Be able to consider a lot of data related to tourism from the perspective of economics
 - 2) Be able to understand the growth in tourism using economic theories
 - 3) Be able to understand the relationship between tourism and the environment
 - 4) Be able to apply knowledge about tourism and economics to real world

授業の内容 / Course Contents

この授業では、さまざまな観光現象を経済学的手法(ミクロ・マクロ経済学)に基づいて分析・考察する手法が紹介される。主に三つのパートからなる。第一部では、観光に関するデータを用いた計量分析について学ぶことで、観光にかかるデータを使った経済分析を紹介する。第二部では、観光産業について経済学の視点から分析する。特に、地域固有の自然環境を観光資源としている観光地にとって自然資源の価値がどれほど観光産業に重要かを学ぶ。第三部では、新たなツーリズムの経済学的意義について考察し観光の問題点についても経済学の視点から考察する。なお、本講義では経済モデルや計量モデルを扱うため、数学・統計学の予備的知識を必要とする。

This course will introduce methods for analyzing and considering various tourism phenomena based on economic methods (microeconomics, macroeconomics). This course consists of three main parts. First, students will learn about econometric methods and economic analysis using tourism data. Second, I will introduce the tourism industry in Japan and how analyze it from an economic viewpoint. In particular, students will learn about the importance of the value of natural resources for regions that uses area-specific natural environments as tourism resources. Finally, students will consider the economic significance of some new tourism and examine problems in tourism. Note that since this course deals with economic and econometric models, prior knowledge of mathematics and statistics is required.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 講義の説明、観光の現状と課題
- 【2】: 観光統計1 (観光データの基礎知識)
- 【3】: 観光統計2 (経済学の基礎知識の活用)
- 【4】: 観光の経済波及効果 (産業連関分析)
- 【5】: 開放経済の観光分析
- 【6】: 観光の需要分析 (消費者行動)
- 【7】: 観光の供給分析 (企業行動)

- 【8】:観光資源の経済的価値①～顕示選好法～
 【9】:観光資源の経済的価値②～表明選好法と費用便益分析～
 【10】:気候変動が観光に与える影響
 【11】:世界遺産と観光
 【12】:ニューツーリズムの経済評価～エコツーリズム、グリーンツーリズム、復興ツーリズム～
 【13】:経済学の視点から考える観光の諸問題
 【14】:総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

入門経済学、経済数学、統計学の書籍をしっかりと読み予習しておくこと。
 講義内容について、最低でも2時間でも復習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%
 平常点割合 :30% リアクションペーパーの提出:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

中平千彦・藪田雅弘 観光経済学の基礎講義 九州大学出版会 2017 9784798502045

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学生には、入門レベルで構わないので経済学、数学(微分積分および線形代数)、統計学の知識を求める。高校レベルの数学に不安がある場合は、履修を勧めない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布、授業後の課題提出に「Canvas LMS」を使用する。
 産業連関分析を学習する際に、Excelを使用する。

地域経済学

Regional Economics

基本的経済理論から学ぶ／Learning from Basic Economic Theory

池見 真由 (IKEMI MAYU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA082
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

世界や日本国内には様々な地域経済が存在する。その多様性と複雑性を把握するために本授業では、経済理論の基礎知識を習得し、国際的な地域間格差や日本国内経済の地域比較を分析する視野を養うことを目的とする。そしてグローバルな観点から地域経済に対する理解を深めることを目標とする。

Various regional economies exist both globally and within Japan. To understand their diversity and complexity, this course aims to provide students with fundamental knowledge of economic theory and develop their perspective for analyzing international regional disparities and regional comparisons within Japan's economy. Ultimately, the goal is to deepen their understanding of regional economies from a global perspective.

授業の内容 / Course Contents

Zoom によるオンライン形式の授業で、パワーポイントや動画教材を用いて講義を行う。解説は日本語で行うが、講義資料は英語を中心に使用する。

The course will be conducted online via Zoom, using PowerPoint presentations and video materials for lectures. Explanations will be given in Japanese, but lecture materials will primarily be in English.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス／Guidance
- 【2】: 地域経済と三面等価の原則／Regional Economies and Principle of Three Equivalence of National Income
- 【3】: 地域 GDP の測定／Measurement of Regional GDP
- 【4】: 地域 GDP と経済成長／Regional GDP and Economic Growth
- 【5】: GDP の国際地域比較／International Regional Comparison on GDP
- 【6】: 地域経済の価格統制／Price Controls of Regional Economies
- 【7】: 消費者物価地域差指数／Regional Differences in CPI
- 【8】: 地域の失業率とインフレ率／Regional Unemployment Rate and Inflation Rate
- 【9】: 労働市場の国際地域比較／International Regional Comparison on Labor Market
- 【10】: 地域経済における貨幣制度と中央銀行の役割／Role of Monetary System and Central Bank in Regional Economies
- 【11】: 所得の地域間格差／Income Inequality between Regions
- 【12】: 所得不平等度の国際地域比較／International and Regional Comparison on Income Inequality
- 【13】: 世界の地域経済の構造／Structure of Regional Economies in the World

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習としては、授業内容に関連するニュースをよく調べて、授業時間外でも地域経済や世界経済に関する知識を自主的に深めることが求められます。

As preparation and review, it is required to research news related to the class content and proactively deepen your knowledge of the regional and global economies outside of class hours.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート(In-Class Report):30%

最終レポート割合::30%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

観光行動論

Human Behavior in Tourism

観光行動の基礎的理解

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA085
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人びとの行動・心理を理解するうえで必要とされる基礎的な知識を習得し、観光現象やサービス提供場面における行動論的・心理学的な見方を、実例に即して理解する。

You will gain the basic knowledge necessary to understand human behavior and psychology, and gain an understanding of tourism development and service provision situations from a behavioral and psychological perspective, based on real cases.

授業の内容 / Course Contents

前半に観光行動や心理に関する基礎的な内容について紹介した後、観光やサービス場面における行動・心理の理解に欠かせないノンバーバル・コミュニケーションやサービスの基礎理論、さらにはそれらの知見の応用事例や観光回遊行動の特性等について講述する予定である。

講義は講義資料と視覚教材を使用しつつ進める。講義中に質問したり、リアクションペーパーの作成・提出を求めることがある。

In the first half of the course, I will introduce basic information related to tourism behavior and psychology, as well as the basic theories of nonverbal communication and service that are essential to understanding behavior and psychology in a tourism or service setting, and I plan to give further lectures on examples of the application of that information and the characteristics of tourist travel behavior.

Lectures will be given using lecture materials and visual course materials. During class, students may be asked questions or may be asked to write and submit reaction papers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:観光行動の基礎理論
- 【3】:観光行動の調査方法 1
- 【4】:観光行動の調査方法 2
- 【5】:日本人の観光行動の歴史的背景 1
- 【6】:日本人の観光行動の歴史的背景 2
- 【7】:空間利用の生態心理
- 【8】:サービスの基礎理論 1
- 【9】:サービスの基礎理論 2
- 【10】:インバウンド観光者の行動
- 【11】:「誘導」の概念とその応用
- 【12】:不安心理と観光行動

【13】:観光回遊の行動特性

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

テキストはとくに使用せず, 毎時間講義資料を配布する。

参考文献 / Readings

橋本俊哉編 観光行動論 原書房 2013

テーマごとの参考文献は講義資料にその都度記載する。

マーケティング

Marketing

売れる仕組みづくり・買ってもらえる仕掛けづくりを理解しよう

東 徹(AZUMA TORU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA087
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「マーケティング・マインド」つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養ってもらうこと、それがこの授業のねらいです。ビジネスの中で培われてきたマーケティングの知識やスキルを学び、身につけるとともに、社会の様々な問題解決に向けた応用力を養ってほしいと思っています。

The purpose of this course is to develop a “marketing mind” (a marketing perspective and way of thinking). While learning and acquiring marketing knowledge and skills that have been cultivated in business, students develop abilities that can be applied to ameliorating various social issues.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、現代マーケティングの基本的な考え方・進め方について学んでいきます。より便利で魅力的な新製品の開発、ブランド力の強化、買いやすい価格の工夫、注目を引き記憶に残る広告、販売店の選択等、企業がライバル企業との激しい競争の中で、移ろいやすい顧客の心をひきつけ、満足してもらうためにどんな工夫を凝らしているのか、一緒に考えてみましょう。

This course focuses on the basic concepts and methods of modern marketing. Together, students think of ways for companies in fierce competition with their rivals to attract and satisfy customers' fickle hearts, for instance, development of more convenient and attractive products, enhancement of brand power, pricing that makes it easy to buy, memorable advertising that attracts attention, store selection, and so on.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: マーケティングを学ぶにあたって
- 【2】: マーケティングの目的は販売を不要にすること！—「作ったものをいかに売るか」と「売れるものをいかにつくるか」はどう違う？—
- 【3】: 利益獲得のカギは顧客満足にあり！—マーケティングの基本理念を理解しよう—
- 【4】: 満足した顧客はリピーターになってくれるか？—顧客満足と顧客ロイヤルティ—
- 【5】: 消費者需要の同質性と異質性を見極めろ！—マス・マーケティングvs.ターゲット・マーケティング—
- 【6】: 値段の安さで勝負するか、製品の特徴で勝負するか—価格競争vs.非価格競争(製品差別化)—
- 【7】: 戦略を組み立てる①—企業戦略と事業戦略(成長マトリックス、ポートフォリオ分析、競争戦略等)—
- 【8】: 戦略を組み立てる②—どのような人に、どのようなものを、どのように提供するかを決める—
・STP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)
・マーケティング・ミックス(マーケティング・ツールの組み合わせ方を決める)
- 【9】: 市場の発展段階を見極めろ！—製品ライフサイクルとマーケティング戦略①—
- 【10】: 市場の発展段階を見極めろ！—製品ライフサイクルとマーケティング戦略②—
- 【11】: 業界内の力関係を見極めろ！—市場競争地位とマーケティング戦略—

【12】:消費者タイプの違いを見極めろ！―消費者の購買行動とマーケティング戦略―

【13】:強いブランドを構築せよ！①―ブランドの意義と働き―

【14】:強いブランドを構築せよ！②―ブランド構築のプロセス―

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

皆さんの周りにはマーケティングを学ぶための「生きた教材」があふれています。次々と現れる新製品、百貨店やコンビニの店頭、テレビや雑誌の広告、ユニークなパッケージ、通販サイト・・・etc, そこにどのような仕掛けや工夫が凝らされているか、皆さん自身がどのようにして製品やブランド、店舗を選び、サービスを評価しているのか、身近な事例や体験を通して考えてみましょう。常に現実に目を向け、講義やテキストで学んだ知識と結びつけて考えてみることで、マーケティングをよりイキイキと学ぶことができるはずです。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内課題・リアクションペーパー等:20%

テキスト / Textbooks

嶋 正・東 徹編著『現代マーケティングの基礎知識[改訂版]』創成社 2017 年

参考文献 / Readings

外食産業論

Food Service Industry
フードサービス経営
(Food Service Management)

丹治 朋子(TANJI TOMOKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA095
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	「対面 7 回(オンライン 7 回)」
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では外食産業の歴史的変遷と現代の態様を学ぶことで、ホスピタリティ産業のひとつである外食産業の構造や特性について理解する。

In this course, through study of the historical changes and current state of the food service industry, students will come to understand the structure and characteristics of food service as part of the hospitality industry.

授業の内容 / Course Contents

外食(フードサービス)産業の歴史、市場の構成を概観した上で、外食産業の戦略的課題について学び、外食産業をとりまく社会について扱い、その経営上の対応状況を学ぶ。また、外食産業のその他の現代的課題や今後のあり方のほか、観光における「食」(フードツーリズム)についても扱う。

Students are introduced the history and market composition of the food service industry. Subsequently, the detailed current issues are given, including strategic issues related to food service, the society surrounding food service, and also food tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 外食をとりまく概念と市場の構成
- 【2】: 産業としてのフードサービス(オンライン授業)
- 【3】: 外食の歴史(1)
- 【4】: 外食の歴史(2)(オンライン授業)
- 【5】: チェーンレストランの仕組み(オンライン授業)
- 【6】: チェーンレストランの事例(オンライン授業)
- 【7】: メニュー開発
- 【8】: 外食産業の現代的課題(1)
- 【9】: 外食産業の現代的課題(2)
- 【10】: 外食産業の現代的課題(3)
- 【11】: 外食産業における環境問題(オンライン授業)
- 【12】: 中食の拡大(オンライン授業)
- 【13】: 観光における「食」(オンライン授業)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

外食産業、中食産業や食に関する話題に日頃から関心を持ち、関連記事や専門雑誌などによる情報収集を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% コメントペーパー及び発言等:10%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。毎回レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

小倉朋子 メニュー開発論 創成社 2021 9784794470829

その他、授業時に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回のコメントペーパーの提出は Canvas LMS を用いる。7 回は zoom にて授業を行う。したがって、両方を使える状況にしておくこと。

その他 / Others

- ・パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。
- ・この科目は半分オンライン(zoom、リアルタイム)にて実施する。日程の詳細は初回の授業にて告知するが、ゲストの都合等によりオンラインと対面の日程を変更することがある。その場合は授業内にて随時知らせる。

観光交通論(鉄道等)

Railway Business

渡邊 徹(WATANABE TOHRU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA103
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各輸送機関(航空を除く)に関する基礎知識を身に付けるとともに、社会のさまざまな事柄を科学的にとらえ、判断するためのスキルを身に付ける。

The objectives of this course are to acquire: the fundamental knowledge of transport (except air transport); the skills for scientifically understanding and judgement of various social issues.

授業の内容 / Course Contents

各輸送機関(航空を除く)の特徴やトピックスなどについて、主にミクロ経済学の観点から可能な限り平易に講義する。

This course deals with the characteristics and topics of the transport (except air transport) from the view point of micro economics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 鉄道(1): 鉄道事業の特徴と規制
- 【3】: 鉄道(2): 国鉄改革
- 【4】: 鉄道(3): 欧州の鉄道改革
- 【5】: 鉄道(4): 私鉄のビジネスモデル
- 【6】: 道路・自動車(1): 自動車関係諸税
- 【7】: 道路・自動車(2): 高速道路料金制度
- 【8】: 道路・自動車(3): 道路公団民営化
- 【9】: 道路・自動車(4): 高速バス
- 【10】: 海運: クルーズ船(1): 世界のクルーズ市場
- 【11】: 海運: クルーズ船(2): 我が国クルーズ市場の振興に向けて
- 【12】: 前半の授業の振り返り
- 【13】: 後半の授業の振り返り
- 【14】: 授業の理解度の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の復習をするとともに、報道等で交通に関する情報を収集すること。また、授業で学んだことを応用し、社会のさまざまな事柄について自分なりの意見を考えてみること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業態度や授業中の発言などの向学心:20% 小テスト:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・参考文献に関心のある学生には個別に紹介する。
- ・学生と相談の上、授業計画等を変更することがある。
- ・講義形式で授業を行うが、適宜学生に発言を求める。
- ・他学部、他学科の学生も歓迎する。

観光交通論(国際航空)

International Airline Business
エアラインビジネス概論

松山 豊浩(MATSUYAMA TOYOHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA104
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

エアライン(航空)は、急速なグローバル化が進む現代社会において、経済はもちろん私たちの生活や観光にとって必要不可欠な交通機関です。本講義では、航空機はどのようにして飛んでいるのか、ネットワーク展開の利点は何か、アライアンスの必要性は何かなど、エアラインビジネスの概要をさまざまな角度から多面的に学修します。また、民間航空の発展や航空自由化の経緯等をおして、その展開や歴史的な流れ、社会・経済への影響などを理解します。エアラインビジネスの特性や経営動向にも触れ、自分自身の見方・考え方で分析できるようになることを目指します。

The airline business is a transportation system that is essential to the advance of globalization in our modern society, economy, lifestyle, and tourism. In this course, you will study and come to understand the many facets of an outline of the airline business from various angles, including how airplanes fly, the benefits of mileage programs, the necessity of alliances, etc. You will also understand the outline of the development of civil aviation and the deregulation of aviation policy, as well as the historical flow and social and economic impacts, etc. The goal of this course is to learn about the management and economic characteristics and management trends of the airline business, and to become able to analyze from your own perspective and way of thinking about them.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、エアラインビジネス(航空業)におけるオペレーションの歴史や仕組み、航空政策、事業特性や戦略、業界動向、エアラインが置かれている社会環境や課題などについて、幅広く取り上げて分かりやすく説明します。航空関連産業やツーリズム(観光)関連産業への就業を志望する学生の皆さんにとって、職業選択のみならず社会に出てからも役立つ内容です。毎回の講義では、当該講義用の教材資料(PPT/PDF 等)や参考 VTR などを使用しながら多面的かつ客観的な説明を行います。

In this course, we will cover an outline and the history of the operation of the airline business, aviation policy, management characteristics, economic characteristics, management trends, and the societal environment and issues that surround airlines, in as broad of a scope as possible and in an easy-to-understand manner. The content will be useful for students who wish to pursue employment in aviation or tourism-related industries upon graduation. Lecture materials will be distributed in every class, and lectures will be conducted using PowerPoint. The explanations will be as objective as possible.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス (授業の目標と内容の確認、授業計画、評価方法、受講要領やルールに関する説明 など)
- 【2】: エアラインの基本 (航空機の基本知識、航空管制の概要、新しい航空交通管理の考え方について)
- 【3】: エアラインの特性 (エアラインビジネス全般の特性、経営・経済面の特徴、イベントリスクについて)
- 【4】: エアラインの業務 (乗員・CA・空港スタッフ・整備等のエアラインを支える各職種の役割について)
- 【5】: 民間航空の歴史 (動力飛行機の発明から現在までの世界と日本の民間航空発展の歴史について)

- 【6】:航空自由化の流れ（航空保護政策から世界的な航空政策の規制緩和への変革の流れについて）
 【7】:エアラインビジネスの概要Ⅰ ネットワーク（航空ネットワーク構築の重要性、ハブ&スポークの考え方と効果、乗り継ぎ需要 など）
 【8】:エアラインビジネスの概要Ⅱ アライアンス（グローバルアライアンス結成の背景と歴史、アライアンスの意義と効果 など）
 【9】:エアラインビジネスの概要Ⅲ ブランド/プロダクト&サービス（エアラインのブランド向上と新規プロダクト開発の重要性 など）
 【10】:エアラインビジネスの概要Ⅳ CSとホスピタリティ（CS<顧客満足>・CX<顧客体験価値>、ホスピタリティの考え方 など）
 【11】:エアラインビジネスの概要Ⅴ LCC（LCC<ローコストキャリア>の登場と発展、新たなビジネスモデルの仕組みと特徴 など）
 【12】:航空とツーリズム（航空がツーリズムや観光活性化に果たす役割、「観光立国」とインバウンドへの貢献について）
 【13】:航空と安全（全てに優先する「航空安全」の考え方、安全運航を堅持するための実践的な対応や取組について）
 【14】:レビュー（航空業界の最近の動向、エアラインビジネスの将来 など）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

ゲストスピーカーによる講義を実施する場合があります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 【予習】各回の授業テーマを意識し、関心がある航空関連の記事・ニュース・TOPIC 等について事前に調べ、自身の考えやコメントをノートにまとめておくこと。(合計 10 時間)
 【復習】各回の授業受講後に自身でレビューと確認を行い、教材資料や説明等をもとに授業内容と新たに得られた知識についてノートにまとめ、理解を深めること。(合計 12 時間)
 【その他】上記の予習・復習の実践とともに、講義期間をとおして、日常から「航空」そのもの、また「航空とツーリズム(観光)」に関連する様々な話題や社会的な課題に興味を持ち、自ら積極的に見聞を広げるよう心掛けてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 授業参画状況:20%

- ・出欠席確認および理解度確認のため、各回授業においてリアクションペーパーの提出を行い、平常点に反映します。
- ・全授業回の 2/3(10 回)以上の出席(確認済)を前提とし、授業参画状況に反映します。

テキスト / Textbooks

各回の授業に関する教材資料等は授業時に投影し、適宜学修支援システムに掲載します。

参考文献 / Readings

(株)ANA 総合研究所『航空産業入門(第2版)』東洋経済新報社 2017 9784492762356

(株)ANA 総合研究所『エアラインオペレーション入門(改訂新版)』イカロス出版 2022 9784802211437

その他、必要に応じ授業において紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

航空全般また航空業界/エアラインに対する高い興味・関心、社会経済全体を幅広く理解する力、職業選択に役立てる力 ほか

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料掲載等で学修支援システムを利用するとともに、リアクションペーパー提出等も実施しますので PC が必要となります。

その他 / Others

- ・授業時以外の教員との連絡や質問については、学修支援システム・メール等にて行うこととします。また、受講学生への連絡や周知事項については、適宜学修支援システムの機能・メール等を利用して行います。
- ・シラバス内容はあくまでも予定であり、授業の進捗や到達目標の状況等により変更する場合があります。

エコツーリズム論

Ecotourism

自然と文化を守り、地域を活かす観光のあり方を考える

海津 ゆりえ (KAIZU YURIE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA106
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀後半に生まれ、持続可能な観光(Sustainable Tourism)が生まれる基盤となったエコツーリズム。この授業では、エコツーリズムについて理解するとともに、実践地域の実例に触れることにより、これからの観光のあり方について学生自身が考えをもつことができるようになることを目標とする。

Ecotourism was born in the latter half of the 20th century and became the foundation for the creation of sustainable tourism. In this class, we aim to help students understand ecotourism and to have them think about the future of tourism by experiencing actual examples in the regions where ecotourism is practiced.

授業の内容 / Course Contents

本講義は主として次の3つの視点からエコツーリズムについて理解する。

- 1) エコツーリズム誕生の背景、定義、世界における展開
- 2) 日本におけるエコツーリズムの実践事例
- 3) エコツーリズムが照射する今日の観光の課題

講義は、講師による講義のほか、DVD を用いた海外事例の研究、ゲストスピーカーによる実践事例の講義などを取り入れて進める。

This lecture will mainly focus on understanding ecotourism from the following three perspectives

- 1) Background of the birth of ecotourism, its definition, and its development in the world
- 2) Practical examples of ecotourism in Japan
- 3) Issues of today's tourism illuminated by ecotourism

Lectures will include lectures by lecturers, study of overseas case studies using DVDs, and lectures on practical examples by guest speakers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(授業内容、進め方、課題の説明)
- 【2】: エコツーリズムの誕生ー20 世紀後半の観光と環境
- 【3】: 世界におけるエコツーリズムの展開
- 【4】: 日本におけるエコツーリズムの展開
- 【5】: エコツーリズム推進法と認定地域
- 【6】: 宝探しから持続可能な観光へ
- 【7】: 中間総括とディスカッション
- 【8】: 多様なエコツーリズム(1) 里山里海地域
- 【9】: 多様なエコツーリズム(2) 世界遺産地域
- 【10】: エコツーリズムの課題(1) ガイド・人材育成

- 【11】:エコツーリズムの課題(2)保全と利用の両立
 【12】:エコツーリズムから持続可能な地域づくりへ
 【13】:エコツーリズムとポストコロナの観光
 【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

ビデオ教材の視聴

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各授業について、事前に配布される資料の読み込み、その日の授業の復習などを各自で行ってください。課された課題には期間内に回答してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:40% コメントペーパー:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

石森秀三・真板昭夫・海津ゆりえ エコツーリズムを学ぶ人のために 世界思想社

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

地域づくりや地域資源の保全と活用などに関心を有すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料は Canvas LMS で事前に配布し、コメントは Google Form で回収します。PC やタブレットなど、授業資料にアクセスできる手段を準備することが望ましいです。

都市観光論

Urban Tourism

杜 国慶(DU GUOQING)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA107
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目は都市への理解を深めた上で、大都市における観光について解釈かつ評価を行い、都市再建と再開発における観光の重要性を検討する。

In this course, you will deepen your understanding of cities, understand and evaluate tourism in large cities, and investigate the importance of tourism in urban rebuilding and redevelopment.

授業の内容 / Course Contents

観光は都市にとって極めて重要な輸出産業であり、その多くの業務は恒久的である。大都市は最も重要な観光地として認識され、観光産業も既に多くの都市で重要な役割を果たしている。首都や歴史都市のみならず、産業都市などの大都市でもつい最近になって観光の重要性が認知されている。毎回、リアクションペーパーを課す。

Tourism is an extremely important export for large cities, and many of the businesses involved are permanent. Large cities are acknowledged to be the most important locations for tourism, and the tourism industry already plays an important role in many cities. Recently, not only capital and historical cities, but industrial and other large cities have acknowledged the importance of tourism. A reaction paper will be assigned for every class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:都市に対する理解
- 【2】:都市観光に対する理解
- 【3】:都市観光の構造と構成要素
- 【4】:都市観光戦略
- 【5】:都市モデルと観光都市の構造
- 【6】:都市観光の供給
- 【7】:都市における観光者の行動
- 【8】:都市観光の効果:経済, 社会, 文化, 環境 1
- 【9】:都市観光の効果:経済, 社会, 文化, 環境 2
- 【10】:都市観光の計画とマネジメント
- 【11】:事例研究:アメリカの都市観光
- 【12】:事例研究:ヨーロッパの都市観光
- 【13】:事例研究:アジアの都市観光
- 【14】:最終レポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

リアクションペーパー、質疑応答

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS を利用する。毎回、リアクションペーパーと課題を課すため、十分な学習時間を確保すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

指定なし

参考文献 / Readings

Stephen Page Urban Tourism Routledge 1995 0415112184

Stephen J. Page and C. Michael Hall Managing Urban Tourism Prentice Hall 2003 0130272868

Leo van den Berg, Jan van der Borg, Jan van der Meer Urban Tourism: Performance and Strategies in Eight European Cities Ashgat 1995 1859721524

クリストファー・ロー『アーバン・ツーリズム』(近代文芸社 1997 年)※入手の必要なし

観光政策・行政論

Policy and Administration in Tourism
日常生活の質を高める観光政策を考える

川井 千敬 (KAWAI CHIHAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA118
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・観光政策の重要性を認識し、特に日本における観光政策の展開について説明できるようになる。
 - ・持続可能な地域づくりに向けた、観光行政と観光政策の役割について理解する。
- 1) Understand why tourism policies are important and how they have developed, especially in Japan.
 - 2) Learn about the role of tourism administrations and policies in developing sustainable communities.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、前半部では観光政策にかかる制度や主体を確認しつつ、日本における観光政策の歴史的展開を論じる。後半部では、観光政策をめぐるいくつかのキーワードを押さえながら、観光成熟都市において取り組むべき重要な都市課題となったオーバーツーリズムと、その政策的対応について論じる。

- 1) The initial segment of the lecture will entail a review of the institutions and actors involved in tourism policies. This will be followed by a discussion of the historical evolution of tourism policy in Japan.
- 2) The subsequent segment will encompass a review of the salient keywords in tourism policies. This will be accompanied by a discussion of overtourism, which has emerged as a pressing issue in tourist cities, and the policy responses to it.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 観光政策の意義と今日的役割
- 【2】: 観光政策と観光制度
- 【3】: 観光政策を担う主体
- 【4】: 観光政策の歴史的展開(1): 観光概念の拡大と国際観光政策の展開
- 【5】: 観光政策の歴史的展開(2): 戦後の観光政策の展開
- 【6】: 観光政策の歴史的展開(3): 観光立国政策とその展開
- 【7】: 観光政策をめぐるキーワード(1): 文化政策
- 【8】: 観光政策をめぐるキーワード(2): 観光まちづくり
- 【9】: 観光政策をめぐるキーワード(3): 環境保全と観光政策
- 【10】: オーバーツーリズムを再考する(1): 現代的都市問題としてのオーバーツーリズム
- 【11】: オーバーツーリズムを再考する(2): 観光先進都市の観光政策
- 【12】: オーバーツーリズムを再考する(3): 京都の事例から
- 【13】: オーバーツーリズムを再考する(4): ポスト・コロナの観光政策
- 【14】: まとめ: 持続可能な観光へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・参考文献に挙げた図書を予習・復習に活用してください。
- ・講義で扱った事例に、機会を見つけてできるだけ現地に訪問してみてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% レポート:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

阿部大輔 ポスト・オーバーツーリズム 学芸出版社 2020 9784761527600

寺前秀一 観光政策論 原書房 2009 9784562091379

西村幸夫 文化・観光論ノート 鹿島出版会 2018 9784306073388

西村幸夫 観光まちづくり 学芸出版社 2009 9784761531683

高坂晶子 オーバーツーリズム 学芸出版社 2020 9784761527358

野田健太郎・熊田順一 観光産業のグレートリセッション 中央経済社 2022 9784502443817

その他、授業時に適宜紹介します。

国際観光政策論

International Tourism Policy

世界の観光先進国の観光政策を概観し、今後将来的な日本の観光政策を考える

石本 東生 (ISHIMOTO TOHSEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA119
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・UNWTO の観光政策、および EU の観光立国におけるインバウンド観光政策の特徴を説明できる。
- ・19 世紀半ばに欧州で始まったマス・ツーリズムとその時代背景について、その概要を説明できる。
- ・観光先進国の NTO や DMO の役割の概要について述べるができる。
- ・You can explain the characteristics of UNWTO's tourism policy and also the inbound tourism strategies of the tourism-developed countries in EU.
- ・You can explain the outline of mass tourism that started in Europe in the middle of the 19th century and its historical background.
- ・You can outline the roles of NTOs and DMOs in tourism advanced countries.

授業の内容 / Course Contents

「国際観光」と言えば、海外より日本に観光客を迎え入れるインバウンド・ツーリズムと、日本人観光客が海外旅行に向かうアウトバウンド・ツーリズムという2つのタイプがある。世界の国々においては、これら国際観光政策のあり方も様々である。例えば、インバウンド政策に関しても、ビザの発給、各国政府観光局(NTO)の方針、DMO の役割、観光地域づくりの方向性など、テーマは実に多岐にわたる。

本授業においては、まず UNWTO (国連世界観光機関) が提唱する国際観光の在り方について学び、次に、19 世紀半ばに欧州で始まるマス・ツーリズムとその時代背景から、現在に至るまでの世界の観光の流れを概観する。

次に、観光先進国が集積する EU における観光立国のインバウンドおよび観光地域づくり政策を中心に学び、日本の観光政策との比較考察を行う。

加えて、国の観光力向上のためには、観光行政と観光産業がどのように連携しあるいは役割分担を行うべきか、各国の成功事例を学びつつ、理解を深める。

Speaking of "international tourism," there are two types: inbound tourism, which welcomes tourists from overseas to Japan, and outbound tourism, in which Japanese tourists head for overseas travel. In the countries of the world, these international tourism policies are extremely various. For example, regarding inbound policies, there are a wide variety of themes such as visa issuance, policies of national tourism organizations (NTOs), the role of DMOs, and the direction of tourism area development.

In this class, we will first learn about the ideal form of international tourism advocated by UNWTO (United Nations World Tourism Organization), and then the world tourism from the background of mass tourism and its era, which began in Europe in the middle of the 19th century, an overview of the flow from then to the present.

Next, we will study mainly the inbound tourism-oriented countries and tourism area development policies in the EU, where tourism advanced countries are concentrated, and compare them with Japan's tourism policies.

In addition, we will deepen understanding while learning the success stories of each country on how tourism

administration and the tourism industry should cooperate or divide roles in order to improve the tourism power of the country.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:講義計画概要の解説 - 観光政策とは何か。
【2】:UNWTO(国連世界観光機関)の役目と、世界に提唱する観光の在り方
【3】:UNWTO が提供する観光統計データおよび観光資料の見方と利用法
【4】:19 世紀半ば、英国における「産業革命」と「余暇」の発生。およびトーマス・マサックによる旅行産業の創出。
【5】:第 2 次世界大戦の終結と国際観光のはじまり。欧州共同体(EC)そして欧州連合(EU)の創設と、欧州各国の観光振興
【6】:EU における TOURISM INDUSTRIES の重要性と、条件不利地域の経済振興の牽引役となる観光セクター、NTO/DMO の働き
【7】:フランスと英国における観光振興の特徴:共通点と相違点
【8】:ドイツとオーストリアにおける観光振興の特徴:共通点と相違点
【9】:イタリアとスペインにおける観光振興の特徴:共通点と相違点
【10】:ギリシャ・エーゲ海地域における観光振興の特徴:文化資源の観光利活用
【11】:日本国内におけるグリーンツーリズム振興とインバウンド
【12】:欧州におけるアグリ・ルーラルツーリズム振興と、EU による農山村観光振興策
【13】:歴史的町並み保全とその観光資源化、および観光ビジネスの展開(その1:「南欧地域」を事例に)
【14】:歴史的町並み保全とその観光資源化、および観光ビジネスの展開(その2:「京都」のインバウンド観光を事例に)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

UNWTO の公式ホームページ(英語版・日本語版)、EU における観光立国(フランス、スペイン、ドイツ、イタリア、ギリシャなど)の政府観光局(NTO)、および ETC(European Travel Commission)による公式ホームページを閲覧し、世界のツーリズムの最前線や、目指すべき方向性を確認しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 中間課題:20%

最終レポート割合::0%最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks

基本的に、担当教員が準備する資料・レジュメを使用する。

参考文献 / Readings

高橋一夫 DMO 観光地経営のイノベーション 学芸出版社 2017 97847615264670036

宮崎裕二他編著 DMO のプレイス・ブランディング 学芸出版社 2020 97876152744000036

阿部大輔、石本東生他 ポスト・オーバーツーリズム: 限界を再生する観光戦略 学芸出版社 2020 9784761527600

その他 / Others

各回授業後の感想・コメントの提出、授業用レジュメ(PDF ファイル)の配布、および授業に関する連絡・周知等については、基本的に Google Class Room を使用する。

消費論

Theories of Consumption
消費者が受ける影響と購買行動

斎藤 明 (SAITO AKIRA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA200
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

私たちの消費のメカニズムについて、その基本的な理論や枠組みを習得することを目標としている。

The goal is to master the basic theories and frameworks of the mechanisms of our consumption, especially from the point of view of consumer behaviour and consumer psychology.

授業の内容 / Course Contents

授業内容は、(社会)心理学および社会学を中心とした理論的視点から消費者行動がどのようになっているか、講義を進めていく。その際には、マーケティング論やブランド論など、本講義と隣接する科目との関係にふれる事でバランスのとれた内容とする予定である。

The content of the course will be based on theoretical perspectives from (social) psychology and sociology to understand consumer behavior. In doing so, we plan to balance the content of the lecture by touching on the relationship between this lecture and adjacent subjects such as marketing theory and brand theory.

At the request of students, we will also invite business people who are involved in consumer behavior theory as guest speakers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション、消費者行動研究におけるアプローチ
- 【2】: 消費者が受ける影響要因、消費者の個人特性
- 【3】: 消費者の関与
- 【4】: 消費者の問題認識、欲求、動機
- 【5】: 消費者の情報探索
- 【6】: 消費者の知識と記憶
- 【7】: 消費者の知覚
- 【8】: 消費者の態度
- 【9】: クチコミ(ネット上を含め)の影響
- 【10】: 消費者が他者や集団の影響(1)
- 【11】: 消費者が他者や集団の影響(2)
- 【12】: ゲスト・スピーカーによる、ビジネスで実践される消費者行動研究(1)
- 【13】: ゲスト・スピーカーによる、ビジネスで実践される消費者行動研究(2)
- 【14】: ゲスト・スピーカーによる、ビジネスで実践される消費者行動研究(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参考図書、課題図書については、適宜紹介します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

使用する教材については全て、講義前に Canvas LMS 上で配布する。

参考文献 / Readings

田中洋『消費者行動論体系』中央経済社 2008 4502662305

青木幸弘ほか『消費者行動論—マーケティングとブランド』有斐閣アルマ 2012 4641124639

その他 / Others

実務家のゲストスピーカーを招聘予定である。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光心理学

Tourist psychology

中村 哲 (NAKAMURA TETSU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA201
授業形態	オンデマンド(全回オンデマンド)	授業形態(補足事項)	4月14日(月)より配信します。月曜日の授業日程に準じて進めていきます。
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	TRS2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以前 観光学部入学者 交流文化学科選択科目／ 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目		

授業の目標 / Course Objectives

本講義の到達目標は、受講者の皆さんが、旅行前、旅行中、旅行後の人々が行う諸々の心理や行動について、理論的かつ具体的に説明できるようになることです。

The aim of this course is to enable students to explain, theoretically and concretely, the various psychological processes and behaviours of tourists before, during and after a trip.

授業の内容 / Course Contents

旅行の一連のプロセスに沿って順番に説明します。旅行前については(モチベーション→情報探索→イメージ→選択肢の評価)の過程を詳しく展開します。その上で、旅行中の心理状態、旅行後の経験評価の概要を取りあげます。最後に、旅行をしない理由(阻害要因)を見ていきます。このほか、最新の研究トピックも紹介します。

授業期間内に Web アンケート等を用いて学生の参加を促します。

This course will present an array of themes and issues related to tourist behaviours before, during, and after travel.

Motivation for travel, information search, destination image formation, reducing and evaluation of choice sets, mental state during travel, and reflection on experiences after travel. In the last, constraints for travel are explained. In addition to these themes, the latest research topics will be introduced.

Moreover, Internet surveys related to the themes of this course will be conducted to facilitate students' understanding.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 講義方針の説明／観光行動のプロセスに関するモデル

はじめに講義の進め方についてご説明します。

続いて、観光者行動の一連のプロセスのモデルとして、Crompton(1977)、van Raaij (1986)、Mansfeld(1992)、Mayo and Jarvis (1981)を取り上げて説明します。

【2】: モチベーション

動機、モチベーションに関する基礎的なことを講義します。その上で、モチベーションに関する概念や類型として、プッシュ要因とプル要因、内発的動機と外発的動機、動因低減説、最適覚醒理論について、観光に関する事例を取り入れながら整理します。さらに、観光研究における Push 要因の分類に関する研究として、Gray(1970)、Iso-Ahola(1982)、Fodness(1994)、林・藤原(2008)を検討します。

【3】: モチベーション

観光研究における Pull 要因の分類に関する研究事例を紹介します。続いて、観光者のモチベーションに関して、Plog(1972)のサイコグラフィックの研究(アロセントリック・サイコセントリック)とそれに対する批判の研究を見ていきます。

【4】: モチベーション

Plog(1972)のサイコグラフィックの研究(アロセントリック・サイコセントリック)に関して、後に続いた研究を紹介します。もう1つ、観光者のモチベーションに関する有名な研究として、Pearce(1983)による TCL(Travel Career Ladder)、Pearce & Lee(2005)による TCP(Travel Career Pattern)を検討します。

【5】:モチベーション／情報探索

モチベーションに関する最新の研究事例として、P2P(peer-to-peer) Accommodation の利用のモチベーション、リベンジトラベルのモチベーション、に関する研究を紹介します。

情報探索の実態について、データを元に把握します。その上で、観光者がなぜ旅行前に情報探索をするのか検討します。さらに、情報探索の基本的な概念として、内部情報探索、外部情報探索、購買前探索、進行的探索を確認します。

【6】:情報探索

情報探索の多い・少ないに影響する要因は数多く指摘されていますが、その中でも、問題認識、関与、事前知識、知覚リスクを取り上げて検討します。

【7】:情報探索

クチコミに関して、定義と類型を確認した上で、クチコミの発生する条件、eWOM(electronic word of mouth)の特性を検討します。さらに、ソーシャル・メディア時代の情報探索について、電通(2004)による AISAS とその後の展開を踏まえて考えます。

【8】:イメージ形成プロセス

イメージについて定義します。続いて、Boulding(1956)、前田(1995)の記述を援用してその特徴を説明した上で、観光におけるイメージの役割を考えます。さらに、イメージの類型について、Gunn(1972)による組織イメージと誘導イメージ、Echtner & Ritchie(1993)によるイメージの3次元の研究を紹介します。

【9】:イメージ形成プロセス

イメージ形成プロセスのモデルについて、Fakeye & Crompton(1991)、Beerli & Martin(2004)を用いて説明します。観光におけるイメージに対する研究者の見解として、前田(1995)と Gartner(2000)をもとに整理します。さらに、風評被害について考えます。

【10】:イメージ形成プロセス／選択肢の縮減過程

観光者のイメージ形成プロセスに関する比較的新しい研究事例を紹介します。観光者が来訪先の選択肢を縮減するプロセスについて検討します。消費者行動研究で使われているモデル(入手可能集合、知名集合、考慮集合、選択集合、選択)を確認した上で、研究事例として Woodside & Lysonski(1989)、Decrop(2010)を紹介します。

【11】:旅行中の心理

観光地現地での心理や行動の特徴について、前田(1995)による緊張感と解放感の枠組みをもとに確認します。続いて、旅行中の感情の変化について、感情曲線を用いた分析、Nawijn(2010)の研究を紹介します。さらに、観光者の現地での購買行動に関して検討します。

【12】:旅行後の経験評価

満足・不満足の原因に関して、期待-不一致モデル、衡平モデル、帰属モデル、認知的不協和、二要因理論の5つの枠組みを用いて検討します。また、旅行後にブログや SNS に経験を書き込むモチベーションに関する研究を紹介します。

【13】:旅行後の経験評価／旅行の阻害要因とその低減

一度訪れた旅行先を再び訪れるリピーターが発生する要因、またその類型に関する研究を紹介します。旅行の阻害要因について、Crawford & Godbey(1987)による個人内・対人的・構造的の3つの阻害要因の区分を援用した研究をみていきます。続いて、日本人(特に若者)の海外旅行の阻害要因は何かを考えます。さらに、阻害要因の知覚を低減するにはどうすれば良いのかについて、Bandura(1977)の自己効力感を援用して検討します。

【14】:日本人若者の海外旅行／計画的行動理論

日本人の若者の海外旅行動向について説明し、日本における2010年前後の「若者の海外旅行離れ」をめぐる一連の動きを振り返ります。

コロナ禍のあとの旅行の復活について、Ajzen(1991)による計画的行動理論を援用した研究が多く見られました。この理論を確認した上で、研究事例を見ていきます。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間後に、確認小テストを受験していただきます。そのための復習を必ずしてください。
参考文献 1『「若者の海外旅行離れ」を読み解く』、参考文献 2『観光行動論』を入手し、講義進行に対応する部分を読み

進めておくことで、授業の理解が容易になります。また、授業の設定レベルを超えた応用的な学習もできます。このほか、講義資料に記載する出所の文献や論文に直接あたってみることで、より専門的な理解が深まります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :61%

平常点割合 :39% 授業後に実施する小テスト(第2回から第14回):39%

小テストは解答期限があります。期限内に解答したものを有効とします。

テキスト / Textbooks

講義資料(pdf)をCanvasを通して配付します。詳細は下記【学生が準備すべき機器等】をご参照ください。

参考文献 / Readings

中村哲・西村幸子・高井典子 「若者の海外旅行離れ」を読み解く 法律文化社 2014 9784589036360

橋本俊哉(編) 観光行動論(観光学全集第4巻) 原書房 2013 9784562091911

前田勇 第2版 観光とサービスの心理学 学文社 2015 9784762025068

佐々木土師二 観光旅行の心理学 北大路書房 2007 9784762825422

小口孝司(編) 観光の社会心理学 北大路書房 2006 9784762824968

Kozak, M. & Decrop, A. Handbook of Tourist Behavior Routledge 2009 9781786391698

Bowen, D. Contemporary Tourist Behaviour: Yourself and Others as Tourists 2nd Edition CABI 2022

9781786391698

上記のほか、詳細は講義資料に記載します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

先修科目は特にありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

本講義は全回オンデマンド授業となります。

Canvasを使用して運営しますので、PCを使用できる環境、インターネットを適切に接続できる環境が必要となります。

講義資料のPDFファイルを提供します。穴埋め式プリントにつき、お手数ですが各自で紙に印刷をお願いすることになります。ご了承の上で履修登録をしてください。開講時に資料のファイルを一括して公開します(ただし状況次第で追加資料を出すことがあります)。

その他 / Others

各週の授業は以下のスケジュールで進行させます。月曜日の授業日程を基準に運営します。

- ・講義動画配信開始:月曜日 08:30(70分～90分を目安とした内容です)
- ・小テスト受験開始:月曜日 10:15(解答時間は10分間を目安とします。受験は1回のみ)
- ・小テスト提出締切:金曜日 19:00(以後提出はできません)

注意事項(検索結果画面)

人数制限科目(300名)

2019年度以前 観光学部入学者 交流文化学科選択科目／2020年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

農村観光論

Rural Tourism

持続可能な農山漁村に向けた観光のあり方を多方面から考える

津々見 崇(TSUTSUMI TAKASHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以前 観光学部入学者 交流文化学科選択科目／ 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目		

授業の目標 / Course Objectives

農山漁村の環境・景観や生活文化などを資源とする農村観光(rural tourism)について、概念や社会的意義、実際の取り組み内容・事業形態、関連する制度や歴史的経緯について理解し、今後の農村観光経営・農村観光地域計画に向けた課題や解決策を考察できる基礎的な知識を習得する。

This lecture provides the basic knowledges about the rural tourism which utilizes local resources on environment and landscape, and living culture in the rural area and explains its concept and social significance, concrete examples and their business schemes, and the historical context. The final objective is to obtain the ability to consider the task and the solution on business and regional development through the rural tourism.

授業の内容 / Course Contents

農村観光は農村振興と連動して考えられるケースが多く、ツーリストにとっての意義と同様に農村地域にとっての意義について理解を深める必要がある。本講義ではこれら両者の視点を踏まえつつ、これからの農村観光をプランニングするための基礎知識を解説するとともに、農村観光にまつわる近年の新たな動きについても触れ、今後の農村観光を展望する。新たな動きについてはゲストスピーカーを招へいして、具体的に解説してもらう予定である。

The rural tourism tends to be considered accompanied with the rural development, so it needs to understand its significance for the area as well as for the tourists. From these both points of view, this lecture explains the basic knowledges to plan and organize rural tourism and mentions the newest examples in order to think about its future. Some guest speakers will be invited to the lecture to specifically expound newest rural tourism practices.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、農村観光の概念
- 【2】: 農村観光の楽しみ
- 【3】: 農村観光の発展史
- 【4】: 農村観光の取り組みメニュー(1)
- 【5】: 農村観光の取り組みメニュー(2)
- 【6】: 農村観光の取り組みメニュー(3)
- 【7】: 諸外国における農村観光
- 【8】: 食料・農業・農村の現状と課題
- 【9】: 農村観光を支える法制度や政策
- 【10】: 農村観光を担う人や組織
- 【11】: 農村観光の立地
- 【12】: 農村観光とインバウンド・ツーリズム

【13】:農村観光とフード・ツーリズム

【14】:これからの農村観光

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

ゲストスピーカーによる最新の現場事情紹介と質疑

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

農村観光に関連して日々報道されるニュースや特集記事、ルポルタージュなどに意識的に触れ、それを構造的に捉える習慣をつけること。

前半は数回ごとに小テストを実施するので、レジュメを元に復習を行い、知識の定着を図ること。

後半は期末レポートに向けた準備(調査等)を指示するので、講義内容を踏まえながら実例に触れ、考察を積み重ねること。なお、期末レポートの前段階としての小レポート課題を予定している。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションフォーム(毎回):20% 小テスト(複数回):30% 小レポート:10% 最終レポート割合::40%

発表や討議等を取り入れる場合があり、積極的な参加には加点する。

テキスト / Textbooks

テキストは用いず、各講義においてレジュメ・資料を配布する。

参考文献 / Readings

千賀裕太郎ほか グリーンライフ 実教出版 2019 9784407204292

その他、講義の中で随時紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回のリアクションフォーム記入はオンラインで行うので、PCやスマートフォンを準備すること。

その他 / Others

PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。

資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

リアクションフォーム、小テストについては、次回授業等でフィードバックを行う。

ゲストスピーカーを招へいする予定であり、日程調整の結果により授業計画に多少変更が生じる場合があるが、その場合は初回ガイダンスの際に説明を行う。

注意事項(検索結果画面)

2019 年度以前 観光学部入学者 交流文化学科選択科目 / 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

ヘリテージと観光

Heritage and Tourism

李 崗(LI GANG)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA300
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

- 履修者は、本授業を通して、
- ①ヘリテージの概念、世界遺産制度の概要や歴史的変遷を学ぶ。
 - ②日本国内外にある多様なヘリテージについて学習することで、ヘリテージの多様性や多義性、およびヘリテージと観光の関連性を多面的に理解する。
 - ③現代社会においてヘリテージをめぐる諸事象について分析することができる。
- Through this course, students will be able to
1. Learn about the concept of heritage and the World Heritage system.
 2. Understand the relationship between heritage and tourism from multiple perspectives by learning various examples.
 3. Analyse current issues related to heritage in contemporary society.

授業の内容 / Course Contents

世界遺産に代表されるヘリテージは、自然や歴史、文化を学ぶ観光資源としてますます注目されるようになり、その保存・保護は世界各地で進められている。だが、ヘリテージの概念や内容、保存・保護に関する取り組みは必ずしも世界共通ではなく、各国・地域の歴史的・社会文化的文脈に大きく依存している。

本授業では、世界遺産に限定されない多様なヘリテージを俯瞰し、日本国内外のヘリテージツーリズムの事例について学習する。現代社会を生きる我々にとって、ヘリテージはいかなる意味をもつか、ヘリテージをめぐる思考と実践は地域社会にどのような葛藤と可能性をもたらすかについて、一緒に考える。

Heritage, as represented by the World Heritage sites, has been attracting more and more attention as a tourism resource for learning about nature, history, and culture, and its preservation and protection is being promoted in many parts of the world. However, the concept and content of heritage, as well as practices related to the preservation and protection of heritage vary from one country to another, influenced by the historical and socio-cultural background of each country.

In this course, we will focus on various types of heritage, not limited to the World Heritage sites, and take up examples of heritage tourism both in Japan and abroad to further understand the relationship between heritage and tourism. The significance of heritage for contemporary society will also be discussed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:ヘリテージとは
- 【2】:資源化されるヘリテージ
- 【3】:ヘリテージをめぐる制度
- 【4】:ヘリテージと地域社会①日本の事例

- 【5】:ヘリテージと地域社会②英国の事例
 【6】:ヘリテージと地域社会③中国の事例
 【7】:産業遺産①イギリスの事例
 【8】:産業遺産②日本の事例(映像視聴)
 【9】:ディスカッション:産業遺産
 【10】:食のヘリテージ化①欧州の事例
 【11】:食のヘリテージ化②中国の事例
 【12】:負の遺産とダークツーリズム
 【13】:革命の遺産とレッドツーリズム
 【14】:まとめ・最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容への理解を深めるため、授業中に関連参考文献や新聞記事、ウェブサイトなどを紹介するので、授業後に読んでおくこと(一部英文資料あり)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み態度:20% 課題の提出:40% 最終テスト:40%

テキスト / Textbooks

特に指定なし。随時、紹介・配布いたします。

参考文献 / Readings

木村至聖(編集), 森久聡(編集) 社会学で読み解く文化遺産—新しい研究の視点とフィールド 新曜社 2020
 ロドニー・ハリソン(著), 木村至聖(翻訳), 田中英資(翻訳), 平井健文(翻訳), & 1 その他 文化遺産といかに向き合うのか:「対話的モデル」から考える持続可能な未来 ミネルヴァ書房 2023
 小川 伸彦(著), 脇田 健一(著), アンリ・ピエール ジュディ(著), 山 泰幸(著), & 3 その他 文化遺産の社会学—ルーヴル美術館から原爆ドームまで 新曜社 2002

随時、紹介・配布いたします。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

レジャー論

Leisure Studies

レジャーの多様性と価値、また古典的および現代的な意義を考える

小澤 考人(OZAWA TAKATO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA301
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

レジャーの多様性と価値、また文明社会および現代社会におけるレジャーの意義と役割について理解を深める。

The goal of this course is to understand how the concept of leisure has changed throughout human history, and to learn about its important characteristics in the contemporary society.

授業の内容 / Course Contents

文明社会をつうじたレジャー概念の変化を理解したうえで、現代社会におけるレジャーの価値と多様性について、産業・空間・イベント・生活などの観点から学ぶ。

Lectures will be held on historical shifts of the concept of leisure and important aspects of contemporary leisure such as leisure industry, leisure-space, leisure-event, and lifecycle.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス: 授業の目標や学習の到達目標、成績評価の基準など

序論: 観光・ツーリズムと魅力的な社会

レジャーと価値観・世界観の多様性、自文化と異文化の出会い

【2】: 古代ギリシャと古代ローマのレジャー思想

地中海世界と都市国家、レジャー思想とスコレー(scholé)、パンとサーカス

【3】: レジャーを支える思想と制度: 中世ヨーロッパの場合

キリスト教と教会制度、レジャー思想としての観想、暦の中の祝祭日

【4】: レジャーを支える思想と制度: 近代化の局面のレジャー・レクリエーション

宗教改革(プロテスタンティズム)と資本主義の精神、レクリエーション思想の誕生

【5】: レジャーを支える思想と制度: 近代産業社会のレジャー・レクリエーション

産業革命と工業化・都市化、合理的娯楽(recreation)運動、近代的レジャーの誕生

【6】: パークス&レクリエーションの発想: アメリカのレクリエーション運動と実践

国立公園・自然公園の施策、プレイグラウンド/レクリエーション運動の活性化

【7】: サービス産業化とサービス・マネジメントの考え方

マネジメントとは何か、サービス・マネジメントの発想、観光・ツーリズムへの応用

【8】: 現代社会とレジャー産業、資本主義システムの現代的転回(=情報化・消費化社会)

レジャーへのニーズ(欲望)とサービス&ホスピタリティ産業の発展

【9】: 現代社会とレジャー、余暇社会論の誕生とレジャー・スタディーズの展開

レジャーとライフサイクル／ジェンダー、ワークライフバランス、レジャーと格差

【10】:レジャー論から観光学・ツーリズム研究の課題へ

「魅力的な空間づくり」とは？、マイナス要素の改善、プラス要素の創造

【11】:魅力的な空間=地域をつくるには？

地域と観光・ツーリズム、デスティネーション・マネジメント、観光まちづくりの課題

【12】:イベント活用と都市再生

現代世界とイベント活用、イベントとレガシー、都市再生の事例(ロンドンと東京)

【13】:21世紀の国家ソフトパワー戦略

国際観光と外交、メガイベント活用と国際観光振興、ソフトパワー戦略とは何か

【14】:期末課題(授業時間帯)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業レポートをつうじて、授業内容の把握と定着を図ること。また授業内容については期末課題において、理解の確認と定着を確かめることから、各回の授業レポートをつうじて内容の整理と把握を徹底するよう努めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の授業レポート(出席確認を含む):70% 期末課題:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

渡辺潤編 レジャー・スタディーズ 世界思想社 2015 9784790716624

安村克己ほか編 安村克己ほか編 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

岡本伸之編 観光学入門 有斐閣 2001 9784641121300

前田勇編著 新現代観光総論(第3版) 学文社 2019 9784762029172

石坂友司・小澤考人ほか編 <メガイベントの遺産>の社会学 青弓社 2024 9784787235473

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

情報処理演習

Information Processing Seminar
Excel で統計の基礎を学ぶ

永井 恵一 (NAGAI KEIICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA302
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS1000
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

エクセルや統計処理ソフトの操作方法と、統計データに基づく各種分析について習得する。基本統計量や相関係数などを用いた統計分析ができる力を養う。

The purposes of this course are to learn how to deal with statistical software and to understand quantitative data analysis, correlation coefficient, etc.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、統計データを活用し、それらの情報をエクセルなどの表計算ソフトにより加工し、図表作成や統計処理(基本統計量、相関係数など)を行える技能を習得するとともに、分析結果をまとめてレポートを作成する。また、授業中に統計学の基礎的な解説も行う。

This course teaches how to use Excel or other statistical software to process data and to use them for writing quantitative data reports. It also teaches the basics of statistics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: データ把握力①: データの操作、各種関数の使い方
- 【3】: データ把握力②: 基本統計量の算出
- 【4】: データ把握力③: グラフ表現
- 【5】: 演習問題に取り組もう①
- 【6】: 課題発見力①: 度数分布表・ヒストグラムの作成
- 【7】: 課題発見力②: 標準化
- 【8】: 課題発見力③: 移動平均
- 【9】: 演習問題に取り組もう②
- 【10】: 仮説検証力①: 相関分析
- 【11】: 仮説検証力②: 回帰分析、最適化
- 【12】: 演習問題に取り組もう③
- 【13】: 統計分析の流れとまとめ方
- 【14】: プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で学習した内容を復習すること。また、課題を課すことがあるので次回授業までに取り組むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題(複数回):60% プレゼンテーション:10% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

玄場公規・湊宣明・豊田裕貴 ビジネス統計スペシャリスト エクセル分析一般 オデッセイコミュニケーションズ 2024
9784908327209

参考文献 / Readings

石村貞夫・劉晨・石村友二郎 Excel でやさしく学ぶ統計解析 2019 東京図書 2019 9784489023170

石村友二郎・加藤千恵子・劉晨・石村貞夫 Excel でやさしく学ぶアンケート調査の統計処理 2019 東京図書 2019
9784489023286

授業内で指示する

その他 / Others

PC を用いて解説と演習を行う。初心者でも構わないが、基本的な PC や Excel の操作はできることが望ましい。コンピューター室で授業を行うため人数制限(45 人)を課す。

Microsoft Excel だけでなく、Word(レポート作成)、PowerPoint(プレゼンテーション)をあわせて使用するので、可能であれば各自の PC にインストールしておくことを推奨する。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象/人数制限科目(45 名)

地域経営論

Regional Management

圓山 王国(MARUYAMA OUKOKU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA303
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

- ・地域経営に関する基本的な概念や考え方、技術を説明できること。
- ・さまざまな事例について、その成り立ちや特徴、課題を具体的に説明できること。
- ・これからの地域経営のあり方やすすめ方について、自らの考えを多様な視点から具体的に述べるができること。

The goals of this class are to

- (1) explain the basic concepts, approaches, and techniques related to Regional Management
- (2) describe, in concrete terms, the background, characteristics, and challenges of various case studies
- (3) express your opinion about future directions and methods of Regional Management from multiple perspectives

授業の内容 / Course Contents

本授業では、「地域経営」のあり方とすすめ方に関する知識と考え方、技術を習得します。地域の課題を解決するためにどうすればよいか、どう動けばよいか、具体的に考えられるようになることを目指しています。講義や学生同士の発表を通じて、さまざまな事例に触れることができるようにします。

In this course, students will acquire the knowledge, perspectives, and techniques necessary to conceptualize and implement “Regional Management.” The aim is to develop the ability to think concretely about how to address local issues and determine what actions should be taken. Through lectures and presentations among peers, students will learn various case studies.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション: 「地域経営」とは何か？

Introduction: What Is “Regional Management”?

【2】: 地域経営の歴史(1): 成長時代における地域の経営

History of Regional Management (1): Approaches During the Growth Era

【3】: 地域経営の歴史(2): 人口減少時代における地域の経営

History of Regional Management (2): Approaches in the Era of Population Decline

【4】: 地域資源(1): 自然環境

Regional Resources (1): Natural Environment

【5】: 地域資源(2): 文化、社会組織

Regional Resources (2): Culture and Social Organizations

【6】: 地域経営の担い手(1)

Stakeholders in Regional Management (1)

【7】: 地域経営の担い手(2)

Stakeholders in Regional Management (2)

【8】: 地域経営の財源と地域の経済

Finance for Regional Management and the Local Economy

【9】: 地域のプロモーション

Regional Promotion

【10】: 地域経営のプロセス(1)

Process of Regional Management (1)

【11】: 地域経営のプロセス(2)

Process of Regional Management (2)

【12】: 地域経営の評価

Evaluation of Regional Management

【13】: 学生による発表(グループ内発表とグループディスカッション)

Student Presentations

【14】: 総括: レポート・発表の振り返りと講義全体の総括

Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業のテーマに関連する事例や仕組みを調べる。授業後に指示する課題に取り組むこと。

Investigate cases and systems related to the lesson's theme, and work on the assignments given after class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 毎回の授業で指示したミニレポート: 50% レポート: 40% 発表: 10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本建築学会編 都心周縁コミュニティの再生術 : 既成市街地への臨床学的アプローチ 学芸出版社 2021
9784761528010

武田重昭・佐久間康富・阿部大輔・杉崎和久ほか 小さな空間から都市をプランニングする 学芸出版社 2019
9784761526986

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

第13回(学生同士の発表や議論)には、PCを持参してください。

注意事項(検索結果画面)

2020年度以降入学対象

地域社会論

Regional Society

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA304
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、地域社会を多角的に捉えられるようになることが目的である。

The purpose is to be able to understand the local community from multiple perspectives.

授業の内容 / Course Contents

私たちは、地域社会に住んでいる。ここ日本において、地域社会を支えるべく様々な制度や組織が整えられてきた。他方で、地域社会とは実に多様なものである。地域社会ごとに多種多様であると同時に、地域社会内部もまた多様である。本講義では、日本各地の事例を適宜参照しながら、それぞれの地域社会の知識を得る。それと同時に、地域社会を多角的に捉えるために受講者の視野を広げることが狙いである。

適宜リアクションペーパーの提出を求める。

Here in Japan, various systems and organizations have been put in place to support local communities. On the other hand, local communities are truly diverse. While each community is diverse, it is also diverse within the community. In this lecture, we will acquire knowledge of each local community while referring to cases from various parts of Japan as appropriate. At the same time, the aim is to broaden the perspectives of the participants in order to perceive the local community from multiple angles.

Requests submission of reaction papers as appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 地域社会学の系譜
- 【3】: 地域社会を支える制度や組織(1) 中央集権の視点から
- 【4】: 地域社会を支える制度や組織(2) 地方分権の視点から
- 【5】: 地域社会と地方自治体: 条例
- 【6】: 地域の歴史(1) 客観的な地域社会
- 【7】: 地域の歴史(2) 主観的な地域社会
- 【8】: 東京から遠く離れた地域(1) 前近代性の取り扱い
- 【9】: 東京から遠く離れた地域(2) 発展性の取り扱い
- 【10】: 地域社会の内外(1) 河川がつなぐ二つの地域社会
- 【11】: 地域社会の内外(2) 分断された一つの地域社会
- 【12】: 阪神淡路大震災(1) 危機と対応
- 【13】: 阪神淡路大震災(2) 被災当事者(講義担当者)の声を聞く
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義に関する書籍等を読み、関連するニュースなどを収集すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回のリアクションペーパー:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光関連法

Laws in Tourism

観光業をめぐる法律を学ぶ

薬師丸 正二郎<薬師丸 正二郎> (YAKUSHIMARU SHOJIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA305
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光産業に従事する者が知っているに役立つ法律を体系的に身につけ、その知識を利用する法的思考力を習得する。現代社会で発生している観光産業に関する法的問題を扱う。

The purposes of this course are to learn systematic knowledge, such as laws that are useful for employees of the tourism industry to know and clauses that constitute the content of contracts with consumers, and to acquire the ability to think critically about legal matters that allows students to utilize that knowledge. Students take a general look at legal problems related to the tourism industry that occur in modern society.

授業の内容 / Course Contents

1 観光産業はすそ野の広い産業と言われる。このため、観光産業に従事する者は多くの法律に係ることになる。本講義では、幅広く従事する上で関係する法令や約款の内容を講義する。現実に発生した事例を紹介し、法的な考え方を説明した後に、受講生が自ら法的考察を行う。各授業時に小テストまたは意見発表を実施し、法的思考ができるようになったかを確認する。

2 行政書士試験、中小企業診断士試験、宅地建物取引士など資格試験を目指す学生にも役立つように幅広く社会に出てからも必要な法律知識を学ぶ。

3 観光学部の講義のため、理論的側面のみならず、現実に様々な法律がどのように運営されているかを具体的に考える機会を提供する。講義では、職域立教会の協力を得て、各種実務家(税理士、社会保険労務士、行政書士等)を招き、現場の問題や実務について語ってもらう予定である。

This course covers the following three areas: (1) Employees of the tourism industry, which is said to have a broad range, come into contact with many laws. This course includes lectures on the laws, regulations, and contracts that relate to engaging in this wide-ranging business. The instructor introduces case studies and explains the legal thought process. After that, students perform their own legal analysis. A quiz or a statement of opinion is used to confirm that students can think critically in a legal manner.

(2) Students learn a wide range of legal knowledge necessary for future employment and useful for licensing, for example, taking the Certified Administrative Procedures Legal Specialist Examination or the Registered Management Consultant Examination.

(3) Suitably for the College of Tourism, this course provides opportunities to think deeply not just about theoretical issues but also about how various laws are actually applied. Various professionals (e.g., Licensed Tax Accountant, Labor and Social Security Attorney, Certified Administrative Procedures Legal Specialist) are invited to lectures, when appropriate, to talk about issues and practices in the field.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス、法とは何か

- 【2】:民法①
 【3】:民法②, 消費者契約法
 【4】:行政法①
 【5】:行政法② 旅館業法, 宿泊約款, 住宅宿泊事業法
 【6】:防災・災害危機管理
 【7】:各種保険(雇用保険法等)に関する法律
 【8】:個人情報保護法, EU 一般データ保護規則(GDPR)
 【9】:労働関連法規
 【10】:入国管理法など
 【11】:税法に関する各種法律
 【12】:まちづくりに関する法律(都市計画法, 建築基準法など)
 【13】:独占禁止法, 下請法
 【14】:刑法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 初めて法律を学ぶ学生も多いことから, 特に復習に力を入れてほしい。
 ○ 事前にテキストや資料を指定するので, この場合は, 読んでおくことが臨まれる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:15% 授業内レポート:15%

テキストは, 講義初回時において最新のものを指示する。

テキスト / Textbooks

テキストは開講時に指定する。

参考文献 / Readings

佐伯仁志 他 ポケット六法(令和7年版) 有斐閣 2024 9784641009257

大石眞(編修代表) デイリー六法 2024 令和7年版 三省堂 2024 9784385158815

淵邊善彦など ビジネス常識としての法律<第4版> 日本経済新聞出版社 2024 9784296119806

高松正人 観光危機管理ハンドブック 朝倉書店 2018 9784254500295

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

主体性、好奇心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や講義資料を PDF で配布することが多いため, これらを読むことのできる機器(PC, タブレットなど)

その他 / Others

初めて法律を学ぶ学生が多いと思われるため, 具体例を交えながら説明をする。

また適宜実務家を招きながら講義を行うので, 講義スケジュールの順番に変更が生じることがあり得る。この場合は事前に告知する。

情報処理演習

Information Processing Seminar
エクセル(Excel)統計入門

清原 悠(KIYOHARA YU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA306
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS1000
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

エクセル(Excel)・統計処理ソフトの操作方法を習得し、統計データに基づき基本統計量や相関係数、単純回帰分析などからさまざまな現象を分析できる力を養う。

To learn how to operate Excel / statistical processing software and to develop the ability to analyze various phenomena from descriptive statistics value, correlation coefficients, single regression analysis, based on statistical data.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、統計データを活用し、それらの情報をエクセルなどの表計算ソフトにより加工し、図表作成や統計処理(基本統計量、相関係数、回帰分析など)を行える技能を習得するとともに、分析結果をまとめてレポートを作成する。また、授業中に統計学の基礎的な解説も行う。

In this class, we acquire skills in using statistical data and creating charts with spreadsheet software, and write a report that summarizes the analysis results. In addition, we learn basic explanation of statistics during class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンスとイントロダクション: 授業の進め方、履修者の知識や目的の確認
- 【2】: 統計データを読み解くとは: リサーチリテラシーを身につける
- 【3】: 表計算ソフトの基本的操作①: データ入力・加工、エクセル関数の使い方
- 【4】: 表計算ソフトの基本的操作②: 図表作成の方法(各種グラフ、度数分布表、ヒストグラム、散布図)
- 【5】: 統計データの基本①: 基本統計量Ⅰ(母集団と代表値など)
- 【6】: 統計データの基本②: 基本統計量Ⅱ(分布、分散・標準偏差など)
- 【7】: 統計処理①: 推測統計と確率分布(不偏分散・標本分散など)
- 【8】: 統計処理②: 相関関係(正・負の相関、疑似相関、相関係数の導出、近似直線など)
- 【9】: 統計処理③: 回帰分析(説明変数・被説明変数、単回帰、重回帰、決定係数など)
- 【10】: 統計データの取得と加工: データの標準化、e-stat の利用法
- 【11】: 検定Ⅰ(仮説、有意差、t 検定など)
- 【12】: レポートの準備——統計データの活用法の検討
- 【13】: 検定Ⅱ(カイ二乗検定など)
- 【14】: レポートの相互発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

統計データの活用に関するグループワークを複数回行う。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題(複数回):50% 小テスト:20% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

羽山博・できるシリーズ編集部 できるやさしく学ぶ Excel 統計入門 インプレス 2015 9784844337317

参考文献 / Readings

阿部真人 『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』 ソシム 2021 9784802613194

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・Excel は初歩的な操作はできた方が望ましいが、受講にあたっての必須条件ではありません。ただし、習得のためには相応の努力は必須です。
- ・授業ではコースの終わりにかけて、グループワークが複数回あります。主にデータ活用に関してのグループ内議論ですが、積極的な参加が必須です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・Excel を用いた情報処理演習です。コンピュータ室で授業予定ですが、自宅での課題学習等、PC は必須となります(タブレット端末では機能不足です)。
- ・PC には Excel2013(office2013)以降のバージョンが入っていることが必要となります(office365 でも可)。
- ・課題の配布、回収などは原則として Google Classroom にて行う。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象/人数制限科目(45 名)

投資計画論2

Investment Planning 2

投資計画論の基礎となる会計・ファイナンスの基本知識を学び、会社や事業が存続していくメカニズムを深める

宮下 篤志 (MIYASHITA ATSUSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA316
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、学生諸氏が現在、または将来に接するビジネスの現場で重要となるおカネ(投資計画)に関して、会計・ファイナンス分野の基本知識を深めながら学びます。初学者が習得できるように推進していきますので、将来ビジネスの分野で活動を目指している学生の学びにも適するでしょう。

ビジネスの重要な目的の一つは投資に対するリターンです。投資計画はその基になる考え方であり、未来に向けた可能性を拓くビジネス知性の集積とも考えられます。しかし、将来なにが起きるのかをだれも事前に知ることはできないという共通の条件が私たちを取り巻いています。投資計画という行為はだれもが不確実性を予測し、受入れながら計画をし、実行への推進を促すものといえます。

その意思決定と行動に対する計画は果てしなく膨大な思考過程が必要となります。これを説明するのが、会計・ファイナンスの理論です。投資計画論には、会計およびファイナンスの理論が不可欠であり、毎回の授業を通して、基礎からできる限り理解し易いように学んでいきます。

これら一連の学びの結果として、企業とはどのような成り立ちをし、なにを目指してどのように意思決定するのかについて理解できるようになるでしょう。また、目の前に立ちちはだかる障害に対して、どのような企業が乗り越え、どのような企業が乗り越えられないのか、事例を参照しながら、そのミステリーの一部を解明していきます。毎回の授業を楽しみながら学びましょう。

In this class, students will deepen their basic knowledge in the fields of accounting and finance, and learn about investment plans that will be important in the field of business that students will encounter now and in the future. We will promote this course so that beginners can learn it, so it is also suitable for students aiming to work in the business field in the future.

One of the important objectives of business is return on investment. An investment plan is the basic idea, and can be thought of as an accumulation of business intelligence that opens up possibilities for the future. However, the common condition surrounding us is that no one can know in advance what will happen in the future. The act of investment planning can be said to encourage everyone to anticipate uncertainty, plan while accepting it, and move forward with implementation.

As a result of this series of learning, you will be able to understand how companies are structured, what their goals are, and how they make decisions. In addition, we will unravel some of the mysteries of what types of companies are able to overcome and what types of companies are not able to overcome the obstacles that stand in front of them, while referring to case studies. Let's enjoy learning every lesson

授業の内容 / Course Contents

会計、金融の基礎的な考え方をベースとして、事業計画、資金調達計画、収支計画、資金管理等について、企業やプロジェクトを支える財務面(会計・ファイナンス)での実務的な観点から説明をする。さらに、具体的事例を取り上げて、理解を

深める。

Based on the basic concepts of accounting and finance, we will explain business plans, financing plans, income and expenditure plans, fund management, etc. from a practical viewpoint of financial aspects (accounting and finance) that support companies and projects. In addition, concrete examples are taken up to deepen understanding.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
～そもそも会計とファイナンスの違いは何か～
- 【2】: 会社はおカネをどのように動かしているのか
～企業の収益のメカニズムと関係性～
- 【3】: 会社の価値はどのように捉えるのか
～財務諸表(BS、PL、CF)の基礎～
- 【4】: 財務諸表から会社の活動を読んでみよう
～財務分析の実際～
- 【5】: 個人と経済が成長するカギとしてのファイナンス思考とは(1)
～ファイナンスの基礎～
- 【6】: 個人と経済が成長するカギとしてのファイナンス思考とは(2)
～おカネの時間的価値と投資計画の関係～
- 【7】: 会社はどのように事業資金を調達し、運用しているのか
～資本とお金の流れ、計画～
- 【8】: そもそも、なぜビジネスに投資が必要なのか
～投資計画と財務モデルの考え方～
- 【9】: 活躍している企業経営者はどのようにビジネスを考えているのか
～ゲストスピーカーに学ぶ～
- 【10】: これまでの復習-より理解を深めるために-
- 【11】: これからの日本企業の可能性を考える
～日本企業の改革を中心に～
- 【12】: 企業価値創造とは何か
～投資から企業活動、そして結果として数値～
- 【13】: 会社はどのように意思決定をして投資するのか
～パーパス(理念)とファイナンスとの関係～
- 【14】: 小クイズの実施と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業では学生への質問や質疑応答の時間も活発に行う予定である。皆が初学者として対応するので積極的に学んで欲しい。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発言等:30% 授業での小クイズ(複数回実施):70%

テキスト / Textbooks

毎回のハンドアウトは、「CanvasLMS」に掲示する。

参考文献 / Readings

石野雄一 ざっくり分かるファイナンス 光文社 2007 9784334033972

朝岡大輔他 ゼミナールコーポレートファイナンス 日本経済新聞出版 2022 9784532135249

伊藤邦雄 企業価値経営 日本経済出版 2021 9784532135140

宮川壽夫 〈新解釈〉コーポレートファイナンス理論 ダイヤモンド社 2022 9784478116715

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

経済社会の基本であるから、できる限り初学者としてわかり易く講義をするので、予め、知識やスキルを持ち合わせる必要はありません。

資料配布、課題の提出など「Canvas LMS」を使用する。授業は講義形式と対話形式の双方で行う。

サービス・マネジメント

Service Management

東 徹(AZUMA TORU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA333
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

電車に乗る, 外食をする, 服をクリーニングに出す, ホテルに泊まる, 美容院でカットする, 学校で学ぶ, 病院に行く・・・等々, 私たちはたくさんのサービスを利用することで生活を営んでいます。そうしたサービスが, どのように生み出され, 利用され, そして評価されているのか・・・, 顧客に満足してもらえるサービスを提供するため企業はどのような仕組みをつくり, 工夫を凝らしているのか・・・, 皆さんの身近にあるサービスの特性を知り, ビジネスに活かしていくための基本的な課題を理解することが授業のねらいです。

We use many services in the course of our daily lives, such as riding a train, eating at a restaurant, dropping clothing off at the dry cleaners, staying at a hotel, getting a haircut at a salon, learning at a school, going to a hospital, etc. The aim of this course is to understand how such services are created, used, and evaluated, what kind of mechanisms companies are creating and arranging in order to provide service that satisfies the customer, the characteristics of familiar services, and basic topics used in business.

授業の内容 / Course Contents

この授業では, 「よいサービスとは何か」「顧客に満足してもらえるサービスを提供するにはどうすればよいのか」「継続的に利用してもらうにはどうしたらよいのか」といったテーマを中心に考えていきます。身近な事例を取り上げながら, サービス・マネジメントの基本的な考え方や課題を学んでいきましょう。

In this course, we will focus on themes such as “What is good service?” “How can I provide service that satisfies the customer?” and “How can I get customer loyalty?” We will cover familiar case studies to learn the basic perspective and issues of service management.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: サービス・マネジメントを学ぶにあたって
- 【2】: サービスはモノとどう違う? (サービスの特性について理解しよう)
- 【3】: サービスの「決定的瞬間」とは? (サービスが生まれ、提供される場: サービス・エンカウンター)
- 【4】: サービス提供のしくみを“劇場”に例えると・・・? (システムとしてのサービス)
- 【5】: サービスの「よさ」はどう決まる? (サービス・クオリティ)
- 【6】: 満足度は継続利用につながるか? (顧客満足と顧客ロイヤリティ)
ES(従業員満足)なくしてCS(顧客満足)なし! (サービス・プロフィット・チェーン)
- 【7】: サービスの特性は利点か欠点か? (サービスの「工業化」と「個客化」)
- 【8】: 質の高いサービスを生み出す“現場力”を高める仕組みとは? (エンパワーメント、「逆さまのピラミッド」)
- 【9】: 需要の“波”にどう対応する? (サービスの需給マッチング)
最大収容力と適正収容力はどう違う?
- 【10】: LCC を好む人、好まない人(顧客の知覚コストと知覚価値)
- 【11】: サービスの価格をどう決める? (様々な価格設定の方法)

【12】:客単価と稼働率、どちらが大事？(イールド・マネジメント)

【13】:顧客の苦情にどう対応する？(サービス・リカバリー)

【14】:サービス・ビジネスの現代的課題

・シェアリングエコノミーと新たなサービス・ビジネス

・ホスピタリティ・ビジネスの“稼ぐ力”と“働く魅力”を高める

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

皆さんのまわりにはサービスを考えるための「生きた教材」があふれています。電車やバスに乗る時、カフェでコーヒーを飲んだり、ファストフードやファミレスで食事をする時、旅行に行ったり、ホテルに泊る時、風邪をひいて病院に行った時・・・「よいサービスってなんだろう」「利用者に満足してもらい、また利用してもらうにはどんな工夫をすればよいのだろう」・・・そんなことをチョッと考えてみてください。常に現実を目に向け、講義や文献で学んだ知識と、身近な事例や体験を結びつけて考えてみることで、サービス・マネジメントをよりイキイキと学ぶことができるはずです。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内課題、リアクションペーパー等:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

旅行情報システム

Information Systems for Tourism

野口 洋平(NOGUCHI YOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA338
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	授業形態はオンライン(一部対面)とする。そのうち、第1回/4月11日(金)は授業全体のガイダンスを兼ねているため対面で実施する。第5回/5月16日(金)、第9回/6月13日(金)、第11回/6月27日(金)はグループディスカッションなどを行うため対面で実施する。第14回/7月18日(金)は対面で授業内容のまとめを行う。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

旅行、観光において情報がどのような機能・役割を担っているか、旅行情報システムが現代の旅行・観光をどのように支えているかを理解し、適切な旅行・観光をめぐる情報受発信のデザインができるようになる。

You will come to understand the function and role of information in travel and tourism, as well as how travel information systems support modern travel and tourism, and you will be able to design information reception and transmission systems appropriate for travel and tourism.

授業の内容 / Course Contents

まず、旅行・観光と「情報」や「情報システム」の関係について、旅行・観光の仕組みと歴史を踏まえて説明する。次に、旅行・観光をめぐる情報がどのように送受信されてきたかについて説明する。さらに、旅行・観光の情報システムの現状と展望について説明する。その上で、「情報」や「情報システム」が現代の旅行・観光をどのように支えているのかを議論する。その際に、具体的な事例について取り上げる。授業は講義と履修者同士のディスカッションを通じて展開する。なお、担当教員と履修者、履修者同士のコミュニケーションにはリアクションペーパー等を用いる。

First, I will explain the relationship of information and information systems to travel and tourism, based on the mechanisms and history of travel and tourism. Then I will explain how information related to travel and tourism has been sent and received. I will further explain the current situation and outlook for travel and tourism information systems.

After that, we will discuss how information and information systems support modern travel and tourism. At that time, we will cover specific case studies. Classes will consist of lectures and group discussion among students. Note that reaction papers will be used for communication with students.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 旅行情報と観光情報

【2】: 旅行情報の分類

【3】: オンライン・トラベル・エージェント(OTA)とGDS

- 【4】: 旅行情報としてのガイドブック
- 【5】: 観光産業とICT 革命
- 【6】: 旅行情報としてのガイドブック
- 【7】: 消費者の行動と旅行情報
- 【8】: 消費者の行動と旅行情報
- 【9】: 旅行ビジネスと情報
- 【10】: 観光と評価情報
- 【11】: 観光と情報リテラシー
- 【12】: 観光における顧客情報の利活用
- 【13】: 旅行情報とパッケージツアー
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

(1) 自分と旅行ガイドブック、旅行番組との関係について振り返ってみる。必要に応じてそれらを旅行ガイドブック、旅行番組を見て現状を理解する。(2) インターネットを使って旅行・観光の任意の情報を収集してみる(SNSも含む)。(3) オンライン旅行予約サービスのサイトを訪問し、実際に任意のホテル、航空券などを検索してみる(実際に予約・購入する必要はない)。(4) 旅行会社の店舗を訪問し店内の様子を観察する(営業の妨げにならないように配慮すること)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

必要に応じてレジュメ、資料を配付する。また、インターネット上の資料や関連サイトを提示する。

参考文献 / Readings

適宜授業内で紹介する。

その他 / Others

授業ではリアクションペーパーなどを通じた履修者同士のディスカッションを行う回が複数ある。また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、必要に応じて次回授業の冒頭に質問等について回答する。

旅行業経営実務

Travel Industry Management
ツーリズム×経営
現役社長・経営者ライブ

風間 欣人(KAZAMA YOSHIHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA344
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

旅行産業・ツーリズム産業における将来の経営者や中核的な役割を担う「人財」を育てることを目指し、この講義では、旅行産業およびツーリズム産業の機能別戦略、現状と課題、環境変化への対応、そして将来への展望について深く学びます。

しかし、この講義の真の魅力はそれだけではありません。ツーリズム業界の第一線で活躍する経営者や実務責任者が、実際の現場の経験に基づいたメッセージを直接皆さんに届けます。リアルな視点で語られる「ビジネスの面白さ」や「情熱」は、教科書では得られない貴重な学びとなるでしょう。更に講義を通じて、実社会で必要不可欠な職業観や社会観を提示します。これにより、就職活動だけでなく、社会人としてのキャリアを支える基本的な心得や考え方を身につけることができます。

この講義は、次世代の旅行・ツーリズム業界をリードするリーダーとなるための第一歩です。業界のリアルな課題に触れながら、世界中の人々を魅了する新しいアイデアや戦略を一緒に考えましょう。

あなたの挑戦が、次世代のツーリズム産業を形作る大きな一歩となるはずです。

This course is designed to cultivate "Human Resources" who will take on managerial and key roles in the travel and tourism industry in the future.

Participants will gain an in-depth understanding of functional strategies, current challenges and opportunities, responses to environmental changes, and future prospects in the travel and tourism sectors.

However, the true value of this course lies beyond theoretical knowledge. Executives and core personnel actively working on the frontlines of the industry will share firsthand messages directly with you, based on their real-world experiences. Their perspectives on the "excitement" and "passion" of the business will provide invaluable insights that cannot be found in textbooks.

In addition, the course provides participants with essential insights into professional values and societal perspectives necessary for success in the real world. This learning enables participants to develop the fundamental mindset and approach necessary not only for job hunting but also for supporting your careers as professionals in the long term.

This course serves as the first step for those who aspire to lead the next generation of the travel and tourism industries. By engaging with real-world challenges and collaboratively exploring new ideas and strategies that captivate people worldwide, participants will take a significant step toward shaping the next generation of the tourism industry.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、旅行産業・ツーリズム産業のマーケット環境の変化と、それに対応する旅行会社の財務戦略、HR 戦略、ブランド戦略を多角的に分析します。また、大企業からスタートアップ企業まで幅広いツーリズム業界のリーダーたちによるリアルな視点を通じて、ビジネスの最前線を肌で感じるすることができます。

コース前半では、日本最大の旅行会社である（株）JTB の代表取締役社長をはじめ、JTB グループの経営者や実務責任者が登壇。具体的かつ現場のリアルな事例を交えながら、各分野の課題や環境変化への対応、将来展望を直接解説します。

経営者の視点から語られるこれらの内容は、教科書では得られないリアルな視点や実務経験を提供し、皆さんにとって貴重な学びとなるでしょう。

コース後半では、低迷する水族館の再生、訪日インバウンド事業、沿線活性化事業、訪日ショッピング事業、旅ナカコンテンツ事業、旅行出版事業、旅行関連商事事業などツーリズム関連ビジネスを牽引する現役の社長や経営者をゲスト講師として迎え、ライブ感あふれる講義を展開します。ゲスト講師が語るのには、企業戦略や経営の舵取りに関する現場のリアルな知見です。また、質疑応答を通じて、経営者自身の人間的な一面や、仕事に対する姿勢、考え方にも触れることができ、皆さんのキャリアに役立つ貴重な学びと刺激が得られることでしょう。

注：春学期の「旅行産業論」を履修していると、より理解が深まります

ゲスト講師の都合により、登壇者・講義の内容が変更、または順番が前後する場合があります

This course explores the changes in the market environment of the travel and tourism industry and provides a multi-faceted analysis of the financial strategies, HR strategies, and brand strategies employed by travel agencies in response to these changes. Participants will also gain firsthand insights into the frontlines of business through the perspectives of leaders spanning the tourism industry, from major corporations to startups.

In the first half of the course, the President & CEO of JTB Corp., Japan's largest travel agency, along with other executives and key personnel from the JTB Group, will deliver direct explanations.

These sessions will feature specific, real-world examples and examine key issues, responses to environmental changes, and future prospects from a management perspective. These insights, presented from the viewpoint of top leaders, will provide participants with practical knowledge and unique perspectives that cannot be found in textbooks.

In the second half of the course, we will welcome current presidents and executives actively leading tourism-related businesses as guest lectures. These professionals are at the forefront of initiatives such as revitalizing struggling aquariums, promoting Japan-inbound tourism, revitalization of railway lines "Ensen Marugoto Hotel project", organizing shopping experiences for inbound visitors, developing tours and activities, and engaging in travel publishing and commerce. Their lectures will be dynamic and rich with a sense of immediacy.

The guest lectures will share real-world insights gained from their experiences in corporate strategy and navigating the challenges of business management. Through Q&A sessions, participants will also have the opportunity to glimpse the human side of these leaders—their attitudes toward work, philosophies, and perspectives on leadership.

These sessions will provide you with valuable lessons and inspiration, offering significant insights that can support and enrich your future careers.

Note:

* If you have taken the Travel Industry course, it is easier to deepen your understanding.

* The speakers and lecture content may be subject to change or rescheduling depending on the availability of guest lectures.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

観光学部 観光学科 特任教授 風間 欣人

【2】: ツーリズム関連ビジネスの経営(廃館危機から大逆転、目指すは唯一無二の水族館)

蒲郡市竹島水族館 館長 小林 龍二

【3】: JTB代表取締役社長×学生のQ&Aセッション

株式会社 JTB 代表取締役社長執行役員兼 CEO 山北 栄二郎

【4】: 旅行会社における財務戦略

株式会社 JTB 執行役員 財務企画担当、投資・資金戦略担当 沖本 哲

【5】: 旅行会社における HR 戦略

株式会社 JTB 常務執行役員 人事担当(CHRO) 大八木 勢一

【6】: ツーリズム関連ビジネスの経営(スタートアップが挑むインバウンド観光の可能性)

株式会社羅針盤 代表取締役CEO 佐々木 文人

【7】: ツーリズム関連ビジネスの経営(地域との共創による滞在型観光の事業開発)

株式会社さとゆめ 代表取締役CEO 嶋田 俊平

【8】: 旅行会社におけるブランド戦略

株式会社 JTB 執行役員 ブランディング・マーケティング担当

広報担当(CMO) 風口 悦子

【9】: ツーリズム関連ビジネスの経営(訪日ショッピングツーリズムとマーケティング)

一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会 代表理事 新津 研一

【10】:ツーリズム関連ビジネスの経営(旅ナカから見た IT とグローバル)
 ベルトラ株式会社 代表取締役社長兼CEO 二木 渉

【11】:ツーリズム関連ビジネスの経営(経営と新規事業開発)
 株式会社JTBビジネスイノベーターズ 代表取締役社長執行役員 上田 泰志

【12】:ツーリズム関連ビジネスの経営(出版事業)
 株式会社JTBパブリッシング 代表取締役社長執行役員 盛崎 宏行

【13】:ツーリズム関連ビジネスの経営(商事事業)
 株式会社JTB商事 代表取締役社長執行役員 加藤 雄次

【14】:理解度の確認
 観光学部 観光学科 特任教授 風間 欣人

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業前に「Canvas LMS」から事前配布資料をダウンロードし、内容を確認して下さい
 事後学習については授業時に随時指示・紹介します

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%
 平常点割合 :50% 出席・授業への取り組み:30% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

嶋田俊平 700 人の村がひとつのホテルに「地方創生」ビジネス革命 文藝春秋 2022 9784163915401

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

「Canvas LMS」にて講義資料を事前に配布しますので、各自 PC やタブレット等を持参のうえ受講して下さい

その他 / Others

※実業界の第一線で活躍するゲスト講師による、パワーポイントを使用した講義が中心となります
 ※ゲスト講師の都合により、登壇者・講義の内容が変更、または順番が前後する場合があります

コンベンション産業論

Convention Industry

MICEの構造や役割、観光政策・観光地づくりとの関係について学ぶ

守屋 邦彦(MORIYA KUNIHICO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA345
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

MICEを構成する Meeting、Incentive、Convention、Exhibition/Event の開催目的、開催意義等の特徴やビジネスの構造、それらの課題に関する基本的な知識を学び、説明出来るようになる。

また、国や地方自治体の観光政策におけるMICEやIR(統合型リゾート)の位置付けや、レジャートラベルとビジネストラベルの相違等についても理解し、説明出来るようになる。

Through this class, students will learn and be able to explain the purpose and significance of Meeting, Incentive, Convention, and Exhibition/Event, their business structure, and basic knowledge of their issues.

Also, to understand and be able to explain the positioning of MICE and IR (Integrated Resorts) in the tourism policies of national and local governments, and the differences between leisure travel and business travel.

授業の内容 / Course Contents

MICEとはどのようなものなのかの基本的な事項と、観光政策の中でどのような意味・役割があるのか、更にMICEの誘致・開催に関わる各主体とそれぞれの役割等について講義する。

その上で、観光地づくり、IRの整備、ビジネスとレジャーが融合した旅行などがMICEとどのような関りがあるのか、より広い視点からMICEが理解できるよう講義する。

なお、講義では主にビジネス目的のMICEを取り扱う。

The lecture will cover the basics of what MICE is, its meaning and role in tourism policy, and the various actors and their respective roles in attracting and holding MICE events.

The lecture will also cover how MICE is related to the development of tourist attractions, IR, and travel that combines business and leisure, etc., so that MICE can be understood from a broader perspective.

The lecture will focus mainly on MICE for business purposes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義計画等の説明
- 【2】: MICEの意味や意義／MICEの各分野(1)
- 【3】: MICEの各分野(2)
- 【4】: MICEの各分野(3)／MICEの取組の変遷
- 【5】: MICEの現状と政策(1)
- 【6】: MICEの現状と政策(2)
- 【7】: MICEの現状と政策(3)
- 【8】: MICEを誘致・開催・運営する組織
- 【9】: MICEを開催する施設(1)
- 【10】: MICEを開催する施設(2)

- 【11】:MICEと観光地づくり
 【12】:MICE開催中/開催前後の旅行
 【13】:MICEとIR
 【14】:まとめ/MICEの全体像の理解

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

MICEは学生の立場では体験することが少ない分野なので、国際会議、展示会の開催などに関する日々のニュースに関心を持つ、講義前に参考文献や関連ページなどを読むなどにより、どのようなものなのか視覚的にもイメージを掴んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー(毎回):30% 小レポート(2回):30% 最終テスト:40%

小レポートは講義内で問題提示、後日 CanvasLMS にて回収(提出〆切日は都度指定)を行う。

最終テストは、最終講義時に実施する。

テキスト / Textbooks

授業時に随時資料を配布する。

(PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する)

参考文献 / Readings

(株)コンベンションリンケージ MICE 入門編 日本再興のカギ ダイアモンド社 2021 9784478084823

田部井正次郎 観光 MICE一集いっツアーリズム入門 古今書院 2017 9784772231879

経済産業省 展示会産業概論～はじめて展示会に関わる人のための入門書～ 経済産業省 2014

(参考となる関連団体等のホームページ)

観光庁(MICE) https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/inbound_kaifuku/mice.html

日本政府観光局(JNTO) MICE サイト <https://mice.jnto.go.jp/>

日本コンベンション協会 <https://jp-cma.org/>

日本展示会協会 <https://www.nittenkyo.ne.jp/>

日本イベント産業振興協会 <https://www.jace.or.jp/>

ICCA International Congress and Convention Association <https://www.iccaworld.org/>

UFI The Global Association of the Exhibition Industry <https://www.ufi.org/>

その他 / Others

学生の理解度及び講義の進捗状況等により講義内容・順番は変更することがあります。

地域デザイン論

Reginal Design

地域社会の諸課題を把握し、地方自治体や民間による地域デザインのためのアプローチ手法を考える。

小地沢 将之 (KOCHIZAWA MASAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA347
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインは第 3・4・6・8・10・12・13 回に実施する。その他は、教材配布やテスト実施のため、対面で7回実施する(第1・2・5・7・9・11・14回)。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域社会の課題は多様化し、その解決に向けた道筋も複雑化している。この講義では、課題解決のための手法として地域デザインの具体的な手法を理解するとともに、これからの地域社会のあり方を構想する力を身に付ける。

We face many problems in our communities, and the paths to solving them are complicated. In this lecture, you understand the specific methods of regional design, and you acquire the ability to envision the ideal form of our communities.

授業の内容 / Course Contents

講義では、地方自治体や民間による地域デザインのアプローチ手法を取り上げる。都市計画や交通まちづくり、商業活性化、市民活動、エリアマネジメントなどについて、最新のトピックを交えながら、それぞれの基本的な考え方を紹介する。

The lectures cover methods of regional design by local governments and private sectors. I introduce the basic concepts of urban planning, transportation, commercial revitalization, civic activities, area management, etc., with the latest topics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 地域デザインとはなにか
- 【2】: 集落のガバナンス
- 【3】: 地方自治体によるまちづくり1
～現代社会の課題
- 【4】: 地方自治体によるまちづくり2
～都市計画とまちづくり
- 【5】: 地方自治体によるまちづくり3
～交通とまちづくり
- 【6】: 地方自治体によるまちづくり4
～商業活性化とまちづくり
- 【7】: 民間によるまちづくり1
～民間によるまちづくりの主体
- 【8】: 民間によるまちづくり2

- ～市民活動黎明期の事例
- 【9】: 民間によるまちづくり3
- ～地域コミュニティの疲弊と新展開
- 【10】: 民間によるまちづくり4
- ～エリアマネジメント
- 【11】: 生産活動・消費活動とまちづくり
- 【12】: 災害復興とまちづくり
- 【13】: 地域資源を活用したまちづくり
- 【14】: 公共施設とまちづくり
- まとめと最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習: 毎回の小レポートの回答の題材として、宿題を課すので、これに取り組むこと。

復習: Canvas LMS の「理解度チェック」により復習すること。講義で紹介する事例などについて、報道や書籍などを通じてさらに理解を深めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 毎回の小レポート (Small Report) :20% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

小地沢将之 都市・まちづくりのためのコミュニティ入門 学芸出版社 2024 9784761528911

参考文献 / Readings

小地沢将之 まちづくりプロジェクトの教科書 森北出版 2020 9784627553613

饗庭伸、鈴木伸治 初めて学ぶ都市計画(第三版) 市ヶ谷出版社 2024 9784867970034

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

まちづくりに興味のある学生であれば、履修を勧める。ただし、小レポートの提出を毎回求める科目であり、事前・事後の学修を要するため、熱心に取り組まれない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・PowerPoint を投影しながら講義を行う。映像資料や現物資料なども適宜活用する。指定のテキスト以外に、配布資料を用いる。
 - ・毎回、Canvas LMS を用いて小レポートを課し、Canvas LMS により適宜フィードバックを行う。
 - ・対面講義 7 回、オンライン講義 7 回 (Zoom) を予定している。
- 以上のことから、Canvas LMS および Zoom にアクセスできる端末を要する。

その他 / Others

- ・PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。指定のテキスト以外に、配布資料を用いる。
- ・毎回、Canvas LMS を用いて小レポートを課し、Canvas LMS により適宜フィードバックを行う。
- ・対面講義 7 回、オンライン講義 7 回を予定している。実施回については、講義の中で案内するとともに、Canvas LMS で指示する。

環境・景観論

Environmental Design

小野 良平(ONO RYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA348
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

景観や風景(ランドスケープ)が単なる景色ではなく、人間と環境との間の「現象」であることを理解し、景観・風景を成り立たせる人間および社会と環境との諸関係について学んだ上で、観光と関連した景観保全および環境保全に関わる諸課題を知り、考察する。

You will come to understand that a landscape is not just its scenery but a phenomenon of interaction between people and environments. After learning about the various relationships between people and societies who create landscapes and their environment, we will consider various issues related to preservation of landscapes and the environment in relation to tourism.

授業の内容 / Course Contents

多様な景観概念に触れた上で、観光に関わる景観・ランドスケープ概念に沿いつつ、空間計画論的な立場から、景観の分析・評価およびデザインや保全の方法について紹介する。また自然景観、都市景観、農山村景観、漁村景観など、具体的対象空間に分けて、人々の生活、特に観光・レクリエーションとの関わりについて現状や課題を考察する。また環境倫理学における景観概念の位置づけについても紹介する。

After reviewing various concepts related to landscapes, along with landscapes concepts related to tourism, I will introduce analysis and evaluation methods, as well as design and preservation methods from the point of view of spatial/regional planning theory. In addition, we will divide natural landscapes, urban landscapes, agricultural village landscapes, fishing village landscapes, etc. into specific spaces, and consider the current situation and issues surrounding them with regard to people's lives, especially when it comes to tourism and recreation. I will also introduce the position of landscape concepts in environmental ethics.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション(環境・景観・風景)

【2】: 景観概念の多義性

【3】: 景観の評価

【4】: 景観の知覚

【5】: 景観のデザイン

【6】: 景観保全の計画

【7】: 景観保全の制度

【8】: 自然景観

【9】: 都市景観

【10】: 農山村景観

【11】: 漁村・港湾景観

【12】: 文化的景観・産業景観

【13】:環境倫理と景観

【14】:観光と景観(風景観の変遷)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

リアクションペーパーによる質問等へのフィードバック

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布

参考文献 / Readings

講義の中で紹介

都市計画論

Urban Planning
都市計画の基礎を学ぶ

西川 亮(NISHIKAWA RYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA349
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市計画に関する基本的知識を身に付け、都市空間の見方や分析方法を習得する。また、観光地を観光地として成立させるのに影響を与えている都市計画関連制度について理解する。

You will gain basic knowledge about urban planning, and learn how to look at and analyze urban spaces. You will also come to understand urban planning systems and their effects on the establishment of tourist spots.

授業の内容 / Course Contents

観光まちづくりを理解するためには、その前段として、都市計画の理解が欠かせない。本講義では、我が国における都市計画の基本的な考え方やその歴史的経緯を理解した上で、観光との関わりが深い都市の歴史的環境保全や景観法について学ぶ。この授業を通じて、都市とは何か、都市はどうやって出来上がっているのかということへの関心を高める。本講義を履修すれば、きっと都市に対する見方が大きく変わるであろう。

After understanding the basic concept of urban planning in Japan and its historical background, you will learn about the urban preservation and landscape laws, which are deeply connected to tourism.

In this course, we will raise our level of understanding of what cities are and how they are formed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 現在の都市計画制度(1)
- 【3】: 現在の都市計画制度(2)
- 【4】: 現在の都市計画制度(3)
- 【5】: 現在の都市計画制度(4)
- 【6】: 現在の都市計画制度(5)
- 【7】: 都市計画の歴史(1)
- 【8】: 都市計画の歴史(2)
- 【9】: 都市計画の歴史(3)
- 【10】: 都市計画の歴史(4)
- 【11】: 歴史的環境保全と景観(1)
- 【12】: 歴史的環境保全と景観(2)
- 【13】: 都市計画とまちづくり
- 【14】: 総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

最新の都市計画やまちづくり事情に関するシンポジウム等の情報を提供するので、それらに積極的に参加してもらいたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業後のリアクションペーパー:15% 授業内のディスカッション(Canvas LMS 利用):15%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜案内する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜案内する。

ホテル運営論

Hotel Operation

森トラスト・ホテルズ&リゾート株式会社との協働授業:「ホテル業の多面性」

池尾 健(IKEO KEN)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA350
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで 7 回実施する(2・4・6・8・10・12・14 回目の授業)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「ホテル」という言葉を一つとっても、人によってその捉え方や意味合いは異なっています。旅行先の宿泊する場所という一般的にはゲストとしての捉え方もあれば、ホテルを表現の場として捉え自身のアートや建築としてその空間を捉える人もいます。一方で事業としてホテルを捉えると、ホテルを収益不動産として認識して投資を生業とするものもいれば、ホテル事業を運営するためのマーケティングのプロもいたりします。本講義では、業界で最前線で活躍されているゲストをお呼びし、もしかすると狭義的に捉えられている「ホテル」「ホテルに関わり、働くこと」の多面性を学び、理解することを目指します。加えて、ゲストからのインプットやディスカッション形式でのアウトプットを通して、観光学部における所属の中での「学び」や「キャリア」について自分なりの考え方を作っていくことを本授業の目標とします。

The word "hotel" has different meanings and connotations for different people. Some see it as a place to sleep when traveling, generally as a guest, while others see a hotel as a place of expression and view the space as their own art or architecture. On the other hand, when hotels are viewed as a business, some recognize them as profitable real estate and make a living investing in them, while others are marketing professionals who are in the business of operating hotel businesses. In this lecture, we will invite guests who are active on the front lines in the industry, with the goal of learning and understanding the many facets of "hotels" and "being involved with and working in hotels" that are perhaps perceived in a narrow sense. In addition, through input from the guests and output in the form of discussion, the goal of this class is to create your own ideas about "learning" and "career" in the Faculty of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、日本全国において広くホテル、リゾート開発や運営を展開する森トラスト・ホテルズ&リゾート社より不動産や新規ホテル開業、マーケティングなど様々な分野でご活躍されている方々をゲストスピーカーとしてお招きし、テーマに沿ってご講演やパネルディスカッションを行っていく予定です。

基本的に①ゲストスピーカーによる講義、パネルディスカッション、②①のトピックをもとにしたグループワーク、を1セットとして、全部で6セットほどのセッションを行っていきます。

①ゲストスピーカーによる講義については、オンラインもしくは対面にてご登壇いただき、講義、および事前質問などをベースとした担当教員を交えたパネルディスカッションを行います。

②のグループワークについては、その前に開催された①のクラスを受けて、特定のトピックをもとにグループワークを行い

ます。

インプットとアウトプットを繰り返していく中で、固定概念に囚われない「学び」、「キャリア」における気付きを得ることを期待します。

また有志メンバーにはなりますが、過去にはゲストスピーカーが手掛けるプロジェクトや地域を舞台にインターンシップやスタディツアーを開催しています。

Mori Trust Hotels & Resorts, which develops and operates a wide range of hotels and resorts throughout Japan, has invited guest speakers who are active in various fields such as real estate, opening new hotels, marketing, etc. They will give lectures and participate in panel discussions on various themes,

We plan to invite guest speakers from Mori Trust Hotels & Resorts, which develops and manages a wide range of hotels and resorts throughout Japan, to give lectures and participate in panel discussions on a variety of topics.

Basically, there will be about 6 sets of sessions, consisting of (1) lectures by guest speakers, panel discussions, and (2) group work based on the topics in (1) above.

The lectures will be given by guest speakers, either online or in person, and will be followed by a panel discussion with the faculty member in charge of the session based on the lectures and questions asked in advance.

As for group work in (2), group work will be conducted based on a specific topic, following the class in (1) held prior to the class.

Through repeated input and output, we expect participants to gain insights in “learning” and “career” that are not bound by fixed concepts.

In the past, we have also organized internships and study tours in the projects and regions where our guest speakers are involved, although they are voluntary members.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンスとイントロダクション
- 【2】: ゲストスピーカーによる講義(登壇者未定)
- 【3】: 前回授業の振り返り・ディスカッション
- 【4】: ゲストスピーカーによる講義(登壇者未定)
- 【5】: 前回授業の振り返り・ディスカッション
- 【6】: ゲストスピーカーによる講義(登壇者未定)
- 【7】: 前回授業の振り返り・ディスカッション
- 【8】: ゲストスピーカーによる講義(登壇者未定)
- 【9】: 前回授業の振り返り・ディスカッション
- 【10】: ゲストスピーカーによる講義(登壇者未定)
- 【11】: 前回授業の振り返り・ディスカッション
- 【12】: ゲストスピーカーによる講義(登壇者未定)
- 【13】: 前回授業の振り返り・ディスカッション
- 【14】: 担当教員・学生による総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、別途指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席及び授業後課題(毎回):70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

【森トラスト・ホテルズ&リゾート株式会社について】
「不動産事業」「ホテル&リゾート事業」「投資事業」を主軸に、全国の 65 棟のビル・住宅・商業施設と、31 ヶ所のホテル&リゾート施設の開発・運営を手掛ける森トラストグループのホテル&リゾート事業を担う中核企業として、1973 年に日本初の法人会員制倶楽部「ラフォーレ倶楽部」を創業。2023 年 3 月時点で、「翠 SUI ホテル」、「マリオットホテル」や「コートヤード・バイ・マリオット」、

「ラフォーレホテルズ&リゾーツ」など、21 の自社・国際ブランドのホテル&リゾート施設運営を手掛けています。
また、本格グリル料理を提供するレストラン「LAVAROCK」をはじめとするレストラン・カフェ運営事業のほか、
貸会議室運営事業、観光インフォメーションセンター運営事業など、広範囲にわたるサービス事業を行っています。

宿泊産業論

Lodging Industry

沢柳 知彦 (SAWAYANAGI TOMOHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA352
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・宿泊業の事業領域、ビジネスモデル、および経営課題について理解する
- ・ホテル・旅館の経営や M&A に関する報道内容を正しく理解する
- ・外資系ホテルオペレーターやデベロッパー、プロフェッショナルなホテル所有者・投資家などで働くうえで必要なホテル経営学の基礎知識を身に付ける
- This course covers business fields, business models, and challenges of the lodging industry.
- The course participants are expected to understand the context of the media reports regarding management as well as mergers and acquisitions in the hotel and ryokan industry.
- The course participants are expected to learn basic knowledge of hotel management which is required at international hotel operators, developers, and professional hotel investors.

授業の内容 / Course Contents

- ・宿泊産業の本質を解き明かし、その歴史を簡単に振り返る
- ・ホテル事業における複数のビジネスモデルを紹介し、ホテル事業固有の経営課題を明らかにしたうえでその対処法について議論する
- ・最後に、周辺産業を採り上げ、宿泊業との関りについて解説する
- This course starts with nature of lodging business and brief review of its history.
- Then, it outlines various business models in the industry, followed by challenges on management, and discuss how to overcome them.
- Lastly, it picks up businesses surrounding the industry and explain how they relate each other.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 宿泊産業とは何か

- i.はじめに
- ii.何を売る商売か？
- iii.本質:在庫が持てない装置産業
- iv.4つの特性(無形性、同時性、消滅性、異質性)
- v.必要なリソースは何か？
- vi.サービス・プロフィットチェーン

【2】: 宿屋ビジネスの発祥と提供される機能の変遷

- i.「旅」の起源
- ii.旅籠:旅人への「寝床」提供

- iii.「宿泊」の多様化
- iv.食事提供
- v.予約システム
- vi.清潔さ
- vii.あたり・はずれ問題
- viii.「寝床」から「滞在経験」へ
- ix.カスタマージャーニー

【3】: 業態

- i.業態 - 「顧客目線」による分類
- ii.ホテルブランドとは何か
- iii.ホテルか、旅館か
- iv.フルサービスか、リミテッドサービスか
- v.グレードによる違い - スターレーティング
- vi.トラディショナルか、ディスティンクティブか
- vii.ロケーションによる分る
- viii.滞在時間による違い
- ix.外資系か、日系か

【4】: 経営ストラクチャー

- i.経営ストラクチャー - 事業者目線による分類
- ii.所有・経営・運営の分離
- iii.所有直営
- iv.賃貸借
- v.マネジメント
- vi.フランチャイズ
- vii.マーケティングアライアンス
- viii.サンドイッチ(=賃貸借+マネジメント)
- ix.チェーン化の功罪
- x.異業種からの参入

【5】: 客室ビジネスの本質

- i.ホテル運営の典型的な組織図と収益構造
- ii.「儲かっている」という意味
- iii.KPI: OCC, ADR, RevPAR, DOR, ALOS, Opex per occupied room
- iv.レベニューマネジメント
- v.チャンネルミックス
- vi.ゲストミックスとルームミックス
- vii.ハウスキーピングレベル設定

【6】: 料飲ビジネスの本質

- i.レストランコンセプト
- ii.レストラン収支の考え方
- iii.KPI: Covers, Average Check, 時間帯別売上など
- iv.メニューエンジニアリング
- v.ピークデマンドコントロール
- vi.レストランミックス
- vii.テイクアウトとフードデリバリー

【7】: 宴会ビジネスの本質

- i.宴会ビジネスの俯瞰図
- ii.KPI: 宴会場稼働率、宴会数、客単価、見込客数、成約率など
- iii.宴会場予約のコントロール
- iv.MICE ビジネス
- v.婚礼需要と AIDMA プロセス
- vi.宴会場利用の多様化

【8】: 運営組織と意思決定プロセス

- i.運営組織のあり方
- ii.FTE の考え方
- iii.アウトソース vs インハウス
- iv.総支配人(GM)を頂点とする組織図

- v. GM 権限とオーナー承認
- vi. 資金調達責任の所在と FF&E リザーブ

【9】: 関連ビジネス1: 開発関連

- i. 開発プロセス
- ii. 設計関連
- iii. 建築関連
- iv. 資金調達関連

【10】: 関連ビジネス2: 運営関連

- i. 営業関連
- ii. 予約関連
- iii. 運営関連
- iv. 経営関連

【11】: オーナー業とホテルアセットマネジメント

- i. ホテル経営ストラクチャー
- ii. ホテルオーナーの業務領域
- iii. ホテルオーナーの経営目標
- iv. 資産価値評価
- v. ホテルアセットマネジメント

【12】: 住宅ビジネスとの境界線

- i. 曖昧化する業界の境目
- ii. 民泊(住宅宿泊事業法)
- iii. サービスアパートメント
- iv. ブランデッド・レジデンス
- v. 会員権ビジネス

【13】: チェーン運営

- i. チェーンメリット 1 - マーケティング
- ii. チェーンメリット 2 - 運営効率
- iii. チェーンメリット 3 - 人材確保
- iv. チェーンメリット 4 - ファイナンス
- v. 事業母体とのシナジー効果

【14】: 旅館業

- i. 旅館業の発祥
- ii. ホテルとの違い
- iii. ターゲット顧客の変化
- iv. 予約ルートの変化
- v. 提供サービスの変化
- vi. 過小資本・更新投資余力不足問題
- vii. 後継者問題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 小テスト:30% 期末課題:40%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910

参考文献 / Readings

仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信 ホテル・ビジネス・ブック第2版 中央経済社 2016 9784502181412

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

その他 / Others

- ・講義資料は毎回指導教員によって作成・配布され、その資料は講義中にプロジェクターで表示される
- ・知識の定着および思考能力の向上を目指し、毎回受講生からのリアクションペーパー提出もしくは小テスト実施を行なう。その回答内容につき、次回講義にて指導教員が解説を行なうことで、インタラクティブなクラス運営を行なう
- ・受講にあたり、宿泊産業とはどんなものなのかを理解するため、ホテルもしくは旅館での宿泊ないし飲食体験を行なっておくことを推奨する

政策評価論

Policy Evaluation

長谷川 明彦 (HASEGAWA AKIHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA358
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2000 年以降の長引く景気低迷を背景に、国や自治体では政策評価(行政評価)が導入され、限られた予算の中で効果的な事業が求められるようになってきました。

今、行政の現場では、社会経済情勢を的確に把握するため、分析力を持つ人材が求められています。本講義では、講義と演習を通じて分析力を身に付けることを目標とします。

In light of the prolonged economic downturn since 2000, policy evaluations (administrative evaluations) have been introduced to national and local governments, who in turn are demanding more effective operations within limited budgets.

Currently the public sector demands personnel with the analytical skills to clearly understand socioeconomic conditions. The goal of this course is to gain analytical abilities through lectures and seminars.

授業の内容 / Course Contents

統計基礎及び分析手法を身に付けることを目的に演習を進め、政策現場におけるエビデンスの重要性を体感してもらいます。

We will conduct seminars with the objective of learning basic statistics and analysis methods, and experience the importance of evidence in the policy field.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、政策評価制度の意義、概要
- 【2】: 統計基礎
- 【3】: 統計演習 1
- 【4】: ゲストスピーカー 1
- 【5】: 統計演習 2
- 【6】: 地域特性分析演習 1
- 【7】: 地域特性分析演習 2
- 【8】: 中間テスト
- 【9】: ゲストスピーカー 2
- 【10】: 経済波及効果分析演習
- 【11】: 将来人口推計演習
- 【12】: ゲストスピーカー 3
- 【13】: 地理情報システム演習

【14】:総括**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱った演習は、復習したうえで出席する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内に行う中間テスト:30% リアクションペーパー:30% レポート:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

長谷川明彦 データで読み解く被災地観光の可能性 大阪大学出版会 2017 9784872595680

谷謙二 フリーGISソフトMANDARA10 入門 : かんたん!オリジナル地図を作ろう 古今書院 2018 9784772281188

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

WindowsPC (Excel の入った PC、Mac 不可)を使用する。

注意事項(検索結果画面)

人数制限科目(100名)

企業情報分析

Business Information Analysis

野田 健太郎 (NODA KENTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA360
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、企業動向・産業動向を把握し、企業や産業を分析する能力を習得することを目指す。

The goal of this course is to understand corporate and industrial trends, and gain the ability to analyze corporations and industries.

授業の内容 / Course Contents

観光関連の様々な産業をとりあげる。産業・企業の分析を行う。さらに企業・組織運営についてのトピックについても解説する。後半では企業の社会的責任、リスクマネジメントなど比較的新しいトピックについても紹介する。

We will cover various industries related to tourism. We will analyze industries and corporations. We will further explore the topics of corporate and organizational management. In the latter half of the course, we will introduce relatively recent topics such as corporate social responsibility and risk management.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 鉄道業について業界構造や近時の動向を解説する。
- 【3】: 旅行業について業界構造や近時の動向を解説する。
- 【4】: 企業の見方及び分析方法について解説する(1)。
- 【5】: 企業の見方及び分析方法について解説する(2)。
- 【6】: 企業の見方及び分析方法について解説する(3)。
- 【7】: 企業の見方及び分析方法について解説する(4)。
- 【8】: 企業の見方及び分析方法について解説する(5)。
- 【9】: 不動産業について業界構造や近時の動向を解説する。
- 【10】: 銀行業について業界構造や近時の動向を解説する。
- 【11】: 損害保険業について業界構造や近時の動向を解説する。
- 【12】: リスクマネジメントについて解説する。
- 【13】: 企業の社会的責任について解説する。
- 【14】: 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要な情報収集を授業中に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度(課題提出状況などを含む):60% 最終テスト割合:40%

テキスト / Textbooks

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034
とり上げる産業は近時の動向を踏まえ変更することがある。

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443816 3034

講義中に紹介する。

経営戦略論

Management Strategy

新時代を創造する企業の戦略を探求する

二木 真(FUTAKI MAKOTO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA362
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「戦略とは何か?」について、代表的な戦略理論とツーリズム産業をはじめとする企業実践(ケーススタディ)を通して理解する。合わせて、社会人としての必須資質である戦略的思考法を身につける。

“What is strategy?” You will understand this through representative strategical theory and case studies of the tourism industry, etc. At the same time, you will learn the strategical thinking necessary to function in the workforce.

授業の内容 / Course Contents

日本のツーリズム産業はグローバル競争とライフスタイルの変化の中で転換期を迎えている。当講座では、訪日外国人旅行者の増加をビジネスチャンスと捉え、代表的な戦略理論の理解と主要なツーリズムおよびサービス関連企業のケーススタディ(実践)を融合した参加型授業を行う。

観光・広告・メディア業界等のトップ企業から戦略を統括するキーマンをゲストに迎え、最新の企業戦略を体感することで、学生自身の将来を考える有益な機会を設けたい。

Japanese tourism industry is at a turning point in global competition and new lifestyle. In this course, we will consider the business opportunities presented by increase in foreign visitors to Japan while conducting participatory classes that combine an understanding of representative strategical theory with major tourism and service industry-related case studies.

We will invite key persons from top companies in the tourism, advertising, and media fields, etc. who oversee their company's strategy as guest speakers, and through experience of the latest corporate strategy, students will be given an advantageous opportunity to think about their future.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション(戦略とは何か)
- 【2】:第4次産業革命とポストコロナの環境変化
- 【3】:戦略の構想(理念とビジョン)
- 【4】:戦略の構築(マーケット環境と経営資源)
- 【5】:成長戦略
- 【6】:ゲストセッション①
- 【7】:競争戦略
- 【8】:ケーススタディ(業界内競争から異業種競争へ)
- 【9】:リソースベースレビュー(資源ベースの戦略)
- 【10】:ゲストセッション②
- 【11】:ビジネスモデルとイノベーション
- 【12】:フリービジネスモデル

【13】:プラットフォーム戦略とビジョナリーカンパニー

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

ゲストセッション、グループワークなどアクティブラーニングを活用した双方向型の授業を展開する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参考図書及び講義資料を熟読のうえ講義に参加すること。

(各回予習・復習にそれぞれ2時間程度を要する)

講義後は原則としてコメントシートの提出を求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み・発表:30% 講義内小テスト:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

遠藤功 経営戦略の教科書 光文社 2011 9784334036300

沼上幹 わかりやすいマーケティング戦略(第3版) 有斐閣パルマ 2023 4641222193

竹中平蔵 第4次産業革命 PHPビジネス新書 2017 9784569832647

遠藤功 企業経営の教科書 日経 BP 2021 9784532114312

通常講義内に随時紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

経営学・マーケティング関連及びツーリズム産業への興味・関心が高いこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回の講義資料をPDFにて配布するため、PCを持参することが望ましい。(ただし、必須ではない)

その他 / Others

講義では、日本を代表する業界トップ企業(観光・広告・地域マネジメント等)の最前線で活躍するキーマンをゲストに迎え、企業人のリアルな考え方と実践を学び、受講者との交流の場を提供する。

観光計画論

Tourism Area Planning

観光による地域活性化のための計画づくりを学ぶ

守屋 邦彦(MORIYA KUNIHICO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA363
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光に関する計画を策定するとはどういうことか、またよりよい観光地づくりとは何を目指すことか、といったことについて理解するとともに、計画技法を身につける。

Students will come to understand what it means to develop plans for tourism and what should be the aim of planning for tourism to create better tourist destinations, and will learn planning techniques.

授業の内容 / Course Contents

持続可能な観光の実現のために、地域はどのようなコンセプトのもと目標を立て実現に向けた手段を講じていくべきか。また、魅力的な地域づくりのために、どのような項目がその対象となるか。本講義では観光計画の意味・意義について論ずるとともに、計画策定の基礎的な技術について講義を行う。

In the pursuit of sustainable tourism, what concepts should a community use to create their goals, and what procedures should they implement to achieve them? Furthermore, what areas should be targeted to create an attractive community? In this course, we will cover the meaning and significance of tourism planning, and lectures will go over basic skills for planning strategy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義概要の説明
- 【2】: 観光計画の定義付け・意義
- 【3】: 観光に関する国や地域の計画の変遷(1)
- 【4】: 観光に関する国や地域の計画の変遷(2)
- 【5】: 観光計画・観光地づくりの考え方(1)
- 【6】: 観光計画・観光地づくりの考え方(2)
- 【7】: 観光計画・観光地づくりの考え方(3)
- 【8】: 観光計画の実例(1)
- 【9】: 観光計画の実例(2)
- 【10】: 観光計画の実例(3)
- 【11】: 観光計画・観光地づくりと旅行者動向
- 【12】: 観光計画・観光地づくりとビジネス需要
- 【13】: 観光計画・観光地づくりと地域コミュニティ
- 【14】: まとめ／観光計画・観光地づくりの全体像の理解

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

観光地に訪れる際に、様々な観点から現地の状況を把握し、自分なりの課題の発見に努めること。授業中に触れる内容とその課題とを付き合わせて、解決方法を検討すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー(毎回):30% 小テスト(2回):30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

梅川智也他 観光計画論1 理論と実践 原書房 2018 9784562092109

(公財)日本交通公社 観光地経営の視点と実践[第2版] 丸善出版 2019 9784621303849

西村幸夫+國學院大學地域マネジメント研究センター 観光まちづくりの展望ー地域を見つめ、地域を動かすー 学芸出版社 2024 9784761528812

観光白書 <https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>

観光立国推進基本計画 <https://www.mlit.go.jp/kankocho/kankorikkoku/kihonkeikaku.html>

その他 / Others

学生の理解度及び講義の進捗状況等により講義内容・順番は変更することがあります。

観光施設論

Facilities Design for Tourism
建築の変容と観光資源化

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA365
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光対象として訪れる旅館やホテル等の宿泊施設, 遊園地やテーマパーク等の娯楽施設, 劇場やコンサートホール, 博物館などの文化施設等に関する歴史や空間構成についての理解を深める。

Through this lecture, students will deepen their understanding of the history and spatial composition of accommodation facilities such as inns and hotels, recreational facilities such as amusement parks and theme parks, and cultural facilities such as theaters, concert halls, and museums.

授業の内容 / Course Contents

観光施設が必要とする空間の機能と構成について講義し, 施設提供者の想いとユーザー側の評価のギャップを客観的に理解する。各施設が登場してきた背景や変容の過程を十分理解した上で人々に求められる観光施設像を検証し, 魅力的な施設を実現する知識を身につけることを期待する。

Lectures will be given on the function and composition of the space required for tourism facilities, and objectively understand the gap between thoughts of facility providers and users. After fully understanding the background of each facility and the process of transformation, we will be able to imagine shapes of tourist facilities required of people and expect to acquire knowledge to realize attractive facilities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 観光施設の広がり
- 【2】: 「すみか」を作る術(すべ)
- 【3】: 建築史概説1
- 【4】: 建築史概説2
- 【5】: 建築史概説3
- 【6】: ホテル建築の特徴と変容
- 【7】: 旅館の特徴とその変容
- 【8】: 国家的イベントと観光施設
- 【9】: 博覧会の登場とその時代背景
- 【10】: 遊園地とテーマパーク
- 【11】: 劇場と音楽ホール
- 【12】: 都市計画と娯楽施設
- 【13】: リゾート施設と地域開発
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自ら観光のために訪れた施設について思い起こし、自分が暮らす住宅や大学の建物と何が異なるかについて考察しておくこと。また、建物はその中で暮らす人たちの安全を守るためにその形状を保つことを第一につくられているが、どのような工夫がなされているのかについて調べておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

必要に応じて適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

橋爪紳也 日本の遊園地 講談社現代文庫 2000 9784061495203

富田昭次 ホテルと日本近代 青弓社 2003 9784787232151

若山滋他 世界の建築術 彰国社 1986 9784395270262

鈴木博之他 日本の駅舎とクラシックホテル 白揚社 2005 4826901224

フレッチャー 世界建築の歴史 西村書店 1996 9784890135479

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

地理や世界史についての基礎的な知識がある方が理解しやすい。力学の基礎は学んでいることが望ましいが、自習して理屈だけは理解しておいてください。数学的な計算力を求めるものではありませんが、算数的な四則演算は問題なくできること。

簿記論

Bookkeeping

観光学部で簿記の資格を取ろう

井出 健二郎 (IDE KENJIROU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA366
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

目標は、ただただ日本商工会議所主催の簿記検定初級/3 級を合格しようとするものです。

Students will aim to pass the beginning level of the bookkeeping exam given by the Japan Chamber of Commerce and Industry.

授業の内容 / Course Contents

内容は、2020 年 12 月から開始された簿記検定 3 級 CBT 試験あるいは 2017 年 4 月から開始された簿記検定初級の取得を目指すものです。初めて、簿記を勉強される方を対象としています。なお、講義では検定試験に近い問題演習を行います。

Content will focus on obtaining a beginning qualification in the bookkeeping exam given by the Japan Chamber of Commerce and Industry since April 2017. This course is for those studying bookkeeping for the first time, so we will begin with learning. We will also go over practice questions that are similar to the test in class. Instruction for the 3rd level of the bookkeeping exam will also be given.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 簿記とは何か…簡単に言ってしまうと、決算書の作り方です。
- 【2】: 決算書 貸借対照表…企業にいくら財産があるかを示す表について学習します。
損益計算書…企業がいくらもうかったかを示す表について学習します。
- 【3】: 決算書の作り方 仕訳…人工知能(AI)がどんなに進んでも、この仕訳という作業はヒトがおこなうものです。
- 【4】: 決算書の作り方 仕訳…現金などを扱う取引(身近なこと)を仕訳してみましょう。
- 【5】: 決算書の作り方 仕訳…会社・企業が実際に行っている取を仕訳してみましょう。
- 【6】: 決算書の作り方 転記…仕訳に続く簿記の手続きの二つ目です。
- 【7】: 決算書の作り方 試算表の作成…仕訳や転記などこれまでの作業が正しく行われているか確認します。
- 【8】: 決算書の作り方 精算表の作成…決算書作成には便利な表があります。それを学習します。
- 【9】: 3 級範囲の仕訳…一度これまでの学習が理解できているかを確認します。また、さらに上級の簿記の資格の対応をします。
- 【10】: 3 級範囲の仕訳…取引が複雑になった時、どのように仕訳するかを確認します。
- 【11】: 3 級範囲の仕訳…取引が複雑になった時、どのように仕訳するかを確認します。
- 【12】: 検定試験レベル精算表・決算書の作成…3 級を意識した検定試験の問題をトレーニングします。
- 【13】: 検定試験レベル精算表・決算書の作成…3 級を意識した検定試験の問題をトレーニングします。
- 【14】: 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

基本的には復習を中心をお願いします。簿記検定取得に関わる問題集などを活用し、トレーニングを行っていただき、検定合格に役立ててください(講義後 180 分程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 確認テスト:30% 出席確認・授業への取り組み:30% 最終テスト割合::40%

なお、講義期間中に検定合格された方等については評価加点いたします。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

簿記を初めて勉強される方も多いはずです。心配しないで、まずは授業に参加して講義を聴き、決算書の作り方をマスターしてください。初級そして3級は合格できるはずですし、関心が出てきた方は2級にチャレンジするなどしてください。

観光地経営論

Destintaion Management

持続可能な地域のための地域観光をプランニングする

西川 亮(NISHIKAWA RYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA375
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

あなたがもし観光客が大幅に減少し衰退してしまった温泉地の再生を手掛けるとしたら？あなたがもし過度な観光地化によって住民の生活に影響が生じている観光地の問題解決を考えなくてはならなかったら？

本講義では、持続可能な観光地域の発展のために必要な観光地全体のマネジメント、すなわち「観光地経営」の考え方とその推進にあたって必要な方法論について学ぶものである。

Imagine that you are to revitalize a hot spring resort. Imagine that you are a manager of a destination with over-tourism problem. What will you do for the destination?

This course will discuss the methodology of destination management for the sustainable development.

授業の内容 / Course Contents

現在の日本国内の観光地が置かれた状況を、歴史的な視点から俯瞰し、観光地という単位でのマネジメントが求められるようになっていることを理解する。その上で、観光地経営に求められる視点と、観光地経営の地区スケールの計画論としての「地域観光プランニング」のアプローチを概説する。理論と事例の双方から講義を行なっていく。

なお、「経営」という言葉が講義名に含まれるが、いわゆるマーケティング的な「経営論」とは一線を画す講義であり、地域づくりや観光まちづくりに主眼を置いている。一企業ではなく、地域という単位から観光を考えることを大切にしたい。

Students will understand historical development of destination management in Japan. After that the methodology of "sustainable destination planning approach" will be discussed.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション ー観光地のマネジメントとは
- [2]: 観光地経営の全体像
- [3]: 地域特性と資源の把握 ①
- [4]: 地域特性と資源の把握 ②
- [5]: 地域特性と資源の把握 ③
- [6]: 観光体験・空間体験の構想と創造①
- [7]: 観光体験・空間体験の構想と創造②
- [8]: 将来の理想を描くビジョンと個別事業の検討①
- [9]: 将来の理想を描くビジョンと個別事業の検討②
- [10]: レポート課題の発表
- [11]: 雇用創出と経済の域内循環
- [12]: 観光地経営の推進組織形成と財源
- [13]: 観光地経営を支える行政の制度・政策
- [14]: 全講義の振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から観光地に関するニュースや興味深い事例を集めておく習慣をつけること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:20% 授業内ディスカッション参加度(Canvas LMS 利用):20% レポート課題 1:20% レポート課題 2:40%

テキスト / Textbooks

講義中に適宜案内する

参考文献 / Readings

日本交通公社 観光地経営の視点と実践 丸善出版者 2019 9784621303849

ホテル経営論

Hotel Management

杉山 起良 (SUGIYAMA KIYOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA385
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスの構造や特性について理解するとともに、ホテル経営に関する基礎知識から経営分析・戦略立案についてのスキル取得を目的とします。

The purpose of this study is to understand the structure and characteristics of the hotel business, and to acquire skills in management analysis and strategy planning based on basic knowledge of hotel management.

授業の内容 / Course Contents

本講座ではホテルビジネスに必要な基礎知識や特徴から損益計算書の分析及び経営戦略について講義します。また宿泊・レストラン・宴会(婚礼・一般)の収益構造やホテル業と不動産業の両面から見たホテルビジネスの課題について講義します。

In this course, we will lecture on analysis of profit and loss statements and management strategies based on basic knowledge and characteristics necessary for hotel business. In addition, we will lecture on the profit structure of accommodation, restaurants, banquets (weddings, general) and problems in the hotel business from both the hotel industry and real estate industry.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、本講座の目的およびスケジュール解説
- 【2】: ホテルビジネス概論
- 【3】: ホテルビジネスの基礎知識(宿泊)
- 【4】: ホテルビジネスの基礎知識(レストラン)
- 【5】: ホテルビジネスの基礎知識(婚礼宴会)
- 【6】: ホテルビジネスの基礎知識(一般宴会)
- 【7】: ホテル損益の基礎知識
- 【8】: ホテル損益分析
- 【9】: ホテル視察
- 【10】: ホテル開発
- 【11】: ゲストスピーカー講義
- 【12】: ホテル会計
- 【13】: 危機管理・SDGs
- 【14】: ホテルと地域経済

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ホテルに関連するニュースや話題に日ごろから関心を持ち情報収集したり、経営者の視点で実際にホテルを利用してみるなど積極的に取り組むことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーなど:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

ホテル視察、ゲストスピーカー講義は予定であり、時期を含め変更となることがあります。

ホテルアセットマネジメント論

Hotel Asset Management

沢柳 知彦(SAWAYANAGI TOMOHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA386
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・ホテルオーナーの資産管理手法であるホテルアセットマネジメントの目的、業務領域、および手法を理解する
- ・外資系ホテルオペレーター、デベロッパー、もしくはプロフェッショナルなホテル所有者・投資家で働く際に必要なホテル経営学のフレームワークを実践できる素養を身に付ける
 - This course outlines purposes, business fields, and the way of conduct of hotel asset management as a management from hotel owners' perspective.
 - Course participants are expected to learn basic knowledge of hotel management which is required at international hotel operators, developers, and professional hotel investors.

授業の内容 / Course Contents

ホテルアセットマネジメントとは、(オペレーター/総支配人ではなく)ホテルオーナーにおける収益と不動産の管理を行なう業務を指す。ホテルアセットマネジャーは総支配人を代表とするホテルオペレーターと協力してホテルの資産価値向上を目指す。本講ではホテルアセットマネジメントに関する以下の項目につき講義を行なう

- ・導入環境
- ・業務領域
- ・ホテルアセットマネジャーの資質
- ・ホテルアセットマネジメントを実行するためのフレームワーク
- ・不動産投資ストラクチャーおよび資産価値評価手法

Hotel Asset Management is to manage profits and real estate of a hotel together with the hotel operator led by General Manager in charge. A hotel asset manager aims to increase the hotel asset value with the operator. This course is designed to pick up the following topics in the lecture.

- The management environment where hotel asset management can be introduced
- Business fields of hotel asset management
- Required skill-set for hotel asset managers
- Frameworks used for hotel asset management
- Real Estate Investment Structure and asset valuation methods

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ホテルアセットマネジメントとは何か
- i.そもそも、アセットマネジメントとは何か
 - ii.ホテルアセットマネジメントとは何か
 - iii.どんな会社があるか

- iv.ホテル・マネジメント・トライアングル
- v.ホテルアセットマネジメントの目的
- vi.「ホテルコンサルタント」との違い
- vii.サービス・プロフィットチェーン

【2】:ホテル事業における運営・経営・所有の分離

- i.ホテル経営ストラクチャーの類型
- ii.MC 主流の世界趨勢に対してガラパゴス島化していた日本
- iii.オペレーターとオーナーの利益相反関係
- iv.ホテルアセットマネジメントが成り立つ経営環境

【3】:ホテルアセットマネジャーの帰属先と守備範囲

- i.オーナーはそもそも何故ホテルに投資をしているのか
- ii.ホテル投資理由とホテルアセットマネジメント方針
- iii.雇用主は誰か
- iv.守備範囲

v.必要な資質は何か

vi.個人か、法人か

【4】:ケーススタディ 1: ゲストスピーカー 1

- i.ホテル REIT のアセットマネジャー

【5】:ユニフォーム会計

- i.会計とは何か
- ii.管理会計とは何か
- iii.管理会計は何故必要か
- iv.ユニフォーム会計(米国ホテル会計基準)
- v.日本における普及状況と阻害要因

【6】:KPI 分析

- i.Key Performance Indicator とは何か
- ii.KPI の重要性
- iii.主要な KPI

【7】:予算管理

- i.予算作成の重要性
- ii.予算作成方法(経費率方式、積上げ方式、前年踏襲方式)
- iii.予算承認プロセス
- iv.予実管理と軌道修正

【8】:ケーススタディ 2: ゲストスピーカー 2

- i.私募投資ファンドのホテルアセットマネジャー

【9】:マーケティングレビュー

- i.マーケティングとは何か
- ii.ターゲット顧客認識
- iii.需要把握と商品造成
- iv.ゲストミックスと売上構成%
- v.チャンネルミックス
- vi.競合先認識とポジショニング
- vii.リポジショニング

【10】:修繕・改装・リブランディング

- i.「経年劣化」と「時代遅れ」の違い
- ii.長期修繕計画
- iii.リノベーション
- iv.ケーススタディ:ユニットバス更新投資判断
- v.資金手当
- vi.リブランディング

【11】:ファイナンス

- i.資金調達とは何か
- ii.エクイティとデットの違い
- iii.デットファイナンス
- iv.レバレッジ効果
- v.リファイナンス

- vi.エクイティファイナンス
- vii.現金勘定
- 【12】:コンプライアンスとリスクマネジメント
- i.何故、コンプライアンスは重要か
- ii.ホテル事業における主な適用法令
- iii.コンプライアンス手法
- iv.リスクとは何か
- v.リスクマネジメント手法
- vi.保険

- 【13】:買収と売却
- i.ホテル買収における手順、留意点
- ii.ホテル売却における手順、留意点
- 【14】:ホテルアセットマネジメントとは何か(2)
- i.実務経験から語れること
- ii.Above GOP, Below GOP
- iii.必須スキルセットの整理
- iv.キャリアパス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 小テスト:30% 期末レポート:40%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910

参考文献 / Readings

仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信 ホテル・ビジネス・ブック第2版 中央経済社 2016 9784502181412

日本ホスピタリティ・アセットマネージャー協会(HAMA Japan) 資産価値向上のためのホテルアセットマネジメント実務資料集 総合ユニコム 2023 9784881507735

グレッグ・デントン他 ホテルアセットマネジメント 立教大学出版会 2014 9784901988261

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

その他 / Others

- ・講義資料は毎回指導教員によって作成・配布され、その資料は講義中にプロジェクターで表示される
- ・知識の定着および思考能力の向上を目指し、毎回受講生からのリアクションペーパー提出もしくは小テストの実施を行なう。次回講義にて指導教官が受講生からの回答に解説を加えることで、インタラクティブなクラス運営を目指す
- ・講義内容には会計およびファイナンス分野の知識が必要となる部分があるが、未履修者向けの説明を加える
- ・本講受講にあたり、HA352 宿泊産業論の事前受講を推奨する(必須ではない)

旅行産業論

Travel Industry

(前半)旅行産業の現状と課題、環境変化への対応、将来展望の考察

(後半)未来のツーリズムと新たなビジネスチャンスの提示

風間 欣人(KAZAMA YOSHIHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA387
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

将来、旅行産業・ツーリズム産業における経営者や中核的な役割を担う「人財」を育てることを目指し、この講義では業界の現状と課題、環境変化への対応、将来への展望を深く学びます。しかし、この講義の真の魅力は、それだけに止まりません。

業界の第一線で活躍する事業責任者や実務責任者が、実際の現場の経験に基づいたメッセージを直接皆さんに届けます。リアルな視点で語られる「ビジネスの面白さ」や「情熱」は、教科書では得られない貴重な学びとなるでしょう。

更にこの講義では、就職活動や今後の社会人としての必要不可欠な心得や考え方も学びます。単なる知識の吸収にとどまらず、皆さんのキャリアや人生に直結する実践的な学びを体得できます。

さあ、一緒に旅行産業・ツーリズム産業の新しい可能性を探求し、未来を切り開く力を養いましょう。

あなたの挑戦が、次世代のツーリズム業界の未来を形作る一歩となるはずです。

This course is designed to cultivate "Human Resources" who will take on managerial and key roles in the travel and tourism industry in the future. Participants will gain in-depth knowledge of the current challenges and opportunities, responses to environmental changes, and future prospects of the industry.

However, the true value of this course lies beyond just theoretical learning.

Executives and core personnel actively working on the frontlines of the industry will share firsthand messages directly with you, based on their real-world experiences. Their perspectives on the "excitement" and "passion" of the business will provide invaluable insights that cannot be found in textbooks.

Additionally, this course offers participants the opportunity to learn essential mindsets and approaches for successful job hunting and thriving as a professional in the future.

You will not only acquire knowledge but also gain practical learning that directly connects to your career and life.

Let us explore the new possibilities of the travel and tourism industry together and develop the skills to shape its future. Your participation in this course will be the first step toward creating the next generation of tourism innovation.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、旅行産業・ツーリズム産業が直面する市場環境の変化と、それに対応するための具体的な事業戦略を深く掘り下げていきます。単なる理論ではなく、業界のリアルな現場から得られる事例や最新のデータを基に、未来のツーリズムを形作るヒントを探求します。

コース前半では、日本最大の旅行会社である(株)JTBを中心としたJTBグループの経営者や実務責任者が登壇し、ポストコロナ時代の新たな潮流とビジネスチャンスを解説します。JTBグループの具体的な事例を通じて、業界の現状、課題、そして将来への展望を学びます。業界の第一線で活躍する事業責任者のリアルな視点は、教科書では得られない刺激的な学びとなるでしょう。

コース後半では、「未来のツーリズムと新たなビジネスチャンスの提示」をテーマに、ツーリズムの可能性を更に広げます。アドベンチャー、スポーツ、トンネル、食、エンターテインメントなど、周辺産業や地域資源との掛け合わせによって生まれる新しい観光の形を探求します。この視点から、ツーリズムの裾野の広さや地域課題を解決する可能性について考えます。講義では、新たな視点が得られるようユニークな事例や最新のビジネストrendを紹介しします。

注：ゲスト講師の都合により、登壇者・講義の内容が変更、または順番が前後する場合があります。

This course delves deeply into the changing market environment of the travel and tourism industry and the specific business strategies needed to address these changes. Rather than focusing solely on theory, the course explores insights and ideas for shaping the future of tourism business through real-world examples and the latest data from the industry.

In the first half of the course, executives and key personnel from the JTB Group, led by Japan's largest travel company, JTB Corp, will deliver lectures. They will provide in-depth explanations of emerging trends and business opportunities in the post-COVID era.

Through specific case studies from the JTB Group, participants will gain insights into the current state of the industry, its challenges, and prospects for the future. The firsthand perspectives of business leaders actively working at the forefront of the industry will offer a stimulating and unique learning experience that cannot be obtained from textbooks. The second half of the course, titled "Future Tourism and New Business Opportunities," will broaden participants' perspectives on the potential of tourism. It will explore how combining tourism with various peripheral industries and local resources—such as adventure, sports, guided tours in the famous tunnels, food, and entertainment—can create new opportunities. Participants will learn about the broad scope of tourism and examine how such combinations can address regional challenges and create innovative solutions. The lectures will introduce unique examples and the latest business trends to inspire fresh perspectives.

Note; The speakers and lecture content may be subject to change or rescheduling depending on the availability of guest lecturers.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

観光学部 観光学科 特任教授 風間 欣人

【2】: ツーリズム事業(個人旅行・店頭販売)

株式会社 JTB 執行役員 ツーリズム事業本部 顧客戦略担当 小林 美江子

【3】: ツーリズム事業(法人旅行・教育旅行・地域交流事業)

株式会社 JTB 代表取締役兼専務執行役員 ツーリズム事業本部長 花坂 隆之

【4】: ツーリズム事業(オンライントラベル・Web販売)

株式会社 JTB 執行役員 ツーリズム事業本部 Web 戦略担当

国内旅行ビジネスモデル改革担当 池口 篤志

【5】: エリアソリューション事業(エリア開発・着地型事業)

株式会社 JTB 取締役兼常務執行役員 エリアソリューション事業部長 森口 浩紀

【6】: アドベンチャー×ツーリズム(アドベンチャーツーリズムによる地域活性化)

一般社団法人日本アドベンチャーツーリズム協議会 業務執行理事

株式会社 JTB 総合研究所 主席研究員 山下 真輝

【7】: ビジネスソリューション事業(法人ソリューション)

株式会社 JTB 取締役兼専務執行役員 ビジネスソリューション事業本部長 大塚 雅樹

【8】: ビジネスソリューション事業(ビジネストラベル)

株式会社 JTB ビジネストラベルソリューションズ

代表取締役社長執行役員 原田 雅裕

【9】: 訪日インバウンド事業

株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル

代表取締役社長執行役員 石田 恒夫

【10】: スポーツ×ツーリズム(スポーツ・ツーリズム)

株式会社 JTB ツーリズム事業本部 スポーツ・エンタテインメント共創部長 久家 実

【11】: トンネル×ツーリズム(トンネルからインフラツーリズム、地域活性化へ)

一般財団法人地域活性化センター フェロー

トンネルツーリズムプランナー 花田 欣也

【12】: 食×ツーリズム (ガストロノミー・ツーリズムによる地域活性化)

ガストロノミーツーリズム研究所 CEO 杉山 尚美

【13】: エンターテインメント×ツーリズム(エンターテインメント手法を用いた地域活性化)

株式会社ポニーキャニオン エリアアライアンス部 部長 村多 正俊

【14】:理解度の確認
観光学部 観光学科 特任教授 風間 欣人

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に随時指示・紹介する

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%
平常点割合 :50% 出席・授業への取り組み:30% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

立教大学観光学部旅行産業研究会 旅行産業論(改訂版) 公益財団法人日本交通公社 2019 9784902927818
福本賢太・田中祥司 観光ビジネスの新展開 未来を切り拓く旅行会社 晃洋書房 2024 9784771037939

その他 / Others

※実業界の第一線で活躍するゲスト講師による、パワーポイントを使用した講義が中心となります
※ゲスト講師の都合により、登壇者・講義の内容が変更、または順番が前後する場合があります

経営財務論

Management Finance

野田 健太郎 (NODA KENTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA389
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、経営財務に関する多様な視点から企業分析を試みることにより、企業の財務諸表の見方や経営理論の基礎知識を習得し、実際の企業の分析力を高めることを目標とする。

This course aims for students to learn how to examine corporate financial statements and to acquire basic knowledge on management theory by attempting to analyze companies from diverse managerial/financial-related perspectives, thereby improving their ability to analyze actual companies.

授業の内容 / Course Contents

授業では、企業の財務諸表の見方、経営理論、分析手法などについて解説する。

その際、実際の具体企業事例、ニュース、話題を取り上げながら進めていく。

後半では、連結財務管理、CSR、リスクマネジメント、コーポレートガバナンスなど、経営財務に関する比較的新しいトピックについても解説していく。

This course covers ways to examine corporate financial statements, management theory, and analysis methods, among other topics. Case examples of companies, news reports, and various other relevant topics are discussed. The latter half of the course covers relatively recent topics related to management and finance, such as consolidated financial management, corporate social responsibility (CSR), risk management, and corporate governance.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 企業の財務諸表と財務データの活用について解説を行う。
- 【3】: 企業の収益性分析について解説を行う。
- 【4】: 企業の安全性分析について解説を行う。
- 【5】: 企業のキャッシュフロー分析について解説を行う。
- 【6】: 企業のマクロ環境分析・セグメント分析について解説を行う。
- 【7】: 企業の価値関連情報について解説を行う。
- 【8】: 企業の審査について解説を行う。
- 【9】: 企業のCSRについて解説を行う。
- 【10】: 企業のリスクマネジメントについて解説を行う。
- 【11】: 企業のコーポレートガバナンスについて解説を行う。
- 【12】: 企業のCSR 報告書、統合報告書について解説を行う。
- 【13】: まとめ
- 【14】: 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に必要な情報収集を指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度(課題提出状況などを含む):60% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443817 3034

講義中に資料を配布する。

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034

講義中に紹介する。

旅行産業演習1(A)

Travel industry seminar 1(A)

2階建てオープントップバス「スカイバス」を使ったバスツアー商品企画・販売促進策の策定及びウォーキングツアーの商品企画

風間 欣人(KAZAMA YOSHIHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA393
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

新型コロナウイルスという未曾有の試練を乗り越えた今、ツーリズム業界はかつてないスピードで新しい未来に向けて動き出しています。その現場では、課題も多く残されている一方で、斬新で魅力的な可能性が次々と生まれています。この演習では、ツーリズムの「課題」と「可能性」に焦点を当てながら、旅行商品企画を学びます。

皆さんが主体となり、実際のバスツアーの企画・販売促進に挑戦することで、リアルなツーリズム業界の課題解決に取り組む楽しさや遣り甲斐を体感できます。この体験を通じて、これからの時代を生き抜くために必要な「実践的な思考力」、グループでのディスカッションを通じて磨かれる「柔軟な対応力」「コミュニケーション力」など、社会で活躍するための力も自然と身につけていきます。

未来の観光を形作る担い手としての第一歩を、ここから一緒に踏み出し、仲間とアイデアをぶつけ合いながら、学びの楽しさと刺激にあふれた時間を共有しましょう。

In the wake of the unprecedented challenges posed by COVID-19, the tourism industry is now moving toward a new and dynamic future at an unprecedented pace. While many issues remain unresolved in the field, new and exciting opportunities continue to emerge.

This course focuses on both the "challenges" and "possibilities" within the tourism industry, with an emphasis on learning how to develop travel product concepts. By taking on the challenge of planning and promoting actual bus tours, participants will experience the enjoyment and fulfillment of tackling real-world challenges in the tourism industry.

Through these experiences, participants will naturally develop essential skills for thriving in today's changing world, including "practical thinking abilities," "adaptability," and "communication skills," which are further cultivated through group discussions.

Let's take the first step together as pioneers shaping the future of tourism, exchanging ideas with group members and sharing a stimulating and enjoyable learning experience.

授業の内容 / Course Contents

ツーリズム産業は、今まさに新たな挑戦と可能性に満ちています。特に、コロナから復活し、観光が社会課題を解決する重要な手段として注目されています。この演習では、「社会課題の解決手段としての観光(訪日インバウンドも含む)」をテーマに、グループで一緒に考えていきます。グループで旅行商品の企画、販売促進のアイデアを出し合い、観光による社会課題解決の方法を探ります。

演習は、次の3つのステップで進行します:

- ・講義:ツーリズム業界の現状や、商品企画・販売促進にどう取り組むかの具体例を学びます。
- ・グループディスカッション:少人数でグループ討議を行い、アイデアを形にしていきます。

・発表・講評:グループごとに考えたアイデアを発表し、現場のプロから直接貴重なフィードバックを受けます。企画が一定のレベルに達した場合、実際の商品として販売される予定です。

具体的には、東京都内の2階建てオープントップバス「スカイバス」を使ったナイトタイムエコノミーを活性化するための旅行商品企画及び「スカイホップバス」(乗り降り自由の観光バス)の途中下車ウォーキングツアーの商品企画などを検討します。これらのテーマは、東京の夏の猛暑対策や、ナイトタイムエコノミーの活性化という社会的な課題解決にも繋がります。

更に、この演習では、実際に自分たちが考えた商品を「市場に販売できるレベル」にまで仕上げます。販売が決まった場合、SNSなどを活用した販売促進策のアイデア出しを行います。また、ウォーキングツアーについては、ツアーガイドとして実際に業務を行うインターンシップの機会もあります。

加えてチームワークやプレゼンテーション力など、将来ビジネスパーソンとして必要なスキルも身につけることができます。4月20日(日)午後(13:00-19:00)には、ウォーキングツアーやスカイバスの夜間コースを実際に体験するフィールドワークがあります。この貴重な体験を通じて、実際の現場を直に感じるできるので、ぜひ積極的に参加して下さい。

注:秋学期科目「旅行産業演習1(B)」を連続して履修することが前提となります。

The tourism industry is currently brimming with new challenges and possibilities. Following its recovery from the COVID-19 pandemic, tourism is increasingly recognized as a vital means of addressing societal issues. This course will explore the theme of "tourism as a means to address social challenges (including Japan's inbound tourism sector)", encouraging participants to collaboratively develop ideas and strategies.

Participants will work in groups to design and promote travel products, focusing on innovative ways to address societal issues through tourism.

The course progresses through three key steps:

-Lectures: Gain foundational knowledge about the current state of the tourism industry, including practical examples of product development and promotional strategies.

-Group Discussions: Collaborate in small groups to exchange ideas and develop them into actionable plans.

-Presentations and Feedback: Share your group's ideas with the class and receive valuable feedback directly from industry professionals. If the proposed plans meet the required standards, they are expected to be launched as actual travel products available for sale.

Specific projects include developing travel product concepts to revitalize Tokyo's nighttime economy using double-decker open-top buses (Sky Buses) and designing hop-on-hop-off walking tours for Sky Hop Buses. These initiatives aim to address social challenges such as enhancing the nighttime economy and mitigating the impacts of Tokyo's intense summer heat.

Furthermore, this course will guide participants in refining their proposed products to a level suitable for commercialization and market introduction. If a product is selected for market launch, participants will brainstorm sales promotion strategies, including leveraging social media for marketing. Additionally, for the walking tours, there will be internship opportunities for participants to serve as tour guides.

Through these activities, participants will also develop essential skills for future business professionals, such as teamwork and presentation abilities.

On Sunday, April 20 (13:00-19:00), participants will have the opportunity to engage in fieldwork, including experiencing a walking tour and a nighttime course on the Sky Bus.

Through this invaluable experience, you will have the opportunity to directly engage with the real-world tourism field, so your participation is highly encouraged.

Note: Participants are required to take the fall semester course "Travel Industry Seminar 1 (B)" consecutively.

授業計画 / Course Schedule

【1】:講義:ガイドンス、訪日インバウンドの概要、スカイバス・スカイホップバスの事業 概要説明

観光学部 観光学科 特任教授 風間 欣人

スカイホップバスマーケティングジャパン株式会社 実務責任者

【2】:講義:ツアーの商品企画について

株式会社羅針盤 代表取締役 CEO 佐々木 文人

【3】:グループ討議:ウォーキングツアーの商品企画

【4】:グループ討議:ウォーキングツアーの商品企画

【5】:グループ討議:ウォーキングツアーの商品企画

【6】:発表:ウォーキングツアーの商品企画

株式会社羅針盤 代表取締役 CEO 佐々木 文人

スカイホップバスマーケティングジャパン株式会社 実務責任者

【7】:グループ討議:スカイバスの商品企画、販売促進策

- 【8】:グループ討議:スカイバスの商品企画、販売促進策
 【9】:グループ討議:スカイバスの商品企画、販売促進策
 【10】:グループ討議:スカイバスの商品企画、販売促進策
 【11】:中間発表:スカイバスの商品企画、販売促進策の発表とレビュー
 スカイホップバスマーケティングジャパン株式会社 実務責任者
 【12】:グループ討議:スカイバスの商品企画、販売促進策
 【13】:グループ討議:スカイバスの商品企画、販売促進策
 【14】:最終発表:スカイバスの商品企画、販売促進策の発表
 スカイホップバスマーケティングジャパン株式会社 実務責任者

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義やフィールドワークで得た情報を基に、グループで自主的に課題を進めることが求められます

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・活動状況とグループ討議や発表での主体性・貢献度:100%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用しますので、授業にはPC またはタブレット等を持参のうえ受講して下さい

その他 / Others

講義内容が前後する場合があります

旅行産業演習1(B)

Travel industry seminar 1(B)

～株式会社ポニーキャニオンとの共創～歴史とエンターテインメントの融合による観光まちづくり

風間 欣人(KAZAMA YOSHIHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA394
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

新型コロナウイルスという未曾有の試練を乗り越えた今、ツーリズム業界はかつてないスピードで新しい未来に向けて動き出しています。その現場では、まだ多くの課題が残る一方で、新しい可能性が次々と生まれています。この演習では、その「課題」と「可能性」に光を当て、歴史的資源とエンターテインメントの魅力を組み合わせた観光まちづくりを楽しく学びます。皆さんが主体となって、実際の地域課題に取り組むことで「変化の時代を生き抜くための実践的な考え方」を、さらに、グループで意見を交わしながら、社会人として必須のスキルである「柔軟な対応力」や「コミュニケーション力」も自然と磨かれていきます。未来のツーリズム業界をリードする一歩を、ここから一緒に始めましょう。楽しく、そして刺激的な学びの時間を届けます。

In the wake of the unprecedented challenges posed by COVID-19, the tourism industry is now moving toward a new and dynamic future at an unprecedented pace. While many issues remain unresolved on the ground, new and exciting possibilities continue to emerge. This course highlights both the "challenges" and the "opportunities" in tourism, offering an enjoyable learning experience centered on tourism-based community development that combines the appeal of historical resources with entertainment.

Participants will take the lead in addressing real-world regional issues, gaining "practical thinking skills" essential for navigating an era of constant change. Through group discussions, you will naturally refine essential skills for professionals, including "flexibility" and "communication skills," while exchanging ideas with your group members. Let us take the first step together toward leading the future of the tourism industry. This course offers a learning experience that is both enjoyable and inspiring, filled with stimulating opportunities to explore and grow.

授業の内容 / Course Contents

「戦国歴史ブーム」が盛り上がっています。「お城 EXPO」や歴史学者による講演、多彩なイベントや書籍、さらには WEB コンテンツなど、戦国史にまつわるマーケットが急成長中です。その影響で、全国に点在する戦国ゆかりの歴史資源(城跡・神社仏閣など)には多くの人々が訪れ、観光地としての活気を取り戻しています。これらは、従来のインバウンド観光とは一味違う、新しい観光のカタチを作り出しています。

そして、2026 年には大河ドラマ「豊臣兄弟！」がスタートします。戦国時代を統一した豊臣秀吉の実弟で、陰ながら彼を支えた「豊臣秀長」を主人公にした、刺激的なドラマが幕を開けます。この豊臣秀長ゆかりの地が奈良県大和郡山市。ここを舞台に、皆さんと一緒に地域資源を活かした観光事業の可能性を探っていきましょう。

本演習では、以下の 3 つのステップを通じて、実践的な学びを提供します。

- ・講義:戦国史や大和郡山市の観光に関する知識を深め、具体的な事例を学びます。
- ・グループ討議:少人数でグループ討議を行い、アイデアを形にしていきます。
- ・発表・講評:グループによるプランを発表。株式会社ポニーキャニオンの現場のプロや地域関係者から直接貴重なフィードバックを受けます。

本演習は、株式会社ポニーキャニオン・エリアアライアンス部の協力を得て進めます。過去の事例にとどまらず、リアルタイムで現実の課題に取り組みます。テーマは「歴史×エンターテインメント」。大和郡山市歴史アンバサダーであり数々の大河ドラマの歴史考証を担当した平山優氏の参画も仰ぎ、大和郡山市の観光まちづくりプランを策定し、実際に大和郡山市の関係者にプレゼンテーションを行います。これにより、チームワーク力やプレゼンテーション力といった、将来に役立つ実践的なスキルも磨きます。そして、現地でのフィールドワークを行います。2025年11月8日(土)～11月9日(日)(予定)大和郡山市を訪れ、現地の歴史資源に直接触れる体験型の学びを予定しています。歴史の息吹を感じながら、自らのプランをブラッシュアップする絶好の機会となりますので、ぜひ積極的に参加して下さい。さあ、戦国時代の魅力を存分に楽しみながら、未来の観光を共に創造して行きましょう。

The “Sengoku History Boom” is in full swing. Events like the “Castle EXPO,” lectures by historians, a wide range of activities and publications, and even web-based content are driving rapid growth in the Sengoku history market. As a result, historical resources associated with the Sengoku period, such as castle ruins, shrines, and temples across Japan, are attracting numerous visitors, revitalizing these sites as vibrant tourist destinations. This trend represents a fresh and unique form of tourism, distinct from traditional Japan inbound travel.

In 2026, the Taiga drama (Historical drama) “The Toyotomi Brothers!” will debut, focusing on Toyotomi Hidenaga, the younger brother of Toyotomi Hideyoshi, who unified Japan during the Sengoku period. This exciting drama sheds light on Hidenaga’s behind-the-scenes support of his brother. Nara Prefecture’s Yamato Koriyama City, deeply connected to Hidenaga, serves as the stage for this course, where we will explore the potential of tourism businesses leveraging local resources.

This course provides practical learning through the following three steps:

- Lectures: Gain an in-depth understanding of Sengoku history and tourism in Yamato Koriyama City, including concrete examples.
- Group Discussions: Collaborate in small groups to exchange ideas and develop them into actionable plans.
- Presentations and Feedback: Present your group’s plan and receive valuable feedback directly from professionals at Pony Canyon Inc. and local stakeholders in Yamato Koriyama City.

This course is conducted in collaboration with the Area Alliance Division of Pony Canyon Inc. By tackling real-world challenges in real time, participants will work on the theme of “History × Entertainment.” With the participation of Mr. Yu Hirayama, a Yamato Koriyama City History Ambassador and a historical consultant for many Taiga dramas, participants will create tourism development plans for the city. These plans will be presented to stakeholders in Yamato Koriyama City, offering a unique opportunity to refine teamwork and presentation skills, both critical for your future careers.

Additionally, the course includes fieldwork in Yamato Koriyama City, scheduled for November 8 (Saturday) to November 9 (Sunday), 2025 (tentative).

Participants will engage in experiential learning, directly exploring local historical resources and refining your plans while immersing yourselves in the rich history of the area.

As this is an excellent opportunity to enhance your plans, active participation in the fieldwork is highly recommended.

Let us delve into the captivating world of the Sengoku period and collaboratively shape the future of tourism.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス及び講義

観光学部 観光学科 特任教授 風間 欣人

株式会社ポニーキャニオン エリアアライアンス部 部長 村多 正俊

【2】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【3】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【4】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【5】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【6】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【7】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【8】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【9】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【10】: 中間発表: 大和郡山市の観光まちづくりプラン提言とレビュー

株式会社ポニーキャニオン エリアアライアンス部 部長 村多 正俊

【11】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【12】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【13】: グループ討議: 大和郡山市の観光まちづくりプラン

【14】: 最終発表: 大和郡山市の観光まちづくりプラン提言

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義やフィールドワークで得た情報を基に、グループで自主的に課題を進めることが求められます

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・活動状況とグループ討議や発表での主体性・貢献度:100%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

戦国史関連の書籍、大和郡山市観光ガイド、大河ドラマ特集資料などを随時紹介

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用しますので、授業にはPC・タブレット等を持参して下さい

その他 / Others

本演習を通じて、日本のツーリズム産業が抱える社会課題への理解を深めるとともに、歴史とエンターテインメントを基軸とした地域活性化の可能性を模索します。

「歴史的価値×エンターテインメント」が生み出す未来を皆さんと共に描いていきましょう。

宿泊産業演習1(A)

Lodging Industry Seminar 1(A)

沢柳 知彦(SAWAYANAGI TOMOHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA395
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・ホテル経営に興味を持つ学部生を対象とし、主に星野リゾートに関する記事・開示資料の読解を通じて、日本における宿泊施設経営課題ならびに欧米流の経営手法を学ぶ
- ・学部生のうちから MBA 的フレームワークに触れることで、単に業務をこなすだけではない、経営学視点を身に付ける
 - This course is designed for undergraduate students who are interested in hotel management, and focuses on hotel management issues in Japan, and management methods adopted by international hotel operators, through reading articles and disclosure documents regarding Japanese blue-chip lodging companies, especially Hoshino Resorts.
 - Participants are expected to touch on frameworks used in a MBA course and to acquire viewpoints of a manager, rather than just a rank-and-file.

授業の内容 / Course Contents

- ・レクチャー、グループワーク、プレゼンテーション、業界のプレイヤーを招いてのゲストスピーカー講話と質疑応答を織り交ぜ、宿泊事業経営における実学を学ぶ
- This course consists of lectures, group works, presentations, and guest speaker sessions with Q&A dialogue to learn real business issues of lodging business.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:自己紹介とプレゼンテーションスキル確認
- 【3】:マーケティング1
- 【4】:マーケティング2
- 【5】:マーケティング3
- 【6】:ゲストスピーカー1
- 【7】:テクノロジー1
- 【8】:テクノロジー2
- 【9】:人材管理1
- 【10】:人材管理2
- 【11】:ゲストスピーカー2
- 【12】:損益管理1
- 【13】:損益管理2
- 【14】:星野リゾートトリート開示資料1

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質疑応答:40% 小テスト:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・資料の読み合わせやグループワークなどが多いため、毎回出席し、発言することが期待されている
- ・欠席の際は、必ず指導教員に連絡をいれること
- ・指導教員に指示された課題を調べるため、スマートフォンもしくはノートパソコンの持参が推奨される
- ・受講生の理解進捗度に応じ、授業計画の順番は前後もしくは変更されることがある

宿泊産業演習1(B)

Lodging Industry Seminar 1(B)

沢柳 知彦(SAWAYANAGI TOMOHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA396
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・ホテル経営に興味を持つ学部生を対象とし、主に星野リゾートに関する記事・開示資料の読解を通じて、日本における宿泊施設経営課題ならびに欧米流の経営手法を学ぶ
- ・学部生のうちから MBA 的フレームワークに触れることで、単に業務をこなすだけではない、経営学視点を身に付ける
 - This course is designed for undergraduate students who are interested in hotel management, and focuses on hotel management issues in Japan, and management methods adopted by international hotel operators, through reading articles and disclosure documents regarding Japanese blue-chip lodging companies, especially Hoshino Resorts.
 - Participants are expected to touch on frameworks used in a MBA course and to acquire viewpoints of a manager, rather than just a rank-and-file.

授業の内容 / Course Contents

- ・レクチャー、グループワーク、プレゼンテーション、業界のプレイヤーを招いてのゲストスピーカー講話と質疑応答を織り交ぜ、宿泊事業経営における実学を学ぶ
- This course consists of lectures, group works, presentations, and guest speaker sessions with Q&A dialogue to learn real business issues of lodging business.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 星野リゾートリート開示資料2
- 【2】: 星野リゾートリート開示資料3
- 【3】: リート投資選好
- 【4】: ゲストスピーカー1
- 【5】: 星野リゾートリート保有物件研究1
- 【6】: 星野リゾートリート保有物件研究2
- 【7】: 星野リゾートリート保有物件研究3
- 【8】: 星野リゾートリート保有物件研究4
- 【9】: 星野リゾートリート保有物件研究5
- 【10】: ゲストスピーカー2
- 【11】: グループワーク1
- 【12】: グループワーク2
- 【13】: グループワーク3
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質疑応答:40% 小テスト:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・資料の読み合わせやグループワークなどが多いため、毎回出席し、発言することが期待されている
- ・欠席の際は、必ず指導教員に連絡をいれること
- ・指導教員に指示された課題を調べるため、スマートフォンもしくはノートパソコンの持参が推奨される
- ・受講生の理解進捗度に応じ、授業計画の順番は前後もしくは変更されることがある

旅行産業演習2(A)

Travel industry seminar 2(A)

訪日インバウンド向け旅行商品「サンライズツアー」企画造成

風間 欣人(KAZAMA YOSHIHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA397
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

コロナ前を大きく上回る勢いで成長を続けている訪日インバウンド事業。その最前線では、期待と課題が交錯しながらも、新たな可能性が次々と生まれています。本演習では、このダイナミックな現場のリアルに触れ、実務を通じて課題解決の方法や新しいアプローチを自ら考える力を身につけます。

単なる知識の習得ではなく、実際の演習課題に取り組むことで、「環境変化に対応できる実践的な視点」と「柔軟な思考力」を育むことを目指します。さらに、チームで協力しながら進める実践的なグループワークや発表を通じて、社会人として不可欠な「コミュニケーション力」や「問題解決力」も自然と磨かれていきます。

未来のツーリズム業界をリードするスキルと視点を体得する実践的で刺激的な学びの時間を一緒に創り上げましょう。

This course is designed to engage participants in the dynamic and rapidly growing field of Japan's inbound tourism sector, which has surpassed pre-pandemic levels.

Amidst this growth, the industry faces a mix of challenges and opportunities, with new possibilities emerging constantly. Participants will engage directly with these realities through hands-on exercises and practical work, cultivating the ability to think critically and develop innovative solutions to real-world issues. Rather than focusing solely on theoretical knowledge, this course emphasizes experiential learning, helping participants acquire "practical perspectives" and "adaptable thinking" to thrive in a changing environment.

Additionally, through collaborative group work and presentations, participants will naturally strengthen communication skills and problem-solving abilities, both of which are essential for professional success.

This course offers an exciting and practical learning experience that equips participants with the skills and perspectives needed to lead the future of the tourism industry.

Let us come together to create a dynamic and stimulating learning experience, where you cultivate the practical skills and perspectives needed to lead the future tourism industry.

授業の内容 / Course Contents

訪日インバウンドは、コロナ前を超える過去最高の人数・消費額を記録し、今や我が国のツーリズムの最前線で取り組むべき最重要テーマとなっています。本演習では、その中核を担う「訪日インバウンド向け旅行商品企画」に挑戦し、実際の企画・造成・販売促進のプロセスを体験します。目標は、マーケットに実際に販売できるレベルの旅行商品を生み出すことです。

特に、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の訪日インバウンドの3つのキーワードを主軸とした新しい発想の企画開発に取り組めます。皆さんは、株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル(以下 JTB GMT)の指導のもとで訪日・在日外国人向けの着地型パッケージツアー「SUNRISE TOURS(サンライズツアー)」の新コースを企画造成し、販売促進プランも作成します。企画が一定のレベルに達した場合、実際の商品として海外の旅行代理店や JTB GMT のグローバル販売サイトで販売される予定です。この実践的なプロジェクトを通じて、単なる学びを超えた「リアルな

成果」を目指します。

さらに、ビジネスパーソンとして必要なチームワーク力やプレゼンテーション力も、実際のプロジェクトを進めながら自然と身につけることができます。

5月25日(日)には JTB GMT の協力のもと、サンライズツアーの日帰りコース「富士箱根ツアー」に訪日外国人・在日外国人と共に参加するフィールドワークを実施します。リアルな現場を体験する貴重な機会です。また7月(予定)には 訪日インバウンド向けナイトタイムエコノミーコンテンツを体験するフィールドワーク(都内日帰り)を実施予定です。

これらのフィールドワークでは、実際の現場に触れ、皆さんの企画をより磨き上げる絶好のチャンスとなります。ぜひ積極的に参加して下さい。

この演習は、単なる観光業界についての学びに留まらず、次世代の観光を形作る革新的な力を養う場です。自身のアイデアが世界中の旅行者を惹きつけ、新しい価値を生み出す瞬間を、この演習で体感して下さい。皆さんの挑戦が、未来の訪日インバウンドの形を創り出します。さあ、一緒に刺激的で実践的な学びの旅を始めましょう。

注:秋学期科目「旅行産業演習2(B)」を連続して履修することが前提となります。

Inbound tourism to Japan has surpassed pre-COVID levels, achieving record-breaking visitor numbers and expenditure, and has now become one of the most critical priorities at the forefront of the nation's tourism sector. This course focuses on "Inbound Travel Product Planning," offering participants a hands-on experience in planning, developing, and promoting travel products. The ultimate goal is to create market-ready travel products that can be launched and sold to real customers.

The course is structured around three key themes: sustainable tourism, increasing visitor spending, and attracting tourists to regional destinations. Under the guidance of professionals from JTB Global Marketing & Travel Inc (hereafter JTB GMT), participants will plan and develop new courses for "SUNRISE TOURS," Japan's most renowned English-guided package tour for inbound and resident foreign travelers, and also create promotional strategies to support their marketing efforts. If the proposed courses meet the required standards, they will be launched as actual travel products, available for sale through overseas travel agencies and JTB GMT's global sales platform.

This practical project goes beyond traditional learning by emphasizing tangible outcomes. Participants will not only gain valuable insights into product development but also hone critical teamwork and presentation skills essential for success in the professional world.

On Sunday, May 25, participants will join a one-day "Fuji-Hakone Tour" offered by SUNRISE TOURS, experiencing the tour firsthand alongside inbound and resident foreign travelers. This fieldwork provides a valuable opportunity for you to experience the realities of the tourism industry firsthand.

In July (tentative), the second fieldwork session will focus on nighttime economy content for inbound tourists in Tokyo. These fieldwork experiences offer invaluable opportunities for you to engage directly with the real-world tourism field while refining your travel product proposals.

Active participation is highly encouraged to maximize your learning outcomes.

This exercise goes beyond merely learning about the tourism industry—it is a platform to cultivate the innovative skills needed to shape the next generation of tourism. Experience the moment when your ideas captivate travelers worldwide and create new value.

Your challenges in this course will help shape the future of inbound tourism in Japan. Let us embark on this exciting, hands-on, and inspiring journey together to craft a new vision for the future of tourism.

Note: Participants are required to take the fall semester course "Travel Industry Seminar 2 (B)" consecutively.

授業計画 / Course Schedule

【1】:講義:ガイダンス、自己紹介、グループ分け、訪日インバウンドの基礎知識(講義)

観光学部 観光学科 特任教授 風間 欣人

【2】:講義:サンライズツアーの概要

株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル レジャー事業本部

エクスペリエンスサプライ部 実務責任者

【3】:講義:サンライズツアーの商品企画造成

株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル レジャー事業本部

エクスペリエンスサプライ部 実務責任者

【4】:グループ討議:サンライズツアーの商品企画造成

【5】:グループ討議:サンライズツアーの商品企画造成

【6】:グループ討議:サンライズツアーの商品企画造成

【7】:講義:フィールドワークの振り返り及びオーバートーリズム対策、サステナビリティを意識した商品作り

株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル レジャー事業本部

エクスペリエンスサプライ部 実務責任者

【8】:グループ討議:サンライズツアーの商品企画造成
 【9】:グループ討議:サンライズツアーの商品企画造成
 【10】:グループ討議:サンライズツアーの商品企画造成
 【11】:中間発表:サンライズツアーの商品企画造成案発表とレビュー
 株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル レジャー事業本部
 エクスペリエンスサプライ部 実務責任者
 【12】:グループ討議:サンライズツアーの商品企画造成
 【13】:グループ討議:サンライズツアーの商品企画造成
 【14】:最終発表:サンライズツアーの商品企画造成案発表
 株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル レジャー事業本部
 エクスペリエンスサプライ部 実務責任者

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義やフィールドワークで得た情報を基に、グループで自主的に課題を進めることが求められます

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・活動状況とグループ討議や発表での主体性・貢献度:100%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用しますので、授業にはPC・タブレット等を持参して下さい

その他 / Others

講義内容が前後する場合があります

旅行産業演習2(B)

Travel industry seminar 2(B)

「臼杵石仏」国宝指定 30 周年をフックとした食文化都市・大分県臼杵市の地域活性化プランの策定

風間 欣人(KAZAMA YOSHIHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA398
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

新型コロナウイルスという未曾有の試練を乗り越えた今、ツーリズム業界はかつてないスピードで新しい未来に向けて動き出しています。その現場では、まだ多くの課題が残る一方で、新しい可能性が次々と生まれています。この演習では、その「課題」と「可能性」に光を当て、観光まちづくりを楽しく学びます。皆さんが主体となって、実際の地域課題に取り組むことで「変化の時代を生き抜くための実践的な考え方」を、さらにグループで意見を交わしながら、社会人として必須のスキルである「柔軟な対応力」や「コミュニケーション力」を自然と身につけていきます。

未来の観光業界をリードする一歩を、ここから一緒に始めましょう。楽しく、そして刺激的な学びの時間を届けます。

In the wake of the unprecedented challenges posed by COVID-19, the tourism industry is now moving toward a new and dynamic future at an unprecedented pace. While many issues remain unresolved on the ground, new and exciting possibilities continue to emerge.

This course shines a light on these “challenges” and “possibilities,” offering an engaging opportunity for you to explore tourism-based community development. Participants will take the lead in addressing real-world regional issues, gaining “practical thinking skills” essential for navigating an era of constant change. Through group discussions, participants will naturally develop key professional competencies such as “adaptability” and “communication skills.”

Together, let us take the first step toward leading the future of the tourism industry.

This course promises a learning experience that is both enjoyable and inspiring, filled with stimulating opportunities for you to explore and grow.

授業の内容 / Course Contents

21 世紀のリーディング産業と言われるツーリズム産業は、新型コロナウイルスという歴史的な試練を乗り越え、より強く前進を続けています。また、観光は国内外が抱える社会課題を解決する手段としても期待され、その役割と可能性はますます注目を集めています。

この演習では、大分県臼杵市を舞台に、観光を通じた地域活性化の可能性を探ります。特に、2025 年 6 月 15 日に「臼杵大仏」が国宝指定 30 周年を迎えるため、その節目を活用し、地域資源と観光の新しい形を模索します。さらに、臼杵市はユネスコの食文化創造都市にも認定されており、食文化と観光を掛け合わせた独自の取り組みが可能です。皆さんと一緒にこの地域資源を活かしたツーリズムの可能性を探っていききたいと思います。

本演習では、以下の 3 つのステップを通じて、実践的な学びを提供します。

- ・講義: 臼杵市の観光事業に関する具体的な事例を学び、基礎知識を身につけ課題の理解を深めます。
- ・グループ討議: 少人数でグループ討議を行い、アイデアを形にしていきます。
- ・発表・講評: グループで考えたプランを発表し、臼杵市の関係者から直接貴重なフィードバックを受けます。

本演習は、過去の事例にとどまらず、リアルタイムで現実の課題に取り組みます。テーマは、「国宝指定 30 周年をフックとした食文化都市・臼杵市の地域活性化」。このテーマに基づき、観光まちづくりのプランを策定し、実際に臼杵市の関係

者に向けてプレゼンテーションを行います。このプロセスを通じて、チームワーク力やプレゼンテーション力など、実社会で役立つスキルも磨かれます。

更に臼杵市を実際に訪れるフィールドワークを2025年10月25日(土)～10月26日(日)(仮)に実施予定です。この体験型の学びを通じ現地の観光資源や食文化に触れ、自らのプランをブラッシュアップする絶好の機会です。ぜひ積極的に参加して下さい。

さあ、臼杵市の魅力を存分に楽しみながら、市の未来の観光を共に創造して行きましょう。

Tourism, recognized as one of the leading industries of the 21st century, has emerged stronger and continues to progress despite the unprecedented challenges posed by the COVID-19 pandemic. Furthermore, tourism is increasingly regarded as an effective tool for addressing social issues both in Japan and globally, with its potential and role receiving growing attention.

This course focuses on the potential of tourism-driven regional revitalization, with Usuki City in Oita Prefecture as its focal point. Notably, June 15, 2025 marks the 30th anniversary of the designation of the "Usuki Stone Buddhas" as a National Treasure, presenting a unique opportunity to leverage this milestone for innovative tourism initiatives. Usuki City is also recognized as a UNESCO's City of Gastronomy, offering exceptional opportunities to integrate food culture with tourism in ways that highlight its distinctive regional assets. Together, we will explore creative possibilities for tourism projects that capitalize on these resources to invigorate the region.

This course provides practical learning through the following three steps:

-Lectures: Gain foundational knowledge and deepen your understanding of Usuki City's tourism initiatives, including specific examples and the challenges they face.

-Group Discussions: Collaborate in small groups to exchange ideas and develop them into actionable plans.

-Presentations and Feedback: Present your group's proposals and receive valuable feedback directly from local stakeholders in Usuki City.

This course goes beyond analyzing past case studies and instead tackles real-world challenges in real time. Centered on the theme of "Regional revitalization of Usuki City as a Gastronomy City, leveraging the 30th anniversary of the National Treasure designation of the Usuki Stone Buddhas", participants will create tourism-based community planning proposals and present them to local stakeholders in Usuki City. Through this process, participants will refine practical skills such as teamwork and presentation abilities, which are essential for success in the real world.

A fieldwork trip to Usuki City is scheduled for October 25-26, 2025 (tentative).

Through this hands-on learning experience, participants will have the invaluable opportunity to explore the region's tourism resources and food culture, refining your proposals while gaining firsthand insights into local attractions.

Active participation in this fieldwork is strongly encouraged to make the most of this unique opportunity.

Let us fully immerse ourselves in the charm of Usuki City and work together to shape the future of its tourism.

授業計画 / Course Schedule

【1】:講義:ガイダンス

観光学部 観光学科 特任教授 風間 欣人

【2】:講義:臼杵市の観光面における現状と課題について

臼杵市関係者

【3】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【4】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【5】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【6】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【7】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【8】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【9】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【10】:中間発表:臼杵市の観光まちづくりプラン提言とレビュー

臼杵市関係者

【11】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【12】:グループ討議:臼杵市の観光まちづくりプラン

【13】:最終発表:臼杵市の観光まちづくりプラン提言

臼杵市関係者

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義やフィールドワークで得た情報を基に、グループで自主的に課題を進めることが求められます

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・活動状況とグループ討議や発表での主体性・貢献度:100%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

臼杵市観光ガイド・資料などを随時紹介

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用しますので、授業にはPC・タブレット等を持参して下さい

その他 / Others

講義内容が前後する場合があります

宿泊産業演習2(A)

Lodging Industry Seminar 2(A)

沢柳 知彦(SAWAYANAGI TOMOHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA399
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・ホテル経営に興味を持つ学部生を対象として、日本におけるホテル開発投資やホテル経営のノウハウを学ぶ
- ・学部生のうちから MBA 的フレームワークに触れることで、単に業務をこなすだけではない、経営学視点を身に付ける
- This course is designed for undergraduate students who are interested in hotel management, and addresses on know-how of hotel development investment and hotel management in Japan.
- Participants are expected to touch on frameworks used in a MBA course and to acquire viewpoints of a manager, rather than just a rank-and-file.

授業の内容 / Course Contents

- ・レクチャー、グループワーク、プレゼンテーション、および業界のプレイヤーを招いてのゲストスピーカー講話と質疑応答を織り交ぜ、宿泊事業経営の実学を学ぶ
- This course consists of lectures, group works, presentations, and guest speaker sessions with Q&A to learn real business issues of lodging business.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーションと自己紹介
- 【2】:失敗に学ぶとはどういうことか
- 【3】:ケース1
- 【4】:ケース2
- 【5】:ケース3
- 【6】:ケース4
- 【7】:ゲストスピーカー1
- 【8】:ケース5
- 【9】:ケース6
- 【10】:ケース7
- 【11】:ケース8
- 【12】:ケース9
- 【13】:ゲストスピーカー2
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質疑応答:40% 小テスト:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・ゼミ学習の効果をあげるために、受講生人数を 10 名程度に制限する予定である
- ・資料の読み合わせ、プレゼンテーション、グループワークなどが多いため、毎回出席し、発言することが期待されている
- ・欠席する際には、必ず指導教員に事前連絡をすること
- ・指導教員に指示された課題を調べるため、スマートフォンもしくはノートパソコンの持参が推奨される
- ・受講生の理解進捗度に応じ、授業計画の順番は前後もしくは変更されることがある
- ・夏季にゼミ合宿(任意参加)が予定されている

宿泊産業演習2(B)

Lodging Industry Seminar 2(B)

沢柳 知彦(SAWAYANAGI TOMOHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA400
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・ホテル経営に興味を持つ学部生を対象として、日本におけるホテル開発投資やホテル経営のノウハウを学ぶ
- ・学部生のうちから MBA 的フレームワークに触れることで、単に業務をこなすだけではない、経営学視点を身に付ける
- This course is designed for undergraduate students who are interested in hotel management, and addresses on know-how of hotel development investment and hotel management in Japan.
- Participants are expected to touch on frameworks used in a MBA course and to acquire viewpoints of a manager, rather than just a rank-and-file.

授業の内容 / Course Contents

- ・レクチャー、グループワーク、プレゼンテーション、および業界のプレイヤーを招いてのゲストスピーカー講話と質疑応答を織り交ぜ、宿泊事業経営の実学を学ぶ
- This course consists of lectures, group works, presentations, and guest speaker sessions with Q&A to learn real business issues of lodging business.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ケース10
- 【2】: ケース11
- 【3】: ケース12
- 【4】: ケース13
- 【5】: ケース14
- 【6】: ゲストスピーカー3
- 【7】: フィージビリティスタディ1
- 【8】: フィージビリティスタディ2
- 【9】: ゲストスピーカー4
- 【10】: グループワーク1
- 【11】: グループワーク2
- 【12】: グループワーク3
- 【13】: プレゼンテーション
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質疑応答:40% 小テスト:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・ゼミ学習の効果をあげるために、受講生人数を 10 名程度に制限する予定である
- ・資料の読み合わせ、プレゼンテーション、グループワークなどが多いため、毎回出席し、発言することが期待されている
- ・欠席する際には、必ず指導教官に事前連絡をすること
- ・指導教員に指示された課題を調べるため、スマートフォンもしくはノートパソコンの持参が推奨される
- ・受講生の理解進捗度に応じ、授業計画の順番は前後もしくは変更されることがある
- ・夏季にゼミ合宿(任意参加)が予定されている

宿泊ビジネスプロジェクト1(A)

Lodging business project1(A)
ホテルビジネスのリアルに触れる

近藤 寛和(KONDO HIROKAZU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA405
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	演習・ゼミ
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスに興味を持つ学生を対象に、ホテル業界の概要や内側の仕組み、ホテルエ(プロフェッショナルホテルビジネスマン)にとって必要な要素を考えます(旅館もホテルの一つのカテゴリーと捉えます)。知識(ホテル業界の概要、用語、企業、ブランド、ビジネス構造など)とスキル(PC、コミュニケーション、プレゼンテーション、文章など)と考え方(ロジカルシンキング、ビジネス思考)を会得します。

Aimed at students interested in the hotel business, providing an overview of the hotel industry and its internal structure, as well as necessary elements for the hotelier (professional hotel businessman) to consider. [Ryokan inns and hotels covered as one category] Students will gain an overview of hotel industry knowledge (terms, companies, brands, business structures etc.) and skills (PC, communication, presentation, writing etc.) as well as in ideas (logical thinking, business thinking)

授業の内容 / Course Contents

本演習は、①ホテル業界入門講座のレクチャー、②グループワーク、③プレゼンテーション、④フィールドワーク、⑤ゲストスピーカーとの交流という5つを繰り返して行ないます。つまり、インプット、スループット(思考と議論と活動)、アウトプット、コミュニケーションを何度もこなすことで知識を増やすだけではなく、スキルを伸ばし、本質から物事を考える癖をつけます。ビジネスとして宿泊業を捉え、観光産業全体におけるホテル・旅館事業の存在意義や価値を考えます。授業や事務連絡、プレゼンテーション、コミュニケーションはPCをフル活用します。フィールドワークでは、実際にホテルを巡り、ゲストスピーカーには、ホテル業界で活躍する経営者や総支配人などの第一線で活躍する魅力的なビジネスマンを多数招請します。

This seminar will follow a format repeating these 5 interactions: 1. Hotel industry introductory Lecture) 2. Group work 3. Presentation 4. Fieldwork 5. Interaction with guest speaker. That is, knowledge with not only increase through repetition of the inputs and throughputs (thoughts, discussions and activities), and communication output, but students will hone skills to understand the true nature of things. We will consider the accommodation industry as a business, examining the significance and value of existence of hotels and ryokan businesses throughout the tourism industry. Classes and office communications, and presentations are to make full use of PCs. In the fieldwork, we will be inviting an number of interesting guest speakers from the hotels we actually visit, including businessmen active on the frontline of the hotel industry, such as the manager and general managers

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:自己紹介プレゼンテーション会
- 【3】:ホテル業界入門講座①
- 【4】:ホテル業界入門講座②

- 【5】:ホテル業界入門講座③
- 【6】:ホテル業界入門講座④
- 【7】:ゲストスピーカー①
- 【8】:ホテル業界入門講座⑤
- 【9】:ホテル業界入門講座⑥
- 【10】:ゲストスピーカー②
- 【11】:フィールドワーク①
- 【12】:グループディスカッション①
- 【13】:ホテル業界入門講座⑦
- 【14】:確認テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ホテル見学、ホテル取材、ホテルのポータルサイト運営など

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出欠及び活動内容:70% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

近藤寛和 惚れるホテルを創る 愛されるホテリエたち オータパブリケーションズ

授業計画は前後すること、変更することがあります。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

たんにホテルが好きというだけではなく、ビジネスとして興味関心があること。

インプットの学び以上に、思考やアウトプットという活動を通して、思考力や表現力、クリエイティブ力を鍛えますので、積極的にかかわる姿勢が必要です。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

宿泊ビジネスプロジェクト1(B)

Lodging business project1(B)
ホテルビジネスのリアルに触れる

近藤 寛和(KONDO HIROKAZU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA406
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	演習・ゼミ
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスに興味を持つ学生を対象に、ホテル業界の概要や内側の仕組み、ホテルエ(プロフェッショナルホテルビジネスマン)にとって必要な要素を考えます(旅館もホテルの一つのカテゴリーと捉えます)。知識(ホテル業界の概要、用語、企業、ブランド、ビジネス構造など)とスキル(PC、コミュニケーション、プレゼンテーション、文章など)と考え方(ロジカルシンキング、ビジネス思考)を会得します。

Aimed at students interested in the hotel business, providing an overview of the hotel industry and its internal structure, as well as necessary elements for the hotelier (professional hotel businessman) to consider. [Ryokan inns and hotels covered as one category] Students will gain an overview of hotel industry knowledge (terms, companies, brands, business structures etc.) and skills (PC, communication, presentation, writing etc.) as well as in ideas (logical thinking, business thinking)

授業の内容 / Course Contents

本演習は、①ホテル業界入門講座のレクチャー、②グループワーク、③プレゼンテーション、④フィールドワーク、⑤ゲストスピーカーとの交流という5つを繰り返して行ないます。つまり、インプット、スループット(思考と議論と活動)、アウトプット、コミュニケーションを何度もこなすことで知識を増やすだけではなく、スキルを伸ばし、本質から物事を考える癖をつけます。ビジネスとして宿泊業を捉え、観光産業全体におけるホテル・旅館事業の存在意義や価値を考えます。授業や事務連絡、プレゼンテーション、コミュニケーションはPCをフル活用します。フィールドワークでは、実際にホテルを巡り、ゲストスピーカーには、ホテル業界で活躍する経営者や総支配人などの第一線で活躍する魅力的なビジネスマンを多数招請します。また、ゼミ生には、実際にホテルを取材執筆し、ホテル業界経営雑誌の連載記事を書いていただいたり、より実践的な学びを繰り返します。

This seminar will follow a format repeating these 5 interactions: 1. Hotel industry introductory Lecture) 2. Group work 3. Presentation 4. Fieldwork 5. Interaction with guest speaker. That is, knowledge with not only increase through repetition of the inputs and throughputs (thoughts, discussions and activities), and communication output, but students will hone skills to understand the true nature of things. We will consider the accommodation industry as a business, examining the significance and value of existence of hotels and ryokan businesses throughout the tourism industry. Classes and office communications, and presentations are to make full use of PCs. In the fieldwork, we will be inviting an number of interesting guest speakers from the hotels we actually visit, including businessmen active on the frontline of the hotel industry, such as the manager and general managers

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ホテル業界入門講座⑧
- 【2】:ホテル業界入門講座⑨
- 【3】:ホテル業界入門講座⑩

- 【4】: ゲストスピーカー③
- 【5】: ホテル業界入門講座⑪
- 【6】: ホテル業界入門講座⑫
- 【7】: ホテルのマーケティング論
- 【8】: ホテルの競争戦略論
- 【9】: 連載「とんがりホテル」オリエンテーション①
- 【10】: 連載「とんがりホテル」オリエンテーション②
- 【11】: 取材先選定ミーティング①
- 【12】: 取材先選定ミーティング②
- 【13】: ホテルのポータルサイト運営ミーティング①
- 【14】: ホテルのポータルサイト運営ミーティング②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ホテル見学、ホテル取材、ホテルポータルサイト運営など

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出欠及び活動内容:70% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

近藤寛和 惚れるホテルを創る 愛されるホテリエたち オータパブリケーションズ

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

たんにホテルが好きというだけではなく、ビジネスとして興味関心があること。

インプットの学び以上に、思考やアウトプットという活動を通して、思考力や表現力、クリエイティブ力を鍛えますので、積極的にかかわる姿勢が必要です。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

宿泊ビジネスプロジェクト2(A)

Lodging business project2(A)

近藤 寛和(KONDO HIROKAZU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA407
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	演習・ゼミ/Seminar
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスに興味を持つ学生を対象に、ホテル業界の概要や内側の仕組み、ホテルエ(プロフェッショナルホテルビジネスマン)にとって必要な要素を考えます(旅館もホテルの一つのカテゴリーと捉えます)。知識(ホテル業界の概要、用語、企業、ブランド、ビジネス構造など)とスキル(PC、コミュニケーション、プレゼンテーション、文章など)と考え方(ロジカルシンキング、ビジネス思考)を会得します。また、実際にホテルや旅館の産業界との接点を多く持ちます。

Aimed at students interested in the hotel business, providing an overview of the hotel industry and its internal structure, as well as necessary elements for the hotelier (professional hotel businessman) to consider. [Ryokan inns and hotels covered as one category] Students will gain an overview of hotel industry knowledge (terms, companies, brands, business structures etc.) and skills (PC, communication, presentation, writing etc.) as well as in ideas (logical thinking, business thinking). Also have a lot of actual contact with the hotel and inn industry.

授業の内容 / Course Contents

本演習は、①ホテル業界入門講座のレクチャー、②グループワーク、③プレゼンテーション、④フィールドワーク、⑤ゲストスピーカーとの交流という5つを繰り返して行ないます。つまり、インプット、スループット(思考と議論と活動)、アウトプット、コミュニケーションを何度もこなすことで知識を増やすだけでなく、スキルを伸ばし、本質から物事を考える癖をつけます。ビジネスとして宿泊業を捉え、観光産業全体におけるホテル・旅館事業の存在意義や価値を考えます。授業や事務連絡、プレゼンテーション、コミュニケーションは PC をフル活用します。フィールドワークでは、実際にホテルを巡り、ゲストスピーカーには、ホテル業界で活躍する経営者や総支配人などの第一線で活躍する魅力的なビジネスマンを多数招請します。また、ゼミ生には、実際にホテルを取材執筆し、ホテル業界経営雑誌の連載記事を書いていただいたり、実習したり、海外ホテル視察(未定)などをしたりし、より実践的な学びを繰り返します。

This seminar will follow a format repeating these 5 interactions: 1. Hotel industry introductory Lecture) 2. Group work 3. Presentation 4. Fieldwork 5. Interaction with guest speaker. That is, knowledge with not only increase through repetition of the inputs and throughputs (thoughts, discussions and activities), and communication output, but students will hone skills to understand the true nature of things. We will consider the accommodation industry as a business, examining the significance and value of existence of hotels and ryokan businesses throughout the tourism industry. Classes and office communications, and presentations are to make full use of PCs. In the fieldwork, we will be inviting an number of interesting guest speakers from the hotels we actually visit, including businessmen active on the frontline of the hotel industry, such as the manager and general managers

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:とんがりホテル 取材レポート
- 【3】:講義「宿泊業界事情」
- 【4】:ゲストスピーカー①

- 【5】:宿泊関連プロジェクト ミーティング①
- 【6】:とんがりホテル 取材レポート
- 【7】:宿泊関連プロジェクト ミーティング②
- 【8】:宿泊関連プロジェクト ミーティング③
- 【9】:「ホテルのポータルサイト」運営①
- 【10】:「ホテルのポータルサイト」運営②
- 【11】:とんがりホテル 取材レポート
- 【12】:宿泊関連プロジェクト ミーティング④
- 【13】:とんがりホテル 取材レポート
- 【14】:ゲストスピーカー②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®])の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ホテル見学、ホテル取材、大学生ホテル運営など

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出欠及び活動内容:80% 最終レポート割合::20 %

テキスト / Textbooks

近藤寛和 惚れるホテルを創る 愛されるホテリエたち オータパブリケーションズ

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

宿泊ビジネスプロジェクト2(B)

Lodging business project2(B)
ホテルビジネスのリアルに触れる

近藤 寛和(KONDO HIROKAZU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA408
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	演習・ゼミ/Seminar
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスに興味を持つ学生を対象に、ホテル業界の概要や内側の仕組み、ホテルエ(プロフェッショナルホテルビジネスマン)にとって必要な要素を考えます(旅館もホテルの一つのカテゴリーと捉えます)。知識(ホテル業界の概要、用語、企業、ブランド、ビジネス構造など)とスキル(PC、コミュニケーション、プレゼンテーション、文章など)と考え方(ロジカルシンキング、ビジネス思考)を会得します。また、実際にホテルや旅館の産業界との接点を多く持ちます。

Aimed at students interested in the hotel business, providing an overview of the hotel industry and its internal structure, as well as necessary elements for the hotelier (professional hotel businessman) to consider. [Ryokan inns and hotels covered as one category] Students will gain an overview of hotel industry knowledge (terms, companies, brands, business structures etc.) and skills (PC, communication, presentation, writing etc.) as well as in ideas (logical thinking, business thinking). Also have a lot of actual contact with the hotel and inn industry.

授業の内容 / Course Contents

本演習は、①ホテル業界入門講座のレクチャー、②グループワーク、③プレゼンテーション、④フィールドワーク、⑤ゲストスピーカーとの交流という5つを繰り返して行ないます。つまり、インプット、スループット(思考と議論と活動)、アウトプット、コミュニケーションを何度もこなすことで知識を増やすだけではなく、スキルを伸ばし、本質から物事を考える癖をつけます。ビジネスとして宿泊業を捉え、観光産業全体におけるホテル・旅館事業の存在意義や価値を考えます。授業や事務連絡、プレゼンテーション、コミュニケーションは PC をフル活用します。フィールドワークでは、実際にホテルを巡り、ゲストスピーカーには、ホテル業界で活躍する経営者や総支配人などの第一線で活躍する魅力的なビジネスマンを多数招請します。また、ゼミ生には、実際にホテルを取材執筆し、ホテル業界経営雑誌の連載記事を書いていただいたり、実習したり、海外ホテル視察(未定)などをしたりし、より実践的な学びを繰り返します。

This seminar will follow a format repeating these 5 interactions: 1. Hotel industry introductory Lecture) 2. Group work 3. Presentation 4. Fieldwork 5. Interaction with guest speaker. That is, knowledge with not only increase through repetition of the inputs and throughputs (thoughts, discussions and activities), and communication output, but students will hone skills to understand the true nature of things. We will consider the accommodation industry as a business, examining the significance and value of existence of hotels and ryokan businesses throughout the tourism industry. Classes and office communications, and presentations are to make full use of PCs. In the fieldwork, we will be inviting an number of interesting guest speakers from the hotels we actually visit, including businessmen active on the frontline of the hotel industry, such as the manager and general managers

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:とんがりホテル 取材レポート
- 【3】:講義「宿泊業界事情」

- 【4】: ゲストスピーカー①
 【5】: 宿泊関連プロジェクト ミーティング①
 【6】: とんがりホテル 取材レポート
 【7】: 宿泊関連プロジェクト ミーティング②
 【8】: 宿泊関連プロジェクト ミーティング③
 【9】: 「ホテルのポータルサイト」運営①
 【10】: 「ホテルのポータルサイト」運営②
 【11】: とんがりホテル 取材レポート
 【12】: 宿泊関連プロジェクト ミーティング④
 【13】: とんがりホテル 取材レポート
 【14】: ゲストスピーカー②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ホテル見学、ホテル取材、大学生ホテル運営など

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出欠及び活動内容:80% 最終レポート割合::20 %

テキスト / Textbooks

近藤寛和 惚れるホテルを創る 愛されるホテリエたち オータパブリケーションズ

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学対象

観光インターンシップ

Internship in Tourism

西川 亮／野原 克仁(NISHIKAWA RYO/ NOHARA KATSUHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA417
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	通年
単位	2	科目ナンバリング	TRM3100
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光インターンシップは、観光ビジネスや地域づくりの現場で実践的に学ぶプログラムです。旅行・ホテル・交通(航空・鉄道等)など、観光ビジネスを担う企業での就業体験や、全国各地の地域づくりの現場で様々な取り組みを体験し、観光を支える企業や地域の“現場力”を肌で感じることを大きなねらいとしています。

This Internship is a program to learn the practical, on-site tourism business and community activity. Through work experience in companies related to tourism, such as travel agency, hotels, transportation (airline, railway etc.), and seeing various efforts at local sites being created around the country, we aim to provide students with the opportunity to acquire “on-site power” in regions and companies supporting tourism.

授業の内容 / Course Contents

観光インターンシップは、3年次の夏休みに行われる企業や地域での実習を中心として、事前の準備学習、事後のふりかえりと成果のまとめからなっています。春学期は、企業・業界研究や地域研究、社会人として身につけておくべきマナーや心構えの修得など、十分に準備をした上で夏休みの実習に臨みます。実習を終えた秋学期には、それぞれの体験をふりかえり、成果をまとめ、課題を共有していきます。こうしたプロセスを通じて、2年間観光学部で学んだことを実践の場に照らし合わせ、一層深めるとともに、自らのキャリア形成について考えながら、社会に出ていくまでの間にさらに学ぶべき課題を発見し、新たな学びに結びつけていきます。

[実習先]観光ビジネスに従事する企業(旅行・宿泊・交通等)、観光・地域振興に取り組む自治体・NPO・観光協会等

This internship program consists of preliminary study program, retrospective review and summary of results, focusing on practical training in companies and regions during the 3rd year summer vacation period. The spring semester class prepares students for practical training during the summer vacation, following on from company and industry research, and area studies, learning the manners and attitudes that should be acquired entering the business person. In Fall semester, we will review each student's experience, summarize the results, and share issues with your classmates. Through such a process, we will highlight what was learned in College of Tourism over two years in practice, while deepening consideration on one's own career path, and identify issues to be studied from now on entering the society.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

(インターンシップの心構え、授業の進め方など)

【2】:実習に向けた指導(1)

【3】:実習に向けた指導(2)

【4】:実習に向けた指導(3)

【5】:実習に向けた指導(4)

【6】:実習に向けた指導(5)

【7】:実習に向けた指導(6)

- 【8】: 実習に向けた指導(7)
 【9】: 実習 1
 【10】: 実習 2
 【11】: 実習 3
 【12】: 実習 4
 【13】: 実習 5
 【14】: 実習 6
 【15】: 実習 7
 【16】: 実習 8
 【17】: 実習 9
 【18】: 実習 10
 【19】: 実習 11
 【20】: 実習 12
 【21】: 実習 13
 【22】: 実習 14
 【23】: 実習振り返り
 【24】: 成果報告会指導(1)
 【25】: 成果報告会指導(2)
 【26】: 成果報告会リハーサル
 【27】: 成果報告会
 【28】: 成果報告書指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に対する意欲・参加態度、発表内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業開始前に履修者の選考(書類審査・面接)を行います。

4月はじめのガイダンスで説明を行いますので、希望者は必ず参加してください。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

経団連インターンシップ

Keidanren Internship

野田 健太郎／西山 健介／大橋 泰弘(NODA KENTARO/ NISHIYAMA KENSUKE/ OHASHI YASUHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA418
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	通年
単位	2	科目ナンバリング	TRM3100
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	一般社団法人日本経済団体連合会寄付講座		

授業の目標 / Course Objectives

観光産業及び関連事業分野で活躍する人材の育成を念頭に、学内での事前研修の後、企業での実務研修を行い、受講者の実社会への理解とキャリアに関する意識を深めることを目標とする。

With the development of human resources active in the tourism and related business fields in mind, after their university training, students will perform practical work experience in companies, in order to deepen their understanding of the real world and their careers.

授業の内容 / Course Contents

春学期は学内事前研修として実習の内容・意義のみならず、会社の歴史から現状までを企業派遣講師より直接学び、幅広い理解の下で実習志望先を決定する。実習を終えた秋学期においては報告会での発表やレポート作成を通じて本課程の成果を整理し、知識・経験の定着を図る。

During the spring semester, students will learn directly from company staff as guest lecturers, from the company's history to the current situation, as well as the contents and significance of practical training, so students can understand a broad selection of training opportunities. In the fall semester when the training is finished, students will collect the results in a presentation and report, with the aim of gaining knowledge and experience.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 実習受入企業講義 その1
- 【3】: 実習受入企業講義 その2
- 【4】: 実習受入企業講義 その3
- 【5】: 実習受入企業講義 その4
- 【6】: 実習受入企業講義 その5
- 【7】: 実習受入企業講義 その6
- 【8】: 実習受入企業講義 その7
- 【9】: 実習受入企業講義 その8
- 【10】: 実習受入企業講義 その9
- 【11】: 実習受入企業講義 その10
- 【12】: マナー研修
- 【13】: 受講者実習前クラス発表 その1
- 【14】: 受講者実習前クラス発表 その2
- 【15】: 実習1
- 【16】: 実習2
- 【17】: 実習3

- 【18】:実習4
- 【19】:実習5
- 【20】:実習6
- 【21】:実習7
- 【22】:実習8
- 【23】:受講者実習後クラス発表
- 【24】:実習報告リハーサル その1
- 【25】:実習報告リハーサル その2
- 【26】:実習報告リハーサル その3
- 【27】:実習報告反省会
- 【28】:報告書執筆要領説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業ごとのレポート、実習報告書、実習先からの評価、実習後の発表、出席状況等を対象とする:100%

テキスト / Textbooks

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443817 3034

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034

参考文献 / Readings

その他 / Others

- (1)4月はじめのガイダンスにおいて説明会を行うので、希望者は必ず参加すること
- (2)自分自身で、積極的に考え、行動し、大きな成長と成果を獲得していくこと

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

グローバル・スタディ・プログラム1

Global Study Program 1

言語と文化現地研修

舩谷 鋭／久保 忠行／河上 夏織(MASUTANI SATOSHI/ KUBO TADAYUKI/ KAWAKAMI KAORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA500
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	通年
単位	2	科目ナンバリング	TRM1003
使用言語	その他	授業形式	実習
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

GSP1 では、夏季休業中に学部間協定校に 10 日間程度滞在し、現地言語の基礎に触れるとともに、講義やフィールドワークによって異文化社会・文化を生活体験の中で学ぶ。協定校の学生との協働によって、同世代の海外学生と交流し、コミュニケーション能力の向上を図る。

Students will participate in international exchange based on inter-departmental agreement that lasts about ten days. They will learn the basics of the language, society and culture of the destination through lectures as well as living in cross-cultural environments. Furthermore, by spending time together with the students at our partner institutions it is aimed to improve our students' communication skills.

授業の内容 / Course Contents

本年度はマラヤ大学、ベトナム国家大学ハノイ人文・社会科学大学の 2 コースを実施する。各コースとも研修プログラムは英語で行われ、現地言語と社会・文化についての講義、発表、実習、協定校学生との交流などで構成されている。(国内での事前・事後授業と夏休み現地渡航研修)

This year, two courses will be offered: Malay-Indonesia of University of Malaya and Vietnam of Vietnam National University, Hanoi University of Humanities and Social Sciences. Each course consists of language training, lectures, presentations and practical training on society and culture, study tours, field research and exchange events with students from the partner universities.(Pre and post coursework in-country and summer overseas field trip training)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 事前研修 1
- 【2】: 事前研修 2
- 【3】: 事前研修 3
- 【4】: 事前研修 4
- 【5】: 事前研修 5
- 【6】: 事前研修 6
- 【7】: 事前研修 7
- 【8】: 事前研修 8
- 【9】: 事前研修 9
- 【10】: 現地研修 1
- 【11】: 現地研修 2
- 【12】: 現地研修 3
- 【13】: 現地研修 4
- 【14】: 現地研修 5

- 【15】:現地研修 6
- 【16】:現地研修 7
- 【17】:現地研修 8
- 【18】:現地研修 9
- 【19】:現地研修 10
- 【20】:事後研修 1
- 【21】:事後研修 2
- 【22】:事後研修 3
- 【23】:事後研修 4
- 【24】:報告書準備
- 【25】:報告書準備
- 【26】:報告会準備
- 【27】:報告会準備
- 【28】:報告会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	☐	校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

渡航先の言語、社会、経済、政治、歴史、文化状況について関心を持ち、自主的に学習する姿勢が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前・事後授業への参加状況:30% 現地研修への参加状況:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

鳥居高ら マレーシアを知るための 58 章 明石書店 2023 9784750356396

岩井美佐紀ら 現代ベトナムを知るための 63 章【第 3 版】 明石書店 2023 9784750355290

上記はそれぞれコースごとのテキストで、主に事前研修で用いる。

参考文献 / Readings

コースごとに事前研修で指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

立教大学の代表として、自主的に参加する自覚と責任を持てること

その他 / Others

授業支援システムなどでガイダンス資料を提示するので、確認すること。

協定校での研修期間は引率教員が同行しないため、履修者は大学の代表として自主性と責任を持った行動が求められる。

本科目は履修に際し、いくつかの条件があるので、必要事項を記載した募集要項を確認し、履修条件を理解、了承しておくこと。

なお、社会状況によって、現地研修がオンライン開講に変更されることがある。

Introduction to Tourism 1

Introduction to Tourism 1

Introductory seminar for studying tourism

韓 志昊 (HAN JIHO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA501
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光の基礎を英語で学習する。

This course aims to provide students a basic understanding of tourism and skills to do research in English.

授業の内容 / Course Contents

コースの前半は、観光の基礎概念とコンセプトについて英語で学習する。後半では、観光研究に必要な英語資料の検索、収集、分析ができるように訓練する。

This first half of the course discusses the basic terms and concepts of tourism in English to prepare students to complete the second half of the course which requires students to analyze information from various sources for tourism research in English.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Definitions of terms of Tourism
- 【3】:Basic Concepts of Tourism Studies (Quiz1)
- 【4】:Basic Concepts of Travel (Quiz2)
- 【5】:Basic Concepts of Travel Behavior (Quiz3)
- 【6】:Basic Concepts of Tourism Business (Quiz4)
- 【7】:Review of the Basic Concepts of Tourism
- 【8】:Reading newspaper and magazine articles (Quiz5)
- 【9】:Reading book chapters (Quiz6)
- 【10】:Reading statistics and reports (Quiz7)
- 【11】:Reading novels and essays on Travel (Quiz8)
- 【12】:Reading textbooks (Quiz9)
- 【13】:How to read academic journal articles on tourism in English (Quiz10)
- 【14】:Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to prepare for a quiz every class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz (5点×10回):50% 授業内参加(Participation):20% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

その他 / Others

観光庁 HP: <http://www.mlit.go.jp/kankocho/en/index.html>

JTB 総合研究所: <http://www.tourism.jp/en/>

UNWTO: <http://www2.unwto.org>

JNTO: <http://www.jnto.go.jp/eng/>

The Japan Times: <http://www.japantimes.co.jp/life/travel/>

Online Database of University library

Introduction to Tourism 2

Introduction to Tourism 2

Introduction to Tourism

徐 翰林(XU HANLIN)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA502
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Upon completion of this course, the student will be able to

- ①Understand and explain the basic concept and terms of the tourism system in English
- ②Discuss the challenges and opportunities of the current tourism industry
- ③Develop critical thinking through reading and discussion on the various references of tourism studies

授業の内容 / Course Contents

This course is designed for students who are pursuing a fundamental understanding of tourism studies and seeking a global view under English contexts. The course covers the introduction of challenges and opportunities of the current tourism industry. The student will develop and practice critical thinking ability through reading and discussion on the different tourism study's references.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Careers in Tourism
- 【3】:Emerging Trends in the Hospitality and Tourism Industries I
- 【4】:Emerging Trends in the Hospitality and Tourism Industries II
- 【5】:Discussion and Presentation: Newspaper
- 【6】:Discussion and Presentation: Magazine Articles
- 【7】:Discussion and Presentation: Website Reference I
- 【8】:Discussion and Presentation: Website Reference II
- 【9】:Discussion and Presentation: Statistics
- 【10】:Discussion and Presentation: Reports by Tourism Organizations
- 【11】:Discussion and Presentation: Textbook
- 【12】:Discussion and Presentation: Academic Journal Articles on Tourism in English I
- 【13】:Discussion and Presentation: Academic Journal Articles on Tourism in English II
- 【14】:Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Read English documents

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% English presentation:50% In-class Participation (English):50%

テキスト / Textbooks

Will be introduced during the course

参考文献 / Readings

Will be introduced during the course

その他 / Others

Will be introduced during the course

Tourism Study 1 (Business)

Tourism Study 1 (Business)

Understanding businesses in tourism

韓 志昊 (HAN JIHO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA505
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

関連する様々な資料を使用して、ツーリズム・ビジネスを理解する。

This course aims to provide students with the understanding of businesses in tourism by reading various references on tourism business.

授業の内容 / Course Contents

ツーリズム・ビジネスに関連する多様な英語の情報源を使用しながら、英語でツーリズム・ビジネスに関するリサーチができるように学習する。

Through reading various information sources regarding tourism business, students will become able to understand how to do research on tourism business in English.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Introduction
- [2]: Definitions of terms and basic concepts of business in tourism
- [3]: Travel business
- [4]: Accommodation
- [5]: Food and Beverage
- [6]: Meetings Industry
- [7]: Transportation
- [8]: How to use online databases to search references on tourism businesses in English
- [9]: Reading newspaper articles on tourism business
- [10]: Reading magazine articles on tourism business
- [11]: Reading reports on tourism business by various organizations
- [12]: Reading textbooks on tourism business
- [13]: Reading journal articles on tourism business
- [14]: Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to prepare for a quiz every class.

It is preferable to have completed "Introduction to Tourism 1" before taking this class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz (5 点×10 回):50% 授業内参加(Participation):20% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

その他 / Others

Information resources will be introduced during the course.

Tourism Study 2 (Society)

Tourism Study 2 (Society)
Tourism and (Local) Community

ハサン イードウル (HASAN,EID-UL)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA506
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	Online classes using Zoom. 発話を伴う授業を学内で受講 する場合は 8201(池袋キャンパ ス)、N851(新座キャンパス)の 利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide students with an understanding of different aspects of the concepts of local community and sustainability, and the relationships between them, in relation to tourism development. At the end of the course, students will be able to engage analytically in the discussions about the impacts of tourism on local communities around the world and relate their own community to this broader picture, as well as identify ways to translate such knowledge to solve current issues related to the development of tourism.

授業の内容 / Course Contents

The course introduces students with different perspectives and cases of tourism and local community research in various national and international contexts. Students will explore the impacts of tourism on local communities and vice versa, from a variety of perspectives including sociology, by asking in what ways tourism can coexist with local communities and contribute to the sustainable community development.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and presentations. Each session is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own community through reflection papers and presentation. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Orientation: nature and scope of the course
- 【2】:Tourism resources, local community and sustainability 1
- 【3】:Tourism resources, local community and sustainability 2
- 【4】:Short film screening & guidance for reflection papers
- 【5】:Tourism and community development: community-based tourism 1
- 【6】:Tourism and community development: community-based tourism 2
- 【7】:Farming community and tourism 1
- 【8】:Farming community and tourism 2
- 【9】:Mountain community and tourism 1
- 【10】:Mountain community and tourism 2
- 【11】:Coastal community and tourism

【12】:Urban community and tourism; guidance for final presentation

【13】:Students' presentation session 1

【14】:Students' presentation session 2; summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to actively participate in-class discussions and group/pair work, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussions, reflection papers and presentation.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class discussions and punctual submission of assignments/homework:40%

Individual reflection papers (2 times):30% Individual/group presentation:30%

テキスト / Textbooks

There is no required textbook for this course.

参考文献 / Readings

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 / Others

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

Current Trends in Tourism 1

Current Trends in Tourism 1

Current Trends in Global Tourism and Leadership

キム ジェウク(KIM JAEWOOK)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA507
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

The course offers an in-depth understanding of the current issues and trends in the tourism and hospitality industry in the global markets. In order to proactively deal with global issues, it is critical to understand the internal and external business environments. Thus, the objectives of this class are as follows:

- ・To understand the issues for the global tourism industry
- ・To examine key trends and issues in the industry that we need to be more focused on
- ・To develop proactive global tourism strategies
- ・To continually assess key attributes of individuals' future sustainable development process

授業の内容 / Course Contents

Topics include monitoring global issues, identifying the best practices, understanding the leadership roles, and developing strategies. The course structure is formed as follows:

- ・ Guest lectures – Global tourism/hospitality leaders are invited to class
- ・ Contemporary hospitality and tourism issues – four main assignments of news article summaries and comprehension reports that include internal/external analysis
- ・ Discussion – Students are required to participate in discussions actively for the entire semester
- ・ Project – Group or Individual project (depending on the class size) will develop the students' ability to handle the current issues

授業計画 / Course Schedule

【1】: 1. April 15

Introduction & Contemporary global tourism and hospitality

Dr. Jaewook Kim, Univ of Houston

【2】: 2. April 22

Global Service Management

Dr. Carl Boger, Univ of Houston

【3】: 3. April 29

Environmental, Social, and Corporate Governance

Dr. Ki-Joon Back, Univ of Houston

【4】:4. May 6

Global strategic management of Finance and Economy

Dr. Seul Ki Lee, Sejong Univ

【5】:5. May 13

Innovation and service disruption

Dr. Eris Liu, Culinary Institute of Lenotre

【6】:6. May 20

Sharing economy and collaborative consumption

Dr. Sung In Kim, Hong Kong Poly U

【7】:7. May 27

Contemporary hospitality and tourism review

Dr. Jaewook Kim, Univ of Houston

【8】:8. June 3

Data Analytics in the Hospitality and Tourism Industry

Dr. Jewoo Kim, Iowa State Univ

【9】:9. June 10

Diversity, Equity, and Inclusion

Dr. Dustin Maneethai, Univ of Houston

【10】:10. June 17

Foodservice and Restaurant

Dr. Eunmin Hwang, UNLV

【11】:11. June 24

Wine, beer, and beverage management

Dr. Scott Taylor, Univ of South Carolina

【12】:12. July 1

Consumer behavior and branding Strategies

Dr. Minjung Shin, Univ of Houston

【13】:13. July 8

Convention and Meeting Management

Dr. Joan Su, Iowa State Univ

【14】:14. July 15

Review

Dr. Jaewook Kim, Univ of Houston

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Each class will be based on guest lectures and discussions with students in the class setting. For the in-class discussion, students are required to develop their discussion questions for each class. Other extra reading materials for each class will be provided for in-class discussions and activities.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Discussion Question Assignment:22% Contemporary hospitality and tourism issues:20% Final Project Presentation:25% Attendance and Participation:33% 最終レポート割合::0%最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and necessary lecture notes will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Each guest lecturer will discuss contemporary hospitality and tourism issues and trends. Each class will incorporate in-class discussions, activities, and other reading materials, which will be introduced during the course.

その他 / Others

Various Websites, including Google Scholar (<https://scholar.google.com/>), Wall Street Journal (<https://www.wsj.com/>), Tripadvisor (<https://www.tripadvisor.com/>), Hotel Online (<https://www.hotel-online.com/>), etc.

Online DataBase Library, including University of Pennsylvania Wharton Research Data Services (WRDS) (<https://wrds-www.wharton.upenn.edu/>), OpenAI ChatGPT (<https://openai.com/>), Morningstar Indexes (<https://indexes.morningstar.com/>), and AnnualReports.com (<https://www.annualreports.com/>)

Recommended Text

·Dess, G. G., Lumpkin, G. T., & Eisner, A. B. (2015). Strategic management: Creating competitive advantages. 8th edition, Burr Ridge, IL: McGraw-Hill.

·Grant, R. M. (2016). Contemporary strategy analysis: Text and cases edition. John Wiley & Sons.

The instructor of this course, Dr. Jaewook Kim is an Associate Professor at the Conrad N. Hilton College of Global Hospitality Leadership, University of Houston, U.S.A.

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

Current Trends in Tourism 2

Current Trends in Tourism 2

Current issues in travel, tourism, and hospitality industry

ソ, クァンリム (SEO KWANGLIM)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA508
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 (池袋キャンパス)、N851 (新座キャンパス) の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

The purpose of this course is to build students' ability to examine contemporary issues and topics that are influencing the travel, tourism, and hospitality industry. Students will collect pertinent articles and information from newspapers, magazines, academic journals, and news programs, and will utilize the internet to find relevant issues to discuss in class. Oral presentations, guest speakers, and class discussions will allow the student to develop knowledge and awareness on issues that will impact the industry both in the present and in the future.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to help students examine and create solutions to the chosen current issues and/or case studies in the travel, tourism, and hospitality industry. Students are required to review related readings each week and participate in discussions or seminars on current issues. The actual class period is a time to debate the issues, ask questions, and learn additional information pertaining to that week's topic. The success of this class relies on the quality of students' preparation and participation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Tourism and socio-cultural impacts
- 【3】:Development and management of current and new tourism and hospitality organizations in global contexts
- 【4】:Strategic resource management and development issues
- 【5】:Innovation and entrepreneurship issues
- 【6】:Corporate social responsibility (CSR)/Environmental, social, and governance (ESG) issues
- 【7】:The legal environment and health and safety issues
- 【8】:Managing workforce diversity across and within cultures
- 【9】:The role of technology advancement implications
- 【10】:Destination development and management in global contexts
- 【11】:Risk management and tourism
- 【12】:Research presentations
- 【13】:Research presentations
- 【14】:Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Discussion topics are assigned before every class and students are required to prepare a short presentation to share their thoughts and ideas during class. Students should conduct research to identify key points, discuss implications and significance, and raise questions for class discussion. Please note that the quality of the discussion is the foci of the evaluation of this class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentation:30% Class participation:30% Term paper:40%

テキスト / Textbooks

There is no textbook required for this class. Academic research articles and case studies will be handed out throughout the semester

参考文献 / Readings

その他 / Others

This course's instructor is an Associate Professor at the School of Travel Industry Management, Shidler College of Business, University of Hawai'i at Mānoa, U.S.A.

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

グローバル・スタディ・プログラム2

Global Study Program 2

Field Study in University of Houston

韓 志昊 (HAN JIHO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA511
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1003
使用言語	その他	授業形式	実習
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

米国・ヒューストン大学のグローバルホスピタリティ学部で 10 日間専門講義の受講とフィールドトリップを通して、留学体験をする。

Students will experience 10-day study program at University of Houston in Texas, U.S.A.

Attending classes and field trips will provide real life experience of studying abroad.

授業の内容 / Course Contents

- 1) 米国・ヒューストン大学のグローバルホスピタリティ学部で 10 日間専門講義を受ける。
 - 2) ホテルとレストランほか、ヒューストン所在の観光施設を見学する。
 - 3) 秋学期中は、事前学習を行う。
- 1) About 10-day study program in University of Houston.
Attending classes in the Conrad N. Hilton College of Global Hospitality Leadership.
 - 2) Participating field trips organized by professors and student of the Conrad N. Hilton College of Global Hospitality Leadership.
 - 3) During Fall semester, students will prepare for attending classes and field trips.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Understanding classes and education system of the Conrad N. Hilton College of Global Hospitality Leadership.
- 【3】:Preparing Self Introduction 1-PPT
- 【4】:Preparing Self Introduction 2-Presentation
- 【5】:Preparing Rikkyo's Introduction 1-PPT
- 【6】:Preparing Rikkyo's Introduction 2-Presentation
- 【7】:How to search information on tourism study in English
- 【8】:Reading textbooks on Tourism in English
- 【9】:Reading newspapers on Tourism in English
- 【10】:Review, feedback, and Q&A 1
- 【11】:Reading academic materials on Tourism in English
- 【12】:Review, feedback, and Q&A 2
- 【13】:Final Review
- 【14】:Introduction before departure

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	○

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to work in groups at least 3 hours a week.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading Materials will be introduced in classes.

観光特論(TSE)

Special Lecture on Tourism(Tourism Studies in Europe)
Theories and case studies from tourism in Europe.

マルチャーニ(MARTINI ANNACLAUDIA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA512
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

The objective of the course is to introduce students to the spatial and cultural phenomena that influence tourism, with a focus on the main theories and trends of tourism studies within Europe. We will look into the role of tourism in shaping urban and rural development at the regional, national and international scale, and analyse the evolution and organization of tourism in space, understanding the policies and strategies promoted in Europe. We will look at case studies and examples of tourism in Europe.

授業の内容 / Course Contents

The course offers an introduction to critical tourism studies in Europe. During the course, the students will be introduced to the main concepts and theories present in critical tourism studies. After a general overview, the students will be introduced to a variety of case studies from Italy and other European countries, which function as points of connection between theory and practice.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to tourism studies in Europe
- 【2】:Tourism and heritage in Europe
- 【3】:Dark tourism in Europe and Japan
- 【4】:Dissonant heritage
- 【5】:Overtourism in Europe and Japan
- 【6】:Pilgrimages tourism in Italy
- 【7】:Tourism and climate change
- 【8】:Mountain tourism and internal areas in Italy
- 【9】:Tourism and new developments in Athens, Greece
- 【10】:Memory and heritage in Europe
- 【11】:Tourism and sustainability 1
- 【12】:Tourism and sustainability 2
- 【13】:New trends in tourism in European Academia: postcolonial, feminist, nonhuman
- 【14】:Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

writing of diary and reports, work in groups to ask questions to teacher and guests on tourism in Europe.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Outside of class time students will be asked to read brief texts (from academic articles, newspapers, or other) that introduce the topic of the lecture.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% participation in class:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspaper articles and magazine articles will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Readings will be given from week to week

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

Tourism Study 3 (Destination)

Tourism Study 3 (Destination)

ファム, H. (PHAM HONG LONG)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA517
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 (池袋キャンパス)、N851 (新座キャンパス) の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course provides:

- theoretical framework with regard to destination management with a comprehensive approach that focuses on planning, marketing and management of a destination.
- selected examples of tourism from destinations throughout the country and the world

The aim of the course is to provide:

- an understanding of the dynamics of destination development;
- a combination of theory and practice on destination planning and management;
- approaches and issues on marketing application for destination management.

On completion of this course, the students are able to:

- characterize different types of tourism destinations as well as identify the importance and objectives of destination management;
- be aware of the process of tourism development and the possible associated impacts in tourism destinations;
- identify the roles and responsibilities of various stakeholders and organizations in the processes of destination planning and marketing;
- identify and assess the main components of a destination development plan as well as the main methods of monitoring the performance of a destination;
- critically assess the principles and practice of destination marketing and their applications to the strategic management of a destination;
- study the roles and functions of destination tourism organizations;
- synthesize good practice in destination planning and management in a variety of case-studies;
- develop tourism development proposals of selected destination from a social, cultural and environmental perspective.

授業の内容 / Course Contents

1. An introduction to destination management
 - Defining tourist destination and its related theories
 - Defining destination management
 - Sustainable development of tourism destination
2. Tourism destination planning

- Destination analysis
 - Setting visions and goal for the destination
 - Developing a tourism action plan
3. Destination marketing management
- Destination positioning
 - Destination branding
 - Destination marketing Mix
4. Organizing for destination management
- Destination governance and leadership
 - Design of organizational structures
 - Destination community and stakeholders relations
 - Destination partnership and strategic cooperation Conflict management
 - Destination quality control – Benchmarking

Each contents follow with examples of destination management in many countries. Possibly case-studies in UK, Spain, Italy, Ireland, Belgium, Croatia, Canada, Mexico, Japan, Australia, China, Vietnam etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to the course
An introduction to destination management (1)
- 【2】:Topics related to Lectures & Assignment 1
- 【3】:An introduction to destination management (2)
- 【4】:Topics related to Lectures & Assignment 2
- 【5】:Tourism destination planning (1)
- 【6】:Topics related to Lectures & Assignment 3
- 【7】:Tourism destination planning (2)
- 【8】:Topics related to Lectures & Assignment 4
- 【9】:Destination marketing management (1)
- 【10】:Topics related to Lectures & Assignment 5
- 【11】:Destination marketing management (2)
- 【12】:Topics related to Lectures & Assignment 6
- 【13】:Organizing for destination management
- 【14】:Topics related to Lectures & Assignment 7

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read PPT slides and other materials before the class. After each class, seminar topic (assignment) will be provided, and students are required to work on it.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:20% Assignments:40% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Books, newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

UNWTO A Practical Guide to Tourism Destination Management World Tourism Organization. 2007

The World Bank Group Destination Management Handbook The World Bank Group 2022

Jennifer Stange, David Brown, Solimar International Tourism Destination Management: ACHIEVING SUSTAINABLE AND COMPETITIVE RESULTS USAID 2007

Tourism Study 4 (Culture)

Tourism Study 4 (Culture)

河上 夏織 (KAWAKAMI KAORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA518
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face to face (All classes are face to face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2201
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The objective of the course is to provide students with an understanding of the relationships between tourism and culture as a tourism resource. At the end of the course, students are expected to have a good understanding of the balance between the promotion of tourism and the protection of culture, and to be able to express their opinions.

授業の内容 / Course Contents

This course will examine the relationships between tourism and culture including tangible heritage, intangible heritage, movable heritage and cultural industry. In particular, it will draw a number of cases of World Heritage sites for two reasons. Firstly, it is one of the most important, popular, and resourceful resources for tourism and sustainable development all around the world. Secondly, the World Heritage Convention, which has over 50 years of history, has a well-established system for the protection and promotion of cultural resources, which have many insights and lessons learnt for the utilization of other types of culture for the promotion of tourism. Therefore, by examining cases of World Heritage sites, the course will allow students to think about the challenges of the utilisation and protection of cultural resources and tourism promotion that many types of culture share.

While this course will shed light on World Heritage, it will also refer to other types of culture. It will also examine cases from not only Japan and Europe, but also Asia and the Pacific, the Middle East, Africa and Latin America, so as to expose students to different cultures and regions. By so doing, students are expected to think of how to achieve sustainable tourism in developing countries as well. Students are also encouraged to ask questions and express their views during discussions. The submission of reaction papers is necessary at the end of each session in order to train writing skills.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Orientation: Objectives and scope of the course, key concepts and issues
- 【2】:Cultural tourism: Overview of cultural tourism and its impacts
- 【3】:History of cultural heritage protection: Frameworks and systems
- 【4】:What is World Heritage: Understanding World Heritage Convention, Outstanding Universal Value, authenticity and integrity
- 【5】:Tourism and World Heritage: Cases from Japan and the world
- 【6】:World Heritage protection and development: Exploring the balance between World Heritage protection and development for communities and tourists
- 【7】:Tourism and cultural resources: Authenticity and invention of tradition
- 【8】:Tourism, culture and interaction with society: Relationships between tourism, local communities and society
- 【9】:World Heritage and natural disasters: Understanding the relationships between disasters, tourism, and culture

protection

【10】:World Heritage, conflicts and destructions, peace and intercultural understanding: Exploring the relationships between culture protection, conflicts, intercultural understanding and reconciliation

【11】:Cultural tourism and developing countries: Tourism promotion for development in developing countries

【12】:Tourism and education: Educating the public and ourselves for the promotion of sustainable tourism

【13】:Tourism and cultural resources: Cultural protection or utilisation?

【14】:In-class final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to revise what was covered in the class every week, double check their understanding of key concepts, organise their thoughts about issues that were covered in the class, and write down questions, if any, which should be asked in the next class. When an assignment is given, students are expected to come to the next class, fully prepared.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in the class and discussions:30% Reaction papers:30% In-class final test:40%

テキスト / Textbooks

There are no required textbooks for this class.

参考文献 / Readings

UNESCO Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage UNESCO 1972

UNESCO Operational Guidelines for the Implementation of the World Heritage Convention UNESCO 2023

Kaori Kawakami, Kai Weise, Paul Dingwall Understanding World Heritage in Asia and the Pacific: The Second Cycle of Periodic Reporting 2010–2012, World Heritage Paper Series no.35 UNESCO 2012

Suggestions for further reading will be provided during the class as needed.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students are expected to be able to communicate in English to follow the course. Most importantly, they are expected to be willing to express their opinions in discussions.

観光学特別演習1(A)

Special Seminar on Tourism 1(A)

河上 夏織(KAWAKAMI KAORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA551
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否			
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連			
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光促進と、観光資源の一つである遺産保護をめぐる課題、そしてその課題解決のための視点について理解し、観光開発や遺産保護の現場で役立つ基本的知識を身につける。

The objectives of this course are to understand the relationships and challenges between tourism promotion and heritage protection as a tourism resource, and the perspectives to solve these challenges, so as to gain basic knowledge which will be useful in the field of tourism promotion and heritage management.

授業の内容 / Course Contents

世界遺産をはじめとする遺産は、世界各地で保護が促進されると共に、重要な観光資源の一つとして利用されている。保護の対象となる遺産の概念は年々変化し、文化遺産一つを取っても単なる歴史的建造物を指すだけでなく、文化的景観、無形遺産、産業遺産等さまざまな遺産を含むようになり、また、それらは観光資源として活用されている。

この授業では、文献講読を基にしたプレゼンテーションとディスカッションを通じて、遺産、その中でも特に文化遺産を取り上げ、遺産とは何か、遺産と社会の関係、そして我々は何を守らねばならないのか、そもそも守る必要があるのか、あるのであれば何を守るのか、について考える。

The protection of heritage (such as World Heritage) has been promoted all over the world, while it is also utilised as one of the important tourism resources. The concept of “heritage” has evolved over the years, and cultural heritage now encompasses not only historic buildings and monuments but also various types of heritage including cultural landscape, intangible heritage, industrial heritage, all of which are used as tourism resources.

This class, through presentations and discussions based on literature readings, will focus on heritage - cultural heritage in particular - and considers what heritage is, the relationships between heritage and society, and what needs to be protected, whether they need to be protected, and if so, what exactly.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【3】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【4】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【5】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【6】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【7】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【8】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【9】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【10】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【11】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【12】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション

【13】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献は必ず予習してから授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、ディスカッションへの参加状況等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

ロドニー・ハリソン 文化遺産(ヘリテージ)といかに向き合うのか―「対話的モデル」から考える持続可能な未来 ミネルヴァ書房 2023 9784623095476

参考文献 / Readings

授業内で適宜提示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語の文献も使用するため、英語の読解力が求められる。また、ディスカッションを重視するため、積極的に発言する意欲が期待されている。

観光学特別演習1(B)

Special Seminar on Tourism 1(B)

河上 夏織(KAWAKAMI KAORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA552
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否			
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連			
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光促進と観光資源の一つである遺産の保護をめぐる課題、そしてその課題解決の方策について考え、将来実務の現場で、観光開発や遺産保護に携わる際に役立つ基本的知識と視点を身につける。

The objective of this course is to understand the relationships and challenges between tourism promotion and heritage protection as a tourism resource. By exploring how to solve these challenges, it will help students to gain basic knowledge and perspectives that will be useful in future when they decide to be involved in the practical field of tourism promotion and/or heritage management.

授業の内容 / Course Contents

世界遺産をはじめとする遺産は、世界各地で保護が促進されると共に、重要な観光資源の一つとして利用されている。また、文化観光やヘリテージ・ツーリズムも盛んである。それでは、観光促進と遺産保護・管理はそれぞれどのような目的と原則の下にあり、相互にどのような影響を与えているのだろうか。両者のバランスを保つにはどのような課題があるのだろうか。

この授業では、文献講読を基にしたプレゼンテーションとディスカッションを通じて、観光促進と遺産保護・管理をめぐる課題と、その解決のための基本的視点を学ぶ。

The protection of heritage (such as World Heritage) has been promoted all over the world, while it is also utilised as one of the important tourism resources for cultural tourism and heritage tourism, which are quite popular. Then, under what kind of principles are tourism promotion and heritage protection and management operating, and what influences do they have on each other? What kind of challenges are there to make a balance between the two?

This class, through presentations and discussions based on literature readings, will explore challenges tourism promotion and heritage protection and management face, and learn basic perspectives on how to resolve them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【3】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【4】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【5】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【6】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【7】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【8】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【9】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【10】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【11】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【12】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション

【13】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献は必ず予習してから授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、ディスカッションへの参加状況等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

Du Cros, Hilary and Bob McKercher Cultural Tourism Routledge 2020 9780367229016

参考文献 / Readings

授業内で適宜提示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語の文献を多用するため、英語の読解力が求められる。また、ディスカッションを重視するため、積極的に発言する意欲が期待されている。

観光学特別演習2(A)

Special Seminar on Tourism 2(A)

河上 夏織(KAWAKAMI KAORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA553
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否			
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連			
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光促進と観光資源の一つである遺産の保護をめぐる課題、そしてその課題解決の方策について再検討し、将来実務の現場で、観光開発もしくは遺産保護に携わる際に役立つ視点を身につける。

The objective of this course is to reexamine the relationships and challenges between tourism promotion and heritage protection as a tourism resource. By exploring how to solve these challenges, it will help students to gain perspectives that will be useful in future when they decide to be involved in the practical field of tourism promotion and/or heritage management.

授業の内容 / Course Contents

世界遺産をはじめとする遺産は、世界各地で保護が促進されると共に、重要な観光資源の一つとして利用されている。また、文化観光やヘリテージ・ツーリズムも盛んである。それでは、観光促進と遺産保護・管理はそれぞれどのような目的と原則の下にあり、相互にどのような影響を与えているのだろうか。両者のバランスを保つにはどのような課題があるのだろうか。

この授業では、文献講読を基にしたプレゼンテーションとディスカッションを通じて、観光促進と遺産保護・管理をめぐる課題を分析し、その解決のための視点の再検討を行う。

The protection of heritage (such as World Heritage) has been promoted all over the world, while it is also utilised as one of the important tourism resources for cultural tourism and heritage tourism, which are quite popular. Then, under what sorts of principles are tourism promotion and heritage protection and management operating, and what influences do they have on each other? What kind of challenges are there to make a balance between the two?

This class, through presentations and discussions based on literature readings, will explore and analyse the challenges tourism promotion and heritage protection and management face, and reexamine the perspectives on how to resolve them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【3】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【4】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【5】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【6】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【7】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【8】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【9】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【10】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション

- 【11】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【12】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【13】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献は必ず予習してから授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、ディスカッションへの参加状況等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

Du Cros, Hilary and Bob McKercher Cultural Tourism Routledge 2020 9780367229016

参考文献 / Readings

授業内で適宜提示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語の文献を多用するため、英語の読解力が求められる。また、ディスカッションを重視するため、積極的に発言する意欲が期待されている。

観光学特別演習2(B)

Special Seminar on Tourism 2(B)

河上 夏織(KAWAKAMI KAORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA554
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否			
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連			
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光促進と観光資源の一つである遺産の保護をめぐる課題、そしてその課題解決の方策について考え、将来実務の現場で、観光開発もしくは遺産保護に携わる際に役立つ視点を身につける。

The objective of this course is to understand the relationships and challenges between tourism promotion and heritage protection as a tourism resource. By exploring how to solve these challenges, it will help students to gain perspectives that will be useful in future when they decide to be involved in the practical field of tourism promotion and/or heritage management.

授業の内容 / Course Contents

世界遺産をはじめとする遺産は、世界各地で保護が促進されると共に、重要な観光資源の一つとして利用されている。また、文化観光やヘリテージ・ツーリズムも盛んである。それでは、実際の現場で、観光促進と遺産保護・管理に関してどのような課題が起こりうるのだろうか。またその原因は何なのだろうか。

この授業では、文献講読を基にしたプレゼンテーションとディスカッションを通じて、観光促進と遺産保護・管理をめぐる課題の実例を参照し、その解決のための視点や、問題を未然に防ぐための方法について考える。

The protection of heritage (such as World Heritage) has been promoted all over the world, while it is also utilised as one of the important tourism resources for cultural tourism and heritage tourism, which are quite popular. Then, what kinds of challenges do tourism promotion and heritage protection and management can face on the ground? And what are their causes?

This class, through presentations and discussions based on literature readings, will examine actual cases of challenges of tourism promotion and heritage protection and management, and think about the perspectives on how to resolve or prevent the challenges.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【3】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【4】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【5】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【6】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【7】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【8】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【9】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【10】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【11】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【12】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション

【13】: 文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献は必ず予習してから授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、ディスカッションへの参加状況等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

授業内で適宜提示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語の文献を多用するため、英語の読解力が求められる。また、ディスカッションを重視するため、積極的に発言する意欲が期待されている。

観光学特別演習1(A)

Special Seminar on Tourism 1(A)

川井 千敬(KAWAI CHIHAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA555
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否			
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連			
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市空間の読解や地域資源の発掘の基礎的な視点を学び、都市の観光的な課題の把握と分析の方法を習得する。
Students will learn basic perspectives on reading urban spaces and discovering local resources, and acquire methods for understanding and analyzing tourism issues.

授業の内容 / Course Contents

具体的な都市や地域を対象に、そこで起きている現象を読み解き、その変化をコントロール・活用してよりよい空間を創造するための方法を考える。

実際の都市を訪れ、現地調査やヒアリングなどからその都市を把握することも予定している。

Students will focus on a specific city and consider ways to control and use changes in that city to create a better urban space.

In addition, the class plans to understand the city through field research and interviews.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 都市空間の読み方(1)
- 【3】: 都市空間の読み方(2)
- 【4】: 都市空間の課題把握の方法(1)
- 【5】: 都市空間の課題把握の方法(2)
- 【6】: 都市空間の変化を分析する方法(1)
- 【7】: 都市空間の変化を分析する方法(2)
- 【8】: 都市空間の変化を表現する方法(1)
- 【9】: 都市空間の変化を表現する方法(2)
- 【10】: 文献精読と議論(1)
- 【11】: 文献精読と議論(2)
- 【12】: 対象地の課題抽出(1)
- 【13】: 対象地の課題抽出(2)
- 【14】: 対象地の課題抽出の報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

個人またはグループでの発表に向けた入念な準備を期待します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミへの取り組み、提出物の内容および発表から総合的に判断:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜紹介します。

観光学特別演習1(B)

Special Seminar on Tourism 1(B)

川井 千敬(KAWAI CHIHAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA556
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否			
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連			
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市空間の読解や地域資源の発掘の基礎的な視点を学び、都市の観光的な課題の把握と分析の方法を習得する。
Students will learn basic perspectives on reading urban spaces and discovering local resources, and acquire methods for understanding and analyzing tourism issues.

授業の内容 / Course Contents

具体的な都市や地域を対象に、そこで起きている現象を読み解き、その変化をコントロール・活用してよりよい空間を創造するための方法を考える。
実際の都市を訪れ、現地調査やヒアリングなどからその都市を把握することも予定している。
Students will focus on a specific city and consider ways to control and use changes in that city to create a better urban space.
In addition, the class plans to understand the city through field research and interviews.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:対象地の文献調査(1)
- 【2】:対象地の文献調査(2)
- 【3】:対象地の文献調査(3)
- 【4】:対象地の資源発掘調査(1)
- 【5】:対象地の資源発掘調査(2)
- 【6】:対象地の資源発掘調査(3)
- 【7】:現地調査の計画
- 【8】:現地調査の報告
- 【9】:観光都市の将来を構想する(1)
- 【10】:観光都市の将来を構想する(2)
- 【11】:観光都市の将来を構想する(3)
- 【12】:観光都市の将来を構想する(4)
- 【13】:成果報告
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

個人またはグループでの発表に向けた入念な準備を期待します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミへの取り組み、提出物の内容および発表から総合的に判断:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜紹介します。

観光学特別演習2(A)

Special Seminar on Tourism 2(A)

川井 千敬(KAWAI CHIHAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA557
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否			
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連			
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市空間の読解や地域資源の発掘の方法を習得し、都市の観光的な課題の解決や魅力を伸ばしていくための方策を考える。

Students will learn how to read urban spaces and discover local resources, and then consider ways to solve tourism problems and develop their tourist attractions.

授業の内容 / Course Contents

具体的な都市や地域を対象に、そこで起きている現象を読み解き、その変化をコントロール・活用してよりよい空間を創造するための方法を考える。

実際の都市を訪れ、現地調査やヒアリングなどからその都市を把握することも予定している。

Students will focus on a specific city and consider ways to control and use changes in that city to create a better urban space.

In addition, the class plans to understand the city through field research and interviews.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 都市空間の読み方(1)
- 【3】: 都市空間の読み方(2)
- 【4】: 都市空間の課題把握の方法(1)
- 【5】: 都市空間の課題把握の方法(2)
- 【6】: 都市空間の変化を分析する方法(1)
- 【7】: 都市空間の変化を分析する方法(2)
- 【8】: 都市空間の変化を表現する方法(1)
- 【9】: 都市空間の変化を表現する方法(2)
- 【10】: 文献精読と議論(1)
- 【11】: 文献精読と議論(2)
- 【12】: 現地調査のための対象地分析(1)
- 【13】: 現地調査のための対象地分析(2)
- 【14】: 現地調査の計画

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

個人またはグループでの発表に向けた入念な準備を期待します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミへの取り組み、提出物の内容および発表から総合的に判断:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜紹介します。

観光学特別演習2(B)

Special Seminar on Tourism 2(B)

川井 千敬(KAWAI CHIHAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA558
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否			
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連			
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市空間の読解や地域資源の発掘の方法を習得し、都市の観光的な課題の解決や魅力を伸ばしていくための方策を考える。

Students will learn how to read urban spaces and discover local resources, and then consider ways to solve tourism problems and develop their tourist attractions.

授業の内容 / Course Contents

具体的な都市や地域を対象に、そこで起きている現象を読み解き、その変化をコントロール・活用してよりよい空間を創造するための方法を考える。

実際の都市を訪れ、現地調査やヒアリングなどからその都市を把握することも予定している。

Students will focus on a specific city and consider ways to control and use changes in that city to create a better urban space.

In addition, the class plans to understand the city through field research and interviews.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 現地調査の振り返り
- 【2】: 現地調査の報告
- 【3】: 観光都市における課題把握(1)
- 【4】: 観光都市における課題把握(2)
- 【5】: 観光都市における課題把握(3)
- 【6】: 観光都市における課題把握(4)
- 【7】: 観光都市における課題把握(5)
- 【8】: 観光都市の将来を構想する(1)
- 【9】: 観光都市の将来を構想する(2)
- 【10】: 観光都市の将来を構想する(3)
- 【11】: 観光都市の将来を構想する(4)
- 【12】: 観光都市の将来を構想する(5)
- 【13】: 成果報告
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

個人またはグループでの発表に向けた入念な準備を期待します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミへの取り組み、提出物の内容および発表から総合的に判断:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜紹介します。

観光デザイン論

Tourist Design

日本を広く世界からの目線で俯瞰し、世界に向けた今後の観光産業発展へのヒントを探る。

マーク 伊東 (ITO MARK)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA602
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目		

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ在住 25 年、キャリア 40 年以上の現役ホテルインテリアデザイナーの経験から観光産業全般のあらゆるデザインを国際的な視点から議論し解説する。同時に、日本の文化と世界の文化を比較しながら「何故？」を学ぶ

From the experience of an active hotel interior designer who has lived in the United States for 25 years and has a career of more than 40 years, he discusses and explains all designs of the tourism industry from an international perspective. Learn "why?" While comparing Japanese culture and world culture

授業の内容 / Course Contents

日本では観光ビジネス全般が中流主義で占められ、均一化されたサービスや観光商品が中心になっているように感じるが、世界では更に幅広い観光プロダクトが提供されている。

昨今のホテル開発ブーム、特に宿泊特化や簡易宿泊施設が爆発的に増えた。それは何故かという疑問を議論し解説する。

日本の観光ビジネス(観光産業)は外貨を日本国内で稼ぐという意味で大きな輸出産業であり、将来の日本の基幹産業になるという事を改めて理解し、世界レベルで幅広い観光プロダクトを開発するための発想とは何かを模索し議論する。そして、観光産業は非常に幅広い産業であり、特に地方では地元根付いた産業、すなわち経済を創生出来る将来的に大きな可能性を持つ産業であることも理解する。

同時に、日本という言語的にも地理的にも特異性を持つ日本の他に類を見ない観光を世界に広く認知させるために何が出来るかを議論する。

また、日本の観光産業と海外の観光産業を広く比較をしながら「世界の中の日本」という目線で日本の産業を俯瞰し、将来の為に議論する。

In Japan, the tourism business as a whole is dominated by middle-class principles, and it seems that uniform services and tourism products are at the center, but the world offers a wider range of tourism products.

The recent boom in hotel development, especially accommodation oriented and simple accommodation facilities, has exploded. Discuss and explain the question of why it is.

At the same time, Japan's tourism business (tourism industry) is a large export industry in the sense that it earns foreign currency in Japan, and once again understands that it will become Japan's core industry in the future and develops a wide range of tourism products at the world level. Explore and discuss what the idea is for. It was.

We also understand that tourism is a very broad industry, especially in rural areas, which is locally rooted, that is, an industry with great potential in the future that can create an economy.

In addition, while comparing the Japanese tourism industry and the overseas tourism industry widely, we will take a bird's-eye view of the Japanese industry from the perspective of "Japan in the world" and discuss it for the future.

【1】:オリエンテーション・概論

講師のホテルデザイナーとしての経験や作品を紹介し、ホテルデザインについて理解する。

そして、観光デザインとは？そして観光産業でデザインの果たす役割を議論する。

デザインとは建築やインテリアのみでなく、広く文化に関わっていることを学ぶための準備。

Orientation / Introduction

Introduce the instructor's experience and works as a hotel designer and understand hotel design.

And what is tourism design? And we will discuss the role of design in the tourism industry.

Design is not just about architecture and interiors, but preparation for learning that it is widely involved in culture.

【2】:観光(旅行)はいつ始まるか、そして何を求めてゲストは旅に出るか。観光に関わるデザインとはどういうものがあるのかを議論する。ホテル(宿泊施設)は文化であるということを学ぶ。

ゲストは何を期待しているかを議論する。

旅に出るときの期待とは何か、そしてそれらを「デザインというツール」を使って「ホスピタリティー」という商品を提供することの概念を学ぶ。

When does tourism (travel) begin, and what do guests want to go on a journey? Discuss what kind of design is related to tourism. Learn that a hotel (accommodation) is a culture.

Discuss what the guest expects.

Learn what the expectations are when you go on a journey, and the concept of providing them with a product called "hospitality" using a "tool called design".

【3】:デザインという観点から観光と文化、そしてグレードセグメンテーションについて。

ゲストの文化(地域と宗教)エリア・グループ構成・家族構成・生活レベル・目的・ライフスタイル・学歴などで、ホスピタリティー産業はどのような「商品」を提供しているかを学ぶ。

Tourism and culture from a design perspective, and grade segmentation.

Learn what kind of "products" the hospitality industry offers in terms of guest culture (region and religion) area, group composition, family composition, living level, purpose, lifestyle, educational background, etc.

【4】:ソーシャルクラスとホテルクラス、そして滞在型ホテルとトランジエントタイプの短期型、都市型とリゾートなど施設とデザインの多様性を解説する。ゲストの多様性を理解し、観光プロダクトの開発のヒントになるよう議論する。

ライフスタイルホテルの出現。

すなわち、価格帯の高低のみならず、生活スタイルに合わせた観光が出現し、同時に宿泊施設も多様化して来ていることを学ぶ。ソーシャルクラスとライフスタイルが如何に密接に関わっているかを理解する。

Explain the variety of facilities and designs such as social class and hotel class, stay type hotel and transient type short-term type, urban type and resort type. Understand the diversity of guests and discuss to be a hint for the development of tourism products.

The emergence of lifestyle hotels will be discussed also.

In other words, we will learn that not only the price range is high and low, but also tourism that suits lifestyles is emerging, and at the same time, accommodation facilities are diversifying. Understand how social classes and lifestyle are closely related.

【5】:ホームアウェイフロムホームの概念。そしてWorkshop 説明

Home Away From Home の概念。ライフスタイルをシームレスに保ちつつ旅行をすることの意味と商品内容をケーススタディーによって解説する。

Home away from the concept of home. And Workshop explanation

Home Away From Home concept. A case study will explain the meaning and product content of traveling while keeping the lifestyle seamless.

【6】:ホテルが提供する各種のサービスの種類とそれに伴うデザインとグレード表現

Accommodation / F&B / Banquet / Relaxation / Sports & Outdoor など。

ホテル施設の中、そして周辺でのアクティビティーなどをスタディーする。

同時に、将来大きく観光産業に関わるであろう「自動運転」「AI」「MaaS」「シェアリングエコノミー」などをスタディーする。

Types of various services provided by the hotel and the associated design and grade expression

(Accommodation / F & B / Banquet / Relaxation / Sports & Outdoor)

Study activities in and around the hotel facilities.

At the same time, we will study "automatic driving," "AI," "MaaS," "sharing economy," etc., which will be greatly involved in the tourism industry in the future.

【7】:Workshop 説明

Workshop 課題(世界の1か所を考察候補と設定する)をクラスで共有し、そこから得られた情報やヒント、学びをクラスで議論し理解することを目的に行う Workshop。

各自自由に旅行先を選び、それを題材にウェブ上で情報収集の Workshop を行う。

候補地別にグループ分けしたうえで各グループがその旅行先の現状を考察したうえで、将来いかに観光産業を活性化出来るかの可能性を探り、提案する。

目的は、日本の個々の観光ビジネスを如何にすれば広く世界に認知させることが出来るのかを研究する。

このときに、日本語サイトと外国語サイトとを調査し、情報の内容や、情報量、そして表現方法などを読み解き、どのような違いがあり、それはなぜかを議論する。また、そこから得られるヒントを将来の観光産業に生かす為のヒントを議論する。

Workshop explanation

Workshop A workshop for the purpose of sharing assignments (setting one place in the world as a candidate for consideration) in the class and discussing and understanding the information, hints, and learning obtained from them in the class.

Each person is free to choose a travel destination and hold an information gathering workshop on the web based on that.

After grouping by candidate site and considering the current situation of the travel destination, each group explores and proposes the possibility of revitalizing the tourism industry in the future.

The purpose is to study how Japan's individual tourism business can be widely recognized by the world.

At this time, we will investigate the Japanese site and the foreign language site, read the content of the information, the amount of information, the expression method, etc., and discuss what kind of difference there is and why. In addition, we will discuss hints for utilizing the hints obtained from them in the future tourism industry.

【8】:Workshop 共同作業日

【9】:Workshop Presentation and discussion 発表及び議論

【10】:Workshop Presentation and discussion 発表及び議論

【11】:インテリアデザイン、建築デザインと環境デザイン

インテリアデザインの役割とその内容を解説する。

建築デザインでは、建築史、そして日本のホテルの歴史を解説する。

Interior design, architectural design and environmental design

Explain the role of interior design and its contents.

In Architectural Design, we will explain the history of architecture and the history of Japanese hotels.

【12】:LEED & WELL (Leadership in Energy and Environmental Design) SDG's、バリアフリーデザインとアメリカの ADA (Americans Disabilities Act)を通し、環境デザインの役割とその内容を解説する。そして、観光産業の中にどのような社会的貢献が組み込まれてきているかを解説する。

Through LEED & WELL (Leadership in Energy and Environmental Design) SDG's, barrier-free design and ADA (Americans Disabilities Act) in the United States, we will explain the role of environmental design and its contents. Then, I will explain what kind of social contributions have been incorporated into the tourism industry.

【13】:観光産業に関わる「デザイン」及び「レスポンシブル・ツーリズム」全般を学ぶ。

ウェブデザイン、パンフレット、ロゴマーク、広告、ユニフォーム、サイン、メニュー等無数のデザインが総合的に観光産業や宿泊施設を構成していることも学ぶ。

Learn about "design" and "responsive tourism" related to the tourism industry in general. It was

You will also learn that innumerable designs such as web design, pamphlets, logo marks, advertisements, uniforms, signs, menus, etc. comprehensively constitute the tourism industry and accommodation facilities.

【14】:まとめ

Wrapping up and summarizing

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

世界の観光産業関連ビジネスの研究及び海外の WEB サイトの研究。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 / 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

観光感性論

Sensuous analysis of tourism

観光計画における心理学的・行動論的視点の涵養

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA603
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光者・サービス提供者の行動・心理を理解するうえで、また観光者の立場からみた観光地づくりを進めるうえで理解しておくべき心理学的・行動論的な見方を事例に即して学ぶことを通して、現代社会における観光現象の役割や意義を理解するための視点を習得し、そのための感性を養う。

By understanding the behavior and psychology of tourists and service providers, as well as studying the psychological and behavioral perspectives we should heed in promoting the destination planning from the standpoint of tourists, students will gain perspectives to understand tourism phenomena, and cultivate sensitivity.

授業の内容 / Course Contents

担当者による「観光行動論」の内容をふまえ、よりソフト面での計画論的な視点について、観光現象を理解するための感性の役割と重要性にふれつつ講述する予定である。

講義は講義資料と視覚教材を使用しつつ進める。講義中に質問したり、リアクションペーパーの作成・提出を求めることがある。

Based on what the instructor covered in “Human Behavior in Tourism”, we plan to examine the role and importance of sensibility for the understanding of sightseeing phenomena, from the perspective of planning theory”.

Lectures will be given using lecture materials and visual course materials. During class, students may be asked questions or may be asked to write and submit reaction papers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:観光とアメニティ 1
- 【3】:観光とアメニティ 2
- 【4】:視覚特性と景観体験 1
- 【5】:視覚特性と景観体験 2
- 【6】:観光における空間認知
- 【7】:「歩く観光」について 1
- 【8】:「歩く観光」について 2
- 【9】:自然観光の効果 1
- 【10】:自然観光の効果 2
- 【11】:五感を刺激する観光 1
- 【12】:五感を刺激する観光 2
- 【13】:観光における「感動」の分析
- 【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

とくに使用せず, 毎時間講義資料を配布する。

参考文献 / Readings

橋本俊哉 観光回遊論 風間書房 1997

テーマごとの参考文献は講義資料にその都度記載する。

観光リスクマネジメント

Tourist Risk Management

小池 修司(KOIKE SHUJI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA604
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光産業において発生しうる法令違反等のリスクにどう対応するべきか、事例演習を通じて考察する。

We will examine how to respond to risks such as legal violations that may occur in the tourism industry, using case studies.

授業の内容 / Course Contents

各回テーマとなる法令等について講義をした上で、これに関連する事例を用いた演習(小レポート)を行う。また、演習での各自の考えを講義中に発表する機会を各回に設ける。

Lectures will be on the topics that constitute the laws and regulations etc., with seminars conducted using related case studies (small tests). In addition, seminars will provide the opportunity for students to present thoughts they have summarized.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義ガイダンス, リスクマネジメントとは何か
- 【2】: 個人情報保護法
- 【3】: 消費者契約法
- 【4】: 不当景品類及び不当表示防止法
- 【5】: 独占禁止法
- 【6】: クレーム・カスタマーハラスメントへの対応
- 【7】: 企業不祥事への対応(1)～不祥事発生時の対応のあり方～
- 【8】: 企業不祥事への対応(2)～従業員の不祥事～
- 【9】: 宿泊契約(1)～旅館業法等による規制～
- 【10】: 宿泊契約(2)～ホテルの安全配慮義務～
- 【11】: 旅行契約(1)～旅行業者の手配義務～
- 【12】: 旅行契約(2)～旅行業者の安全確保義務～
- 【13】: ビジネスモデルと公的規制
- 【14】: 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の小レポート及び授業での発言:60% 最終テスト割合:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義レジュメ及び資料の配布、各回の小レポート提出のために Canvas LMS を使用する。

GIS演習

GIS Practice

杜 国慶(DU GUOQING)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA607
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS1000
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地図作成の基礎と GIS (地理情報システム) の操作方法を習得し、観光統計や観光対象の立地、観光行動などの分析を行えるようになる。

Students will learn the basic knowledge of mapping as well as how to operate GIS (geographical information system), and students will be able to analyze tourism statistics, location of tourism attractions, tourist behaviors.

授業の内容 / Course Contents

コンピューターとインターネットの発達した現代社会において、GIS は社会のあらゆる現象に活用されるようになった。観光も例外ではなく、企業のマーケティングや自治体の政策立案・まちづくりなどで用いられている。本授業では Arc GIS を使用し、GIS の基礎的操作と地図表現を学習する。また、GIS を活用した観光統計、観光対象、観光行動の地図化の手順を習得するとともに、分析結果をまとめた授業課題を作成する。授業の後半では習得した技術を活用し、最終課題を各自作成する。

With the development of computers and the Internet in our modern society, GIS has come to be used in every kind of social phenomena. Tourism is no exception, and GIS is used in corporate marketing and municipal policy drafting, urban planning, etc. In this course, we will use Arc GIS as we learn basic GIS operation and map expression. In addition, we will learn procedures for the mapping of tourism statistics, tourism attractions, and tourist behavior using the GIS. We will create a class project summarizing the results of these analyses. In the latter half of the course, students will apply the techniques they have learned to create their own final report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: GIS と地理空間情報の概要
- 【2】: 地理空間情報の取得と地図化
- 【3】: 地図表現
- 【4】: データ処理
- 【5】: 観光統計の地図化
- 【6】: 空間検索と属性検索
- 【7】: 観光統計分析
- 【8】: 観光対象の分布図の作成
- 【9】: フィーチャーの作成
- 【10】: バッファ
- 【11】: 観光対象の立地分析
- 【12】: 観光行動の地図化
- 【13】: 最終課題作成 1
- 【14】: 最終課題作成 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

学習した内容を必ず復習する。毎回、課題を課すため、十分な学習時間を確保すること。遅刻と欠席は極力避けること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題(複数回):60% 最終課題:40%

テキスト / Textbooks

資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

注意事項(検索結果画面)

人数制限科目(25名)

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

小野 良平(ONO RYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA611
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープについて、その概念について理解することに始まり、それらの価値の評価の考え方、さらにはその保全・活用のあり方に関して、基礎的な知識を得るとともに研究の課題や方法について学ぶ。

Through understanding concepts related to landscapes in tourist and other regions, students will gain basic knowledge about approaches to evaluating their value, as well as their conservation and utilization. At the same time, students will study research issues and methods.

授業の内容 / Course Contents

観光地を風景や景観およびランドスケープという観点から捉える視点を持って、風景や景観論に関連する基本的な文献を講読し、風景・景観の評価や保全に関する基礎的な知識を得るとともに、議論を通してその理解を深めさらなる課題について考察する。

Students will develop a perspective to understand tourist sites from the point of view of landscape, read basic literature related to the theory of landscape, and gain basic knowledge relating to their evaluation and conservation. At the same time, students will deepen their understanding through discussion and consider further issues.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 自己紹介(私の好きな風景・観光地)(1)
- 【3】: 自己紹介(私の好きな風景・観光地)(2)
- 【4】: 自己紹介(私の好きな風景・観光地)(3)
- 【5】: 自己紹介(私の好きな風景・観光地)(4)
- 【6】: 文献講読と議論(1)
- 【7】: 文献講読と議論(2)
- 【8】: 文献講読と議論(3)
- 【9】: 文献講読と議論(4)
- 【10】: 文献講読と議論(5)
- 【11】: 文献講読と議論(6)
- 【12】: 文献講読と議論(7)
- 【13】: 文献講読と議論(8)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

小野 良平(ONO RYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA612
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

身近な観光地を対象に、観光地の地域資源を風景や景観およびランドスケープなどの観点から調査し評価するための方法について学ぶ。

Using familiar tourist sites as a target, students will learn survey and evaluation methods for the local resources of tourist sites, from the perspective of landscapes.

授業の内容 / Course Contents

観光地をはじめとする地域を風景・景観・ランドスケープという観点からとらえて評価する方法について概要を紹介する。その上で参加者はグループに分かれて東京とその近郊の範囲内で観光地とみなされる地域・地区を一か所選び、景観を中心とした地域資源評価のための調査計画を立て、調査を実施し、その結果をまとめて発表する。

Beginning with tourist sites, I will introduce an outline of methods for evaluating regions from the point of view of landscape. In addition, each group of participants will select one area or district in Tokyo and the surrounding area that is a tourist site, make a survey plan for evaluating the local resources with a focus on landscapes, carry out their plan, and present the results.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 観光地景観資源調査の考え方(1)
- 【3】: 観光地景観資源調査の考え方(2)
- 【4】: 実地調査計画(1)
- 【5】: 実地調査計画(2)
- 【6】: 実地調査計画(3)
- 【7】: 実地調査中間報告(1)
- 【8】: 実地調査中間報告(2)
- 【9】: 実地調査中間報告(3)
- 【10】: 実地調査最終報告(1)
- 【11】: 実地調査最終報告(2)
- 【12】: 実地調査最終報告(3)
- 【13】: 実地調査最終報告(4)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

木村 竜也 (KIMURA TATSUYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA613
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光地や地域の課題発見ならびに解決策の提案のための視点について学ぶとともに、現状の把握ならびに分析の方法を習得する。

Students will uncover issues in tourist sites and areas, learn perspectives for proposed solutions, and study the current situation and analysis methods.

授業の内容 / Course Contents

関連文献や既往研究の講読により基礎的な知識やスキルの習得を行う。また、地域の魅力を発見し、それらを高めるための取り組みについて対象地を訪れて調査を実施するとともに、文献調査と合わせて課題発見のための基礎的な項目の把握や調査方法についての理解を深める。

なお、参加者には主体的に討議に参加することを求める。

Through readings of related literature and past research, students will gain basic knowledge and skills. In addition, students will discover the appeal of an area, implement field surveys and literature surveys of their target area regarding initiatives to increase that appeal, and deepen their understanding of the basic items for identifying issues and survey methods.

Note that participants will be required to participate subjectively in discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 発表1(参加者の興味関心)
- 【3】: 図書館での情報検索講習会
- 【4】: 現地調査の方法についての文献講読1
- 【5】: 現地調査の方法についての文献講読2
- 【6】: 現地調査の方法についての文献講読3
- 【7】: 発表2(地域紹介1)
- 【8】: 発表3(地域紹介2)
- 【9】: 調査準備1(調査テーマおよび調査対象地の選定1)
- 【10】: 調査準備2(調査テーマおよび調査対象地の選定2)
- 【11】: 調査準備3(調査対象地の情報収集と共有、調査項目の検討)
- 【12】: 調査準備4(調査項目の確定、行程の調整)
- 【13】: 調査準備5(調査計画の点検)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	○

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配付された資料には必ず事前に目を通して授業に臨むこと。また、各自・グループの作業成果を発表する際には、入念な準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミ中の発表, 討論への参加状況, およびレポートを総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

木村 竜也 (KIMURA TATSUYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA614
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光地や地域の課題発見ならびに解決策の提案のための視点について学ぶとともに、現状の把握ならびに分析の方法を習得する。

Students will uncover issues in tourist sites and areas, learn perspectives for proposed solutions, and study the current situation and analysis methods.

授業の内容 / Course Contents

関連文献や既往研究の講読により基礎的な知識やスキルの習得を行う。また、地域の魅力を発見し、それらを高めるための取り組みについて対象地を訪れて調査を実施するとともに、文献調査と合わせて課題発見のための基礎的な項目の把握や調査方法についての理解を深める。

なお、参加者には主体的に討議に参加することを求める。

Through readings of related literature and past research, students will gain basic knowledge and skills. In addition, students will discover the appeal of an area, implement field surveys and literature surveys of their target area regarding initiatives to increase that appeal, and deepen their understanding of the basic items for identifying issues and survey methods.

Note that participants will be required to participate subjectively in discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 調査の取りまとめ1(報告書の作成1)
- 【3】: 調査の取りまとめ2(報告書の作成2)
- 【4】: 調査の取りまとめ3(発表)
- 【5】: 論文の検索・取得方法について
- 【6】: 文献講読1(論文)
- 【7】: 文献講読2(論文)
- 【8】: 文献講読3(論文)
- 【9】: 文献講読4(論文)
- 【10】: 観光地の魅力の発見と成立に関する調査1
- 【11】: 観光地の魅力の発見と成立に関する調査2
- 【12】: 観光地の魅力の発見と成立に関する調査3
- 【13】: 観光地の魅力の発見と成立に関する調査4
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配付された資料には必ず事前に目を通して授業に臨むこと。また、各自・グループの作業成果を発表する際には、入念な準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミ中の発表, 討論への参加状況, およびレポートを総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹(AZUMA TORU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA615
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

2年の春学期では、まずマーケティングの考え方・進め方をしっかりと学びます。テキストの学習のほか、課題ごとに各自がレポートをまとめてプレゼンテーションを行い、それをもとに全員でディスカッションを行います。

通常の授業のほか、観光振興や地域づくりの現場を訪ねたり、ビジネスの最前線で活躍されている方をお招きした講演会なども計画しています。

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ①(テキストの学習とディスカッション)
- 【2】: 課題レポートの発表とディスカッション①(マーケティングとは)
- 【3】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ②(テキストの学習とディスカッション)
- 【4】: 課題レポートの発表とディスカッション②(製品差別化)
- 【5】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ③(テキストの学習とディスカッション)
- 【6】: 課題レポートの発表とディスカッション③(市場細分化)
- 【7】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ④(テキストの学習とディスカッション)
- 【8】: 課題レポートの発表とディスカッション④(製品ライフサイクル)
- 【9】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑤(テキストの学習とディスカッション)
- 【10】: 課題レポートの発表とディスカッション⑤(ブランド)
- 【11】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑥(テキストの学習とディスカッション)
- 【12】: 課題レポートの発表とディスカッション⑥(サービス・マーケティング)
- 【13】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑦(テキストの学習とディスカッション)

【14】:課題レポートの発表とディスカッション⑦(マーケティングの現代的課題)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習(ゼミナール)は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業における意欲・参加態度、発表の内容など:100%

テキスト / Textbooks

嶋 正・東 徹編著『現代マーケティングの基礎知識[改訂版]』創成社 2017 年

参考文献 / Readings

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹(AZUMA TORU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA616
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

2年の秋学期では、「ヒット商品の研究」がテーマです。各自が担当するヒット商品について調べ、ヒットした背景や企業の戦略などについて考察し、それをレポートにまとめてプレゼンテーションを行い、それをもとに全員でディスカッションを行います。

通常の授業のほか、観光振興や地域づくりの現場を訪ねたり、ビジネスの最前線で活躍されている方をお招きした講演会なども計画しています。

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ①(テキストの学習とディスカッション)
- 【2】: 課題レポートの発表とディスカッション①(ヒット商品の研究 1)
- 【3】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ②(テキストの学習とディスカッション)
- 【4】: 課題レポートの発表とディスカッション②(ヒット商品の研究 2)
- 【5】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ③(テキストの学習とディスカッション)
- 【6】: 課題レポートの発表とディスカッション③(ヒット商品の研究 3)
- 【7】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ④(テキストの学習とディスカッション)
- 【8】: 課題レポートの発表とディスカッション④(ヒット商品の研究 4)
- 【9】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑤(テキストの学習とディスカッション)
- 【10】: 課題レポートの発表とディスカッション⑤(ヒット商品の研究 5)
- 【11】: マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑥(テキストの学習とディスカッション)
- 【12】: 課題レポートの発表とディスカッション⑥(ヒット商品の研究 6)

- 【13】:マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑦(テキストの学習とディスカッション)
- 【14】:課題レポートの発表とディスカッション⑦(ヒット商品の研究 7)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習(ゼミナール)は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業における意欲・参加態度、発表の内容など:100%

テキスト / Textbooks

嶋 正・東 徹編著『現代マーケティングの基礎知識[改訂版]』創成社 2017 年

参考文献 / Readings

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA617
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グループワークの進め方やプレゼンテーションのスキルとともに、観光経営学の基礎的な考え方を理解する。

In addition to group work methods and presentation skills, students will understand the basic approach of tourism management.

授業の内容 / Course Contents

ビジネスプランをつくりあげるグループワークを通して、経営学の基礎的な考え方を理解するとともに、観光分野におけるイノベーションの課題を学ぶ。

Through group work to complete a business plan, students will understand the basic concepts of business management and learn about issues of innovation in the tourism field.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 観光というビジネス
- 【2】: 観光経営学の基礎: 市場をつくり出す企業活動
- 【3】: ビジネスプランニングの基礎: 事業計画書の意味
- 【4】: 観光経営学の基礎: 価値形成のマネジメント
- 【5】: ビジネスプランニングの基礎: ビジネスコンセプトの作り方
- 【6】: 観光経営学の基礎: 価値実現のマネジメント
- 【7】: ビジネスプランニングの基礎: プロダクトとイノベーション
- 【8】: 観光経営学の基礎: 事業組織のマネジメント
- 【9】: ビジネスプランニングの基礎: ニーズとウォンツ
- 【10】: 観光経営学の基礎: 市場のメカニズム
- 【11】: ビジネスプランニングの基礎: 資金計画と利益計画 1
- 【12】: 観光経営学の基礎: 消費者行動の論理
- 【13】: ビジネスプランニングの基礎: 資金計画と利益計画 2
- 【14】: 観光経営学の基礎: 競争構造の理解

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

簿記論の基礎について知識が不足している学生は、各自で学修すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

石井淳蔵/嶋口充輝/栗木契/余田拓郎 ゼミナール マーケティング入門 日本経済新聞出版社 2013

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA618
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グループワークの進め方やプレゼンテーションのスキルとともに、観光経営学の基礎的な考え方を理解する。

In addition to group work methods and presentation skills, students will understand the basic approach of tourism management.

授業の内容 / Course Contents

ビジネスプランをつくりあげるグループワークを通して、経営学の基礎的な考え方を理解するとともに、観光分野におけるイノベーションの課題を学ぶ。

Through group work to complete a business plan, students will understand the basic concepts of business management and learn about issues of innovation in the tourism field.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ビジネスプランニングの基礎:ビジネスの価値
- 【2】:観光経営学の基礎:取引関係の理解
- 【3】:ビジネスプランニングの基礎:中間報告 1
- 【4】:観光経営学の基礎:プロセスとしての競争
- 【5】:ビジネスプランニングの基礎:ビジネスの収支計算
- 【6】:観光経営学の基礎:産業のライフサイクル
- 【7】:ビジネスプランニングの基礎:中間報告 2
- 【8】:観光経営学の基礎:流通システムのマネジメント
- 【9】:ビジネスプランニングの基礎:事業計画書とプレゼンテーション 1
- 【10】:観光経営学の基礎:顧客関係のマネジメント
- 【11】:ビジネスプランニングの基礎:事業計画書とプレゼンテーション 2
- 【12】:観光経営学の基礎:ブランドのマネジメント
- 【13】:ビジネスプランニングの基礎:最終報告
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習について、授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終プレゼンテーション:50% 出席・授業への取り組み:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

杜 国慶(DU GUOQING)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA621
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光における地理学の重要性を体系的かつ包括的な方法で学習する。特に、都市観光に重点を置き、都市観光の意義を考える。

Students will learn the importance of geography in tourism through systematic and comprehensive methods. A special emphasis will be placed on urban tourism, and we will think about the significance of urban tourism.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、学生による都市観光に関する論文紹介を中心とする。この過程で、文献の読み方、レジュメのまとめ方、口頭発表やディスカッションの仕方等をはじめ、基本的なアカデミック・スキルを習得する。この授業は演習形式であり、学生が主体的にディスカッションに参加することを求める。

This class will focus on the introduction of academic papers related to urban tourism by students. Through this process, students will gain basic academic skills, such as how to read literature, how to summarize items in an outline, oral presentation and discussion skills, etc. This class is given in seminar style, and students will be required to participate subjectively in discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:GIS 実習 1
- 【3】:GIS 実習 2
- 【4】:GIS 実習 3
- 【5】:論文紹介 1
- 【6】:論文紹介 2
- 【7】:論文紹介 3
- 【8】:論文紹介 4
- 【9】:論文紹介 5
- 【10】:論文紹介 6
- 【11】:論文紹介 7
- 【12】:論文紹介 8
- 【13】:海外調査準備 1
- 【14】:海外調査準備 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

「都市観光論」を履修すること。発表者，共同発表者，サポーター，質問者等の役割分担を決める。役割に応じた準備を行なうこと。詳細は初回授業オリエンテーション時に説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容と質問内容:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

クリストファー・ロー アーバン・ツーリズム 近代文芸社 1997 4773358270

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS を利用する

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B
都市観光と観光地域の構造

杜 国慶(DU GUOQING)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA622
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光における地理学の重要性を体系的かつ包括的な方法で学習する。特に、都市観光に重点を置き、都市観光の意義を考える。

Students will learn the importance of geography in tourism through systematic and comprehensive methods. A special emphasis will be placed on urban tourism, and we will think about the significance of urban tourism.

授業の内容 / Course Contents

都市観光について現地調査を準備して実施する。その後、現地調査の成果をまとめて発表し、最終報告を作成する。

Students will prepare and implement a field survey about urban tourism. Afterwards, students will summarize and present the results of the field survey, and create a final report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 報告構想 1
- 【2】: 報告構想 2
- 【3】: 報告構想 3
- 【4】: 報告作成準備・ゼミ合宿反省会
- 【5】: 報告発表 1
- 【6】: 報告発表 2
- 【7】: 報告発表 3
- 【8】: 報告発表 4
- 【9】: 報告発表 5
- 【10】: 報告発表 6
- 【11】: 報告作成
- 【12】: 報告仮提出
- 【13】: 報告作成
- 【14】: 報告提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加と発表・質問内容:70% 報告:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS を利用する

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA623
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光者の立場から観光現象を理解することを目的とし、主に観光レクリエーション場面における人間の行動や心理について学習する。また、3 年次以降に展開される演習に必要とされる知識および基礎的なスキルを習得する。

観光学科の教育課程編成方針に掲げる「観光関連分野に関する広範囲で高度な学識を持ち、諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材」になるため、観光レクリエーション場面における基礎的な知識・スキルを身につける。

With the goal of understanding tourism phenomena from the tourist's perspective, we will study human behavior and psychology mainly in tourism and recreational settings. Students will also learn knowledge and basic skills necessary for third year seminars.

Students will gain basic skills and knowledge of tourism and recreational settings in order to become "Talented personnel with a high level of scholarship in a wide range of tourism-related fields with comprehensive judgment sufficient to solve various problems and provide superior leadership," as described in the Department of Tourism and Hospitality Management curriculum organization policy.

授業の内容 / Course Contents

観光行動・心理の調査研究に参考となる幅広い領域の文献の講読を行う。参加者には、毎時間の課題に加え、定期的な発表を義務づけ、討議の時間を設ける。フィールドワークや合宿その他の活動は、原則として橋本ゼミナール他学年の演習参加者と合同で行う。

We will read a wide range of literature and materials that reference survey research on tourism behavior and psychology, and conduct fieldwork. In addition to the topics for each class, students will be assigned regular presentations and time will be given for discussion. I plan to hold activities such as fieldwork, camp, etc. outside of class, and as a rule, these activities will be conducted jointly with participants in other years in Hashimoto Seminar.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション, 春学期の発表割当
- 【2】:プレゼンテーション
- 【3】:全体ディスカッション
- 【4】:文献講読, 討議
- 【5】:文献講読, 討議
- 【6】:文献講読, 討議
- 【7】:ゲスト講師による講義
- 【8】:文献講読, 討議
- 【9】:文献講読, 討議
- 【10】:文献講読, 討議

- 【11】: 文献講読, 討議
 【12】: 文献講読, 討議
 【13】: 文献講読, 討議
 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱うテキストを必ず事前に読んで理解し, オリエンテーションにおいて指定された形式に沿って課題を提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容・提出物:80% フィールドワーク・調査等への参加状況:20%

テキスト / Textbooks

中西 進 日本人の忘れもの3 ウェッジ文庫 2008
 前田勇編著 新現代観光総論(第3版) 学文社 2019

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

その他 / Others

積極的・自主的な行動, 集団の一員として「規律」を守ることが必須である。その他詳細は講義第1回のオリエンテーション時に説明するので, 必ず出席すること。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA624
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光者の立場から観光現象を理解することを目的とし、主に観光レクリエーション場面における人間の行動や心理について学習する。また、3 年次以降に展開される演習に必要とされる知識および基礎的なスキルを習得する。

観光学科の教育課程編成方針に掲げる「観光関連分野に関する広範囲で高度な学識を持ち、諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材」になるため、観光レクリエーション場面における基礎的な知識・スキルを身につける。

With the goal of understanding tourism phenomena from the tourist's perspective, we will study human behavior and psychology mainly in tourism and recreational settings. Students will also learn knowledge and basic skills necessary for third year seminars.

Students will gain basic skills and knowledge of tourism and recreational settings in order to become “Talented personnel with a high level of scholarship in a wide range of tourism-related fields with comprehensive judgment sufficient to solve various problems and provide superior leadership,” as described in the Department of Tourism and Hospitality Management curriculum organization policy.

授業の内容 / Course Contents

観光行動・心理の調査研究に参考となる幅広い領域の文献・資料の講読や、フィールドワークを行う。参加者には毎時間の課題と定期的な発表を義務づけ、討議の時間を設ける。フィールドワークや合宿その他の活動は、原則として担当者による他学年の演習参加者と合同で行う。

授業内ではテキスト(A)を題材としたスピーチを行うとともに、前半はテキスト(B)を輪読し、後半は夏休みの課題やテキスト(C)によるグループ研究の成果を個別に発表する。

We will read a wide range of literature and materials that reference survey research on tourism behavior and psychology, and conduct fieldwork. Along with the topics for each class, students will be assigned regular presentations and time will be given for discussion. Activities such as fieldwork, camp, etc. outside of class, as a rule, will be conducted jointly with participants of the instructor's seminars in other years.

In class, speeches will be given on the themes in text (A), text (B) will be read in turns in the first half, and in the latter half, individual presentations will be given on summer break topics and the results of group research based on text (C).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:スピーチ, 文献講読, グループ研究
- 【3】:スピーチ, 文献講読, グループ研究
- 【4】:スピーチ, 文献講読, グループ研究
- 【5】:スピーチ, 文献講読, グループ研究

- 【6】: ゲストスピーカーによる講義
 【7】: スピーチ, 文献講読
 【8】: スピーチ, 個人研究発表
 【9】: スピーチ, 個人研究発表
 【10】: スピーチ, 個人研究発表
 【11】: スピーチ, 個人研究発表
 【12】: スピーチ, グループ研究
 【13】: スピーチ, グループ研究
 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワーポイント等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱うテキストを必ず事前に読んで理解し, オリエンテーションにおいて指定された形式に沿って課題を提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 発表内容・提出物: 70% 調査等への参加状況: 30%

テキスト / Textbooks

- (A) 前田勇 編著 新現代観光総論(第3版) 学文社 2019
 (B) 宮内泰介・上田昌文 実践 自分で調べる技術 岩波書店 2020
 (C) 本田弘之他 街の公共サインを点検する 大修館書店 2017

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

その他 / Others

積極的・自主的な行動, 集団の一員として「規律」を守ることが必須である。その他詳細は講義第1回のオリエンテーション時に説明するので, 必ず出席すること。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

野田 健太郎(NODA KENTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA625
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現実のデータに基づいて判断する能力を修得すること。基礎的な企業データに関する知識を身につける。春学期は業界全体の分析を中心に行う。

Students will acquire the ability to make decisions based on current data. Students will acquire basic knowledge regarding corporate data. The spring semester will focus on conducting an analysis of the industry as a whole.

授業の内容 / Course Contents

観光産業をはじめさまざまな産業・企業について、現実のデータに基づいて比較・分析を行う。関連する教材の輪読や希望する産業を共同研究し発表する。

Students will conduct comparisons and analysis based on current data regarding various industries and companies, including the tourism industry. Related course materials will be read in turn, and students will conduct joint research and a presentation on an industry of their choice.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 大まかなテーマの設定
- 【3】: テーマに関する資料の収集
- 【4】: 発表事例の吟味
- 【5】: 予備発表
- 【6】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【7】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【8】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【9】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【10】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【11】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【12】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【13】: さまざまな討論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジメなどの準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容によって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門—起業家マインドの醸成に向けて 大学教育出版 2004 4887305648

伊藤邦雄 新・企業価値入門 日本経済新聞出版社 2014

その他 / Others

・工場等の現場を視察する授業も含まれる。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

野田 健太郎(NODA KENTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA626
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現実のデータに基づいて判断する能力を修得すること。基礎的な企業データ、財務・非財務データに関する知識を身につける。秋学期は個々の特徴的な企業・産業についても理解を深める。

Students will acquire the ability to make decisions based on current data. Students will acquire basic knowledge regarding corporate data, financial and non-financial data. In the fall semester, students will deepen their understanding of characteristic individual companies and industries.

授業の内容 / Course Contents

観光産業をはじめさまざまな産業・企業について、現実のデータに基づいて比較・分析を行う。関連する教材の輪読や希望する産業を共同研究し発表する。

Students will conduct comparisons and analysis based on current data regarding various industries and companies, including the tourism industry. Related course materials will be read in turn, and students will conduct joint research and a presentation on an industry of their choice.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 大まかなテーマの設定
- 【3】: テーマに関係する資料の収集
- 【4】: 発表事例の吟味
- 【5】: 予備発表
- 【6】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【7】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【8】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【9】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【10】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【11】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【12】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【13】: さまざまな討論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジメなどの準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容によって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443817 3034

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門—起業家マインドの醸成に向けて 大学教育出版 2004 4887305648

伊藤邦雄 新・企業価値入門 日本経済新聞社 2014

その他 / Others

・工場等の現場を視察する授業も含まれる。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A
研究の基礎を学習する

韓 志昊(HAN JIHO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA627
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Hospitality をテーマに研究の基礎を学ぶ。また、自ら考え行動する力と、共同学習を通して一緒に学ぶ姿勢と技術を習得する。

Students will learn the basics of research on the theme of hospitality. Students will also gain the ability to think and act independently, and through joint study students will gain the attitude and skills to learn together.

授業の内容 / Course Contents

観光研究に使用する文献について学習する。研究の基礎や技術を身につける。グループワークやゼミ運営において、自主的な活動を訓練する。

Students will study literature used in tourism research. Students will learn the basics and skills of research. Students will practice working autonomously through group work and conducting seminars.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:文献についてーレポートの書き方
- 【3】:情報検索方法ー講習会
- 【4】:グループワーク1ー調査方法
- 【5】:グループワーク2ー調査方法
- 【6】:グループワーク3ー調査方法
- 【7】:グループ別調査結果発表
- 【8】:グループワーク4ー調査合宿の事前調査
- 【9】:グループワーク5ー調査合宿の事前調査
- 【10】:グループワーク6ー調査合宿の事前調査
- 【11】:調査計画の確定
- 【12】:夏の合宿調査の準備1
- 【13】:夏の合宿調査の準備2
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

新聞を読む習慣を身につけること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の発言, 質問:30% グループ発表:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

大学図書館の資料やデータベースを使用する

参考文献 / Readings

適宜授業中に紹介する

その他 / Others

適宜授業中に紹介する

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B
研究の基礎を学習する

韓 志昊(HAN JIHO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA628
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Hospitality をテーマに研究の基礎を学ぶ。また、自ら考え行動する力と共同学習を通して一緒に学ぶ姿勢と技術を習得する。

Students will learn the basics of research on the theme of hospitality. Students will also gain the ability to think and act independently, and through joint study students will gain the attitude and skills to learn together.

授業の内容 / Course Contents

観光研究に使用する文献について学習する。研究の基礎や技術を身につける。グループワークやゼミ運営において、自主的な活動を訓練する。

Students will study literature used in tourism research. Students will learn the basics and skills of research. Students will practice working autonomously through group work and conducting seminars.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:夏合宿の調査結果の整理 1
- 【3】:夏合宿の調査結果の整理 2
- 【4】:グループ別調査結果の中間発表 1
- 【5】:報告書の作成 1
- 【6】:報告書の作成 2
- 【7】:報告書ドラフト確認
- 【8】:グループ別調査結果の中間発表 2
- 【9】:報告書の作成 3
- 【10】:報告書の作成 4
- 【11】:グループ別調査結果の最終発表
- 【12】:報告書製本の準備
- 【13】:まとめ
- 【14】:報告書の発送作業

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

新聞を読む習慣を身につけること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の発言, 質問:30% グループ発表:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

大学図書館の資料やデータベースを使用する

参考文献 / Readings

適宜授業中に紹介する

その他 / Others

適宜授業中に紹介する

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

経済学の視点から環境問題と観光を学ぶ

野原 克仁(NOHARA KATSUHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA631
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境問題や観光活動と経済の関わりについて、経済学の視点から学ぶことを目的とする。経済学の基礎的な知識を身につけ、それをもとに環境問題や観光活動を分析し特に自然資源を活用した観光産業の役割を理解する。さらに、基礎的知識の習得と並行し、フィールドワーク等も行なう。

This course aims to learn about the relationship between environmental issues and tourism activities and the economy from an economic perspective. Students will acquire basic knowledge of economics and use it to analyze environmental issues and tourism activities to understand the role of the tourism industry. In addition, fieldwork will be conducted in parallel with acquiring basic knowledge.

授業の内容 / Course Contents

この講義では環境問題や観光活動と経済学の研究に参考となる幅広い領域の文献・資料の講読、および体験型学習を行う。テキストや資料を読み、定期的な発表を行ない、学生自身が取り上げた議題についてディスカッションする。フィールドワークや合宿やその他の活動は、学生同士で話し合い活動内容を決める。

This course will involve reading a wide range of literature and materials on environmental issues and tourism activities and economics, as well as experiential learning. Students will read texts and materials, give periodic presentations, and discuss their topics. Fieldwork, camps, and other activities will be decided by discussion among students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:演習内容の決定、春学期の発表割当
- 【2】: 文献の講読、ディスカッション
- 【3】: 文献の講読、ディスカッション
- 【4】: 文献の講読、ディスカッション
- 【5】: 文献の講読、ディスカッション
- 【6】: 文献の講読、ディスカッション
- 【7】: 文献の講読、ディスカッション
- 【8】: 文献の講読、ディスカッション
- 【9】: 文献の講読、ディスカッション
- 【10】: 文献の講読、ディスカッション
- 【11】: 文献の講読、ディスカッション
- 【12】: 文献の講読、ディスカッション
- 【13】: 文献の講読、ディスカッション
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全員がテキストを必ず事前に読み、不明点は明らかにしておくこと。

発表担当者は、担当箇所の PPT を作成し発表に備えておくこと。

演習時間に出された質問、指摘を踏まえ復習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容および授業態度:80% フィールドワーク・調査等への参加:20%

テキスト / Textbooks

必要に応じて紹介する。

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

積極的に演習に参加し、自身で何が問題か深く掘り下げる探求心と、観光や経済のみならず幅広い分野に興味を持つ高い知的な好奇心を持つことが求められる。さらに、習得した知識を応用し自身の発表の際にアウトプットとして活用できること、最適かつ効率的なソリューションについてオリジナリティに溢れたアイデアを考え出せることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の中で紹介する資料等について、「Canvas LMS」を使用する予定である。

その他 / Others

ゼミを進めるにあたっての他詳細は、第1回目のオリエンテーション時に説明するため、必ず出席すること。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

観光を軸とする地域と環境の関わり

野原 克仁(NOHARA KATSUHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA632
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域固有資源を観光資源と活用している地域は多く、地域発展のためには経済学を活用しその価値を正確に把握していることが重要である。例えば、世界自然遺産(知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島)などはその代表例であり、自然資源の価値を世界的に認めつつも観光資源として大いに地域経済に貢献している。そこで、経済学を用いて観光資源の価値を把握するために、観光資源となりうる自然環境の価値を推計するための基礎理論を学ぶ。さらに、学生の関心がある環境保全と観光の問題を抱える地域を選定し、実地調査を行なう。その成果を、全国大会で発表することを目標とする。

As many regions make good use of area-specific resources such as tourism resources, it is important to understand the value of local development using economics. The world's natural heritage is a typical example, and the designated area, that is, Shiretoko, Shiragami-Sanchi, Ogasawara, and Yakushima, contributes to the regional economy. Then, students will learn about basic theory to estimate the value of natural resources. In addition, the students will select an area of environmental conservation and tourism issues of interest to them and conduct a field survey. The goal is to present the results at a national conference.

授業の内容 / Course Contents

経済学において地域とは何か、資源とは何か、環境とは何かについてその定義から詳細に学ぶ。そして、これらを理解した上で、観光と環境の関わりについて学び、地域の発展に観光が自然資源の活用という視点からどのように貢献できるのかについて理解を深める。そのためにも、経済学の知識をベースに多角的な視点から観光を分析する視座を養う。また、フィールド調査を実施し、実際に現地で起きている環境問題と観光の関わりを理解する。

We will study the definition of regions, resources, and environment in detail from an economic perspective.

Furthermore, students learn about how tourism and the natural environment can contribute to regional economies in terms of local development. An analytical point of view through economics will be provided in this class. Students will also conduct field research to understand the relationship between environmental issues and tourism occurring on the ground.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 演習の進め方、発表の割当て
- 【2】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【3】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【4】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【5】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【6】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【7】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション

- 【8】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【9】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【10】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【11】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【12】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【13】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は、必ず PPT で担当箇所を発表するための準備をしてくる。

演習の中で出された質問、意見、コメントに対応するため、復習も兼ねて次回までにその準備をしてくる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容およびディスカッションの質:70% 参加態度(コメントや質問の質):30%

テキスト / Textbooks

八木信一、関耕平 地域から考える環境と経済 -- アクティブな環境経済学入門 有斐閣ストゥディア 2019

参考文献 / Readings

適宜、ゼミ内で紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ゼミ生全員で一つの目標を設定し、その解決策について互いに議論をしより良い解決策を全員で導き出す能力を要する。その際、相手の意見を尊重しつつも自身の意見もきちんと主張し、侃々諤々の議論の中から一つの解に辿り着くプロセスを参加者全員で楽しめること。

その他 / Others

第1回目のゼミで、進め方および発表割当を決めるので必ず参加すること。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりを学ぶ

西川 亮(NISHIKAWA RYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA633
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市計画及び地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりに関する文献(論文、図書、行政レポート等)を精読し、都市計画とまちづくりの基礎的な考え方を学ぶ。そのうえで、実際に具体的な地域を対象に、現地で地域住民の方に接し、まちづくりのあり方を考える。

Students will learn basic knowledge regarding urban planning, historical environmental conservation, and machizukuri. In addition to literature, we will value the stance of learning from the actual area.

授業の内容 / Course Contents

都市的な空間を対象に、その地域が持つ歴史、地域の空間変容、用途の変容、都市計画の歴史、町並み保全と観光活用のための制度・政策や仕組み、町並み保全や観光まちづくりに関わる市民活動などの観点から調査・研究し、歴史的町並みにおける観光の課題やそれを解決するための方法を考える。

また、適宜週末を使って関東近郊の歴史的町並みを訪問し、調査をするほか、夏季休暇中には地方都市の歴史的街並みの調査と学会参加を予定している。

With the target of large urban areas and hot spring areas with historical buildings, and urban spaces in historical areas, we will think about the history of the area, spatial modifications of the area, modification of applications, the history of urban planning, preservation of the townscape and systems, policies, and mechanisms for using it for tourism, preservation of the townscape and survey/research from the perspective of citizen's activities, etc. regarding tourism urban planning, issues related to tourism in historical townscapes, and methods for solving them.

In addition, on suitable weekends, we will visit historical townscapes of the Kanto region and conduct surveys. During summer vacation, we plan to do group surveys of historical townscapes in the Hokuriku region and participate in an academic conference.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 文献精読・まちづくりの実践(1)
- 【2】: 文献精読・まちづくりの実践(2)
- 【3】: 文献精読・まちづくりの実践(3)
- 【4】: 文献精読・まちづくりの実践(4)
- 【5】: 文献精読・まちづくりの実践(5)
- 【6】: 文献精読・まちづくりの実践(6)
- 【7】: 文献精読・まちづくりの実践(7)
- 【8】: 文献精読・まちづくりの実践(8)
- 【9】: 文献精読・まちづくりの実践(9)
- 【10】: 文献精読・まちづくりの実践(10)

- 【11】: 文献精読・まちづくりの実践(11)
- 【12】: 文献精読・まちづくりの実践(12)
- 【13】: 文献精読・まちづくりの実践(13)
- 【14】: 文献精読・まちづくりの実践(14)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

多くの論文や文献を読むだけでなく、まちづくりの現場を積極的に尋ねてほしい。
また、授業以外にオンライン上での議論も求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 授業への参加度・リアクションペーパー・提出課題:100%
 毎回授業後 3 日以内に授業で学んだことについて小レポートを毎回オンライン上で提出してもらう

テキスト / Textbooks

西村幸夫 都市から学んだ 10 のこと 学芸出版社 2019 9784761527037
 適宜案内する

参考文献 / Readings

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりを学ぶ

西川 亮(NISHIKAWA RYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA634
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市計画及び地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりに関する文献(論文、図書、行政レポート等)を精読し、都市計画とまちづくりの基礎的な考え方を学ぶ。そのうえで、実際に具体的な地域を対象に、現地で地域住民の方に接し、まちづくりのあり方を考える。

Students will learn basic knowledge regarding urban planning, historical environmental conservation, and machizukuri. In addition to literature, we will value the stance of learning from the actual area.

授業の内容 / Course Contents

都市的な空間を対象に、その地域が持つ歴史、地域の空間変容、用途の変容、都市計画の歴史、町並み保全と観光活用のための制度・政策や仕組み、町並み保全や観光まちづくりに関わる市民活動などの観点から調査・研究し、歴史的町並みにおける観光の課題やそれを解決するための方法を考える。

また、適宜週末を使って関東近郊の歴史的町並みを訪問し、調査をするほか、夏季休暇中には地方都市の歴史的街並みの調査と学会参加を予定している。

With the target of large urban areas and hot spring areas with historical buildings, and urban spaces in historical areas, we will think about the history of the area, spatial modifications of the area, modification of applications, the history of urban planning, preservation of the townscape and systems, policies, and mechanisms for using it for tourism, preservation of the townscape and survey/research from the perspective of citizen's activities, etc. regarding tourism urban planning, issues related to tourism in historical townscapes, and methods for solving them.

In addition, on suitable weekends, we will visit historical townscapes of the Kanto region and conduct surveys. During summer vacation, we plan to do group surveys of historical townscapes in the Hokuriku region and participate in an academic conference.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 文献精読・まちづくりの実践(15)
- 【2】: 文献精読・まちづくりの実践(16)
- 【3】: 文献精読・まちづくりの実践(17)
- 【4】: 文献精読・まちづくりの実践(18)
- 【5】: 文献精読・まちづくりの実践(19)
- 【6】: 文献精読・まちづくりの実践(20)
- 【7】: 文献精読・まちづくりの実践(21)
- 【8】: 文献精読・まちづくりの実践(22)
- 【9】: 文献精読・まちづくりの実践(23)
- 【10】: 文献精読・まちづくりの実践(24)

- 【11】: 文献精読・まちづくりの実践(25)
 【12】: 文献精読・まちづくりの実践(26)
 【13】: 文献精読・まちづくりの実践(27)
 【14】: 文献精読・まちづくりの実践(28)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

多くの論文や文献を読むだけでなく、まちづくりの現場を積極的に尋ねてほしい。
 また、授業以外にオンライン上での議論も求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・リアクションペーパー・提出課題:100%

毎回授業後 3 日以内に授業で学んだことについて小レポートを毎回オンライン上で提出してもらう

テキスト / Textbooks

適宜案内する

参考文献 / Readings

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

鍋倉 咲希(NABEKURA SAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA637
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	第 3、6、10、14 回目を対面で実施
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点と方法に関する基礎的知識を身につける。とくに、観光が地域社会や私たちの日常生活をいかに動態的に変化させているのかについて、観光や移動を通じて生まれる新たな文化やコミュニケーションに注目する。

- (1) To acquire a basic knowledge of the perspectives and methods of the sociology of tourism.
- (2) The course will discuss how tourism is dynamically changing local communities and our daily lives, focusing on new cultures and forms of communication that emerge through tourism and mobility.

授業の内容 / Course Contents

観光社会学や観光人類学に関する文献の講読を行い、基礎的知識および視点を習得する。また、文献講読を通じて、文献の精読・発表・議論の方法などに関するアカデミック・スキルを身につける。さらに、フィールドワークを行い授業で身につけた視点をを用いて地域の調査・分析に取り組む。

- (1) Students will acquire basic knowledge and perspectives on the sociology of tourism by reading literature on sociology and cultural anthropology.
- (2) Through literature reading, students will acquire academic skills in reading, presenting, and discussing the literature.
- (3) Students will conduct fieldwork to research and analyze the local community using the perspectives acquired in the class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】: 文献講読の方法・アカデミックスキルの確認
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 文献講読
- 【11】: 文献講読
- 【12】: フィールドワーク事前学習
- 【13】: フィールドワーク
- 【14】: 授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前には文献講読や発表の準備を行う。

授業後には発表内容の振り返りや授業で取り上げたテーマに関するさらなる分析をまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(文献講読、発言の内容、提出物):70% 期末レポート:30%

テキスト / Textbooks

神田孝治ほか『移動時代のツーリズムー動きゆく観光学』ナカニシヤ出版 2023 9784779517686

参考文献 / Readings

須藤廣ほか『よくわかる観光コミュニケーション論』ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己ほか『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は8回以上がオンラインで実施されます。円滑な授業運営のため、各自で受講に適したオンライン環境を整えてください。オンライン／対面のいずれも、積極的な議論への参加を求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoomに参加するためのPCなどを準備してください。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

鍋倉 咲希(NABEKURA SAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA638
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	第 3、7、10、14 回目を対面で実施
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光現象だけでなく、広く現代社会の移動を考察するための社会学的な視点と方法を身につける。

Acquire sociological perspectives and methods to examine contemporary society from the point of tourism and mobility.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論を通じて、社会学に関する理解を深める。フィールドワークを行い、授業で身につけた視点を用地域の調査・分析に取り組む。

(1) Students will deepen their understanding of sociology through literature reading and discussion.

(2) In addition to classroom lectures, fieldwork will be conducted to analyze various phenomena in contemporary society using the perspectives acquired in class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・夏季課題の発表
- 【2】:夏季課題の発表・文献講読
- 【3】:文献講読
- 【4】:文献講読
- 【5】:文献講読
- 【6】:文献講読
- 【7】:文献講読
- 【8】:文献講読
- 【9】:文献講読
- 【10】:文献講読
- 【11】:文献講読
- 【12】:フィールドワークの事前学習
- 【13】:フィールドワーク
- 【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前には文献講読や発表の準備を行う。

授業後には発表内容の振り返りや授業で取り上げたテーマに関するさらなる分析をまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(文献講読、発言の内容、提出物):70% 期末レポート:30%

テキスト / Textbooks

ケイン樹里安ほか編 『ふれる社会学』 北樹出版 2019 9784779306181

参考文献 / Readings

須藤廣ほか 『よくわかる観光コミュニケーション論』 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は8回以上がオンラインで実施されます。円滑な授業運営のため、各自で受講に適したオンライン環境を整えてください。オンライン／対面のいずれも、積極的な議論への参加を求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoomに参加するためのPCなどを準備してください。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

気候変動による地域の特産品への損失の経済的価値

野原 克仁(NOHARA KATSUHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA641
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生が目標を定め、研究と分析を進めていくことを第一とする。例えば、地域の特産品に気候変動がどれほど悪影響を及ぼしているかについて、実地調査を行ない、データ収集を実施する。収集したデータを用い、地域の特産品が失われることの経済価値を推計し、その結果を全国大会で発表する。

もしテーマが定まらない場合は、次の内容で進める。地域固有資源を観光資源と活用している地域は多く、地域発展のためには経済学を活用しその価値を正確に把握していることが重要である。そこで、世界遺産の価値に焦点を絞り、経済学を用いた観光資源としての世界遺産の価値の推計について学ぶ。このことを通じ、今後日本の世界自然遺産の登録に相応しい地域はどこなのか、経済学を通じ自らの視点で分析できるようになることを目標とする。

Students must decide on a research theme they want to be clear about. For example, conduct a field survey and collect data on how climate change negatively impacts local specialty products. The economic value of the loss of local specialty products will be estimated using the data collected, and the results will be presented at a national conference. If it is difficult, students will study economic analysis of the world's natural heritage in this class. As many regions make good use of area-specific resources such as tourism resources, it is important to understand the value of local development using economics. This class will focus on the world's natural heritage and learn how to estimate its value as a tourism resource. This viewpoint will enable students to analyze which region will be suitable for registering the world heritage in the future through an economic perspective.

授業の内容 / Course Contents

近年は気候変動問題が深刻化しており、その影響が観光にどのように影響を与えるのか考察することが重要である。そこで、観光と環境の関わりについて学び、地域の発展に観光が環境という視点からどのように貢献できるのかについて理解を深める。特に、地域の特産品への影響について、経済モデルによる推計や、生産者の転作などの意思決定過程を分析する方法を学ぶ。また、対象となる地域で実地調査を行ない、データ分析を行なう。

It is significant for us to consider the impact of climate change on tourism because the aggravation of climate conditions results from inadequate human activities. In particular, the course will focus on estimating the impact on local specialties using economic models and the analysis of the decision-making process of producers, such as shifting crops. In addition, field surveys will be conducted in the target areas, and data will be analyzed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 演習の進め方、発表担当の割当て
- 【2】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【3】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【4】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 【5】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション

- 【6】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【7】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【8】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【9】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【10】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【11】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【12】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【13】: 文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワーポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は、必ず PPT で担当箇所を発表するための準備をしてくること。

演習の中で出された質問、意見、コメントに対応するため、復習も兼ねて次回までにその準備をしてくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容の質、質疑への受け答え:80% 参加態度(コメント、質問):20%

テキスト / Textbooks

演習の中で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

演習の中で適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

データ分析を実施するため、R、Python、STATA といった統計ソフトを活用できる能力を必要とする。

その他 / Others

第 1 回目のゼミで、進め方および発表割当を決めるので必ず参加すること。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

研究成果の取りまとめと研究発表会への出場

野原 克仁(NOHARA KATSUHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA642
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生の研究発表大会への出場を目指し、研究テーマを設定し調査手法の設計、調査・分析を自ら行なえるようになる。また、これらの成果をパワーポイントにまとめ、オーディエンスの関心を引くのみならず、研究成果の社会的重要性をアピールできるプレゼンテーションを行なえるようになることを目標とする。

The main purpose of this class is to attend and make a presentation at a research competition. To achieve that goal, students will be able to decide on research questions clearly and conduct a questionnaire survey. The goal is for students to be able to present these results in a PowerPoint presentation that not only attracts the audience's attention but also highlights the social importance of the research results.

授業の内容 / Course Contents

学生同士で議論し、文献の読み合わせを行ない、設定したテーマについて研究のアプローチ方法を明確にする。さらに、必要な統計分析手法についての勉強を進め、全国大会で研究発表できるよう準備を進める。演習の中で複数回の発表練習を経た上で、全国大会で研究発表を行う。

Students will discuss the research theme and conduct their survey. Furthermore, students will have to study the methods of statistical analysis and prepare for a presentation at a research competition. Moreover, the practice of a research presentation will be conducted multiple times in this class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究課題の設定1
- 【2】:研究課題の設定2
- 【3】:研究手法の検討と進め方1
- 【4】:研究手法の検討と進め方2
- 【5】:研究手法の検討と進め方3
- 【6】:研究手法の検討と進め方4
- 【7】:進捗報告1
- 【8】:進捗報告2
- 【9】:進捗報告3
- 【10】:研究大会への参加
- 【11】:反省点と改善点の洗い出し1
- 【12】:反省点と改善点の洗い出し2
- 【13】:反省点と改善点の洗い出し3
- 【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習の時間は1週間の成果の報告と捉え、研究課題の設定や進め方、分析手法の検討などについて各自が時間を割いてしっかり準備しておく必要がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加・発言:30% 課題・発表:30% 研究大会での発表:40%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

適宜授業で指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

実証研究の分析結果について多角的な視点から評価し、どのような政策的インプリケーションを引き出せるか、また結果から何を主張できるか深く考察しオリジナリティのある結論を導き出す創造力を必要とする。

その他 / Others

各自が主体性を持ち、研究大会での発表を目指し進めていくこと。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

野田 健太郎(NODA KENTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA643
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現実のデータに基づいて判断する能力を修得すること。基礎的な企業データ、財務データに関する知識を身につけ、業界の動向を予測する。春学期は業界全体の分析を中心に行う。

Students will acquire the ability to make decisions based on current data. Students will acquire basic knowledge regarding corporate data and finance data, and predict industry trends. The spring semester will focus on conducting an analysis of the industry as a whole.

授業の内容 / Course Contents

さまざまな産業・企業について、現実のデータに基づいて数量的に比較・分析を行う。関連する教材の輪読や希望する産業を共同研究し発表する。

Students will conduct quantitative comparisons and analysis based on current data regarding various industries and companies. Related course materials will be read in turn, and students will conduct joint research and a presentation on an industry of their choice.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 大まかなテーマの設定
- 【3】: テーマに関係する資料の収集
- 【4】: 発表事例の吟味
- 【5】: 予備発表
- 【6】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【7】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【8】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【9】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【10】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【11】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【12】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【13】: さまざまな討論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジメなどの準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容によって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門—起業家マインドの醸成に向けて 大学教育出版 2004 4887305648

伊藤邦雄 新・企業価値入門 日本経済新聞出版社 2014

その他 / Others

・工場等の現場を視察する授業も含まれる。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

野田 健太郎(NODA KENTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA644
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現実のデータに基づいて判断する能力を修得すること。基礎的な企業データ、財務・非財務データに関する知識を身につけ、業界の動向を予測する。秋学期は個々の特徴的な企業や産業についても理解を深める。

Students will acquire the ability to make decisions based on current data. Students will acquire basic knowledge regarding corporate data, financial and non-financial data, and predict industry trends. In the fall semester, students will deepen their understanding of characteristic individual companies and industries.

授業の内容 / Course Contents

さまざまな産業・企業について、現実のデータに基づいて数量的に比較・分析を行う。関連する教材の輪読や希望する産業を共同研究し発表する。

Students will conduct quantitative comparisons and analysis based on current data regarding various industries and companies. Related course materials will be read in turn, and students will conduct joint research and a presentation on an industry of their choice.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 大まかなテーマの設定
- 【3】: テーマに関係する資料の収集
- 【4】: 発表事例の吟味
- 【5】: 予備発表
- 【6】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【7】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【8】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【9】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【10】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【11】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【12】: 各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
- 【13】: さまざまな討論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジメなどの準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容によって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443817 3034

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門—起業家マインドの醸成に向けて 大学教育出版 2004 4887305648

伊藤邦雄 新・企業価値入門 日本経済新聞出版社 2014

その他 / Others

・工場等の現場を視察する授業も含まれる。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹(AZUMA TORU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA645
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

3年の演習では、2年で学んだマーケティングの基本的な考え方を、観光・サービス・地域振興等、具体的な課題・分野に応用してみましょう。問題意識を共有する仲間と一緒にグループ研究を行います。ゼミ生の希望するテーマをもとに4～5グループを編成し、研究を進めていきます。

これまでの例:「日本の航空ビジネスの現状と展望」「地域づくりにおける観光の活用と課題」「ブランド論から見た観光・地域づくり」「社会課題へのマーケティングの応用」「現代観光とメディアの影響」「ホスピタリティ・ビジネスの課題」「観光と地域交通の課題」など

グループごとに研究経過をレポートにまとめ、輪番にプレゼンテーションを行い、それをもとにディスカッションを進めます。

通常の授業のほか、観光振興や地域づくりに取り組む現場を訪ねたり、ビジネスの最前線で活躍されている方をお招きした講演会なども計画しています。

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:グループ研究の発表とディスカッション①
- 【2】:グループ研究の発表とディスカッション②
- 【3】:グループ研究の発表とディスカッション③
- 【4】:グループ研究の発表とディスカッション④
- 【5】:グループ研究の発表とディスカッション⑤
- 【6】:ゲスト講演会①(地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います)
- 【7】:グループ研究の発表とディスカッション⑥

- 【8】:グループ研究の発表とディスカッション⑦
 【9】:グループ研究の発表とディスカッション⑧
 【10】:グループ研究の発表とディスカッション⑨
 【11】:グループ研究の発表とディスカッション⑩
 【12】:ゲスト講演会②(地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います)
 【13】:グループ研究の発表とディスカッション⑪
 【14】:グループ研究の発表とディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習(ゼミナール)は,受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み,研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう,発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと,参加者全員に積極的な発言が求められます。普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち,情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲,参加態度,発表の内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹(AZUMA TORU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA646
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

3年の演習では、2年で学んだマーケティングの基本的な考え方を、観光・サービス・地域振興等、具体的な課題・分野に応用してみましょう。問題意識を共有する仲間と一緒にグループ研究を行います。ゼミ生の希望するテーマをもとに4～5グループを編成し、研究を進めていきます。

これまでの例:「日本の航空ビジネスの現状と展望」「地域づくりにおける観光の活用と課題」「ブランド論から見た観光・地域づくり」「社会課題へのマーケティングの応用」「現代観光とメディアの影響」「ホスピタリティ・ビジネスの課題」「観光と地域交通の課題」など

グループごとに研究経過をレポートにまとめ、輪番にプレゼンテーションを行い、それをもとにディスカッションを進めます。

通常の授業のほか、観光振興や地域づくりに取り組む現場を訪ねたり、ビジネスの最前線で活躍されている方をお招きした講演会なども計画しています。

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:グループ研究の発表とディスカッション①
- 【2】:グループ研究の発表とディスカッション②
- 【3】:グループ研究の発表とディスカッション③
- 【4】:グループ研究の発表とディスカッション④
- 【5】:グループ研究の発表とディスカッション⑤
- 【6】:ゲスト講演会①(地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います)
- 【7】:グループ研究の発表とディスカッション⑥

- 【8】:グループ研究の発表とディスカッション⑦
 【9】:グループ研究の発表とディスカッション⑧
 【10】:グループ研究の発表とディスカッション⑨
 【11】:グループ研究の発表とディスカッション⑩
 【12】:ゲスト講演会②(地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います)
 【13】:グループ研究の発表とディスカッション⑪
 【14】:グループ研究の発表とディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習(ゼミナール)は,受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み,研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう,発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと,参加者全員に積極的な発言が求められます。普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち,情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲,参加態度,発表の内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA647
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光産業を主として「ビジネス」の視点から捉えた場合の課題と将来性について考察するとともに、観光産業をひとつのシステムとして理解する。

We will mainly consider the issues and future prospects of the tourism industry from the business perspective, while understanding the tourism industry as a single system.

授業の内容 / Course Contents

経営学を理論的枠組みとしながら、観光・ホスピタリティ産業の特徴を分析する。そのうえで、観光・ホスピタリティ分野におけるイノベーションの必要性和課題について検討する。具体的には新規のビジネスを「ビジネスプラン」として提案し、作成したビジネスプランは、学外を含む報告会等で発表を行なう。

Using business management as a theoretical framework, we will analyze the characteristics of the tourism and hospitality industries. In addition, we will investigate the necessity and issues of innovation in the tourism and hospitality fields. Specifically, students will propose a new business through creation of a business plan, and will present the business plan they create at a report conference including members from outside of the university.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 観光におけるイノベーション
- 【2】: ポーターの戦略論
- 【3】: リソース・ベースド・ビュー
- 【4】: 情報の経済学
- 【5】: エージェンシー理論
- 【6】: 取引費用理論
- 【7】: ゲーム理論
- 【8】: リアル・オプション理論
- 【9】: ビジネスプラン中間報告 1
- 【10】: 経済学ディシプリンの経営学
- 【11】: マクロ心理学ディシプリンの経営学
- 【12】: ビジネスプラン: 資金計画と利益計画 1
- 【13】: ビジネスプラン: 資金計画と利益計画 2
- 【14】: ビジネスプラン中間報告 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	○

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

エリック・フォン・ヒッペル 民主化するイノベーションの時代 サイコムインターナショナル 2005

小川 進 ユーザーイノベーション:消費者から始まるものづくりの未来 東洋経済新報社 2013

入山章栄 世界標準の経営理論 ダイヤモンド社 2019

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA648
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光産業を主として「ビジネス」の視点から捉えた場合の課題と将来性について考察するとともに、観光産業をひとつのシステムとして理解する。

We will mainly consider the issues and future prospects of the tourism industry from the business perspective, while understanding the tourism industry as a single system.

授業の内容 / Course Contents

経営学を理論的枠組みとしながら、観光・ホスピタリティ産業の特徴を分析する。そのうえで、観光・ホスピタリティ分野におけるイノベーションの必要性和課題について検討する。具体的には新規のビジネスを「ビジネスプラン」として提案し、作成したビジネスプランは、学外を含む報告会等で発表を行なう。

Using business management as a theoretical framework, we will analyze the characteristics of the tourism and hospitality industries. In addition, we will investigate the necessity and issues of innovation in the tourism and hospitality fields. Specifically, students will propose a new business through creation of a business plan, and will present the business plan they create at a report conference including members from outside of the university.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:組織の知識創造理論
- 【2】:ダイナミックケイパビリティ理論
- 【3】:マイクロ心理学ディシプリンの経営理論
- 【4】:社会学ディシプリンの経営理論
- 【5】:エンベデッドネス理論
- 【6】:グラノベッターの理論
- 【7】:ストラクチャル・ホール理論
- 【8】:戦略とイノベーション
- 【9】:ビジネスプラン中間報告
- 【10】:ビジネスプランの収支計算
- 【11】:報告書の作成とプレゼンテーション1
- 【12】:報告書の作成とプレゼンテーション2
- 【13】:報告書の作成とプレゼンテーション3
- 【14】:ビジネスプラン最終報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	○

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習について、授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み:50% 最終報告:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

エリック・フォン・ヒッペル 民主化するイノベーションの時代 サイコムインターナショナル 2005

小川 進 ユーザーイノベーション:消費者から始まるものづくりの未来 東洋経済新報社 2013

入山章栄 世界標準の経営理論 ダイヤモンド社 2019

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A
都市観光と観光地域の構造

杜 国慶(DU GUOQING)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA651
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、都市観光と観光地の分布と立地、観光資源と市場、観光客流動などを組み合わせて、空間的結合体としての観光地域の構造を明らかにする。

In this seminar, we will combine the distribution and location of urban tourism and tourist sites, tourism resources and markets, and the flow of tourists, etc. to unravel the structure of tourist areas as spatial compositions.

授業の内容 / Course Contents

各自がテーマを設定し、一日巡検を実施する。また、時期を選んで、フィールドワーク(国内調査)を実施する。場所については、学生と相談して決定する。フィールドワークでは、授業を通じて身に付けた知識と方法を実践する。

Each student will be assigned a theme and take a one-day research tour. Students will also choose a time to conduct fieldwork (domestic survey). Places will be decided in consultation with the student. Fieldwork will be the practical application of the knowledge and methods learned during class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:授業のオリエンテーション
- 【2】:一日巡検準備 1
- 【3】:一日巡検準備 2
- 【4】:パソコン実習:文献検索方法
- 【5】:パソコン実習:文献検索方法
- 【6】:調査準備:現地調査テーマ発表①
- 【7】:調査準備:現地調査テーマ発表②
- 【8】:調査準備:現地調査テーマ発表③
- 【9】:調査準備:現地調査テーマ発表④
- 【10】:調査準備:現地調査進捗報告①
- 【11】:調査準備:現地調査進捗報告②
- 【12】:調査準備:現地調査進捗報告③
- 【13】:進路懇談会
- 【14】:調査準備:現地調査進捗報告④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・取り組み:70% 報告:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS を利用する。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B
都市観光と観光地域の構造

杜 国慶(DU GUOQING)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA652
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、都市観光と観光地の分布と立地、観光資源と市場、観光客流動などを組み合わせて、空間的結合体としての観光地域の構造を明らかにする。

In this seminar, we will combine the distribution and location of urban tourism and tourist sites, tourism resources and markets, and the flow of tourists, etc. to unravel the structure of tourist areas as spatial compositions.

授業の内容 / Course Contents

各自がテーマを設定し、GIS などを用いて分析を行う。また、時期を選んで、フィールドワーク(国内調査)を実施する。場所については、学生と相談して決定する。フィールドワークでは、授業を通じて身に付けた知識と方法を実践する。

Each student will be assigned a theme and analyze it using GIS, etc. Students will also choose a time to conduct fieldwork (domestic survey). Places will be decided in consultation with the student. Fieldwork will be the practical application of the knowledge and methods learned during class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:調査発表①
- 【3】:調査発表②
- 【4】:調査発表③
- 【5】:調査発表④
- 【6】:調査発表⑤
- 【7】:ゼミ履修面接準備
- 【8】:調査発表⑥
- 【9】:調査発表⑦
- 【10】:調査報告作成①
- 【11】:調査報告作成②
- 【12】:ゼミ履修選考
- 【13】:調査報告仮提出
- 【14】:調査報告提出・卒業論文構想

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・取り組み:70% 報告:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS を利用する

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA653
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

主に観光レクリエーション場面における人間の行動や心理の視点から観光現象を理解し、それらの知見を観光レクリエーション計画やサービス提供場面での対応等に応用するための専門的な知識、観光調査を進めるうえで必要とされる調査技法を習得する。

Students will understand the phenomenon of tourism from the perspective of human behavior and psychology mainly in the tourism recreation setting, and will learn specialized knowledge and survey methods that are necessary for tourism research in order to apply that knowledge to tourism recreation planning and service provision settings.

授業の内容 / Course Contents

上記の専門領域の文献・資料の講読ならびにフィールドワークを通じ、観光調査の具体的な方法を習得する。参加者には毎時間の課題と定期的な発表を義務づけ、参加者相互による討議の時間を設ける。

授業以外にもフィールドワークや合宿その他の活動を行う予定であり、これらの活動は原則として担当者による他学年の演習参加者と合同で行う。

Students will learn specific methods for tourism research by reading specialized literature and materials in the above areas and conducting fieldwork. In addition to the topics for each class, students will be assigned regular presentations and time will be given for discussion.

I plan to hold activities such as fieldwork, camp, etc. outside of class, and as a rule, these activities will be conducted jointly with participants of the instructor's seminars in other years.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:プレゼンテーション
- 【3】:輪読, 文献講読と討議
- 【4】:輪読, 文献講読と討議
- 【5】:輪読, 文献講読と討議
- 【6】:輪読, 文献講読と討議
- 【7】:ゲストスピーカーによる講義
- 【8】:輪読, 文献講読と討議,ゼミ合宿調査計画 1
- 【9】:輪読, 文献講読と討議
- 【10】:輪読, 文献講読と討議
- 【11】:輪読, 文献講読と討議,ゼミ合宿調査計画 2
- 【12】:輪読, 文献講読と討議
- 【13】:輪読, 文献講読と討議
- 【14】:総括,ゼミ合宿調査計画 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱うテキストを必ず事前に読み, 指定された形式に沿って課題を提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況・発表内容:70% 調査等への参加状況:30%

テキスト / Textbooks

國田圭作 「行動デザイン」の教科書 すばる社 2016

平本一雄・末繁雄一 都市感覚を鍛える観察学入門 晶文社 2023

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA654
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

主に観光レクリエーション場面における人間の行動や心理の視点から観光現象を理解し、そうした知見を観光レクリエーション計画やサービス提供場面の対応等に応用するための専門的な知識、観光調査を進めるうえで必要とされる調査技法を習得する。

Students will understand the phenomenon of tourism from the perspective of human behavior and psychology mainly in the tourism recreation setting, and will learn specialized knowledge and survey methods that are necessary for tourism research in order to apply that knowledge to tourism recreation planning and service provision settings.

授業の内容 / Course Contents

上記の専門領域の文献・資料の講読ならびにフィールドワークを通じて、観光調査の具体的な方法を習得する。参加者には定期的な発表を義務づけ、参加者相互による討議の時間を設ける。授業以外にもフィールドワークや合宿その他の活動を行う予定であり、これらの活動は原則として担当者による他学年の演習参加者と合同で行う。

授業ではテキストを題材としたスピーチを分担して行うとともに、前半は各自の関心に沿った自由研究の計画を発表して個別に調査を進め、後半はその研究成果を報告する。これと並行して、ゼミ合宿の調査分析作業を行う。

Students will learn specific methods for tourism research by reading specialized literature and materials in the above areas and conducting fieldwork. Students will be assigned regular presentations and time will be given for discussion. I plan to hold activities such as fieldwork, camp, etc. outside of class, and as a rule, these activities will be conducted jointly with participants of the instructor's seminars in other years.

In this class, students will give speeches on themes assigned from the textbook, and in the first half of the course, students will present a plan for an individual research project based on their interests and proceed with the research individually. In the latter half of the course, students will report on the results of their research. At the same time, students will conduct survey analysis work for the seminar camp.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:課題提出, 発表割当
- 【2】:スピーチ, 個人研究発表
- 【3】:スピーチ, 個人研究発表
- 【4】:スピーチ, 個人研究発表
- 【5】:スピーチ, ゼミ合宿調査分析経過報告 1
- 【6】:ゲストスピーカーによる講義
- 【7】:スピーチ, 個人研究発表
- 【8】:スピーチ, 個人研究発表
- 【9】:スピーチ, ゼミ合宿調査分析経過報告 2
- 【10】:スピーチ, 個人研究発表

- 【11】:スピーチ, 個人研究発表
 【12】:スピーチ, 個人研究発表
 【13】:スピーチ, ゼミ合宿成果報告 3
 【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

定期的な発表の機会を活かすために, ゼミ合宿の調査分析と, 個人研究テーマに沿った文献研究, 調査の実施, 結果の分析を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況・発表内容:70% 調査等への参加状況:30%

テキスト / Textbooks

とくに使用しない。

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

小野 良平(ONO RYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA655
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2 年次に続き、観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープの価値評価や保全・活用のあり方に関する、基礎および発展的な研究の課題や方法について学ぶ。

As a continuation of second year, students will learn basic and advanced research issues and methods relating to the evaluation and conservation/utilization of regional landscapes in tourist and other areas.

授業の内容 / Course Contents

風景・景観・ランドスケープの保全に関する制度および調査分析の手法について概要を習得し、これに関連する文献を広範に講読・議論し理解を深める。合わせて自然風景地を対象とした調査計画を考える。

Students will learn an outline of legal systems for landscape conservation and survey analysis methods for landscapes, and students will read widely from the related literature and hold discussions to deepen their understanding. In addition, students will think of a plan for a survey of a natural landscape area.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 風景保全の諸制度と観光(自然風景地編)(1)
- 【3】: 風景保全の諸制度と観光(自然風景地編)(2)
- 【4】: 風景保全の諸制度と観光(自然風景地編)(3)
- 【5】: 風景保全の諸制度と観光(自然風景地編)(4)
- 【6】: 風景保全の諸制度と観光(文化財編)(1)
- 【7】: 風景保全の諸制度と観光(文化財編)(2)
- 【8】: 風景保全の諸制度と観光(文化財編)(3)
- 【9】: 風景保全の諸制度と観光(文化財編)(4)
- 【10】: 自然風景地の調査分析の手法(1)
- 【11】: 自然風景地の調査分析の手法(2)
- 【12】: 自然風景地実地調査の計画(1)
- 【13】: 自然風景地実地調査の計画(2)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

小野 良平(ONO RYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA656
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2 年次に続き、観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープの価値評価や保全・活用のあり方に関する、基礎および発展的な研究の課題や方法について学ぶ。

As a continuation of second year, students will learn basic and advanced research issues and methods relating to the evaluation and conservation/utilization of regional landscapes in tourist and other areas.

授業の内容 / Course Contents

固有の地域を対象に、景観の観点から、観光活用にかかわる提案をグループ作業で行い、その結果をとりまとめてプレゼンテーションし議論を行う。これを踏まえて参加者の個別研究テーマを具体化していくために、参加者各自の関心に沿って関連する文献を広範に講読・議論し理解を深める。

Students will conduct a proposal work on tourism activation program at a specific region from the aspect of landscape, as group work with presentations and discussions. Based on these works, in order to narrow down individual research themes, participants will read widely from the literature related to their interests and deepen their understanding through discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 観光活用提案の中間報告(1)
- 【3】: 観光活用提案の中間報告(2)
- 【4】: 観光活用提案の中間報告(3)
- 【5】: 観光活用提案発表(1)
- 【6】: 観光活用提案発表(2)
- 【7】: 観光活用提案発表(3)
- 【8】: 文献講読と議論
- 【9】: 文献講読と議論
- 【10】: 文献講読と議論
- 【11】: 文献講読と議論
- 【12】: 文献講読と議論
- 【13】: 文献講読と議論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A
ホテルの運営と実務
～ホテル世界の現状動向～

福島 礼依子(FUKUSHIMA REIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA657
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、ホテルの実務知識をふまえ、ホテル運営に必要なスキル向上や関連問題に応用できる力を習得することを目指す。

This course aims to develop knowledge and the ability to apply it to related problems, based on the practical knowledge of hotel operations.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、既にマーケティングの基礎知識を学び、身につけている受講生を対象として、ホテルビジネス運営やホスピタリティサービスに関わるテーマについて問題提起を行い、文献研究、現地調査を実施する。それに基づいて各受講生が研究レポートを発表し、ディスカッションを行う形で進めていく。

This course is for students who have learned and acquired the fundamental knowledge of marketing.

In this course, the issues concerning the current hotel operations and hospitality services, and each student will present a research report based on the issues and all students will carry out discussions based on the report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの確認
- 【3】: ホテル業界の現状と動向について文献研究
- 【4】: 観光現場における Hospitality に関する調査 1
現役ホテル宿泊課責任者への聞き取り
- 【5】: ホテル料飲の現状と動向について文献研究
- 【6】: 観光現場における Hospitality に関する調査 2
現役ホテル料飲課責任者への聞き取り
- 【7】: ホテル宴会の現状と動向について文献研究
- 【8】: 観光現場における Hospitality に関する調査 3
現役ホテル宴会課責任者への聞き取り
- 【9】: ホテルマーケティングの現状と動向について文献研究
- 【10】: 観光現場における Hospitality に関する調査 4
現役ホテルマーケティング課責任者への聞き取り
- 【11】: 報告書作成 1
- 【12】: 報告書作成 2
- 【13】: 報告の完成と発表

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の課題に必要な文献収集や分析、現地調査に必要な時間を確保すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回授業への参加度:60% 授業内課題:40%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

本シラバスは、変更の可能性があります。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B
ホテルの運営と実務
～ホテル世界の現状動向～

金 政煥(KIM JUNG-HWAN)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA658
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、ホテルの実務知識をふまえ、ホテル運営に必要なスキル向上や関連問題に応用できる力を習得することを目標とする。

This course aims to develop knowledge and the ability to apply it to related problems, based on the practical knowledge of hotels operations.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、既にマーケティングの基礎知識を学び、身につけている受講生を対象として、ホテルビジネス運営やホスピタリティサービスに関わるテーマについて問題提起を行い、文献研究、現地調査を実施する。それに基づいて各受講生が研究レポートを発表し、ディスカッションを行う形で進めていく。

This course is for students who have learned and acquired the fundamental knowledge of marketing.

In this course, the issues concerning the current hotel operations and hospitality services, and each student will present a research report based on the issues and all students will carry out discussions based on the report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの確認
- 【3】: ホテル業界の現状と動向について文献研究
- 【4】: 観光現場における Hospitality に関する調査 1
現役ホテル宿泊課責任者への聞き取り
- 【5】: ホテル料飲の現状と動向について文献研究
- 【6】: 観光現場における Hospitality に関する調査 2
現役ホテル料飲課責任者への聞き取り
- 【7】: ホテル宴会の現状と動向について文献研究
- 【8】: 観光現場における Hospitality に関する調査 3
現役ホテル宴会課責任者への聞き取り
- 【9】: ホテルマーケティングの現状と動向について文献研究
- 【10】: 観光現場における Hospitality に関する調査 4
現役ホテルマーケティング課責任者への聞き取り
- 【11】: 報告書作成 1
- 【12】: 報告書作成 2
- 【13】: 報告の完成と発表

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の課題に必要な文献収集や分析、現地調査に必要な時間を確保すること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回授業への参加度:60% 授業内課題:40%

毎回授業への参加度(60%)/授業内課題(40%)

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介する

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

観光資源化した建物や空間の研究

毛谷村 英治(KEYAMURA EIJI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA659
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習は観光対象となっている建物や空間について建築学の視点から考察し、観光対象を多面的に捉え、総合的に評価することが可能となることを目指し演習を行う。

The purpose of this exercise is to get the general view point by considering the facilities and spaces available for tourism.

授業の内容 / Course Contents

具体的な建物を観光の対象にすることの課題や問題点について考察を行う。現代建築の基礎となった近代建築の基本構成を理解した上で研究対象を選定する。建物の外観やインテリア、外部環境の実態を詳細に記録するとともに観光対象としての捉えられ方についても記録し、観光対象化の実態について考察する。

Students will make field survey on traditional architecture which are interesting for tourists. After confirming the basic composition of Japanese modern architecture, students will select survey subjects. We record the actual situation of the interior and the external environment in detail, record the actual situation of various perceptions, and consider the relationship with the surrounding environment.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 聖公会教会建築相互の関係性を鑑み、日本の近代建築への影響を考察する
- 【2】: 観光対象となっている日本近代建築の特徴と整理
- 【3】: 現地調査によって見出される特徴、共通点についての考察
- 【4】: 調査対象建築物の抽出
- 【5】: 調査エリアの検討
- 【6】: 調査対象エリアの歴史的特性
- 【7】: 調査対象エリアの文化的特性
- 【8】: 調査対象建築の特徴と見どころ、共通点
- 【9】: 観光対象としての魅力と建築物としての見どころの相違
- 【10】: 近代建築の中での位置づけ
- 【11】: 建築家の特徴とつながり
- 【12】: 近代建築プレ調査
- 【13】: 聞き取り調査シートの構成確認と作成
- 【14】: 調査旅行計画の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

調査地に関してあらゆる観点から情報を入手し事前学習しておくこと。調査対象を生活の場としておられる方々に決して不愉快な想いをさせることがないように気遣い、自分の行動に責任を持って行動すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み:50% 課題(複数回):50%

テキスト / Textbooks

必要に応じて適宜プリントを配付する。

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜相応しい参考文献を紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

協調性、リーダーシップ、探究心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン、スマホ、スケール

その他 / Others

片手間に授業に参加するのではなく、演習への参加を優先して学習に取り組めるようにすること。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

観光資源化している建物や広場の調査研究

毛谷村 英治(KEYAMURA EIJI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA660
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光に供せられる施設や空間について考察することを目的とした演習を行う。

The purpose of this exercise is to consider the facilities and spaces available for tourism.

授業の内容 / Course Contents

史実の舞台となった歴史的建造物のみならず建物自体のデザインが個性的であるが故に観光対象となる建築物が存在する。建において提供されるサービスを享受するために人々が訪れる観光施設とは建設目的が異なっているにも拘らず観光対象とされ、現実的には観光資源となっている。生活空間が観光地化される場合の課題とそこに暮らす人々にとって許容できる計画の進め方について巡礼地など具体事例を元に議論を行い理解を深める。

In the field survey, students record the appearance and interior of the building in detail, also record the actual state of architectures appreciation performed by the user, and consider the relationship with surrounding buildings. In addition to the religious implications of the pilgrimage, we will also discuss the non-religious significance of the pilgrimage, make a multifaceted analysis based on those records, and prepare a report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 現地調査の総括
- 【2】: 建物・インテリアのディテールを図面化
- 【3】: 建物やインテリアのカラーコーディネート
- 【4】: 周辺建築との関係性についての考察
- 【5】: 観光対象となる建築の特徴の整理と分類
- 【6】: 演出技法についての考察
- 【7】: 生活の中における建築の役割についての考察
- 【8】: 建築デザインから見た建築の演出技法
- 【9】: 関東対象となる建築のデザインとしつらえ
- 【10】: 観光対象としての建築の特性
- 【11】: 観光と建築
- 【12】: 報告書の作成1
- 【13】: 報告書の作成2
- 【14】: 報告書の完成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習を通じて学んだ知識と手法を用いて、実際に目にする平面図から空間を把握したり、自ら訪れた空間を合理的に図化する練習を繰り返し、身につけた上で、建築や都市を見渡し客観的にその評価が行えるようにすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み:50% 課題(複数回):50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

協調性、リーダーシップ、分析力、プレゼンテーション力、責任感、探究心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン、スマホ、スケール

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

木村 竜也 (KIMURA TATSUYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA661
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2年次に引き続き、観光地や地域の課題解決のための方策立案の視点や方法について学ぶ。

As a continuation of second year, students will learn perspectives and methods for proposing solutions to tourism and regional issues.

授業の内容 / Course Contents

観光地や地域の魅力の発掘ならびに顕在化し、誘客に結びつけていくための手法について学ぶとともに、観光計画に関する研究論文の講読を通じて、論文作成の方法について学ぶ。

Students will discover and actualize the appeal of a tourist site or region and learn methods for linking this to drawing in customers, while reading research papers on tourism planning and learning the method for writing research papers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 分析手法についての文献講読1
- 【3】: 分析手法についての文献講読2
- 【4】: 分析手法についての文献講読3
- 【5】: 分析の実践1
- 【6】: 分析の実践2
- 【7】: 分析結果の発表1
- 【8】: 分析結果の発表2
- 【9】: 調査準備1(調査テーマおよび調査対象地の選定1)
- 【10】: 調査準備2(調査テーマおよび調査対象地の選定2)
- 【11】: 調査準備3(調査対象地の情報収集と共有、調査項目の検討)
- 【12】: 調査準備4(調査項目の確定、行程の調整)
- 【13】: 調査準備5(調査計画の点検)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

調査の実施にあたっては,自ら行程管理を行い,計画的に進めること。また,各自・グループの作業成果を発表する際には,入念な準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミ中の発表,討論への参加状況, およびレポートを総合的に評価(100%):100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習中に適宜紹介する。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

木村 竜也 (KIMURA TATSUYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA662
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2年次に引き続き、観光地や地域の課題解決のための方策立案の視点や方法について学ぶ。

As a continuation of second year, students will learn perspectives and methods for proposing solutions to tourism and regional issues.

授業の内容 / Course Contents

観光地や地域の魅力の発掘ならびに顕在化し、誘客に結びつけていくための手法について学ぶとともに、観光計画に関する研究論文の講読を通じて、論文作成の方法について学ぶ。

Students will discover and actualize the appeal of a tourist site or region and learn methods for linking this to drawing in customers, while reading research papers on tourism planning and learning the method for writing research papers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 調査の取りまとめ1(報告書の作成1)
- 【3】: 調査の取りまとめ2(報告書の作成2)
- 【4】: 調査の取りまとめ3(発表)
- 【5】: 文献講読1(卒業論文の書き方)
- 【6】: 文献講読2(卒業論文の書き方)
- 【7】: 研究テーマの検討1
- 【8】: 文献講読3(論文)
- 【9】: 文献講読4(論文)
- 【10】: 文献講読5(論文)
- 【11】: 文献講読6(論文)
- 【12】: 研究テーマの検討2
- 【13】: 研究テーマの検討3
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド ^a (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

調査の実施にあたっては,自ら行程管理を行い,計画的に進めること。また,各自・グループの作業成果を発表する際には,入念な準備を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミ中の発表,討論への参加状況,およびレポートを総合的に評価(100%):100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

演習中に適宜紹介する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりを学ぶ

西川 亮(NISHIKAWA RYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA663
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

実際に具体的な地域を対象に、現地で地域住民の方に接し、まちづくりのあり方を考える。

Students will learn basic knowledge regarding urban planning, historical environmental conservation, and machizukuri.

In addition to literature, we will value the stance of learning from the actual area.

授業の内容 / Course Contents

都市的な空間を対象に、その地域が持つ歴史、地域の空間変容、用途の変容、都市計画の歴史、町並み保全と観光活用のための制度・政策や仕組み、町並み保全や観光まちづくりに関わる市民活動などの観点から調査・研究し、歴史的町並みにおける観光の課題やそれを解決するための方法を考える。

また、適宜週末を使って関東近郊の歴史的町並みを訪問し、調査をするほか、夏季休暇中には地方都市の歴史的街並みの調査と学会参加を予定している。

With the target of large urban areas and hot spring areas with historical buildings, and urban spaces in historical areas, we will think about the history of the area, spatial modifications of the area, modification of applications, the history of urban planning, preservation of the townscape and systems, policies, and mechanisms for using it for tourism, preservation of the townscape and survey/research from the perspective of citizen's activities, etc. regarding tourism urban planning, issues related to tourism in historical townscapes, and methods for solving them.

In addition, on suitable weekends, we will visit historical townscapes of the Kanto region and conduct surveys. During summer vacation, we plan to do group surveys of historical townscapes in the Hokuriku region and participate in an academic conference.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 文献精読・まちづくりの実践(1)
- 【2】: 文献精読・まちづくりの実践(2)
- 【3】: 文献精読・まちづくりの実践(3)
- 【4】: 文献精読・まちづくりの実践(4)
- 【5】: 文献精読・まちづくりの実践(5)
- 【6】: 文献精読・まちづくりの実践(6)
- 【7】: 文献精読・まちづくりの実践(7)
- 【8】: 文献精読・まちづくりの実践(8)
- 【9】: 文献精読・まちづくりの実践(9)
- 【10】: 文献精読・まちづくりの実践(10)
- 【11】: 文献精読・まちづくりの実践(11)
- 【12】: 文献精読・まちづくりの実践(12)

- 【13】: 文献精読・まちづくりの実践(13)
- 【14】: 文献精読・まちづくりの実践(14)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

多くの論文や文献を読むだけでなく、まちづくりの現場を積極的に尋ねてほしい。
また、授業以外にオンライン上での議論も求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への参加度・リアクションペーパー・提出課題:100%
毎回授業後 3 日以内に授業で学んだことについて小レポートを毎回オンライン上で提出してもらう

テキスト / Textbooks

適宜案内する

参考文献 / Readings

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりを学ぶ

西川 亮(NISHIKAWA RYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA664
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

具体的な地域を対象に独自の問いを立て、自ら調査・分析を行い、論文として執筆できるようになる。また、文献だけでなく実際の地域から学ぶ姿勢を大事にする。

Students will pose unique questions about specific areas, conduct their own research and analysis, and improve their academic writing. In addition to literature, we will value the stance of learning from the actual area.

授業の内容 / Course Contents

都市的な空間を対象に、その地域が持つ歴史、地域の空間変容、用途の変容、都市計画の歴史、町並み保全と観光活用のための制度・政策や仕組み、町並み保全や観光まちづくりに関わる市民活動などの観点から調査・研究し、歴史的町並みにおける観光の課題やそれを解決するための方法を考える。

また、適宜週末を使って関東近郊の歴史的町並みを訪問し、調査をするほか、夏季休暇中には地方都市の歴史的街並みの調査と学会参加を予定している。

With the target of large urban areas and hot spring areas with historical buildings, and urban spaces in historical areas, we will think about the history of the area, spatial modifications of the area, modification of applications, the history of urban planning, preservation of the townscape and systems, policies, and mechanisms for using it for tourism, preservation of the townscape and survey/research from the perspective of citizen's activities, etc. regarding tourism urban planning, issues related to tourism in historical townscapes, and methods for solving them.

In addition, on suitable weekends, we will visit historical townscapes of the Kanto region and conduct surveys. During summer vacation, we plan to do group surveys of historical townscapes in the Hokuriku region and participate in an academic conference.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 文献精読・まちづくりの実践(15)
- 【2】: 文献精読・まちづくりの実践(16)
- 【3】: 文献精読・まちづくりの実践(17)
- 【4】: 文献精読・まちづくりの実践(18)
- 【5】: 文献精読・まちづくりの実践(19)
- 【6】: 文献精読・まちづくりの実践(20)
- 【7】: 文献精読・まちづくりの実践(21)
- 【8】: 文献精読・まちづくりの実践(22)
- 【9】: 文献精読・まちづくりの実践(23)
- 【10】: 文献精読・まちづくりの実践(24)
- 【11】: 文献精読・まちづくりの実践(25)

【12】: 文献精読・まちづくりの実践(26)

【13】: 文献精読・まちづくりの実践(27)

【14】: 文献精読・まちづくりの実践(28)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

多くの論文や文献を読むだけでなく、まちづくりの現場を積極的に尋ねてほしい。

また、授業以外にオンライン上での議論も求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・リアクションペーパー・提出課題:100%

毎回授業後 3 日以内に授業で学んだことについて小レポート(400 文字程度)を毎回オンライン上で提出してもらう

テキスト / Textbooks

適宜案内する

参考文献 / Readings

適宜案内する

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

鍋倉 咲希(NABEKURA SAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA667
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	第 3、6、10、14 回目を対面で実施
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点と方法に関する理解を深める。

Deepen understanding of the perspectives and methods of sociology of tourism.

授業の内容 / Course Contents

社会学や文化人類学の文献講読や古典的議論の理解を通じて、社会学に関する知識を深める。フィールドワークを行い、授業で身につけた視点をを用いて地域の調査・分析に取り組む。

授業後半には個人もしくはグループごとに研究テーマを定め、発表・議論の場を設けて研究計画を作成する。

(1) Students will deepen their knowledge to analyze 'Mobilities' phenomena in contemporary society through literature readings in sociology and cultural anthropology, as well as reading classical discussions.

(2) In addition to classroom lectures, fieldwork will be conducted, and students will engage in research and analysis on regional and tourism phenomena using the perspectives acquired in class.

(3) In the latter half of the class, each individual or group will define a research theme and prepare a research plan with opportunities for presentation and discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: フィールドワーク事前学習
- 【8】: フィールドワーク
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 文献講読
- 【11】: 文献講読
- 【12】: 研究計画の作成・発表
- 【13】: 研究計画の作成・発表
- 【14】: 授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前には文献講読や発表の準備を行う。

授業後には発表内容の振り返りや授業で取り上げたテーマに関するさらなる分析をまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(文献講読、発言の内容、提出物):70% 期末レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

須藤廣ほか『よくわかる観光コミュニケーション論』ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己ほか『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は8回以上がオンラインで実施されます。円滑な授業運営のため、各自で受講に適したオンライン環境を整えてください。オンライン／対面のいずれも、積極的な議論への参加を求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoomに参加するためのPCなどを準備してください。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

鍋倉 咲希(NABEKURA SAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA668
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	第 3、7、10、14 回目を対面で実施
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまで講義や演習で身につけた知識にもとづき、自ら問いを立て、現代社会の観光・移動現象を分析する能力を身につける。

Based on the knowledge acquired through lectures and exercises, students will acquire the ability to ask their own questions and analyze tourism and mobility phenomena in contemporary society.

授業の内容 / Course Contents

個人もしくはグループごとに自ら関心や疑問を持つテーマに関して研究に取り組む。各自の進捗状況の発表や内容に関する議論を通じて、分析や議論の内容を推敲する。

Work individually or in groups on a topic of personal interest or question.

(1) Students will present their progress and discuss the contents of their research in order to refine their analyses and discussions.

(2) As outputs of their research, they will write reports and hold debriefing sessions on the results of their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:研究計画の確認
- 【3】:進捗状況の報告・研究指導(研究テーマの確定)
- 【4】:進捗状況の報告・研究指導(研究テーマの確定)
- 【5】:進捗状況の報告・研究指導(関連する文献や情報・資料の整理)
- 【6】:進捗状況の報告・研究指導(関連する文献や情報・資料の整理)
- 【7】:進捗状況の報告・研究指導(関連する文献や情報・資料の整理)
- 【8】:進捗状況の報告・研究指導(調査の実施・データの整理)
- 【9】:進捗状況の報告・研究指導(調査の実施・データの整理)
- 【10】:進捗状況の報告・研究指導(調査の実施・データの整理)
- 【11】:進捗状況の報告・研究指導(分析および議論・報告書執筆)
- 【12】:進捗状況の報告・研究指導(分析および議論・報告書執筆)
- 【13】:進捗状況の報告・研究指導(分析および議論・報告書執筆)
- 【14】:研究成果の発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内での指導・コメントを踏まえ、主体的に研究を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(文献講読、発言の内容、提出物):70% 報告書の内容:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

須藤廣ほか『よくわかる観光コミュニケーション論』ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己ほか『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は8回以上がオンラインで実施されます。円滑な授業運営のため、各自で受講に適したオンライン環境を整えてください。オンライン／対面のいずれも、積極的な議論への参加を求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoomに参加するためのPCなどを準備してください。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

野田 健太郎 (NODA KENTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA701
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文執筆を目標に専門的な知見を高めることを目指す。

The aim is to increase specialist knowledge for graduation thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

本研究では、実際の企業情報を多角的な観点から分析することに重点を置きつつ、各自の研究課題と研究計画に基づいて報告を行い全員で討論を行う。卒業研究指導 A では、下記の1～14 の全体を念頭に置きながら、主としてテーマ設定の意義、明確化に重点を置く。

In this study, we will focus on analyzing actual corporate information from a multi-faceted perspective, make a report based on each research topic and research plan, and will discuss it with all of the participants. In Seminar on Graduation Research A, keeping items 1 to 14 below in mind, students will focus on the significance of setting and clarification of their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 大まかなテーマの設定
- 【2】: テーマに関係する資料の収集
- 【3】: 研究事例の吟味
- 【4】: 予備調査(予備研究)の実施
- 【5】: 研究テーマ・意義の確定
- 【6】: 先行研究の収集と再検討
- 【7】: 研究仮説の構築、仮説構築に向けてポイントを確認
- 【8】: 方法論の明確化
- 【9】: データ収集方法について検討
- 【10】: データの分析方法について検討
- 【11】: 仮説の検証方法について検討
- 【12】: 論文のドラフト執筆
- 【13】: さまざまな討論
- 【14】: 内容の深化と文章推敲

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、報告内容などによって総合的に評価する。:100%

テキスト / Textbooks

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443817 3034

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 年 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門 大学教育出版 2004 年 4887305648

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

野田 健太郎 (NODA KENTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA702
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文執筆を目標に専門的な知見をいっそう高めることを目指す。

The aim is to further increase specialist knowledge for graduation thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、実際の企業情報を多角的な観点から分析することに重点を置きつつ、各自の研究課題と研究計画に基づいて報告を行い全員で討論を行う。卒業研究指導 B では、下記の1～14 の全体を念頭に置きながら、論文執筆に向けての具体的な検討に重点を置く。

In this class, we will focus on analyzing actual corporate information from a multi-faceted perspective, make a report based on each research topic and research plan, and will discuss with all of the participants. In Seminar on Graduation Research B, keeping items 1 to 14 below in mind, students will emphasize investigation into thesis writing itself.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 大まかなテーマの設定
- 【2】: テーマに関係する資料の収集
- 【3】: 研究事例の吟味
- 【4】: 予備調査(予備研究)の実施
- 【5】: 研究テーマ・意義の確定
- 【6】: 先行研究の収集と再検討
- 【7】: 研究仮説の構築、仮説構築に向けてポイントを確認
- 【8】: 方法論の明確化
- 【9】: データ収集方法について検討
- 【10】: データの分析方法について検討
- 【11】: 仮説の検証方法について検討
- 【12】: 論文のドラフト執筆
- 【13】: さまざまな討論
- 【14】: 内容の深化と文章推敲

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、報告内容などによって総合的に評価する。:100%

テキスト / Textbooks

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443817 3034

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 年 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門—起業家マインドの醸成に向けて 大学教育出版 2004 年 4887305648

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A
観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹(AZUMA TORU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA703
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

卒業研究指導では、各自がテーマを設定し、研究を進めていきます。

授業では、研究経過をレポートにまとめてプレゼンテーションを行い、それをもとにディスカッションを進めます。これまで観光学部で学んできた経験を活かし、身につけた知識やスキルを活用して、卒業研究に取り組んでみましょう。社会に巣立っていくに当たり、これまでの集大成をするのもよし、あるいはこれから進む進路にあわせて研究に取り組むのもいいでしょう。

通常の授業のほか、観光振興や地域づくりに取り組む現場を訪ねたり、ビジネスの最前線で活躍されている方をお招きした講演会なども計画しています。

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 課題研究の発表とディスカッション①
- 【2】: 課題研究の発表とディスカッション②
- 【3】: 課題研究の発表とディスカッション③
- 【4】: 課題研究の発表とディスカッション④
- 【5】: 課題研究の発表とディスカッション⑤
- 【6】: ゲスト講演会①(地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います)
- 【7】: 課題研究の発表とディスカッション⑥
- 【8】: 課題研究の発表とディスカッション⑦
- 【9】: 課題研究の発表とディスカッション⑧
- 【10】: 課題研究の発表とディスカッション⑨

【11】:課題研究の発表とディスカッション⑩

【12】:ゲスト講演会②(地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います)

【13】:課題研究の発表とディスカッション⑪

【14】:課題研究の発表とディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習(ゼミナール)は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲, 参加態度, 発表内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B
観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹(AZUMA TORU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA704
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

卒業研究では、各自がテーマを設定し、研究を進めていきます。

研究経過をレポートにまとめてプレゼンテーションを行い、それをもとにディスカッションを進めます。これまで観光学部で学んできた経験を活かし、身につけた知識やスキルを活用して、「卒業論文」をまとめてみましょう。社会に巣立っていくに当たり、これまでの集大成をするのもよし、あるいはこれから進む進路にあわせて研究に取り組むのもいいでしょう。

通常の授業のほか、観光振興や地域づくりに取り組む現場を訪ねたり、ビジネスの最前線で活躍されている方をお招きした講演会なども計画しています。

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 課題研究の発表とディスカッション①
- 【2】: 課題研究の発表とディスカッション②
- 【3】: 課題研究の発表とディスカッション③
- 【4】: 課題研究の発表とディスカッション④
- 【5】: 課題研究の発表とディスカッション⑤
- 【6】: ゲスト講演会①(地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います)
- 【7】: 課題研究の発表とディスカッション⑥
- 【8】: 課題研究の発表とディスカッション⑦
- 【9】: 課題研究の発表とディスカッション⑧
- 【10】: 課題研究の発表とディスカッション⑨
- 【11】: 課題研究の発表とディスカッション⑩

- 【12】:ゲスト講演会②(地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います)
- 【13】:課題研究の発表とディスカッション⑪
- 【14】:課題研究の発表とディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習(ゼミナール)は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲, 参加態度, 発表内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA705
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光経営学を中心とした観光学の分野において、卒業研究を行う。
Students will conduct graduation research project in the field of tourism science, with a focus on tourism management.

授業の内容 / Course Contents

観光ビジネス・ホスピタリティビジネスの分野を中心に、近年の研究動向を整理・分類する。具体的な研究論文を題材に、研究における理論的フレームワークの設定や概念規定、および仮説設定とその検証方法について学ぶ。
With a focus on the fields of tourism business and hospitality business, students will organize and classify recent research trends. Using specific research papers as their themes, students will learn about setting a theoretical framework for research and concept definitions, as well as hypothetical settings and how to verify them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究分野としての観光学
- 【2】:研究にとっての論文の意味
- 【3】:アカデミズムとジャーナリズム
- 【4】:観光学と経営学
- 【5】:図書館とデータベース
- 【6】:先行研究の調査 1
- 【7】:先行研究の調査 2
- 【8】:先行研究の調査 3
- 【9】:研究のフレームワークと理論 1
- 【10】:研究のフレームワークと理論 2
- 【11】:データの価値とサンプリング
- 【12】:1 次データと 2 次データ
- 【13】:先行研究の調査と選別の基準
- 【14】:仮説の設定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、報告内容などによって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

外山 滋比古 思考の整理学 ちくま文庫 1986

参考文献 / Readings

新堀 聡 評価される博士・修士卒業論文の書き方考え方 同文館出版 2002

川崎 剛 社会科学系のための「優秀論文」作成術 勁草書房 2010

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA706
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光経営学を中心とする観光学の分野において、卒業研究を行う。

Students will conduct graduation research project in the field of tourism science, with a focus on tourism management.

授業の内容 / Course Contents

観光ビジネス・ホスピタリティビジネスの分野を中心に、近年の研究動向を整理・分類する。具体的な研究論文を題材に、研究における理論的フレームワークの設定や概念規定、および仮説設定とその検証方法について学ぶ。

With a focus on the fields of tourism business and hospitality business, students will organize and classify recent research trends. Using specific research papers as their themes, students will learn about setting a theoretical framework for research and concept definitions, as well as hypothetical settings and how to verify them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 観光経営学の現在
- 【2】: 観光経営学の研究分野 1
- 【3】: 観光経営学の研究分野 2
- 【4】: 観光経営学の研究分野 3
- 【5】: 観光経営学の研究分野 4
- 【6】: 観光経営学の新領域 1
- 【7】: 観光経営学の新領域 2
- 【8】: 観光経営学の新領域 3
- 【9】: 観光経営学の新領域 4
- 【10】: 先行研究の整理 1
- 【11】: 先行研究の整理 2
- 【12】: 先行研究の整理 3
- 【13】: 学生プレゼンテーション
- 【14】: 学生プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習について、授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、報告内容などによって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

アメリカ心理学会 APA 論文作成マニュアル 医学書院 2023

参考文献 / Readings

授業において指示する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

小野 良平(ONO RYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA707
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープの価値評価や保全・活用のあり方に関する、卒業論文執筆のための課題の設定や調査の方法等について学ぶ。

Students will learn methods of research and establishing topics for graduation thesis writing related to evaluation, conservation and utilization of regional landscapes, scenery, sightseeing spots and such locations.

授業の内容 / Course Contents

3 年次までに学んだ調査研究の方法等について、自身のテーマに即して具体的に検討し、議論も踏まえながら研究を進める。その成果を卒業論文としてまとめる。

Students will use the survey research methods they learned up to third year to investigate in line with their own research topic, and proceed with their research based on our discussion. Students will summarize these results in their graduation thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究テーマの検討(1)
- 【3】: 研究テーマの検討(2)
- 【4】: 研究テーマの検討(3)
- 【5】: 研究テーマの検討(4)
- 【6】: 研究経過報告と議論(1)
- 【7】: 研究経過報告と議論(2)
- 【8】: 研究経過報告と議論(3)
- 【9】: 研究経過報告と議論(4)
- 【10】: 研究経過報告と議論(5)
- 【11】: 研究経過報告と議論(6)
- 【12】: 研究経過報告と議論(7)
- 【13】: 研究経過報告と議論(8)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

小野 良平(ONO RYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA708
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープの価値評価や保全・活用のあり方に関する、独自の研究のための方法等について学び実践し、卒業論文を執筆する。

Students will learn methods for their independent research and write graduation thesis related to evaluation, conservation and utilization of regional landscapes, scenery, sightseeing spots and such locations.

授業の内容 / Course Contents

これまでに学んだ調査研究の方法等について、自身のテーマに即して具体的に検討し、議論も踏まえながら調査を実施する。その結果について分析・考察を進め、卒業論文としてまとめ発表するための作法・技術についても学ぶ。

Students will use the survey research methods they learned up to now to investigate in line with their own research topic, and conduct their research based on our discussion. Continuing our investigation and analysis of the results, students will study methods and techniques for compiling and presenting their graduation thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 中間報告会(1)
- 【2】: 中間報告会(2)
- 【3】: 中間報告会(3)
- 【4】: 研究経過報告と議論(1)
- 【5】: 研究経過報告と議論(2)
- 【6】: 研究経過報告と議論(3)
- 【7】: 研究経過報告と議論(4)
- 【8】: 研究経過報告と議論(5)
- 【9】: 研究経過報告と議論(6)
- 【10】: 研究経過報告と議論(7)
- 【11】: 研究経過報告と議論(8)
- 【12】: 最終発表会(1)
- 【13】: 最終発表会(2)
- 【14】: 最終発表会(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A
都市観光と観光地域の構造

杜 国慶(DU GUOQING)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA709
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市観光と観光地域の構造について、各自の関心を持つテーマを決定し、フィールドワークを通じて、今まで学習した知識を実践的な研究に活用することである。

Students will choose a theme based on their interests with regard to urban tourism and the structure of tourist sites, and through fieldwork, students will use the knowledge they have already studied for practical research.

授業の内容 / Course Contents

定期的な発表を通じて指導する。研究の進め方、論文の作成に関しては、それぞれの進み具合に応じて個別に指導を行う。論文作成における文献の講読、パソコン・ソフトの運用を学習する。文章のみならず、空間的に物事を考え、地図で表現する能力を育成・強化する。

Guidance will be provided through these regular presentations. Individual instruction will be given regarding how to proceed with research and academic paper writing, depending on their progress. Students will learn how to read the literature for paper writing, and how to make use of computers and software. Students will develop and strengthen their ability not only to write, but also to think about things spatially and express them in maps.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:レポート作成法:Word 作業
- 【3】:レポート作成法:モデル図
- 【4】:テーマ報告①
- 【5】:テーマ報告②
- 【6】:テーマ報告③
- 【7】:テーマ報告④
- 【8】:テーマ報告⑤
- 【9】:調査報告①
- 【10】:調査報告②
- 【11】:調査報告③
- 【12】:調査報告④
- 【13】:進路懇談会
- 【14】:調査報告⑤

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・取り組み:40% 報告:60%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS を利用する。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

杜 国慶(DU GUOQING)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA710
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

都市観光と観光地域の構造について、各自の関心を持つテーマを決定し、フィールドワークを通じて、今まで学習した知識を実践的な研究に活用することである。

Students will choose a theme based on their interests with regard to urban tourism and the structure of tourist sites, and through fieldwork, students will use the knowledge they have already studied for practical research.

授業の内容 / Course Contents

定期的な発表を通じて指導する。研究の進め方、論文の作成に関しては、それぞれの進み具合に応じて個別に指導を行う。論文作成における文献の講読、パソコン・ソフトの運用を学習する。文章のみならず、空間的に物事を考え、地図で表現する能力を育成・強化する。

Guidance will be provided through these regular presentations. Individual instruction will be given regarding how to proceed with research and academic paper writing, depending on their progress. Students will learn how to read the literature for paper writing, and how to make use of computers and software. Students will develop and strengthen their ability not only to write, but also to think about things spatially and express them in maps.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:調査発表 1
- 【3】:調査発表 2
- 【4】:調査発表 3
- 【5】:調査発表 4
- 【6】:調査発表 5
- 【7】:研究報告 1
- 【8】:研究報告 2
- 【9】:研究報告 3
- 【10】:研究報告 4
- 【11】:卒業研究作成・ゼミ履修選考面接
- 【12】:報告準備
- 【13】:プレゼンテーション準備 1
- 【14】:プレゼンテーション準備 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・取り組み:40% 報告:60%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS を利用する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

相澤 孝文(AIZAWA TAKAFUMI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA711
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光行動・心理を中心とする研究領域の研究テーマを自ら設定し、それに関連する文献研究を進めるとともに、調査データを組織的・計画的に収集し、分析するための一連の知的生産のための手法を習得する。

Student will set a theme for individual research based on Human Behavior in Tourism and psychology, learn how to systematically collect, organize and analyze related data.

授業の内容 / Course Contents

3 年次までに演習や講義を通じて学んだ知識や調査方法を駆使し、個々人の問題意識に沿った研究テーマを設定して卒業論文の準備のための個人研究に取り組む。授業内で定期的に発表を義務づけるほか、必要に応じて個別指導を行う。

A graduation thesis is required for this seminar as “the totality of student life”. Making full use of the knowledge and research methods learned in seminars and lectures up to Year 3, students will tackle individual research, establishing research themes in line with awareness of each issue. In addition to requiring regular presentations in class, students collect and analyze survey data obtained individually outside class hours. Individualized guidance will be provided as necessary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究テーマの設定
- 【2】:研究テーマの設定
- 【3】:研究テーマの設定
- 【4】:先行研究の整理
- 【5】:先行研究の整理
- 【6】:先行研究の整理
- 【7】:調査計画の設定
- 【8】:調査計画の設定
- 【9】:調査計画の設定
- 【10】:予備調査の実施
- 【11】:予備調査の実施
- 【12】:予備調査の実施
- 【13】:調査計画の再検討
- 【14】:調査計画の再検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って参考文献を研究し、調査計画をたてた上で現地調査を行い、データの分析を進めることで次の発表に向けて準備を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況・授業への取り組み:60% 発表内容:40%

テキスト / Textbooks

とくに使用しない。

参考文献 / Readings

研究テーマに応じて個別に紹介する。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA712
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光行動・心理を中心とする研究分野のテーマを自ら設定し、関連するデータを組織的・計画的に収集・分析し、それをわかりやすく表現する方法を習得する。

Student will set a theme for individual research based on Human Behavior in Tourism and psychology, acquiring methods of organizing related data, systematically collecting and analyzing, and how to express clearly.

授業の内容 / Course Contents

4 年次春学期までに学んだ知識と調査方法を駆使し、個々人の問題意識に沿った研究テーマを設定して個別に調査データの収集・データの分析を行い、卒業論文の執筆に取り組む。授業内で定期的に発表を義務づけるほか、必要に応じて個別指導を行う。

A graduation thesis is required for this seminar as “the totality of student life”. Making full use of the knowledge and research methods learned in seminars and lectures up to the spring semester of Year 4, students will the process of writing a graduation paper, establishing research themes in line with awareness of each issue. In addition to requiring regular presentations in class, students collect and analyze survey data obtained individually outside class hours. Individualized guidance will be provided as necessary.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究経過の報告
- 【2】: 本調査の実施
- 【3】: 本調査の実施
- 【4】: 本調査の実施
- 【5】: 調査データの分析
- 【6】: 調査データの分析
- 【7】: 調査データの分析
- 【8】: 論文執筆の方法
- 【9】: 論文執筆の方法
- 【10】: 論文執筆の方法
- 【11】: 論文執筆の方法
- 【12】: プレゼンテーションの方法
- 【13】: プレゼンテーションの方法
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って準備を進めること。本調査で収集するデータはプライバシーの侵害に留意し、妥当性を検討したうえで分析を進め、わかりやすく表現できているかを確認しつつ次回の報告資料としてまとめること。疑問点は必要に応じて個別指導を行うので、その際に問い合わせること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況・授業への取り組み:60% 発表内容:40%

テキスト / Textbooks

とくに使用しない。

参考文献 / Readings

研究テーマに応じて個別に紹介する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA713
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習は観光と政治の関係をテーマとしている。到達目標は、各自の考えを第三者に説明できるように、客観的資料を用いて論理的に説明できることになることである。

The theme of this seminar is the relationship between tourism and politics. The goal is to be able to explain logically using objective materials so that they can explain their ideas.

授業の内容 / Course Contents

3 年次までに身に付けてきた調べる技術や、考察する技術、知識を用いて、個々人の関心に沿った研究テーマを設定する。卒業論文の執筆を目指して、個人研究に取り組む。ゼミでのプレゼンテーション報告を行う。

Participants will use the research techniques, consideration techniques, and knowledge they have acquired by the third year to set research themes that are relevant to each individual's interests. Participants will engage in individual research with the aim of writing their graduation thesis. Participants will report their presentations at the seminar.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:研究テーマの設定
- 【3】:研究テーマの設定
- 【4】:研究テーマの設定
- 【5】:先行研究の調査
- 【6】:先行研究の調査
- 【7】:先行研究の調査
- 【8】:調査計画の立案
- 【9】:調査計画の立案
- 【10】:調査計画の立案
- 【11】:予備調査の実施
- 【12】:予備調査の実施
- 【13】:調査計画の修正
- 【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げた文献を復習すること。

関心のある文献を読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表への参加・議論への参加・提出物等を総合的に評価:80% 調査・フィールドワーク参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA714
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習は観光と政治の関係をテーマとしている。到達目標は、各自の考えを第三者に説明できるように、客観的資料を用いて論理的に説明できることになることである。

The theme of this seminar is the relationship between tourism and politics. The goal is to be able to explain logically using objective materials so that they can explain their ideas.

授業の内容 / Course Contents

参加者は3年次までに身に付けてきた調べる技術や、考察技術、知識を用いて、個々人の関心に沿った個人研究に取り組む。参加者には定期的な報告が求められる。

Participants will engage in individual research using the research techniques, consideration techniques, and knowledge they have acquired by the third year. Participants are required to report regularly.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 調査報告
- 【2】: 調査報告
- 【3】: 調査報告
- 【4】: 論文執筆の進捗報告
- 【5】: 論文執筆の進捗報告
- 【6】: 論文執筆の進捗報告
- 【7】: 論文執筆の進捗報告
- 【8】: 論文執筆の進捗報告
- 【9】: 論文執筆の進捗報告
- 【10】: 論文執筆の進捗報告
- 【11】: プレゼンテーション準備
- 【12】: プレゼンテーション準備
- 【13】: プレゼンテーション準備
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

関心のある文献を読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加と貢献(各回に参加するための事前準備と、ディスカッションへの積極的な参加):100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A
卒業論文作成に向けて研究する

韓 志昊 (HAN JIHO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA715
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文作成に向けて研究を行う。

Students will conduct research for graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文のテーマ作成、調査方法、執筆について指導する。

Guidance will be provided on devising a graduation thesis theme, survey methods, and writing.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:卒業論文について & 研究倫理について
- 【2】:文献検索について
- 【3】:テーマの選定について
- 【4】:研究背景について 1
- 【5】:研究背景について 2
- 【6】:先行研究のレビュー1
- 【7】:先行研究のレビュー2
- 【8】:調査方法1
- 【9】:調査方法2
- 【10】:卒論テーマの発表
- 【11】:調査計画1 & 個別指導
- 【12】:調査計画2 & 個別指導
- 【13】:調査計画3 & 個別指導
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

平日は、毎日 1 時間の卒業研究を行うように時間管理をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業研究の構想発表:40% 毎回の進捗状況確認:40% 期末発表:20%

テキスト / Textbooks

特に指定なし

参考文献 / Readings

国語辞典を使用すること。

その他 / Others

各自の研究に関連する資料をすべて収集する。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B
卒業論文を完成する

韓 志昊 (HAN JIHO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA716
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文を完成する。

Students will complete graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の執筆を中心に指導する。

Guidance will be provided on graduation thesis writing.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 卒業研究の進行状況を確認する
- 【2】: データ収集と分析の指導 1
- 【3】: データ収集と分析の指導 2
- 【4】: 卒業論文の体裁を確認
- 【5】: 卒業論文の執筆に関して個別指導
- 【6】: 剽窃の確認 1
- 【7】: 研究背景と先行研究の作成を指導
- 【8】: 研究方法と結果の作成を指導
- 【9】: 卒業論文のドラフト版提出と指導
- 【10】: 剽窃の確認 2
- 【11】: 卒業論文最終確認
- 【12】: 卒業発表資料作成ーレジュメ
- 【13】: 卒業発表資料作成ースライド
- 【14】: 卒業発表の準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎日 1 時間は必ず卒業論文の執筆に設定すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 進行状況の発表:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A
建築、まち、空間、デザイン系卒業研究

毛谷村 英治(KEYAMURA EIJI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA717
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成に向けて多角的な視点からアドバイスを行うことにより、観光研究に関する専門知識を深めるとともに、卒業論文の執筆がスムーズに進められるようにする。

With advice provided from a variety of perspectives for the completion of your graduation thesis, students will deepen their expertise in tourism research while aiding smooth graduation thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の執筆に必要な専門知識や調査技術を学びつつ、完成に向けて作業を進めていくための指導を適宜行う。具体的には、研究テーマの選定、調査計画の立案、調査対象の選定、調査・分析方法の検討、さらにはその研究成果を理解してもらうために必要なプレゼンテーション能力等である。

While learning the specialized knowledge and techniques required for graduation thesis writing, appropriate instruction will be provided to support the progression to completion. Specifically, establishing research topics and designing surveys, methods of survey analysis, as well as acquiring presentation skills to communicate the contents effectively.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:研究テーマの検討1
- 【3】:研究テーマの検討2
- 【4】:研究テーマの検討3
- 【5】:研究テーマに合った文献研究1
- 【6】:研究テーマに合った文献研究2
- 【7】:研究テーマに合った文献研究3
- 【8】:調査計画の立案1
- 【9】:調査計画の立案2
- 【10】:調査計画の立案3
- 【11】:予備(プレ)調査の実施1
- 【12】:予備(プレ)調査の実施2
- 【13】:予備調査の結果検討と、本調査向けの調査項目、調査対象の再検討
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って準備を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各自の卒業研究への取り組みと発表:100%

テキスト / Textbooks

とくに使用しない。

参考文献 / Readings

各自のテーマに応じて個別に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

協調性、リーダーシップ、探究心、忍耐力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

定規やカッター、カッターボードなど工作道具

その他 / Others

次の週の演習時に、1mm でも2mm でも前に進んでいれば良いので、常に前に進めたいという気持ちで演習に取り組んでください。後退することがあっても、最終的に前に進めていれば良いので、弛まぬ努力が必要です。自ら決めたことをやり遂げることで得られる達成感を来春味わえるように力を尽くしてください。発表者以外も質疑応答に参加し、研究計画の立て方や調査方法について共に学習し、メンバー全員で情報共有しながら学んでいく。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

建築、まち、空間、デザイン系研究

毛谷村 英治(KEYAMURA EIJI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA718
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成に向けて多角的な視点からアドバイスをを行うことにより、観光研究に関する専門知識を深めるとともに、卒業論文の執筆がスムーズに進められるようにする。他のメンバーが取り組む研究に関する質疑応答に参加することで、専門知識の幅を広げ、大学での学び方を実践的に習得する。

With advice provided from a variety of perspectives for the completion of student's graduation thesis, students will deepen their expertise in tourism research while aiding smooth graduation thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の執筆に必要なとされる専門知識や技術を学びつつ、完成に向けて準備を進めていくための指導を適宜行う。具体的には、研究テーマの設定、調査計画の設定、調査・分析方法、さらにはその内容を理解してもらうために必要なプレゼンテーション能力等である。

While learning the specialized knowledge and techniques required for graduation thesis writing, appropriate instruction will be provided to support the progression to completion. Specifically, establishing research topics and designing surveys, methods of survey analysis, as well as acquiring presentation skills to communicate the contents effectively.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 本調査の実施1
- 【2】: 本調査の実施2
- 【3】: 本調査の実施3
- 【4】: 調査結果の分析と考察1
- 【5】: 調査結果の分析と考察2
- 【6】: 調査結果の分析と考察3
- 【7】: 論文執筆と構成・内容等の指導1
- 【8】: 論文執筆と構成・内容等の指導2
- 【9】: 論文執筆と構成・内容等の指導3
- 【10】: 論文執筆と構成・内容等の指導4
- 【11】: 報告準備1
- 【12】: 報告準備2
- 【13】: プレゼンテーション準備1
- 【14】: プレゼンテーション準備2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	○

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って準備を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 提出された卒業論文の本体ならびに卒業論文報告会における報告ならびに質疑応答を対象に行う:100%

テキスト / Textbooks

特に使用しない

参考文献 / Readings

各自のテーマに応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

目標(卒論提出)に向かって弛まぬ努力を積み重ねる意思と最後まで諦めない精神力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

各自の研究テーマに応じて準備してください

その他 / Others

毎回、メンバー各自が前回の発表時から行った考察、分析、執筆について内容の如何に関わらず発表し、卒業研究完成に向けて着実前進できるような機運を醸成する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

研究テーマ・論文構成を考える

守屋 邦彦(MORIYA KUNIIHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA719
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

持続的な観光地域づくりに結びつくための課題発見, 解決策提案のための調査・研究手法を身につけるとともに, 論文の作成技法を理解する。

Students will learn the methods of writing academic papers, while acquiring research and survey methodologies, so that they can identify issues in creating sustainable tourist areas, and propose solutions.

授業の内容 / Course Contents

3年次までの成果を踏まえて, 持続的な観光地域づくりに結びつくための課題発見, 解決策提案のための調査・研究を個々に設定, 実施する。

原則として, 1ヶ月に1回程度は途中経過を報告し, 意見交換ならびに研究指導を行う。調査・研究の成果は「卒業論文」として取りまとめる。

Based on work up to Year 3, students will choose and conduct individual research and surveys in order to identify issues in creating sustainable tourism areas, and proposing solutions.

In principle, about once a month, students will report progress, exchange opinions, while instructors will provide guidance on research. The results of surveys and research will be compiled as the “graduation thesis”.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(論文構成の考え方、研究の進め方等)
- 【2】: 論文執筆に向けた個別指導1
- 【3】: 論文執筆に向けた個別指導2
- 【4】: 研究テーマを取り巻く現状についての発表1
- 【5】: 研究テーマを取り巻く現状についての発表2
- 【6】: 論文執筆に向けた個別指導3
- 【7】: 論文執筆に向けた個別指導4
- 【8】: 研究テーマに関する先行研究についての発表1
- 【9】: 研究テーマに関する先行研究についての発表2
- 【10】: 論文執筆に向けた個別指導5
- 【11】: 論文執筆に向けた個別指導6
- 【12】: 研究テーマの調査・分析方法についての発表1
- 【13】: 研究テーマの調査・分析方法についての発表2
- 【14】: まとめ・今後の研究の進め方についての個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自らの発表の際には事前に入念な準備を行うとともに、授業中に指摘されたこと、議論した内容は必ず次の発表までに反映すること。また他の学生が指摘されていることも自らに当てはめて考えることによって、毎授業同じような指摘が繰り返されないように注意すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミ中の発表、討論への参加状況を総合的に評価:80% 卒論の概要・構成に関する小レポート:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

各自のテーマに応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

研究の遂行、論文執筆に必要なため、word, excel の基本的な操作は身につけておいてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノートPC をゼミに適宜持参できるようにしておいてください。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

研究テーマに関する調査分析、考察を行い、卒業論文を執筆する

守屋 邦彦(MORIYA KUNIHICO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA720
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

持続的な観光地域づくりに結びつくための課題発見, 解決策提案のための調査・研究手法を身につけるとともに, 論文の作成技法を理解する。

Students will learn the methods of writing academic papers, while acquiring research and survey methodologies, so that they can identify issues in creating sustainable tourist areas, and propose solutions.

授業の内容 / Course Contents

3年次までの成果を踏まえて, 持続的な観光地域づくりに結びつくための課題発見, 解決策提案のための調査・研究を個々に設定, 実施する。

原則として, 1ヶ月に1回程度は途中経過を報告し, 意見交換ならびに研究指導を行う。調査・研究の成果は「卒業論文」として取りまとめる。

Based on work up to Year 3, students will choose and conduct individual research and surveys in order to identify issues in creating sustainable tourism areas, and proposing solutions.

In principle, about once a month, students will report progress, exchange opinions, while instructors will provide guidance on research. The results of surveys and research will be compiled as the “graduation thesis”.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(分析の仕方、執筆の進め方等)
- 【2】: 論文執筆について個別指導1
- 【3】: 論文執筆について個別指導2
- 【4】: 研究テーマに関する調査・分析結果の発表1
- 【5】: 研究テーマに関する調査・分析結果の発表2
- 【6】: 論文執筆について個別指導3
- 【7】: 研究テーマに関する考察の発表1
- 【8】: 研究テーマに関する考察の発表2
- 【9】: 論文執筆について個別指導4
- 【10】: 論文執筆について個別指導5
- 【11】: 論文執筆について個別指導6
- 【12】: 発表会に向けた個別指導1
- 【13】: 発表会に向けた個別指導2
- 【14】: 発表会リハーサル／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自らの発表の際には事前に入念な準備を行うとともに、授業中に指摘されたこと、議論した内容は必ず次の発表までに反映すること。また他の学生が指摘されていることも自らに当てはめて考えることによって、毎授業同じような指摘が繰り返されないように注意すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミ中の発表, 討論への参加状況を総合的に評価:50% 卒業論文の内容:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

各自のテーマに応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

研究の遂行, 論文執筆に必要なため, word, excel の基本的な操作は身につけておいてください。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

環境問題と観光活動について経済学の視点から研究する

野原 克仁(NOHARA KATSUHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA721
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文執筆に必要とされる、リサーチクエスションの設定や調査、統計分析の方法等について学ぶ。さらに、研究発表の練習も行ない、プレゼンテーション能力を高める。

Students will learn how to establish a research question and statistical analysis methods for their graduation thesis. In addition, students will practice their research presentations to improve their presentation skills.

授業の内容 / Course Contents

これまで学んできた研究の方法について、興味関心のあるテーマに即し検討を進める。最終成果を卒業論文としてまとめるために、必要とされる基礎知識、応用力、論文執筆能力などを養う。中間報告会において指摘された事項を改善し、研究をブラッシュアップさせる。

Students will examine the research methods they have learned so far, focusing on a topic of their interest. In order to edit the final result as a graduation thesis, students will develop the basic knowledge, application skills, and thesis-writing ability required. At the mid-term report meeting, identify areas for improvement and refine the research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 進め方の検討
- 【2】: 中間報告会1
- 【3】: 中間報告会2
- 【4】: 中間報告会3
- 【5】: 中間報告会4
- 【6】: 中間報告会5
- 【7】: 進捗報告とディスカッション1
- 【8】: 進捗報告とディスカッション2
- 【9】: 進捗報告とディスカッション3
- 【10】: 進捗報告とディスカッション4
- 【11】: 進捗報告とディスカッション5
- 【12】: 進捗報告とディスカッション6
- 【13】: 最終報告会
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自、どのようなリサーチクエスチョンを設定し、経済的な分析へとつなげるのか十分な時間をかけた予習、および復習が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

研究課題を設定し、その解決策に至るまで適切にアプローチする能力を必要とする。特に、探求心、知的好奇心に加え、分析力や応用力を駆使した高い自己解決力が必要である。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

環境問題と観光活動について経済学の視点から研究する

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA722
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境問題および観光問題を経済学の視点から分析する研究テーマを自ら設定し、関連するデータを収集・分析し、それをわかりやすく表現する方法を習得する。

Students will set their own research themes to analyze environmental and tourism issues from an economic perspective, collect and analyze relevant data, and learn how to express them in an easy-to-understand manner.

授業の内容 / Course Contents

これまで学んできた研究の方法について、興味関心のあるテーマに即し検討を進める。最終成果を卒業論文としてまとめるために、必要とされる基礎知識、応用力、論文執筆能力などを養う。中間報告会において、改善点を見つけより洗練された研究へと仕上げる。

Students will examine the research methods they have learned so far, focusing on a topic of their interest. In order to compile the final result as a graduation thesis, students will develop the basic knowledge, application skills, and thesis-writing ability required. In the mid-term debriefing, students will identify areas for improvement and refine their research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 中間報告会(1)
- 【2】: 中間報告会(2)
- 【3】: 中間報告会(3)
- 【4】: 研究経過報告と議論(1)
- 【5】: 研究経過報告と議論(2)
- 【6】: 研究経過報告と議論(3)
- 【7】: 研究経過報告と議論(4)
- 【8】: 研究経過報告と議論(5)
- 【9】: 研究経過報告と議論(6)
- 【10】: 研究経過報告と議論(7)
- 【11】: 研究経過報告と議論(8)
- 【12】: 最終発表会(1)
- 【13】: 最終発表会(2)
- 【14】: 最終発表会(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

研究力は当然のこと、研究の結果を分かりやすく発信する高いプレゼンテーション能力も必要となる。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A
卒業論文を執筆する

西川 亮(NISHIKAWA RYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA723
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、大学での学びの集大成として卒業論文の執筆に向けた指導を行う。

This course aims to provide students with instructions on graduation thesis writing for completion of their university study.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文執筆に向けて、興味あるキーワード、テーマの絞り込み、先行研究の収集と読み込み、先行研究を踏まえた自己の研究における問題意識を、個々の発表と全員によるディスカッションを通じてブラッシュアップしていく。研究テーマは各自の興味にあわせて指導する。

As preparation for writing the graduation thesis, students brush up their awareness of issues covered by their individual research by searching keywords, narrowing themes, reading relevant previous research, and making a presentation to the other students for discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究とはなにか、論文とは何かを学ぶ
- 【2】:研究テーマの設定・既往研究の把握(1)
- 【3】:研究テーマの設定・既往研究の把握(2)
- 【4】:研究テーマの設定・既往研究の把握(3)
- 【5】:研究テーマの設定・既往研究の把握(4)
- 【6】:研究テーマの設定・既往研究の把握(5)
- 【7】:調査計画の検討(1)
- 【8】:調査計画の検討(2)
- 【9】:調査計画の検討(3)
- 【10】:予備調査の実施(1)
- 【11】:予備調査の実施(2)
- 【12】:予備調査の実施(3)
- 【13】:予備調査結果の共有・ディスカッション(1)
- 【14】:予備調査結果の共有・ディスカッション(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎日、論文や論考を読む習慣をつけてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席と複数回のレポート:100%

テキスト / Textbooks

適宜紹介する

参考文献 / Readings

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B
卒業論文を執筆する

西川 亮(NISHIKAWA RYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA724
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、大学での学びの集大成として卒業論文を執筆する。また、最終発表に向けて、要旨作成とプレゼンテーション技術をブラッシュアップする。

This course aims to provide students with instructions on graduation thesis writing for completion of their university study. Furthermore, students develop their project abstract and presentation skills for the final presentation.

授業の内容 / Course Contents

春学期から夏にかけて行った調査(文献調査、現地調査)結果の分析・考察を行い、論文の全体像を取りまとめる。毎週、進捗を発表し、それに対するディスカッションを行いながら、卒業論文を完成させる。論文提出後は、要旨作成、最終発表等に関して授業時間内に指導する。

Students decide the chapter structure of their thesis by analyzing results of existing research, including literature reviews and field research, that they have collected from the spring to the summer semester. In addition, each chapter is presented in order, with discussion to follow, until completion of the graduation thesis. After submission of the thesis, students are instructed about writing an abstract and making the final presentation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 調査結果の報告・議論(1)
- 【2】: 調査結果の報告・議論(2)
- 【3】: 調査結果の報告・議論(3)
- 【4】: 調査結果の報告・議論(4)
- 【5】: 調査結果の報告・議論(5)
- 【6】: 調査結果の報告・議論(6)
- 【7】: 調査結果の報告・議論(7)
- 【8】: 調査結果の報告・議論(8)
- 【9】: 調査結果の報告・議論(9)
- 【10】: 調査結果の報告・議論(10)
- 【11】: 調査結果の報告・議論(11)
- 【12】: 要旨作成と最終発表に向けた準備(1)
- 【13】: 要旨作成と最終発表に向けた準備(2)
- 【14】: 最終発表のリハーサル

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎日、論文や論考を読む習慣をつけてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文及び最終発表:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA727
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	第 3、6、10、14 回目を対面で実施
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまで獲得した知識や経験を活かし、その集大成として、観光や移動に関連する卒業論文の執筆に取り組む。
We will use the knowledge and experience he has acquired to write his graduation thesis related to tourism and mobility.

授業の内容 / Course Contents

教員や学生同士のディスカッションを通じて自身の問題関心を明確化し、卒業論文のテーマを定める。関連する先行研究の整理を踏まえ、調査計画を作成・実行する。
自らの問題関心の把握、テーマに関連する情報や資料の探索・整理、調査計画の作成、調査の実施、データの整理・検討、論理的な議論の検討、論文執筆など一連の論文執筆作業に取り組むことで、ひとつのプロジェクトを自ら計画・運営するために必要な学術的・社会的スキルを身につける。
(1) Clarify one's own issues and interests through discussions among faculty members and students, and define a theme for the graduation thesis. Create and implement a research plan based on the organization of relevant previous research.
(2) By engaging in a series of dissertation writing tasks, such as identifying one's own problem interests, searching for and organizing information and materials related to the theme, creating a research plan, conducting research, organizing and examining data, examining logical arguments, and writing a dissertation, students will acquire the academic and social skills necessary to plan and manage a project by themselves.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:研究計画の作成
- 【3】:研究テーマの検討
- 【4】:研究テーマの検討
- 【5】:研究テーマの検討
- 【6】:関連する文献や情報・資料の整理
- 【7】:関連する文献や情報・資料の整理
- 【8】:関連する文献や情報・資料の整理
- 【9】:関連する文献や情報・資料の整理
- 【10】:関連する文献や情報・資料の整理
- 【11】:関連する文献や情報・資料の整理
- 【12】:調査計画の作成・検討
- 【13】:調査計画の作成・検討

【14】:調査計画の作成・検討**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表		ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備をして参加すること。発表後は授業内での指導・コメントを踏まえ、主体的に研究を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(研究活動への取り組み、提出物):100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

本授業は8回以上がオンラインで実施されます。円滑な授業運営のため、各自で受講に適したオンライン環境を整えてください。オンライン／対面のいずれも、積極的な議論への参加を求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoomに参加するためのPCなどを準備してください。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA728
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	第 3、7、10、14 回目を対面で実施
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

データの整理・検討や理論的考察を行う能力を身につける。論理的な文章を構成し、論文を完成させる。

Acquire the ability to organize and examine data and conduct theoretical discussions. Compose logical sentences and complete the thesis.

授業の内容 / Course Contents

研究計画にもとづいて調査やデータの分析、理論の検討を行う。教員との議論、学生同士のピアレビュー等を踏まえて卒業論文を執筆する。

自らの問題関心の把握、テーマに関連する情報や資料の探索・整理、調査計画の作成、調査の実施、データの整理・検討、論理的な議論の検討、論文執筆など一連の論文執筆作業に取り組むことで、ひとつのプロジェクトを自ら計画・運営するために必要な学術的・社会的スキルを身につける。

(1) Conduct research, analyze data, and examine theories based on the research plan. Write a graduation thesis based on discussions with faculty members and peer review among students.

(2) By engaging in a series of dissertation writing tasks, such as identifying one's own problem interests, searching for and organizing information and materials related to the theme, creating a research plan, conducting research, organizing and examining data, examining logical arguments, and writing a dissertation, students will acquire the academic and social skills necessary to plan and manage a project by themselves.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:論文執筆計画の確認
- 【3】:調査結果の整理・検討
- 【4】:調査結果の整理・検討
- 【5】:調査結果の整理・検討
- 【6】:論文執筆と進捗状況の報告
- 【7】:論文執筆と進捗状況の報告
- 【8】:論文執筆と進捗状況の報告
- 【9】:論文執筆と進捗状況の報告
- 【10】:論文執筆と進捗状況の報告
- 【11】:論文執筆と進捗状況の報告
- 【12】:論文執筆と進捗状況の報告
- 【13】:報告会の準備
- 【14】:報告会の準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内での指導・コメントを踏まえ、主体的に論文執筆を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(研究活動への取り組み、提出物):100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は8回以上がオンラインで実施されます。円滑な授業運営のため、各自で受講に適したオンライン環境を整えてください。オンライン／対面のいずれも、積極的な議論への参加を求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoomに参加するためのPCなどを準備してください。

文学

Literature

19 世紀フランスの芸術を学ぶ

岡部 杏子(OKABE KYOKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA801
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

19 世紀フランス文学を取り上げ、絵画や彫刻がテーマとされている作品を読解し、言語芸術と造形芸術の相関関係を読み解く力を養う。

Highlighting 19th-century French literature, students will develop the ability to understand the correlation between linguistic art and plastic art forms through reading literary works on paintings and sculptures.

授業の内容 / Course Contents

本講義は 2 つのパートからなります。前半(第 2 回から第 6 回)では、詩において絵画や彫刻がどのように表現されているのかを「美」をキーワードに読み解いていく。後半(第 7 回から第 14 回)では、小説において絵画や彫刻がストーリーのなかでどのように機能しているのか、また登場人物が芸術家の場合、いかなる芸術観を抱いているのかを考察する。

This lecture is in two parts. In the first half (sessions 2-6), we will examine “beauty” as a keyword to understand how paintings and sculptures are expressed in poetry. In the second half, (sessions 7-14) we will examine how paintings and sculptures appearing in novels work in the story, and in instances where artists appear, we will consider what kind of perspectives on art the characters have.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、イントロダクションー19 世紀フランスの文化と社会
- 【2】: 19 世紀フランス詩における自然と都市
- 【3】: ヴィクトル・ユゴーが描く「幻想」ー『ライン河紀行』を手がかりに
- 【4】: シャルル・ボードレールが描く「都市」ー『悪の華』と『パリの憂愁』
- 【5】: アルチュール・ランボーが描く「風景」ー『初期詩篇』
- 【6】: テオフィル・ゴーチュ、テオドール・ド・バンヴィルが刻む「古代の美」
- 【7】: 19 世紀フランス小説における自然と都市
- 【8】: プロスペール・メリメ「イールのヴィーナス」ー土地と伝承 [1]
- 【9】: オノレ・ド・バルザック『サラジーン』[1]ーパリのブルジョワ空間
- 【10】: オノレ・ド・バルザック『サラジーン』[2]ー芸術の都ローマ
- 【11】: ジョルジュ・サンド『おばあさまの物語』ー土地と伝承 [2]
- 【12】: エミール・ゾラ『制作』[1]ープロヴァンスへの郷愁
- 【13】: エミール・ゾラ『制作』[2]ー芸術家にとってのパリ
- 【14】: まとめと総括: 文学における美を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習:授業時に配布するテキストを読み、要点をまとめておくこと。

復習:授業時に配布するプリントをまとめて、一冊のノートを作ること。

レポート試験の準備を学期中から行い、参考文献についての情報を収集すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 出席・授業への取り組み:20%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可とする。私語厳禁とする。

テキスト / Textbooks

授業資料は教員が用意する。映像資料なども適宜活用する。

参考文献 / Readings

初回授業時に参考文献一覧を配布するほか、授業内でも適宜指示する。

文献の探し方、レポートの書き方も授業内に適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

フランスの文化(文学、美術、映画など)に関する知識を得たい、より多くの芸術作品に触れたいという意欲がある。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料は Canvas LMS から配布する。

その他 / Others

質問や相談は授業後に受け付ける。

哲学

Philosophy

哲学入門と観光倫理学

加藤 喜市(KATO KIICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA802
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2012 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

(1) 哲学史・倫理思想史上のさまざまな学説・考え方に触れることで、「哲学」・「倫理学」という学問に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。(2) 課題に取り組むことを通して、哲学的／倫理的な思考の方法と学術的な文章の書き方を身につける。

(1) Touching on the various theories and ideas in the history of philosophy and ethical thought, students will deepen their basic knowledge in the disciplines of "philosophy" and "ethics".

(2) Students will acquire philosophical / ethical thinking methods, as well as academic writing methods, mainly through the completion of small exercises.

授業の内容 / Course Contents

今年度は「哲学入門」と「観光倫理学」という二つのテーマで講義を行ないます。

まず前半は、「哲学」という学問にはじめて触れる学生を主な対象として、古代から現代に至る哲学史における主要な議論を紹介していきます。ソクラテス、カント、ニーチェ、西田幾多郎など、おそらくみなさんも聞いたことのある有名な哲学者たちが登場します。

後半のテーマは、然るべき観光のあり方を探る新しい学問である「観光倫理学」です。倫理学の代表的な理論を確認した後、「環境倫理」「ビジネス倫理」などの応用倫理学の問題を観光という視点から検討するとともに、「世界観光倫理憲章」といった観光に固有の倫理規範についても扱います。

担当者の関心もあり、講義では、アニメや漫画、ゲーム、音楽などのサブカルチャーへしばしば言及します。哲学・倫理学への関心をもつきっかけにして欲しいと思っています。

This year, we will be giving lectures on two themes: "Introduction to Philosophy" and "Tourism Ethics".

The first half of the lecture will introduce major debates in the history of philosophy from ancient to modern times, mainly for students who are new to the study of philosophy. Famous philosophers such as Socrates, Kant, Nietzsche, and Kitaro Nishida, whom you have probably heard of, will appear.

The theme of the latter half of the lecture is "Tourism Ethics," a new discipline that explores the ideal form of tourism. After reviewing the major theories of ethics, issues of applied ethics such as "environmental ethics" and "business ethics" will be examined from the perspective of tourism, and ethical codes specific to tourism such as the "Global Code of Ethics for Tourism" will also be discussed.

The lectures often refer to subcultures such as anime, manga, video games, and music, which are also of interest to the instructor. I hope that this will spark an interest in philosophy and ethics.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 哲学・倫理学への導入

【2】: 古代ギリシア哲学(ソクラテス・プラトン・アリストテレス)

- 【3】: 中世キリスト教思想(アウグスティヌス・トマス)
- 【4】: 近世哲学(デカルト・ヒューム・カント)
- 【5】: 現代哲学(ニーチェ・ハイデガー・フーコー)
- 【6】: 日本哲学(西田幾多郎・和辻哲郎)
- 【7】: 倫理学1(義務論・功利主義・徳倫理学)
- 【8】: 倫理学2(正義論・ケアの倫理)
- 【9】: 観光倫理学と観光の倫理(フェネルとマキャーネル)
- 【10】: 観光とビジネス倫理(観光産業の倫理的課題)
- 【11】: 観光と環境倫理(エコツーリズム)
- 【12】: 観光と公衆衛生倫理(観光者の旅する権利)
- 【13】: 「世界観光倫理憲章」と観光倫理教育(観光における倫理規範)
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

・板書やパワポによるレジュメの解説がメインです。学期中少なくとも数回は、関心を広げてもらうために、映像資料や音楽資料を視聴する機会を設けたいと考えています。

・受講者数が比較的少ない場合、授業に文献資料の講読(+ディスカッション)を取り入れる可能性があります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

基本的には予習よりも復習に重点を置かれると良いでしょう。プリントの見直し、参考文献を調べるなど、各自で復習してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 毎授業へのコメント(リアクションペーパー):20% 授業内の課題:20%

出席およびコメントの提出が10回に満たない方には、単位を差上げることができません。

テキスト / Textbooks

テキスト(教科書)は指定しません。毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献 / Readings

岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波新書 2003 9784005004416

神崎宣次・佐藤静・寺本剛編 3ステップシリーズ『倫理学』昭和堂 2023 9784812222188

Fennell, D. Tourism Ethics (Aspects of Tourism) second edition Channel View Books 2017 9781845416355

その他 / Others

・観光学部設置科目ですが、他学部の学生の受講も歓迎します。

・ただし、静かに集中して講義を聞くことができない方は、受講をご遠慮ください(私語厳禁)。

・学生の希望を取り入れて、講義内容を多少変更する可能性があります。

注意事項(検索結果画面)

2012年度～2018年度1年次入学者対象

人類学

Anthropology

文化と生きる:現代文化人類学入門

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA803
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代文化人類学の基礎・問題意識に触れるための入門的な講義です。

Introductory lectures on the fundamentals and issues of contemporary cultural-anthropology.

授業の内容 / Course Contents

文化とは、私たちが日々をどのように生きるべきかに関わる指針でもありますが、私たちがどのように生きることができるのかに関わる可能性でもあります。この授業では、人々が文化に埋め込まれて生きているように見える側面ばかりではなく、文化を意識的に選んだり操作したり表現したりする側面にも注目しながら、文化と共に生きる姿について考えたいと思います。

Culture is both a guide to how we should live our days, but also a possibility of how we can live. In this class, we think about the way people live together with culture, focusing not only on the aspects of people who seem to be embedded and living in culture, but also on the aspects of consciously selecting, manipulating, and expressing culture.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:【たべる】食の文化人類学
- 【2】:【きる・みせる】装いの文化人類学
- 【3】:【すまう】住まいの文化人類学
- 【4】:【とる・たがやす・かう】生業活動(採集狩猟・農耕・牧畜)の文化人類学
- 【5】:【つたえる】言語の文化人類学
- 【6】:【むすぶ】恋愛・婚姻・親族の文化人類学
- 【7】:【かわす】経済・政治の文化人類学
- 【8】:【おもう・しる】神話の文化人類学
- 【9】:【いわう・おそれる、やむ・いやす】儀礼・呪術・医療の文化人類学
- 【10】:【そだつ・まなぶ】教育の文化人類学
- 【11】:【つくる】モノ・芸術の文化人類学
- 【12】:【フィールドワークする】文化人類学という生き方(その 1:他者との出会いやつながりとは?)
- 【13】:【フィールドワークの先】文化人類学という生き方(その 2:民族誌的情報発信とは?、その功罪とは?)
- 【14】:学期末試験へ向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業では、できるだけ豊富な事例に言及します。それら事例の1つ1つは、人々が文化と共に生きる柔軟かつ多様な姿について想像するための入り口として、履修生の皆さんそれぞれの解釈や理解へとひらかれています。授業では皆さんの質問や発言を期待・歓迎しますので、意欲的な参加をして下さい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

授業で資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業で資料を配布します。

美学

Aesthetics

「民藝」という美学～地域にひそむ新たな価値の発見～

鞍田 崇(KURATA TAKASHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA804
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域や日々の暮らしの中に「生き生きとした」魅力や「ワクワクする」可能性を発見する、「自分ならではの」視点の獲得を目指します。そうした視点の獲得が、旧来の価値観にとらわれず、これからの社会のあり方を考える上でも重要であることを理解し、受講生の皆さんがみずからの生き方・働き方を熟考する機会となることがこの授業の目標です。

We aim to acquire a 'unique' perspective to discover some 'lively' charms and 'exciting' possibilities in your local areas and daily life. We hope that this will be an opportunity for the students to understand that acquiring such a perspective is important in thinking about the future of society without being bound by conventional values, and to reflect on their own way of living and working. This is the goal of this class.

授業の内容 / Course Contents

いまなぜ地域や日常に注目するのか——。受講者ひとりひとりが、自分なりの答えを探るのがこの科目のねらい。授業では、大きく変化しつつある社会状況を念頭に置きつつ、与えられたレールの上をスマートに生きることよりも、きちんとくも一つ一つの人や物との出会いを自分たちの感性で創造していくすべを探っていきます。手がかりとされるのは、哲学とデザイン、そして「民藝」です。

Why are we paying attention to the locality and daily life now? The aim of this course is for each student to search for their own answers to this question. In class, while keeping in mind the drastically changing social situation, rather than living smartly on the given rails, we encourage students to use their own sensibilities to create encounters with people and things one by one, even if awkwardly. The clues are philosophy, design, and 'Mingei'(folk crafts).

授業計画 / Course Schedule

【1】:PROLOGUE : 「美学」する

＊トピック | 俚謡山脈、鞍田編『〈民藝〉のレッスン つたなさの技法』、地球研編『人はなぜ花を愛でるのか』

【2】:SLOW + PROCESS : 近代の「次の時代」へ

＊トピック | 池袋ウィロード再生プロジェクト、半藤一利著『昭和史 1926-1945』、スティーブ・ジョブズ「スタンフォード大学卒業式スピーチ」、

【3】:LOCAL STANDARD : ポスト・ポスト工業化社会

＊トピック | 柳宗悦『手仕事の日本』、内閣府「社会意識に関する世論調査」、小嶋一浩『小さな矢印の群れ 「ミース・モデル」を超えて』、小熊英二『社会を変えるには』、森田真生『数学の贈り物』

【4】:SENSE OF NOISE : 誰も何もしない「わけではない」

＊トピック | odol「不思議」、ポートランド、旧上田恒次邸

【5】:PHILOSOPHIE OF LIFE : 生の哲学としての民藝

＊トピック | 無印良品「民藝—生活のかたち展」、柳宗悦『民藝とは何か』

【6】:BETWEEN KOGEI AND DESIGN: 工芸とデザインの境目

- *トピック | ノンブラリ「風」、金沢 21 世紀美術館「工芸とデザインの境目」、深澤直人『デザインの輪郭』、
- 【7】:SENSE OF CHILDREN : 知っているはずのことを未知なるものとして
- *トピック | 原研哉『Ex-formation 植物』、ENZO MARI “autoprogettazione?”、ワタリウム美術館『驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育』、Marvin Gaye “What’s Going On”
- 【8】:REDISCOVER THE WORLD : 世界の再発見
- *トピック | 柳宗悦「我孫子から通信」、原田マハ『リーチ先生』、サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』、川原栄峰『哲学入門以前』
- 【9】:IMPERFECT WORLD : 不完全をも容れる美しさの方が深い
- *トピック | 柳宗悦『朝鮮とその芸術』、しょうぶ学園、内田繁『普通のデザイン 日常に宿る美のかたち』、デザインギャラリー1953「弱さの工芸」、吉野弘「祝婚歌」
- 【10】:COLLECTIF : 動きたいけど 動けないひとが 動けるようになるために
- *トピック | ムジナの庭、みんなの家、伊東豊雄、o+h、ジャン・ウリ『コレクティブ』、三谷龍二『工芸三都物語 遠くの町と手としごと』
- 【11】:HUMANITY & NATURE : 民藝と民具
- *トピック | 渋沢敬三、柳田国男『遠野物語』、神奈川大学常民文化研究所
- 【12】:NIWA PROJECT : 人間外の事物とのコミュニケーション
- *トピック | 佐藤洋一郎編『焼畑の環境学』、白山ろく民俗資料館、宇野常寛『庭の話』、石川達三『日蔭の村』
- 【13】:ECOLOGY 3.0 : あらためて「いま」私たちはどこにいるのか
- *トピック | アリシア・ベイローレル『地球の上に生きる』、『成長の限界』、アルネ・ネス、ディープ・エコロジー、ソトコト、ガタリ『三つのエコロジー』、岡本太郎『沖縄文化論』
- 【14】:EPILOGUE: 「傷」と見守ること
- *トピック | 震災、PTSD、鷺田清一『聴くことの力』

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料も適宜使用します。学期中2回ほど簡単なレポート課題を出しますので、授業内容の理解を深めるためにも取り組むようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 授業内レポート(計2回):60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

鞍田崇 『民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする』 明治大学出版会 2015 年 9784906811137

参考文献 / Readings

鞍田崇 『〈民藝〉のレッスン つたなさの技法』 フィルムアート社 2012 年 9784845911837
 柳宗悦 『民藝とは何か』 講談社 2006 年 9784061597792
 岡本太郎 『沖縄文化論 忘れられた日本』 中央公論新社 1996 年 9784122026209
 宇野常寛 『庭の話』 講談社 2024 年 9784065377918
 カル・フリン 『人間がいなくなった後の自然』 草思社 2023 年 9784794226471
 フィリップ・フォレスト 『洪水』 河出書房新社 2020 年 9784309208053

その他 / Others

鞍田崇 / Takashi Kurata
<http://takashikurata.com/>

民法

Civil Law

民法／日常生活に関する法を学ぶ

薬師丸 正二郎＜薬師丸 正二郎＞(YAKUSHIMARU SHOJIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA805
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

私たちの生活に最も身近な市民生活に関する基本法である「民法」を学ぶ。

法律を学ぶのが初めての学生にも対応できるように授業は進める。

We will study “Civil Law” regarding its fundamental aspects in our lives.

Recommended for students who are new to law.

授業の内容 / Course Contents

1 民法は私人相互間の法律関係を規律する基本法である。卒業後、観光業界に進むか否かに関わらず、契約に関するルールを理解しておくことは、社会に出る上で重要なことである。講義は、まったく法律を学んだことのない学生でも理解できるように、具体例や図を活用しながら、楽しみながら学べるように進める。

2 民法は、公務員試験をはじめ、各種資格試験にも多数出題される重要な科目である。そこで、講義では、各種試験(公務員試験、行政書士試験、宅地建物取引士試験など)を受験する学生にも対応できるように進める(初回時に受講生と相談しながら進め方を確定する)。

1 The Civil Law is a basic law that governs the legal relationship between individuals. After graduation, it will be important to understand the rules concerning contracts, even if not entering a career in the tourism industry, and is essential for working in society. Lectures will be easy to understand with concrete examples, so that even students who have never studied law can follow.

2 The Civil Law is an important subject that can be found in a large number of qualification exams, such of public officials exams. So in this course, students will advance to be able to handle all types of exams (determining how to proceed while consulting with students).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス, 法とは何か
- 【2】: 民法の全体像①
- 【3】: 民法の全体像②, 契約の主体
- 【4】: 意思表示, 代理①
- 【5】: 代理②, 時効
- 【6】: 物権法に関する基礎知識(不動産物権変動, 占有, 即時取得など)
- 【7】: 担保物権に関する基礎知識(抵当権など)
- 【8】: 債権総論に関する基礎知識①
- 【9】: 債権総論に関する基礎知識②
- 【10】: 契約総論に関する基礎知識
- 【11】: 契約に関する基礎知識(売買契約などを中心に)

- 【12】:契約に関する基礎知識(賃貸借契約を中心に)
- 【13】:不法行為に関する基礎知識
- 【14】:家族法(親族法・相続法)に関する基礎知識

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 毎回、予習が必要な場合は、テキストの該当頁を指定する。
- 初めて民法を学ぶ学生は、講義の復習の際、テキストの該当ページを読んで理解を深めること。講義の進め方の詳細は、初回に指示をする。
- 公務員試験に興味関心のある者は、相談して下さい。公務員試験向けの勉強方法などを別途、伝えるとともに、適宜講義で試験関係の情報に触れるようにする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:15% 出席及び授業参加態度:15%

講義では、毎回『オリエンテーション民法 第2版』を使用する。その他、適宜、板書やレジュメを配布する。

テキスト / Textbooks

松久三四彦他 オリエンテーション民法 第3版 有斐閣 2024 9784641233386

参考文献 / Readings

佐伯仁志他 ポケット六法(令和7年版) 有斐閣 2025 9784641009257

松尾弘 民法 慶応義塾大学出版会 2023 9784766429268

道垣内 弘人 リーガルベイス民法入門 第5版 日本経済新聞出版社 2024 9784296118397

平野裕之 コア・テキスト 民法[エッセンシャル版] 新世社 2021 9784883843329

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

好奇心、主体性

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料参照、課題提出に必要な情報機器(PC やタブレット等)、

その他 / Others

- 六法については公務員試験等各種試験を受験する者は判例付六法を購入することが望ましい。
- 公務員試験、その他の資格試験を志す人は、過去問題を入手し、毎回復習時に該当箇所を解くことを薦める。なお、勉強の仕方については、2023 年度向けに大学で行ったガイダンス(【2022 年度】公務員試験を目指す人に「直前期の過ごし方(効率的な勉強の仕方)」が動画でアップされているので、参照されたい。 <https://youtu.be/OCMAF7RHTmw>

生涯学習支援論1

Study of Policy and Practice for Lifelong Learning 1

社会問題教育の視点に立ち、「学習者」に着目して生涯学習を考え、実践してみる

堀川 修平(HORIKAWA SHUHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA806
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC411(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、生涯学習支援を受ける「学習者」側に焦点を当てて、多様な学習者の抱える問題を相対化して認識できる力を養うこと、しょうがい者や外国人、女性、性的マイノリティらといった「マイノリティ(被抑圧者)」による諸活動(社会運動・教育／学習活動)の成立と展開の原理を学ぶことを目的として授業をすすめます。

In this class, we will focus on the "learners" who receive lifelong learning support, and develop the ability to relativize and recognize the problems of various learners. Classes are recommended for the purpose of learning the principles of establishment and development of various activities (social movement / education / learning activities) by these students.

授業の内容 / Course Contents

多様な学習者の抱える問題を反省的にとらえる契機を確保し、人間形成と差別問題一般について省察的な意見をもてるような交流を行うこと、人権獲得のための諸活動の変遷を系統的に説明し諸活動の展開を解説すること、人種・民族、ジェンダーなどの差別問題と社会教育施設のあり方、人間形成と差別をめぐる国際的な動向などの現代的諸課題について具体的ケースを示しながら検討することを授業の概要とします。

The outline of this class is as follows. Allows you to think about the problems faced by different learners. We will systematically explain the transition of various activities for the acquisition of human rights, and explain the development of various activities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:「学習」とはなにか ①教育・教化・学習の違いとは？
- 【3】:「学習」とはなにか ②「発達可能態」としての人間
- 【4】:「学習」とはなにか ③「社会問題教育」とはなにか？
- 【5】:グループディスカッション ①自分の教育／学習経験から考えよう
- 【6】:社会問題教育と学習者の立場性 ①批判的教育学とはなにか？
- 【7】:社会問題教育と学習者の立場性 ②パウロフレイレ『被抑圧者の教育学』とリテラシー
- 【8】:社会問題教育と学習者の立場性 ③フェミニズムペダゴジーとフェミニズム運動
- 【9】:社会問題教育と学習者の立場性 ④エンパワーメントという観点から
- 【10】:グループディスカッション ②あなたにとっての「社会問題」とは？
- 【11】:一生涯にわたる学習権の保障 ①多様な学習者が集う「夜間中学」に着目して
- 【12】:一生涯にわたる学習権の保障 ②戦争と教育
- 【13】:グループディスカッション ③どのように一生涯を送りたい？

【14】:まとめ(論点の整理と内容補充)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

グループディスカッションを授業方法として多用します。基本的に、対面方式で授業を行います。受動的に知識を吸収し、ただ座っていればよいといった「座学」ではありません。教員と学生、学生同士で積極的に交流していただきますので、受講する場合は、その点を十分に留意してください。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の予習は特段に必要なはありません。ただし、授業時に集中して課題に取り組むこと(個人ワーク・グループディスカッションなど)を強く希望します。受講者と授業担当者で学びの場はつくられると考えておりますので、共に学び合いながら不安も解消して進めていきましょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:60% 最終レポート割合::40%

「リアクションペーパー」として、毎授業後に提出する「学びと感想」を評価します。毎授業後に WEB 上で提出いただきます。コメントシート課題の内容をふまえて出席を確認します。「最終レポート」として、文献精読レポート、あるいは、授業に関連する学習イベントへの参加レポートなどに取り組んでいただく予定です。

テキスト / Textbooks

堀川修平 『「日本に性教育はなかった」と言う前に』 柏書房 2023 4760155295

堀川修平 『気付く 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』 エイデル研究所 2022 4871686809

テキストの入手方法ならびに、授業における利用方法に関しては、初回オリエンテーションでご説明しますのでそれを待って購入に移ってください。このテキストのほかにも、授業内で適宜資料を配布しますので、紛失しないように気をつけましょう。

参考文献 / Readings

高橋哲哉 『犠牲のシステム 福島・沖縄』 集英社 2012

好井裕明 『差別原論——〈わたし〉のなかの権力とつきあう』 平凡社 2007

渡辺大輔 『性の多様性ってなんだろう? (中学生の質問箱)』 平凡社 2018

石田仁 『はじめて学ぶ LGBT 基礎からトレンドまで』 ナツメ社 2019

ベル・フックス 『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』 エトセトラブックス 2020

ベル・フックス 『ベル・フックスの「フェミニズム理論」—周辺から中心へ』 あけび書房 2017

子どもの権利・教育・文化全国センター 『20 改訂ポケット版子どもの権利ノート』 子どもの権利・教育・文化全国センター 2020

授業内で随時参考文献は紹介しますので、メモを取ってください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

この授業では「社会教育は、社会問題教育である」という立場に立ち、現代社会における「差別」問題とそれらを乗り越えるための教育的営みについて考えていきます。

その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思いますので、積極的にグループディスカッションや個人ワークを方法として用います。グループディスカッションや個人ワークに取り組まないことは、他の受講生の学習権の侵害にあたりますので、課題に取り組めない方の受講は希望しません。他の受講生の学習権の侵害がないように、各々積極的に参加していただきたいと思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

膨大なデータファイルを配布すること、加えて、毎時のコメントシートをWEB上で提出いただくことから、PC(それに準ずる電子機器)を持参することが望ましいです。ただし、データファイルを個別に印刷して持参することや、コメントシートを授業後に自宅など教室外で入力することは問題ありません。

その他 / Others

※本授業は、「生涯学習支援論2」(2025 年度秋学期)と関連した内容となっています。そのため、併せて受講することを希望します。また、受講者の学習度合い・関心事項を勘案しながらシラバス内容を再考する場合がありますので、ご承知おきください。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC411 (科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

生涯学習支援論2

Study of Policy and Practice for Lifelong Learning 2

社会問題教育の視点に立ち、「教育者・学習支援者」に着目して生涯学習を考え、実践してみる～「包括的性教育 comprehensive sexuality education」を切り口に～

堀川 修平(HORIKAWA SHUHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA807
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC412(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、生涯学習支援に関わる「教育者」「学習支援者」側に焦点を当て、多様な学習者に対して効果的な学習支援アプローチを選択する力を養うことを目的とします。学習者の多様な特性と参加型学習・ファシリテーション技法を意識しながら、学習プログラムを作成できるようにすることを目標とします。

This class focuses on the “educator” and “learning supporter” side of lifelong learning support, and aims to develop the ability to select effective learning support approaches for a variety of learners. The goal is for students to be able to create learning programs while being aware of the various characteristics of learners and participatory learning and facilitation techniques.

授業の内容 / Course Contents

さまざまな社会教育実践の中でも、人権保障・多様性・学習者のエンパワーメント・科学性を基盤に置く「包括的性教育」を対象としながら、以下の3点について理解を深めます。

①学習支援アプローチの変遷やアプローチ自体のメリット／デメリットについて。②人種・民族、ジェンダーなどの差別と社会教育実践のあり方について。③人間形成と差別をめぐる国際的な動向などの現代的諸課題について。

Focusing on comprehensive sexuality education, which is based on human rights, diversity, science, and empowerment, the course will deepen understanding of the following three points.

- (1) The evolution of learning support approaches and the merits/demerits of the approaches themselves.
- (2) Discrimination in terms of race/ethnicity, gender, etc. and the state of social education practice.
- (3) Contemporary issues such as international trends in human development and discrimination.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:包括的性教育とはなんだろう？(1)4つの柱＝人権保障・多様性・学習者のエンパワーメント・科学性
- 【3】:包括的性教育とはなんだろう？(2)学習者のエンパワーメントとフェミニズム運動
- 【4】:包括的性教育とはなんだろう？(3)社会運動における主体形成
- 【5】:ジェンダーの視点・性の多様性の視点(1)機会の平等・結果の平等とは？
- 【6】:ジェンダーの視点・性の多様性の視点(2)SOGIESCとは何か？
- 【7】:クィアにひらかれた教育実践へ(1)「クィア理論」とは何か？
- 【8】:クィアにひらかれた教育実践へ(2)重要な3つの概念－特権・マイクロアグレッション・インターセクショナルリティ
- 【9】:クィアにひらかれた教育実践へ(3)日本におけるクィアペダゴジーの歴史
- 【10】:クィアにひらかれた教育実践へ(4)マイノリティへの支援の前に、マジョリティの変革を

- 【11】:クィアにひらかれた教育実践へ(5)具体的な実践例に学ぶ①
 【12】:クィアにひらかれた教育実践へ(6)具体的な実践例に学ぶ②
 【13】:クィアにひらかれた教育実践へ(7)具体的な実践例に学ぶ③
 【14】:まとめ(論点の整理と内容補充)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

グループディスカッション・グループワークを授業方法として多用します。基本的に、対面方式で授業を行います。受動的に知識を吸収し、ただ座っていればよいといった「座学」ではありません。教員と学生、学生同士で積極的に交流していただきますので、受講する場合は、その点を十分に留意してください。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の予習は特段に必要なはありません。授業時に集中して課題に取り組むこと(個人ワーク・グループディスカッションなど)を受講生には強く希望します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:60% 最終レポート割合::40%

リアクションペーパーとして、毎授業後に提出する「学びと感想」を評価します。毎授業後に WEB 上で提出いただきます。コメントシート課題の内容をふまえて出席を確認します。

加えて、最終レポートとして、文献精読レポート、あるいは、授業に関連する学習イベントへの参加レポートなどに取り組んでいただく予定です。

テキスト / Textbooks

堀川修平 『気付く 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』 エイデル研究所 2022
 4871686809

堀川修平 『「日本に性教育はなかった」と言う前に』 柏書房 2023 4760155295

テキストの入手方法ならびに、授業における利用方法に関しては、初回オリエンテーションでご説明しますのでそれを待って購入に移ってください。このテキストのほかに、授業内で適宜資料を配布しますので、紛失しないように気をつけましょう。

参考文献 / Readings

ベル・フックス 『ベル・フックスの「フェミニズム理論」—周辺から中心へ』 あけび書房 2017

好井裕明 『差別原論——〈わたし〉のなかの権力とつきあう』 平凡社 2007

渡辺大輔 『性の多様性ってなんだろう? (中学生の質問箱)』 平凡社 2018

石田仁 『はじめて学ぶ LGBT 基礎からトレンドまで』 ナツメ社 2019

パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学』 亜紀書房 2018

ベル・フックス 『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』 エトセトラブックス 2020

デラルド・ウィン・スー 『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション——人種、ジェンダー、性的指向:マイノリティに向けられる無意識の差別』 明石書店 2020

授業内で随時参考文献は紹介します。各々メモを取ってください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

この授業では「社会教育は、社会問題教育である」という立場に立ち、現代社会における「差別」問題とそれらを乗り越えるための教育的営みについて考えていきます。

その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思いますので、積極的にグループディスカッションや個人ワークを方法として用います。グループディスカッションや個人ワークに取り組まないことは、他の受講生の学習権の侵害にあたりますので、課題に取り組めない方の受講は希望しません。他の受講生の学習権の侵害がないように、各々積極的に参加していただきたいと思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

膨大なデータファイルを配布すること、加えて、毎時のコメントシートをWEB上で提出いただくことから、PC(それに準ずる電子機器)を持参することが望ましいです。ただし、データファイルを個別に印刷して持参することや、コメントシートを授業後に自宅など教室外で入力することは問題ありません。

その他 / Others

※本授業は、「生涯学習支援論1」(2025 年度春学期)の授業内容を踏まえて進めます。また、受講者の学習度合い・関心事項を勘案しながらシラバス内容を再考する場合がありますので、ご承知おきください。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC412(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

社会教育経営論1

Adult and Community Education Management 1

社会教育経営の基礎

米澤 朋英(YONEZAWA TOMOHIDE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA808
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC413(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的として、社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略等とを修得することを目的とする。

このような多様な領域と連携は、新たに生まれた「社会教育士」の活躍が期待されている領域であることを学生が理解していただき授業に臨んでもらいたい。

以上を踏まえ、本科目においては、ねらい・到達目標を次の通りとする。

- ・経営の視点から社会教育行政のあり方と地域活性化に果たす可能性を理解する
- ・社会教育計画の構造と計画策定の基本を理解する
- ・地域課題や学習課題の把握・分析の手法を体得する
- ・居住する、もしくは郷里の地方自治体における社会教育行政への関心を高める

This course aims to revitalize community and social education administration and to deliver the knowledge and skills required to link learning outcomes to joint community and school problem solving activities. Students will also learn social education administration, imbibe knowledge of management strategies in cooperation with various stakeholders, actually evaluate local public relations strategies, promote social education by forming regional networks, and apply management strategies for social education facilities.

Students will be expected to understand the diversity of areas wherein emergent "social educators" can play active roles.

Thus, the objectives of this course are as follows:

- ・ to make students understand the role of social education administration and the possibility of regional revitalization from a management perspective
- ・ to help students apprehend the structure of a social education plan and comprehend the basics of the plan
- ・to facilitate students to recognize and analyze local needs and learning tasks
- ・ to raise awareness of social education administration in residents and local governments

授業の内容 / Course Contents

- ①社会教育行政とは何か、地域活性化との関係
- ②行政施策の基盤である「計画」の構造
- ③地域実態の分析と学習課題の把握
- ④戦略的な立場からの広報

等を柱に授業を展開していく。

なお、社会教育は実践的な取り組みであることから、授業においてもワークショップやグループ討議など、参加型による学習を適宜行う。(受講者数に応じて展開方法は変更することがある)

将来、NPO 法人を運営するのも良いと思う。ただ、運営の基本がわからなければ、独立は難しい。基本は、行政のあり方を理解する必要がある。卒業後の進路として民間企業よりも、公務員や教員を検討している学生には、履修を勧めるものである。

The course will incorporate the following points:

- ① What is social education administration and how is it related to regional revitalization?
- ② The structure of the "plan" that forms the basis of administrative measures
- ③ Regional situation analysis and grasp of learning issues
- ④ Broad strategic public relations

Since social education is a practical initiative, participatory learning will be encouraged through activities such as workshops and group discussions. (The deployment method may change depending on the number of participants.)

While it is commendable to desire to operate an NPO in the future, a grasp of the basics of management is pivotal to independence. Essentially, students must understand how government works. Learners seeking positions as civil servants or teachers instead of being employed in private organizations after graduation are encouraged to take this course.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

(本授業の目的と講義計画の説明等)

【2】:社会教育士、社会教育主事の仕事

地方自治体の仕組みと社会教育

【3】:社会教育の基礎

(1) 学校教育と社会教育と生涯学習(生涯教育)

【4】:社会教育の基礎

(2) 社会教育の指導方法・教育理論

【5】:社会教育の基礎

(3) 社会教育の指導方法・学習理論

【6】:社会教育の基礎

(4) 社会教育の指導方法【映像資料1】

【7】:社会教育行政の経営戦略

(1) 社会教育計画の意義と構造

【8】:社会教育行政の経営戦略

(2) 「経営」を考える

【9】:社会教育行政の経営戦略

(3) 社会教育計画の策定

【10】:社会教育行政の経営戦略

(4) 社会教育の評価1 学習者に対する評価

【11】:社会教育行政の経営戦略

(5) 社会教育の評価2 事業の評価

【12】:社会教育の必要性

【映像資料】

【13】:広報戦略

メディアと情報伝達

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自主的な社会教育施設の訪問、ボランティア活動参加。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特に無し

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具(必要ならば、タブレット、PC の持ち込みは可能)。

その他 / Others

※ 14 回中、遅刻と早退の無い出席が最低 10 回必要。

※ 講義の順序や内容は変更になることがある。

※ 講義内容の録音・録画・撮影は不可。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC413(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

社会教育経営論2

Adult and Community Education Management 2

社会教育経営の応用

米澤 朋英(YONEZAWA TOMOHIDE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA809
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC414(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的として、社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実践、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略等とを修得することを目的とする。

このような多様な領域と連携は、新たに生まれた「社会教育士」の活躍が期待されている領域であることを学生が理解していただき授業に臨んでもらいたい。

以上を踏まえ、本科目においては、ねらい・到達目標を次の通りとする。

- ・社会教育推進のための地域人材の重要性を理解する。
- ・学習成果の評価及び活用とその支援方策について理解する。
- ・地域におけるネットワークの形について理解する。
- ・地域の活動支援のための知識及び技術を身につける。
- ・居住する、もしくは郷里の地方自治体における社会教育行政への関心を高める

This course aims to revitalize community and social education administration and to deliver the knowledge and skills required to link learning outcomes to joint community and school problem solving activities. Students will also learn social education administration, imbibe knowledge of management strategies in cooperation with various stakeholders, actually evaluate local public relations strategies, promote social education by forming regional networks, and apply management strategies for social education facilities.

Students will be expected to understand the diversity of areas wherein emergent "social educators" can play active roles.

Thus, the objectives of this course are as follows:

- ・ to make students understand the role of social education administration and the possibility of regional revitalization from a management perspective
- ・ to help students apprehend the structure of a social education plan and comprehend the basics of the plan
- ・ to facilitate students to recognize and analyze local needs and learning tasks
- ・ to raise awareness of social education administration in residents and local governments

授業の内容 / Course Contents

- ①地域人材に求められる力とは何か、社会教育でどのように育むか
- ②学習成果としての地域ネットワーク形成
- ③地域と学校の協働を柱とした地域ネットワーク形成

④社会教育施設経営の様々な形態・仕組み

⑤事業経費を生み出す仕組み

等を柱に授業を展開していく。

なお、社会教育は実践的な取り組みであることから、授業においてもワークショップやグループ討議など、参加型による学習を適宜行う。(受講者数に応じて展開方法は変更することがある)

将来、NPO 法人を運営するのも良いと思う。ただ、運営の基本がわからなければ、独立は難しい。基本は、行政のあり方を理解する必要がある。卒業後の進路として民間企業よりも、公務員や教員を検討している学生には、履修を勧めるものである。

This course highlights the following ideas:

① What authority is needed to foster local human resources and how they can be nurtured through social education

② Regional network formation as a learning outcome

③Formation of regional networks centered on the cooperation between the region and its schools

④Different forms and management mechanisms in social education facilities

⑤A system generating operational funds for NPOs

Since social education is a practical initiative, participatory learning will be encouraged through activities such as workshops and group discussions. (The deployment method may change depending on the number of participants.)

While it is commendable to desire to operate an NPO in the future, a grasp of the basics of management is pivotal to independence. Essentially, students must understand how government works. Learners seeking positions as civil servants or teachers instead of being employed in private organizations after graduation are encouraged to take this course.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

(本授業の目的と講義計画の説明等)

【2】:社会教育における地域人材

(1)社会教育と地域の人材

【3】:社会教育における地域人材

(2)コーディネーターの役割

【4】:社会教育における地域の取り組み事例

(3)実践事例から学ぶ

【5】:コミュニティにおける学習支援の事例

(1)学習支援の事例

【6】:コミュニティにおける学習支援の事例

(2)学習支援と事例と課題

【7】:地域ネットワークの形成

(1)連携・協働

【8】:社会教育施設の経営

(1)社会教育施設経営と法人化

【9】:社会教育施設の経営

(2)指定管理者制度

【10】:社会教育とICT

(1)教育とAI、学校では評価されない能力

【11】:事業計画

(1)事業計画の企画

【12】:事業計画

(2)事業計画の発表

【13】:街作りと地域貢献

(1)民間の事業事例

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自主的に開講期間内に様々な社会教育施設、生涯学習施設を訪問し経営や運営の工夫を観察してくる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特に無し

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具(必要ならば、タブレット、PC の持ち込みは可能)。

その他 / Others

※ 14 回中、遅刻と早退の無い出席が最低 10 回必要。

※ 講義の順序や内容は変更になることがある。

※ 講義内容の録音・録画・撮影は不可。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC414(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

法学1

Law 1

日本国憲法

小野 義典 (ONO YOSHINORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA811
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面で授業を行います。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC401 (科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

(1)授業の目的

この授業の目標は、日本国憲法の本質を理解することにあります。憲法の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定しています。具体的には、憲法上の諸問題、憲法判例、様々な学説などを交えながら授業を進め、これらの事柄を学生諸君が理解することにあります。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えています。

(2)修得できる力

日本国憲法に関する体系的な知識の習得と理解(知識・理解)

(3)授業の到達目標

学習・教育の到達目標は、まず、日本国憲法で学ぶべき通りの知識を身につけることにあります。それには、憲法がどのように生まれ、そしてどのように運用されるのかを理解することが必要です。その上で、実定法解釈に於ける「通説」とはどのようなものなのか、自分自身が考える「正しい解釈」とはどのような解釈であるのか、最終的には、「憲法とは何か」あるいは「日本国憲法とは何か」ということが、自分の言葉で説明できるようになることが到達目標です。

(1) Purpose of class

The purpose of this lecture is to understand the essence of the Japanese Constitutional Law. Students will learn the necessary essence of the Constitution. Specifically, the aim is for the class to progress explaining the various constitutional issues, constitutional precedents, and various theories for students to understand. In addition, we will consider the development of educated university students, as well as measures for the teacher recruitment exam.

(2) Acquiring the ability to learn.

Acquisition and understanding of systematic knowledge related to the Japanese Constitutional Law (knowledge and understanding).

(3) Class objectives

The goal of this class is gaining essential knowledge of the Japanese Constitutional Law. For this, we need to understand the origins of the Constitution, and how it is enacted. In addition, what is “consensus” in interpreting the statute, and how would one interpret “correctly” to arrive at a final answer on “what is constitutional law” or “what is the Japanese Constitutional Law”? Furthermore, the aim is for students to express their own words regarding this question.

授業の内容 / Course Contents

この授業の概要は、第一に、憲法の史的展開(憲法史・立法過程を含む制定経緯など)、第二に、日本国憲法の三大原理である、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に、日本国憲法を概観すること、第三に、日本国憲法が我

が国の実社会に対して、どのような影響を与えているのかを考える、という三点にあります。

なお、授業に際して、教員は、平易な言葉で、分かりやすく、かつ、双方向の対話を心掛けます。

The class overview is, firstly, the historical development of the constitution (constitutional history, history of enactment, including the legislative process etc.), secondly, we examine Japanese Constitutional Law focusing on its three major principles: sovereignty of the people, pacifism, and respect for basic human rights, and thirdly, we will consider what influence the Japanese Constitutional Law has had on Japanese society in reality.

In addition, in the course of classes, tutors will keep language simple and maintain interactive dialogues.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 法学1を学ぶ一オリエンテーション(開講に当っての説明、講義概観)とイントロダクション(講義導入)
受講する学生が、講義を受講する際の注意事項等や、憲法を学ぶ際の重点を理解することができる。
- 【2】: 憲法史
受講する学生が、日本国憲法が制定されるまでの経緯を理解し、また、憲法の内容が生じた欧米の思想を説明することができる。
- 【3】: 日本国憲法上論・前文、憲法の分類
受講する学生が、上論、前文についての法規規範性、裁判規範性などを理解し、大日本帝国憲法との比較を説明することができる。
受講する学生が、憲法の主な分類を理解することができる。
- 【4】: 天皇
受講する学生が、国民主権と天皇の関係、象徴天皇制の問題、天皇の国事行為など、天皇に関する憲法上の諸規定を説明することができる。
- 【5】: 平和主義
受講する学生が、「戦力」についての学説を理解し、また、国際協調主義と平和主義の整合性などと共に、統治行為論を説明することができる。
- 【6】: 基本的人権(1) 人権総論・国民の権利義務
受講する学生が、人権保障の歴史と、日本国憲法の人権保障について、権利義務関係と保障範囲を説明することができる。
- 【7】: 基本的人権(2) 包括的人権・新しい人権・平等権
受講する学生が、幸福追求権と新しい人権であるプライバシー権や名誉権、また平等権について、学説や判例を交えて理解することができる。
- 【8】: 基本的人権(3) 自由権: 精神的自由権
受講する学生が、人権の中でも、歴史のある自由権について、学説や判例を通じて理解することができる。
- 【9】: 基本的人権(4) 自由権: 経済的自由権・身体的自由権
受講する学生が、経済的自由権の「二重の基準論」や、公権力からの不当な身体的拘束を制限する身体的自由権について理解することができる。
- 【10】: 基本的人権(5) 社会権・受益権・参政権
受講する学生が、生存権を中心とした社会権を、判例や学説を通じて理解し、また、受益権や参政権などを理解することができる。
- 【11】: 三権分立
受講する学生が、統治の機能である、司法(特に裁判所)・立法(特に国会)・行政(特に内閣)のしくみを理解することができる。
- 【12】: 選挙・政党
受講する学生が、民主政の主要なアクターである政党について、選挙の役割と選挙制度を併せて理解することができる。
- 【13】: 財政・地方自治
受講する学生が、国家財政の制度、続いて、地方自治の本旨を理解することができる。
- 【14】: 憲法保障
受講する学生が、最高法規としての憲法の役割、及び、憲法と条約の関係などを理解することができる。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

講義形式で授業を行います。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前の準備として、指定のテキストと、立教時間を通じて配布する講義レジュメを熟読して下さい(各回約 2 時間)。法学系の専門知識は、特に必要ありません。法学の初学者であることを前提にして、授業を進めます。なお、授業を受講後は、よく復習をして下さい(各回約 2 時間)。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「歴史総合」「日本史」「世界史」「政治経済倫理・公共(政治分野)」の知識が必要になることが多分にあります。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して下さい。

授業では、教員の作成したオリジナルのレジュメを配布します。このレジュメに従って、黒板への要点板書、及び口述筆記により授業を進行させる予定です。また、授業中、受講する学生の皆さんは、教員の板書と並んで、教員が述べる講義の重要部分に関して、詳細にノート等のメモを行って下さい。

授業は、教科書の各章を基準として進みます。また、日本国憲法の条文にも言及することが多々あります。従って、教科書の所持が必須になります。必ず入手して下さい。

なお、本授業概要(シラバス)に沿って進む予定であるものの、第 14 回までの授業の内容が、場合によって多少の変動も有り得ることを、受講する学生の皆さんは、了解して下さい。授業進行の詳細を、第 1 回目の授業の際に述べます。

※本講義は、私語厳禁です。また、他の受講する学生の皆さんに対する学習の妨げとなる行為を禁止します。心して下さい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

筆記試験で行います。(定期試験 100%) 成績評価は、期末の筆記試験の点数で評価を行います。点数配分は、期末の筆記試験 100 点を満点とするものです。期末の筆記試験の未受験者に、教員は、成績評価を行うことが出来ません(追試験を除く)。期末の筆記試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意して下さい。また、授業への参加態度、あるいは、レポートや課題をはじめとする提出物も成績評価に加味することがあります(但し、あくまでも、評価は筆記試験で行います)。評価方法の詳細を、第 1 回目の授業の際に述べるので、必ず出席して下さい。

テキスト / Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法〔第2版〕』弘文堂 2021 9784335358968

参考文献 / Readings

※参考文献を、講義中に幾つか推薦します。

※当該科目関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましいです。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特にありません。法学初学者を対象としていますので、前提となる知識等も、中等教育までで培ったもので差支えありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にありません。但し、Canvas LMS からレジュメをダウンロード出来るようにしておいて下さい。

その他 / Others

<https://www.facebook.com/?ref=logo#!/verfassungsrecht>

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC401(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

法学2

Law 2

法と法学の本質に迫ります(国際法を含む)

小野 義典(ONO YOSHINORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA812
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面で授業を行います。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC402(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

(1)授業の目的

この授業の目標は、法や法学の本質を理解することにあります。法や法学の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定しています。具体的には、法学の様々な分野の概説を行い、それぞれの法的諸問題、判例、学説などを交えながら授業を進め、これらの事柄を学生諸君が理解することにあります。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えています。

(2)修得できる力

法や法学に関する体系的な知識の習得と理解(知識・理解)

(3)授業の到達目標

学習・教育の到達目標は、まず、法学で学ぶべき一通りの知識を身につけることにあります。また、日常の生活において紛争が生じた際、どこに法的な問題があるのか、ということを見つけて出す力を養うことにあります。それには、法がどのように生まれ、そしてどのように運用されるのかを理解することが必要です。その上で、実定法解釈に於ける「通説」とはどのようなものなのか、自分自身が考える「正しい解釈」とはどのような解釈であるのか、最終的には、「法とは何か」あるいは「法学とは何か」ということが、自分の言葉で説明できるようになることと、今後、法律の学習が必要になった場合も、自らの力で学習を進めることが出来るための基本を身につけ、法的なものの見方や考え方を養うことが到達目標です。

(1) Purpose of class

The aim of this class is to understand the essence of law and legislature. Students will learn the necessary elements for understanding the essence of law and legislature. Specifically, class will progress outlining the various fields of law, while mixing legal issues, judicial precedents and theories for the purpose of student understanding. In addition, we will consider the development of educated university students, as well as measures for the teacher recruitment exam.

(2) Acquiring the ability to learn.

Gaining systematic knowledge of law and legislature (knowledge and understanding).

(3) Class objectives

The goal of this class is gaining essential knowledge of law. In addition, students will cultivate the ability to find what the legal issue is when conflict occurs in daily life. For this, we need to understand the origins of law, and how it is enacted. In addition, what is “consensus” in interpreting the statute, and how would one interpret “correctly” to arrive at a final answer

授業の内容 / Course Contents

法は、実は身近な存在です(授業の中で詳細に触れます)。さらに、法学は、刑法や民法、商法などの法律学を学習するための入門段階として必要不可欠な科目です。この授業は、このような法や法学が、実社会に対して、どのような影響

を与えているのかを、受講する学生の皆さんが理解することにあります。

授業の進め方については、下記にある「授業計画」に沿って進むので、各自で参照して下さい。本授業に於いては、公法（憲法や刑法、行政法など）、私法（民法や商法など）、社会法（労働法や社会保障法など）といった国内法に加え、国際法についても概説し、法学全般についての理解を深めることを予定しています。

なお、授業に際して、教員は、平易な言葉で、分かりやすく、かつ、双方向の対話を心掛けます。

The law is in fact familiar to us (details explored in class). Furthermore, this subject is an essential part of the introductory stage for studying criminal, civil and commercial law. This class is for students to understand the kind of influence law and legislation has in the real world.

The class will progress in according to the following “Class Plan”, and so please refer to this: In this class, as well as examining domestic laws such as public law (constitutional, penal and administrative law etc.), we will deepen our understanding of the whole of law, also outlining private law and social law (Labor Law, Social Security Law etc.) in addition to international law.

In addition, in the course of classes, tutors will keep language simple and maintain interactive dialogues.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 法学 2 を学ぶ—オリエンテーション(説明・概観)とイントロダクション(導入)

受講する学生は、授業を受講する際の注意事項等や、法学を学ぶ際の重点を理解することができる。

【2】: 国家と法—国家とは何か・法とは何か

受講する学生は、国家とは何か、ということが理解することができる。

【3】: 実定法—法の存在形式

受講する学生は、法の分類や、法の存在形式について説明することができる。

【4】: 裁判制度—紛争と裁判

受講する学生は、民事裁判や刑事裁判に関して、その違いや内容について説明することができる。

【5】: 夫婦・子どもと法—家族とは何か

受講する学生は、家族法について理解することができる。

【6】: 自己決定権—基本的人権の保障

受講する学生は、自己決定について理解することができる。

【7】: 情報法・スポーツ法・商法—科学技術の進展と社会

受講する学生は、現在進行形で発展を遂げる科学技術に呼応した法のありかたについて説明することができる。

【8】: 刑法—犯罪と刑罰

受講する学生は、罪刑法定主義や、犯罪の構成要件該当性、違法性、責任などを説明することができる。

【9】: 民法—所有の絶対と契約の自由

受講する学生は、民法の基本概念と契約・所有について理解することができる。

【10】: 労働と法・消費者と法—労働者、消費者の保護

受講する学生は、労働法や消費者保護について理解することができる。

【11】: 行政法—身近な行政法と行政作用

受講する学生は、行政に関する法について理解することができる。

【12】: 環境と法—環境問題と法規制

受講する学生は、環境法の歴史的背景や、現在の環境法制について説明することができる。

【13】: 国際社会と法(1)—国際社会を規律する法: 国際法

受講する学生は、国際社会がどのような社会かを理解することができる。

【14】: 国際社会と法(2)—国際組織

受講する学生は、国際連合や欧州連合などの国際機関について理解することができる。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

講義形式で授業を行います。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前の準備として、指定のテキストと、立教時間を通じて配布する講義レジュメを熟読して下さい(各回約 2 時間)。法学系の専門知識は、特に必要ありません。法学の初学者であることを前提にして、授業を進めます。なお、授業を受講後は、よく復習をして下さい(各回約 2 時間)。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「歴史総合」「日本史」「世界史」「政治経済倫理・公共(政治分野)」の知識が必要になることが多分にあります。良い機会であるから、これ

まで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して下さい。

授業に際しては、教員の作成したオリジナルのレジュメを配布します。このレジュメに従って、黒板への要点板書、及び口述筆記により授業を進行させる予定です。また、授業中、受講する学生の皆さんは、教員の板書と並んで、教員が述べる講義の重要部分に関して、詳細にノートして下さい。

授業は、教科書の各章を基準として進みます。従って、教科書の所持が必須になります。必ず入手して下さい。

なお、本授業概要(シラバス)に沿って進む予定であるものの、第14回までの授業の内容が、場合によって多少の変動も有り得ることを、受講する学生の皆さんは、了解して下さい。授業進行の詳細を、第1回目の授業の際に述べます。

※本講義は、私語厳禁です。また、他の受講する学生の皆さんに対する学習の妨げとなる行為を禁止します。心して下さい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

筆記試験で行います。(定期試験 100%) 成績評価は、期末の筆記試験の点数で評価を行います。点数配分は、期末の筆記試験 100 点を満点とするものです。期末の筆記試験の未受験者に、教員は、成績評価を行うことが出来ません(追試験を除く)。期末の筆記試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意して下さい。また、授業への参加態度、あるいは、レポートや課題をはじめとする提出物も成績評価に加味することがあります(但し、あくまでも、評価は筆記試験で行います)。評価方法の詳細を、第1回目の授業の際に述べるので、必ず出席して下さい。

テキスト / Textbooks

堀口悟郎・斎藤一久編『図録 法学入門』弘文堂 2024 9784335359613

参考文献 / Readings

※参考文献を、講義中に幾つか推薦します。

※当該科目関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましいです。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特にありません。法学の初学者を対象としていますので、中等教育までで培った知識等で差支えありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にありません。但し、Canvas LMS からレジュメをダウンロード出来るようにしておいて下さい。

その他 / Others

<http://www.facebook.com/?ref=logo#!/verfassungsrecht>

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC402(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

政治学

Political Science
政治学の基礎を学ぶ

田頭 慎一郎 (DENDO SHINICHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA813
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

政治学の基礎を学び、それを考察することにより、現在の政治についての理解を深めることを目標とします。

The aim of this lecture is to gain a better understanding of current politics by learning and considering the basics of political science.

授業の内容 / Course Contents

現代社会において政治は「ゆりかごから墓場まで」私たちの生活に深く関わっています。そのため、政治を知ることは、私たちにとって必須の知識となります。本講義は、現代政治を理解するために必要な政治学の基礎を概観します。その上で、政治学的概念の生きた事例として、日本の歴史や政治を手がかりとして扱うこともあります。

In modern society, politics is deeply involved in our lives "from the cradle to the grave". Therefore, knowing politics is essential knowledge for us. In this lecture, we will review the basics of political science to understand current politics. In addition, Japanese history and politics are good case studies, so I will refer to them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 政治とはどのようなものか
- 【2】: 政治的態度と政治的無関心
- 【3】: 政治権力
- 【4】: 議院内閣制と大統領制
- 【5】: 各国の政治制度と選挙制度
- 【6】: 政治過程: 政党と利益団体
- 【7】: 政治意識と投票行動
- 【8】: 政治体制
- 【9】: 民主主義の思想史
- 【10】: 自由主義の思想史
- 【11】: 日本の政治①
- 【12】: 日本の政治②
- 【13】: 国際政治: リアリズムとリベラリズム
- 【14】: 理解度の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義前に講義資料をLMS(学習管理システム)を通して配布するので目を通しておくこと。講義での板書等、メモしたことを復習しておくこと。また日々のニュースなどにもふれておくとう理解がしやすくなります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

久米郁男ほか 政治学 補訂版 有斐閣 2011

増田正ほか 政治学入門 一藝社 2020

川崎修ほか 現代政治理論 新版 有斐閣 2012

適宜、授業内で紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

政治学の基本事項を学んでもいくことになるので、人名、著作名、キーワードなどを覚えてもらう必要があります。講義に出て、その後に復習できる意欲があると良いです。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

LMS に資料をアップロードするので、これらを利用できる環境があること。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

経済学

Economics

グローバル経済を学ぶ

石井 優子 (ISHII YUKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA814
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化する国際経済についてその現状と諸課題を読み解くことを目標とする。

The aim is to understand the current situation and issues in the globalizing international economy.

授業の内容 / Course Contents

グローバル化の進展は、地球規模での効率的な経済を実現し、経済発展を促進させた一方で、多くの課題をもたらしており、国際経済への理解はますます重要なものとなっている。そこで、本講義では、主に貿易と投資を中心に国際経済学の基礎的理論や制度的枠組みを把握した上で、ファストファッション産業を例にグローバル経済の諸課題について理解を深める。

While the progress of globalization has realized an efficient economy on a global scale and promoted economic development, it has also brought about many challenges, and an understanding of the international economy has become increasingly important. In this lecture, we will understand the basic theories and institutional framework of international economics, mainly focusing on trade and investment. In particular, we will understand various issues facing the global economy using the fast fashion industry as an example.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 経済のグローバル化とは？
- 【3】: 貿易の理論①
- 【4】: 貿易の理論②
- 【5】: 貿易政策
- 【6】: 貿易システム
- 【7】: 地域統合
- 【8】: 多国籍企業①
- 【9】: 多国籍企業②
- 【10】: グローバル経済の進展と課題①
- 【11】: グローバル経済の進展と課題②
- 【12】: グローバル経済の進展と課題③
- 【13】: グローバル経済の進展と課題④
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

ペアワークなど少人数のグループディスカッションも実施する予定(毎回ではない)

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 複数の小テスト・リアクションペーパー:20%

小テスト及びリアクションペーパーは CanvasLMS 上で実施する。

テキスト / Textbooks

毎回配信する資料に沿って講義を進める。

参考文献 / Readings

特に指定せず、必要に応じて紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

経営学

Business Management

内海 雅路 (UTSUMI MASANORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA815
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

経営学の基礎を学習し、広くその全体像を理解して頂く。経営学は普段の生活にも関りが深く、より身近に感じられるような授業を目指す。

Learning fundamental of Business Management to understand big picture of it. Business Management is deeply related to everyday life, and we aim to provide students with a more familiar experience with business Management.

授業の内容 / Course Contents

本学経営学部のテキストを用い、経営学で学ぶべき基礎を網羅的に講義する。テキストに沿ったパワーポイント資料にて講義を進める。加えて、実際のケースを用いた解説や、実務家ゲストの招聘により企業活動を多面的に捉えられるような内容とする。履修者人数の多寡、ゲストスピーカーの日程調整等により、形態・スケジュールは柔軟に変更する。

Using textbooks from our university's College of Business Management, will provide comprehensive lectures on the basics that should be learned in business administration. Proceed with the lecture using PowerPoint materials that follow the text. In addition, the content will be designed to provide a multifaceted perspective on corporate activities through explanations using actual cases and inviting guests from practical backgrounds. The format and schedule will be changed flexibly depending on the number of students taking the course, the schedule of guest speakers, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: 企業経営の基礎
- 【3】: 企業経営の基礎
- 【4】: 企業経営の基礎
- 【5】: 企業の基本的な活動
- 【6】: 企業の基本的な活動
- 【7】: 企業の基本的な活動
- 【8】: 企業の基本的な活動
- 【9】: 企業の活動を方向づけ、成長させる諸活動
- 【10】: 企業の活動を方向づけ、成長させる諸活動
- 【11】: 企業の活動を方向づけ、成長させる諸活動
- 【12】: 企業とガバナンス
- 【13】: 企業とガバナンス
- 【14】: 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを中心とした予習・復習をするのが望ましい。また、ケーススタディは最新のニュースなどのトピックスを用いることがあるため、日本経済新聞など、経営学に関わる情報収集を行うことにより、授業理解が深まる。特に別途必要な場合は授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内に指示したリアクションペーパー(毎回 / 全 14 回分)等の提出物:60% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

立教大学経営学部『経営学入門』新世社 2023 9784883843664

参考文献 / Readings

社会学1

Sociology 1

「社会」と「社会学」のイメージを捉える

入江 公康 (IRIE KIMIYASU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA816
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC405 (科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

「社会」を把握しうる包括的な見方を学びます。「社会学」というもののイメージを捉えます。

(なお、「社会学1」「社会学2」と蓄積的に講義を進めるため、双方の受講を望みます)

Acquiring a comprehensive view of society. Grasping the image of sociology.

(In addition, it is preferable that "Sociology 1" and "Sociology 2" are taken in order so that lectures can advance progressively.

授業の内容 / Course Contents

社会学の基本的な概念や思考方法を紹介しながら、現代社会を把握する視点を獲得します。「社会」は今あるものが昔からずっとそうだったわけではなく、そこには歴史が存在しています。そうした「社会」の歴史、すなわち変化や変動を踏まえ、現代社会を考察していきます。社会の「あたりまえ」の価値観を疑う視点を身につけます。

While introducing the basic concepts and thinking methods of sociology, we will gain perspectives to grasp contemporary society. "Society" has not always been as it is now, and a history exists. We will consider modern society based on such changes in "society".

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 近代ということ、社会ということ——「社会学」のはじまり
- 【3】: 「古典」、そして社会学的方法とは？
- 【4】: 戦後の産業と社会 1 高／低成長
- 【5】: 戦後の産業と社会 2 脱産業化
- 【6】: 「社会」の戦後史
- 【7】: 「都市」——都市と都市的なもの
- 【8】: 「都市」——ニューアーバンソシオロジー
- 【9】: カルチュラル・スタディーズ——現代社会のなかの「文化」
- 【10】: カルチュラル・スタディーズ——「逸脱行動」のとらえかた
- 【11】: ジェンダー——「らしさ」のつくられ方
- 【12】: 「家族」のつくられ方——フェミニズムの視点から
- 【13】: 「公害」の社会史 1
- 【14】: 「公害」の社会史 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講後、テキストおよびノートの読み返し、および講義中紹介された文献の探索を心掛けてほしいと思います。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加度・授業内リアクションペーパーなど:50%

適宜、講義時にリアクションペーパーを課し、出席票として扱うなどします。

テキスト / Textbooks

入江公康『増補版 現代社会用語集』新評論 2021 97847948118820030

参考文献 / Readings

入江公康『眠られぬ労働者たち』青土社 2008 9784791763979

参考文献は講義のなかで適宜紹介します。上記は私の著書ですので参考文献として紹介しておきます。

その他 / Others

映像資料を適宜使用します。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC405(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

社会学2

Sociology 2

現代社会を捉える眼をもつ／社会学的思考の源にせまる

入江 公康 (IRIE KIMIYASU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA817
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC406(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

現代社会を捉えるうえで、どのような社会学・社会思想・社会哲学的視角が必要なのかをつかみとってもらいます。
(なお、「社会学1」を踏まえて講義を進めるので、本講義「社会学2」は「社会学1」をあらかじめ受講していることが望ましいです)

In order to grasp modern society, we will examine what kind of sociology, social thought, and social philosophical perspectives are needed.

(Note, it is preferred for students to take “Sociology 1” in advance of “Sociology 2, as the lectures progress building on each other.)

授業の内容 / Course Contents

「現代社会」ということを多角的に捉えるべく、わりと新しい社会学、社会哲学の視点や方法論などを駆使しつつ講義を進めます。

その際、社会の中の政治、社会運動、社会のダイナミズム、社会の中の価値の多様性、社会構造とその変化などに留意しながら「現代社会」を読み解いていきます。

とくに、「主体」「力」「抵抗」「権力」「暴力」といった点に着目し、それらを社会・哲学的な抽象にまでさかのぼって把握することに努めます。

Lectures will progress, providing the opportunity to grasp “modern society” from the various angles necessary, using relatively new sociology and socio-philosophical methodologies. We will read and understand “contemporary society” in consideration of politics, social movements, dynamism, diversity of values, social structures, and their changes in society. In particular, we will focus on points such as “violence” and “power”, attempting to trace back to so-called abstract social philosophy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: グローバル／ポストグローバル社会 1
- 【3】: グローバル／ポストグローバル社会 2
- 【4】: 消費の〈帝国〉——二分される社会
- 【5】: 「政治」の「始まり」と社会哲学——「政治」を社会のなかから／において考える 1
- 【6】: 「政治」の「始まり」と社会哲学——「政治」を社会のなかから／において考える 2
- 【7】: 「戦争」と社会——ビオスとゾーエー
- 【8】: 「暴力」と社会——「犠牲」ということ
- 【9】: 「生活史」から考える社会

- 【10】:〈ファシズム〉と大衆社会、権威主義の体制
 【11】:優生思想——社会ダーヴィニズム、社会進化論
 【12】:ユートピアと社会——社会というものの構想、構想力
 【13】:ユートピアと社会——自由と平等
 【14】:アートと社会の関係について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講後、テキストおよびノートの読み返し、および講義中紹介した文献の探索などを心がけてほしいと思います。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内リアクションペーパー:50%

授業内リアクションペーパーの提出をもって出欠とする。

テキスト / Textbooks

入江公康『増補版 現代社会用語集』新評論 2021 97847948118820030

参考文献 / Readings

入江公康『眠られぬ労働者たち』青土社 2008 9784791763979

講義内で参考文献を適宜紹介します。上記は私の著書ですので参考文献に挙げておきます。

その他 / Others

視聴覚資料を多用します。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC406(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

心理学1

Psychology 1

自己と他者を理解し、関わり方を考える

近藤 育代(KONDO IKUYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA818
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC407 (科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

人間は社会的動物であると言われます。私たちは、身近なところでは家族、友人、そして学校や会社の人間関係など、様々な集団・組織において他者と接しています。では、他者より良く関わるために、どのような視点で人を理解すればよいのでしょうか。この授業では、「発達」「社会」「臨床」の心理学的な知見を紹介し、人間を客観的に理解する能力を養うことを目標とします。

Humans are said to be social animals. We interact with others in various groups and organizations, such as family, friends, in school and in company relationships. And so, in order to get along with others better, which perspectives help us to understand people? In this class, we will introduce “development”, “social” and “clinical” approaches from the fields of psychology, with the aim of cultivating the ability to objectively understand humans.

授業の内容 / Course Contents

心理学は、人の行動とその背後にある心理過程を理解することを目指す学問です。本講義では、その中でも、人の発達のプロセス(対人関係や人格形成、認知の発達など)、他者や集団との関わりに影響する要因、そして、対人援助のアプローチについて取り上げながら、他者をどのように理解し、関わるかについて、学んでいきます。

Psychology is the study that aims to understand human behavior and the psychological processes behind it. In these lectures, we will discuss human developmental processes (interpersonal relationships, personality formation, cognitive development etc.), factors affecting relationships with others and groups, as well as approaches to interpersonal support, and study how to understand and relate to others.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 発達の規定因
- 【3】: 愛着による発達
- 【4】: 人格発達のプロセス
- 【5】: 認知発達のプロセス
- 【6】: 自己認識の形成
- 【7】: 他者認知の仕方
- 【8】: 対人関係のあり方とコミュニケーション
- 【9】: 集団における同調と服従
- 【10】: リーダーシップのあり方
- 【11】: 精神分析による心理援助の考え方
- 【12】: クライアント中心療法による心理援助の考え方

【13】:行動療法による心理援助の考え方

【14】:認知行動療法による心理援助の考え方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

板書はありません。毎回、パワーポイントのスライドに関する資料(A3で数枚程度)を授業前に配布して、その配布資料に書き込んでもらいながら授業を進めます。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容について復習し、理解の不足している箇所がないか確認してください。疑問点があれば次回の授業時まで質問できるようにまとめておいてください。また、授業の中で紹介した理論や課題について、日常生活ではどのような場面に適用することができるか自分なりに考え、問題意識をもって授業に臨めるようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業後の小テスト(14 回程度):50%

2/3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

テキストの指定はありません。必要な資料については授業中にプリントを配布します。

参考文献 / Readings

鈴木直人(監修)『心理学概論 第2版』ナカニシヤ出版 2014 9784779508301

鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編)『心理学 第5版補訂版』東京大学出版会 2020 9784130121170

西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子(編)『テキスト現代心理学入門』川島書店 2009 4761008512

その他 / Others

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行います。また、毎回授業時に小テストを実施し、次回授業開始時にフィードバックを行います。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC407(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

心理学2

Psychology 2

白石 智子 (SHIRAISHI SATOKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA819
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC408 (科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

「人となり」や「心理的問題の理解と支援」について、心理学の基礎的な知識を身につけ、それらを生活の中で実践的に活かすことを目標とする。

The aim is to acquire basic knowledge of psychology, such as personality and understanding and supporting psychological problems, so that these can be of practical use in daily life.

授業の内容 / Course Contents

「人となり」といえるパーソナリティを、心理学ではどのように捉えているのか、その諸理論について様々な心理学分野の知見に触れながら学ぶ。そして、パーソナリティの発達の諸相、パーソナリティの偏りについての理解を深める。続いて、身近な心理的問題について、その理解と支援を臨床心理学の知見から学ぶ。

Learn psychology's view of the personality, that is, "who and how a person is", through the various theories in a variety of fields of psychology. As well as deepening understanding of the various aspects of personality development, and personality bias. In addition, you'll study about familiar psychological problems, together with understanding and support from the findings of clinical psychology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:何を学ぶか?
- 【2】:パーソナリティの捉え方1:類型論
- 【3】:パーソナリティの捉え方2:特性論
- 【4】:状況の影響
- 【5】:遺伝と環境
- 【6】:パーソナリティの測定
- 【7】:精神分析理論からみたパーソナリティ
- 【8】:学習理論からみたパーソナリティ
- 【9】:人間性心理学からみたパーソナリティ
- 【10】:パーソナリティの発達
- 【11】:パーソナリティの偏り
- 【12】:メンタルヘルスの理解
- 【13】:メンタルヘルスの支援
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

復習:毎回の授業で学んだ内容について振り返りを行い, 自分の関心事や他の授業での学びとも関連づけながら理解を深めておくこと。

その他の授業時間外の学習については, 必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

2 回目以降の講義については, レジュメを配布する。また, 必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中, 適時紹介する。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義を中心とする。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

※2019 年度以降入学者の科目コードは IC408 (科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

地理学1

Geography 1

日本列島の生い立ちと自然環境を学ぶ

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA820
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

日本列島における地形・水文・気候といった自然環境と、そこで生活する人々との関わりを理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the relationship between the natural environment of the Japanese Islands, including topography, hydrology, and climate, and the people who live there.

授業の内容 / Course Contents

日本列島を取り巻く自然環境と人間の相互作用について、地球規模から地域レベルまでの空間スケールを交えて講義する。パワーポイントや Google Earth などを用い、ビジュアルな授業を行う。また、理解を深めるために一部地図を用いた作業も行う。参加者と資料から読み取れる地理学的な事象についての議論も取り入れる。

The lecture will focus on the interaction between humans and the natural environment surrounding the Japanese archipelago, using spatial scales from the global to the regional level. Visual lectures will be given using PowerPoint and Google Earth. Some work will be done using maps to deepen understanding. Discussions with participants on geographic events that can be read from the materials will be included.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 本授業のねらい
- 【2】: 地図の塗り絵をしてみよう
- 【3】: 地図の塗り絵から読み取る暮らしの歴史
- 【4】: 土地の成り立ちと人びとの暮らし
- 【5】: ダイダラボッチの足跡
- 【6】: 東京激坂物語
- 【7】: 日本はどこでも火山と地震が多いのか
- 【8】: 7000 万年後にハワイは日本にぶつかる?
- 【9】: 2 万年前の東京湾は川だった
- 【10】: ら: 「雷と空風 義理人情」
- 【11】: 本日、関ヶ原付近の雪により新幹線が遅延しています
- 【12】: 106 時間 21 分遅れの急行列車←日本の最高記録だそうです
- 【13】: なんで今日も西高東低なの?
- 【14】: 四季って本当に四季なんだろうか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

配付した地図上の作業(色塗り, 計算など)を行う.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて, 事前に調べてくること.

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 中間テスト:30% リアクションペーパー:20%

中間テストは授業支援システムを用いて実施する.

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する. プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

色鉛筆(10 色程度)や定規(15cm 程度)

その他 / Others

作業に必要な器材(色鉛筆や定規など)については, 授業支援システム上で指示を出す.

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

地理学2

Geography 2

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA821
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

地図に関する歴史を紹介し、地図を使った様々な分析手法について学ぶ。

Introduce the history of maps and learn about various analytical methods using maps.

授業の内容 / Course Contents

講義に加えて、地図を使った作業を行う。

In addition to the lecture, work with the map

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:授業ガイダンス:地理情報科学とはなにか
- 【2】:地理的世界の表現法:紙の地図とデジタルマップ
- 【3】:日本における地図の歴史:最古の日本地図『行基図』1
- 【4】:日本における地図の歴史:最古の日本地図『行基図』2
- 【5】:日本における地図の歴史:江戸時代の地図 1
- 【6】:日本における地図の歴史:江戸時代の地図 2
- 【7】:日本における地図の歴史:伊能忠敬の日本地図
- 【8】:地理的データの取得方法:地図上の計測
- 【9】:見えないものを地図にする:コロプレスマップの作成
- 【10】:小学校区は適切か:ボロノイ分割による空間分割
- 【11】:お客は何人見込めるか:面積按分による人口推定
- 【12】:クリニックの多い場所はどこか:格子法による点パターン分析
- 【13】:小学校とクリニックに関係はあるのか:平均最短距離法による点パターン分析
- 【14】:混ざっている? 混ざっていない? :Join 統計量による空間的自己相関

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

配付した地図上の作業(色塗り, 計算など)を行う。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて、事前に調べてくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:30% 授業への貢献:20%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する. プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

色鉛筆(10色程度)や定規(15cm程度)

その他 / Others

作業に必要な器材(色鉛筆や定規など)については, 授業支援システム上で指示を出す.

注意事項(検索結果画面)

2016年度～2018年度1年次入学者対象

日本史1

Japanese History 1

高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA822
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

幕末・維新时期からアジア・太平洋戦争に至るまでの日本近代の歴史を、日本型(天皇制)国民国家の展開として捉えて、その流れについて確認する。具体的には、社会的な視座から「国民化と臣民化のせめぎあい」として概観する。歴史学的手法による日本社会の展開と特質を理解する知識を身につける。とはいえ、単なる事項の時系列的暗記ではなく、「歴史と対話をしながら現状認識を豊かにする」という歴史的思考方法を身につけるようにする。

The history of modern Japan from the end of the Tokugawa shogunate and the Restoration period to the Asia-Pacific War is viewed as the development of a Japan-style (emperor system) nation-state, and the flow of this process is confirmed. Specifically, from a socio-historical perspective, it is reviewed as a "struggle between nationalization and subjectization." Acquire the knowledge to understand the development and characteristics of Japan society using historical methods. However, rather than merely memorizing matters chronologically, students will acquire a historical way of thinking that enriches their understanding of the current situation through dialogue with history.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、幕末・維新时期から維新改革をめぐる近代国家形成の動き、帝国憲法発布から憲政の常道に至る帝国憲法体制の成立に至る動き、対外戦争による植民地帝国の形成など、様々な「成立と展開」の過程を追うことで、複合的な歴史の流れをおっていく。日本近代史像は天皇制国家または国民国家と捉えることが出来るが、本講義では近代史を「国民化」と「臣民化」のせめぎあいという枠組み、または、近代秩序の成立と展開に注目して考える(近代秩序の問題として、性規範(ジェンダー／セクシュアリティ)についても取り扱う)。授業の流れや学生の関心によって授業計画内容の変更もありうる。

.In this lecture, we will follow the flow of a complex history by following various "establishment and development" processes such as the movement of the formation of a modern state for restoration reform from the end of the Tokugawa shogunate and the Restoration period, the movement from the promulgation of the Imperial Constitution to the establishment of the imperial constitution system from the ordinary road of constitutional government, and the formation of a colonial empire by foreign war. The image of modern Japanese history can be regarded as a tenno-based state(Emperor system nation) or a nation-state, but in this lecture, modern history is considered in the framework of "nationalization" and "subjectification". There may be changes in the content of the class plan depending on the flow of the class and the interest of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス。「歴史の見方・考え方」について考える
- 【2】: 近代社会の特徴について考える
- 【3】: 日本近代史の史学史的振り返りと日本型国民国家について
- 【4】: 幕末維新期の諸相
- 【5】: 国境から近代を考える

- 【6】:大日本帝国憲法の成立
- 【7】:日清・日露戦争と日本社会の変容
- 【8】:近代社会と軍隊
- 【9】:大衆化の進展
- 【10】:植民地社会を考える
- 【11】:大正デモクラシーの崩壊-1930年代の日本社会
- 【12】:日本における福祉国家の形成
- 【13】:日中戦争からアジア・太平洋戦争に至る動き
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 【予習】配信される資料をもとに内容確認などをする。
- 【復習】授業を受けて興味を持った点/知らなかった点を中心に調べる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 授業内で指示した課題:30% 中間レポート:35% 学期末レポート(授業内容を確認する試験的レポート):35%

テキスト / Textbooks

特になし(授業時に文献リストを配布)

参考文献 / Readings

三谷太一郎 日本の近代とは何であったのか 岩波書店 2017年 9784004316503
 坂野潤治 日本近代史 筑摩書房 2012年 97844800664283
 成田龍一 近現代日本史と歴史学 中央公論新社 2012年 9784121021502
 牧原憲夫編 <私>にとっての国民国家論 日本経済評論社 2003年 4818815055
 松沢裕作 日本近代社会史 有斐閣 2022年 9784641174757
 山内昌之・細谷雄一編 日本近現代史講義 中央公論新社 2019年 9784121025548
 大門正克・安田常雄・天野正子 近代社会を生きる 吉川弘文館 2003年 4642079238
 該当する時期を扱った歴史書を含め、歴史学を考える文献も挙げているので、履修する／しないは別にして、日本史2の文献にも目を通してほしい。

その他 / Others

板書を中心にした授業である。資料の配布や課題のやり取りは Canvas LMS を使用する予定である。歴史は暗記科目とされているが、歴史を通して「正解のない問いを考える」姿勢を身に着けることを考えている。よって、積極的な発言も歓迎だが、授業を通して、真摯に内省する姿勢(自己内対話)もアクティブラーニングの一種と考えているので、こうした姿勢を養う気持ちをもって授業に臨んでほしい。

課題回答への講評をおこなう。

注意事項(検索結果画面)

2016年度～2018年度1年次入学者対象

日本史2

Japanese History 2

高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA823
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

アジア・太平洋戦争以降の日本現代史につき、社会史の視座を通して概観する。日本現代史の枠組みを押さえつつ、東アジア現代史の特徴も加味しながら、日本現代史の理解を深めていく。

日本史 1 と同じく、単なる事項の時系列的暗記ではなく、「歴史と対話をしながら現状認識を豊かにする」という歴史的思考方法を身につけるようにする。

This course provides an overview of Japan's contemporary history since the Asia-Pacific War from the perspectives of social history. While grasping the framework of Japan's contemporary history, we will deepen our understanding of Japan's contemporary history while also taking into account the characteristics of contemporary East Asian history. As in Japanese history 1, try to find a historical way of thinking that "enriches awareness of the current situation while interacting with history," rather than simply memorizing matters in chronological order.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、大日本帝国時代の日本の近現代史について、帝国の崩壊過程、すなわち、中国大陆への膨張政策を契機に列強との協調関係を崩壊させ、アジア太平洋戦争へと突入し、敗戦に至る 1930 年代から 40 年代の動向及び戦後社会の展開を確認していく。現代史を総力戦体制の遺産の問題として考える。また、現代史を「個人の人權の尊重」(自由)と「滅私奉公」(秩序)のせめぎあいという枠組みで考えてみる。授業では、日本史 1 に引き続き性規範の問題、東アジア現代史の中の戦後日本、戦争観の問題なども扱う。授業の流れや学生の関心によって授業計画の内容の変更もありうる。

In this lecture, we will examine the modern history of Japan during the period of the Empire of Japan, the process of the collapse of the empire, that is, the collapse of cooperative relations with the great powers triggered by the policy of expansion into mainland China, the Asia-Pacific War, and the trends of the 1930s and 40s leading to the defeat of the war, and the development of postwar society. Consider modern history as a legacy of the total war system. In addition, we will consider contemporary history in the framework of the struggle between "respect for the human rights of the individual" (freedom) and "selfless servitude" (order). In the course, following on from Japan History 1, the course also deals with issues of gender norms, postwar Japan in the context of contemporary East Asian history, and issues of views on war. The content of the lesson plan may change depending on the flow of the class and the interests of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(講義内容、成績評価など)及び歴史の見方・考え方
- 【2】: 近代史の枠組みの再確認及び満州事変以降の展開
- 【3】: 戦時下の植民地社会
- 【4】: 総力戦体制化の社会
- 【5】: 占領と日本国憲法の制定
- 【6】: 戦後東アジア社会の形成

- 【7】:戦前と戦後の日本社会―持続と変容―
- 【8】:冷戦社会論―アメリカ統治下の沖縄を事例に
- 【9】:高度成長の時代
- 【10】:「豊かな」暮らしと「公害」列島
- 【11】:戦跡と戦争観をめぐる問題
- 【12】:ジェンダーの現代史
- 【13】:地域の現代史
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 【予習】配信される資料をもとに内容確認などをする。
- 【復習】授業を受けて興味を持った点/知らなかった点を中心に調べる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示した課題:30% 中間レポート:35% 学期末レポート(授業内容を確認する試験的レポート):35%

問題行動が目立つと減点という措置もありうる。

テキスト / Textbooks

とくに指定せず、講義時に適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

大門正克 戦争と戦後を生きる(全集日本の歴史 15) 小学館 2009 年 9784096221150

鹿野政直 日本の現代(日本の歴史9) 岩波書店 2000 年 9784005003396

福間良明 「戦跡」の戦後史 岩波書店 2015 年 9784000291729

丸川哲史 冷戦文化論 論創社 2020 年 9784846019389

山崎雅弘 歴史戦と思想戦 集英社 2019 年 9784087210781

山之内靖 総力戦体制 筑摩書房 2015 年 9784480096494

大門正克・安田常雄・天野正子 戦後経験を生きる 吉川弘文館 2003 年 4642079246

該当する時期を扱った歴史書を含め、歴史学を考える文献も挙げているので、履修していなくても、日本史 1 の文献にも目を通してほしい。

その他 / Others

板書を中心にした授業である。資料の配布や課題のやり取りは Canvas LMS を使用する予定である。歴史は暗記科目とされているが、歴史を通して「正解のない問いを考える」姿勢を身に着けることを考えている。よって、積極的な発言も歓迎だが、授業を通して、真摯に内省する姿勢(自己内対話)もアクティブラーニングの一種と考えているので、こうした姿勢を養う気持ちをもって授業に臨んでほしい。

課題回答への講評をおこなう。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

外国史1

World History 1

三王 昌代(SAN-O MASAYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA824
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

世界を広く眺め、諸地域は互いに関連しあいながらつくられてきていることに着目し、説明できる。

Broadening outlooks on the world, and recognizing that its regions are interconnected.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、世界の諸地域・諸民族の歴史や文化などについて、様々な繋がりが見られる具体的な事例を文字資料・写真・映像資料を交えながら紹介していきます。

In this lecture, we will introduce concrete examples showing these various connections between the histories and cultures of the regions and ethnic groups of the world, using textual sources, photographs and video materials.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 世界の見方考え方
- 【2】: 食物の歴史
- 【3】: 感染症の歴史
- 【4】: 世界遺産から歴史・地理を眺めてみよう: 中南米
- 【5】: 世界のおもな宗教
- 【6】: 世界のおもな宗教
- 【7】: 世界遺産から歴史・地理を眺めてみよう: アジア
- 【8】: 13 世紀～15 世紀の海域アジア
- 【9】: 中東と日本
- 【10】: アフリカ・ヨーロッパ・アジア
- 【11】: 近隣諸国との歴史
- 【12】: 世界の先住民族
- 【13】: 世界の先住民族
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

[復習]

授業中にとったメモを整理し、授業資料とともにファイリングしてみましょう。

配布した授業資料をもとに講義の振り返ってみてください。

授業中に紹介したものやご自身が興味や関心をもった内容などについて関連する本や論文を読んだり、インターネットなどを用いて調べたりして、さらに理解を深め、毎時後の提出物や期末レポートに生かしていただければと存じます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー等授業内に指示した提出物:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に参考文献を紹介いたします。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料などを適宜活用します。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

外国史2

World History 2
イギリス帝国史

鹿野 美枝 (SHIKANO MIE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA825
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

近代以降のイギリス帝国の歴史を通じて、イギリス近代史および帝国史の基礎知識を学ぶ。イギリス帝国を中心とした講義内容から、現代日本に生きるうえで歴史学的知見の意義を考える。

帝国の多様な側面を扱うが、詳細な個別の事例だけにとらわれず、細部とともに全体像も把握できるようにする。

Through the history of the British Empire since the modern era, we will study basic knowledge of modern British and imperial history. The content of this lecture is focused on the British Empire, with consideration of the significance of historical findings on life in modern Japan.

Dealing with the multiple dimensions of empire, try to get a grasp of a big picture, without being confined to detailed individual cases.

授業の内容 / Course Contents

主に近世以降のイギリス帝国について講義形式で学ぶ。イギリス帝国を知るために、必要に応じてイギリス本国の歴史や古代・中近世まで遡って解説することもある。イギリス近現代史を軸に、主要な植民地などを具体的に取り上げ、帝国の多様性や多層性などを学ぶ。また、政治・社会・経済など多角的にアプローチしてゆく。

Learning is mainly in the form of lectures on the British Empire since early modern period. In order to understand the British Empire, it may sometimes be necessary to return to the history of Britain in ancient times, as well as to the middle-ages. Centering on the modern and contemporary history of Britain, examining examples of major colonies, we will study the diverse and multifaceted nature of empire. In addition, we will approach politics, society and economics from multiple angles.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: イギリス史を学ぶ
- 【2】: 海外貿易の発展と帝国の起源
- 【3】: 帝国の形成とイギリス近代国家の歩み
- 【4】: ブリテン諸島①スコットランド
- 【5】: ブリテン諸島②アイルランド
- 【6】: 北米植民地①西インドと 13 植民地
- 【7】: 北米植民地②カナダ
- 【8】: 白人移住植民地
- 【9】: インド植民地
- 【10】: インド帝国とアジア
- 【11】: 大西洋貿易と消費社会
- 【12】: アフリカ植民地

- 【13】:帝国の文化、芸術
 【14】:コモンウェルス、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

世界史などの基礎知識については、授業内で適宜紹介する概説書や辞書・事典類等を用いて確認すること。授業内で、個別テーマに関する参考文献を紹介するので、関心のあるトピックについて各自で深く学んでほしい。また、文学作品やドラマ・映画といった映像作品も紹介する。これらを各回のテーマにあわせ予習・復習すること(各回それぞれ2時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート(リアクションペーパー):40%

2/3 以上の出席をしていない場合には単位修得不可。コメントシートは、自身の考えや意見を表現できているかを評価する。

テキスト / Textbooks

教科書は使用せず、毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考文献 / Readings

川北稔、木畑洋一編『イギリスの歴史:帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣 2000 4641121052

全体にかかわわる主要参考文献は初回授業で、その他について授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

高校で学習する世界史の知識があることが望ましいが、そうでない場合は授業内で紹介する概説書等をもちいて予習することで補うこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメないし PowerPoint スライド表示を用いた講義となるが、適宜板書を用いることもある。これらの資料の配布およびコメントシートの回収は CanvasLMS を使用する(必ずしも教場に PC 等を持参する必要はない)。

その他 / Others

受講生の関心や授業の進行状況により授業計画は若干調整することもある。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

地誌学

Regional Geography

亀井 啓一郎 (KAMEI KEIICHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA826
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

地理学的・地誌学的な見方・考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」や「地誌」の知識や教養を身に付けることを目的とする。また、地図を正しく読むことができるようになり、地域のことを正しく理解できるような素養を身に付ける。

The purpose of this course is to acquire knowledge and education of Geography and Regional Geography as general knowledge, and to learn how to think geographically. Students will also be able to understand maps accurately and have an accurate understanding of the region.

授業の内容 / Course Contents

この授業は日本の地誌をテーマとする。授業ではまず地理学と地誌学の関係性、地域の見方について講義する。続いて日本の領土・領海、さまざまな日本の地方区分、関東地方と首都圏、江戸・東京の行政区画の変遷、埼玉県の成立に関する講義を行う。

This course will focus on the Regional Geography of Japan. We will first give a lecture on the relationship between Geography and Regional Geography, and how to understand regions. Next, lectures will be given on the territory of Japan, various regional divisions of Japan, the Kanto region and the Tokyo metropolitan area, and Edo / Tokyo.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業のガイダンス
- 【2】: 地理学と地誌学(地誌学的な見方とは)
- 【3】: 日本の位置と領域(領土・領海・領空)
- 【4】: 日本の地方区分(1)現在の地方区分
- 【5】: 日本の地方区分(2)昔の地方区分
- 【6】: 日本の地方区分(3)日本の東西南北
- 【7】: 日本の地方区分(4)道州制とは
- 【8】: 関東地方と関東平野(1)首都圏の広がり
- 【9】: 関東地方と関東平野(2)関東地方の発達と形成
- 【10】: 関東地方と関東平野(3)関東平野の自然環境
- 【11】: 江戸から東京へ(行政区画の変遷)
- 【12】: 首都・東京(首都としての東京都)
- 【13】: 埼玉県とさいたま市(埼玉県の成立とその中心地)
- 【14】: 授業のまとめ、補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に新聞やニュースなどにより、地域の出来事に関心を払って欲しい。知らない地名や聞いたことの無い地名があった場合には、地図帳で確認すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する

参考文献 / Readings

正井泰夫・片柳勉 東京圏の環境と生活 二宮書店 2000 9784817601766

正井泰夫 江戸・東京の地図と景観 古今書院 2000 9784772210515

菅野峰明・佐野充・谷内達 編 日本の地誌 5(首都圏 I) 朝倉書店 2009 9784254167658

その他 / Others

当然のことながら、授業中の私語や私事は禁止である。

授業の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。

地図帳を持参すること(二宮書店もしくは帝国書院が望ましい)。

注意事項(検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

生涯学習概論1

Introduction to Lifelong Education 1

宮地 孝宜(MIYACHI TAKAYOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA827
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC409(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

生涯学習の概念、理念や理論について理解する。

生涯学習の内容・方法・形態について理解する。

家庭教育、学校教育、社会教育と生涯学習の関係について理解する。

社会教育の制度、行政、施設、指導者について理解する。

参加型学習の方法を理解し、実践することができる。

Understand the concepts, principles, and theories of lifelong learning.

Understand the content, methods, and forms of lifelong learning.

Understand the relationship between family education, school education, social education, and lifelong learning.

Understand the systems, administration, facilities, and leaders in social education.

Understand and be able to practice participatory learning methods.

授業の内容 / Course Contents

生涯学習に関する基礎的事項、および、社会教育に関わる制度や施設、指導者について学習する。

Learn the fundamental aspects of lifelong learning, as well as the systems, facilities, and educators involved in social education.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:授業ガイダンス
- 【2】:生涯学習とは何か
- 【3】:生涯学習の展開
- 【4】:生涯学習の理念と理論
- 【5】:生涯学習の内容
- 【6】:生涯学習の方法・形態
- 【7】:家庭教育と生涯学習
- 【8】:学校教育と生涯学習
- 【9】:社会教育の制度
- 【10】:社会教育施設
- 【11】:社会教育指導者
- 【12】:参加型学習とファシリテーション
- 【13】:参加型学習の実践
- 【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は別途行います(各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する予定)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への参加状況:30%

テキスト / Textbooks

田中雅文他『テキスト生涯学習一学びがつむぐ新しい社会【新訂2版】』学文社 2020 9784762029660

参考文献 / Readings

適宜、授業中に指示します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコン、タブレット等を持参してください。

注意事項(検索結果画面)

2016年度～2018年度1年次入学者対象

※2019年度以降入学者の科目コードはIC409(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

生涯学習概論2

Introduction to Lifelong Education 2

宮地 孝宜 (MIYACHI TAKAYOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA828
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象 ※2019 年度以降入学者の科目コードは IC410(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)		

授業の目標 / Course Objectives

生涯学習社会における家庭・学校・地域社会の役割と連携・協働について理解する。

生涯学習支援の動向について理解する。

生涯学習に関わる諸課題を理解し、解決策を提案することができる。

生涯学習プランニングの方法を理解し、学習プログラムを立案することができる。

Understand the roles and collaboration among families, schools, and communities in a lifelong learning society.

Understand trends in lifelong learning support.

Understand various issues related to lifelong learning and propose solutions.

Understand methods for lifelong learning planning and develop learning programs.

授業の内容 / Course Contents

生涯学習に関する動向や課題について学習し、それらを踏まえて授業の後半では、生涯学習プランニングの方法について学習する。

Learn about trends and issues in lifelong learning. In the latter half of the course, learn methods for lifelong learning planning.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業ガイダンス
- 【2】: 生涯学習社会における家庭・学校・地域社会の役割と連携・協働
- 【3】: 生涯学習支援の動向
- 【4】: 生涯学習情報提供と学習相談
- 【5】: 地域社会の変化と生涯学習
- 【6】: 高齢者のいざかいと生涯学習
- 【7】: まちづくり(地域づくり)と生涯学習
- 【8】: グローバリゼーションと生涯学習
- 【9】: 生涯学習とボランティア・NPO
- 【10】: 現代的課題と生涯学習
- 【11】: 生涯学習プランニング(1)学習プログラム立案方法の理解
- 【12】: 生涯学習プランニング(2)学習プログラムの立案
- 【13】: 生涯学習プランニング(3)立案した学習プログラムの発表
- 【14】: 授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は別途行います(各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する予定)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への参加状況:30%

テキスト / Textbooks

田中雅文他 『テキスト生涯学習ー学びがつむぐ新しい社会【新訂2版】』 学文社 2020 9784762029660

参考文献 / Readings

適宜、授業中に指示します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコン、タブレット等を持参してください。

注意事項(検索結果画面)

2016年度～2018年度1年次入学者対象

※2019年度以降入学者の科目コードはIC410(科目設置学部はコミュニティ福祉学部)

自然地理学

Physical Geography

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA837
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地球環境と人間活動を理解するために、自然地理学の重要な思考法と基礎知識を身につけることを目標とする。

The goal of this course is to provide students with important thinking and basic knowledge of physical geography in order to understand the global environment and human activities.

授業の内容 / Course Contents

地球環境と人間活動の相互作用に関する話題を紹介する授業を通して自然地理学の基礎的な知識を身につけると共に、我々が生活している地球について考える場とする。とくに身近な自然現象や歴史的な事柄を自然地理学に絡め、環境と人間活動に関する新しい視点を持てるようにする。

This course provides an opportunity to acquire basic knowledge of physical geography and to think about the Earth on which we live by introducing topics related to the interaction between the global environment and human activities. This course is designed to provide students with a new perspective on the environment and human activities by relating familiar natural phenomena and historical events to physical geography.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 自然地理学の考え方
- 【2】: クラシックホテルと火山
- 【3】: 日本は噴火で滅んだことがある
- 【4】: 池袋と志木の間で富士山に登れる
- 【5】: コロッセオはコンクリートで作られている
- 【6】: 京都には洪水になると浮かぶ橋がある
- 【7】: イスラエルにもスキー場がある
- 【8】: アブラハムはなぜハランを通してカナンへ行ったのか
- 【9】: エルサレムには 2700 年前に作られた水道トンネルがある
- 【10】: オレンジとナツメヤシとチーズバーガー
- 【11】: 地球温暖化は人間活動が原因か?
- 【12】: 7 万 4 千年前, 人類は滅びる寸前だった
- 【13】: ハンニバルの象つかい
- 【14】: 赤ずきんちゃんと雪女

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

配付した地図上の作業(色塗り, 計算など)を行う.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて, 事前に調べてくること.

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:30% 授業内で指示した提出物:10%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する. プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする.

参考文献 / Readings

作業に必要な器材(色鉛筆や定規など)については, 授業支援システム上で指示を出す.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

色鉛筆(10 色程度)や定規(15cm 程度)

地理学1

Geography 1

日本列島の生い立ちと自然環境を学ぶ

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA840
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

日本列島における地形・水文・気候といった自然環境と、そこで生活する人々との関わりを理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the relationship between the natural environment of the Japanese Islands, including topography, hydrology, and climate, and the people who live there.

授業の内容 / Course Contents

日本列島を取り巻く自然環境と人間の相互作用について、地球規模から地域レベルまでの空間スケールを交えて講義する。パワーポイントや Google Earth などを用い、ビジュアルな授業を行う。また、理解を深めるために一部地図を用いた作業も行う。参加者と資料から読み取れる地理学的な事象についての議論も取り入れる。

The lecture will focus on the interaction between humans and the natural environment surrounding the Japanese archipelago, using spatial scales from the global to the regional level. Visual lectures will be given using PowerPoint and Google Earth. Some work will be done using maps to deepen understanding. Discussions with participants on geographic events that can be read from the materials will be included.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 本授業のねらい
- 【2】: 地図の塗り絵をしてみよう
- 【3】: 地図の塗り絵から読み取る暮らしの歴史
- 【4】: 土地の成り立ちと人びとの暮らし
- 【5】: ダイダラボッチの足跡
- 【6】: 東京激坂物語
- 【7】: 日本はどこでも火山と地震が多いのか
- 【8】: 7000 万年後にハワイは日本にぶつかる?
- 【9】: 2 万年前の東京湾は川だった
- 【10】: ら: 「雷と空風 義理人情」
- 【11】: 本日、関ヶ原付近の雪により新幹線が遅延しています
- 【12】: 106 時間 21 分遅れの急行列車←日本の最高記録だそうです
- 【13】: なんで今日も西高東低なの?
- 【14】: 四季って本当に四季なんだろうか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

配付した地図上の作業(色塗り, 計算など)を行う.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて, 事前に調べてくること.

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 中間テスト:30% リアクションペーパー:20%

中間テストは授業支援システムを用いて実施する.

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する. プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

色鉛筆(10 色程度)や定規(15cm 程度)

その他 / Others

作業に必要な器材(色鉛筆や定規など)については, 授業支援システム上で指示を出す.

注意事項(検索結果画面)

2019 年度以降入学者対象

地理学2

Geography 2

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA841
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

地図に関する歴史を紹介し、地図を使った様々な分析手法について学ぶ。

Introduce the history of maps and learn about various analytical methods using maps.

授業の内容 / Course Contents

講義に加えて、地図を使った作業を行う。

In addition to the lecture, work with the map

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:授業ガイダンス:地理情報科学とはなにか
- 【2】:地理的世界の表現法:紙の地図とデジタルマップ
- 【3】:日本における地図の歴史:最古の日本地図『行基図』1
- 【4】:日本における地図の歴史:最古の日本地図『行基図』2
- 【5】:日本における地図の歴史:江戸時代の地図 1
- 【6】:日本における地図の歴史:江戸時代の地図 2
- 【7】:日本における地図の歴史:伊能忠敬の日本地図
- 【8】:地理的データの取得方法:地図上の計測
- 【9】:見えないものを地図にする:コロプレスマップの作成
- 【10】:小学校区は適切か:ボロノイ分割による空間分割
- 【11】:お客は何人見込めるか:面積按分による人口推定
- 【12】:クリニックの多い場所はどこか:格子法による点パターン分析
- 【13】:小学校とクリニックに関係はあるのか:平均最短距離法による点パターン分析
- 【14】:混ざっている? 混ざっていない? :Join 統計量による空間的自己相関

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

配付した地図上の作業(色塗り, 計算など)を行う。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて、事前に調べてくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:30% 授業への貢献:20%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する. プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

色鉛筆(10色程度)や定規(15cm程度)

その他 / Others

作業に必要な器材(色鉛筆や定規など)については, 授業支援システム上で指示を出す.

注意事項(検索結果画面)

2019年度以降入学対象

日本史1

Japanese History 1

高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA842
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

幕末・維新时期からアジア・太平洋戦争に至るまでの日本近代の歴史を、日本型(天皇制)国民国家の展開として捉えて、その流れについて確認する。具体的には、社会的な視座から「国民化と臣民化のせめぎあい」として概観する。歴史学的手法による日本社会の展開と特質を理解する知識を身につける。とはいえ、単なる事項の時系列的暗記ではなく、「歴史と対話をしながら現状認識を豊かにする」という歴史的思考方法を身につけるようにする。

The history of modern Japan from the end of the Tokugawa shogunate and the Restoration period to the Asia-Pacific War is viewed as the development of a Japan-style (emperor system) nation-state, and the flow of this process is confirmed. Specifically, from a socio-historical perspective, it is reviewed as a "struggle between nationalization and subjectization." Acquire the knowledge to understand the development and characteristics of Japan society using historical methods. However, rather than merely memorizing matters chronologically, students will acquire a historical way of thinking that enriches their understanding of the current situation through dialogue with history.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、幕末・維新时期から維新改革をめぐる近代国家形成の動き、帝国憲法発布から憲政の常道に至る帝国憲法体制の成立に至る動き、対外戦争による植民地帝国の形成など、様々な「成立と展開」の過程を追うことで、複合的な歴史の流れをおっていく。日本近代史像は天皇制国家または国民国家と捉えることが出来るが、本講義では近代史を「国民化」と「臣民化」のせめぎあいという枠組み、または、近代秩序の成立と展開に注目して考える(近代秩序の問題として、性規範(ジェンダー／セクシュアリティ)についても取り扱う)。授業の流れや学生の関心によって授業計画内容の変更もありうる。

In this lecture, we will follow the flow of a complex history by following various "establishment and development" processes such as the movement of the formation of a modern state for restoration reform from the end of the Tokugawa shogunate and the Restoration period, the movement from the promulgation of the Imperial Constitution to the establishment of the imperial constitution system from the ordinary road of constitutional government, and the formation of a colonial empire by foreign war. The image of modern Japanese history can be regarded as a tenno-based state(Emperor system nation) or a nation-state, but in this lecture, modern history is considered in the framework of "nationalization" and "subjectification". There may be changes in the content of the class plan depending on the flow of the class and the interest of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス。「歴史の見方・考え方」について考える
- 【2】: 近代社会の特徴について考える
- 【3】: 日本近代史の史学史的振り返りと日本型国民国家について
- 【4】: 幕末維新期の諸相
- 【5】: 国境から近代を考える

- 【6】:大日本帝国憲法の成立
- 【7】:日清・日露戦争と日本社会の変容
- 【8】:近代社会と軍隊
- 【9】:大衆化の進展
- 【10】:植民地社会を考える
- 【11】:大正デモクラシーの崩壊-1930年代の日本社会
- 【12】:日本における福祉国家の形成
- 【13】:日中戦争からアジア・太平洋戦争に至る動き
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 【予習】配信される資料をもとに内容確認などをする。
- 【復習】授業を受けて興味を持った点/知らなかった点を中心に調べる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 授業内で指示した課題:30% 中間レポート:35% 学期末レポート(授業内容を確認する試験的レポート):35%

テキスト / Textbooks

特になし(授業時に文献リストを配布)

参考文献 / Readings

三谷太一郎 日本の近代とは何であったのか 岩波書店 2017年 9784004316503
 坂野潤治 日本近代史 筑摩書房 2012年 97844800664283
 成田龍一 近現代日本史と歴史学 中央公論新社 2012年 9784121021502
 牧原憲夫編 <私>にとっての国民国家論 日本経済評論社 2003年 4818815055
 松沢裕作 日本近代社会史 有斐閣 2022年 9784641174757
 山内昌之・細谷雄一編 日本近現代史講義 中央公論新社 2019年 9784121025548
 大門正克・安田常雄・天野正子 近代社会を生きる 吉川弘文館 2003年 4642079238
 該当する時期を扱った歴史書を含め、歴史学を考える文献も挙げているので、履修する／しないは別にして、日本史2の文献にも目を通してほしい。

その他 / Others

板書を中心にした授業である。資料の配布や課題のやり取りは Canvas LMS を使用する予定である。歴史は暗記科目とされているが、歴史を通して「正解のない問いを考える」姿勢を身に着けることを考えている。よって、積極的な発言も歓迎だが、授業を通して、真摯に内省する姿勢(自己内対話)もアクティブラーニングの一種と考えているので、こうした姿勢を養う気持ちをもって授業に臨んでほしい。

課題回答への講評をおこなう。

注意事項(検索結果画面)

2019年度以降入学対象

日本史2

Japanese History 2

高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA843
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

アジア・太平洋戦争以降の日本現代史につき、社会史の視座を通して概観する。日本現代史の枠組みを押さえつつ、東アジア現代史の特徴も加味しながら、日本現代史の理解を深めていく。

日本史 1 と同じく、単なる事項の時系列的暗記ではなく、「歴史と対話をしながら現状認識を豊かにする」という歴史的思考方法を身につけるようにする。

This course provides an overview of Japan's contemporary history since the Asia-Pacific War from the perspectives of social history. While grasping the framework of Japan's contemporary history, we will deepen our understanding of Japan's contemporary history while also taking into account the characteristics of contemporary East Asian history. As in Japanese history 1, try to find a historical way of thinking that "enriches awareness of the current situation while interacting with history," rather than simply memorizing matters in chronological order.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、大日本帝国時代の日本の近現代史について、帝国の崩壊過程、すなわち、中国大陆への膨張政策を契機に列強との協調関係を崩壊させ、アジア太平洋戦争へと突入し、敗戦に至る 1930 年代から 40 年代の動向及び戦後社会の展開を確認していく。現代史を総力戦体制の遺産の問題として考える。また、現代史を「個人の人權の尊重」(自由)と「滅私奉公」(秩序)のせめぎあいという枠組みで考えてみる。授業では、日本史 1 に引き続き性規範の問題、東アジア現代史の中の戦後日本、戦争観の問題なども扱う。授業の流れや学生の関心によって授業計画の内容の変更もありうる。

In this lecture, we will examine the modern history of Japan during the period of the Empire of Japan, the process of the collapse of the empire, that is, the collapse of cooperative relations with the great powers triggered by the policy of expansion into mainland China, the Asia-Pacific War, and the trends of the 1930s and 40s leading to the defeat of the war, and the development of postwar society. Consider modern history as a legacy of the total war system. In addition, we will consider contemporary history in the framework of the struggle between "respect for the human rights of the individual" (freedom) and "selfless servitude" (order). In the course, following on from Japan History 1, the course also deals with issues of gender norms, postwar Japan in the context of contemporary East Asian history, and issues of views on war. The content of the lesson plan may change depending on the flow of the class and the interests of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(講義内容、成績評価など)及び歴史の見方・考え方
- 【2】: 近代史の枠組みの再確認及び満州事変以降の展開
- 【3】: 戦時下の植民地社会
- 【4】: 総力戦体制化の社会
- 【5】: 占領と日本国憲法の制定
- 【6】: 戦後東アジア社会の形成

- 【7】:戦前と戦後の日本社会―持続と変容―
 【8】:冷戦社会論―アメリカ統治下の沖縄を事例に
 【9】:高度成長の時代
 【10】:「豊かな」暮らしと「公害」列島
 【11】:戦跡と戦争観をめぐる問題
 【12】:ジェンダーの現代史
 【13】:地域の現代史
 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- 【予習】配信される資料をもとに内容確認などをする。
 【復習】授業を受けて興味を持った点/知らなかった点を中心に調べる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示した課題:30% 中間レポート:35% 学期末レポート(授業内容を確認する試験的レポート):35%

問題行動が目立つと減点という措置もありうる。

テキスト / Textbooks

とくに指定せず、講義時に適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

大門正克 戦争と戦後を生きる(全集日本の歴史 15) 小学館 2009 年 9784096221150

鹿野政直 日本の現代(日本の歴史9) 岩波書店 2000 年 9784005003396

福間良明 「戦跡」の戦後史 岩波書店 2015 年 9784000291729

丸川哲史 冷戦文化論 論創社 2020 年 9784846019389

山崎雅弘 歴史戦と思想戦 集英社 2019 年 9784087210781

山之内靖 総力戦体制 筑摩書房 2015 年 9784480096494

大門正克・安田常雄・天野正子 戦後経験を生きる 吉川弘文館 2003 年 4642079246

該当する時期を扱った歴史書を含め、歴史学を考える文献も挙げているので、履修していなくても、日本史 1 の文献にも目を通してほしい。

その他 / Others

板書を中心にした授業である。資料の配布や課題のやり取りは Canvas LMS を使用する予定である。歴史は暗記科目とされているが、歴史を通して「正解のない問いを考える」姿勢を身に着けることを考えている。よって、積極的な発言も歓迎だが、授業を通して、真摯に内省する姿勢(自己内対話)もアクティブラーニングの一種と考えているので、こうした姿勢を養う気持ちをもって授業に臨んでほしい。

課題回答への講評をおこなう。

注意事項(検索結果画面)

2019 年度以降入学対象

外国史1

World History 1

三王 昌代(SAN-O MASAYO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA844
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

世界を広く眺め、諸地域は互いに関連しあいながらつくられてきていることに着目し、説明できる。

Broadening outlooks on the world, and recognizing that its regions are interconnected.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、世界の諸地域・諸民族の歴史や文化などについて、様々な繋がりが見られる具体的な事例を文字資料・写真・映像資料を交えながら紹介していきます。

In this lecture, we will introduce concrete examples showing these various connections between the histories and cultures of the regions and ethnic groups of the world, using textual sources, photographs and video materials.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 世界の見方考え方
- 【2】: 食物の歴史
- 【3】: 感染症の歴史
- 【4】: 世界遺産から歴史・地理を眺めてみよう: 中南米
- 【5】: 世界のおもな宗教
- 【6】: 世界のおもな宗教
- 【7】: 世界遺産から歴史・地理を眺めてみよう: アジア
- 【8】: 13 世紀～15 世紀の海域アジア
- 【9】: 中東と日本
- 【10】: アフリカ・ヨーロッパ・アジア
- 【11】: 近隣諸国との歴史
- 【12】: 世界の先住民族
- 【13】: 世界の先住民族
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

[復習]

授業中にとったメモを整理し、授業資料とともにファイリングしてみましょう。

配布した授業資料をもとに講義の振り返ってみてください。

授業中に紹介したものやご自身が興味や関心をもった内容などについて関連する本や論文を読んだり、インターネットなどを用いて調べたりして、さらに理解を深め、毎時後の提出物や期末レポートに生かしていただければと存じます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー等授業内に指示した提出物:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に参考文献を紹介いたします。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料などを適宜活用します。

注意事項(検索結果画面)

2019 年度以降入学者対象

外国史2

World History 2
イギリス帝国史

鹿野 美枝 (SHIKANO MIE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA845
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

近代以降のイギリス帝国の歴史を通じて、イギリス近代史および帝国史の基礎知識を学ぶ。イギリス帝国を中心とした講義内容から、現代日本に生きるうえで歴史学的知見の意義を考える。

帝国の多様な側面を扱うが、詳細な個別の事例だけにとらわれず、細部とともに全体像も把握できるようにする。

Through the history of the British Empire since the modern era, we will study basic knowledge of modern British and imperial history. The content of this lecture is focused on the British Empire, with consideration of the significance of historical findings on life in modern Japan.

Dealing with the multiple dimensions of empire, try to get a grasp of a big picture, without being confined to detailed individual cases.

授業の内容 / Course Contents

主に近世以降のイギリス帝国について講義形式で学ぶ。イギリス帝国を知るために、必要に応じてイギリス本国の歴史や古代・中近世まで遡って解説することもある。イギリス近現代史を軸に、主要な植民地などを具体的に取り上げ、帝国の多様性や多層性などを学ぶ。また、政治・社会・経済など多角的にアプローチしてゆく。

Learning is mainly in the form of lectures on the British Empire since early modern period. In order to understand the British Empire, it may sometimes be necessary to return to the history of Britain in ancient times, as well as to the middle-ages. Centering on the modern and contemporary history of Britain, examining examples of major colonies, we will study the diverse and multifaceted nature of empire. In addition, we will approach politics, society and economics from multiple angles.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: イギリス史を学ぶ
- 【2】: 海外貿易の発展と帝国の起源
- 【3】: 帝国の形成とイギリス近代国家の歩み
- 【4】: ブリテン諸島①スコットランド
- 【5】: ブリテン諸島②アイルランド
- 【6】: 北米植民地①西インドと 13 植民地
- 【7】: 北米植民地②カナダ
- 【8】: 白人移住植民地
- 【9】: インド植民地
- 【10】: インド帝国とアジア
- 【11】: 大西洋貿易と消費社会
- 【12】: アフリカ植民地

- 【13】:帝国の文化、芸術
 【14】:コモンウェルス、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

世界史などの基礎知識については、授業内で適宜紹介する概説書や辞書・事典類等を用いて確認すること。授業内で、個別テーマに関する参考文献を紹介するので、関心のあるトピックについて各自で深く学んでほしい。また、文学作品やドラマ・映画といった映像作品も紹介する。これらを各回のテーマにあわせ予習・復習すること(各回それぞれ2時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート(リアクションペーパー):40%

2/3 以上の出席をしていない場合には単位修得不可。コメントシートは、自身の考えや意見を表現できているかを評価する。

テキスト / Textbooks

教科書は使用せず、毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考文献 / Readings

川北稔、木畑洋一編『イギリスの歴史:帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣 2000 4641121052

全体にかかわわる主要参考文献は初回授業で、その他について授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

高校で学習する世界史の知識があることが望ましいが、そうでない場合は授業内で紹介する概説書等をもちいて予習することで補うこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメないし PowerPoint スライド表示を用いた講義となるが、適宜板書を用いることもある。これらの資料の配布およびコメントシートの回収は CanvasLMS を使用する(必ずしも教場に PC 等を持参する必要はない)。

その他 / Others

受講生の関心や授業の進行状況により授業計画は若干調整することもある。

注意事項(検索結果画面)

2019 年度以降入学者対象

地誌学

Regional Geography

亀井 啓一郎 (KAMEI KEIICHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA846
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

地理学的・地誌学的な見方・考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」や「地誌」の知識や教養を身に付けることを目的とする。また、地図を正しく読むことができるようになり、地域のことを正しく理解できるような素養を身に付ける。

The purpose of this course is to acquire knowledge and education of Geography and Regional Geography as general knowledge, and to learn how to think geographically. Students will also be able to understand maps accurately and have an accurate understanding of the region.

授業の内容 / Course Contents

この授業は日本の地誌をテーマとする。授業ではまず地理学と地誌学の関係性、地域の見方について講義する。続いて日本の領土・領海、さまざまな日本の地方区分、関東地方と首都圏、江戸・東京の行政区画の変遷、埼玉県の成立に関する講義を行う。

This course will focus on the Regional Geography of Japan. We will first give a lecture on the relationship between Geography and Regional Geography, and how to understand regions. Next, lectures will be given on the territory of Japan, various regional divisions of Japan, the Kanto region and the Tokyo metropolitan area, and Edo / Tokyo.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業のガイダンス
- 【2】: 地理学と地誌学(地誌学的な見方とは)
- 【3】: 日本の位置と領域(領土・領海・領空)
- 【4】: 日本の地方区分(1) 現在の地方区分
- 【5】: 日本の地方区分(2) 昔の地方区分
- 【6】: 日本の地方区分(3) 日本の東西南北
- 【7】: 日本の地方区分(4) 道州制とは
- 【8】: 関東地方と関東平野(1) 首都圏の広がり
- 【9】: 関東地方と関東平野(2) 関東地方の発達と形成
- 【10】: 関東地方と関東平野(3) 関東平野の自然環境
- 【11】: 江戸から東京へ(行政区画の変遷)
- 【12】: 首都・東京(首都としての東京都)
- 【13】: 埼玉県とさいたま市(埼玉県の成立とその中心地)
- 【14】: 授業のまとめ、補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に新聞やニュースなどにより、地域の出来事に関心を払って欲しい。知らない地名や聞いたことの無い地名があった場合には、地図帳で確認すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する

参考文献 / Readings

正井泰夫・片柳勉 東京圏の環境と生活 二宮書店 2000 9784817601766

正井泰夫 江戸・東京の地図と景観 古今書院 2000 9784772210515

菅野峰明・佐野充・谷内達 編 日本の地誌 5(首都圏 I) 朝倉書店 2009 9784254167658

その他 / Others

当然のことながら、授業中の私語や私事は禁止である。

授業の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。

地図帳を持参すること(二宮書店もしくは帝国書院が望ましい)。

注意事項(検索結果画面)

2019 年度以降入学者対象

哲学

Philosophy

哲学入門と観光倫理学

加藤 喜市(KATO KIICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA847
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

(1) 哲学史・倫理思想史上のさまざまな学説・考え方に触れることで、「哲学」・「倫理学」という学問に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。(2) 課題に取り組むことを通して、哲学的／倫理的な思考の方法と学術的な文章の書き方を身につける。

(1) Touching on the various theories and ideas in the history of philosophy and ethical thought, students will deepen their basic knowledge in the disciplines of "philosophy" and "ethics".

(2) Students will acquire philosophical / ethical thinking methods, as well as academic writing methods, mainly through the completion of small exercises.

授業の内容 / Course Contents

今年度は「哲学入門」と「観光倫理学」という二つのテーマで講義を行ないます。

まず前半は、「哲学」という学問にはじめて触れる学生を主な対象として、古代から現代に至る哲学史における主要な議論を紹介していきます。ソクラテス、カント、ニーチェ、西田幾多郎など、おそらくみなさんも聞いたことのある有名な哲学者たちが登場します。

後半のテーマは、然るべき観光のあり方を探る新しい学問である「観光倫理学」です。倫理学の代表的な理論を確認した後、「環境倫理」「ビジネス倫理」などの応用倫理学の問題を観光という視点から検討するとともに、「世界観光倫理憲章」といった観光に固有の倫理規範についても扱います。

担当者の関心もあり、講義では、アニメや漫画、ゲーム、音楽などのサブカルチャーへしばしば言及します。哲学・倫理学への関心をもつきっかけにして欲しいと思っています。

This year, we will be giving lectures on two themes: "Introduction to Philosophy" and "Tourism Ethics".

The first half of the lecture will introduce major debates in the history of philosophy from ancient to modern times, mainly for students who are new to the study of philosophy. Famous philosophers such as Socrates, Kant, Nietzsche, and Kitaro Nishida, whom you have probably heard of, will appear.

The theme of the latter half of the lecture is "Tourism Ethics," a new discipline that explores the ideal form of tourism. After reviewing the major theories of ethics, issues of applied ethics such as "environmental ethics" and "business ethics" will be examined from the perspective of tourism, and ethical codes specific to tourism such as the "Global Code of Ethics for Tourism" will also be discussed.

The lectures often refer to subcultures such as anime, manga, video games, and music, which are also of interest to the instructor. I hope that this will spark an interest in philosophy and ethics.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 哲学・倫理学への導入

【2】: 古代ギリシア哲学(ソクラテス・プラトン・アリストテレス)

- 【3】: 中世キリスト教思想(アウグスティヌス・トマス)
- 【4】: 近世哲学(デカルト・ヒューム・カント)
- 【5】: 現代哲学(ニーチェ・ハイデガー・フーコー)
- 【6】: 日本哲学(西田幾多郎・和辻哲郎)
- 【7】: 倫理学1(義務論・功利主義・徳倫理学)
- 【8】: 倫理学2(正義論・ケアの倫理)
- 【9】: 観光倫理学と観光の倫理(フェネルとマキャーネル)
- 【10】: 観光とビジネス倫理(観光産業の倫理的課題)
- 【11】: 観光と環境倫理(エコツーリズム)
- 【12】: 観光と公衆衛生倫理(観光者の旅する権利)
- 【13】: 「世界観光倫理憲章」と観光倫理教育(観光における倫理規範)
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

・板書やパワポによるレジュメの解説がメインです。学期中少なくとも数回は、関心を広げてもらうために、映像資料や音楽資料を視聴する機会を設けたいと考えています。

・受講者数が比較的少ない場合、授業に文献資料の講読(+ディスカッション)を取り入れる可能性があります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

基本的には予習よりも復習に重点を置かれると良いでしょう。プリントの見直し、参考文献を調べるなど、各自で復習してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 毎授業へのコメント(リアクションペーパー):20% 授業内の課題:20%

出席およびコメントの提出が10回に満たない方には、単位を差上げることができません。

テキスト / Textbooks

テキスト(教科書)は指定しません。毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献 / Readings

岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波新書 2003 9784005004416

神崎宣次・佐藤静・寺本剛編 3ステップシリーズ『倫理学』昭和堂 2023 9784812222188

Fennell, D. Tourism Ethics (Aspects of Tourism) second edition Channel View Books 2017 9781845416355

その他 / Others

・観光学部設置科目ですが、他学部の学生の受講も歓迎します。

・ただし、静かに集中して講義を聞くことができない方は、受講をご遠慮ください(私語厳禁)。

・学生の希望を取り入れて、講義内容を多少変更する可能性があります。

注意事項(検索結果画面)

2019年度以降入学者対象

観光ビジネス概論

Introduction to Tourism Business

観光ビジネス各業界の OB・OG から「観光の現場」を学ぶ

関口 伸一 (SEKIGUCHI SHINICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA901
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	立教観光クラブ 寄付講座		

授業の目標 / Course Objectives

日本の観光産業の現状や課題と今後の方向性について、現場で活躍するゲストスピーカーの方々から学ぶことを通じて、観光産業の職業の多様性と、そこで働くことの意義について理解する。

By studying the current situation and issues of Japan's tourism industries, and future direction from guest speakers active in the field, we will understand the variety of occupations within tourism, and the significance of working there.

授業の内容 / Course Contents

授業は講義とディスカッションを組み合わせで行う。講義は毎時間観光関連産業で活躍する校友(立教観光クラブ所属)をゲストスピーカーとして招き、現場の最新動向及びゲスト自身の実務や、観光業界で働くことに対する考えや学生へのメッセージなどに関する講義を受けたのちに質疑の時間をとる。ディスカッションは講義内容に関係したテーマを設定して行う。

The class combines lectures and discussions. In this lecture, a guest speaker alumni (affiliated with Rikkyo Tourism Club) active in the tourism industry will be invited to introduce the latest trends in the field and in their work, as well as thoughts on working in the tourism industry, advice to students etc. with a Q&A to follow. Discussions will be conducted on themes determined by the lecture content.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:観光ビジネスの基礎(ロジカルシンキング/マーケティング/ホスピタリティ)
- 【3】:宿泊業1(ホテル)
- 【4】:宿泊業2(旅館)
- 【5】:宿泊業3(リゾート)
- 【6】:交通業1(鉄道)
- 【7】:交通業2(航空)
- 【8】:旅行業1(カウンターセールス)
- 【9】:旅行業2(メディアセールス)
- 【10】:旅行業3(アウトセールス)
- 【11】:観光関連事業1(インバウンド促進)
- 【12】:観光関連事業2(ガイドブック・観光情報)
- 【13】:これからの観光産業
- 【14】:観光ビジネスに関するディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃より観光産業の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。またディスカッションの回に際しては、それまでの講義内容を確認し復習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加状況:50% 毎時間の課題レポート:50%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用せず、講義時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

適宜講義資料に付記する。

その他 / Others

観光産業への進路を考えている学生さんへのサポートとなることを願って、講義を進めていきます。

観光ビジネスプロジェクトA

Project Planning Practice in Tourism A

ビジネスプラン作成を通じて経営学を学び、ビジネスの基本とコンサルティング能力、社会人基礎力、実践力を身につけ、即戦力ビジネスパーソンを目指す。

那須 一貴 (NASU KAZUTAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA902
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目		

授業の目標 / Course Objectives

観光産業における企画力、マネジメント力を備えた即戦力ビジネスパーソンを育成するために、新規事業プランの立案を通じてビジネス現場で求められる基礎的能力を養成することを目標とする。

With the aim of developing battle-ready business people, cultivating the basic skills necessary for business, gaining the planning and management capabilities used in the tourism industry through the creation of new business plans.

授業の内容 / Course Contents

本講義は観光ビジネスプロジェクト B とセットで履修する必要がある。

観光産業に関する新規事業計画の立案を通じて、サービスデザイン手法・マーケティング・経営戦略・財務会計の基礎を学習する。本講義では新規事業計画策定のうち、外部環境分析から事業構想の構築までを行う。講義内でも中間発表会やグループワークを適宜行い、プレゼンテーション能力の育成とプロジェクトの進捗管理を実施する。1 チーム5~6人で編成されるプロジェクトチームでのグループ演習を中心に行う。春学期に1回、土曜日を使ってゲストスピーカーに対して新規事業構想に関するプレゼンテーションを実施する予定である(ただしこれは土曜日開催なので成績評価には含まない)。

This course should be taken in conjunction with Project Planning Practice in Tourism B.

Students will learn the basics of marketing, management strategy and financial accounting through the design of new business plans for the tourism industry. In this lecture, in the formulation of new business plans, business concepts will be analyzed from the external environment. During class, intermediate presentations and group work will take place as appropriate, to foster presentation skills and manage project progress. Project teams of 5 to 6 students will focus on group seminars. At the end of the spring semester, we plan to hold a presentation on the new business concept with a guest speaker.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、問題解決技法: ビジネス的発想方法の基礎
- 【2】: 事業計画策定手法、サービスデザインについて、外部環境分析、企業分析、解決すべき課題の明確化
- 【3】: 演習(1): 外部環境分析、企業分析、解決すべき課題の明確化
- 【4】: 演習(2): 外部環境分析、企業分析、解決すべき課題の明確化
- 【5】: プレゼンテーションとディスカッション: 外部環境分析、企業分析、解決すべき課題
- 【6】: マーケティングの基礎、課題解決に向けた体験のデザイン方法とバリュープロポジションマップの作成
- 【7】: 演習: ターゲットとなるペルソナの策定
- 【8】: プレゼンテーションとディスカッション: ターゲットとなるペルソナについて

- 【9】: 演習(1): バリュープロポジションマップの策定 その1
 【10】: 演習(2): バリュープロポジションマップの策定 その2
 【11】: プレゼンテーションとディスカッション: バリュープロポジションマップについて
 【12】: 演習: 新規事業、新規サービスプランの整理
 【13】: 中間報告に向けたプレゼンテーションの準備
 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進捗をペースメーカーとして、各チームで授業時間外にグループワークを実施して事業プランを作成することとなる。グループワークに対するアドバイスについては、個別に授業内で行っていき、受講生の要望に応じて担当教員がグループワークに参加することもできる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ビジネスプラン案の内容:40% 講義への参加態度:20% 最終レポート割合::40%

期末に受講生から自己評価ペーパーを提出していただきます。自己評価ペーパーには授業以外の時間での取り組み状況について記入していただきます。

テキスト / Textbooks

那須一貴『大学生のためのビジネスプランの作り方』ビジネス実用社 2025 9784910911304

参考文献 / Readings

那須一貴『ビジネス入門[第二版]』創成社 2024 9784794426222

武山政直『サービスデザインの教科書』NTT出版 2020 9784757123656

廣田章光・布施匡章他『DX時代のサービスデザイン』丸善出版 2021 9784621306055

これまでマーケティングや経営について学んでいない受講生は、「ビジネス入門 第二版」を読んでおくこと。サービスデザインに関する文献は、グループワークをする際に内容を確認しながらおこなうと、より一層理解を深めることができる。

その他 / Others

本講義は演習型講義です。そのため授業への遅刻や無断欠席、履修の途中辞退は他のメンバーに迷惑がかかりますので許されません。観光ビジネスプロジェクトAの履修者は、原則として観光ビジネスプロジェクトBへ自動登録されます。学期中の土曜日に1回、協力企業に対するプレゼンテーションをおこないます。ただし、これは土曜日開催なので成績評価には含まれません。

新規事業プラン作りは大変ですが、これをやり遂げると達成感とともにコミュニケーションスキルや責任感、プレゼンテーション能力など社会人に求められる基礎力について、自分自身の大きな成長を実感できるはずです。また経営コンサルティングの基本的スキルを身に付けることを目標とします。

遅刻・欠席が多く授業への参加態度が本講義に相応しくない学生や、グループワークに対する積極的な参加が認められない学生に対しては、履修中止を勧告いたします。高い意欲と覚悟をもって、本講義を履修してください。

注意事項(検索結果画面)

人数制限科目(24名)/2019年度以前 観光学部入学者 学部共通科目/2020年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

観光ビジネスプロジェクトB

Project Planning Practice in Tourism B

ビジネスプラン作成を通じて経営学を学び、社会人基礎力と実践力を身につけ、即戦力ビジネスパーソンを目指す。

那須 一貴 (NASU KAZUTAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA903
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目		

授業の目標 / Course Objectives

観光産業における企画力、マネジメント力を備えた即戦力ビジネスパーソンを育成するために、新規事業プランの立案を通じてビジネス現場で求められる基礎的能力を養成することを目標とする。

With the aim of developing battle-ready business people, cultivating the basic skills necessary for business, gaining the planning and management capabilities used in the tourism industry through the creation of new business plans.

授業の内容 / Course Contents

本講義は観光ビジネスプロジェクト A とセットで履修する必要がある。本講義で観光ビジネスプロジェクト A で立案した新規事業構想に基づき、サービスデザインの考え方をを用いて財務会計、投資評価、資金調達計画を策定し、事業計画を完成させる。

観光産業に関する新規事業計画の立案を通じて、マーケティング・経営戦略・財務会計の基礎を学習する。1 チーム5〜6人で編成されるプロジェクトチームでのグループ演習を中心に行う。講義期間中にゲストスピーカーに対する新規事業に関する報告会を実施する予定である(ただし、報告会は土曜日開催なので成績評価には含まれない)。

This course should be taken in conjunction with Project Planning Practice in Tourism A. Based on the new business concept developed in Project Planning Practice in Tourism A, this lecture will cover financial accounting, investment evaluation, fund raising plans, and completing business plans.

Students will learn the basics of marketing, management strategy and financial accounting through the design of new business plans for the tourism industry. Project teams of 5 to 6 students will focus on group seminars. During the lecture term, we plan to have students present twice in an interim and final reports on the new business plan to the guest speakers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:顧客体験とカスタマージャーニーマップ、ストーリーマッピングについて
- 【2】:演習(1):カスタマージャーニーマップとストーリーマッピングの作成 その1
- 【3】:演習(2):カスタマージャーニーマップとストーリーマッピングの作成 その2
- 【4】:プレゼンテーションとディスカッション:カスタマージャーニーマップとストーリーマッピング
- 【5】:サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 【6】:演習(1):サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 【7】:演習(2):サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 【8】:演習(3):サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 【9】:プレゼンテーションとディスカッション:サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて

- 【10】:売上計画、費用計画、投資計画の立案について
 【11】:演習(1):売上計画、費用計画、投資計画の策定
 【12】:演習(2):売上計画、費用計画、投資計画の策定
 【13】:演習(3):事業計画発表会(最終プレゼンテーション)に向けた準備
 【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進捗をペースメーカーとして、各チームごとに授業時間外にグループワークをおこなって事業計画を完成させる必要がある。受講生の要望に応じて、授業時間外のグループワークに担当教員が参加することもできる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ビジネスプランの内容:40% 講義での発言、参加態度:20% 最終レポート割合::40%

期末に受講生に自己評価ペーパーを提出していただきます。自己評価ペーパーには、授業時間以外での取り組み状況について記入していただきます。

テキスト / Textbooks

那須一貴 『大学生のためのビジネスプランの作り方』 ビジネス実用社 2025 9784910911304

参考文献 / Readings

那須一貴 『ビジネス入門[第二版]』 創成社 2024 9784794426222

武山政直 『サービスデザインの教科書』 NTT 出版 2020 9784757123656

廣田章光・布施匡章他 『DX時代のサービスデザイン』 丸善出版 2021 9784621306055

これまでマーケティングや経営について学んでいない受講生は、「ビジネス入門[第二版]」を読んでおくこと。サービスデザインに関する文献は、グループワークをする際に内容を確認しながらおこなうと、より一層理解を深めることができる。

その他 / Others

本講義は演習型講義です。そのため講義への遅刻や無断欠席、履修の途中辞退は他のメンバーに迷惑がかかりますので許されません。観光ビジネスプロジェクトAの履修者は、原則として観光ビジネスプロジェクトBへ自動登録されます。学期中の土曜日に協力企業に対するプレゼンテーションをおこないます。報告会は土曜日開催なので成績評価には含まれません。

新規事業プラン作りは大変ですが、これをやり遂げると達成感とともにコミュニケーションスキルや責任感、プレゼンテーション能力など社会人に求められる基礎力について、自分自身の大きな成長を実感できるはずです。また経営コンサルティングの基本的スキルを身に付けることを目標とします。

遅刻・欠席が多く授業への参加態度が本講義に相応しくない学生や、グループワークに対する積極的な参加が認められない学生に対しては、履修中止を勧告いたします。高い意欲と覚悟をもって、本講義を履修してください。

注意事項(検索結果画面)

2019年度以前 観光学部入学者 学部共通科目／2020年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

交通産業特論

Special Lecture on Transportation Industry
エアラインビジネス/サービス特論

松山 豊浩(MATSUYAMA TOYOHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA939
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	株式会社 ANA 総合研究所寄付講座		

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、観光産業の一つである航空産業(エアラインビジネス/サービス)をグローバルな視点から取り上げ、ビジネスやサービスの全体像を学びます。またその過程で、社会全般で通用する一般的な企業マネジメントやビジネススキルのヒントの修得も目指します。

"In this course, as one of the tourism industries, the aviation industry (= airline business) will be focused on from a global perspective, studying the contents of its entire business.

Furthermore, through the process of the lectures, not limited to the airline business only, but also acquiring the general theory of corporate administration and/or skill applicable to overall business management shall be aimed."

授業の内容 / Course Contents

この講義では、エアラインビジネスやサービスの実務、および、国際航空を中心として世界的に熾烈な競争下で生き残るために検討・立案された多様な戦略を学びます。航空会社に特有のネットワーク/アライアンス戦略、FFP/プラットフォーム戦略、商品/ブランド戦略、CS/CX 戦略、LCC 展開をはじめ、近年の SDGs 推進/地球環境対応/先進技術活用など、ビジネス全般にも通ずるマネジメント戦略の考え方や実践的な知識等も学びます。

"In this course, the airline business practices, as well as various strategies and action plans adopted mainly in the international air transport sector to survive the severe competition on a worldwide scale shall be studied.

Included are strategies, particular to the airlines, concerning Alliances/Network, Revenue Management/Frequent Flyer Program (= FFP), Customer Satisfaction (= CS), products/brand, and in addition business strategies and practical skill, such as method to cope with SDGs (environmental countermeasures), which are also adaptable to general business other than the airline shall be lectured. "

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス (授業の目標と内容の確認、授業計画、評価方法、受講要領やルールに関する説明 など)
- 【2】: 航空交通の基本
- 【3】: 航空産業の特性
- 【4】: エアラインの業務
- 【5】: 民間航空の発展と航空自由化
- 【6】: ネットワーク
- 【7】: アライアンス
- 【8】: FFP/プラットフォーム
- 【9】: ブランド/プロダクト&サービス
- 【10】: CS とホスピタリティ

【11】:LCC

【12】:航空とツーリズム/航空貨物

【13】:航空安全

【14】:レビュー（航空業界の最近の動向/エアラインビジネスの将来 etc.）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

ゲストスピーカーによる講義、また履修人数等の状況によりグループワーク等を実施する場合があります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】各回の授業テーマを意識し、関心がある航空関連の記事・ニュース・TOPIC 等について事前に調べ、自身の考えやコメントをノートにまとめておくこと。(合計 10 時間)

【復習】各回の授業受講後に自身でレビューと確認を行い、教材資料や説明等をもとに授業内容と新たに得られた知識についてノートにまとめ、理解を深めること。(合計 12 時間)

【その他】上記の予習・復習の実践とともに、講義期間をとおして、日常から「航空」そのもの、また「航空」に関連する様々な話題や社会的な課題に興味を持ち、自ら積極的に見聞を広げるよう心掛けてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:20% リアクションペーパー もしくは 小テスト:20% 授業参画状況:20% 最終レポート割合::40%

・出欠席確認および理解度確認のため、各回授業においてリアクションペーパーの提出もしくは小テストを行い、平常点に反映します。

・全授業回の 2/3(10 回)以上の出席(確認済)を前提とし、授業参画状況に反映します。

テキスト / Textbooks

各回の授業に関する教材資料等は授業時に投影し、適宜学修支援システムに掲載します。

参考文献 / Readings

(株)ANA 総合研究所 『航空産業入門(第 2 版)』 東洋経済新報社 2017 9784492762356

(株)ANA 総合研究所 『エアラインオペレーション入門(改訂新版)』 イカロス出版 2022 9784802211437

その他、必要に応じ授業において紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

航空全般また航空業界/エアラインに対する高い興味・関心、自ら調べ理解する力、将来に向けた創造力 ほか

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料掲載等で学修支援システムを利用するとともに、レポート課題等も実施しますので PC が必要となります。

その他 / Others

・授業時以外の教員との連絡や質問については、学修支援システム・メール等にて行うこととします。また、受講学生への連絡や周知事項については、適宜学修支援システムの機能・メール等を利用して行います。

・シラバス内容はあくまでも予定であり、授業の進捗や到達目標の状況等により変更する場合があります。

注意事項(検索結果画面)

人数制限科目(50 名)

観光IT戦略論

IT Strategy for Tourism

IT を活用して、観光分野の新しいビジネスを考える

角谷 恭一(KADOYA KYOICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA943
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	金沢大学の履修生を交えたディスカッションをスムーズに行うため、全員オンラインの回を予定しています。具体的には【授業計画】に明示しました。なお、履修生の状況や授業の進捗状況を鑑みて、適宜変更する可能性があります。変更については、授業および「Canvas LMS」で周知します。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	株式会社 NTT データ寄附講座		

授業の目標 / Course Objectives

観光による地域活性化が社会的な関心となる中、IT 分野のイノベーションをどのように結びつけることが可能なのか、最新の事例学習をしながら検討します。

As regional revitalization through tourism becomes a social concern, we will study the latest case studies to examine how it is possible to link this with innovation in the IT field.

授業の内容 / Course Contents

NTT データで実際に使われている新規ビジネス創発メソッド「DCAP(Digital Corporate Accelerate Program ディーキャップ)」を使って、ビジネス創発の基本と本質を学びます。そして、その過程で、社会デザインによるビジネス創発を、企業がどう企画するのか理解します。

具体的には、メソッドの解説を受けたうえで、個人やチームでワークを行うことで理解を深め、最終的にビジネスプランをまとめます。

IT を活用したビジネスプランを具体化するために、世界の先端的な IT とその活用事例を紹介します。

また、金沢大学との合同講義となっており、金沢大学からの履修生とのディスカッションにより、互いの検討を深めます。

なお、履修開始時に、下記「その他」に記載の3点を含めた誓約書にサインをいただきます。

Students will learn the basics and essence of business emergence using DCAP (Digital Corporate Accelerate Program), a new business emergence method actually used at NTT Data. In the process, students will understand how companies plan business emergence through social design.

Specifically, after receiving an explanation of the method, students will deepen their understanding by working individually and in teams, and finally put together a business plan.

In order to materialize business plans that utilize IT, students will be introduced to cutting-edge IT from around the world and examples of its use.

This is also a joint lecture with Kanazawa University, and students from Kanazawa University will deepen their mutual consideration through discussion.

At the start of the course, students will be required to sign a pledge that includes the three points listed under "Other" below.

授業計画 / Course Schedule

【1】:講義計画の説明、「ITビジネスの変遷と現在の潮流」について講義(オンライン)

【2】:「ロジカル思考とデザイン思考の2つのビジネスモデル構築手法」について講義(オンライン)

【3】:DCAP-ID ビジョン策定(オンライン)

【4】:DCAP-ID 課題の明確化(対面)

【5】:インプットセミナー:NTT DATA Technology Foresight(オンライン)

今後3年から10年の間に社会やビジネスに大きなインパクトをもたらす先進技術や社会動向を継続的に調査し、調査結果から導きだしたテクノロジーがもたらす将来変化を予見したトレンド情報

【6】:DCAP-ID アイデア発想(対面)

【7】:DCAP-ID アイデア・プロトタイピング(オンライン)

【8】:DCAP-ID アイデア・ブラッシュアップ(オンライン)

【9】:DCAP-BMC ビジネスモデル検討#1(対面)

【10】:DCAP-BMC ビジネスモデル検討#2(対面)

【11】:DCAP-BMC ビジネスモデル検討#3(対面)

【12】:プレゼン資料作成#1(対面)

【13】:プレゼン資料作成#2(オンライン)

【14】:発表&講義のまとめと振り返り(対面)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

各回のワーク結果を、次の回のワークに引き継いで検討が進みます。

よって、良いビジネスプランを具体化するには、次の授業までにワークの結果を補強することも必要になります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス討議への貢献度:20%

最終レポート割合::40%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜、講義の中で配布します。

参考文献 / Readings

野口吉昭 ビジネスプラン策定シナリオ かんき出版 2001 9784761259549

Tom Kelly, Jonathan Littman 発想する会社！一世界最高のデザインファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法 早川書房 2002 9784152084262

渡辺健介 世界一やさしい問題解決の授業 ダイヤモンド社 2007 9784478000496

津田久資 世界一わかりやすいロジカルシンキングの授業 KADOKAWA/中経出版 2012 9784046028044

ロジカル思考の基本的な学習は、自習して臨んでください。上記、3, 4が平易で読みやすいです。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

履修生同士のコミュニケーションツール(Zoom)や、ワークの共有のためオンラインツール(Miro)を使いますので、PCを持参してください。

その他 / Others

1) DCAPのベースになった、京都でのプロジェクトを紹介する3分ほどの動画です。

講義もこのような雰囲気になりたいと思います。 <https://www.youtube.com/watch?v=ZutzWPlzCa0>

2) NTT データのデザインブランド「Tangity」のメンバが、サービスデザインに関する考察や日々の活動について発信しています。参考にしてください。 <https://note.com/tangity/>

3) 誓約書について

履修開始時に、以下の3点を含めて誓約書にサインをいただきます。

・本講座において、履修者が提供したアイデア(コンセプトおよびノウハウ等を含みます)は、そのアイデアを提供した履

修者からの申し出、および履修者による権利化がなされない限り、人類の共有財産（パブリックドメイン）として、ほかの履修者を含めた第三者が、無償で自由に利用することができます。

- NTT データは、成果物の権利を有する履修者の許可を事前に得ることにより、広告宣伝、または、研究目的のためにウェブサイト(SNS を含む)やチラシ、パンフレット等の宣伝販促物に掲載する等、公開することができます。

- 履修者は、本講座を受講したこと、および本講座を受講して知りえた情報、成果物について、コミュニサイトや掲示板、SNS 等への書き込み等、NTT データの許可があるまで、一切公開せず、本講座の目的以外に使用しないことに同意するものとします。

都市型エンターテイメント論

Urban Entertainment

エンターテイメント産業の概観・アミューズメント施設の新規事業企画

下島 康史 (SHIMOJIMA YASUSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA960
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	TRS3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	集中講義:2025 年 8 月 1 日(金)・4 日(月)・6 日(水)・7 日(木)・8 日(金) ※1 日・4 日は 2～5 限、6・7・8 日は 3 限～4 限		

授業の目標 / Course Objectives

- 1) エンタテインメント・ビジネスの概念・概要について理解し、説明することができる。
- 2) エンタテインメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用を理解し、説明することができる。
- 3) アミューズメント施設の新規事業企画の概要を理解し、説明することができる。
- 1) To be able to explain the concepts and outlines of the entertainment business.
- 2) To be able to explain the application of marketing principles in the entertainment business.
- 3) To be able to explain the outline of new business plans for amusement facilities.

授業の内容 / Course Contents

広義のエンタテインメント・ビジネスの概念について学習するとともに、当該ビジネスにおけるマーケティング原理の応用について、ケーススタディや各種ワークを通して学習する。
またとくに、エンタテインメント・ビジネスの中でも、アミューズメント施設の新規事業企画に焦点をあて、情報収集や仮説構築を意識した学習に取り組む。

Students will learn about the concept of entertainment business, as well as the application of marketing principles in the entertainment business through various case studies.

Especially, we will focus on new business planning of amusement facilities and engage in learning with an awareness of information gathering and hypothesis building.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション エンターテイメント・ビジネスに関する概念定義
- 【2】:エンターテイメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用①
- 【3】:エンターテイメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用②
- 【4】:エンターテイメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用③
- 【5】:エンターテイメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用④
- 【6】:小テスト①の実施と解説 アミューズメント施設の新規事業企画概説
- 【7】:アミューズメント施設の新規事業企画(ワーク①)
- 【8】:アミューズメント施設の新規事業企画(ワーク②)
- 【9】:アミューズメント施設の新規事業企画(ワーク③)
- 【10】:小テスト②の実施と解説 アミューズメント施設の新規事業企画総括①

- 【11】:アミューズメント施設の新規事業企画総括②
 【12】:エンターテイメント・ビジネス ケーススタディ①
 【13】:エンターテイメント・ビジネス ケーススタディ②
 【14】:小テスト③の実施と解説 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は授業内で指示された予習/復習(各種ワークを含)を授業時間外に実施する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内に指示した提出物:10% 小テスト①:30% 小テスト②:30% 小テスト③:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業時間中の課題作業、授業時間外の課題作業において PC が必要。

注意事項(検索結果画面)

集中講義

風土と観光

Socio-ecological system and tourism

小野 良平(ONO RYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA970
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「風土」は地域の自然と文化を包括的にとらえる環境の概念の一つであるが、農業をはじめとして環境を資源とした産業がさまざまにある中で、この風土を直接資源とする産業が観光であるということができる。観光資源論および観光計画論の一環として、風土の特質を活かした持続的な観光のあり方について考える。

“Fudo (Socio-ecological cultural complex)” is one of the concepts of environment that comprehensively captures the nature and culture of a region, but while there are various industries that use the environment as a resource, such as agriculture – it can be said that tourism is the industry most directly using “Fudo” as a resource. As part of tourism planning and resource conservation theory, we will consider ways that sustainable tourism makes use of “Fudo” characteristics.

授業の内容 / Course Contents

風土という概念およびそれを取り上げる意義について、環境に関わる諸概念との関係を踏まえながら考えた上で、風土と深くかわる観光資源の例を何種類か取り上げてその特質を紹介する。また観光資源であるばかりでなく観光体験の基盤となる地域を支える風土の特質について、その保全にかかわる諸手段とともに考える。

We consider the concept of “Fudo (Socio-ecological cultural complex)”, and highlight its significance in relation to environmentally related concepts, while introducing several examples. We will also consider the characteristics of “Fudo” that support regions not only as tourism resources but as the foundation of the tourist experiences, along with the methods involved in its conservation

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 風土とその関連概念
- 【3】: 日本の風土の特質
- 【4】: 風土と観光資源: 温泉
- 【5】: 風土と観光資源: 社寺・信仰空間
- 【6】: 風土と観光資源: 名所
- 【7】: 風土と観光資源: 祭礼・芸能
- 【8】: 風土の象徴化: 庭園1
- 【9】: 風土の象徴化: 庭園2
- 【10】: 風土の保全と観光: 都市
- 【11】: 風土の保全と観光: 農山漁村
- 【12】: 風土の保全と観光: 自然地域
- 【13】: 風土の保全と観光: 郊外と没風土性
- 【14】: まとめ: 風土産業としての観光

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

リアクションペーパーによる質問等へのフィードバック

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

市民参加とまちづくり

Participatory Community Design

身近なまちを読み解き、より良く再生する手法「市民参加とまちづくり」の理論と実際を学ぶ

黒本 剛史 (KUROMOTO TAKESHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HA971
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRS3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

様々な分野で展開されている市民参加とまちづくりに関して、歴史や手法および代表的な事例を理解し、説明することができる。関心を持つ地域の実態を調べ、まちづくりの方向性を考察することができる。

To understand and explain the history, methods, and representative cases of civic participation and community design as practiced in various fields. Students will also be able to investigate the actual conditions of a region of interest and envision the direction of its community design.

授業の内容 / Course Contents

地域は多種多様な構成要素から成り立っているため、まちづくりも様々な分野で展開されている。多くのまちづくり手法は、先進的な地域で市民主体の取り組みとして萌芽し、次第に法制度や政策に位置付けられ、スタンダードな解決策として普及していく。こうしたまちづくりの全体像を理解するため、本講義はイントロダクションと3部から成る。イントロダクションとして、まちづくりの定義や広がりについて概観したのち、地域の基礎的な読み解き方について講義する。第1部「まちづくりの歴史」では、地域が現在の姿を見せるに至ったまちづくりや都市形成の歴史を海外・国内の都市を対象として説明する。第2部「まちづくりの手法」では、景観・歴史・交通・緑地などさまざまな分野と関わりをもつまちづくりの手法や事例について説明する。第3部「まちづくりの現在」では、現代的な地域課題の解決に資するまちづくりの取り組みを説明する。まちづくりの当事者たる市民の参加は、いずれの講義回においても重要な要素として紹介されることになる。

Regions are composed of a diverse array of elements, and as a result, community design is pursued across various fields. Many community design methods originate as citizen-led initiatives in pioneering regions, gradually being incorporated into legal systems and policies, and eventually becoming standardized solutions. To gain a comprehensive understanding of urban development, this course consists of an introduction and three main parts. In the Introduction, we will provide an overview of the definitions and scope of urban development and offer fundamental approaches to analyzing regions. In Part 1: The History of Urban Development, we explain the history of urban development and city formation, focusing on both international and domestic examples that have shaped the current state of regions. Part 2: Methods of Urban Development explores various methods and case studies of urban development across fields such as landscape, history, transportation, and green spaces. In Part 3: Contemporary Urban Development, the course will cover efforts aimed at addressing modern regional challenges through urban development practices. Throughout the course, the participation of citizens as key stakeholders in urban development will be introduced as a central theme in all sessions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: (イントロダクション) 市民参加とまちづくりの概要・まちの見方
- 【2】: (まちづくりの歴史 1) 世界の都市の成り立ち
- 【3】: (まちづくりの歴史 2) 東京の成り立ち

- 【4】: (まちづくりの歴史 3) 日本の地方都市の成り立ち
 【5】: (まちづくりの手法 1) 都市計画-規制・誘導・事業-
 【6】: (まちづくりの手法 2) 都市交通とまちづくり
 【7】: (まちづくりの手法 3) 商店街と中心市街地活性化
 【8】: (まちづくりの手法 4) 風景・景観・緑地の計画
 【9】: (まちづくりの手法 5) 都市再生事業
 【10】: (まちづくりの手法 6) 防災と復興まちづくり
 【11】: (まちづくりの手法 7) 都市保全
 【12】: (まちづくりの現在 1) 歴史まちづくり
 【13】: (まちづくりの現在 2) 人口減少社会と地方創生
 【14】: (まちづくりの現在 3) 観光まちづくり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業はパワーポイントを使用して講義を行う。各回の授業についての理解を深め、復習を確実なものとするため、リアクションペーパーに取り組む。資料の配付, リアクションペーパーや課題の提出に Canvas LMS を使用する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事後学習として、授業内容を復習した上で必要な文献調査等を行い、リアクションペーパーに回答してください(各回 120 分)

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

各回のリアクションペーパーでは、授業内容に関連した調査結果や考察を記載することを求める。

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

参考文献 / Readings

森田哲夫・森本章倫 図説わかる都市計画 学芸出版社 2021 9784761532772

澤木昌典・嘉名光市 図説都市計画 学芸出版社 2022 9784761528324

その他 / Others

皆さんの住むまちや関わる地域は、市民参加とまちづくりに取り組むことで、より良くしていくことができます。まちづくりの手法や考え方を学ぶことで、地域課題を解決し、宝を磨き、住みやすく魅力的な地域を目指していく道のりの第一歩となります。積極的な参加を期待します。

観光地理学概論

Introduction to Geography of Tourism

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB001
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

様々な研究例を通して地理学の基本概念と研究方法を理解する。

The purpose of this course is for students to understand the basic concepts and research methods of geography through various research examples.

授業の内容 / Course Contents

地域は自然環境や人間活動などが複雑に関連して成り立っている。本講義ではそうした関連性に着目して地域の成り立ちや仕組みを学ぶ。その際、地理学の様々な研究事例を取り上げることで、多様な視点やアプローチの方法、表現手法なども学ぶ。

Natural environments and human activities exist in a complex relationship within a region. In this course, students learn about the establishment and mechanisms of regions, focusing especially on that relationship. To do that, the course covers various research cases in geography, diverse perspectives, methods of approach, and techniques of expression, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 地域を科学する
- 【2】: 身近な地域の調査ー(土地利用調査と定点観測)
- 【3】: スマートツーリズムと参与観察
- 【4】: 生物多様性と環境保全
- 【5】: 地域生態(里山における人と自然)
- 【6】: 聞き取り調査とアンケート調査の実際
- 【7】: 場所イメージ①(イメージの創られ方と調べ方)
- 【8】: 場所イメージ②(ハワイイメージの国際比較:ゼミ合宿調査の紹介)
- 【9】: 構築主義と地域
- 【10】: 機能地域(集客圏と客層)の調べ方
- 【11】: 文化伝播①(伝播とその調べ方)
- 【12】: 文化伝播②(文化層序と観光)
- 【13】: 文化圏(言葉と信仰の広がりとその調べ方)
- 【14】: 文化景観(伝統的景観の創造)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は授業内で適宜指示された予習/復習を授業時間外に実施する。また、受講生は授業内で学ぶフィールドでの実践(調査方法)とその分析方法を用いて、授業時間外に現地調査を自ら実施し、学期末のレポートを作成する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業中に課す課題:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

観光人類学概論

Introduction to Anthropology of Tourism
文化人類学の視点と観光研究

久保 忠行(KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB002
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は次のとおりである。

- 1) 文化人類学のアプローチと分析枠組みを理解し、説明できるようになること。
- 2) 身近な観光現象を文化人類学の視点から分析し、説明できるようになること。

In this course, students will be able to:

- 1) understand and explain basic approach and framework of cultural anthropology.
- 2) analyze and explain tourism phenomena observed in everyday life from the perspective of cultural anthropology.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、文化人類学的なものの見方とアプローチを紹介し、それらを用いて観光現象を分析する。文化人類学的な観光研究(観光人類学)では、観光の政治、経済的な側面に加え、観光をとらえて文化が生成されるダイナミズムや、ホスト社会や旅行者にとっての観光の意味を考察する。

Throughout the course, students will learn basic approach of cultural anthropology and how to apply it to analyze tourism. We will consider political, economic aspects of tourism, as well as dynamism of creating culture through tourism. It also focuses on the meaning of tourism for hosts and guests by applying the framework of the Anthropology of Tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 観光人類学の視点
- 【2】: 儀礼の過程: 巡礼と観光
- 【3】: 未開と文明: 植民地主義と観光
- 【4】: ジェンダーとセクシュアリティ: 観光と性
- 【5】: 伝統の創造: 「楽園」の誕生
- 【6】: 文化の真正性: 少数民族と観光
- 【7】: 文化の資源化: 世界遺産と観光
- 【8】: つくられる自然: エコと観光
- 【9】: 宗教と観光: 観光の時代のイスラーム
- 【10】: 音声言語と手話言語: ユニバーサル・ツーリズム
- 【11】: 「近代化」を問いなおす: ダークツーリズム
- 【12】: ボーダレス化する暮らし: ロングステイとライフスタイル移住
- 【13】: アクター・ネットワーク理論: 観光地を解剖する
- 【14】: まとめと展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

上記はシラバス執筆時の予定であり、変更する場合がある。履修許可者は初回授業までに Canvas LMS にログインして詳細を確認すること。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配付資料を確認し、授業前に課す問いに答えること(2 時間)

授業で提示した課題に回答すること(2 時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 予習課題:28% 授業内容の理解に関する課題(前半):30% 授業内容の理解に関する課題(後半):30% 授業への参加:12%

未提出や遅延には応じない。授業への参加は出席点ではない。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。各回の授業で参考文献を提示する。

参考文献 / Readings

市野澤潤平(編) 基本概念から学ぶ観光人類学 ナカニシヤ出版 2022 9784779514333

大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治(編) 観光学ガイドブック ナカニシヤ出版 2014 9784779508264

山下晋司(編) 観光文化学 新曜社 2007 9784788510807

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

締め切りを厳守することができるスケジュール管理の能力。

人類学的なアプローチでは、すぐに答えがでないテーマや問題に向き合うことができる知的な態度が求められる。「タイパ」「コスパ」とは真逆の姿勢が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料は、Canvas LMS をとおして PDF ファイルで配布する。教室では配付しない。

各自で印刷して持参するか、PDF ファイルに書き込みができるタブレットや PC を持参すること。

その他 / Others

予習、復習や授業中に Google フォームや、その他のオンラインツールを用いて質問をしたり理解度をたずねる。質問があれば翌週にフィードバックする。また授業中に聴取した質問や意見をもとに、ディスカッションやペアワークなどを実施することもある。

観光社会学概論

Introduction to Sociology of Tourism
観光社会学入門

高岡 文章(TAKAOKA FUMIAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB003
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光や文化について学ぶために必要な社会学の基礎的な概念や手法を習得する。

This course aims for students to learn the basic concepts and techniques of sociology required to study tourism and culture.

授業の内容 / Course Contents

文化、自己、ジェンダー、エスニシティ、メディア、都市、国家、グローバル化、移動などをキーワードに、社会学の観点から現代社会の諸問題について考察し、社会学的思考に親しむ。

With culture, self, gender, ethnicity, media, city, nation, globalization, and mobility, etc., as keywords, this course considers the various problems of modern society from a sociological viewpoint and familiarizes students with the sociological way of thinking.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 近代性とは何か
- 【3】: 近代社会・公共性・親密性
- 【4】: 自己へのまなざし
- 【5】: お客様社会と感情労働
- 【6】: メディアがつなぐ社会
- 【7】: 国民国家とナショナリズム
- 【8】: グローバリゼーションとローカリティ
- 【9】: アウシュヴィッツの普遍性
- 【10】: 仕組みの见えない社会
- 【11】: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【12】: 文化の社会学／文化の政治学
- 【13】: 仕組みの见えない社会を見るために
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業中に受講生の発言を求めることがある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパーおよび課題の提出が授業毎にそれぞれ課される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への参加度:40%

テキスト / Textbooks

長谷川公一他 社会学 有斐閣 2019 9784641053892

参考文献 / Readings

アンソニー・ギデンズ 社会学 第5版 而立書房 2009 9784880593500

安村克己他 よくわかる観光社会学 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

須藤廣他 よくわかる観光コミュニケーション論 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料はすべて授業支援システムで共有します。ノートPC やタブレットで表示するか、事前に各自で印刷したうえで受講してください。教室での紙資料の配布はございません。

観光人文学概論

Introduction to Tourism Humanities

批評理論から観光を読み解く

舩谷 鋭(MASUTANI SATOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB004
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化の交流にかかわる事象を読み解く観光人文学理論として、リベラルヒューマニティ(批評理論)を学ぶ。今年度は、今年度は、観光という物語を読み解くための批評理論を総合的に扱う。本講義は観光学部の交流文学系科目の中でも、大学の学び全体の基礎となる理論面の習得を目標とする。

This course is designed for students to learn liberal humanity (critical theory) as a theory of humanities of tourism for interpreting phenomena related to cultural exchange. This year's course will focus on comprehensive critical theory in order to decipher the narrative of tourism. The aim of this course is for students to understand the theoretical aspects of the exchange literature-related subjects of the College of Tourism, which are the comprehensive basis for their undergraduate studies.

授業の内容 / Course Contents

批評理論はアカデミックな見方・考え方の基礎であり、大学の講義を理解するためのポイントである。多くの教員はこうした理論を踏まえて講義しており、動的で応用的な内容が断りなしに登場する観光研究において、話の組み立てを予測し、正しく理解するために欠かせないリテラシーである。

Critical theory is the basis for academic perspectives and intellectual thought, a vital means to understand university courses. Many instructors base their courses on critical theory. Therefore, in tourism studies, in which dynamic and practical topics and ideas are often cited without explanation, critical theory is essential to anticipate the logic of the paradigm and develop a correct understanding of discussions.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション／はじめに ※テキストなしに理解は難しいので、必ず初回までに入手し、該当箇所を目を通しておくこと

【2】:構造主義

【3】:物語論

【4】:受容理論

【5】:脱構築批評

【6】:精神分析批評

【7】:テーマ批評

【8】:フェミニズム批評・ジェンダー批評

【9】:マルクス主義批評・文化唯物論／新歴史主義

【10】:カルチュラル・スタディーズ

【11】:ポストコロニアル批評／トランスナショナリズム

【12】:メディア論

【13】:エコクリティシズム

【14】:教場最終レポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを手元に置き、授業前に各回の該当部分に目を通し、わからない箇所や気になった箇所に印をつけておくこと。
受講した内容を踏まえ、次の講義までに授業支援システムのディスカッションにリアクションペーパーを提出すること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業で指示したリアクションペーパー等の提出物:60% 教場最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

小倉孝誠 編 批評理論を学ぶ人のために 世界思想社/Maruzen eBook 等 2023 9784790717768

この講義はテキストなしに受講することは難しいので、紙版、電子版を問わず、必ず手元に置いて通読すること

参考文献 / Readings

三原芳秋ら編著 クリティカル・ワード 文学理論 フィルムアート社/電子書籍 2020 9784845919321

千葉雅也 現代思想入門 講談社/Maruzen eBook 等 2022 4065274850

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業支援システムを利用できる機器と環境

その他 / Others

全回教室対面だが、連絡事項やリアペなどは授業支援システムで行う

観光文学概論

Introduction to Tourism Literature

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB005
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文学研究の技法を観光研究にいかに応用すべきかを学ぶ。

The purpose of this course is for students to learn how to apply theories of literary study to analysis of tourism.

授業の内容 / Course Contents

文学研究の観点から見て興味深い観光学のトピックを取り上げ、関連する文学作品の読解する。

This course examines various topics of tourism study interesting from the perspective of literary research; students read literary works relevant to them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション——「旅」の時代(古代、中世)
- 【2】: グランドツアーに始まる——自然美の発見、遠近法から写真まで
- 【3】: リゾート文学(温泉保養地)
- 【4】: テーマパーク化する世界(海浜保養地からテーマパークまで)
- 【5】: ヴェルヌ『八十日間世界一周』に見る「旅行」の制度化 1——鉄道、ガイドブック、パスポート
- 【6】: ヴェルヌ『八十日間世界一周』に見る「旅行」の制度化 2——鉄道、ガイドブック、パスポート
- 【7】: 非日常としての推理小説 1(コナン・ドイルとアガサ・クリスティ)
- 【8】: 非日常としての推理小説 2(江戸川乱歩と松本清張)
- 【9】: 聖地巡礼というエクリチュール
- 【10】: 楽園幻想
- 【11】: 日本の作家と大衆観光(武田百合子と山田稔)
- 【12】: バックパッカーの哲学 1(スティーヴンソンからチャトウィンまで)
- 【13】: バックパッカーの哲学 2(金子光晴と沢木耕太郎)
- 【14】: 死者とのコミュニケーション(ダークツーリズム)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ヴェルヌ『八十日間世界一周』(岩波文庫) ないしクリスティ『ナイルに死す』(ハヤカワ文庫)に目を通しておくことが望ま

しい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

山田登世子 リゾート世紀末 筑摩書房 1998

その他 / Others

授業で紹介される作品を積極的に図書館等で探してみること。

観光歴史学概論

Introduction to History of Tourism

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB006
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

観光学部での学修において必要な基礎知識やものの見方を、観光の歴史的展開から学ぶ。

Through study of the historical development of events surrounding tourism, students will learn the basic knowledge and perspective required for study in the College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

観光の歴史的展開のなかでも、西洋および日本の事例を取り上げる。言及する時代は、観光の特性上、近世、近代、現代が中心となる。講義では単なる基礎知識だけでなく、歴史的展開の背景にある社会的要因や、複合性・地域横断性といった観光を理解する上での基本的な分析視角も身に付ける。あわせて、今日における観光のありようをよりよく理解するためには、歴史的連続性という見方もまた有効であることを学ぶ。以上の一連の内容を、年号暗記などに拘泥せず、歴史の「流れ」や社会の変動を意識しながら歴史学的視点から整理する。

Within historical development of events surrounding tourism, this course examines cases in the West and in Japan. Periods of study are centered on characteristics of tourism in early modern, modern, and contemporary times. The course provides not only basic knowledge, but also basic analytical perspectives needed to understand tourism, including social factors behind its historical development, complexity, regional transversality, etc. In addition, the course covers the effectiveness of historical continuity, in order to understand better the current state of tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 西洋近世 1【グランドツアー】
- 【3】: 西洋近世 2【グランドツアーの副産物】
- 【4】: 日本近世 1【街道の整備】
- 【5】: 日本近世 2【伊勢参り】
- 【6】: 日本近世 3【現代との連続性】
- 【7】: 西洋近代 1【トマス＝クック】
- 【8】: 西洋近代 2【クックの取り組みと産業革命】
- 【9】: 西洋近代 3【クック社と世界一周旅行】
- 【10】: 日本近代 1【「開国」と遊歩】
- 【11】: 日本近代 2【インバウンド誘致団体】
- 【12】: 西洋現代【マストツーリズムの時代】
- 【13】: 日本現代【バブル経済崩壊まで】
- 【14】: 講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

これまでに身につけた歴史に関する知識のうち、観光と関連が深いと思われる事柄について振り返っておく。
講義で紹介する文献を積極的に読み進める。
観光と関連するニュースや出来事への関心を、日頃から高めておく。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

単元ごとの参考文献リストを提示する。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光社会学4(文化)

Sociology of Tourism 4 (Culture)

大橋 健一(OHASHI KENICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB011
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「文化」という観点から観光現象を把握しようとする際に求められる「文化」概念認識の基本について理解することを目標とする。

This course aims for students to understand the basis of concept of "culture" necessary when trying to analyze tourism phenomena from the perspective of "culture."

授業の内容 / Course Contents

現代社会における地球規模での交流の加速化は、これまで自明とされてきた固定的な「文化」概念の再考を我々に迫っている。従来の「文化」概念の成り立ちとその社会的機能を批判的に検討し、観光を含む現代のトランスナショナリズムの展開を視野に入れた動態的な「文化」概念の理解のしかたについて講義する。

Acceleration of exchange on a global scale in modern society compels us to reconsider the fixed concept of "culture" taken for granted until now. Students critically investigate the formation of the conventional concept of culture and its social function; lectures are given on methods for understanding the dynamic concept of culture, taking into account development of modern transnationalism, including tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:観光交流と「文化」
- 【3】:「文化」とは何か(1)
- 【4】:「文化」とは何か(2)
- 【5】:「文化」概念の再検討(1)
- 【6】:「文化」概念の再検討(2)
- 【7】:「文化」概念の成り立ちと社会的機能
- 【8】:「文化」概念の政治性
- 【9】:「文化」の生産と消費
- 【10】:「文化」から見た観光現象の分析(1)
- 【11】:「文化」から見た観光現象の分析(2)
- 【12】:「文化」から見た観光現象の分析(3)
- 【13】:「文化」から見た観光現象の分析(4)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜紹介する参考関連文献の内容の整理把握、及び授業時に指示する課題への取り組みを行うこと。各回の事前事後学修にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

観光と文化7(産業)

Tourism and Culture 7 (Industry)

おみやげ文化論

鈴木 涼太郎 (SUZUKI RYOTARO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB024
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、観光みやげという身近な事例を通じて、観光産業が媒介するグローバルな人やモノの移動と文化をめぐる動態的な関係について考えるための視野を身につけることを目標とする。

This course aims for students to develop perspectives for considering dynamic relationships between the global movement of people and goods, tourism, and culture through familiar examples such as souvenirs.

授業の内容 / Course Contents

現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供する観光関連産業の発展抜きに語ることが出来ない。本科目では、観光みやげにかかわる諸産業を事例に挙げながら、観光を通じた人やモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて考察する。

Modern tourism's growth cannot be examined without considering developments in tourism industries that provide various mass tourist products. Citing examples of various industries involved in souvenirs, this course considers how people, spaces, and images are managed in relation to tourism products and how the movement of people and goods through tourism impacts consumption, transfer, and production of culture.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: おみやげとは？
- 【3】: 名物の誕生と観光みやげの近代
- 【4】: 郷土玩具から民藝／民芸、雑貨へ
- 【5】: 観光みやげのものがたりとパフォーマンス
- 【6】: ギフトとしての観光みやげ
- 【7】: 観光みやげとホンモノらしさ①
- 【8】: 観光みやげとホンモノらしさ②
- 【9】: ギャグみやげの存在理由
- 【10】: 観光みやげのフォーマットとコレクション
- 【11】: 移動するおみやげと文化
- 【12】: 旅するマトリョーシカのルーツとルート
- 【13】: ベトナム雑貨がつくる旅
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

基本的に1時間程度で読了可能な授業関連資料・論文を事前に配布する。授業内での指示に従って、必要な事前準備や復習を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題(複数回):60% 期末課題:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

鈴木涼太郎 観光という商品の生産—日本～ベトナム 旅行会社のエスノグラフィ 勉誠出版 2010 9784585230014

山口誠 須永和博 鈴木涼太郎 観光のレッスン—ツーリズムリテラシー入門 新曜社 2021 9784788517066

神田孝治ほか編 移動時代のツーリズム—動きゆく観光学 ナカニシヤ出版 2023 9784779517686

このほか授業内で適宜紹介する

その他 / Others

Canvas LMS に授業資料(レジュメ、関連する学術論文など)をアップするので履修者は事前事後学習に活用すること。学期中に6～7回、授業内または授業後数日内を締切とする最大1000文字程度のミニレポート課題を課す予定。課題については全体的な講評や解答例の提示は行うが、個別の解答に対する添削やコメントは行わない。その他詳細についてはガイダンスで説明するため、必ず出席のこと。

観光人類学7(開発援助)

Anthropology of Tourism 7 (Development Assistance)

開発と文化

内藤 順子 (NAITO JUNKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB029
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

開発をめぐる諸問題について、その対象となる人びと・地域・国家などの社会・文化に焦点をあて、文化人類学的視点から考察し、現代世界の構造をとらえることを目標とする。

With the aim of understanding the structure of the modern world, this course examines issues of development with a focus on societies and cultures of the peoples, regions, and nations affected, considering them from a cultural anthropological perspective.

授業の内容 / Course Contents

本講義で扱う「開発」とは、「人の選択肢を広げる」という理念のもとで、国内外において実践される支援・援助活動を行う。そうした実践は、主として異なる社会文化的・経済的背景を持つ国家間や、異なる生活状況にある人間同士で実施されるため、多様な文化や価値観が会う現場ともなる。そこでは、他者や他者文化・社会(とくに開発が対象とする「貧困」)に対してどのような配慮や理解が必要となるのか。アジア、ラテンアメリカなどの具体的な開発援助・支援の例をあげながら検討・考察する。

The meaning of “development” as used in this course is the practice of giving support and assistance both domestically and abroad, based on the principle of “expanding people’s choices.” Since this practice mainly takes place between nations with different socio-cultural and economic backgrounds and between people of different lifestyle situations, it is also a meeting place for diverse cultures and values. In such cases, what consideration and understanding of other peoples and other cultures (especially impoverished places often targeted for development) are necessary? Students investigate and consider specific examples of development assistance and support in Asia, Latin America, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: なぜ開発と文化か
- 【2】: 開発援助の仕組み
- 【3】: 開発援助の具体の現場から: 問題の所在
- 【4】: 開発現場の文化摩擦(1) 専門家と住民
- 【5】: 開発現場の文化摩擦(2) 援助国と被援助国
- 【6】: 開発援助対象地域と人びとの現実: アジア
- 【7】: 開発援助対象地域と人びとの現実: ラテンアメリカ
- 【8】: 貧困と社会問題
- 【9】: 「貧困」概念の再検討(1)
- 【10】: 「貧困」概念の再検討(2)
- 【11】: 現代世界の構造と開発
- 【12】: 「ボトムアップ」はいかに可能か

【13】:被開発者あるいは他者の理解に近づくために
SDGs でいう「誰ひとり取り残さない」ことは可能なのか？

【14】:まとめ:開発あるいは他者にかかわるために必要な視点・構え・備え

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

全 14 回のうち 1 回、履修者同士の対面グループディスカッションを実施します。講義形式でインプットしたこと、考えたことをアウトプットし、また、さまざまな人の意見を聞くことは視野を広げる機会にもなります。ディスカッションへの参加、議論への貢献は単位取得の要件になります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

世の中の動きに関心を持つこと。

講義で扱う・扱ったトピックについて自分で追究する姿勢を持つこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:10% ディスカッションへの参加:30%

毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に適宜指示します

観光地理学3(リゾート地)

Geography of Tourism 3 (Resort Area)

呉羽 正昭 (KUREHA MASAOKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB063
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光地理学における多様な地域モデルとその国内外の適用事例をリゾートを題材に学び、その手法や知見を応用する力を身につける。

From the theme of resorts, students in this course learn about various regional models in Geography of Tourism and examples of their application both domestically and overseas. Students also gain the ability to apply such techniques and information.

授業の内容 / Course Contents

様々なリゾートの形成や空間構造、観光客行動の空間的特性などに関する観光地理学の基本概念や事例研究を取り上げる。その際、分析方法などの実践的な手法も紹介することで、総合的な知識と思考力を身につける。

This course covers the basic concepts and case studies of Geography of Tourism relating to the formation and spatial structure of various resorts as tourist destinations, the spatial characteristics of tourist behavior, etc. Through an introduction of practical techniques for analysis methods, etc., students gain general knowledge and the ability to think critically.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: リゾートと観光地理学研究
- 【3】: リゾートの進化モデル
- 【4】: 日本の温泉リゾート
- 【5】: 日本の避暑リゾート
- 【6】: 日本のリゾート開発
- 【7】: 日本のスキーリゾート: 1970 年代まで
- 【8】: 日本のスキーリゾート: 1980 年代以降
- 【9】: ヨーロッパのリゾート展開
- 【10】: ヨーロッパのリゾートと世界遺産
- 【11】: アルプスのリゾート
- 【12】: オーストリアのスキーリゾート
- 【13】: オーストリアの夏季リゾート
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

スライドは配付しないので授業中にメモをとること。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記参考文献および各回の授業で提示する参考文献を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

毎回のリアクションペーパーの内容(40%)および筆記試験(60%)で評価します。

テキスト / Textbooks

使用しない。説明の際に利用する図表はプリントとして配付する。

参考文献 / Readings

ダグラス・ピアス 現代観光地理学 明石書店 2001 9784750313849

江口信清・藤巻正己 観光研究レファレンスデータベース ナカニシヤ出版 2011 4779505518

菊地俊夫 文化ツーリズム学 朝倉書店 2016 4254166494

呉羽正昭 スキーリゾートの発展プロセス: 日本とオーストリアの比較研究 二宮書店 2017 4817604239

淡野明彦ほか 観光先進地ヨーロッパ: 観光計画・観光政策の実証分析 古今書院 2016 4772231803

浮田典良 オーストリアの風景 ナカニシヤ出版 2015 4779509505

矢ヶ崎典隆ほか グローバリゼーション 縮小する世界 朝倉書店 2018 4254168810

観光地理学1(都市)

Geography of Tourism 1 (Urban Area)

Site and Situation にみる都市空間の旅,あるいは観光

松村 公明(MATSUMURA KOUMEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB064
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域と景観に着目し、人の移動と観光現象を空間的な視点から考察する能力を培う。

Focusing on regions and landscapes, students cultivate the ability to consider the movement of people and the phenomenon of tourism from a spatial perspective.

授業の内容 / Course Contents

国内外の地方都市をおもに取り上げて、その起源・成長と地域的性格がいかに観光地域の形成に結びついているのか、観光地理学の方法を用いて多様な空間スケールから考察する。授業の内容を手がかりに考察を深めるためには、机上における地図の読解や地形図の判読が欠かせない工程となる。

This course mainly examines regional cities both within and outside of Japan, including how their origins, growth, and regional characteristics are connected to formation of a tourist region. Using tourism geography methods, we will consider them from diverse spatial scales. Reading the tabletop maps and interpreting the topographical maps are essential processes for deepening your consideration of the points in the class content.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 観光地理学の視点と方法
- 【2】: 観光現象の空間スケール1
— 地図の利用と読解 —
- 【3】: 観光現象の空間スケール2
- 【4】: 観光と景観1
— 自然と人間の共同作業 —
- 【5】: 観光と景観2
- 【6】: 観光地化1
— 空間分布と土地利用 —
- 【7】: 観光地化2
- 【8】: 観光と地域1
— 分布域と地域変化 —
- 【9】: 観光と地域2
- 【10】: 観光地域の形成と変化1
— 人の移動・流動と地域の形成 —
- 【11】: 観光地域の形成と変化2
- 【12】: 観光の地域分化1
— Areal Differentiation —

【13】:観光の地域分化2

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

地理学の授業にとって、地図と地図帳は「辞書」である。というのも、授業で取り上げる地域や場所の地理的位置を理解しなければ、授業の内容をもとに自らの考察を深めることは難しいためである。そこで、履修者は教室で配付される地図とは別に、自身の地理的知識に応じた地図帳などを手元に用意して、教室の内外で辞書のように繰り返し参照すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :88%

平常点割合 :12% 授業内の課題・提出物:12%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

観光人類学1(文化の表象)

Anthropology of Tourism 1 (Cultural Representation)

人類学博物館リトルワールドを解剖する

葛野 浩昭(KUZUNO HIROAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB073
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学術的な人類学博物館であると同時に観光施設でもある「野外民族博物館リトルワールド」(愛知県犬山市)を解剖しよう。人類学とは何か、博物館とは何か、民族文化とはどのようなものとして表象されるのか、について実践的・自省的に考えることを目指した、演習・研修旅行型の授業です。

This course aims to consider the following: What is anthropology? What is a museum? In this course, which has a seminar/training format, students analyze the “Little World Museum of Man” (Inuyama City, Aichi Prefecture), an academic anthropological museum and tourist facility.

授業の内容 / Course Contents

「ライティング・カルチャー」論(民族誌論)や「近代的な芸術・文化システム」論に関する導入的授業、リトルワールドの野外展示・本館展示の見学(研修旅行)に加えて、リトルワールドに住居建築等が移築・復元されている世界各地の諸民族の中から履修学生各人が1つを選んで、民族誌的データの提示を含む発表を行います。<リトルワールドへの訪問は10月25日(土)と26日(日)の週末2日間を予約しており、学芸員たちが解説等の対応をしてくれます。研修旅行参加を授業履修の条件とはしませんが、博物館を現場で考えてみる良い機会として強く推薦します。

After taking introductory courses and visiting Little World's outdoor exhibitions, main buildings, each student selects one of the ethnic groups from around the world whose residential buildings, etc. have been relocated and restored at Little World and make a presentation including ethnographic data, while taking into account their own tour experiences. Note: Visit to Little World is scheduled for the two weekend days of October 25th (Saturday) and 26th (Sunday) and the curators will be on hand to provide explanations, etc. Participation in the study tour is not a requirement for taking classes, but it is highly recommended as a good opportunity to think about the museum on the spot.

授業計画 / Course Schedule

【1】:リトルワールドの概要説明、発表の分担・順番や研修旅行日程についての相談・調整等を開始しますので、履修希望学生は第1回授業から参加してください。

【2】:人類学博物館とは、民族誌的記述とは。授業計画の決定。

【3】:民族誌的データの発信とは、誰のため、何のために、どのように行われるのか。リトルワールド等での『北欧・トナカイ遊牧民の工芸』展(北欧閣僚評議会主催)、TBSの番組『世界遺産:サーミ人地域』、伊勢丹百貨店での『Christmas Journey 2014』のサーミ展等、授業担当者自身が人類学者として監修・協力してきた種々のサーミ文化の紹介・発信の試みを事例に考える。

【4】:リトルワールド研修旅行。10月25日(土)・26日(日)の週末2日間:土曜日(朝から夕方まで)・日曜日(朝から昼過ぎまで)を予定。

【5】:履修学生による発表と議論。

【6】:履修学生による発表と議論。

- 【7】:履修学生による発表と議論。
 【8】:履修学生による発表と議論。
 【9】:履修学生による発表と議論。
 【10】:履修学生による発表と議論。
 【11】:履修学生による発表と議論。
 【12】:履修学生による発表と議論。
 【13】:履修学生による発表と議論。
 【14】:総括的議論。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リトルワールド発行の雑誌『リトルワールド』『リトルワールド研究報告』や千里文化財団(国立民族学博物館)発行の雑誌『季刊民族学』等, 各種の資料を授業担当者が十分に用意しますが, 自分が担当して授業内発表をする地域・民族に関する民族誌的データの収集には自らも積極的に取り組んで下さい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:70% 出席・授業への取り組み:30%

テキスト / Textbooks

随時, 資料を紹介します。

参考文献 / Readings

吉田憲司 『文化の「発見」』 岩波書店 1999 年

ジェイムズ・クリフォード 『文化の窮状』 人文書院 2003 年

観光人類学8(生態)

Anthropology of Tourism 8 (Ecology)

自然をめぐる「観光」の環境人文学

宮内 洋平(MIYAUCHI YOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB074
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境人文学とマルチスピーシーズ人類学のアプローチに基づきながら、「自然」をめぐる権力の諸相をアフリカ、イギリス、日本の具体的な事例から学ぶことで、自然を対象とする観光を批判的に捉え直し、エコロジカルな場所の構築に向けた視野を養うことを目標とします。

Based on Environmental Humanities and Multi-species Anthropology, students are required to understand power relations among "nature" through various cases in Japan, UK and Africa. This gives students the opportunity to critically rethink nature-targeted tourism and broaden their horizons to create an ecological place.

授業の内容 / Course Contents

「自然」は人間の思想や活動に基づいて社会的に構築されてきたものであり、生産され、表象され、展示され、消費されてきました。この授業ではイギリス、アフリカ、日本を対象に自然をめぐる「観光」がどのように形成されてきたのかを具体的な事例を通して学びます。近代以降の帝国支配や近代国家の形成に「自然」は大きな役割を果たしました。近年は少数民族が「主体的」に参加するエコツーリズムが推奨されるようになってきました。日本においても里山の価値が発見され、住民が「主体的」に環境保全に取り組んだり、里山が芸術祭の会場や観光スポットになるなど注目されるようになっていきます。これらは可能性を秘めていると同時に批判的に考察する必要もありそうです。自然をめぐる観光が新たな局面を迎えているなか、エコロジカルな場所をいかに構築できるかを考えていきたいと思います。

"Nature" has socially created by human activities and thoughts and it has been produced, represented, exhibited and consumed. This course analyzes how nature-related tourist destinations have been created with reference to specific cases in Japan, UK and Africa. Nature played an important role in the colonization by the modern empire and the building of the modern nation states. Cultural and tourist facilities and events that showcase nature, such as botanical gardens, museums, national parks, and expositions, have shaped the natural landscape based on nationalism. In recent years, ecotourism in which indigenous peoples subjectively participate has been encouraged. In Japan, the value of Satoyama was discovered, and residents are subjectively engaged in conservation activities. Satoyama has also become popular as a venue of art festival and a tourist site. These show us a kind of potential, but at the same time need to be critically analyzed. The course explores how ecological places can be created in times of change.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:環境人文学とマルチスピーシーズ人類学の射程
- 【2】:アフリカの国立公園: イギリス帝国の環境・観光史
- 【3】:アフリカの住民参加型保全とエコツーリズム
- 【4】:「里山」の発見: 里山ブームと原風景
- 【5】:里山をめぐる言説の批評: ランドスケープ, 場所, ゾーン
- 【6】:里山と芸術祭: 地域アート批評

- 【7】: ナショナル・トラストと里山: トトロの森をつくる
- 【8】: 里山のアグロエコロジー: 落ち葉堆肥農法と世界農業遺産
- 【9】: 21 世紀の焼畑実践: 半農半 X に生きる
- 【10】: ジビエと里山: 獣害対策と観光
- 【11】: 発酵がつくる景観: 甲州ワインの可能性
- 【12】: エディブル・ランドスケープ: 食べられる都市をつくる
- 【13】: マルチスピーシーズな里山: マツタケとウルシを生み出す能動的な景観
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

不明な専門用語は事典や教科書の書籍等で調べる。新聞やインターネット記事などから講義内容に関連する事項を調べて深める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 小テスト(10% x 5 回):50% 授業への貢献度(質問の書き込み):10% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しません。

参考文献 / Readings

奥野克巳ほか モア・ザン・ヒューマン: マルチスピーシーズ人類学と環境人文学 以文社 2021 9784753103645
近藤祉秋ほか 食う、食われる、食いあう マルチスピーシーズ民族誌の思考 青土社 2021 9784791774227
森正人 文化地理学講義 新曜社 2021 9784788517394
結城正美ほか 里山という物語: 環境人文学の対話 勉誠出版 2017 9784585221807
前川啓治ほか 21 世紀の文化人類学 新曜社 2018 9784788515826
里見龍樹 入門講義 現代人類学の冒険 筑摩書房 2024 4582860710

観光社会学6(若者)

Sociology of Tourism 6 (Youth Culture)

若者文化の歴史をメディア論、消費社会学論、観光社会学の側面から考察する

新井 克弥(ARAI KATSUYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB083
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

若者論とは世代世代における若年層(20歳前後)の行動一般について考察する分野である。70年代から立ち上がった本研究分野は、以後一貫してアカデミズムのみでなく、一般にも広く親しまれている。本講義では、若者論概論と称して、その構造と歴史、そしてパラダイムの問題点など全般について考察する。観光については若者とツーリズム、とりわけバックパッキングに注目する。

Youth theory is a field that examines the general behavior of young people (around 20 years old). In this lecture, entitled "Introduction to Youth Theory," we will examine the structure and history of this field, as well as the problems of its paradigm. With regard to tourism, the focus will be on youth and tourism, particularly backpacking.

授業の内容 / Course Contents

若者論は「若者についての議論」であるが「当事者＝若者が語る議論」ではない。それゆえ議論そのものが大人社会の思惑に基づくと同時に、一般社会を照射する、あるいは一般社会の未来を占うものともみなされていることを認識する。言い換えれば若者論という議論それ自体の相対化を学習の達成目標とする

Youth theory is a "discussion about youth," but it is not a "discussion about the young people involved. Therefore, it is important to recognize that the discussion itself is based on the speculation of adult society, and at the same time, it is regarded as something that illuminates general society or predicts the future of general society. In other words, the goal of the study is to relativize the discussion of youth theory itself.

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

授業計画 / Course Schedule

【1】: 若者論とは何か。シラバスに基づき講義内容を説明する。

若者論というジャンル全般についてのオーバービュー。とりわけ、これが一つの文化社会学論であることを確認する。

【2】: 若者論の歴史(1): 若者論以前: 青年論の時代

若者論の前史として江戸時代から戦後に至る若者像＝青年の描かれ方について見ていく。

【3】: 若者論の歴史(2): 団塊の世代

若者論の前史として60年代の若者像について触れる。当時の若者の呼称となっていた団塊の世代のイメージを媒介としてサブカルチャー、学生運動、消費文化の広がりを見ていく。

【4】: 若者論の歴史(3): 青年論

70年代、若者論は心理学の影響を受け青年論と呼ばれていた。E.エリクソンによる発達段階論の「青年期」に該当する世代が分析対象となったためである。この文脈での若者論を展開する。

【5】: 若者論の歴史(4): モラトリウム人間とやさしさの時代

70年代若者論の議論の基調となった小此木啓吾のモラトリウム人間論とやさしさ論(栗原彬と大平健)を取り上げる。

【6】: 若者論の歴史(5): 消費の旗手としての新人類

80 年代、若者論は「若者文化論」という言葉に置き換えられる。そして若者は「新人類」と呼ばれ、消費社会の旗手としてみなされるようになった。これについて見ていく。

【7】: 若者論の歴史 (6) : 切り捨てられた若者、そして議論の多様化

90 年代、若者は消費だけではなく労働者として、女性として、若年層として、地域居住者としても語られるようになる。こういった多方面からの議論展開の嚆矢となった宮台真司の議論を取り上げる。

【8】: メディアと若者 a～マスメディアとの関わり

メディアとりわけテレビ、ビデオ、雑誌、ビデオゲームと若者の関係について考えていく。

【9】: メディアと若者 b～ケータイ、スマホ、SNS との関わり

ポケベル・ケータイからスマホに持ち替えることで、若者の情報行動がどのように変化したのかについて考えていく。

【10】: 消費と若者

消費者、とりわけ「ヤング」「分衆」「オタク」としての若者について考える。

【11】: 若者とコミュニケーション (1)

若者のコミュニケーション形態はどのように変化していったのか。カプセル人間、みんなぼっち、やさしさといった概念を用いながら考える。

【12】: 若者とコミュニケーション (2)

2000 年以降に出現した若者のコミュニケーションスタイルについて考察する。キーワードは空気を読む、友だち地獄、サードプレイス等。

【13】: 旅と若者 (1) ～バックパッキングの 60～70 年代

若者と旅の関係について戦後以降の変容を見ていく。ちなみに、ここではこれまで提示してきた各種概念を様々に運用し、若者の旅について考察していく。とりわけこの回では国内バックパッキングに注目する。

【14】: 旅と若者 (2) ～バックパッキングの 80 年代～

80 年代バックパッキングはメディアと旅をめぐるインフラストラクチャーの発展により、若者を海外に押し出すことになる。さらに 21 世紀に入るとインターネットとスマホ、SNS の出現によりバックパッキングのスタイルが根本的に変容を来すようになるが、その動向を見ていく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド (パワーポ等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を事前に読んでおいていただければ、講義の理解が進みます。また、毎回コメントを求めますが、これはいくつかをピックアップして次の階の講義でリアクションします。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%
平常点割合 :20% リアクションペーパーへの書き込み:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

小谷敏編 若者論を読む 世界思想社 1993 4790704815
新井克弥 バックパッカーズタウン・カオサン探検 双葉社 2000 4575291129
山口誠 ニッポンの海外旅行～若者と観光メディアの 50 年史 ちくま新書 2010 4480065598
早川洋行編 よくわかる社会学史 ミネルヴァ書房 2011 4623059901
小谷敏編 二十一世紀の若者論—あいまいな不安を生きる 世界思想社 2017 4790716937
須藤廣他編 よく分かる観光コミュニケーション ミネルヴァ書房 2022 4623091872

観光社会学2(移動)

Sociology of Tourism 2 (Mobility)

移動と観光の社会学

山口 誠(YAMAGUCHI MAKOTO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB084
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における観光の事例を具体的に分析しつつ、社会学の基本的な考え方や重要概念を理解することで、移動(モビリティ)の視点から観光を考えるための技能を習得する。

In order to acquire knowledges and skills to analyze tourism from the perspective of mobilities, students in this course will learn the basic thoughts in sociology and find the ways how to understand the cases of tourism in modern society.

授業の内容 / Course Contents

「移動」という視点から観光を考えると、何が観えてくるのだろうか。この講義では、19 世紀における観光の成り立ちから 21 世紀における SNS 観光まで、また欧米における近代型ガイドブックの誕生から日本におけるメディア・ツーリズムの事例までを広く取り上げ、できるだけ具体的に事例を分析しつつ、観光社会学の基本的な概念から応用的な理論までを探究したい。

What can we see when we pursue tourism from the viewpoint of mobilities? By analyzing a variety of cases of tourism from the rise of the tourism in the 19th century to the SNS tourism in the 21th century, and from the emergence of the modern travel guidebooks in the west to the sites of media tourism in contemporary Japan, lectures of this course attempt to show the students the ways of understanding the tourism mobilities with essential notions and applied theories of sociology of tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:移動とは: 移動 mobility の定義、移動と観光の関係
- 【2】:観光と資本主義: T.クックの問いをいま考える
- 【3】:生産社会と消費社会の移動: 近代、ポスト近代、後期近代
- 【4】:まなざしと移動: 観光と写真の事例から
- 【5】:「アウラの喪失」と SNS 型観光: 自撮りのモビリティ
- 【6】:「場所感の喪失」と移動の権力: J.メイロウィッツの問いから
- 【7】:移動/観光/メディア①: 近代型ガイドブックの誕生
- 【8】:移動/観光/メディア②: ミシュランの世紀
- 【9】:移動/観光/メディア③: 「何でも見てやろう」から「自分探し」へ
- 【10】:移動とアーティキュレーション: 文化としての観光を問う
- 【11】:移動がつくるまち①: 神戸の事例(船舶から航空機へ)
- 【12】:移動がつくるまち②: 柴又の事例(移動しないという選択)
- 【13】:観光のドラマトゥルギー: 観光的移動の台本/演出/上演
- 【14】:移動と観光のパラドクス: 「観光の終わり」と観光的移動の現在形

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で案内した文献や映像などを各自で読解・視聴することを期待する。学期中に適宜、リアクションペーパーの提出を課すことがある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

須藤廣他 よくわかる観光コミュニケーション論 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

須藤廣他 観光が世界をつくる 明石書店 2023 9784750356181

その他 / Others

授業内でレジュメ等を配布せず、PC による板書を基本とする伝統的な講義の形式でおこないます。毎回完結する授業を構成し、できるだけ具体的な事例を取り上げて学術的な発見があるよう努力するため、教室内での私語禁止にご協力願います。

観光社会学1(都市)

Sociology of Tourism 1 (City)
都市のグローバル化とホテル

大橋 健一(OHASHI KENICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB085
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光の基本施設としてのホテルが有する社会的・文化的意味の分析を通して、グローバル化に伴う移動の結節としての都市を観光の視点から具体的に理解することを目標とする。

From the viewpoint of tourism and through analysis of the social and cultural meaning of the hotel as the basic tourism facility, this course aims to understand the city as the node of mobility accompanied by globalization.

授業の内容 / Course Contents

ホテルという西洋近代発祥の施設の地球規模での普及・一般化が生み出した社会的・文化的意味について、特に非西洋社会(日本およびアジア)におけるホテルの成立と展開を重視しながら複数の事例について比較分析し、観光を含む移動がもたらすグローバル化とローカル化のせめぎあいとその帰結として成立する都市におけるホテルという文化空間の性格を解明する。

While analyzing social and cultural meaning created by proliferation and homogenization of Western-style facilities, such as hotels, and, in particular, emphasizing establishment and development of hotels in non-western societies (Japan and Asia), this course examines a number of case studies. By comparative analysis, it elucidates the nature of cultural space “hotels” in cities established as a consequence of globalization and localization brought on by the mobility that includes tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:グローバル化・移動・都市をめぐる分析枠組の検討(1)
- 【3】:グローバル化・移動・都市をめぐる分析枠組の検討(2)
- 【4】:都市とホテル
- 【5】:グローバル化とホテル
- 【6】:非西洋社会におけるホテル:日本の事例(1)
- 【7】:非西洋社会におけるホテル:日本の事例(2)
- 【8】:非西洋社会におけるホテル:日本の事例(3)
- 【9】:非西洋社会におけるホテル:日本の事例(4)
- 【10】:非西洋社会におけるホテル:アジアの事例(1)
- 【11】:非西洋社会におけるホテル:アジアの事例(2)
- 【12】:非西洋社会におけるホテル:アジアの事例(3)
- 【13】:非西洋社会におけるホテル:アジアの事例(4)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

分析の対象として取り上げる諸事例に関する関連資料を事前・事後に当たり、事例に関する理解を深めること。また、受講者各自が有する経験を客体化し、講義の内容と照らし合わせ、事例分析の一助とし、授業時に指示する課題に取り組むこと。各回の事前事後学修にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

適宜紹介する

観光人類学4(宗教)

Anthropology of Tourism 4 (Religion)

門田 岳久(KADOTA TAKEHISA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB086
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学の一ジャンルである宗教人類学の観点から、ツーリズムや消費社会と宗教との関連を学ぶ。

From the perspective of the anthropology of religion, students will study the relationship between tourism, consumer society and religion.

授業の内容 / Course Contents

人類学における先行研究や事例研究をもとに以下の問いについて考え、人類学的宗教研究の知識を身につける。

1. 「宗教」とは何か。または何であると議論されてきたか
2. 「宗教」がツーリズムと結びつく社会的なメカニズムはどのようなものか
3. 「宗教」と「観光」の境界を引くことは可能か

Drawing on previous research and ethnographic studies in cultural anthropology, we consider the following questions:

1. What is "Religion"? Or, what has been discussed on "religion" in Cultural Anthropology and Sociology of Religion?
2. What are the social mechanisms by which "religion" is linked to tourism?
3. Is it possible to draw a boundary between "religion" and "tourism"?

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:「宗教」概念の再検討
- 【2】:世俗化と拡散宗教
- 【3】:巡礼とツーリズム
- 【4】:聖地開発と文化遺産
- 【5】:物質宗教論と「聖」の商品化
- 【6】:「片付け術」に見る部屋とモノの宗教性
- 【7】:寺社参詣と政教分離:憲法判例を読む
- 【8】:心霊スポットと「死」の観光
- 【9】:スピリチュアリティと消費社会
- 【10】:陰謀論とスピリチュアリティ
- 【11】:食と宗教
- 【12】:集合的沸騰(Collective Effervescence)(1):ポピュリズム、デマゴーグ
- 【13】:集合的沸騰(Collective Effervescence)(2):祝祭、スポーツ、メディアイベント
- 【14】:人類学から見たコンテンツツーリズムおよび「アニメ聖地巡礼」研究

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

資料・テキストの事前読解及びコメントの用意が必要な場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間レポートおよびコメントペーパー:30%

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

開講時に指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

①批判的思考:ここで言う「批判的」とは否定や批難を意味しない。批判的とはすなわち、ものごとを多角的に見ることでそれまで当たり前だと見なしてきたものを相対化し、自身の常識や社会的通念、規範に別の見方を獲得することである。こうした思考の形に対して積極的であったり、抵抗感がない姿勢は一種の「能力」として求められるが、既に備わっている必要はなく、むしろ学習していくものである。

②批判的思考を養うには、何にでも好奇心を持ち、いかなる事象にも見方によっては面白さが存在するということに気付くことである。面白さは自分自身にとっての新しさであり、ある種の違和感でもある。その違和感に耐え、面白さに変換していく姿勢が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

観光と社会3(政策)

Tourism and Society 3 (Cultural Policy)

文化政策とモビリティ

別所 裕介 (BESSHO YUSUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB105
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ユーラシア大陸の西側で勃発した 2 つの戦争、そしてトランプ大統領の返り咲きを受けて、ポスト・コロナ期の私たちの日常は、これまでの当たり前が通用しない、根本的な揺らぎの中に置かれている。こうした中で観光業においても、「旅」が生み出す経験の価値について根本的な見直しの機運が高まっている。だがそうした抜本的な見直しに当たっては、既存の観光行政や制度設計だけではなく、近代観光業の発展経路自体を捉え返す「外部」の目線も必要ではなかろうか。本講義では、そうした外的視座のひとつとして、近代ツーリズムの流れからは零れ落ちてしまう「アウトローの旅」を取り上げて、「自由であること」と移動(モビリティ)の関係を掘り下げる。

これにより、「自由な移動」が封じられがちな現在だからこそ、観光の現代的展開を複合的に見据え、人間にとって可能な「自由」の幅と奥行きを提示したい。

In the wake of the two wars that have erupted in the western part of Eurasia and the return of President Trump, our daily lives in the post-COVID-19 period are in a fundamental fluctuation, where conventional norms no longer apply. Under these circumstances, there is also growing momentum in the tourism sector to fundamentally rethink the existing system with regard to the value of the experience that "journey" creates. However, in order to deepen such discussions, it is necessary not only to pay attention to existing tourism administration and institutional design, but also to take an "external" perspective on the development path of the modern tourism sector itself. In this lecture, as one of such external perspectives, taking up "outlaws' journey", which falls outside the framework of modern tourism, and delve into the relationship between freedom and mobility.

By doing so, we try to present the breadth and depth of the possible "freedom" for human beings by taking a complex view of the modern development of tourism, precisely because "free mobility" tends to be enclosed nowadays.

授業の内容 / Course Contents

- ・本講義では、通常の観光モデルからは零れ落ちてしまう「極限的な旅」のあり方を、近代の制度やシステムによる拘束から離れようとする「自由な人間像」への挑戦として受け止め、具体的に検討する。
- ・題材として、「自然へのあくなき挑戦」と「イデオロギーを乗り越える実践」の 2 つの局面を設定し、「冒険者」や「イリーガルな越境者」の個別事例から、「自由であること」と移動(モビリティ)の根源的な関係にアプローチする。
- ・上記の目標のため、以下の講義スケジュールで順次検討を進め、最後に全体の論点を総括する。

①第 1 回～3 回: ガイダンスと分析枠組みの提示

②第 4 回～7 回: 「自然篇」として、むき出しの自然と向き合うことに極限の自由を見出してきた個人の挑戦を考える

③第 8 回: 「自然篇」のまとめ

④第 9 回～12 回: 「思想篇」として、イデオロギー支配の中で「個」を追求し、不条理に抵抗する人々の姿を捉える

⑤第 13 回: 「思想篇」のまとめ

⑥第 14 回: 全体の総括

- ・In this lecture, we will concretely examine the "extreme journey" that falls outside the usual tourism model, taking it as a challenge to the "free human figure" that tries to leave the restraints of modern institutions and systems.
- ・The fundamental relationship between freedom and mobility is approached through individual cases of 'adventurers' and 'illegal border crossers', based on two aspects: the 'relentless challenge to nature' and the 'practice for overcoming ideology'.
- ・In order to achieve the above objectives, the following lecture schedule will be used to examine the issues sequentially, and the overall discussion will be summarised at the end of lecture.

Sessions 1 to 3: Guidance and presentation of the analytical framework

Sessions 4 to 7: The "Nature" section examines the challenges of individuals who have found extreme freedom in confronting bare nature.

Session 8: Summary of the "Nature" section

Sessions 9 to 12: The "Thought" section focuses on people who pursue the "self" and resist absurdity in the face of ideological domination.

Session 13: Summary of the "Thought" section

Session 14: Summary of the whole course

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション～ポスト・コロナ時代の「自由」と文化行政
- 【2】:概念整理①～自然と文化
- 【3】:概念整理②～伝統と近代
- 【4】:自然篇～極限への挑戦
- 【5】:前近代の冒険者～苦行者とニルヴァーナ
- 【6】:近代の冒険者～「チベット入り」を目指した人々
- 【7】:現代の冒険者～極地における「生」と「死」
- 【8】:自然篇のまとめ～「冒険者たち」にとってのゴール
- 【9】:思想篇～イデオロギーの時代
- 【10】:狂う人～緒方正人と「いのちの海」
- 【11】:パスポートの向こう側～佐々井秀嶺とインド
- 【12】:イリーガルな越境～辺境のスピリチュアル・ツーリズム
- 【13】:思想篇のまとめ～束縛と依存
- 【14】:総括～「自由な人間性」と移動(モビリティ)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・事前学習:事前にオンライン(Canvas LMS を使用予定)で配布されるレジュメ(穴埋め問題あり)および資料を読み込んで当日の講義に臨むこと。
- ・講義時間外:すべての講義資料、ならびに復習用の教材は< Canvas LMS >を通じて受講者に配信される。毎回の講義後は、これらの教材に目を通して講義内容の復習を進め、各回ごとの学修を深めること。
- ・なお、参考文献は講義スケジュールと対応している。受講者は<参考文献>の欄に示した【読書案内】に従って、No.1～No.7の書籍を事前に読み込んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 受講状況(リアクションペーパー):40% 小レポート(小テスト):10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 服部文祥 サバイバル登山家 みすず書房 2006 9784622072201
 井田克征 世界を動かす聖者たち 平凡社 2014 9784582857245
 沢木耕太郎 天路の旅人 新潮社 2022 9784103275237
 ジョン・クラカワー 荒野へ 集英社文庫 2007 9784087605242
 大野哲也 旅を生きる人びと:バックパッカーの人類学 世界思想社 2012 9784790715672
 緒方正人 チッツは私であった:水俣病の思想 河出書房新社 2020 9784309417844

【読書案内】

- ・各回の講義実施日までに目を通しておくことが必須となる上記文献については、受講者が事前にオンラインで通読できるよう手配する。
- ・受講スケジュールと参考文献(No.)の関連は以下のとおりである。

第4回講義＝No. 1

第5回講義＝No. 2

第6回講義＝No. 3

第7回講義＝No. 4

第9回講義＝No. 5

第10回講義＝No. 6

第11回講義＝No. 7

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

グローバル化の中で深まる国家／データ覇権主義と、その支配の網の目を逃れる道を独特なやり方で追及する人々のローカルな営みに関心を持つ学生の受講を期待します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

①講師 WEB サイト: <https://sites.google.com/view/amdostudiesjp>

②20代のほとんどの時間を、自転車による人力移動を中心とするアジアひとり旅と、そのための資金稼ぎに費やしてきました。その時の経験がこの講義の素になっています。

観光文学5(思想)

Tourism Literature 5 (Philosophy of Travel)

観光経験を巡る哲学的考察

原 一樹 (HARA KAZUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB107
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、人間の観光経験を構成する様々な基本的概念について、哲学・倫理学理論や古今東西の文学作品を参照しつつ考察を深める。受講生は、自分自身の旅をより豊かに経験し反省するための力、人々に対して意義深い観光経験を提供するための基礎となる力を身に付ける。

This course aims to deepen the understanding of fundamental concepts that constitute tourism experience through the examination of texts of philosophy, ethics and literature all times and places. Students will acquire the ability to experience and reflect on their own journey and the basic ability to offer meaningful tourism experience to other people.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、旅行前・旅行中・旅行後のそれぞれの場面において、観光経験を構成する基本的概念について、哲学・倫理学理論や文学作品を参照しつつ検討する。旅行前については想像力と欲望、旅行中については知覚・感情・理解、旅行後については主体の変容、語り、価値創造の概念をそれぞれ取り上げる。各場面について受講生にレポートを作成して貰い、レポート内容をもとにした受講生同士のディスカッションの回を設ける。

This course examines the fundamental concepts of tourism experience by referring to various texts of philosophy, ethics and literature. The course will be divided in three parts, namely, pre-tour stage, on-tour stage and post-tour stage. The fundamental concepts will be examined along these stages. Students will be required to submit three reports and to participate in discussion with other students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス 観光経験の研究状況
- 【2】: 旅に向かう想像力と欲望の編成 1 全体の見取り図
- 【3】: 旅に向かう想像力と欲望の編成 2 哲学・倫理学との関わり
- 【4】: 旅に向かう想像力と欲望の編成 3 文学作品における事例
- 【5】: グループディスカッションと報告
- 【6】: 旅における知覚・感情・理解 1 全体の見取り図
- 【7】: 旅における知覚・感情・理解 2 哲学・倫理学との関わり
- 【8】: 旅における知覚・感情・理解 3 文学作品における事例
- 【9】: グループディスカッションと報告
- 【10】: 旅のもたらす効果－主体の変容、語り、価値創造 1 全体の見取り図
- 【11】: 旅のもたらす効果－主体の変容、語り、価値創造 2 哲学・倫理学との関わり

【12】:旅のもたらす効果ー主体の変容、語り、価値創造 3 文学作品における事例

【13】:グループディスカッションと報告

【14】:全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業開始までに教員が配信するテキストを読んでおくこと。授業終了後、当該授業のコメントを提出すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み(毎回のコメント提出):40% 第2回～第4回内容に関するレポート:20%
第6回～第8回内容に関するレポート:20% 第10回～第12回内容に関するレポート:20%

テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

観光文学2(SF)

Tourism Literature 2 (Science Fiction)

空想旅行の系譜学

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB108
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

古今東西の「空想旅行記」のうち、特に十九世紀ヨーロッパが生み出した作品を取り上げ、その読解を通じて西欧的な旅の根底に潜む欲望を分析する。

Among the “fantasy travel journals” of all times and places, this course highlights works created in 19th-century Europe and, through the readings, analyzes the underlying desires of the western journey.

授業の内容 / Course Contents

19 世紀ヨーロッパは「幻想」と「現実」のあいだの緊張が頂点を迎え、優れた空想旅行記が数多く書かれた。その代表的な作品をできるだけ多く紹介し、時代背景と密接に関連させながら内容を解説する。物語の構造を正確に理解し、細部に込められた意味を明らかにし、関連する図版を用いて理解を深めることを目指す。旅は世界を「知る」ための特権的な手段であり方法でもある。「旅」が「観光」となる「近代」において、技術の発達や世俗化を背景に「世界の知識」の性格には、どのような変容が起きていたのだろうか。本講義では、それ以前の世界観との比較を通して、「近代」を形成してきたヨーロッパの世界観の特徴を把握しようと試みる。

Nineteenth-century Europe reached a period of climactic tension between “fantasy” and “reality,” during which many excellent fantasy travelogues were written. Introducing as many representative works as possible, the course explains the contents in close relation to the historical background. The course aims for students to understand accurately the narrative structure, clarify meaning embedded in the details, and deepen their understanding with related drawings. Travel is a privileged means and way of “knowing” the world. So what kind of transformation has occurred in the nature of “knowledge of the world” that has been questioned in “modernity” where “travel” becomes “tourism,” against the background of technological development and secularization? This course attempts to grasp characteristics of the European worldview that has formed “modernity” through comparison with worldviews of earlier cultures.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション——空想旅行の系譜学
- 【2】: 空想旅行記の変容——天動説から地動説へ
- 【3】: ユートピアとその地理学
- 【4】: ロビンソン譚の系譜——島をめぐる想像力
- 【5】: 極地の冒険 1
- 【6】: 極地の冒険 2
- 【7】: 極地の冒険 3
- 【8】: 地底の冒険 1
- 【9】: 地底の冒険 2
- 【10】: 地底の冒険 3

【11】: 童話と秘境探検もの——異世界と死

【12】: 月世界旅行 1

【13】: 月世界旅行 2

【14】: 20 世紀のアンチユートピア

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

谷川渥『幻想の地誌学』に目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ウンベルト・エーコ 異世界の書 東洋書林 2015 4887218214

ウンベルト・エーコ バウドリーノ 上 岩波書店 2017 4003271823

ウンベルト・エーコ バウドリーノ 下 岩波書店 2017 4003271831

ジュール・ヴェルヌ 地底旅行 岩波書店 1997 4003256921

谷川渥 幻想の地誌学 筑摩書房 2000 4480085815

観光文学1(移動)

Tourism Literature 1 (Migration)

東京という〈場〉の文学的考察

齋藤 秀昭(SAITO HIDEAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB109
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

人間の〈移動〉が生み出すダイナミズムとして形成されて来た東京という〈場〉を、東京を舞台にした日本近代文学の名短篇の読解を通して分析していきたい。それは、〈場〉の重層的な歴史性を文学的な方面から理解することによって、観光学的地域振興のありかた(「聖地巡礼」的行為の学問化)について考える試みとなるだろう。

This course focuses on "Tokyo" as a topos that is achieved by dynamism of human migration. This course aims to analyze modern Japanese short stories in Tokyo's background. To gain an understanding of multi-historical topos from literature, we think of regional promotion by tourism, particularly the content of tourism.

授業の内容 / Course Contents

東京を舞台にした日本近代文学の名短篇を毎回取りあげ、それらの作品が描き出してきた〈場〉としての東京を考察していく。それは人やモノが〈移動〉し交流する中で歴史的に形成されていく〈場〉について考えるということである。地域振興をおこなう際に欠かせないのは、ハード面でばかり考えるのではなく、生身の人間が「生きる・生きた」時空間としての〈場〉を創造(想像)的に把握することだろう。その訓練を受講者相互の意見交換を交えながら、実践していく。

This course follows modern Japanese short stories with Tokyo as the background and analyze descriptions of Tokyo. The historical topos of human and materials migration are also considered. Regional promotion needs not only hardware but also human living and thinking as software. Students' learning will be discussion-based.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(授業に関する説明、東京概論)
- 【2】: 樋口一葉「十三夜」の読解と意見交換
- 【3】: 泉鏡花「夜行巡査」の読解と意見交換
- 【4】: 国木田独步「窮死」の読解と意見交換
- 【5】: 永井荷風「監獄署の裏」の読解と意見交換
- 【6】: 森鷗外「普請中」の読解と意見交換
- 【7】: 室生犀星「公園小品」の読解と意見交換
- 【8】: 伊藤整「M 百貨店」の読解と意見交換
- 【9】: 太宰治「東京八景」の読解と意見交換
- 【10】: 壺井栄「鷺宮二丁目」と上林暁「国民酒場」の読解と意見交換
- 【11】: 稲垣足穂「有楽町の思想」の読解と意見交換
- 【12】: 林芙美子「下町」の読解と意見交換
- 【13】: 遠藤周作「札の辻」の読解と意見交換
- 【14】: 総括(坪内祐三「東京」の読解と、授業全体のまとめ)、最終レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

本授業はアクティブラーニングを重視しているので、毎回リーダーを決めて4人一組のグループで話し合いをおこない、その結果を全受講者に対して報告(全体共有)する形となる。
自分なりの作品読解を積極的に他者へ発信する姿勢に期待する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト3冊を必ず購入した上で、授業で扱う作品は当日までに熟読し、リアクションペーパーを各自完成させておく(これだけは怠らないでほしい。事前学修時間 45 時間)。

また復習として、授業で学んだことや協同討議の内容をノートにまとめておくと同時に最終レポートの構想作りを進めておく。そして未だ完全には終息してはいないコロナ禍におけるマナーを遵守しながら、「聖地巡礼」的課外活動に各自取り組むことを推奨する(事後学修時間 45 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ほぼ毎回提出のリアクションペーパー:60% 最終レポート割合::40%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得の対象外となる可能性がある。

また提出物の提出状況やその内容によっては合格点に達しないこともあるので、地道にリアクションペーパー及び最終レポートの作成に取り組むこと。

テキスト / Textbooks

ロバート キャンベルほか編 東京百年物語 1 岩波文庫 2018 9784003121719

ロバート キャンベルほか編 東京百年物語 2 岩波文庫 2018 9784003121726

ロバート キャンベルほか編 東京百年物語 3 岩波文庫 2018 9784003121733

必要に応じてプリントを配布することもある。

参考文献 / Readings

立教大学観光学部編 大学的東京ガイド—こだわりの歩き方 昭和堂 2019 9784812218143

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

教員の講義以外に受講者同士の対話(話し合い)や議論をおこなっていくので、他者と気軽にコミュニケーションをとる姿勢が必須。

一方通行的な授業にはせず、参加者全員で「観光文学」作品の魅力や価値を発見していこうと思っているので、是非その創造的営みを楽しみつつ、各自学修に励んでもらいたい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料の閲覧や自分のリアクションペーパーの内容を参照する場面があると思うので、ノートパソコンやタブレットを持参できる人は持参してほしい。

その他 / Others

学生への連絡や授業資料の配付、課題の提出及びその評価等は、全て「Canvas LMS」を通しておこなう。

受講者に興味を抱いてもらえるよう、スライドや書画カメラを用いて各種資料を活用する。

リアクションペーパーは毎回採点し、優れたものや興味深いものを授業中に紹介することで全体共有する(これが本授業におけるフィードバックとなる)。

教室では4人一組になるような形で着席すること(2回目の授業から「指定席」にするが、全て話し合いを円滑に進めるための措置である)。

観光と社会6(国際関係)

Tourism and Society 6 (International Relations)

激動する国際関係を理解するために

今泉 良太 (IMAIZUMI RYOTA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB115
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国境を超えて移動する人間・お金・サービスなどの増大は世界的範囲で大きな社会変動を及ぼしている。本講義では、そうした現在の国際社会を理解するための視点を得ることを目標とする。

This course aims to gain perspectives for understanding the current state of international society, focusing on the increased movement of people across borders that is causing major social changes on a global level.

授業の内容 / Course Contents

移民・移住・観光など人間の国際間移動がこれまでどのような形で行われてきたかについて歴史的・政治的・経済的視点から講義していくこととする。またグローバル化がいつそう進みつつある現在における問題点、さらに最も身近な日本における現状や問題点についても考察する。

From historical, political, and economic perspectives, this course offers information on past forms of international movements of people, such as emigration and migration. The course also examines current problems caused by advancing globalization and by conditions and problems now most familiar in Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 国境を超える人の移動 ― 移民・移住・観光 ―
- 【2】: 人の移動の発生要因
- 【3】: 国境を超える人の移動と国民国家
- 【4】: 国境を超える人の移動の歴史1
- 【5】: 国境を超える人の移動の歴史2
- 【6】: 日本から海外への人の移動の歴史1
- 【7】: 日本から海外への人の移動の歴史2
- 【8】: 日本国内のグローバル化
- 【9】: 国境を超える人の移動と安全保障問題
- 【10】: 観光と国際関係1
- 【11】: 観光と国際関係2
- 【12】: グローバル化と国際観光1
- 【13】: グローバル化と国際観光2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

インターネット・新聞・書籍・テレビ・ラジオなどを通じて常に国内外の政治・経済・社会の最新情勢を把握するように努めること。また授業中に紹介する参考文献についても読むように努めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパーの内容(複数回):50%

テキスト / Textbooks

授業時に必要に応じて教材を配布する。

参考文献 / Readings

S. カールズ他 『国際移民の時代』〔第4版〕名古屋大学出版会 2011 4815806551

吉原和男など編 『人の移動事典 ―日本からアジアへ・アジアから日本へ―』丸善出版 2013 4621087193

川田侃・大畠英樹編 『国際政治経済辞典』(改訂版) 東京書籍 2003 4487732336

国土交通省観光庁 『観光白書』(各年版) 国土交通省観光庁

バティスト・コルナバス 『地政学世界地図:超約 国際問題 33 の論点』東京書籍 2020 4487813379

その他、授業時に内容に応じてその都度必要な書籍などを紹介していく予定である。

その他 / Others

リアクションペーパーの内容は厳正に採点する。文字数が極端に少ない(例えば一言しか書かない)、また判読不能な字(殴り書き)、日本語以外の外国語などでの提出は採点対象としないので十分に注意すること。

観光人類学5(グローバルゼーション)

Anthropology of Tourism 5 (Globalization)

[文化/Culture]から見るグローバル世界

小西 公大(KONISHI KODAI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB116
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、グローバルな社会状況下におけるポップカルチャー、芸術文化、視覚文化、地域開発といった事例をもとに、これまで人類学がキー概念としてきた「文化 culture」が消費(市場)や政治と結びついていく現代社会特有の仕組みについて理解を深め、新たな価値創造を行うための基礎的な論理と発想法を学ぶことを目的としている。

This lecture aims to deepen students' understanding of how "culture," which has been a key concept in anthropology, is linked to consumption (market) and politics in contemporary society, based on examples of pop culture, artistic culture, visual culture, and regional development under global social conditions. Based on this, students will learn the basic logic and conceptualization for creating new values.

授業の内容 / Course Contents

本科目でいう「文化」とは、絵画や芸能などの芸術作品に限らず、文化人類学で定義するような人々の生活様式やものの考え全般を指す。国家や現実政治がこうした意味での「文化」を対象化することは、ある面では文化を創造し進化させていく側面を持つが、別の面においては自律的な生活世界の統治や管理でもある。

なぜ近代国家、政治や市場は文化をコントロール下に置くようになったのか。またその功罪は何か。「文化の政治学」について理解を深めることは、観光と文化との関係を考察するためにも不可欠な視点を提供する。

本科目では日本をはじめ世界の多様な民族誌的事例に即して、グローバルな文化の生成過程を、文化的コンテンツの多様化、地域社会の取り組み、消費社会の進展、ローカリズムの興隆などの観点から読み解いていく。

"Culture" in this subject is not limited to works of art such as paintings and performing arts, but refers to all the lifestyles and ideas of people as defined in cultural anthropology.

The targeting of "culture" by the nation and real politics has the aspect of creating and evolving culture in one respect, but in another aspect it means that the governance and management of the autonomous life world will progress.

Why did modern nations and politics come under control of culture? What are the merits and demerits? A deeper understanding of "politics of culture" provides an essential perspective for considering the relationship between tourism and culture.

In this course, we will look at the process of creating global culture from the perspectives of diversification of cultural content, community initiatives, development of consumer society, and the rise of localism, in line with various ethnographic cases in Japan and around the world.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 文化論の源流
- 【2】: 文化／カルチャーとはなにか① 教養主義からの脱却
- 【3】: 文化／カルチャーとはなにか② フォームとしての文化
- 【4】: 消費文化論① 疎外と搾取構造から

- 【5】:消費文化論② 文化生産論
 【6】:消費文化論③ シミュラクルとリアリティ
 【7】:文化とグローバリゼーション① 文化帝国主義批判から
 【8】:文化とグローバリゼーション② 記号の遠心力と求心力
 【9】:ローカリズムと排外主義① ヘイトスピーチはなぜ起こる？
 【10】:ローカリズムと排外主義② 新たなコミュニティ創造に向けて
 【11】:現代アートをめぐるポリティクス:グローバル市場にて
 【12】:地域開発の可能性:「関係性の美学」でいいのか
 【13】:複製技術とサウンド経験:with コロナ時代のライブエンターテインメント
 【14】:まとめ:グローバル空間における価値創造とは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 課題レポート:20% 出席状況・授業への取り組み:20%

本科目ではグローバル文化という一見遠い世界のように思える現象が、身近な環境に広がっていることを自らの目で理解するために、簡単な調査に基づくレポートを課す予定です。受講生の主体的な学習を求めます。

テキスト / Textbooks

テキストは指定しないが、授業内で適宜文献を提示もしくは配布する。

参考文献 / Readings

ジョン・トムリンソン グローバリゼーション—文化帝国主義を超えて 青土社
 伊豫谷 登士翁 グローバリゼーションとは何か(平凡社新書) 平凡社
 小澤正人(編) グローカリゼーションと文化移転 成城大学具ローカル研究センター
 毛利嘉孝 ストリートの思想 NHK ブックス

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本講義では、授業内で発言が求められたり、グループディスカッションを行ったりすることがある。発言したり、他者との意見交換を積極的に行う意思のない学生は履修に関して再考を勧める。

観光と社会1(移動)

Tourism and Society 1 (Mobility)

川嶋 久美子(KAWASHIMA KUMIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB117
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「移動」(モビリティ)の枠組みから観光や人々の日常生活を認識し直すことで、社会は身体、モノ、資本、情報、テクノロジー等の移動によって成り立ち、変化してきたことを理解する。グローバルな格差解消や持続可能な社会の実現を自分事として捉える視野を獲得する。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Reinterpret tourism and society through the framework of mobility to understand that society has been built on and changed by mobile bodies, things, capital, information and technologies.
- 2) Understand that reducing global inequality and building a sustainable society are personal issues that directly affect their lives.

授業の内容 / Course Contents

講義ではグローバル社会が直面する喫緊の課題を題材にし、移動の社会学の視座から考察する。学生による調査プロジェクトとプレゼンテーションでは環境破壊や経済格差など、観光と移動に直結する諸問題の解決に向けた活動例を調査し分析する。

In this course, lectures delve into the sociology of mobility, exploring critical issues confronting global society. Through individual projects and presentations, students conduct research and analyze existing initiatives aimed at tackling problems associated with tourism and mobility, such as environmental destruction and economic inequality.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:モビリティから見る社会
- 【3】:環境問題1:マストツーリズムによる環境破壊と持続可能な観光
- 【4】:環境問題2:ゴミ問題から消費文化を考える
- 【5】:南北問題1:グローバル格差と国際移動
- 【6】:南北問題2:移民労働
- 【7】:環境問題と南北問題:応用編
- 【8】:調査プロジェクトの計画
- 【9】:調査プロジェクトの経過報告
- 【10】:調査プロジェクトの経過報告
- 【11】:調査プロジェクトの経過報告
- 【12】:プレゼンテーション準備
- 【13】:プレゼンテーション
- 【14】:プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

調査プロジェクトや発表の準備は主に授業時間外に行うため、自己学習の時間を確保する必要がある。
他の授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の提出物:30% グループプレゼンテーション:30% プレゼンテーション資料:40%

テキスト / Textbooks

適宜案内する。

参考文献 / Readings

適宜案内する。

その他 / Others

PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料やオンラインコンテンツも適宜取り入れる。デジタルツールを活用した双方向的な講義を実施する。プロジェクトの準備として早い段階から各自、資料調査など行うため、学期を通して学生の能動的な参加を前提とする。

観光歴史学2(近代)

History of Tourism 2 (Modern Period)

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB118
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「近代」という時代に焦点を絞り、そこで看取される観光の変遷を把握するとともに、その背景としてあった「近代性」についての理解を得る。また、それらについての学習を通じて、「観光とは何か」や「近代とは何か」といった問いを深めていく。

Understanding the state of tourism developed in colonies in various ways, and the relationship between the colony and tourism, we will deepen our understanding of the questions, “what is a colony?” and “what is tourism?”.

授業の内容 / Course Contents

観光はたびたび「近代の産物」や「近代的な現象」と称される。本講義では、産業革命や帝国主義といった近代を特徴付ける事象に着目し、それらを背景に成立し展開していった観光のありようを取り上げる。また、観光の進展がいかに関社会の近代化やグローバル化を促進していったのかについても検討する。

We will highlight the state of tourism established and developed in colonies and occupied territories held by modern Japan. Regionally, focusing on the Japanese colonies in a broad sense, such as Taiwan, Korea, Manchuria and islands in the South Seas, we will also refer to the human flows to the mainland from each colony. In addition, we will highlight events during the colonial era, found in places of modern tourism, examining their meaning and position.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 近代という時代
- 【3】: 産業革命と観光 1【鉄道】
- 【4】: 産業革命と観光 2【船舶】
- 【5】: 産業革命と観光 3【新中間層】
- 【6】: 産業革命と帝国主義
- 【7】: 帝国主義と観光 1【ホテル】
- 【8】: 帝国主義と観光 2【旅行会社】
- 【9】: 帝国主義と観光 3【台湾の事例】
- 【10】: 帝国主義と観光 4【朝鮮の事例】
- 【11】: 帝国主義と観光 5【満洲の事例】
- 【12】: 帝国主義と観光 6【国際観光局】
- 【13】: 「近代」の現在
- 【14】: 講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義で紹介する文献を積極的に読み進める。

これまでに身につけた「近代」に関する知識のうち、観光と関連が深いと思われる事柄について振り返っておく。

観光に関するニュースへの関心を高め、現代観光と近代におけるそれとの連続性/非連続性を意識するようにする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献リストを提示する。

観光人類学2(エスニシティ)

Anthropology of Tourism 2 (Ethnicity)

人を分ける「境界線」を問いなおす

久保 忠行(KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB119
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は、次のとおりである。

- 1) エスニシティなど集団や文化を分ける境界線が、社会的に構築されたものであることを理解すること。
- 2) 特に社会的に周縁化された人の視点から、既存の境界線のあり方を批判的に考察できるようになること。

In this course, students will be able to:

- 1) understand that the boundaries that demarcate groups and cultures, such as ethnicity, are socially constructed.
- 2) critically examine existing boundaries, especially from the perspective of those who are socially marginalized.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、まずグローバル化がいかに社会、文化、国家のあり方を変化させるのかを学ぶ。次に国民国家、先住民、紛争、難民、無国籍、レイシズムといった切り口から、どのように人間集団が創られるのかを学ぶ。これらの事例をもとに、観光資源となるモノや人間集団がいかに構築されるのかを考察するための知識を得る。

First, we will learn how globalization has been changing society, culture, and nation states. Next, we will learn how different categories of human groups are constructed through the aspects of nation-states, indigenous peoples, conflicts, refugees, statelessness, and racism. Based on these examples, students will gain knowledge to examine how objects and human groups are constructed as resources for tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 比較・分類と社会の秩序
- 【2】: グローバル化: 国境をこえた世界の繋がり方
- 【3】: ローカル化: 文化はいかに根付くのか
- 【4】: 周縁社会からみたグローバル化
- 【5】: 文化のとらえ方: 消滅の語りと生成の語り
- 【6】: 人間集団のカテゴリー(1): 先住民とはだれか?
- 【7】: 人間集団のカテゴリー(2): 日本人とはだれか?
- 【8】: 人間集団のカテゴリー(3): 国民国家とナショナリズム
- 【9】: 人間集団のカテゴリー(4): 「民族」紛争はいかに生じるのか
- 【10】: 人間集団のカテゴリー(5): 難民とはだれか?
- 【11】: 人間集団のカテゴリー(6): 無国籍と複数国籍
- 【12】: 人間集団のカテゴリー(7): レイシズム
- 【13】: グローバル時代の共生と観光
- 【14】: まとめと展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

上記はシラバス執筆時の予定であり、変更する場合がある。履修許可者は初回授業までに Canvas LMS にログインして詳細を確認すること。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配付資料を確認し、授業前に課す問いに答えること(2 時間)

授業で提示した課題に回答すること(2 時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内容の理解に関する課題(前半):30% 授業内容の理解に関する課題(後半):30% 事前学習:28% 授業への参加:12%

未提出や遅延には応じない。授業への参加は出席点ではない。

テキスト / Textbooks

使用しない。適宜、文献を紹介する。

参考文献 / Readings

伊豫谷登士翁『グローバル化—移動から現代を読みとく』筑摩書房 2021 9784480074485

内藤直樹・山北輝裕(編)『社会的包摂／排除の人類学—開発・難民・福祉』昭和堂 2014 9784812213414

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

締め切りを厳守することができるスケジュール管理の能力。

人類学的なアプローチでは、すぐに答えがでないテーマや問題に向き合うことができる知的な態度が求められる。「タイパ」「コスパ」とは真逆の姿勢が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料は、Canvas LMS をととして穴埋め形式になった PDF ファイルで配布する。教室では配付しない。

各自で印刷するか PDF ファイルに書き込みができるタブレットや PC を持参すること。

その他 / Others

予習、復習や授業中に Google フォームや、その他のオンラインツールを用いて質問をしたり理解度をたずねる。質問があれば、翌週にフィードバックする。また授業中に聴取した質問や意見をもとに、ディスカッションやペアワークなどを実施することもある。授業内容はシラバス執筆時のものである。時勢に応じて、若干、内容に変更が生じることがある。

観光社会学7(文化遺産)

Sociology of Tourism 7 (Cultural Heritage)

文化遺産を通して読みとく現代社会

鍋倉 咲希(NABEKURA SAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB127
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、観光目的として重要性を増している文化遺産の保護・活用の実態を理解するとともに、それを分析するための社会学的な基礎知識を身につけることを目標とする。

Upon successful completion of the course, students will be able to understand the reality of the protection and utilization of cultural heritage, which is becoming increasingly important as a tourism objective, and to acquire the basic sociological knowledge needed to analyze it.

授業の内容 / Course Contents

一般に、美術品や遺跡、伝統的な町並みなどの文化遺産は「正しく」保存され、「正しく」公開・活用されるべき対象として考えられている。しかし、そもそもなぜ、私たちは何らかの事物に価値があると感じ、それを保存すべきだと思うのだろうか。本講義では「文化遺産」という社会的仕組みそのものが、なぜ、どのように、どこで、誰の働きによって成立しているのか、そこにいかなる複雑なプロセスがあるのかを社会学的視点から理解し、あらゆる事物の保存を求める現代社会の特性を考察する。講義の前半は各回の問いにしたがい、社会学の理論を紹介する。後半には観光現象と関連の深いテーマ・事例を取り上げ、文化遺産観光の現在を分析する。

In general, cultural heritage such as works of art, archaeological sites, and traditional townscapes are considered to be objects that should be "properly" preserved and disclosed. However, why do we feel that some things have value and should be preserved? In this lecture, we will consider the following two points from a sociological perspective.

1) How, why, where, and by whom is the social system of "cultural heritage" itself established, and what complex processes are involved?

2) What are the characteristics of modern society that demand the preservation of all things?

The first half of the lecture will introduce sociological theories according to the questions of each session. The second half of the lecture will focus on themes and cases closely related to the phenomenon of tourism, and analyze the current state of cultural heritage tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 「遺産化」という視点
- 【2】: 文化遺産保護制度の歴史と現在
- 【3】: なぜ文化遺産を保存するのか? ①: 真正性
- 【4】: なぜ文化遺産を保存するのか? ②: 博物館学的欲望
- 【5】: 誰が文化遺産を作るのか?: 国民国家とナショナリズム

- 【6】:文化遺産は誰のものか?:多様な価値のせめぎあい
 【7】:文化を表象するのは誰か?:博物館とモノ
 【8】:文化遺産が商品になるとき:文化遺産のカジュアル化と観光
 【9】:文化遺産と経済とのせめぎあい:保存から活用へ
 【10】:多様な文化遺産と観光①:歴史的環境と町並み保存
 【11】:多様な文化遺産と観光②:ゲストスピーカー
 【12】:多様な文化遺産と観光③:芸術／アート
 【13】:多様な文化遺産と観光④:負の遺産
 【14】:全体のまとめ:保存世界のゆくえ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業後には各回でリアクションペーパーの提出を求める。

また、授業中に参考文献や新聞記事、ウェブサイト等を紹介するので、授業後に復習を兼ねて読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 受講態度、提出物:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

木村至聖・森久聡編『社会学で読み解く文化遺産—新しい研究の視点とフィールド』新曜社 2020 9784788516878

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業はオンラインで実施されます。円滑な授業運営のため、各自で受講に適したオンライン環境を整えてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoomに参加するためのPCなどを準備してください。

観光文学3(紀行文)

Tourism Literature 3 (Travelogue)

近現代日本の紀行文学を学ぶ

棕棒 哲也(MUKUBOU TETSUYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB135
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

近現代日本のさまざまな「紀行文(学)」を読み、各作品の特徴について考えるとともに、その文学的・社会的背景を学ぶ。

We will read various travelogues from modern and contemporary Japan, consider the characteristics of each work, and learn about the literary and social background.

授業の内容 / Course Contents

旅をするときに私たちは、旅で得た体験を言葉や映像で記録に残し、それを自他の記憶に刻むための手がかりとする。本授業は、そのような記録のうち近現代の、そして日本文で記されたものを考察の主たる対象と定める。まず「紀行文(学)」の概要を検討したあとに、比較的よく知られた且つ入手し易い作品を中心に、時代を下りながら読み進めてゆく。このとき作者たちの旅先は、同時代の「日本」の内か外かを問わない。なお授業の内容は修正することがあるから、留意しておくこと。

When we travel, we record our experiences in words and images, and use these as a guide to help us remember our own and other people's memories. This class will focus on modern and contemporary travelogues in Japanese. After an overview of travelogues, we will read a selection of relatively well-known and accessible works, moving chronologically through the period. The destinations of the writers will be both inside and outside of Japan. Please note that the content of the class may be subject to change.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: はじめに: 「紀行文(学)」とは何か
- 【2】: イザベラ・バード「日本奥地紀行」
- 【3】: 森鷗外「みちの記」
- 【4】: 五人づれ「五足の靴」
- 【5】: 夏目漱石「満韓ところどころ」
- 【6】: 芥川龍之介「江南游記」
- 【7】: 若山牧水「みなかみ紀行」
- 【8】: 深田久弥「日本百名山」
- 【9】: 林芙美子「下駄で歩いた巴里」
- 【10】: 太宰治「佐渡」
- 【11】: 三島由紀夫「アポロの杯」
- 【12】: 沢木耕太郎「深夜特急」
- 【13】: 村上春樹「大いなるメコン川の畔で」
- 【14】: おわりに: ピエール・バイヤール〈行ったことのない場所について語る方法〉

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業の流れは次のとおり。(1)スライドやその他教材を用いて、教員が作者や作品について講義を行う。(2)学生はグループに分かれてディスカッションを行い、その後でグループ毎の意見を代表者がクラス全体へ発表する。(3)教員が議論をまとめる、または作品について重ねて解説を行う。なお(2)の詳細は、後述する「履修にあたって求められる能力」を参照すること。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業が始まる前に教員が指定したテキストを読み、コメントを「Google Forms」で入力すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の出席と、併せて毎回書いてもらうコメントペーパー:70% 最終レポート割合::30%
7割(14回のうち10回)以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。また30分を越えて入室・退出する行為はこれを出席と認めない。なお教育実習ほか各種実習や採用に直接関わる就職活動(セミナーや説明会は除く)等による欠席、電車遅延(要証明書)等による遅刻、の場合は相談に応じる。弔事もこれに同じ。また学校感染症による出席停止措置を受けた場合を除き、病欠に対する配慮は難しい。部活動による欠席についても対応できない。

テキスト / Textbooks

教員が「Canvas LMS」に「モジュール」を設けて、資料を提供する。

参考文献 / Readings

なし。機会があり次第、教員が授業内において紹介する。

履修にあたって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業は、受講者に積極的な授業参加を求める。まず受講者は、授業前に「Google Forms」へコメントを入力する。第2～13回において、「各作品の特徴について考える」項目を設ける予定であるが、必ず各作品を読んだ上で作業を行うこと。作品の全文を各種AIサイトに貼る／その他アプリを用いる、等の操作で学習を代替すべきではない。その行為は「授業の目標」に反するものとなる。次に授業内でグループ・ディスカッションに参加し、上記のコメントに基づいた発表を行う。そして各グループの代表者が、全体へ向けて議論の内容を紹介する。代表者は各回で異なる受講者が務める。以上本授業は、テキストを読む・コメントを書く・受講者相互で話す・発表を聞き取る、という四つの活動を軸とするから、その旨を承知しておいて頂きたい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノートPC。ないしはタブレット。どちらも用意できない場合、授業前にPDFファイルをプリントアウトする準備をしておくこと。スマートフォンだけで当授業に参加した場合、困難を伴う恐れがあるから、注意されたい。

その他 / Others

第1回はガイダンスを行う回です。授業のアウトラインを説明する、とても重要な回ですので、これへ参加せずに履修の手続きを行い、あとで後悔することのないよう、必ず参加して下さい。

観光地理学4(文化)

Geography of Tourism 4 (Culture)

文化をめぐる観光地理学

松井 圭介 (MATSUI KEISUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB137
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化地域、文化景観、文化生態、文化伝播等、文化・観光地理学の基本的概念を理解する。文化地理学の研究領域をまず示し、続いて具体的な事例や研究成果に即しながら文化・観光地理学の基本的な概念を身につける。

This course aims for students to understand the basic concepts of cultural geography, such as cultural regions, cultural landscapes, cultural ecology, and cultural diffusion. The course first covers research areas of cultural geography and, second, the basic concepts of cultural geography based on specific case studies and research results.

授業の内容 / Course Contents

文化地域(等質地域と機能地域、頭の中の地域と空間)、文化伝播(伝播概念の背景、文化圏と文化領域、空間的拡散)、文化生態(環境決定論、環境可能論、環境認知論、心の中の景観)、文化統合(統合体としての文化とその説明)、文化景観(文化景観とは何か、その解説、形成と変容、心の中の景観)などに触れる。紹介する文献や簡単な実習などを通して、文化地理学のもつモノの見方・考え方を身につけることに主眼を置く。学期の後半には、テキストを用いて、教員自身の研究成果を踏まえ、現代における文化・観光地理学の諸相について講義する。

The first half of this course touches on cultural areas (homogeneous areas, functional areas, areas and spaces in the mind), cultural propagation (background of propagation concept, cultural sphere and area, spatial diffusion), cultural ecology (environmental determinism, environment possibility theory, environment cognition theory, landscape in the heart), cultural integration (culture as an integrated body and its explanation), cultural landscape (what a cultural landscape is, its decipherment, formation, and transformation, landscape in the mind), and so on, by focusing on students learning the perspectives and viewpoints of cultural geography, through the literature introduced and simple practical training. In the semester's second half, lectures use texts on various aspects of contemporary cultural and tourist geography based on the research results of the instructors themselves.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 文化・観光地理学の基本概念(1): 地理学の見方・考え方
- 【2】: 文化・観光地理学の基本概念(2): 文化景観と自然景観
- 【3】: 文化・観光地理学の基本概念(3): 文化生態と環境論
- 【4】: 景観と環境から読み解く地域社会(1): 五箇山・白川郷の集落景観と地域生態①
- 【5】: 景観と環境から読み解く地域社会(2): 五箇山・白川郷の集落景観と地域生態②
- 【6】: 文化景観を読み解く(1): 景観修景と場所のポリティクス①
- 【7】: 文化景観を読み解く(2): 景観修景と場所のポリティクス②
- 【8】: 文化景観を読み解く(3): 景観修景と場所のポリティクス③
- 【9】: ケーススタディ: 観光戦略としての宗教(1): 聖地の観光資源化をめぐるポリティクス
- 【10】: ケーススタディ: 観光戦略としての宗教(2): ホストの側の観光戦略

- 【11】:ケーススタディ:観光戦略としての宗教(3):世界遺産への動き
 【12】:ケーススタディ:観光戦略としての宗教(4):創造される聖地&教会を訪れる人々
 【13】:ケーススタディ:観光戦略としての宗教(5):場所の商品化の課題
 【14】:まとめ:文化地理学の見方・考え方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教員が指示した課題について積極的に取り組むこと。配布資料や課題内容、オンデマンド教材の視聴に関する情報等については、「Canvas LMS」を用いて連絡するので、各自で確認すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時の小課題:40%

テキスト / Textbooks

講義時に指示する。

参考文献 / Readings

高橋伸夫ほか 文化地理学入門 東洋書林 1996 4887210868
 中川正ほか 文化地理学ガイダンス ナカニシヤ出版 2006 4779501016
 竹中克行ほか 人文地理学 ミネルヴァ書房 2009 978462305539
 山崎孝史 政治・空間・場所 ナカニシヤ出版 2010 9784779505102
 山中弘編 宗教とツーリズム 世界思想社 2012 9784790715658
 松井圭介 観光戦略としての宗教 筑波大学出版会 2017 9784904074268
 講義時に指示する。

その他 / Others

担当教員 HP:<http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~human/geostaff.html>

観光社会学5(メディア)

Sociology of Tourism 5 (Media)

メディア論・メディア文化研究から観光を考える

安 ウンビョル(AHN EUNBYUL)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB200
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、メディア研究および観光社会学の視点を理解し、メディアと観光の交差するところで提起されてきた問いや概念、事例研究を学ぶことで、「メディアに媒介された」ものとしての観光経験と現代社会を見直し、自分の問いを発見する能力を養うことにある。

The goal of this course is to understand perspectives from media studies and tourism sociology and, by exploring the questions, concepts, and case studies that have emerged at the intersection of media and tourism to reexamine tourism experiences and contemporary society as mediated by image and technologies and to cultivate the ability to discover one's own questions.

授業の内容 / Course Contents

現代社会で我々は、無数のイメージとデジタルテクノロジーに「媒介」されて、生活し、移動し、旅をする。スマートフォンで写真を撮ったり、アプリで道を探したりする経験は「当たり前」のことであり、その背後にある技術は透明なものとなっている。本講義では、「何かと何かをつなぐもの」「間にあるもの」という根本的なメディア定義に基づき、まさにこの現実を媒介するものとしてのメディアと、それが観光と絡み合っている様子を、様々な概念・事例研究・作品などを通して観察する。さらに、メディアの技術的条件とその現実の表象が、私たち自身と世界にどのような影響を与えるかを批判的に考察する。本講義は、3つの論点／3つのモノを中心に行われる。前者は、(1)19世紀のメディアと観光視覚性の成立、(2)観光におけるイメージ・言説と力の問題、(3)デジタル時代の観光の物質性と感覚である。後者は鉄道、地図、写真に焦点を当てる。この大枠の中で、授業計画の順序や詳細は若干変更される可能性がある。

In today's society, we live, move, and travel under the constant "mediation" of countless images and digital technologies. Activities such as taking photographs with a smartphone and using navigation apps have become so commonplace that the media technology which makes this possible is so invisible—like the air we breathe—that we hardly notice its presence. Drawing on the fundamental definition of media as "that which connects two entities" or "that which exists in between," this course examines how media mediates our reality and intertwines with tourism, through various concepts, case studies, advertisements, and artworks. We will also critically analyze how the technological conditions of media and its representations of reality influence us and the world.

This course is organized around three main topics and three key technologies. The topics are: (1) the emergence of 19th-century media and the rise of tourism-related visibility, (2) issues of images, discourse, and power in tourism, and (3) the materiality and sensory dimensions of tourism in the digital age. The three key technologies on which the course will focus are railways, maps, and photography. Within this framework, the order and specific details of the syllabus may be subject to change.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 観光 X メディア、3つの論点
 【2】: モダニティと視覚性① 「メディア論」の基礎 + 地図という技術
 【3】: モダニティと視覚性② 鉄道、ツーリズム、国民国家
 【4】: モダニティと視覚性③ 写真というテクノロジー(上)
 【5】: モダニティと視覚性④ 写真というテクノロジー(下)
 【6】: マスツーリズムの時代に「メディア」を問題視する: The Image, The Tourist, and The Tourists Gaze
 【7】: 現実を「作る」イメージと言説——記号論、構造主義、ポスト構造主義と観光研究
 【8】: 日本における「表象」と「観光」: 文学散歩、ディスカバー・ジャパンからコンテンツ・ツーリズムまで
 【9】: 日本における「表象」と「観光」: 韓流とKPOPと韓国への観光まなざし
 【10】: 映画感想(作品未定)
 【11】: データ時代の観光における物質性を考える①: ANT、モビリティターン、ルート観光論
 【12】: データ時代の観光における物質性を考える②: デジタルマップと動詞としての地図
 【13】: データ時代の観光における物質性を考える③: 写真・動画保存と永遠主義
 【14】: その他の論点、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に参考文献や動画、ウェブサイトなどを紹介するので、授業後に復習を兼ねて読んだり見ておくこと。論文など参考文献がある場合、そのファイルをCanvas LMSを通じて共有する。数回、文献に対する感想文を提出してもらうことがある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー・感想文など小課題の内容と分量:40%

テキスト / Textbooks

授業中適宜指定する。

参考文献 / Readings

須藤廣他 よくわかる観光コミュニケーション論 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己他 よくわかる観光社会学 ミネルヴァ書房 2014 9784623060375

Rebecca Solnit River of Shadows: Eadweard Muybridge and the Technological Wild West Viking 2004
 9780142004104

吉見俊哉 メディア文化論:メディアを学ぶ人のための15話 有斐閣 2012 9784641124875

W.シヴェルブシュ 鉄道旅行の歴史 法政大学出版局 2011 9784588276477

堀野正人他 都市と文化のメディア論: 情報化するコンテンツ/ツーリズム/トランスナショナルコミュニケーション ナカニシヤ出版 2024 9784779517945

J. アーリ 観光のまなざし 法政大学出版局 2014 9784588010149

注意事項(検索結果画面)

2020年度以降入学対象

観光人類学3(民俗)

Anthropology of Tourism 3 (Vernacular Culture)

現代民俗学の視点と観光

(Perspectives of contemporary folklore studies and tourism)

法橋 量(HOKKYO HAKARU)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、文化社会的事象としての観光を分析・批判するための民俗学的視点を学ぶ。

The purpose of this course is to acquire the folkloristic perspectives of analyzing and criticizing contemporary tourism as socio-cultural phenomenon.

授業の内容 / Course Contents

民俗学はその学問的な発生の時点から、現在、観光資源となっている文化財(民話、まつり、衣食住、etc.)の形成に重要な役割を果たしてきた。本講義では、民俗学の視点から主として観光の文脈であらわれてくる様々な文化事象を、日本およびヨーロッパの様々な事例を取り上げ、歴史的、現在学的に分析し考察する。

Since its disciplinary beginning Folklore studies has played an important role of producing cultural properties (folktale, festival, costume, foods etc.) which constitute the touristic resources today. In this course we will analyze and consider the cultural phenomenon in contemporary and historical touristic context, citing various issues from Japan and Europe.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 現代民俗学と観光
- 【2】: 民俗学の文化概念: 民俗・フォークロア・ヴァナキュラー
- 【3】: 語りと旅 I : 語りの発見
- 【4】: 語りと旅 II : 物語をめぐる旅
- 【5】: まつりと観光: 祭りから祭礼へ
- 【6】: フォークロリズムの理論: 伝統を演じる
- 【7】: フォークロリズムと現代のまつり
- 【8】: 文化と地域形成 : 郷土と観光
- 【9】: ふるさと・郷土とノスタルジー
- 【10】: 地域イメージとメディア: ガイドブック、文学、アニメ
- 【11】: 現代の巡礼とツーリズム
- 【12】: 文化遺産の民俗学
- 【13】: 博物館ツーリズムと日常の博物館化
- 【14】: まとめ: 民俗学的視点と観光研究

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示または配布する資料を参照し予習・復習をする。また授業に即し、自分の関心のあるトピックについて知識を深める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

岩本通弥・門田岳久・及川祥平・田村和彦・川松あかり(編)『民俗学の思考法―〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』慶應義塾大学出版会 2022 9784766427318

参考文献 / Readings

授業中に適宜支持する。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光地理学2(農村)

Geography of Tourism 2 (Rural Area)
日本と欧州の事例から理解する農村観光

五艘 みどり(GOSO MIDORI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

日本とイタリア・オーストリア・フランスなど欧州地域の事例を通してルーラルツーリズムの導入との発展および地域への効果を理解する。

Understanding "Rural Tourism" from case studies of Italy, Austria, France and Japan.

授業の内容 / Course Contents

国内は、京都府、栃木県、石川県などの事例から、海外はイタリア北部などの事例から、ルーラルツーリズムの導入と発展の経緯、社会的・経済的な効果について講義します。ひとつの事例を 1～2 回の授業として講義します。

Lectures will be given on the history of the introduction and development of rural tourism, and the social and economic effects, from cases in Kyoto, Tochigi, and Ishikawa prefectures in Japan, and from cases in northern Italy. One case study will be divided into two lectures.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:農村観光とは
- 【2】:イタリア南チロルのアグリツーリズム①
- 【3】:イタリア南チロルのアグリツーリズム②
- 【4】:イタリア・オルチャ渓谷における世界遺産としての農村観光
- 【5】:オーストリアのルーラルツーリズム推進組織
- 【6】:フランスのルーラルツーリズムと農産物販売
- 【7】:欧州の事例に学ぶ日本のルーラルツーリズム活性化のエッセンス
- 【8】:ミニテスト
- 【9】:京都府和束町における茶畑景観活用の事例から①
- 【10】:京都府和束町における茶畑景観活用の事例から②
- 【11】:栃木県那珂川町における農村観光と移住者促進
- 【12】:能登半島地震からの復興とルーラルツーリズム
- 【13】:「日本で最も美しい村」連合の活動に見る農村観光の地域間ネットワーク
- 【14】:まとめのテスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

農村で観光活性化に取り組む地域の方のゲスト講義(1回)※予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:30% まとめのテスト:30% リアクションペーパーおよびミニテスト(3回):30% 発表・質疑など授業への積極参加:10%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しませんが、新聞や雑誌記事など必要なものは随時掲示します。

参考文献 / Readings

その他 / Others

<https://researchmap.jp/read0144212>

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光歴史学1(近世)

History of Tourism 1 (Early Modern Period)

観光を通して見えてくる時代の特徴は何か

内田 彩(UCHIDA AYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB203
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本講義の到達目標は

- (1) 近世期における旅の基本的知識を身につけることができる。
- (2) 近世期における旅の社会的役割と特徴を理解し、日本における旅の特徴について説明できる。
- (3) 近世期にみられた旅の文化と交流の特徴と役割を理解し、観光における交流の重要性について述べることができる。

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge of travel in the early modern period.
- (2) Understand the social role and characteristics of travel in the early modern period and explain the characteristics of travel in Japan.
- (3) Understand the characteristics and roles of travel culture and exchanges seen in the early modern period and discuss the importance of exchanges in tourism.

授業の内容 / Course Contents

近世期は江戸幕府の成立に伴い政治・経済が安定し人々の往来が盛んになりました。これに伴い五街道の整備、貨幣経済の普及など、旅をするための諸条件は整備されましたが、幕府は商業・公用を除き人々が自由に移動することを許可していませんでした。

しかし、病気治療(湯治)と信仰(寺社参詣)は、旅をするための目的として認めており、これが旅の大衆化の先駆けとなるとともに、寺社参詣地・温泉地の発展につながり、日本における旅の特徴を生み出したといわれています。さらに、旅による都市と地方の交流や旅行者と地域の人々の交流は、新たな文化交流となり社会に影響を与えていくことになります。

本授業では、近世期の旅の基本的知識を身につけたうえで、旅の社会的役割と特徴を考察し、そのなかで育まれた旅の文化と交流について学ぶことを目的とします。

During the early modern period, when the feudal military government the Edo shogunate was established, the political and economic environment in Japan stabilized. Although the shogunate did not permit people to move freely, except for trade and official business, the treatment of illnesses (such as hot spring cures) and religious purposes (such as visits to temples or shrines) were recognized as valid reasons to travel. As a consequence, traveling for these reasons gained popularity and gave rise to the development of more temples, shrines, and hot spring resorts. This phenomenon shaped the nature of travel in Japan. The purpose of this class is to examine the social roles and characteristics of travel based on the acquisition of basic knowledge regarding travel in the early modern period and to learn about the travel culture and exchanges that were nurtured as a result.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: 近世における旅-人々はなぜ旅をしたのか-

- 【3】:特定の目的のもと許可された旅－周遊型と滞在型の誕生－
 【4】:寺社参詣の旅①－なぜ寺社は観光地化したのか－
 【5】:寺社参詣の旅②－寺社参詣における御師の役割－
 【6】:湯治への旅①－温泉地への旅－
 【7】:湯治への旅②－日本型リゾートの成立－
 【8】:都市における物見遊山－都市住民の行楽－
 【9】:女性の旅－旅は女性に何をもたらしたのか－
 【10】:西洋における旅①－グランドツアー－
 【11】:西洋における旅②－温泉地への旅－
 【12】:西洋における旅③－保養地:社交の場としての役割－
 【13】:近世の旅とは何か－プレモダンとしての役割
 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【事前学習】事前に紹介された文献や配布資料を熟読し、疑問点などについて整理してください。

【事後学習】事後学修では、授業内容を振り返ってから、参考資料・動画を確認し、発展学修に取り組んでください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 平常点(リアクションペーパー):30% ミニテスト:20% 最終テスト割合::00%

テキスト / Textbooks

・配布プリントを用いるので特に指定しないが、必要に応じて随時紹介する

参考文献 / Readings

新城常三『庶民と旅の歴史』NHK ブックス 1971 0219154

山村順次『日本の温泉地：その発達・現状とあり方』日本温泉協会 1998 4930797055

日本温泉文化研究会『温泉をよむ』講談社 2011 10 4062880881

金森 敦子『江戸庶民の旅－旅のかたち・関所と女』平凡社新書 2002 10 458285148

神崎 宣武『江戸の旅文化』岩波新書 2004 10 4004308844

原/淳一郎『江戸の旅と出版文化』三弥井書店 2014 10 4838232470

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光歴史学3(現代)

History of Tourism 3 (Contemporary Period)
おみやげ文化から見る日本の観光

鈴木 勇一郎 (SUZUKI YUICHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB204
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

おみやげ文化の来歴を検討することで、現代日本の観光の特質を明らかにする。その過程で観光について歴史的に考えていく資料調査や叙述の能力を身につける。

The purpose of this class is to clarify the characteristics of modern Japanese tourism by examining the history of souvenir culture.

授業の内容 / Course Contents

私たちが旅行に行くと、おみやげを買って帰ることが多いかと思います。旅先でおみやげを買うという現代日本で一般的な文化は、歴史的にも地域的に見るとかなり特徴的です。

この授業では、そうした現代日本のおみやげ文化がどのように成立してきたのか、その来歴を検討していきます。現代のあり様の特徴を把握するため、江戸時代、明治・大正時代、昭和戦前、戦後というように、時期ごとにおみやげ文化がどのように展開していったのかを検討していきます。その過程を通じて現代日本のおみやげ文化の立ち位置と今後のあり方を考えていく力をつけていっていただきたいと思います。

When we go on a trip, we often buy souvenirs to take home. The culture of buying souvenirs while traveling, which is common in modern Japan, is quite distinctive from a historical and regional perspective.

In this class, we will examine the history of how modern Japanese souvenir culture came to be. In order to understand the characteristics of the modern state, we will examine how souvenir culture developed in each period: the Edo period, the Meiji and Taisho periods, the Showa period before the war, and the postwar period. Through this process, I hope that you will develop the ability to think about the position and future direction of modern Japanese souvenir culture.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス 授業の目的や内容、進め方について

【2】: 近世の旅とおみやげ

【3】: 明治維新後の旅とおみやげ

【4】: 軍隊・戦争・土産

【5】: 名物と由緒

【6】: 近代国家のページェントとおみやげ

【7】: 温泉旅行とおみやげ

【8】: 近郊ツーリズムとおみやげ

【9】: 旅とおみやげの戦中・戦後

- 【10】: ディスカバー・ジャパンとおみやげ
 【11】: 観光土産菓子の系譜
 【12】: 自動車時代の旅とおみやげ
 【13】: 空の旅とおみやげ
 【14】: おみやげ文化のゆくすえ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各回に関わりのある時代の社会や経済といった基本的な知識を、できる限り事前に把握するように努めてください。
- ・それぞれの回に出てきたおみやげについて、類似する事例がないか、出来る限り調べるようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内小レポート(複数回):65% 期末レポート:35%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

神崎宣武 おみやげ：贈答と旅の日本文化 青弓社 1997年 4787231332

鈴木勇一郎 おみやげと鉄道：名物で語る日本近代史 講談社 2013年 9784062181563

その他の文献については、授業中適宜紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2020年度以降入学者対象

観光と文化1(芸術)

Tourism and Culture 1 (Art)

芸術を「見に行く」ということ——その歴史・条件・理論

星野 太(HOSHINO FUTOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB300
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、芸術と観光の関係についての基本的な知識を獲得し、それをもとに、現代の芸術をめぐるさまざまな変化について批判的に考察できるようになることを目標とする。

The objective of the class is to acquire a basic knowledge of the relationship between art and tourism and, based on this, to be able to critically examine the various changes in the contemporary art world.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、1793 年のルーヴル美術館開館を出発点として定め、それから現在までの 200 年余りのあいだに、芸術と観光がいかなる関係を結んできたのかを概説的に論じる。詳細は下記の授業計画に譲るが、大きく分けると、1) ミュージアムの歴史、2) パブリックアートの歴史、3) 観光資源としての芸術、4) 国内外の芸術祭、5) ミュージアムとアクセシビリティといった話題を扱う予定である。

This class will take the opening of the Louvre in 1793 as its starting point, and will provide an overview of the relationship between art and tourism over the past 200 years. The details are given in the class plan below, but the major topics include:

1. History of the Museum
2. History of Public Art
3. Art as a Tourism Resource
4. Art Festivals and Tourism
5. Museum and Accessibility

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入——芸術を「見に行く」ということ
- 【2】: ミュージアムの誕生——近代市民社会の成立
- 【3】: ミュージアムの歴史——芸術の公共性とは何か
- 【4】: パブリックアートの誕生——ミュージアムを離れて
- 【5】: パブリックアートの歴史——芸術の社会性について
- 【6】: 中間総括
- 【7】: 観光資源としての芸術(1) サイトスペシフィシティ
- 【8】: 観光資源としての芸術(2) ミュージアムの展示形態
- 【9】: 国内外の芸術祭(1) 海外のケースを中心に
- 【10】: 国内外の芸術祭(2) 日本のケースを中心に
- 【11】: 芸術と観光の未来(1) ストリートアート
- 【12】: 芸術と観光の未来(2) アクセシビリティ

【13】:最終総括

【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で配布した資料や参考文献をもとに、各回 90 分程度の予習・復習を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業中に行なう小テスト(10×2):20%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用せず、毎回の授業で使用する資料を PDF で配布する。

参考文献 / Readings

パブロ・エルゲラ ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 フィルムアート社 2015 9784845914500

北川フラム ひらく美術:地域と人間のつながりを取り戻す 筑摩書房 2015 9784480068422

栗田秀法(編) 現代博物館学入門 ミネルヴァ書房 2019 9784623084661

熊倉純子(監修) アートプロジェクト:芸術と共創する社会 水曜社 2014 9784880653334

古賀太 美術展の不都合な真実 新潮社 2020 9784106108617

洞田貫晋一朗 シェアする美術:森美術館の SNS マーケティング戦略 翔泳社 2019 9784798160009

野田邦弘ほか(編) アートがひらく地域のこれから:クリエイティビティを生かす社会へ ミネルヴァ書房 2020 9784623088003

これらは参考文献の一部であり、その他の文献については授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし。ただし、近現代の芸術について一定の関心があることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に配布する電子資料の閲覧のため、スマートフォン、タブレット、PC のいずれかを持参することを推奨する。

その他 / Others

①授業形態:この授業は講義形式で行なう。おもにスライドと配布資料を用いる予定だが、必要に応じて板書も併用する。

②課題へのフィードバック:Canvas LMS 等を通じて寄せられた質問・コメントについては、授業中に取りあげる可能性がある。

③その他:担当教員のウェブサイト

<https://nosnino.com/>

https://researchmap.jp/hoshino_futoshi

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光と文化2(メディア)

Tourism and Culture 2 (Media)

ディズニーランドを題材に、メディア論と集合行動論の観点から観光と現代社会を学ぶ。

新井 克弥(ARAI KATSUYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB301
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

東京ディズニーリゾート(TDR)の40年間と日本人の関わりを辿りながら、現代社会について考える。

Reflecting on the 40 years of the Tokyo Disney Resort (TDR) and the Japanese people's relationship with it, we will consider contemporary society.

授業の内容 / Course Contents

社会学者のアラン・ブライマンは「ディズニーランドで起きていることが、やがて社会にも波及する」とし、これを「ディズニー化」と呼びました。そして、その典型が「テーマ化」とであると指摘しました。しかし現在、TDR においてはテーマ化の崩壊が見られます。いいかえれば、それは未来において世界はテーマ化の次の段階である「脱ディズニー化」に至るということを意味します。本授業ではこの過程についてメディア論、集合行動論、コミュニケーション論等を用いながら解説していきます。

Sociologist Alan Bryman says, "What happens at Disneyland eventually spread to society. Bryman named it "Disneyization". He also pointed out that the typical example of this is "theme parkization". However, we see a breakdown of the theme at TDR. In other words, in the future, the world will be "Post-Disneyization," the next stage of theme parkization. In this lesson, I will explain this process using media theory, collective action theory, and communication theory, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 東京ディズニーリゾート、なんかヘン?
メディアとは何か: メディア、メディアはメッセージ
- 【2】: 集合行動論 1: 群集、テキスト/コンテキスト、絶対化/相対化、即自/対自
- 【3】: 集合行動論 2: 大衆、想像の共同体、自己
- 【4】: 集合行動論 3: 分衆、オタク
- 【5】: ディズニーランド 1: ディズニーランドと日本人(～1980 年まで。ディズニーというゆりかごのなかで)
- 【6】: ディズニーランド 2: パークコンセプト①: テーマパークとファミリーエンターテインメント
- 【7】: ディズニーランド 3: パークコンセプト②: S.C.I.S.E、感情労働
- 【8】: ディズニーランド 4: テーマパークの本質①: 情報圧によるめまい
- 【9】: ディズニーランド 5: テーマパークの本質②: ハイパーリアリティ
- 【10】: ディズニーランド 6: テーマ性の崩壊(ごった煮化するパレードを例に) ジャパン・オリジナル化する TDR(アキバ化、ドンキ化)
- 【11】: ディズニーランド 7: ディズニー化する社会、脱ディズニー化する TDR
- 【12】: ディズニーランド 8: 日本の伝統文化を踏襲する TDR(積分文化と微分文化)
- 【13】: ディズニーランド 9: アメリカ人にとってディズニーランドとは何か(ゲストの日米比較)

【14】:ディズニーランドと若者10:宗教とディズニーランド**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストに必ず目を通してください。授業はテキストに沿って進行します。ただし、これに新しい項目が加わります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパーへの書き込み:20%

三分の二以上の出席がなければ自動的に単位修得資格を失う。

テキスト / Textbooks

新井克弥 ディズニーランドの社会学～脱ディズニー化する TDR 青弓社 2016 4787234056

参考文献 / Readings

新井克弥 劇場型社会の構造―「お祭り党」という視点 青弓社 2009 9784787233004

能登路雅子 ディズニーランドという聖地 岩波新書 1990 9784004301325

須藤廣他編 観光が世界をつくる 明石書店 2023 9784750356181

谷島貫太他編 メディア・リミックス ミネルヴァ書房 2023 9784623096213

ニール・ゲイブラー 創造の狂気 ウォルト・ディズニー ダイヤモンド社 2007 9784478001813

その他 / Others

勝手にメディア社会論 <https://profile.ameba.jp/me>

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光と文化4(スポーツ)

Tourism and Culture 4 (Sports)
スポーツ文化の歴史と世界を旅する

坂上 康博(SAKAUE YASUHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB302
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

- A)スポーツを文化的な観光資源としてとらえるために必要な基礎的な知識を身につけること。
B)スポーツをテーマとしながら、多文化を理解する国際性、文化の変動をとらえるための視点、文化の価値や意味を問うクリティカルシンキングを身につけること。
C)グループワーク等を通して、建設的および探究的な議論をするための受信力、思考力、発信力等を鍛える。
A) To acquire the basic knowledge necessary to view sport as a cultural tourism resource.
B) To acquire the internationality to understand multiculturalism, a perspective to capture cultural change and critical thinking to question the value and meaning of culture while using sport as a theme.
(C) Through group work and other activities, students will develop their listening, thinking, and communication skills to engage in constructive and inquisitive discussions.

授業の内容 / Course Contents

以下のような講義内容にもとづいて、個人およびグループで考え、議論する。

- ①スポーツのグローバルな発展過程を大きくつかむ。
- ②国や地域によるスポーツの多様性について理解する。
- ③日本におけるスポーツを文化として把握し、その歴史的な変化や特徴、問題などについて理解する。
- ④スポーツのもつ魅力やパワーについて理解する。

Students will think and discuss individually and in groups based on the following lecture content.

- (i) Grasp the global development process of sport at large.
- (ii) Understand the diversity of sport in different countries and regions.
- (iii) Understand sport in Japan as a culture and consider its historical changes, characteristics and problems.
- (iv) Understand the appeal and power of sport.

Lectures, group work, presentations and discussions will be conducted in line with the above content.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション&スポーツの母国を探る
- 【2】:世界のスポーツを見渡す
- 【3】:アメリカのスポーツを知る、考える
- 【4】:オーストラリアのスポーツを知る、考える
- 【5】:アジアのスポーツを知る、考える
- 【6】:スポーツという異文化と日本の出会い
- 【7】:日本の教科書の中のスポーツ

- 【8】:スポーツマンガの変化を追う(1)
- 【9】:スポーツマンガの変化を追う(2)
- 【10】:海外からみた日本のスポーツ
- 【11】:変化する日本のスポーツ(1)
- 【12】:変化する日本のスポーツ(2)
- 【13】:スポーツの感動の根源を探る
- 【14】:スポーツ文化の価値と可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義と授業中の議論の内容を自分なりに消化吸収すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :44%

平常点割合 :56% 小レポート(計 14 回):56%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

参考文献 / Readings

坂上康博・中房敏朗・石井昌幸・高嶋航編 スポーツの世界史 一色出版 2018 9784909383044

坂上康博 にっぽん野球の系譜学(電子版) 青弓社 2017

三輪定宣・川口智久編 先生、殴らないでー学校・スポーツの体罰・暴力を考える かもがわ出版 2013

坂上康博編 12 の問いから始めるオリンピック・パラリンピック研究 かもがわ出版 2019 9784780309973

その他の参考文献は授業中に紹介する。

その他 / Others

- ・一方的な講義ではなく、グループワークや個人の意見発表、ディベートなどを行なう。
- ・動画などの映像資料も使用する。

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光と文化5(食)

Tourism and Culture 5 (Food)

食と料理のグローバル化

光田 達矢 (MITSUDA TATSUYA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB303
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、グローバルな視点に立ち、世界各国の食・飲み物・料理が、どのようにして広まったのかを学ぶ。その際、忌避と受容を繰り返しながら普及していったさまざまな食・飲料・料理を取り上げ、人々の食生活の一部になっていった要因を多角的に分析できることを目的とする。

In this course, students will learn how foods, drinks and cuisines from around the world spread. In doing so, it will analyze the multifaceted factors behind why certain foods, beverages and cuisines failed to gain acceptance while others were incorporated in peoples' diets.

授業の内容 / Course Contents

私たちの周りには食べ物があふれているが、なぜある食べ物を口にし、別の食べ物を忌避するのかについてあまり考える機会はない。フランス料理を味わうとロマンチックな気分になるのに、中華麺をすするとそうにはならないし、食卓のマナーを通して他人との付き合いを再考することもある。

本講義では、美味しいものも不味いものも、安全なものも危険なものも、自然なものも人工的なものも含め、様々な例を通して、現代の食生活の成立について、歴史的な考察を行う。歴史的事例の多くは、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、南米、日本を参照し、時代は 16 世紀から 20 世紀に焦点を当てる。

In this course, we will examine the establishment of modern eating habits through a variety of historical examples, both good and bad, delicious and disgusting, safe and unsafe, natural and artificial. Many of the historical examples will refer to Europe, America, Asia, South America, and Japan, and the time period will focus from the 16th to the 20th century.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 食を学問として「料理」する(導入・オリエンテーション)
- 【2】: 近代料理観の台頭と帝国と食の受容
- 【3】: 食事マナーと宮廷料理・飲酒問題とコーヒー文化の台頭
- 【4】: 「コロンブス交換」とヨーロッパ以外への影響・砂糖の辿った日本への食路
- 【5】: フレンチ化する世界とイギリス料理の「まずさ」
- 【6】: パスタ・フォーク・トマトとピザの普及
- 【7】: 国家介入と食料分配・近代国家と食生活の管理化
- 【8】: 19世紀都市の憂鬱・新しい恐怖との向き合い方
- 【9】: 日本と牛肉・中国と牛乳
- 【10】: 世界の「肉食化」と世界の「脱肉食化」
- 【11】: アメリカと「加工食品」・世界の「ジャンクフード化」
- 【12】: 食の観光化と世界の「和食化」
- 【13】: 学生レポート紹介・まとめ・アンケート

【14】:授業期間内テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は, 履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間発表:20% リアクションペーパー:20% 最終レポート割合::40%最終テスト割合::20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光と社会2(交通)

Tourism and Society 2 (Transportation)

移動とモビリティ

根岸 海馬 (NEGISHI KAIMA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB304
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

1. 交通・通信技術の展開と時間・空間認識の変化の関係について説明できる。
2. 「移動」概念を紐解き、その見過ごされてきた側面について議論する。
3. 「モビリティ」の概念について理解を深める。

By the end of the course, students are expected to:

1. Explain the interplay between the development of transport and communication technologies and the way we understand time and space.
2. Unpack the concept of 'movement' and discuss some of its overlooked aspects.
3. Develop an understanding of the concept of 'mobility'.

授業の内容 / Course Contents

産業革命以降の交通技術と通信技術の展開は、ヒトやモノが移動する速度や範囲、条件や状況を劇的に変化させてきました。これらの変化に伴って、空間と時間をめぐる科学や経験、認識や表象もまた大きな変化を遂げています。このコースでは、一般的に「移動」と呼ばれる現象を新たな視点から探究し、これまで顧みられなかった側面について学びを深めます。「移動」とは出発点から到着点への空間の横断・時間の経過として考えられがちです。では実際に、移動はどのように経験され表象されるのでしょうか？移動は「交通的」現象なのでしょうか？「観光的」現象なのでしょうか？それとも「身体的」現象なのでしょうか？これらの問いを多角的に考察し、その過程で「モビリティ」という概念を紐解いていきます。

Since the Industrial Revolution, developments in transportation and communication technologies have dramatically changed the speed, range, conditions, and circumstances under which people and things move. Accompanying these changes have been profound shifts in the science, experience, perceptions, and representations of space and time. In this course, we will explore the phenomenon commonly referred to as "movement" from a new perspective and discuss some of its neglected dimensions. "Movement" is often thought of as the traversal of space and the passage of time from a point of departure to a point of arrival. How is it actually experienced and represented? Is movement a "transport" phenomenon, a "tourist" phenomenon, or a "corporeal" phenomenon? By exploring these questions from a novel approach, we will unpack the idea of "mobility".

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: コースガイダンス-移動とモビリティ
- 【2】: 動力の変遷-自然から機械へ
- 【3】: 時間概念の変遷-時刻と遅刻
- 【4】: 空間概念の変遷-広がる空間と閉ざされる空間
- 【5】: 公共交通-鉄道①
- 【6】: 公共交通-鉄道②

- 【7】:映像視聴①
- 【8】:私有交通-モータリゼーション①
- 【9】:私有交通-モータリゼーション②
- 【10】:映像視聴②
- 【11】:交通概念の展開-ヴァーチャル世界①
- 【12】:交通概念の展開-ヴァーチャル世界②
- 【13】:映像視聴③
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前学修:国内・海外ニュースを毎日チェックする(毎週 1.5 時間)。

事後学修:授業内容を復習する(毎週 1.5 時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントペーパー:20% 映画レポート:40% 期末レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Peter Adey Mobility (2nd ed.) Routledge 2017
遠藤英樹 ツーリズム・モビリティーズ:観光と移動の社会理論 ミネルヴァ書房 2017
吉原直樹 モビリティーズ・スタディーズ-体系的理解のために ミネルヴァ書房 2022
田中大介 電車で怒られた！-「社会の縮図」としての鉄道マナー史 光文社 2024

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光地理学6(日本地誌)

Geography of Tourism 6 (Japan)

亀井 啓一郎 (KAMEI KEIICHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB305
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地理学的・地誌学的な視点から、日本の観光地を中心とした諸地域の地域性を理解する。地図を正しく読むことができるようになり、地域のことを正しく理解できるような素養を身に付ける。

Understand the regional characteristics of various regions centered on Japan's tourist areas from a geographical perspective. Students will also be able to understand maps accurately and have an accurate understanding of the region.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、地域イメージの広がりをテーマとして、日本の諸地域についてその地域性を考察する。授業ではまず都道府県のイメージについて講義する。続いて、日本の観光地の発達過程や成立について講義する。最後に歌から見る地域、郷土唱歌、郷土かるたに関する講義を行う。

In this course, we will consider the regional characteristics of the various regions of Japan with the theme of the spread of regional images. First, the course will have a lecture on the image of prefectures. Next, lectures will be given on regions as seen through songs, local songs, and local karuta.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:授業のガイダンス
- 【2】:都道府県のイメージ
- 【3】:地図から地域を見る(1)広がる軽井沢
- 【4】:地図から地域を見る(2)小京都の分布
- 【5】:地図から地域を見る(3)小江戸と城下町
- 【6】:地図から地域を見る(4)湘南の範囲
- 【7】:地図から地域を見る(5)ミニ富士と富士塚
- 【8】:さまざまな媒体から地域を見る(1)津軽海峡・冬景色
- 【9】:さまざまな媒体から地域を見る(2)県歌「信濃の国」
- 【10】:さまざまな媒体から地域を見る(3)郷土唱歌の成立
- 【11】:さまざまな媒体から地域を見る(4)各地の郷土かるた
- 【12】:さまざまな媒体から地域を見る(5)小説『雪国』
- 【13】:さまざまな媒体から地域を見る(6)鳥瞰図から見た観光地
- 【14】:授業のまとめと補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に新聞やニュースなどにより、地域の出来事に関心を払って欲しい。知らない地名や聞いたことの無い地名があった場合には、地図帳で確認すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する

参考文献 / Readings

菅野峰明・佐野充・谷内達 編 日本の地誌 5(首都圏 I) 朝倉書店 2009 9784254167658

斎藤功・石井英也・岩田修二 編 日本の地誌 6(首都圏 II) 朝倉書店 2009 9784254167665

その他 / Others

当然のことながら、授業中の私語や私事は禁止である。

授業の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。

地図帳を持参すること(二宮書店もしくは帝国書院が望ましい)。

観光と社会4(医療)

Tourism and Society 4 (Medical Care)
医療の視点から観光と社会を考えましょう

真野 俊樹 (MANO TOSHIKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB306
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2020 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

医療や社会保障について理解したうえで観光との関連性について学ぶ

To learn tourism based on the knowledge of health and social security

授業の内容 / Course Contents

最初に、医療界の状況や社会保障の現実について学ぶ。そのうえで医療ツーリズムについて概観をする。その後に外部講師や事例研究を通して、現状認識を深める。

To learn the basic knowledge of healthcare and medical and wellness tourism.

To learn the reality of healthcare and medical and wellness tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 社会保障とは
- 【2】: 医療の状況
- 【3】: 世界の医療の状況 先進国(1)
- 【4】: 世界の医療の状況 先進国(2)
- 【5】: 世界の医療の状況 新興国(1)
- 【6】: 世界の医療の状況 新興国(2)
- 【7】: 医療ツーリズムが起きたわけと世界(含む日本)での医療ツーリズム
- 【8】: 日本での取り組みの紹介
- 【9】: アジアの医療と医療ツーリズム
- 【10】: J ウェルネスとは
- 【11】: ウェルネスツーリズムとは
- 【12】: 温泉とスパとツーリズム
- 【13】: ロングステイ
- 【14】: まとめと今後

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを事前に読む

授業での資料を復習する

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合

3分の2以上の出席をしていない場合には、単位修得不可

テキスト / Textbooks

真野俊樹 はじめての医療経営論 有斐閣 2020

真野俊樹 医療で「稼ぐ」のは悪いことなのか 薬事日報社 2018

真野俊樹 新たな医療危機を超えて ◇コロナ後の未来を医学×経済の視点で考える 日本評論社 2021

真野俊樹 複眼で見る医療経済とイノベーション 千倉書房 2021

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義を中心に行う

注意事項(検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光地理学7(外国地誌1)

Geography of Tourism 7 (Foreign Area 1)

パリをめぐる地理学の Study Tour

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB313
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

場所や地域を総合的に捉える地誌学の見方・考え方を習得し、観光研究に活用・応用できる能力を身につける。

This course aims for students to acquire ways of thinking and perspectives on Regional Geography, so they comprehensively understand places and areas, along with the ability to use and apply them to tourism.

授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパの中のフランス、とくにパリの都市空間を対象として、主要な地図と画像をもとに地誌学的な検討と考察を進める。多様な側面からパリを理解するためには、地理的知識を背景とする空間的な視点が欠かせないことについて講義する。理解を深めるために、リヨン、マルセイユほか、フランスの諸都市についても触れる。

This course investigates and considers from perspectives of Regional Geography by using major maps and images and by targeting urban spaces in France, Europe, and especially in Paris. To understand Paris according to its various aspects, students hear lectures on the need for a spatial perspective based on geographical knowledge.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:フランスを理解するための空間モデル1
- 【2】:フランスを理解するための空間モデル2
- 【3】:リセエヌのパリ案内
- 【4】:パリを理解するための補助線
- 【5】:パリの立地と南北軸
—セーヌ渡河点とラ・シャペル隘路—
- 【6】:パリの形成と同心円1
—都市壁とフォーブール—
- 【7】:パリの形成と同心円2
—徴税請負人の壁と小郊外—
- 【8】:パリ歴史軸のパースペクティブ
- 【9】:変貌するパリ1 —パリ大改造—
- 【10】:変貌するパリ2 —グランプロジェクト—
- 【11】:移民・外国人のパリ1 —グットドール—
- 【12】:移民・外国人のパリ2 —ショワジーの三角形—
- 【13】:パリの生活空間・観光空間1
- 【14】:パリの生活空間・観光空間2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

地誌学の授業にとって、地図と地図帳は「辞書」である。というのも、授業で取り上げる地域や場所の地理的位置を理解しなければ、授業の内容をもとに自らの考察を深めることは難しいためである。そこで、履修者は教室で配付される地図とは別に、自身の地理的知識に応じた地図帳などを手元に用意して、教室の内外で辞書のように繰り返し参照すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :88%

平常点割合 :12% 授業内の課題・提出物:12%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業時に書籍・文献リストを配付し、紹介する。

観光地理学8(外国地誌2)

Geography of Tourism 8 (Foreign Area 2)
南北アメリカ地誌
(Regional Geography of the Americas)

石井 久生 (ISHII HISAO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB314
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は、

- (1) 南北アメリカの地誌学的特徴の概略と、各地の地誌の詳細を理解できる
 - (2) それらを地誌学的観点から説明できる
- ようになることである。

The goals of this course are as follows:

- (1) To be able to understand an overview of the geographical characteristics of the Americas and the details of each region.
- (2) To be able to explain them from geographical perspective.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、南北アメリカの地誌の基礎的知識を学修する。前半は北アメリカの地誌、後半は中部アメリカおよび南アメリカの地誌に焦点を当てて講義する。

This course aims to help students acquire basic knowledge about the regional geography of the Americas. The first half of this course focuses on North American geography and the second half on Middle and South American geographies.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション: 「アメリカ」とは

「アメリカ」が含まれた地名とそれぞれの違いを解説する。

【2】: 南北アメリカの自然環境

大地形と気候区の分布に基づいて、南北アメリカの自然環境の特徴を解説する。

【3】: 北アメリカの歴史地理: 「アメリカ」における人類の歴史と「アメリカ合衆国」の登場

「アメリカ」における人類の歴史を概観するとともに、「アメリカ」が命名された歴史を概観し、「アメリカ」という地名に込められた意味を確認する。「アメリカ合衆国」の登場とその後の南のアメリカの国々との国際関係の変化を概観し、「アングロアメリカ」「ラテンアメリカ」という文化地域概念が登場した経緯を解説する。

【4】: 北アメリカの農業地理1: 伝統的土地利用の地域差と農業地域の形成

北アメリカに入植した人々の出身地による土地利用の地域差を概観したうえで、アメリカ合衆国で採用された独特の土地区画方式を解説し、1920 年ごろまでに形成された伝統的農業地域の特徴を講義する。

【5】: 北アメリカの農業地理2: 現代の企業的農業とアグリビジネス

家族経営から企業経営へと大きく変貌した現代アメリカ農業を、世界の農産物市場を席卷するアグリビジネス企業の特徴から解説し、農と食と私たちの生活を取り巻く問題について考える。

【6】: 北アメリカの都市地理1: 20 世紀初頭の工業都市と初期シカゴ学派

19 世紀末から 20 世紀初めの近代工業都市の都市地理学的特徴を、初期シカゴ学派が提唱した学説に基づいて解説する。

【7】: 北アメリカの都市地理2: 21 世紀のグローバルシティとロサンゼルス学派

もはや製造業が都市機能の中心ではなくなったポストモダン都市の例としてロサンゼルスを取り上げ、ロサンゼルス学派の諸理論からポストモダン都市の都市地理学的特徴を解説する。

【8】: 北アメリカのエスニック地理1: 移民が創造するアメリカ社会

アメリカ合衆国に 1700 年代ごろから現代までに移住した人々の数の推移や出身地の変化を概観し、現代アメリカ合衆国の多民族社会が形成された経緯とその特徴を解説する。

【9】: 北アメリカのエスニック地理2: ロサンゼルスのエスニック地理と現代エスニック社会の特徴

現代アメリカ合衆国の多文化社会の一例としてロサンゼルス市に着目し、ミクロな地域次元で異なる人種・エスニシティの人々が共存した場合、どのような現象が観察されるのかを、エスニック地理学的に解説する。

【10】: 中南アメリカ: 先コロンブス期の歴史地理

先コロンブス期の諸文明の分布と特徴を、メソアメリカ文明と中央アンデス文明を中心に歴史地理学的に解説する。

【11】: 中南アメリカ: 1492 年以降の人口動態の変化にみる人口地理

1492 年のコロンブス到達以降大きく変化した中南アメリカの人口構成と、変化の諸要因について解説する。

【12】: 中南アメリカの都市地理1: 先コロンブス期の都市から 19 世紀の前産業型都市へ

都市内部構造に焦点を当て、先コロンブス期や植民地期の都市構造の特徴、19 世紀前半の独立期以降の伝統的都市構造の変化について、諸都市が経験した歴史と関連付けて都市地理学的に解説する。

【13】: 中南アメリカの都市地理2: 20 世紀の分極化する都市から 21 世紀の分断化する都市へ

1930 年代以降進行した都市構造の「分極化」現象と、1990 年以降のグローバル化のもとで進行した「分断化」現象を、北アメリカの都市の動向などと関連付けて都市地理学的に解説する。

【14】: 総括

これまでの学習内容を総復習するテストを実施し、学習到達度を確認する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修として、毎回授業終了後に Canvas LMS を用いた小テストを実施する。それ以外の授業時間外の学修は、必要に応じて別途指示する。指示された内容以外に、少なくとも地図や web を利用して次回の対象地域について事前に予習しておくこと。各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 : 70%

平常点割合 : 30% 小テスト: 30%

3 分の 2 以上の出席をしていない場合は、原則として単位修得不可。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。資料プリントファイルを Canvas LMS を通じて毎回配布する。

参考文献 / Readings

二村 太郎・矢ヶ崎 典隆 『アメリカ』(世界を知るための地誌学) 朝倉書店 2025 9784254169522

丸山浩明 『ブラジル』(世界地誌シリーズ 6) 朝倉書店 2013 9784254169263

石井久生・浦部浩之 『中部アメリカ』(世界地誌シリーズ 10) 朝倉書店 2018 9784254169300

Birdsall, S.S., J.C. Malinowski and W.C. Thompson Regional Landscapes of the US and Canada 8th ed. Wiley 2017 9781118790342

Jackiewicz, E.L. and F.J. Bosco Placing Latin America: Contemporary Themes in Geography 4th ed. Rowman & Littlefield 2020 9781538126295

Blouet, Brian W. and Olwyn M. Blouet Latin America and the Caribbean: A Systematic and Regional Survey 7th ed. Wiley 2015 9781119080312

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回授業終了後に Canvas LMS を用いた小テストを実施するので、PC あるいはタブレットが必要になります。

その他 / Others

授業形態は Power Point を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。

授業終了後に行う小テストは出席確認を兼ねるので、期限内に必ず受験すること。

小テストに対するフィードバックは、小テスト終了後のコメントや次回授業開始時に行う。
期末試験のフィードバックは、試験終了後に Canvas LMS を通じて行う。

観光地理学9(外国地誌3)

Geography of Tourism 9 (Foreign Area 3)

朝鮮半島の地域性と観光資源を学ぶ。

張 景泰(JANG KYUNGTAE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB315
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(一部オンライン 3 回)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

自然環境と伝統的生活、現代文化などあらゆる点で密接なつながりを有する東アジアについて、その成り立ちと現代社会に関する知識を体系的に身につける。

This course systematically explores East Asia's close connections among the natural environment, traditional life, and modern society, for students to learn about the formation of modern society, culture, and so on.

授業の内容 / Course Contents

東アジアにおける自然環境と人間生活・文化・観光のさまざまな関係を紹介する。特に朝鮮半島(韓国)に焦点をあて、自然環境と人間生活、産業構造、観光地がどのように成立しているかを学ぶ。そして韓国と日本とのつながりについても考察する。授業では、朝鮮半島の地図および韓国の写真、映像資料を多用しながら進めていく。

This course introduces the various relationships between East Asia's natural environment and human life, culture, and tourism. In particular, focusing on the Korean peninsula (South Korea), the course examines how the natural environment, human lifestyles, industrial structures, and tourist sites are formed. The course also examines the relationship between Japan and Korea. The course extensively uses maps of the Korean Peninsula, video materials, and photographs of South Korea.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、韓国に関する全体概要
- 【2】: 異文化の理解について(韓国文化を事例として)①
- 【3】: 異文化の理解について(韓国文化を事例として)②
- 【4】: 朝鮮半島の自然環境と暮らし
- 【5】: 韓国と北朝鮮、朝鮮戦争について
- 【6】: 韓国の産業構造と地域性
- 【7】: 韓国政治と地域性
- 【8】: 韓国の行政区域と世界遺産について
- 【9】: 「韓流」について①(音楽、アニメ)
- 【10】: 「韓流」について②(ドラマ、映画)
- 【11】: 日本と韓国の文化の差異・共通点について(日・韓の結婚式について)
- 【12】: 韓国の観光地①について(ソウル)
- 【13】: 韓国の観光地②について(鉄道による旅)
- 【14】: 韓国の観光地③について(韓国のリゾート地【済州道、釜山】)、韓国における観光資源の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ニュースと新聞, インターネットを利用して東アジア情勢に関心を持つようにしてください。授業で学んだ内容がどれほど活用できるか自分で確認してみてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト(複数回):60% 期末レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時間内に紹介する。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義形式で、地図、映像資料、現物資料なども適宜活用する。

観光地理学10(外国地誌4)

Geography of Tourism 10 (Foreign Area 4)
地誌的な視点からとらえる東南アジアの世界

大塚 直樹(OTSUKA NAOKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB316
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- 地誌的な視点から観光地理学の多面性を理解する。
 - ベトナムを中心に東南アジアに関する歴史・地理的な知識を涵養する。
- The purposes of this course are for students to: (1) understand the diversity of Tourism Geography from a perspective of regional geography and
(2) gain local knowledge of Southeast Asia, especially Vietnam.

授業の内容 / Course Contents

講義では、まずグローバル化した現代社会における地誌(学)の位置づけを検討する。次に、地誌の学説史をたどりつつ、学校教育と地誌との関係を把握する。以上の理解に基づき、東南アジア社会、特にベトナムを事例として、具体的な観光現象に関する講義をおこなう。

This course first considers the position of Regional Geography in the globalized modern society. Next, it traces the history of Regional Geography to grasp the relationship between school education and regional geography. Based on this understanding, the course offers specific lectures on the phenomenon of tourism in Southeast Asian society, particularly Vietnam.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:現代社会と地誌
- 【3】:地誌とは
- 【4】:地誌の学説史(1):海外編
- 【5】:地誌の学説史(2):日本編
- 【6】:東南アジア世界の地域像
- 【7】:東南アジア社会の歴史地理
- 【8】:ベトナム戦争に関する映像資料
- 【9】:ベトナム地誌:ベトナム戦争と国民国家の形成
- 【10】:ベトナム地誌:ベトナム戦争の記憶
- 【11】:ベトナム地誌:歴史空間としてのベトナム
- 【12】:ベトナム地誌:ベトナムの多様な生活空間
- 【13】:ベトナム地誌:関係性からとらえるベトナム社会
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワーポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

地図帳などにて東南アジア諸国の地理的位置を確認し、当該地域の基礎知識を修得しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小レポート:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業時にベトナム戦争に関するドキュメンタリー資料(DVD)を用いる可能性がある。

観光と社会5(環境)

Tourism and Society 5 (Environment)

環境社会学の視点から観光と環境の関係を考える

湯浅 陽一(YUASA YOUICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB339
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境社会学の視点から観光と環境に関わる諸問題について考察し、観光と環境、地域社会の関わり方への理解を深めます。とくに、持続可能なまちづくりについての理解を深めます。

In this course, by examining some topics on tourism from the perspective of Environmental Sociology, students deepen their understanding of the relationship between tourism and local communities.

授業の内容 / Course Contents

景観の保存に関するものと、鉄道に関するものを中心に、環境社会学の研究の中から、観光と持続可能なまちづくりに関わりの深いものを取り上げます。

This course takes some topics on tourism from research in Environmental Sociology, landscape preservation, and, particularly, from railway construction.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:授業のガイダンスと導入:環境社会学の視点と観光
- 【2】:観光開発による地域振興と環境の破壊
- 【3】:景観の保存と地域社会1:景観への視点(自然環境編)
- 【4】:景観の保存と地域社会2:歴史的環境の保存
- 【5】:景観の保存と地域社会3:小樽における運河の保存
- 【6】:景観の保存と地域社会4:瀬の浦の事例
- 【7】:鉄道開発と社会1:新幹線公害とは
- 【8】:鉄道開発と社会2:受益圏と受苦圏
- 【9】:鉄道開発と社会3:整備新幹線とは
- 【10】:鉄道開発と社会4:並行在来線問題
- 【11】:鉄道開発と社会5:ミニ新幹線と地域社会
- 【12】:鉄道開発と社会6:日本の鉄道史と地方ローカル線
- 【13】:環境と観光によるまちづくり1:徳島県や岩手県における事例の紹介
- 【14】:環境と観光によるまちづくり2:持続可能なまちづくりの条件とは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に事前を目を通したうえで、授業資料の復習をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

足立重和・金菱清 環境社会学の考え方 ミネルヴァ書房 2019 9784623085279

船橋晴俊 新幹線公害 有斐閣 1985 4641024871

船橋晴俊他 政府の失敗の社会学 ハーベスト社 2001 4938551535

古川彰・松田素二編 観光と環境の社会学 新曜社 2003 9784788508675

堀川三郎 町並み保存運動の論理と帰結 東京大学出版会 2018 4130561146

笠松和市・佐藤由美 持続可能なまちは小さく、美しい 学芸出版社 2008 9784761512453

観光と文化6(風景)

Tourism and Culture 6 (Scenery)

近代日本人の旅と風景

野村 典彦(NOMURA NORIHIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB346
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

風景を味わうとはいかなることか。旅とはいかなるものか。

鉄道の開業とほぼ同じ頃に生まれた民俗学者・柳田国男の論を参照しながら、近代日本人が楽しんだ旅とそのあり方について理解する。

What does it mean to savor a landscape?

What does travel mean to you?

Students will understand the journey enjoyed by modern Japanese people, referring to Yanagida Kunio's theory.

授業の内容 / Course Contents

絵葉書やスタンプ、ソノシートなど、近代日本人が旅を楽しんだ痕跡を具体的に確認しながら、日本人の旅のあり方を具体的に検証し、柳田国男の構築した学問と世の中によるその消費を学びながら、今日の観光を考える。

We will examine Japanese travel in detail, confirming the traces of modern Japanese people's enjoyment of travel.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 漱石の旅・子規の旅—精神的に向上心のない者はばかだ—
- 【2】: 移動の近代化と視点・視線の変化—国境の長いトンネル—
- 【3】: 菟印趣味と行楽の流行—御朱印あるいは駅スタンプ—
- 【4】: 活字メディアと鉄道旅行—日本新八景など—
- 【5】: バスガイドの語り—富士には月見草がよく似合う—
- 【6】: 桃太郎の 1930 年—桃太郎神社の誕生、あるいは瀬戸内海の鬼退治—
- 【7】: 柳田国男の旅—生活の歴史と風景—
- 【8】: 旅順の戦跡と鴨緑江—大陸の風景を見る日本人の視線—
- 【9】: 風景と民謡—絵葉書あるいはソノシート—
- 【10】: ディスカバー・ジャパン(1)—「民話のふるさと」の誕生—
- 【11】: ディスカバー・ジャパン(2)—秘境あるいはツチノコ—
- 【12】: 町の記憶と町の歴史—駅はなぜそこにあるか—
- 【13】: ユースホステルと「奇跡の一本松」—風景の焦点—
- 【14】: まとめ—旅に出てどのように見るか—

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

菟印帖や案内記(戦前の旅行ガイドブック)などを教室に並べて、皆さんに見てもらうことがあります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて授業時におこなう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

柳田国男 雪国の春(角川ソフィア文庫) 角川書店 2011

野村典彦 鉄道と旅する身体近代一民謡・伝説からディスカバー・ジャパンへー 青弓社 2011

野村典彦 民話という視座一非戦・反戦の思想と行楽・観光のはざまにー 清文堂 2025

『雪国の春』は、『定本柳田國男集』『柳田國男全集』(ちくま文庫)『柳田國男全集』など、さまざまな書籍で読むことが可能。

その他 / Others

板書による講義をおこなう。

資料は印刷して配布するが、論文については一部分のみの引用となるので、授業後に各人において確認することが望ましい。

レポートは授業内容に関連する課題(詳細は授業時に指示)。2000 字程度。

観光人類学6(コミュニティ)

Anthropology of Tourism 6 (Community)

小河 久志(OGAWA HISASHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB357
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・コミュニティ概念をめぐる基本的な理論枠組みを理解すること。
- ・多様なコミュニティのあり様とその動態を、多面的、多角的に把握できるようになること。

At the end of this course, students should be able to explain basic concepts related to the idea of community and obtain multiple perspectives about the diverse communities and their dynamics.

授業の内容 / Course Contents

コミュニティは、これまで場所と文化が結びついた地域社会という意味で用いられてきた。しかし、グローバル化の進行にともない社会や文化が変化するなかで、さまざまなコミュニティが出現している。本講義では、世界各地の事例を取り上げながら、文化人類学の視点から、多様なコミュニティの様態と特徴、それらの社会・文化的背景について検討する。講師のタイでの調査経験も紹介しながら、主に「宗教」「民族」「生業」「移動」「災害」「観光」等のトピックを取り上げる。

Community has been used to mean a local society where place and culture are linked. However, as societies and cultures change with the advance of globalization, various communities have emerged. From the perspective of cultural anthropology, this course considers examples from around the world to examine the states, characteristics and socio-cultural backgrounds of diverse communities. The instructor's own research experience in Thailand is also introduced. Topics such as "religion," "ethnicity," "livelihood," "migration," "disaster," "tourism," etc. are discussed in particular.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文化人類学とコミュニティ
- 【3】: 家族
- 【4】: 親族
- 【5】: 人の移動とコミュニティ: 理論
- 【6】: 人の移動とコミュニティ: 中国系移民の事例
- 【7】: コミュニティと生業
- 【8】: まとめと中間テスト
- 【9】: 民族とコミュニティ①理論
- 【10】: 民族とコミュニティ②アフリカの事例
- 【11】: 宗教とコミュニティ①理論
- 【12】: 宗教とコミュニティ②タイの事例
- 【13】: 災害とコミュニティ
- 【14】: まとめと最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド*(パワポ等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

(予習)

書籍や新聞、インターネット等を通して、次回の授業テーマに関する情報を集めること。

(復習)

授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、配布資料やノートを読み返すなど復習をして授業内容に対する理解を深めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終テスト:30% 中間テスト:20% 講義内課題(10回):50%

欠席が 1/3 を超えた場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

プリント(毎回の授業で配布)

参考文献 / Readings

授業中に適宜、紹介する。

その他 / Others

授業では適宜、映像資料を用いる。

観光地理学5(自然環境)

Geography of Tourism 5 (Physical Environment)

その観光地はなぜそこにあるのか、更なる見どころは何か。

小森 次郎(KOMORI JIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB374
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	自然や災害に関連した観光地の実態に近づくことを目的として、2・4・6・8・10・13 回目授業をオンラインで実施する。各オンライン授業の前後の回には、配信元となる現地についての学習と受講者各自の考察の共有を行う。全体の授業の終盤では、任意のジオパークについて各自が調査を行い、その結果を発表する授業回を設ける。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地形、地質、自然災害・人為災害の痕跡、といった観光資源について、その形成の背景から利用や防災の観点まで改めて理解できるようになる。さらに、一般的な観光の場面で「単なる景色」として眺められていた対象を、「意味を持った景観」として見られる眼力をもつようになることを目標とする。

Students will develop an understanding of tourism resources such as topography, geology, and traces of natural and human-induced disasters by examining their formation backgrounds as well as their tourism utilization and disaster prevention perspectives. Additionally, the course aims to cultivate the ability to perceive elements typically regarded as "mere scenery" in general tourism settings as "meaningful landscapes."

授業の内容 / Course Contents

14 回の授業全体では各回のテーマについて、その観光地がどういった場所にあり、なぜそこにあるのか、新たな視点による観光資源は何か、について地形・地質的背景、および人とのかかわり(恩恵や災害)について学んでいく。いくつかの授業ではその回のテーマについて個人やグループで検討し、他者と共有する時間を設ける。授業の素材はパワーポイントのスライドのほか、インターネットの地形図・地質図閲覧サイト等を用い、受講者自らがそれらを判読したり、周囲との相談やプレゼンテーションを行う時間を設ける。

Throughout the 14-class series, each session will focus on a specific theme, exploring its location and the reasons for its presence by examining the topographical and geological backgrounds, as well as human interactions (both benefits and disasters). In several classes, students will engage in individual or group discussions of the session's theme and allocate time to present their findings to others. Course materials will include PowerPoint slides and online resources such as topographic and geological map websites, providing opportunities for students to interpret these materials independently and participate in discussions and presentations with their peers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:**・ガイダンス。
・単なる景色が、意味をもった景観に変わる、ということ。
・翌週のオンライン配信のテーマと移動ルートに関する事前学習。
- 【2】:**・自然災害・人為災害の現場を見る
・地震、活断層、津波、福島第一原発。
＊現地からオンラインで実施。
- 【3】:**・事後学修:観光地として捉える自然災害・人為災害。
・翌週のオンライン配信のテーマと移動ルートに関する事前学習。
- 【4】:**・観光資源としての巨大崩壊跡。
・ハケ岳の山麓の自然、山体崩壊、城山としての活用。
＊現地からオンラインで実施。
- 【5】:**・事後学修:観光資源としての山体崩壊地形。
・翌週のオンライン配信のテーマと移動ルートに関する事前学習。
- 【6】:**・観光資源としての海(沿岸)。
・三浦半島・城ヶ島の自然、特に湾入地形、隆起海岸地形、人新世堆積物、漁港近隣商店街。
＊現地からオンラインで実施。
- 【7】:**・事後学修:都心の観光資源としての海岸地形と地層
・翌週のオンライン配信のテーマと移動ルートに関する事前学習。
- 【8】:**・観光資源としての都市河川。
・多摩川下流域の自然、田園調布の地形、河岸段丘、東日本台風、旧河道。
＊現地からオンラインで実施。
- 【9】:**・事後学修:観光資源としての河川。
・翌週のオンライン配信のテーマと移動ルートに関する事前学習。
- 【10】:**・都心の観光資源としての地形・地質
・日本の原点、入り江と砂州。
＊現地からオンラインで実施。
- 【11】:**・事後学修:都心を地形・地質、江戸の歴史で見る。
・世界と日本のジオパーク調査(分担と調査方法の説明)
- 【12】:**・ジオパークの紹介(個人発表)
- 【13】:**・ジオパーク関連地域の自然
＊現地からオンラインで実施。(教室での対面授業+オンラインによるゲスト講師授業に変更の場合あり)
- 【14】:**まとめ・補足・理解度チェック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業では以下のインターネットの地図・地質図閲覧サイトを使う。予習・復習としてそれらのサイトでテーマとした地形や地質を概観しておくこと。(閲覧の仕方は授業期間の前半で指導する)。

- 1) 国土地理院 電子国土 Web. Open-hinata
- 2) 産総研 地質図 Navi.
- 3) 今昔マップ.
- 4) Google Map (3D バージョン、ストリートビューの履歴)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回授業のリアクションペーパー:50% 授業内での理解度チェック:20% 個人発表:20%

最終テスト割合::10%

リアクションペーパー、授業内のディスカッションと発表・提出物、理解度チェック(小テスト)をから総合的に判断する。

テキスト / Textbooks

特に無し。関連資料はオンラインで共有します。

参考文献 / Readings

特に無し。必要な場合は授業内でアナウンスします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で、地形図や古地図、地質図を閲覧する場合があります。また、授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出など、インターネット経由での回答入力を行うので、ネット接続可能な機材（スマートフォン等）を持参してください。

その他 / Others

座席位置は基本的には自由とします。座席位置は授業開始時のエクセル型スプレッドシートに入力してもらいます（詳細は授業内で指示）。オンライン授業では発言を求める場合があるので各自でマイクが使える状態で参加すること。正当な理由以外でマイクから発言できなかった場合は厳しく評価するので注意すること。

観光文学4(トラベルライティング)

Tourism Literature 4 (Travel Writing)

抜井 ゆかり(NUKUI YUKARI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB376
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

リテラシーを重視した修辞法に重きを置くトラベルライティングを意識し、活用することにより、旅の楽しみ方を改めて捉え直し、観光消費を牽引する作用を考察する。

By consciously using travel writing that places importance on rhetoric emphasizing literacy, and reconsidering our enjoyment of travel, we will consider behaviors that drive consumption of tourism.

授業の内容 / Course Contents

ICT の発達により旅行記事を表し、発信する人々が増えているが、トラベルライティングの知識を得て旅の表現を学び、発信することは、自らの旅の楽しみを増大させるだけでなく、他の人々を旅へ誘う要素とも成り得る。旅の構成要素を分解し、それぞれの基礎知識と表現を紹介した上で、それらを魅力ある表現としてまとめられるよう講義するとともに、トラベルライティングの活用事例を紹介する。

The development of ICT has increased the number of people who send and share travel articles, but acquiring knowledge of travel writing, learning and sharing travel experiences can increase one's own pleasure in travel, becoming an element that invites others to travel. After deconstructing elements of the trip, instructor will introduce basic knowledge and expressions aiming for the students to be able to summarize them in attractive expressions along with examples of travel writing.

授業計画 / Course Schedule

【1】:授業ガイダンス

「旅を伝える」トラベルライティングとは？

【2】:旅の構成要素と表現

【3】:差異を意識する

【4】:風景・情景を表現する,描く,書く

【5】:旅の修辞法1

【6】:旅の修辞法2

【7】:「新座」を識る,表現する

【8】:食べ物を表す

【9】:建築物を表す

【10】:宿泊施設を表す／交通機関を表す

【11】:キャッチフレーズ考察／導入文考察

【12】:宗教／文化を表す

【13】:トラベルライティングを愉しむ／人物描写を愉しむ

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は, 必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況及び各回リアクションペーパー:70% レポート:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

テーマに合わせ適宜紹介する。

観光と文化3(ポップカルチャー)

Tourism and Culture 3 (Popular Culture)

宮入 恭平(MIYAIRI KYOHEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB377
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ポピュラー音楽と観光の関係を確認しながら、ポップカルチャーと社会、経済、政治や文化との近接性を理解する。
This course aims for students to understand the proximity of pop culture to society, economy, politics and culture, while confirming the relationship between popular music and tourism.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、ポップカルチャーの代表的な存在であるポピュラー音楽に注目しながら、「観光」や「文化」の意味を問い直しつつ、教科書『ライブカルチャーの教科書』に沿って、ポップカルチャーが日本および海外の社会、経済、政治や文化とどのように関わっているのかについて考える。

In this class, while re-questioning the meaning of "tourism" and "culture", we will focus on popular music as a representative of pop culture, and consider how pop culture is related to Japanese and overseas society, economy, politics, and culture.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: ライブカルチャーの全体像
- 【3】: メディア
- 【4】: 産業
- 【5】: 法律
- 【6】: 政治
- 【7】: 社会
- 【8】: アイデンティティ
- 【9】: 教育
- 【10】: アイドル
- 【11】: アニソン
- 【12】: ツーリズム
- 【13】: ストリート
- 【14】: レジャー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業はテキストに準じておこないます。予習・復習のためにテキストを活用してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー(4～6回):60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

宮入恭平 ライブカルチャーの教科書 青弓社 2019年 9784787274229

参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

その他 / Others

リアクションペーパーとレポートの提出、および資料の配布は「Canvas LMS」を利用します。

観光と社会7(国際協力)

Tourism and Society 7 (Global Cooperation)

国際協力の視点から観光を考える

下田 恭美 (SHIMODA YUKIMI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB381
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRC3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本コースでは、国際協力、特に国際開発協力という視点から観光を捉え、国際開発の基礎知識を学びながら、途上国における観光を通じた開発の現状と課題を考察します。対象となる国／地域の社会・文化および人びとに焦点を当て、観光と国際協力の関係について包括的に理解を深めることを目標とします。

This course considers tourism from the viewpoint of international cooperation, especially international development cooperation. It explores the current circumstances and issues of development through tourism in developing countries, through which students obtain basic knowledge of international development. Focusing on the society, culture, and people of the country or region studied, this course aims to enhance comprehensive understanding of the relationship between tourism and international cooperation.

授業の内容 / Course Contents

アジアやアフリカなどで実施されている具体的な国際開発協力の事例を学びながら、観光による開発の課題や可能性について検討・考察します。また、観光開発に直接的・間接的に関連するビジネス等についても学びます。

This course examines and considers the challenges and possibilities of development through tourism, using specific cases of international development cooperation that are implemented in, for instance, Asia and Africa. This course also provides knowledge about businesses that are directly or indirectly related to development through tourism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 国際協力の変遷と観光
- 【3】: 貧困削減と観光
- 【4】: 開発の受け手
- 【5】: 観光開発と文化1
- 【6】: 観光開発と文化2
- 【7】: 観光開発と人権
- 【8】: 観光開発とジェンダー
- 【9】: 開発とエコ・ツーリズム
- 【10】: 観光開発とボランティア
- 【11】: 観光分野の人材育成
- 【12】: 開発とビジネス1
- 【13】: 開発とビジネス2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ディスカッションに用いる資料を配布・指示しますので、事前に読み込んでください。新聞やテレビなどメディア等における関連トピックに関心を向けるようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への積極的な参加およびリアクションペーパー:30% 小論文:20%

10回以上の出席がない場合は、単位修得の要件を満たさないものとします。

テキスト / Textbooks

特にありません。読んでくるべき資料については事前に適宜配布・指示します。

参考文献 / Readings

D.J.テルファー, R.シャープリー 『発展途上国世界の観光と開発』 古今書院 2011

紀谷昌彦, 山形辰史 『私たちが国際協力する理由:人道と国益の向こう側』 日本評論社 2019

下村恭民, 辻一人, 稲田十一, 深川由起子 『国際協力(第3版)』 有斐閣 2016

牧田東一 『国際協力のレッスン:地球市民の国際協力論入門』 学陽書房 2013

勝俣誠 『娘と話す世界の貧困と格差ってなに』 現代企画室 2016

ヒューム, デビッド 『貧しい人を助ける理由 遠くのあの子とあなたのつながり』 中央評論社 2016

内海成治, 桑名恵, 杉田映理(編) 『国際協力を学ぶ人のために』 世界思想社 2024

その他 / Others

各授業の後半では、ディスカッションを通して自分の考えを深めたり、発表したりしてもらう時間を作る予定です。

データ情報処理

Data Processing

量的調査データの取得から分析までのプロセスを学ぶ

安東 慶太 (ANDO KEITA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB412
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM1200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

量的調査の技法的側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集、分析に至るまでのプロセスを理解する

Focus on the technical aspects of quantitative research and understand the process from survey planning and design to data collection and analysis.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、調査の企画・設計、量的調査の種類(面接法、留置法、郵送法など)、サンプリングの理論と方法、調査票を作成する際の注意点、実査の手続きなど、データ収集のための基本的な方法論について解説する。また、収集したデータのクリーニング、分析方法(主に 2 変量)および分析結果の解釈と提示の仕方について講義、演習を行う。なお、演習では Microsoft Excel を用いる。

In this class, basic methodologies for data collection will be explained, including survey planning and design, types of quantitative surveys (e.g., interview, retention, and mail methods), theories and methods of sampling, precautions in preparing survey forms, and actual survey procedures. Lectures and exercises (using Microsoft Excel) will also be given on the cleaning of collected data, methods of analysis (mainly bivariate), and interpretation and presentation of analysis results.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 社会調査の目的と種類
- 【2】: 社会調査のプロセスとデザイン
- 【3】: 実査の方法
- 【4】: 調査票の作成
- 【5】: サンプリング
- 【6】: 調査の実施とファイル化
- 【7】: データの基礎集計
- 【8】: グラフの作成
- 【9】: 相関係数
- 【10】: クロス表と χ^2 乗検定
- 【11】: 推測統計の基礎
- 【12】: 統計的検定の基本
- 【13】: 2 群の母平均の差の検定
- 【14】: 平均値の差の分散分析

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ニュースなどで調査や統計データを目にすることがあれば、それらに関心を持って触れていくことが望ましい。
また、授業で提示したレジュメや文献などで学習を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内の課題(複数回):50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

松本渉 社会調査の方法論 丸善出版 2021 9784621306314

轟亮・杉野勇・平沢和司 入門・社会調査法〔第4版〕 法律文化社 2021 9784589041418

廣瀬毅士・寺島拓幸 社会調査のための統計データ分析 オーム社 2010 9784274067631

杉野勇 入門・社会統計学 法律文化社 2017 9784589038463

注意事項(検索結果画面)

人数制限科目(48名)

フィールドワーク論

Fieldwork Methods

他者と接合するための技法

小西 公大(KONISHI KODAI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB415
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目ではフィールドワークに最も重きを置いた分野である文化(社会)人類学の方法論・理念を学ぶことで、調査実習や卒論執筆にも応用可能な技法の習得を目指す。また、フィールド経験を通じた自己変容の契機を重視し、他者と接合することで生みだされる創造的側面をフィールド哲学として読み解いていく。

In this course, we will study the methodology and philosophy of cultural (social) anthropology and ethnography, the fields that place the greatest emphasis on fieldwork, and aim to acquire techniques that can be applied to research practice and thesis writing. The course also emphasizes the opportunity for self-transformation through field experience, and the creative aspect of joining with others is read and understood as field philosophy.

授業の内容 / Course Contents

講義はフィールドワーク(FW)の理念・歴史を学んだのち、行動観察・インタビュー・地域調査という三つの手法を講義する。通常 FW というインタビュー調査がメインと思われがちだが、生態学や動物行動学の影響を受けてヒトの社会性を考察してきた人類学では、相互行為や行動を「観る」「記録する」技法を駆使してきた分野でもあり、これは観光行動などの観光研究にも応用し得るものである。講義では民族誌的作品を読みながらこれらの技法を具体的に理解していくとともに、調査計画の立案や記録の技術(インタビュー方法、フィールドノート、写真撮影技術)など実用的な技法も学んでいく。

本科目は講義科目ではあり、フィールドでの学びを中心に次世代の生き方に関する論理を学びつつも、技法を身に着けるという実践的な目標をもっているため、相応の努力と時間を要する。受講生には課題を求める(人数に応じて授業内での発表を求める場合もある)。課題は講義で学んだ技法を応用し、身近な人や環境を対象に調査を試行することも視野に入れている。

In the lecture, after learning about the philosophy and history of fieldwork (FW), the three methods of behavioral observation, interviews, and community surveys are discussed. In the latter half of the course, we will learn practical techniques such as planning research and recording techniques (interview methods, field notes, photography techniques).

While this course is a lecture course, it also has a practical goal of acquiring techniques while learning the logic of the next generation's way of life mainly through field studies, so it requires a reasonable amount of effort and time. Students will be asked to complete assignments (some students may be asked to give presentations in class depending on the number of students). The assignments are designed to apply the techniques learned in the lectures and to conduct research on familiar people and environments.

授業計画 / Course Schedule

【1】:理念と歴史(1)他者を知る

【2】:理念と歴史(2)日常への視点

- 【3】:理念と歴史(3)自己変容への視点
 【4】:フィールド実践例(1)人類学者のフィールド経験①
 【5】:フィールド実践例(2)人類学者のフィールド経験②
 【6】:様々な方法(1)行動観察と記録
 【7】:様々な方法(2)インタビュー・生活史
 【8】:様々な方法(3)地域調査とは
 【9】:調査を計画する(1)調査テーマの発見
 【10】:調査を計画する(2)調査計画の立て方
 【11】:調査の実用(1)データの取り方(インタビュー技術編)
 【12】:調査の実用(2)データの取り方(フィールドノート編)
 【13】:調査の実用(3)データの取り方(フィールド写真術編)
 【14】:データ整理の方法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上述の通り課題を課すので、授業で学んだ技法を試してみるという経験的学習が必要となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への主体的な取り組み(含出席率):10% コメントペーパー:20%

テキスト / Textbooks

箕曲在弘(他編) 人類学者たちのフィールド教育:自己変容に向けた学びのデザイン ナカニシヤ出版 2021

上記テキストは、フィールドでの学びを理解するための基礎的テキストとして利用する。

参考文献 / Readings

秋山裕之・小西公大(編) フィールド写真術 古今書院 2016

その他 / Others

『メイキング文化人類学』(太田好信・浜本満編, 世界思想社, 2005 年)は, B.マリノフスキーら近代人類学の創始者の FW について書かれており, 本科目前半の講義で扱う事象を多々含んでいる。

『フィールドワーカーズ・ハンドブック』(日本文化人類学会監修, 世界思想社, 2011 年)は FW の実用的な方法論である。特に日帰りの FW, 1 週間の FW など, ゼミなどで実践可能な説明がなされている。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

門田 岳久(KADOTA TAKEHISA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB613
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学の手法に則って「他者を知り理解する」、そのための想像力を養うことを目的とします。

The objective is to “know and understand others”, and for this purpose to cultivate empathy in accordance with cultural anthropology and folkloristic methods.

授業の内容 / Course Contents

演習 2 年では宗教人類学に関わる平易な論文を用いることで、読解する・要約する・コメントする・議論するというアカデミックな思考の基本形式を身につけます。また適宜校外で巡検(短期調査)を行います。

In this course, students will learn the basic forms of academic thinking: reading, summarizing, commenting, and discussing through introductory papers on the anthropology of religion. We will also conduct off-campus field trips.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:講義:エスノグラフィーの手法の多様化
- 【2】:講義:他者を知ること、文化を理解すること
- 【3】:テキストを元にした受講生による発表
- 【4】:テキストを元にした受講生による発表
- 【5】:テキストを元にした受講生による発表
- 【6】:テキストを元にした受講生による発表
- 【7】:テキストを元にした受講生による発表
- 【8】:テキストを元にした受講生による発表
- 【9】:テキストを元にした受講生による発表
- 【10】:テキストを元にした受講生による発表
- 【11】:テキストを元にした受講生による発表
- 【12】:テキストを元にした受講生による発表
- 【13】:テキストを元にした受講生による発表
- 【14】:全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

春学期開講「観光人類学(宗教)」、「フィールドワーク論」の受講を強く推奨します。その他、人類学関係の科目はできるだけ多く履修しておく、演習での理解が深まるだけでなく、自分自身の専門性が身につくでしょう。また希望があれば、教員が実施するフィールドワーク(授業の一環ではない調査研究)に同行する機会があります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加状況:20% ゼミでの文献報告:40% レポート:40%

テキスト / Textbooks

講読文献や映像資料は随時指示します。

参考文献 / Readings

文化人類学や民俗学の概論的な書籍を事前に読んでおくことをおすすめします。『人類学のコモンセンス』(浜本満他編)、『文化人類学の思考法』(松村圭一郎他編)、『民俗学入門』(菊地暁)、『民俗学の思考法』(岩本通弥他編)あたりが良いと思います。

その他 / Others

演習は講義と違って受動的な聴講ではなく、受講生の能動的な参加によって成り立ちます。指導にも関わらず参加態度が改善されない場合、受講の継続可否の判断を行います。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

門田 岳久(KADOTA TAKEHISA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB614
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学の手法に則って「他者を知り理解する」、そのための想像力を養うことを目的とします。

The objective is to “know and understand others”, and for this purpose to cultivate empathy in accordance with cultural anthropology and folkloristic methods.

授業の内容 / Course Contents

演習 2 年では宗教人類学に関わる平易な論文を用いることで、読解する・要約する・コメントする・議論するというアカデミックな思考の基本形式を身につけます。また秋休み前後に、校外で巡検(短期調査)を行います。行き先はゼミ生から複数案を提案してもらい、プレゼンテーションと議論により決定します。

In this course, students will learn the basic forms of academic thinking: reading, summarizing, commenting, and discussing through introductory papers on the anthropology of religion. We will also conduct off-campus field trips.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:講義:聖地・宗教性へのアプローチ
- 【2】:テキストを元にした受講生による発表
- 【3】:テキストを元にした受講生による発表
- 【4】:テキストを元にした受講生による発表
- 【5】:巡検先の検討会
- 【6】:巡検先の検討会
- 【7】:巡検先の検討会
- 【8】:テキストを元にした受講生による発表/巡検のフィードバック
- 【9】:テキストを元にした受講生による発表/巡検のフィードバック
- 【10】:テキストを元にした受講生による発表/巡検のフィードバック
- 【11】:テキストを元にした受講生による発表
- 【12】:テキストを元にした受講生による発表
- 【13】:テキストを元にした受講生による発表
- 【14】:全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

秋学期は何らかの成果報告書を作成しますので、その執筆や巡検に時間を確保しておく必要があります。また月曜 5 限に演習 3 年と合同でディスカッションを行うことが多くあります。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加状況:20% ゼミでの文献報告:40% レポート:40%

テキスト / Textbooks

講読文献や映像資料は随時指示します。

参考文献 / Readings

文化人類学や民俗学の概論的な書籍を事前に読んでおくことをおすすめします。『人類学のコモンセンス』(浜本満他編)、『文化人類学の思考法』(松村圭一郎他編)、『民俗学入門』(菊地暁)、『民俗学の思考法』(岩本通弥他編)あたりが良いと思います。

その他 / Others

演習は講義と違って受動的な聴講ではなく、受講生の能動的な参加によって成り立ちます。指導にも関わらず参加態度が改善されない場合、受講の継続可否の判断を行います。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB619
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光と歴史の関係を理解する。

Understanding the place of tourism from a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や履修者による調査にもとづき、報告とディスカッションを繰り返しながら、各時代における観光の機能や役割についての分析を行う。

Based on reading literature and surveys by students, we will repeat reports and discussions, analyzing the functions and roles of tourism in each era.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 報告とディスカッション 1
- 【3】: 報告とディスカッション 2
- 【4】: 報告とディスカッション 3
- 【5】: 報告とディスカッション 4
- 【6】: 報告とディスカッション 5
- 【7】: 報告とディスカッション 6
- 【8】: 報告とディスカッション 7
- 【9】: 報告とディスカッション 8
- 【10】: 報告とディスカッション 9
- 【11】: 報告とディスカッション 10
- 【12】: 報告とディスカッション 11
- 【13】: 報告とディスカッション 12
- 【14】: 演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習に臨むための準備を行う。
演習で明らかになった課題に取り組む。
関連する先行研究を読む。
関連する史料を収集する。
報告およびディスカッションに臨むための準備を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 課題(複数回)の内容:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

後日指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB620
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光と歴史の関係を理解する。

Understanding the place of tourism from a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や履修者による調査にもとづき、報告とディスカッションを繰り返しながら、各時代における観光の機能や役割についての分析を行う。

Based on reading literature and surveys by students, we will repeat reports and discussions, analyzing the functions and roles of tourism in each era.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 報告とディスカッション 1
- 【3】: 報告とディスカッション 2
- 【4】: 報告とディスカッション 3
- 【5】: 報告とディスカッション 4
- 【6】: 報告とディスカッション 5
- 【7】: 報告とディスカッション 6
- 【8】: 報告とディスカッション 7
- 【9】: 報告とディスカッション 8
- 【10】: 報告とディスカッション 9
- 【11】: 報告とディスカッション 10
- 【12】: 報告とディスカッション 11
- 【13】: 報告とディスカッション 12
- 【14】: 演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習に臨むための準備を行う。
演習で明らかになった課題に取り組む。
関連する先行研究を読む。
関連する史料を収集する。
報告およびディスカッションに臨むための準備を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 課題(複数回)の内容:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

大橋 健一(OHASHI KENICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB621
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会学や文化人類学をベースに「文化」という観点から観光現象を分析する視点を養うことを目的とする。
The purpose of this seminar is to cultivate perspectives based on sociology and cultural anthropology from which to analyze tourism phenomena in terms of “culture”.

授業の内容 / Course Contents

「文化」を単に既存の観光の対象としてのみとらえるのではなく、「文化」と観光とのダイナミックな関係の中で、いかに「文化」が「文化」として社会的に成立しているか、観光がいかなる「文化」を生み出しているか等を把握する視点を重視する。
このような問題を「観光文化」という概念に基づいて「日本」をめぐる事例について具体的に考察する。
“Culture” is not only regarded simply as an object of existing tourism, but within a dynamic relationship between “culture” and tourism is established socially, and tourism emphasizes the viewpoint of grasping what kind of culture is produced. Based on the concept of “tourism culture”, we will specifically consider such cases involving Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:分析視角の検討(1):社会的構築物としての「文化」
- 【3】:分析視角の検討(2):社会的構築物としての「文化」
- 【4】:分析視角の検討(3):社会的構築物としての「文化」
- 【5】:分析視角の検討(4):社会的構築物としての「文化」
- 【6】:分析視角の検討(5):社会的構築物としての「文化」
- 【7】:「文化」をめぐる実態分析(1):観光の場における複数の「日本」
- 【8】:「文化」をめぐる実態分析(2):観光の場における複数の「日本」
- 【9】:「文化」をめぐる実態分析(3):観光の場における複数の「日本」
- 【10】:「文化」をめぐる実態分析(4):観光の場における複数の「日本」
- 【11】:「文化」をめぐる実態分析(5):観光の場における複数の「日本」
- 【12】:総合討論(1)
- 【13】:総合討論(2)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間では全体での課題の検討や議論を集中的に行うこととしたい。そのため関連文献の輪読や検討, 授業時に全体で議論する課題の事前検討などの作業を授業時間外にサブゼミを組織しておこなってもら。各回の事前事後学修にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・演習への参加度:60% 演習内での発表:15% 最終レポート割合::25%

テキスト / Textbooks

参加者と相談の上、適宜選定・案内する。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

その他 / Others

時間割に設定された演習時間以外に行われる各自またはグループでの準備作業, また学外での各種見学・調査などへの参加が求められる。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

大橋 健一(OHASHI KENICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB622
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会学や文化人類学をベースに「文化」という観点から観光現象を分析する視点を養うことを目的とする。
The purpose of this seminar is to cultivate perspectives based on sociology and cultural anthropology from which to analyze tourism phenomena in terms of “culture”.

授業の内容 / Course Contents

「文化」を単に既存の観光の対象としてのみとらえるのではなく、「文化」と観光とのダイナミックな関係の中で、いかに「文化」が「文化」として社会的に成立しているか、観光がいかなる「文化」を生み出しているか等を把握する視点を重視する。
このような問題を「観光文化」という概念に基づいて「日本」をめぐる事例について具体的に考察する。

“Culture” is not only regarded simply as an object of existing tourism, but within a dynamic relationship between “culture” and tourism is established socially, and tourism emphasizes the viewpoint of grasping what kind of culture is produced. Based on the concept of “tourism culture”, we will specifically consider such cases involving Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:観光文化の実態分析(1):観光の場における複数の「日本」
- 【3】:観光文化の実態分析(2):観光の場における複数の「日本」
- 【4】:観光文化の実態分析(3):観光の場における複数の「日本」
- 【5】:観光文化の実態分析(4):観光の場における複数の「日本」
- 【6】:観光文化の実態分析(5):観光の場における複数の「日本」
- 【7】:観光文化の実態分析(6):観光の場における複数の「日本」
- 【8】:観光文化の実態分析(7):観光の場における複数の「日本」
- 【9】:観光文化の実態分析(8):観光の場における複数の「日本」
- 【10】:観光文化の実態分析(9):観光の場における複数の「日本」
- 【11】:観光文化の実態分析(10):観光の場における複数の「日本」
- 【12】:総合討論(1)
- 【13】:総合討論(2)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間では全体での課題の検討や議論を集中的に行うこととしたい。そのため関連文献の輪読や検討, 授業時に全体で議論する課題の事前検討などの作業を授業時間外にサブゼミを組織しておこなってもら。各回の事前事後学修にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・演習への参加度:60% 演習内での発表:15% 最終レポート割合::25%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。適宜案内する。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

その他 / Others

時間割に設定された演習時間以外に行われる各自またはグループでの準備作業, また学外での各種見学・調査などへの参加が求められる。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB623
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域の自然・文化の多様性や地域差, 地域の個性を具体的に調査することによって, 地域調査のスキルを修得する。
We will study the diversity of regional nature and culture, regional differences, and the unique characteristics of an area, while acquiring field survey skills.

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの設定から調査の企画, 報告書の作成に至るまで, 学生が自主的・主体的に行いながら, 地域調査の全過程を体験的に学習する。具体的な社会現象を研究対象として, 立地や地域形成, 地域変容, 観光圏と観光行動, 客層と集客圏などを考えていく。

Students will independently conduct research on topics chosen themselves, as well as planning and producing reports, while empirically studying the overall process of field research. We will consider the location and regional make-up, along with regional transformation, tourism area and activities, visitor profiles and area, with specific social phenomena as the object of research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 調査研究テーマの設定
- 【2】: 調査の企画
- 【3】: 仮説の立案
- 【4】: 文献講読1
- 【5】: 文献講読2
- 【6】: 調査項目の設定
- 【7】: 調査票の作成1
- 【8】: 調査票の作成2
- 【9】: サンプルングと調査票の修正
- 【10】: 図表・地図作成スキルの修得
- 【11】: 図表・地図作成スキルの修得
- 【12】: フィールドワークの実施1
- 【13】: フィールドワークの実施2
- 【14】: フィールドワークの実施3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記の参考文献『地域調査ことはじめ』(ナカニシヤ出版)を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題(複数回)の達成度:50% 発表とディスカッション:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか 地域調査ことはじめ ナカニシヤ出版 2007 9784779501326

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

佐藤 大祐(SATO DAISUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB624
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域の自然・文化の多様性や地域差，地域の個性を理解する。そうすることで地域の魅力を発見し，引き出し，ひいては観光まちづくりに結実させる。

We will understand the diversity of regional nature and culture, regional differences, and the unique characteristics of an area. By doing so, we will discover what makes the area attractive, and eventually make it into a tourist destination.

授業の内容 / Course Contents

演習の実施にあたっては，地理学の理論や手法を援用する。具体的には，どこに何があるのか・なぜそこにあるのか(立地)，どのようにしてできたのか(地域形成と変容)，どこになぜ行くのか(観光圏と観光行動)，どのような人がどこから来るのか(客層と集客圏)などを考えていく。

We will use geographical theory and methods in the seminar. Specifically, we will consider, what is there, why it is there (location), how it was made (regional formation and transformation), where and why to go (tourist sphere and tourism behaviors), and who comes from where (visitor profiles and areas).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:グループ研究のテーマ探し
- 【2】:グループ研究のテーマと調査地の決定
- 【3】:研究方法の決定
- 【4】:資料収集と調査票の設計
- 【5】:調査票の作成
- 【6】:調査票の試行と調査内容の再検討
- 【7】:調査結果の整理
- 【8】:調査結果の分析
- 【9】:調査結果の分析
- 【10】:補足調査
- 【11】:図表の作成
- 【12】:論文の執筆
- 【13】:論文の添削
- 【14】:最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外に、グループのメンバー同士で討論を交わして、研究方法から資料収集と分析、配付資料とスライド作成、プレゼン技術、論文執筆にいたるまで、自分たちの型を見出しつつ実行する。現地視察会を企画し、全員で各グループの対象地域を巡検する。学期末には、論文を執筆し、論文集を出版する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表とディスカッション:30% 現地調査:30% 論文の内容:40%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

梶田・加藤・仁平 地域調査ことはじめ—あるく・みる・かく ナカニシヤ出版 2007

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

観光社会学

高岡 文章(TAKAOKA FUMIAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB625
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点や手法を身につける。

Acquiring the perspectives and methods of Sociology of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論をもとに観光社会学の理論や概念について理解を深める。また、フィールド調査をもとに研究論文を執筆する。

To deepen understanding of the theory and concepts of tourism sociology based on reading documents and on discussions. In addition, students will write research papers based on field surveys.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: フィールド調査
- 【11】: フィールド調査
- 【12】: 研究論文指導
- 【13】: 研究論文指導
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

遠藤英樹他 現代観光学 新曜社 2019 9784788516052

参考文献 / Readings

須藤廣他 よくわかる観光コミュニケーション論 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己他 よくわかる観光社会学 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

「観光社会学 2(移動)」とあわせて履修すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B
観光社会学

山岸 紫(YAMAGISHI YUKARI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB626
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点や手法を身につける。

Acquiring the perspectives and methods of Sociology of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論をもとに観光社会学の理論や概念について理解を深める。また、フィールド調査をもとに研究論文を執筆する。

To deepen understanding of the theory and concepts of tourism sociology based on reading documents and on discussions. In addition, students will write research papers based on field surveys.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: フィールド調査
- 【3】: 文献講読および研究発表
- 【4】: 文献講読および研究発表
- 【5】: 文献講読および研究発表
- 【6】: 文献講読および研究発表
- 【7】: 文献講読および研究発表
- 【8】: 文献講読および研究発表
- 【9】: 文献講読および研究発表
- 【10】: フィールド調査
- 【11】: 文献講読および研究発表
- 【12】: 文献講読および研究発表
- 【13】: 文献講読および研究発表
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験	☐	学内の教室外施設の利用	☐	校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定	☐				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

未定

参考文献 / Readings

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A
サイノフォンと観光

舩谷 鋭(MASUTANI SATOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB627
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習のテーマはサイノフォンと観光である。コロナ前後の経験をもとに、変容した世界と観光について、講読やフィールドワークによって考察する。

The theme of the Seminar has been “Sinophone and Tourism”. Sinophone will be examined in the context of tourism studies in terms of the relationship between language and nation.

授業の内容 / Course Contents

研究視点を身につけるために文献講読を行う。

研究対象へのアプローチ方法として、現地調査を行う。

分析と情報収集が行えるよう、ICT 実習を行う。

In this seminar, we:

- 1) read a textbook to acquire a research perspective;
- 2) conduct a field survey to approach a research subject; and
- 3) practice ICT technology to learn the skill to analyze and collect information.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:図書館データベース講習
- 【3】:プロジェクト・個人テーマ確認
- 【4】:〇〇フォンとエクソフォニー
- 【5】:エクソフォニー研究講読 1
- 【6】:エクソフォニー研究講読 2
- 【7】:エクソフォニー研究講読 3
- 【8】:エクソフォニー研究講読 4
- 【9】:エクソフォニー研究講読 5
- 【10】:エクソフォニー研究講読 6
- 【11】:個人テーマ報告・討論
- 【12】:個人テーマ報告・討論
- 【13】:個人テーマ報告・討論
- 【14】:個人テーマ報告・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

議論を深めるためのプレゼン合宿や、実地確認するためのフィールドワークおよび社会連携活動の準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加状況:100%

テキスト / Textbooks

多和田葉子 エクソフォニー——母語の外へ出る旅 岩波現代文庫/文芸 211,eBook 有 2012 4006022115

参考文献 / Readings

及川茜,濱田麻矢 編 華語文学の新しい風(サイノフォン) 白水社 2022 4560098751

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz にFAQ ページなどを用意している

授業支援システムとして、演習科目では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B
サイノフォンと観光

白井 魁(SHIRAI KAI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB628
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義のテーマはサイノフォンと観光である。コロナ前後の経験をもとに、変容した世界と観光について、講読やフィールドワークによって考察する。

The theme of the Seminar has been "Sinophone and Tourism". Sinophone will be examined in the context of tourism studies in terms of the relationship between language and nation.

授業の内容 / Course Contents

研究視点を身につけるために文献講読を行う。

研究対象へのアプローチ方法として、現地調査を行う、

分析と情報収集が行えるように、ICT 実習を行う。

In this seminar, we:

- 1)read a textbook to acquire a research perspective;
- 2)conduct a field survey to approach a research subject;and
- 3)practice ICT technology to learn the skill to analyze and collect information.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:図書館データベース実習
- 【3】:プロジェクト・個人テーマ確認
- 【4】:サイノフォンとエクソフォニー
- 【5】:サイノフォン研究講読 1
- 【6】:サイノフォン研究講読 2
- 【7】:サイノフォン研究講読 3
- 【8】:サイノフォン研究講読 4
- 【9】:サイノフォン研究講読 5
- 【10】:サイノフォン研究講読 6
- 【11】:個人テーマ報告・討論
- 【12】:個人テーマ報告・討論
- 【13】:個人テーマ報告・討論
- 【14】:個人テーマ報告・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

議論を深めるためのプレゼン合宿や、実地確認するためのフィールドワークおよび社会連携活動の準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加状況:100%

テキスト / Textbooks

及川茜,濱田麻矢 編 華語文学の新しい風(サイノフォン 1) 白水社 2022 4560098751

参考文献 / Readings

多和田葉子 エクソフォニー——母語の外へ出る旅 岩波現代文庫 2012 4006022115

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz に FAQ ページなどを用意している。

授業支援システムとして、演習では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多様する。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

観光による文学、文学による観光/Literature through Tourism, Tourism through Literature

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB631
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光現象を文学との接点から分析する。

We will analyze tourism phenomena from references in literature.

授業の内容 / Course Contents

1890 年代以降に日本語で書かれた小説作品を中心とする文献講読および討議を通じ、多様な観光現象がいかに日常に浸透し、われわれの思考や感情に影響を及ぼす「無意識」を形成しているか、考察する。また、土地を生成過程にある「作品」、そのモデル作者を「土地の精霊」と捉え、前者の社会的受容とそれを通じた「書き換え」のプロセスを実践的に学ぶ。春学期の学習を踏まえて各自が対象を選び、文献調査および現地調査をまとめて雑誌「ゲニウス・ロキ」を作成する。

We will consider how various tourist phenomena pervade everyday life and form "unconsciously", affecting our thoughts and emotions, through reading and discussing literature – primarily Japanese novels written after the 1890s.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読および討議 1
- 【3】: 文献講読および討議 2
- 【4】: 文献講読および討議 3
- 【5】: 文献講読および討議 4
- 【6】: 文献講読および討議 5
- 【7】: 文献講読および討議 6
- 【8】: 文献講読および討議 7
- 【9】: 文献講読および討議 8
- 【10】: 文献講読および討議 9
- 【11】: 文献講読および討議 10
- 【12】: 文献講読および討議 11
- 【13】: 文献講読および討議 12
- 【14】: 演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習で扱う文献および関連文献を読む。また、現地調査や資料収集を自主的に行い、演習にフィードバックする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

受講者と相談の上、決定する。

参考文献 / Readings

演習で文献リストを配付する。

その他 / Others

本年度のフィールドは履修者と相談して決定する。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB632
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光現象を文学との接点から分析する。

We will analyze tourism phenomena from references in literature.

授業の内容 / Course Contents

1890 年代以降に日本語で書かれた小説作品を中心とする文献講読および討議を通じ、多様な観光現象がいかに関に日常に浸透し、われわれの思考や感情に影響を及ぼす「無意識」を形成しているか、考察する。また、土地を生成過程にある「作品」、そのモデル作者を「土地の精霊」と捉え、前者の社会的受容とそれを通じた「書き換え」のプロセスを実践的に学ぶ。春学期の学習を踏まえて各自が対象を選び、文献調査および現地調査をまとめて雑誌「ゲニウス・ロキ」を作成する。

We will consider how various tourist phenomena pervade everyday life and form "unconsciously", affecting our thoughts and emotions, through reading and discussing literature – primarily Japanese novels written after the 1890s.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション(対象作品の選択)
- 【2】: 文献講読および討議 1
- 【3】: 文献講読および討議 2
- 【4】: 文献講読および討議 3
- 【5】: 文献講読および討議 4
- 【6】: 文献講読および討議 5
- 【7】: 文献講読および討議 6
- 【8】: 文献講読および討議 7
- 【9】: 文献講読および討議 8
- 【10】: 文献講読および討議 9
- 【11】: 文献講読および討議 10
- 【12】: 文献講読および討議 11
- 【13】: 文献講読および討議 12
- 【14】: 演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習で扱う文献および関連文献を読む。また、現地調査や資料収集を自主的に行い、演習にフィードバックする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

受講者と相談の上、決定する。

参考文献 / Readings

演習で文献リストを配付する。

その他 / Others

フィールド調査の対象地は春学期の演習 A で決定したそれを継続する。

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A

観光人類学の視点を身につける

久保 忠行(KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB633
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この演習をととして、受講者は、1) 人類学的なものの見方を理解することができるようになること。また、2) 人類学的な視点から問いを立てることができるようになること。

Students will be able to 1) understand anthropological perspectives and 2) develop questions from an anthropological standpoint.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、人類学的なアプローチについて文献の講読をととして学ぶ。文献講読では、発表者とコメンテーターを毎回決め、受講者全員で議論する。

In this course, students will learn about anthropological approaches through reading literature. We will assign a presenter and a commentator for each session. All participants are expected to engage in discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 人類学的なアプローチについて(1)
- 【3】: 人類学的なアプローチについて(2)
- 【4】: 文献講読(1)
- 【5】: 文献講読(2)
- 【6】: 文献講読(3)
- 【7】: 文献講読(4)
- 【8】: 文献講読(5)
- 【9】: 文献講読(6)
- 【10】: 文献講読(7)
- 【11】: 文献講読(8)
- 【12】: 文献講読(9)
- 【13】: 文献講読(10)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定した文献について熟読し、疑問点や論点をまとめること(2 時間)。

議論をもとに、自身のテーマや関心を検討すること(2 時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:35% 議論への参加:35% 事前準備:30%

テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

(1) 文献に書かれている内容を正確に読解する能力

(2) 内容を批判的に検討する能力

(3) 積極的に発言しゼミに参加する姿勢

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B
観光人類学の視点

久保 忠行(KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB634
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文献講読をとおり、受講者は 1) 観光人類学の分析枠組みを理解し、それとともに、2) 自身の研究の問いを立てることができるようになること。

Students will be able to 1) understand the analytical framework of anthropology of tourism and 2) develop their own research questions based on this framework through the literature readings.

授業の内容 / Course Contents

観光人類学の文献を講読し、そこで扱われる様々な研究対象について議論する。文献で得た知識と自身の関心をもとに各自の研究テーマを決めて進捗を報告し議論する。

Students will read literatures on the anthropology of tourism and discuss various topics of research subjects. Students will determine their own research topics based on the knowledge gained from the literature and their own interests.

Students will report on their progress and engage in discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 学生の報告とディスカッション(1)
- 【3】: 学生の報告とディスカッション(2)
- 【4】: 学生の報告とディスカッション(3)
- 【5】: 学生の報告とディスカッション(4)
- 【6】: 学生の報告とディスカッション(5)
- 【7】: 学生の報告とディスカッション(6)
- 【8】: 学生の報告とディスカッション(7)
- 【9】: 学生の報告とディスカッション(8)
- 【10】: 学生の報告とディスカッション(9)
- 【11】: 学生の報告とディスカッション(10)
- 【12】: 学生の報告とディスカッション(11)
- 【13】: 学生の報告とディスカッション(12)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジュメを作成し報告に備える(2 時間以上)。

授業でのディスカッションをもとに論点や内容を再検討する(2 時間以上)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:35% 議論への参加:35% 事前準備:30%

テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

(1) 文献に書かれている内容を正確に読解する能力

(2) 内容を批判的に検討する能力

(3) 積極的に発言しゼミに参加する姿勢

(4) 他の受講者のテーマに対する関心

(5) 締め切りを厳守できる調整能力

演習(2年)A

Seminar (2nd year)A
観光、移動と多様性

吉田 道代(YOSHIDA MICHIO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB635
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	第1回(4/14)・第14回(7/14)について、対面で実施する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「観光」や「移動」というレンズを通して、新しい働き方、遊び方、移動や定住の仕方、そして地域振興の仕方について模索する。社会学的想像力を育み、公正で持続可能な社会の姿について考える。とりわけ若者、女性、LGTBQI+、外国にルーツを持つ人など、マイノリティ当事者の立ち位置から見える社会の風景を大切に、他者との連帯の可能性を探る。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Examine new ways of working, playing, moving, dwelling, and building local communities through the lens of tourism and mobility.
- 2) Develop the sociological imagination to consider makes a fair and sustainable society.
- 3) Appreciate the perspectives and lived experiences of members of social minorities such as youth, women, people in the LGBTQI+ communities and those from migrant backgrounds in order to explore possibilities for building solidarity across differences.

授業の内容 / Course Contents

文献購読とディスカッションを通して、メディアで表象されるジェンダーが私たちのアイデンティティや格差とどう関係しているか、社会学的な視点から理解を深める。

In this course, students read sociological literature to learn about how gender representations in the media relate to identities and structural inequalities.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: オリエンテーション
- [2]: 文献講読、ディスカッションなど
- [3]: 文献講読、ディスカッションなど
- [4]: 文献講読、ディスカッションなど
- [5]: 文献講読、ディスカッションなど
- [6]: 文献講読、ディスカッションなど
- [7]: 文献講読、ディスカッションなど
- [8]: 文献講読、ディスカッションなど
- [9]: 文献講読、ディスカッションなど
- [10]: 文献講読、ディスカッションなど
- [11]: 文献講読、ディスカッションなど
- [12]: 文献講読、ディスカッションなど
- [13]: 文献講読、ディスカッションなど

【14】: 文献講読、ディスカッションなど

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読や発表の準備などをしてから授業に参加することが履修の前提となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加度:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同, 佐藤文香 ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた——あなたがあなたらしくいられるための 29 問 明石書店 2019 9784750348520

石田仁 はじめて学ぶ LGBT 基礎からトレンドまで ナツメ社 2019 9784816365829

ケイン樹里安、上原健太郎 ふれる社会学 北樹出版 2019 9784779306181

一橋大学社会学部貴堂ゼミ生&院ゼミ生有志 大学生がレイシズムに向き合って考えてみた 明石書店 2023 9784750356730

カリド・コーザー 移民をどう考えるか 勁草書房 2021 9784326654291

平井太郎、松尾浩一郎、山口恵子 地域・都市の社会学 ― 実感から問いを深める理論と方法 有斐閣ストゥディア 2022 9784641150959

清水展、小國和子 現場グラフィー—ダイバーシティ時代の可能性をひらくために 明石書店 2021 9784750351445
随時案内する。

演習(2年)B

Seminar (2nd year)B
観光、移動と多様性

川嶋 久美子(KAWASHIMA KUMIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB636
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM2003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

演習(2年)A に引き続き、社会学的想像力を育み、公正で持続可能な社会の姿について模索する力をつける。関心のある事柄について調査し、その成果を効果的に発信するスキルを磨く。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Build on their learning in the spring semester by continuing to develop the sociological imagination to consider what makes a fair and sustainable society.
- 2) Develop skills to research topics of interest and disseminate well-researched information effectively

授業の内容 / Course Contents

引き続き社会学的な文献を読むことで格差の構造とアイデンティティの関係を学ぶ。学外学習では座学で学んだ知識を応用し、多様で持続可能な地域社会を作るための活動を調査する。調査結果は自由な形式でまとめ、情報を発信する経験を積む。主な調査関心は若者、ジェンダー、セクシュアリティや多文化共生の視点だが、それ以外も受け付ける。

By continuing to read sociological literature, students learn about the relationship between identity and structural inequality. During field trips, students can apply classroom knowledge to research existing activities that seek to create a more diverse and sustainable society. By putting together research outcomes in creative formats, students build on their experience of disseminating information effectively. The main research interests are youth, gender, sexuality and multiculturalism, but others are also acceptable.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:関心の掘り下げ
- 【3】:関心の掘り下げ
- 【4】:文献講読、ディスカッション
- 【5】:文献講読、ディスカッション
- 【6】:中間発表
- 【7】:文献講読、ディスカッション、レポート作成の準備
- 【8】:文献講読、ディスカッション、レポート作成の準備
- 【9】:文献講読、ディスカッション、レポート作成の準備
- 【10】:文献講読、ディスカッション、レポート作成の準備
- 【11】:レポート作成の準備
- 【12】:レポート作成の準備
- 【13】:レポート発表の準備
- 【14】:レポートの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読や発表の準備などをしてから授業に参加することが履修の前提となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加度:50% 研究成果のまとめ(発表・最終レポート等):50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜案内する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

観光地理学演習

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB641
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

演習(2年)の成果を発展させ、各自が個別課題の作成に向けて、主題と研究対象地域を選定するとともに、研究方法を明瞭にできるようにする。

Developing the results of (2nd year) seminars, each student will select a theme and study area for the production of individual research, while becoming able to elucidate their research methods.

授業の内容 / Course Contents

文献の読解と紹介, 統計資料の収集と図表化, 地域調査のまとめ方など, 地理学の分析・研究方法を習得し, 各自が個別課題の主題と研究対象地域を確定できるよう発表と討論を行う。

Students will learn how to analyze and research geography, by reading and collecting documents such as statistical data charts, regional surveys and so on, so that each individual can present a research topic of their choice and present for discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 演習の進め方

—海外地域調査と個別課題の進展—

【2】: 海外地域調査の課題と概要

【3】: 個別課題第1回中間発表1

【4】: 個別課題第1回中間発表2

【5】: 個別課題第1回中間発表3

【6】: 個別課題第1回中間発表4

【7】: 海外地域調査の調査計画と文献講読1

【8】: 海外地域調査の調査計画と文献講読2

【9】: 海外地域調査の調査計画と文献講読3

【10】: 海外地域調査の調査計画と文献講読4

【11】: 海外地域調査の調査計画と文献講読5

【12】: 海外地域調査の調査計画と文献講読6

【13】: 海外地域調査の調査計画と文献講読7

【14】: 海外地域調査の調査計画と文献講読8

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

秋季休暇中の海外地域調査に向けたグループワークとともに、個別課題の進展を目指して履修者各自が準備を進める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度と課題に対する取り組み方:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習時に紹介する。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

観光地理学演習

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB642
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

演習(3年)Aの成果を発展させ、各自が個別課題に向けた調査を推進するとともに、海外地域調査の調査結果をまとめる。

Developing the results of Seminar (3rd year) A, promoting the investigation of each subject individually, and summarizing the results of the overseas field surveys.

授業の内容 / Course Contents

文献の読解と紹介、統計資料の収集と図表化、地域調査のまとめ方など、地理学の分析・研究方法を活用することによって、各自が個別課題に向けた調査を進め、その発表をもとに質疑と討論を行う。

Making use of what they have learned, students will analyze and research geography, by reading and collecting documents such as statistical data charts, regional surveys and so on, so that each individual can present a research topic of their choice and present for discussion.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 演習の進め方

— 個別課題の設定と海外地域調査から導き出せること —

【2】: 調査班による発表と討論1

【3】: 調査班による発表と討論2

【4】: 調査班による発表と討論3

【5】: 海外地域調査レポートの作成1

【6】: 海外地域調査レポートの作成2

【7】: 文献講読1

【8】: 文献講読2

【9】: 文献講読3

【10】: 文献講読4

【11】: 個別課題第2回中間発表1

【12】: 個別課題第2回中間発表2

【13】: 個別課題第2回中間発表3

【14】: 個別課題第2回中間発表4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

海外地域調査に関する共同作業とともに、履修者各自の個別課題を確定できるよう準備を進める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題に対する取り組み方:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習時に紹介する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A
社会調査実習

門田 岳久(KADOTA TAKEHISA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB643
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学的な視点や方法論にもとづくフィールドワーク(FW)に実習として従事し、その成果をエスノグラフィー(民族誌)として表現します。

Engaging in fieldwork based on cultural anthropology and folklore perspectives and methodologies, the class aims to express the results as ethnography.

授業の内容 / Course Contents

演習 3 年では「宗教とツーリズム」に関わる論文読解および映像民族誌の分析を通じて、各自の具体的な関心を深め、沖縄にて約 10 日間のフィールドワークを実施する。

In this seminar, students will deepen their specific interests through the analysis of articles and visual ethnographies related to "Religion and Tourism". In addition, we will conduct about 10 days of fieldwork in Okinawa.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 論文検討
- 【3】: 論文検討
- 【4】: 論文検討
- 【5】: 映像民族誌の分析
- 【6】: 映像民族誌の分析
- 【7】: 映像民族誌の分析
- 【8】: 映像民族誌の分析
- 【9】: 調査計画の作成
- 【10】: 調査計画の作成
- 【11】: 調査計画の作成
- 【12】: 調査計画の作成
- 【13】: 調査の事前打ち合わせ
- 【14】: 調査の事前打ち合わせ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

「フィールドワーク論」を履修すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% フィールドワークへの参加状況:50% 事前学習への参加状況:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

社会調査実習は調査計画の立案、調査地との折衝、旅程の手配を含めて受講生の主体的な実践や共同作業により遂行されます。そのため意欲的な関わりが見られなかったり、欠席が目立ったりする受講生には中途であっても受講を停止する場合があります。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B
社会調査実習

門田 岳久(KADOTA TAKEHISA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB644
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学的な視点や方法論にもとづくフィールドワーク(FW)に実習として従事し、その成果をエスノグラフィー(民族誌)として表現します。

Engaging in fieldwork based on cultural anthropology and folklore perspectives and methodologies, the class aims to express the results as ethnography.

授業の内容 / Course Contents

演習 3 年では「宗教とツーリズム」に関わる論文読解および映像民族誌の分析を通じて、各自の具体的な関心を深め、沖縄にて約 10 日間のフィールドワークを実施します。秋学期では、フィールドワークの成果を文章や映像にまとめます。

In this seminar, students will deepen their specific interests through the analysis of articles and visual ethnographies related to "Religion and Tourism". In addition, we will conduct about 10 days of fieldwork in Okinawa.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【2】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【3】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【4】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【5】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【6】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【7】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【8】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【9】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【10】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【11】: 調査報告書作成に向けた検討
- 【12】: 校正、編集
- 【13】: 校正、編集
- 【14】: 講評会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

フィールドワークは夏期休暇中に実施し、成果報告の文章もしくは映像資料の提出は、初稿が11月半ばであり、1月半ばには印刷入稿を行います。そのため、短期集中して取り組むことが必要であり、ゼミ活動を基軸に大学生活を送ることが求められます。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% フィールドワークへの参加状況:50% 事前学習への参加状況:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

社会調査実習は調査計画の立案、調査地との折衝、旅程の手配を含めて受講生の主体的な実践や共同作業により遂行されます。そのため意欲的な関わりが見られなかったり、欠席が目立ったりする受講生には中途であっても受講を停止する場合があります。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

観光社会学

高岡 文章(TAKAOKA FUMIAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB649
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点から研究をおこなう。

Conducting research from the perspective of tourism sociology.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論をもとに観光社会学の理論や概念について理解を深める。また、フィールド調査をもとに研究論文を執筆する。

To deepen understanding of the theory and concepts of tourism sociology based on reading documents and on discussions. In addition, students will write research papers based on field surveys.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: フィールド調査
- 【3】: 文献講読および研究発表
- 【4】: 文献講読および研究発表
- 【5】: 文献講読および研究発表
- 【6】: 文献講読および研究発表
- 【7】: 文献講読および研究発表
- 【8】: フィールド調査
- 【9】: 文献講読および研究発表
- 【10】: 文献講読および研究発表
- 【11】: 文献講読および研究発表
- 【12】: 文献講読および研究発表
- 【13】: 文献講読および研究発表
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B
観光社会学

山岸 紫(YAMAGISHI YUKARI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB650
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点から研究をおこなう。

Conducting research from the perspective of tourism sociology.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論をもとに観光社会学の理論や概念について理解を深める。また、フィールド調査をもとに研究論文を執筆する。

To deepen understanding of the theory and concepts of tourism sociology based on reading documents and on discussions. In addition, students will write research papers based on field surveys.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: フィールド調査
- 【3】: 文献講読および研究発表
- 【4】: 文献講読および研究発表
- 【5】: 文献講読および研究発表
- 【6】: 文献講読および研究発表
- 【7】: 文献講読および研究発表
- 【8】: フィールド調査
- 【9】: 文献講読および研究発表
- 【10】: 文献講読および研究発表
- 【11】: 文献講読および研究発表
- 【12】: 文献講読および研究発表
- 【13】: 文献講読および研究発表
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

大橋 健一(OHASHI KENICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB651
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会学、文化人類学をベースに「文化」という観点から観光現象を分析する視点を養うことを目的とする。
The purpose of this seminar is to cultivate perspectives based on sociology and cultural anthropology from which to analyze tourism phenomena in terms of “culture”.

授業の内容 / Course Contents

2年次の演習で習得した基礎に立って、「文化」と観光の関係をより専門的に検討するため、より具体的な課題に絞り込んだ調査研究を共同で実施する。

Based on the foundation acquired in the 2nd year seminars, we will jointly conduct research focused on specific issues, in order to examine the relationship between culture and tourism in a more specialized manner.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(1)
- 【3】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(2)
- 【4】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(3)
- 【5】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(4)
- 【6】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(5)
- 【7】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(6)
- 【8】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(7)
- 【9】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(8)
- 【10】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(9)
- 【11】:関連文献の輪読と分析視角の獲得(10)
- 【12】:事例研究対象の検討と調査計画の立案(1)
- 【13】:事例研究対象の検討と調査計画の立案(2)
- 【14】:事例研究対象の検討と調査計画の立案(3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間では全体での課題の検討や議論を集中的に行うこととしたい。そのため関連文献の輪読や検討、授業時に全体で議論する課題の事前検討などの作業を授業時間外にサブゼミを組織しておこなってもらう。各回の事前事後学修にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参加度:70% 報告内容:30%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

大橋 健一(OHASHI KENICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB652
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会学、文化人類学をベースに「文化」という観点から観光現象を分析する視点を養うことを目的とする。
The purpose of this seminar is to cultivate perspectives based on sociology and cultural anthropology from which to analyze tourism phenomena in terms of “culture”.

授業の内容 / Course Contents

2年次の演習で習得した基礎に立って、「文化」と観光の関係をより専門的に検討するため、より具体的な課題に絞り込んだ調査研究を共同で実施する。演習(3年)Aの成果を踏まえ、その内容を検討し、さらに深め発展させる。

Based on the foundation acquired in the 2nd year seminars, we will jointly conduct research focused on specific issues, in order to examine the relationship between culture and tourism in a more specialized manner. Based on the results of seminar (3rd year) A, we will examine the findings, and these will be developed on a deeper level.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:事例調査成果の検討(1)
- 【3】:事例調査成果の検討(2)
- 【4】:事例調査成果の検討(3)
- 【5】:事例調査成果の検討(4)
- 【6】:関連文献調査とその検討(1)
- 【7】:関連文献調査とその検討(2)
- 【8】:関連文献調査とその検討(3)
- 【9】:関連文献調査とその検討(4)
- 【10】:研究成果のとりまとめ(1)
- 【11】:研究成果のとりまとめ(2)
- 【12】:研究成果の発表(1)
- 【13】:研究成果の発表(2)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間では全体での課題の検討や議論を集中的に行う。そのため関連文献の輪読や検討, 授業時に全体で議論する課題の事前検討などの作業を授業時間外にサブゼミを組織しておこなってもらう。各回の事前事後学修にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・演習への参加度:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。適宜案内する。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB653
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域の自然・文化の多様性や地域差, 地域の個性を具体的に調査することによって, 地域調査のスキルを修得する。
We will study the diversity of regional nature and culture, regional differences, and the unique characteristics of an area, while acquiring field survey skills.

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの設定から調査の企画, 報告書の作成に至るまで, 学生が自主的・主体的に行いながら, 地域調査の全過程を体験的に学習する。具体的な社会現象を研究対象として, 立地や地域形成, 地域変容, 観光圏と観光行動, 客層と集客圏などを考えていく。春学期は, 夏休みに実施する海外フィールドワークを念頭において以下の授業計画を実行する。

Students will independently conduct research on topics chosen themselves, as well as planning and producing reports, while empirically studying the overall process of field research. We will consider the location and regional make-up, along with regional transformation, tourism area and activities, visitor profiles and area, with specific social phenomena as the object of research. In the spring semester, we will commence the following lesson plans looking towards overseas fieldwork in the summer.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: テーマ設定
- 【2】: 調査企画
- 【3】: 仮説立案
- 【4】: 文献講読 1
- 【5】: 文献講読 2
- 【6】: 調査項目の設定
- 【7】: 調査票の作成 1
- 【8】: 調査票の作成 2
- 【9】: サンプルングと調査票の修正
- 【10】: 図表・地図作成スキルの修得
- 【11】: 図表・地図作成スキルの修得
- 【12】: フィールドワークの実践 1
- 【13】: フィールドワークの実践 2
- 【14】: フィールドワークの実践 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記の参考文献『地域調査ことはじめ』(ナカニシヤ出版)を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題(複数回)の達成度:50% 発表とディスカッション:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか 地域調査ことはじめ ナカニシヤ出版 2007 9784779501326

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB654
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

地域の自然・文化の多様性や地域差，地域の個性を具体的に調査することによって，地域調査のスキルを修得する。
We will study the diversity of regional nature and culture, regional differences, and the unique characteristics of an area, while acquiring field survey skills.

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの設定から調査の企画，報告書の作成に至るまで，学生が自主的・主体的に行いながら，地域調査の全過程を体験的に学習する。具体的な社会現象を研究対象として，立地や地域形成，地域変容，観光圏と観光行動，客層と集客圏などを考えていく。後期は，夏休みに実施したフィールドワークに基づいて以下を実施する。

Students will independently conduct research on topics chosen themselves, as well as planning and producing reports, while empirically studying the overall process of field research. We will consider the location and regional make-up, along with regional transformation, tourism area and activities, visitor profiles and area, with specific social phenomena as the object of research. The second half will cover the following:

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 収集資料の整理
- 【2】: 収集資料の分析
- 【3】: 収集資料の分析
- 【4】: 仮説の再検証
- 【5】: 分析結果の図表化1
- 【6】: 分析結果の図表化2
- 【7】: 分析結果の地図化1
- 【8】: 分析結果の地図化2
- 【9】: 補足調査
- 【10】: 調査結果の考察
- 【11】: 論文の執筆
- 【12】: 論文の添削
- 【13】: 論文の校正
- 【14】: 最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外に、グループのメンバー同士で討論を交わして、研究方法から資料収集と分析、配付資料とスライド作成、プレゼン技術、論文執筆にいたるまで、自分たちの型を見出しつつ実行する。学期末には、論文を執筆し、論文集を出版する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表とディスカッション:30% 現地調査:30% 論文の内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか『地域調査ことはじめ—あるく・みる・かく』(ナカニシヤ出版)

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

モビリティ研究としての観光学

舩谷 鋭(MASUTANI SATOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB657
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習のテーマはモビリティ研究としての観光学である。現代観光学についての理論を踏まえ、講読やフィールドワークによって考察する。

The theme of Seminar has been “Tourism Studies as Mobility Studies”. Based on the theory of contemporary tourism studies, the seminar will examine it through lectures and fieldwork.

授業の内容 / Course Contents

研究視点を身につけるために文献講読を行う

研究対象へのアプローチ方法として、現地調査を行う

分析と情報収集が行えるよう、ICT 実習を行う

In this seminar, we:

- 1) read a textbook to acquire a research perspective;
- 2) conduct a field survey to approach a research subject; and
- 3) practice ICT technology to learn the skill to analyze and collect information.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:個人テーマ確認
- 【3】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【4】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【5】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【6】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【7】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【8】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【9】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【10】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【11】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【12】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【13】:研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【14】:研究講読/個人テーマ報告・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

議論を深めるためのプレゼン合宿や、実地確認するためのフィールドワークおよび社会連携活動の準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加状況:100%

テキスト / Textbooks

遠藤英樹ら 現代観光学 新曜社 2019 9784788516052

参考文献 / Readings

遠藤英樹編 フィールドワークの現代思想 ナカニシヤ出版 2022 9784779516672

須藤廣,遠藤英樹 観光社会学 2.0 福村出版 2017 9784571410611

須藤廣ら編著 観光が世界をつくる 明石書店 2023 9784750356181

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz からFAQ ページなどを用意している

授業支援システムとして、演習科目では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

アフターコロナの観光学

羽生 敦子(HANYU ATSUKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB658
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面授業
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本演習のテーマはアフターコロナの観光学である。過去の経験をもとに、変容した世界と観光について、講読やフィールドワークによって考察する。

The theme of Seminar has been “Tourism Studies in Post Covid era”. Post covid tourism will be the theme of our research, based on our experiences in the past years, reading and fieldwork.

授業の内容 / Course Contents

- 1) 研究視点を身につけるために文献講読を行う。
テキスト『現代観光学』の第Ⅲから始める。(ⅠとⅡは春学期に実施)
- 2) 研究対象へのアプローチ方法として、現地調査を行う。
- 3) 分析と情報収集が行えるよう、ICT 実習を行う。

In this seminar, we:

- 1) read a textbook to acquire a research perspective;
- 2) conduct a field survey to approach a research subject; and
- 3) practice ICT technology to learn the skill to analyze and collect information.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 春学期以降のふりかえり
- 【2】: 個人テーマ再確認
- 【3】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【4】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【5】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【6】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【7】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【8】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【9】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【10】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【11】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【12】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【13】: 研究講読/個人テーマ報告・討論
- 【14】: 研究講読/個人テーマ報告・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワポ等)の使用	○
グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

議論を深めるためのプレゼン合宿や、実地確認するためのフィールドワークおよび社会連携活動の準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加状況:100%

テキスト / Textbooks

遠藤英樹ら 現代観光学 新曜社 2019 9784788516052

参考文献 / Readings

遠藤英樹 フィールドワークの現代思想 ナカニシヤ出版 2022 1921030024004

市野澤潤平ら 観光人類学のフィールドワーク ミネルヴァ書房 2021 9784623091881

須藤廣ら 観光が世界をつくる 明石書店 2023 9784750356181

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz からFAQ ページなどを用意している。

授業支援システムとして、演習では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB661
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

演習(2年)の成果を踏まえ、より高次のレベルで観光と歴史の関係を理解する。

Based on the results of the (second year) seminars, we will interpret tourism from a historical perspective at a higher level.

授業の内容 / Course Contents

履修者が選択した研究テーマにもとづき、文献講読、史料収集、成果報告、ディスカッションなどを実施する。

Document reading, collection of historical materials, and field surveys and so on will be conducted according to the theme chosen by the student (limited to those focusing on the relationship between tourism and history).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: テーマ選定
- 【3】: テーマ選定
- 【4】: テーマ選定
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 史料収集
- 【9】: 史料収集
- 【10】: 史料収集
- 【11】: 成果報告およびディスカッション
- 【12】: 成果報告およびディスカッション
- 【13】: 成果報告およびディスカッション
- 【14】: 演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習に臨むための準備を行う。
演習で明らかになった課題に取り組む。
関連する先行研究を積極的に読む。
関連する史料を積極的に収集する。
成果報告およびディスカッションに臨むための準備を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 報告の内容:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB662
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

演習(2年)の成果を踏まえ、より高次のレベルで観光と歴史の関係を理解する。

Based on the results of the (second year) seminars, we will interpret tourism from a historical perspective at a higher level.

授業の内容 / Course Contents

履修者が選択した研究テーマにもとづいて研究、調査を行い、報告会で成果を発表するとともに報告書原稿を執筆する。

Research and surveys will be conducted, based on the themes chosen by students (limited to those focusing on the relationship between tourism and history), with results presented in both a written report and orally.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 報告書原稿執筆
- 【3】: 報告書原稿執筆
- 【4】: 報告書原稿執筆
- 【5】: 報告書原稿執筆
- 【6】: 報告書原稿執筆
- 【7】: 報告書原稿執筆
- 【8】: 報告書原稿執筆
- 【9】: 報告書原稿執筆
- 【10】: 報告書原稿執筆
- 【11】: 報告書原稿執筆
- 【12】: 報告書原稿執筆
- 【13】: 報告書原稿執筆
- 【14】: 演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習に臨むための準備を行う。

演習で明らかになった課題に取り組む。

関連する先行研究を積極的に読む。

関連する史料を積極的に収集する。

報告会に臨むための準備を行う。

報告書を作成する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加:50% 報告書原稿の内容:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

観光による文学、文学による観光/Literature through Tourism, Tourism through Literature

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB663
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光現象を文学との接点から分析する。

We will analyze tourism phenomena from references in literature.

授業の内容 / Course Contents

1890 年代以降に日本語で書かれた小説作品を中心とする文献講読および討議を通じ、多様な観光現象がいかに関に日常に浸透し、われわれの思考や感情に影響を及ぼす「無意識」を形成しているか、考察する。また、土地を生成過程にある「作品」、そのモデル作者を「土地の精霊」と捉え、前者の社会的受容とそれを通じた「書き換え」のプロセスを実践的に学ぶ。春学期の学習を踏まえて各自が対象を選び、文献調査および現地調査をまとめて雑誌「ゲニウス・ロキ」を作成する。

We will consider how various tourist phenomena pervade everyday life and form "unconsciously", affecting our thoughts and emotions, through reading and discussing literature – primarily Japanese novels written after the 1890s.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読および討議 1
- 【3】: 文献講読および討議 2
- 【4】: 文献講読および討議 3
- 【5】: 文献講読および討議 4
- 【6】: 文献講読および討議 5
- 【7】: 文献講読および討議 6
- 【8】: 文献講読および討議 7
- 【9】: 文献講読および討議 8
- 【10】: 文献講読および討議 9
- 【11】: 文献講読および討議 10
- 【12】: 文献講読および討議 11
- 【13】: 文献講読および討議 12
- 【14】: 演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習で扱う文献および関連文献を読む。また、現地調査や資料収集を自主的に行い、演習にフィードバックする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

受講者と相談の上、決定する。

参考文献 / Readings

演習で文献リストを配付する。

その他 / Others

受講者と相談の上、決定する。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB664
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光現象を文学との接点から分析する。

We will analyze tourism phenomena from references in literature.

授業の内容 / Course Contents

1890 年代以降に日本語で書かれた小説作品を中心とする文献講読および討議を通じ、多様な観光現象がいかに関に日常に浸透し、われわれの思考や感情に影響を及ぼす「無意識」を形成しているか、考察する。また、土地を生成過程にある「作品」、そのモデル作者を「土地の精霊」と捉え、前者の社会的受容とそれを通じた「書き換え」のプロセスを実践的に学ぶ。春学期の学習を踏まえて各自が対象を選び、文献調査および現地調査をまとめて雑誌「ゲニウス・ロキ」を作成する。

We will consider how various tourist phenomena pervade everyday life and form "unconsciously", affecting our thoughts and emotions, through reading and discussing literature – primarily Japanese novels written after the 1890s.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション(対象作品の選択)
- 【2】: 文献講読および討議 1
- 【3】: 文献講読および討議 2
- 【4】: 文献講読および討議 3
- 【5】: 文献講読および討議 4
- 【6】: 文献講読および討議 5
- 【7】: 文献講読および討議 6
- 【8】: 文献講読および討議 7
- 【9】: 文献講読および討議 8
- 【10】: 文献講読および討議 9
- 【11】: 文献講読および討議 10
- 【12】: 文献講読および討議 11
- 【13】: 文献講読および討議 12
- 【14】: 演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

演習で扱う文献および関連文献を読む。また、現地調査や資料収集を自主的に行い、演習にフィードバックする。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

受講者と相談の上、決定する。

参考文献 / Readings

演習で文献リストを配付する。

その他 / Others

フィールド調査の対象地は春学期の演習 A で決定したそれを継続する。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A
質的調査の実践とレポート執筆

久保 忠行(KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB667
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

質的調査の手法を学び実践することができるようになること。

研究テーマを決めて対象についての理解を深めること。

Students will be able to learn methods of qualitative research and practice it.

Students are expected to decide on a research topic and to develop their understanding of the research subject.

授業の内容 / Course Contents

参与観察、インタビュー、エスノグラフィーの作成という質的調査の手法を学び、実践する。

Students will learn the methods of qualitative research – participant observation, interviews, and the writing ethnography – and practice it.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 質的調査の手法(1)
- 【3】: 質的調査の手法(2)
- 【4】: 質的調査の手法(3)
- 【5】: 学生の研究発表(1)
- 【6】: 学生の研究発表(2)
- 【7】: 学生の研究発表(3)
- 【8】: 学生の研究発表(4)
- 【9】: 学生の研究発表(5)
- 【10】: 学生の研究発表(6)
- 【11】: 学生の研究発表(7)
- 【12】: 学生の研究発表(8)
- 【13】: 学生の研究発表(9)
- 【14】: 学生の研究発表(10)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

上記はシラバス執筆時の予定であり、変更する場合がある。履修許可者は初回授業までに Canvas LMS にログインして詳細を確認すること。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告に向けた準備(2 時間以上)、調査と執筆は授業でのコメントをうけて授業後におこなう(2 時間以上)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:35% 報告の準備:35% 議論への参加:30%

テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

2 年次の演習をとおしてテーマが確定しており、テーマにかんする文献リストを作成済みであること。

就活を理由とした欠席とならずゼミに必ず参加できるように、日程を調整する能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で論文・レポートの書き方の指導をするので、該当する回ではノートパソコンを持参すること。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B
成果報告書の作成

久保 忠行(KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB668
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学術的な手続きにもとづき、正確な日本語で学術的な報告書を作成することができるようになること。

Students are expected to be able to write academic reports according to academic procedures and in proper Japanese.

授業の内容 / Course Contents

成果報告書の執筆にむけて、各自の問題意識にあわせて研究をすすめる。他の受講者との意見交換をとおして、自分なりの視点・切り口にもとづく報告書を作成する。

Students will conduct research in accordance with their own interests in order to write a final report. Students will exchange opinions with other participants and write reports based on their original viewpoints and perspectives.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 構想の報告(章立て、先行研究、着眼点)
- 【3】: 構想の報告(章立て、先行研究、着眼点)
- 【4】: 構想の報告(章立て、先行研究、着眼点)
- 【5】: 構想の報告(章立て、先行研究、着眼点)
- 【6】: 草稿をもとにした報告(1)
- 【7】: 草稿をもとにした報告(1)
- 【8】: 草稿をもとにした報告(1)
- 【9】: 草稿をもとにした報告(1)
- 【10】: 草稿をもとにした報告(2)
- 【11】: 草稿をもとにした報告(2)
- 【12】: 草稿をもとにした報告(2)
- 【13】: 草稿をもとにした報告(2)
- 【14】: まとめと完成原稿の提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献の収集と渉猟、報告資料の作成は授業前におこなう(2 時間以上)。
報告書の執筆とコメントをうけた修正などは授業後に実施すること(2 時間以上)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 成果物:35% 資料作成と報告:35% 議論への参加:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ゼミに必ず参加できるように(就活を理由とした欠席とならないよう)日程を調整する能力が求められる。
報告者は論文や資料を熟読し、論文の内容と事実関係をもとにディスカッションのベースとなる論点を抽出して授業にのぞむこと。受講者間で進捗状況や草稿を共有しながらすすめる。

演習(3年)A

Seminar (3rd year)A

観光、移動と多様性

石野 隆美 (ISHINO TAKAYOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB669
授業形態	オンライン(一部対面)	授業形態(補足事項)	第2回(4/21)・第7回(5/26)・第12回(6/30)・第14回(7/14)について、対面で実施する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

多様性が尊重される持続可能な社会を作るための取り組みについて知識を深め、社会的なつながりや協力関係を模索するために必要な多角的な視点を養う。社会調査の基礎を学び、実践する。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Deepen knowledge of existing initiatives that seek to create a more diverse and sustainable society.
- 2) Develop a multidimensional perspective to effectively explore possibilities for social connection and cooperation.
- 3) Learn the basics of social research and put the knowledge into practice.

授業の内容 / Course Contents

2年次に触れてきたテーマの中から具体的な調査トピックを設定し、関連資料や文献から理解を深める。自分で調査データを得る経験を積み、結果をまとめる。フィールドワークでは座学で学んだ知識を応用し、調査技術を習得する。

In this course, students select a concrete research topic of interest based on the themes they engaged with in their second year, and deepen their knowledge by reading relevant literature. Fieldwork provides opportunities to apply classroom knowledge and acquire research skills.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:関心の掘り下げ
- 【3】:調査方法について文献から学ぶ
- 【4】:調査方法について文献から学ぶ
- 【5】:関連文献の調査、レビュー
- 【6】:関連文献の調査、レビュー
- 【7】:文献講読・調査方法の実践
- 【8】:文献講読・調査方法の実践
- 【9】:文献講読・調査方法の実践
- 【10】:調査結果をまとめる
- 【11】:調査結果をまとめる
- 【12】:調査結果をまとめる
- 【13】:調査結果をまとめる
- 【14】:調査結果の発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読や調査の準備などをしてから授業に参加することが履修の前提となる。
フィールドワークは基本的に授業時間外に行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加度:30% 授業内に指示した提出物(複数回):70%

テキスト / Textbooks

適宜案内する。

参考文献 / Readings

三井さよ、三谷はるよ、西川知享、工藤保則 はじめての社会調査 世界思想者 2023 9784790717775
岸政彦、石岡丈昇、丸山里見 質的社会調査の方法=他者の合理性の理解社会学 有斐閣ストゥディア 2016 9784641150379
前田拓也、秋谷直矩、朴沙羅、木下衆 最強の社会調査入門 ナカニシヤ出版 2016 9784779510793
適宜案内する。

その他 / Others

調査対象によってデータ取得の時期や方法は様々であるため、上記の授業計画に変更が生じることもある。

演習(3年)B

Seminar (3rd year)B

観光、移動と多様性

川嶋 久美子(KAWASHIMA KUMIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB670
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM3003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会学的想像力を使い、関心のある事象を学術的に調査する力を養う。適切な調査計画、データ取得・分析に基づき、説得力のある議論を展開する力をつける。調査結果を構成がしっかりしたレポートにまとめるスキルを習得する。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Acquire the skills to apply their sociological imagination in conducting academic research on a phenomenon of interest.
- 2) Develop the ability to build a convincing argument based on appropriate research plan, data collection and analysis.
- 3) Present one's own research findings in the form of a well-structured report.

授業の内容 / Course Contents

関心のある具体的な調査トピックを選び、学術的、社会的意義のある問いを立てる。調査方法と研究倫理の基礎を学び、整合性と説得力のある調査計画書を書く。計画に基づきデータ取得・分析を進め、結果をレポートにまとめる。発表とフィードバックを通して考察を深め、執筆を進める。一連の流れを通して自己の調査の社会的、学術的意義を明確にし、研究倫理と調査のプロセスが結果に及ぼした影響について振り返る。

In this course, students select a concrete research topic of interest and formulate academically and socially meaningful research questions. They learn the basics of research methods and ethics, and craft a logical and convincing research plan. Subsequently, they advance to data analysis based on the research plan and articulate their findings in a comprehensive report. By presenting their work in progress and receiving constructive feedback, they refine their ideas and the draft report. Throughout the course, they work to clarify the social and scholarly significance of their research and reflect on the impact of research ethics and the process on the resulting work.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、関心の掘り下げ
- 【2】:関連文献の調査、レビュー
- 【3】:関連文献の調査、レビュー
- 【4】:調査計画書の作成
- 【5】:調査計画書の作成
- 【6】:データ取得、分析、調査の進捗報告
- 【7】:データ取得、分析、調査の進捗報告
- 【8】:データ取得、分析、調査の進捗報告
- 【9】:データ取得、分析、調査の進捗報告
- 【10】:データ取得、分析、調査の進捗報告
- 【11】:調査レポートの執筆

- 【12】:調査レポートの執筆
 【13】:調査レポートの編集、校正
 【14】:調査レポートの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ [®] 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備などをしてから授業に参加することが履修の前提となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 研究成果のまとめ:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜案内する。

その他 / Others

調査対象によって調査の時期や方法は様々であるため、上記の授業計画に変更が生じることもある。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A
観光地理学の卒業論文演習

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB701
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光と地域に関わる卒業論文を完成させる。

Completion of graduation thesis on tourism and the community.

授業の内容 / Course Contents

観光地理学に関わる定期的な研究発表と全体での討論を基盤として、先行研究の整理、地域調査、調査レポートの作成を進め、その過程を卒業論文の作成に結びつけられるようにする。履修者は研究課題と研究対象地域、関連文献、現地調査の結果を交えて口頭発表を行い、その内容に関して全体で討論する。また、履修者が自らのフィールドの巡検を企画し、現地での討論をとおしてフィールドに関する地理的情報を共有できるようにする。

Based on periodical research presentations and overall discussions concerning the geography of tourism, we will advance the organization of previous research, field surveys, and the preparation of survey reports, so that the process can be linked to the production of graduation thesis. Students will give oral presentations on their research subjects and regions, related literature, the results of field surveys, and discuss the contents in general. In addition, students can plan their own field trips so that they can share related geographical information through discussions on the sites.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究指導の進め方
- 【2】: 論文紹介1
- 【3】: 論文紹介2
- 【4】: 論文紹介3
- 【5】: 論文紹介4
- 【6】: 論文紹介5
- 【7】: 卒業論文のフィールド案内(首都圏)1
- 【8】: 研究課題と研究方法の検討1
- 【9】: 研究課題と研究方法の検討2
- 【10】: 研究課題と研究方法の検討3
- 【11】: 研究課題と研究方法の検討4
- 【12】: 研究課題と研究方法の検討5
- 【13】: 卒業論文のフィールド案内(首都圏)2
- 【14】: 卒業論文のフィールド案内(首都圏)3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

卒業論文のフィールドを全体で共有するための巡検を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文への取り組み方:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修者の研究内容に応じて紹介する。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B
観光地理学の卒業論文演習

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB702
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光と地域に関わる卒業論文を完成させる。

Completion of graduation thesis on tourism and the community.

授業の内容 / Course Contents

観光地理学に関わる定期的な研究発表と全体での討論を基盤として、先行研究の整理、地域調査、調査レポートの作成を進め、その過程を卒業論文の作成に結びつけられるようにする。履修者は研究課題と研究対象地域、関連文献、現地調査の結果を交えて口頭発表を行い、その内容に関して全体で討論する。また、履修者が自らのフィールドの巡検を企画し、現地での討論をとおしてフィールドに関する地理的情報を共有できるようにする。

Based on periodical research presentations and overall discussions concerning the geography of tourism, we will advance the organization of previous research, field surveys, and the preparation of survey reports, so that the process can be linked to the production of graduation thesis. Students will give oral presentations on their research subjects and regions, related literature, the results of field surveys, and discuss the contents in general. In addition, students can plan their own field trips so that they can share related geographical information through discussions on the sites.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究指導の進め方
- 【2】: 収集データの検討と分析1
- 【3】: 収集データの検討と分析2
- 【4】: 収集データの検討と分析3
- 【5】: 収集データの検討と分析4
- 【6】: 考察とまとめ1
- 【7】: 考察とまとめ2
- 【8】: 卒業論文中間発表1
- 【9】: 卒業論文中間発表2
- 【10】: 卒業論文中間発表3
- 【11】: 卒業論文中間発表4
- 【12】: 卒業論文報告会に向けて1
- 【13】: 卒業論文報告会に向けて2
- 【14】: 卒業論文報告会に向けて3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

卒業論文のフィールドを全体で共有するための巡検を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文への取り組み方:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修者の研究内容に応じて紹介する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB703
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまでの講義や演習を通して得た知識や思考方法を活かし、卒業論文の完成に向け調査や分析、考察、執筆を行う。
By the end of this course, students will be able to apply the knowledge and ways of thinking in the course, and write up their graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

学生は自らの関心に即して研究テーマを決め、調査及び執筆計画をたてる。調査および卒業論文の執筆を効果的に進めるため、教員および他学生からのアドバイスを得る。

Students are to plan their research on topics of their choice and receive guidance on the process of writing a graduation thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:研究テーマの設定1
- 【3】:研究テーマの設定2
- 【4】:研究テーマの設定3
- 【5】:文献研究1
- 【6】:文献研究2
- 【7】:文献研究3
- 【8】:調査計画の設定1
- 【9】:調査計画の設定2
- 【10】:調査計画の設定3
- 【11】:予備調査の実施1
- 【12】:予備調査の実施2
- 【13】:調査計画の再検討1
- 【14】:調査計画の再検討2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

調査及び執筆は演習の時間外で行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミへの貢献(発表、発言、議論への参加):100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

各学生の興味関心に応じて、その都度紹介する。

その他 / Others

4年次において、卒業論文を書くために乗り越えるべき山は概ね4回ある。第一は就職活動に忙しい春であり、この時期に就活だけのことを考えず卒論のことも同時に考える余裕のある者がいずれにおいても成功する。第二は夏であり、文献研究やフィールド調査に専念することが成否を分かť。第三は秋であり、データや構想が未完成ながらも「できることからやる」精神を持って日々取り組むことが肝要である。第四は卒論提出前の初冬であり、諦めないことが大事である。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB704
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学的な視点に基づいて現代社会の具体的な現象を考究し、観光学部／演習におけるこれまでの学びの成果を、各自の卒業論文として具体化させることを目標とする。

Based on perspectives from cultural anthropology and folklore, we will study specific phenomena in modern society, with the aim of utilizing the results of past learning in the College of Tourism seminars in your own graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究指導 A で計画した各自の研究計画、調査計画に沿い、受講生の研究発表(フィールドワークの成果、および論文の進捗状況)と議論を軸として進められる。本科目は卒業論文の指導それ自体を目的とし、論文執筆に資する内容を目指すことになる。とりわけ後半では執筆途中の論文を本人が原文通りに読み上げ、それを元に議論を行う、いわゆる「ライティングアップセミナー」の形式を採る。

Based on their research and survey plans created in Seminar A, the class will mainly focus on students' research presentations (results of fieldwork and progress of paper) and discussions. This course is aimed at providing guidance for the graduation thesis itself and is intended to contribute to the writing of the thesis. In the second half, in particular, we will adopt the so-called "writing-up seminar" format, whereby the author reads out the manuscript in progress, which then forms the basis of a discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義:なぜ「書く」のか
- 【2】: 夏休み中の成果報告と研究計画の再構成
- 【3】: 夏休み中の成果報告と研究計画の再構成
- 【4】: 夏休み中の成果報告と研究計画の再構成
- 【5】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【6】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【7】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【8】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【9】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【10】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【11】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【12】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【13】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 【14】: 受講生による論文草稿の読み上げと議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

開講時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告等、演習への参加状況:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

4 年次において、卒業論文を書くために乗り越えるべき山は概ね 4 回ある。第一は就職活動に忙しい春であり、この時期に就活だけのことを考えず卒論のことも同時に考える余裕のある者がいずれにおいても成功する。第二は夏であり、文献研究やフィールド調査に専念することが成否を分かち。第三は秋であり、データや構想が未完成ながらも「できることからやる」精神を持って日々取り組むことが肝要である。第四は卒論提出前の初冬であり、諦めないことが大事である。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB705
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化・社会の変化・交流・創造現象に関する実証的な卒業論文研究あるいはゼミ論文研究への実践的指導です。今年度は10月半ば～12月半ば、池袋キャンパスの立教学院展示館で、このゼミが主催の展示会「トーヴェ・ヤンソン～ムーミンの誕生と展開～」を開催します。展示会の企画・準備・運営も重要なゼミ活動になります。

This is practical guidance for empirical graduation thesis research or seminar thesis research on cultural and social change, exchange, and creative phenomena.

This year, the seminar will be hosting an exhibition entitled "Tove Jansson – The Birth and Development of Moomin" at the Rikkyo Gakuin Exhibition Hall on the Ikebukuro Campus from mid-October to mid-December. Planning, preparing, and running the exhibition will also be an important seminar activity.

授業の内容 / Course Contents

以下の授業計画を参照して下さい。

【授業の目標】の欄に追加で記した展示会「トーヴェ・ヤンソン～ムーミンの誕生と展開」の企画・準備・運営に関わる諸作業は、随時、このゼミの中でも検討・議論・実践を重ねます。

See below for lesson plans.

The various tasks involved in planning, preparing, and running the exhibition "Tove Jansson – The Birth and Development of Moomin", which is additionally mentioned in the [Course Objectives] section, will be continuously examined, discussed, and practiced in this seminar.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 学術的な研究とは、卒業論文研究とは。
- 【2】: 各人が自らの研究テーマと論文目次案を紹介し、皆で議論する(1巡目)。
- 【3】: 各人が自らの研究テーマと論文目次案を紹介し、皆で議論する(1巡目)。
- 【4】: 各人が自らの研究テーマと論文目次案を紹介し、皆で議論する(1巡目)。
- 【5】: 各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する(2巡目)。
- 【6】: 各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する(2巡目)。
- 【7】: 各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する(2巡目)。
- 【8】: 各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する(3巡目)。
- 【9】: 各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する(3巡目)。
- 【10】: 各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する(3巡目)。
- 【11】: 各人がオリジナルな研究へ向けての「調査計画」を簡潔に紹介し、皆で議論する(4巡目)。
- 【12】: 各人がオリジナルな研究へ向けての「調査計画」を簡潔に紹介し、皆で議論する(4巡目)。
- 【13】: 各人がオリジナルな研究へ向けての「調査計画」を簡潔に紹介し、皆で議論する(4巡目)。
- 【14】: 夏休み中の資料収集や調査活動について。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワーポイント等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表		ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上記の授業計画以外に、随時、個人指導を行います。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文研究・ゼミ論文研究への取り組み姿勢:70% 研究の報告発表の評価:30%

テキスト / Textbooks

随時、資料を配布します。

参考文献 / Readings

随時、資料を配布します。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB706
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化・社会の変化・交流・創造現象に関する実証的な卒業論文研究あるいはゼミ論文研究への実践的指導です。今年度は10月半ば～12月半ば、池袋キャンパスの立教学院展示館で、このゼミが主催の展示会「トーヴェ・ヤンソン～ムーミンの誕生と展開～」を開催します。展示会の企画・準備・運営も重要なゼミ活動になります。

This is practical guidance for empirical graduation thesis research or seminar thesis research on cultural and social change, exchange, and creative phenomena.

This year, the seminar will be hosting an exhibition entitled "Tove Jansson – The Birth and Development of Moomin" at the Rikkyo Gakuin Exhibition Hall on the Ikebukuro Campus from mid-October to mid-December. Planning, preparing, and running the exhibition will also be an important seminar activity.

授業の内容 / Course Contents

以下の授業計画を参照して下さい。

【授業の目標】の欄に追加で記した展示会「トーヴェ・ヤンソン～ムーミンの誕生と展開」の企画・準備・運営に関わる諸作業は、随時、このゼミの中でも検討・議論・実践を重ねます。

See below for lesson plans.

The various tasks involved in planning, preparing, and running the exhibition "Tove Jansson – The Birth and Development of Moomin", which is additionally mentioned in the [Course Objectives] section, will be continuously examined, discussed, and practiced in this seminar.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 学術的論文作法の確認。
- 【2】: 学術的論文作法の確認。
- 【3】: 各人が自らの夏休み中の研究・調査活動の概要を紹介し、皆で議論する(1巡目)。
- 【4】: 各人が自らの夏休み中の研究・調査活動の概要を紹介し、皆で議論する(1巡目)。
- 【5】: 各人が自らの論文の目次案を紹介し、皆で議論する(2巡目)。
- 【6】: 各人が自らの論文の目次案を紹介し、皆で議論する(2巡目)。
- 【7】: 各人が論文第1章の、先行研究の整理と自らの研究の目的・方法の部分を中心とした発表を行い、皆で議論する(3巡目)。
- 【8】: 各人が論文第1章の、先行研究の整理と自らの研究の目的・方法の部分を中心とした発表を行い、皆で議論する(3巡目)。
- 【9】: 各人が論文第2章の、自らのオリジナルな研究部分(事例やデータ)を中心とした発表を行い、皆で議論する(4巡目)。
- 【10】: 各人が論文第2章の、自らのオリジナルな研究部分(事例やデータ)を中心とした発表を行い、皆で議論する(4巡目)。

- 【11】:各人が論文第3章の, 考察・総括の部分を中心とした発表を行い, 皆で議論する(5巡目)。
 【12】:各人が論文第3章の, 考察・総括の部分を中心とした発表を行い, 皆で議論する(5巡目)。
 【13】:卒業論文発表会へ向けて発表レジュメ案の紹介と検討。
 【14】:卒業論文発表会へ向けて模擬発表。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上記の授業計画に加えて, 個人指導も行います。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文研究・ゼミ論文研究への取り組み姿勢:70% 研究の報告発表の評価:30%

テキスト / Textbooks

随時, 資料を配布します。

参考文献 / Readings

随時, 資料を配布します。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

大橋 健一 (OHASHI KENICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB709
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまでの演習の成果を踏まえ、社会・文化現象としての観光についてより総合的な視座を獲得することを目標とする。
Based on the results of the previous seminars, the objective is to gain a more comprehensive view of tourism as a social and cultural phenomenon.

授業の内容 / Course Contents

観光現象を「社会」や「文化」という視点からとらえるテーマを各自の問題関心に応じて自由に設定してもらい、設定テーマに関する既存研究の文献研究や独自のフィールド調査を通して、観光と「社会」「文化」の関係を総合的に検討するため、報告、発表を順次行い、参加者相互に検討しあう。成果を論文の形にまとめることを目指す。
Themes which tackle tourism phenomena from the perspective of “society” and “culture” can be set freely according to each issue of concern, and through researches on existing studies on the theme and independent field surveys, a comprehensive study of the relationship between tourism and “society and culture” will be investigated. Reports and presentations will be made one after another, followed by a discussion among the participants. The aim being to incorporate the results in the thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:課題設定(1)
- 【3】:課題設定(2)
- 【4】:文献研究:関連文献の渉猟とリスト化(1)
- 【5】:文献研究:関連文献の渉猟とリスト化(2)
- 【6】:文献研究:関連文献の内容の検討(1)
- 【7】:文献研究:関連文献の内容の検討(2)
- 【8】:文献研究:関連文献の内容の検討(3)
- 【9】:文献研究:関連文献の内容の検討(4)
- 【10】:文献研究:関連文献の内容の検討(5)
- 【11】:研究計画の再検討(1)
- 【12】:研究計画の再検討(2)
- 【13】:調査計画の立案(1)
- 【14】:調査計画の立案(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業時に検討する自らの研究課題に関する資料を事前に準備するとともに、検討結果のさらなる吟味、課題の再検討などを毎回行うこと。各回の事前事後学修にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・演習への参加度:70% 報告内容:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

大橋 健一(OHASHI KENICHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB710
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまでの演習の成果を踏まえ、観光と「文化」との関係についてより総合的な視座を獲得することを目標とする。

Based on the outcome of previous seminars, the aim is to gain a more comprehensive view on the relationship between tourism and "culture".

授業の内容 / Course Contents

観光現象を「文化」という視点からとらえるテーマを各自の問題関心に応じて自由に設定してもらい、設定テーマに関する既存研究の文献研究や独自のフィールド調査を通して、観光と「文化」の関係を総合的に検討するため、報告、発表を順次行い、参加者相互に検討しあう。その上で成果を論文の形にまとめる。

Themes which tackle tourism phenomena from the perspective of "culture" can be set freely according to each issue of concern, and through existing research on the theme and independent field surveys, a comprehensive study of the relationship between tourism and "cultural" will be investigated. Reports and presentations will be made one after another, followed by a discussion among the participants. In addition, each student will write a research paper.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:調査結果の検討(1)
- 【3】:調査結果の検討(2)
- 【4】:調査結果の分析(1)
- 【5】:調査結果の分析(2)
- 【6】:論文構成案の作成と検討(1)
- 【7】:論文構成案の作成と検討(2)
- 【8】:論文内容の検討(1)
- 【9】:論文内容の検討(2)
- 【10】:論文内容の検討(3)
- 【11】:論文内容の検討(4)
- 【12】:論文内容の検討(5)
- 【13】:研究成果の発表(1)
- 【14】:研究成果の発表(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	

校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業時に検討する自らの研究課題に関する資料を事前に準備するとともに、検討結果のさらなる吟味、課題の再検討などを毎回行うこと。各回の事前事後学修にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・演習への参加度:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB711
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまで学習してきた知識を活かして、地域の自然・文化の多様性や地域差、地域の個性を見出し、卒業論文として公表する。

By utilizing the knowledge that has been learned so far, we will identify the diversity of nature and culture of regions, the differences between regions and their individual characters, and make public as graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自が関心のあるテーマを設定し、これまでの学習で得た諸概念、文献調査やフィールドワーク、PC スキルなどをフルに活かして研究を進める。研究の進ちょく状況の定期的な発表を通じて指導する。

Each student will determine their theme of interest and conduct research, making full use of the ideas acquired though class, literary research, fieldwork and computer skills. Periodic research progress updates will be given and guidance provided.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:これまでの卒業論文の例
- 【2】:テーマの設定
- 【3】:テーマの設定
- 【4】:文献調査
- 【5】:文献調査
- 【6】:調査方法の確定
- 【7】:調査方法の確定
- 【8】:調査準備(地図収集・聞き取り調査票・アンケート調査票などの作成)
- 【9】:調査準備(地図収集・聞き取り調査票・アンケート調査票などの作成)
- 【10】:サンプル調査の実施
- 【11】:調査準備の再検討
- 【12】:現地調査の実施
- 【13】:現地調査の実施
- 【14】:現地調査の実施

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

下記の参考文献を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究レポートの提出とその完成度:50% ゼミへの貢献度(ディスカッション等):50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか 地域調査ことはじめ ナカニシヤ出版 2007 4779501326

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB712
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまで学習してきた知識を活かして、地域の自然・文化の多様性や地域差、地域の個性を見出し、卒業論文として公表する。

By utilizing the knowledge that has been learned so far, we will identify the diversity of nature and culture of regions, the differences between regions and their individual characters, and make public as graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自が関心のあるテーマを設定し、これまで学習してきた諸概念、文献調査やフィールドワーク、PC スキルなどをフルに活かして研究を進める。研究の進捗状況の定期的な発表を通じて指導する。

Each student will determine their theme of interest and conduct research, making full use of the ideas acquired through class, literary research, fieldwork and computer skills. Periodic research progress updates will be given and guidance provided.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:研究テーマの探求
- 【2】:研究テーマと調査地の決定
- 【3】:研究方法の決定
- 【4】:資料収集と調査票の設計
- 【5】:調査票の作成
- 【6】:調査票の試行と調査内容の再検討
- 【7】:調査結果の整理
- 【8】:調査結果の分析1
- 【9】:調査結果の分析2
- 【10】:補足調査
- 【11】:図表の作成
- 【12】:地図の作成
- 【13】:論文の執筆
- 【14】:論文の添削

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

3年までに習得したスキルや考え方を活かして地域調査を実施する。調査の途中経過を中間発表として授業内で発表してもらう。最後に調査結果を論文等としてまとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表とディスカッション:30% 現地調査:30% 研究論文の提出とその完成度:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか『地域調査ことはじめ』(ナカニシヤ出版)

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

卒論執筆演習

舩谷 鋭(MASUTANI SATOSHI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB713
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

4年次の演習は、各自が設定したテーマに基づき、卒業論文と関連づけて研究をすすめる。今年度のテーマは、観光学の研究理論とそれに基づく現地調査の実践である

The 4th year seminars will be based on individually determined themes relating to the graduation thesis. This year's theme is the implementation of field surveys based on tourism studies and related theories.

授業の内容 / Course Contents

本演習では各自が設定したテーマを講義、講読と参加者による報告を交えて探究する。この演習の履修者には、卒業論文の執筆を義務づける

Lectures will be given on themes related to regional development through tourism and along with reports and reading from participants. Students taking this seminar are required to write a graduation thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:観光学講読
- 【3】:観光学講読
- 【4】:観光学講読
- 【5】:観光学講読
- 【6】:観光学講読
- 【7】:個人テーマ確認・討論
- 【8】:個人テーマ確認・討論
- 【9】:個人テーマ確認・討論
- 【10】:個人テーマ確認・討論
- 【11】:個人テーマ確認・討論
- 【12】:個人テーマ確認・討論
- 【13】:個人テーマ確認・討論
- 【14】:卒論中間報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワーポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者ごとに、関心のあるテーマに基づく論文執筆のための資料収集、プレゼン、レポート作成を重ねることで、問題意識を深める。並行して講読を行い、入学以来の学びから観光学の理論と現地調査の手法を復習する。社会連携活動や合宿などの準備と遂行についても、主体的かつ積極的な関与が求められる

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加状況:100%

テキスト / Textbooks

前田勇ら 新現代観光総論 学文社

テキストの版、年次は問わない

参考文献 / Readings

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz から FAQ ページなどを用意している

授業支援システムとして、演習科目では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

卒論執筆演習

福島 康博(FUKUSHIMA YASUHIRO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB714
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、春学期「舂谷ゼミ」を引き継ぐものである。

4 年次の演習は、各自が設定したテーマに基づき、卒業論文と関連付けて研究を進める。今年度のテーマは、観光学の研究理論とそれに基づく現地調査の実践である。

This seminar succeeds the Masutani Seminar in the spring semester.

The 4th year seminars will be based on individually determined themes relating to the graduation thesis. This year's theme is the implementation of field surveys based on tourism studies and related theories.

授業の内容 / Course Contents

本演習では各自が設定したテーマを講義、講読と参加者による報告を交えて探求する。この演習の履修者には、卒業論文の執筆を義務付ける。

Lectures will be given on themes related to regional development through tourism and along with reports and reading from participants. Students taking this seminar are required to write a graduation thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 春学期以降のふりかえり
- 【2】: 個人テーマ発表・討論
- 【3】: 個人テーマ発表・討論
- 【4】: 個人テーマ発表・討論
- 【5】: 個人テーマ発表・討論
- 【6】: 個人テーマ発表・討論
- 【7】: 個人テーマ発表・討論
- 【8】: 個人テーマ発表・討論
- 【9】: 個人テーマ発表・討論
- 【10】: 卒論執筆指導
- 【11】: 卒論執筆指導
- 【12】: 卒論執筆指導
- 【13】: 卒論レジュメ指導
- 【14】: 卒論報告指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	○

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者ごとに、関心のあるテーマに基づく卒業論文執筆のための資料収集、プレゼン、レポート作成を重ねることで、問題意識を深める。並行して講読を行い、入学以来の学びから観光学の理論と現地調査の手法を復習する。社会連携活動や合宿などの準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および参加状況:100%

テキスト / Textbooks

前田勇ら 新現代観光総論一第3版 学文社 2019 9784762029172

参考文献 / Readings

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz からFAQ ページなど 用意している。

授業支援システムとして演習では google classroom とそれに連携した Google drive を多用する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB717
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文を構想する。

Develop concepts of their graduation papers.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文のテーマや内容を確定させ、先行研究や関連文献の精読、必要な史料の収集などを行う。

Determine the theme, objective, perspective, outline, table of contents and so on for the graduation thesis, as well as read prior research and related documents, and gather the necessary historical materials.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 履修者による報告 1
- 【3】: 履修者による報告 2
- 【4】: 履修者による報告 3
- 【5】: 履修者による報告 4
- 【6】: 履修者による報告 5
- 【7】: 履修者による報告 6
- 【8】: 履修者による報告 7
- 【9】: 履修者による報告 8
- 【10】: 履修者による報告 9
- 【11】: 履修者による報告 10
- 【12】: 履修者による報告 11
- 【13】: 履修者による報告 12
- 【14】: 秋学期「卒業研究指導 B」に向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

卒業論文に関する先行研究を精読する。

卒業論文に関する史料を収集する。
卒業論文に関する情報を積極的に収集する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜提示する。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

千住 一 (SENJU HAJIME)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB718
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文を執筆する。

Write graduation papers.

授業の内容 / Course Contents

春学期「卒業研究指導 A」での成果にもとづいて卒業論文の執筆を行う。

Writing of graduation thesis based on the results of Seminar on Graduation Research A in the spring semester, and deliver the results in a presentation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 進捗の確認 1
- 【3】: 進捗の確認 2
- 【4】: 進捗の確認 3
- 【5】: 進捗の確認 4
- 【6】: 進捗の確認 5
- 【7】: 進捗の確認 6
- 【8】: 進捗の確認 7
- 【9】: 進捗の確認 8
- 【10】: 進捗の確認 9
- 【11】: 進捗の確認 10
- 【12】: 進捗の確認 11
- 【13】: 進捗の確認 12
- 【14】: 大学における学修の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

推敲と加筆修正を繰り返す。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜提示する。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A
観光社会学

高岡 文章 (TAKAOKA FUMIAKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB719
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点にもとづいて研究をおこなう能力を身につける。

Research abilities will be acquired based on the perspectives in the Sociology of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論を踏まえ、研究論文を執筆する。

Research paper writing based on reading texts and discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 文献講読および研究論文指導
- 【3】: 文献講読および研究論文指導
- 【4】: 文献講読および研究論文指導
- 【5】: 文献講読および研究論文指導
- 【6】: 文献講読および研究論文指導
- 【7】: 文献講読および研究論文指導
- 【8】: 文献講読および研究論文指導
- 【9】: 文献講読および研究論文指導
- 【10】: 文献講読および研究論文指導
- 【11】: 文献講読および研究論文指導
- 【12】: 文献講読および研究論文指導
- 【13】: 文献講読および研究論文指導
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表		ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B
観光社会学

山岸 紫(YAMAGISHI YUKARI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB720
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点にもとづいて研究をおこなう能力を身につける。

Research abilities will be acquired based on the perspectives in the Sociology of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論を踏まえ、研究論文を執筆する。

Research paper writing based on reading texts and discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 文献講読および研究論文指導
- 【3】: 文献講読および研究論文指導
- 【4】: 文献講読および研究論文指導
- 【5】: 文献講読および研究論文指導
- 【6】: 文献講読および研究論文指導
- 【7】: 文献講読および研究論文指導
- 【8】: 文献講読および研究論文指導
- 【9】: 文献講読および研究論文指導
- 【10】: 文献講読および研究論文指導
- 【11】: 文献講読および研究論文指導
- 【12】: 文献講読および研究論文指導
- 【13】: 文献講読および研究論文指導
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	☐	スライド*(パワポ等)の使用	☐	左記以外の視聴覚教材の使用	☐
個人発表	☐	グループ発表	☐	ディスカッション・ディベート	☐
実技・実習・実験	☐	学内の教室外施設の利用	☐	校外実習・フィールドワーク	☐
上記いずれも用いない予定	☐				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB721
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の執筆に向けた準備作業を行う。

This course will help you to prepare your graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文のテーマを決定し、その執筆に必要な文献調査と書誌の作成、問題と仮説の設定、目次の作成を行う。

Students will establish research topics, conduct bibliographic research, create the bibliographie, construct the problem statement and make the table of contents of their thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 論文とはなにか
- 【2】: 発表と討議 1
- 【3】: 発表と討議 2
- 【4】: 発表と討議 3
- 【5】: 発表と討議 4
- 【6】: 発表と討議 5
- 【7】: 発表と討議 6
- 【8】: 発表と討議 7
- 【9】: 発表と討議 8
- 【10】: 発表と討議 9
- 【11】: 発表と討議 10
- 【12】: 発表と討議 11
- 【13】: 発表と討議 12
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関連する論文を収集し、読み込んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内発表:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB722
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文を実際に執筆する過程で発生する問題を共有し、ともにその解決法を模索することにより、論文執筆に必要な知識および技術を身につけるとともに、卒業論文の最終的な完成度を上げることを目標とする。

The objective is to share issues that arise in the process of writing a graduation thesis, to search for solutions together, and to acquire the knowledge and techniques necessary for writing a thesis, so that the graduation thesis may be finally completed.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究指導 A で各自が設定した計画(テーマおよび調査・分析法)に基づいて論文を執筆し、その途中経過を随時プレゼンテーションしつつ、論文の完成に必要な指導を適宜行う。

具体的には、説得的な議論の進め方、論理的な文章の書き方、発展的ないしは補足的な調査の行い方、さらにはその内容を適切に伝えるために必要なプレゼンテーション能力等である。

Guidance will be provided as necessary for the completion of the thesis to be written according to the plans (themes, surveys and analytical methods) determined individually in graduation research project A, and while presentations are given as necessary. Specifically, it is persuasive discussion, written in logical sentences, using the methods of developing or supplementary research, with the presentation ability necessary to convey the contents appropriately.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス(授業に関する説明、優れた卒論とは何か)

【2】: 卒業論文下書きの発表と討論①

【3】: 卒業論文下書きの発表と討論②

【4】: 卒業論文下書きの発表と討論③

【5】: 卒業論文下書きの発表と討論④

【6】: 卒業論文下書きの発表と討論⑤

【7】: 卒業論文下書きの発表と討論⑥

【8】: 卒業論文下書きの発表と討論⑦

【9】: 卒業論文下書きの発表と討論⑧

【10】: 卒業論文下書きの発表と討論⑨

【11】: 卒業論文下書きの発表と討論⑩

【12】: 卒業報告会予行練習①

【13】: 卒業報告会予行練習②

【14】: 卒業報告会予行練習③

総括(まとめ)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

卒論下書き発表の際は、対象作品を全員が読んだ上でのディスカッションが出来るよう、そのデータや資料を事前に用意して提出すること。

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って準備を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度は当然のことだが、それを受けた論文作成への取り組み並びに卒業論文報告会における報告や質疑応答を対象に行う。:100%

3分の2以上の出席をしていない場合は、単位修得の対象外となる。本科目は、あくまで論文作成に必要な作業の一環としての発表や討論を行い、その成果を報告するための指導を受けることが目的であり、その際の取り組みが成績評価の対象となる。卒業論文本体の提出のみでは成績評価の対象とならないので注意すること。

テキスト / Textbooks

特に使用しない。

参考文献 / Readings

戸田山和久 最新版 論文の教室 NHK 出版 2022 9784140912720

斎藤理生ほか 卒業論文マニュアル 日本近現代文学編 ひつじ書房 2022 9784823411465

上記以外は、各自のテーマに応じて個別に紹介する。

その他 / Others

資料の配付や課題の提出に関しては、「Canvas LMS」のみを使用する。

報告集『ゲニウス・ロキ』の編集・校正作業が随時授業に追加されることにもなる。

卒業研究指導A

Seminar on Graduation Research A
卒業論文の執筆にむけて

久保 忠行(KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB725
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の構想を完成させること。

Students will develop a concept of their undergraduate thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の執筆にむけて、各自の問題意識にあわせて研究をすすめる。他の受講者との意見交換をとおして、自分なりの視点・切り口にもとづく卒業論文の構想を練り上げる。

Students will conduct research in accordance with their own perspectives on the issues. Through the discussion with other students, students will develop their own ideas and perspectives for their undergraduate thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 受講者による報告(1): 先行研究の報告
- 【3】: 受講者による報告(2): 先行研究の報告
- 【4】: 受講者による報告(3): 先行研究の報告
- 【5】: 受講者による報告(1): 問題意識と全体の構想を報告
- 【6】: 受講者による報告(2): 問題意識と全体の構想を報告
- 【7】: 受講者による報告(3): 問題意識と全体の構想を報告
- 【8】: 受講者による報告(1): 進捗報告①
- 【9】: 受講者による報告(2): 進捗報告①
- 【10】: 受講者による報告(3): 進捗報告①
- 【11】: 受講者による報告(1): 進捗報告②
- 【12】: 受講者による報告(2): 進捗報告②
- 【13】: 受講者による報告(3): 進捗報告②
- 【14】: 夏休みの資料収集・執筆作業について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告に向けた準備(2時間)、調査と執筆は授業でのコメントをうけて授業後におこなう(2時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:35% 議論への参加:35% 事前準備と研究姿勢:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

演習(2年)、演習(3年)で、資料の検索方法と報告の仕方について習得しておくこと。

ゼミに必ず参加できるように(就活を理由とした欠席とならないよう)日程を調整する能力が求められる。

夏休み明けに卒論の草稿となるレポートを提出することを了承のうえ履修すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

報告資料を閲覧するためのPCやタブレット(書き込み可能なもの)を持参することが望ましい。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B
卒業論文の執筆

久保 忠行(KUBO TADAYUKI)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB726
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学術的な手続きにもとづき卒業論文を執筆すること。

Students will write a undergraduate thesis in accordance with academic procedures.

授業の内容 / Course Contents

調査結果をまとめ卒業論文を執筆する

Students will write their undergraduate thesis based on the results of the survey.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 夏休みの成果報告
- 【3】: 夏休みの成果報告
- 【4】: 夏休みの成果報告
- 【5】: 草稿の報告と議論
- 【6】: 草稿の報告と議論
- 【7】: 草稿の報告と議論
- 【8】: 草稿の報告と議論
- 【9】: 草稿の報告と議論
- 【10】: 草稿の報告と議論
- 【11】: 草稿の報告と議論
- 【12】: 草稿の報告と議論
- 【13】: 草稿の報告と議論
- 【14】: 草稿の報告と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に草稿の執筆と報告準備をする(2 時間)。授業でのコメントをうけた修正は復習として実施する(2 時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:35% 議論への参加:35% 事前準備と研究姿勢:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ゼミに必ず参加できるように(就活を理由とした欠席とならないよう)日程を調整する能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

報告資料を閲覧するための PC やタブレット(書き込み可能なもの)を持参することが望ましい。

卒業研究指導B

Seminar on Graduation Research B

川嶋 久美子(KAWASHIMA KUMIKO)

科目設置学部	観光学部		
開講年度	2025	科目コード等	HB728
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	TRM4003
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

データや理論に基づき説得力のある議論を展開し、構成のしっかりした論文に仕上げるスキルを習得する。

By successfully completing the course, the students will be able to:

- 1)Formulate a sound argument based on data and/or theory
- 2)Write a well-structured and coherent thesis.

授業の内容 / Course Contents

研究計画書に基づいて調査を実施し、その結果をしっかりとした構成の卒業論文にまとめる。

In this course, students carry out their research plan and complete a well-structured and coherent graduation thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:調査結果の報告と議論(1)
- 【3】:調査結果の報告と議論(2)
- 【4】:卒業論文の構成と論点の整理(1)
- 【5】:卒業論文の構成と論点の整理(2)
- 【6】:卒業論文の構成と論点の整理(3)
- 【7】:卒業論文の執筆と進捗状況の報告(1)
- 【8】:卒業論文の執筆と進捗状況の報告(2)
- 【9】:卒業論文の執筆と進捗状況の報告(3)
- 【10】:卒業論文の執筆と進捗状況の報告(4)
- 【11】:卒業論文の執筆と進捗状況の報告(5)
- 【12】:卒業論文の最終執筆
- 【13】:報告会に向けての準備(1)
- 【14】:報告会に向けての準備(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業での指導とフィードバックを参考にし、各自でデータ分析や論文執筆に取り組むことが履修の前提となる。
卒業論文の書き方に関しての情報を積極的に収集し、参考にすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミへの参加度:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜案内する。

その他 / Others

研究や執筆の進捗状況により、上記の授業計画に変更が生じることもあります。